病院年報

第53号

令和5年度（2023年度）

市立豊中病院

Toyonaka Municipal Hospital

基　本　理　念

豊中市の中核病院として

「心温かな信頼される医療」

を提供します。

基 本 方 針

1. 患者さんの立場に立った心温かな病院をめざします。
2. 地域の中核病院として安全で質の高い医療を提供します。
3. 医療機関等との連携を密にし、市民の健康を守るために努力します。
4. 少子高齢社会に対応する医療を推進します。
5. 病院職員の教育・研修の充実を図ります。

令和5年度　病院年報発行のごあいさつ

この度、令和5年度（2023年度）の病院年報を発刊いたしましたので、ご高覧いただけますと幸いです。

令和5年度は、withコロナからpostコロナへの移行時期で、国からの新型コロナウイルス感染症に関する補助金も大幅に減額され、一般診療も完全には新型コロナウイルス感染症流行前に戻すことができず、各医療機関においては、経営的には非常に苦しい年となりました。そんな中、当院の令和5年度収益的収支は、新型コロナウイルス感染症流行前の令和元年度水準より、わずかながら改善するレベルにまで回復しました。当院職員の不断の努力の結果、また関係医療機関のご協力の賜物と、大変感謝しています。継続的に医療の質を高めて行くためには、なにより安定した経営基盤は不可欠です。引き続き、経営の健全化に全職員で努めて参りたいと思います。

さて、当院では令和5年度に、いくつかの組織改編を行いました。これまでの「内科」を、「内分泌・代謝内科」、「呼吸器内科」、「血液内科」、「腎臓内科」の4診療科に細分化し、それに加えて「内科（総合内科）」を新設いたしました。「外科」も、「消化器外科」、「呼吸器外科」、「乳腺外科」、「一般外科」に細分化して正式に標榜し、さらに「形成外科」を新設しました。こうした診療科の再編・新設を通して、各診療科の専門性を高めるとともに、専門性の低い疾患についてはその受け皿を明確にし、患者さんにとって受診しやすいように、また地域の先生方からのご紹介・ご相談には速やかに対応できるようにいたしました。この他、「がん診療部」に「がんゲノム医療センター」を新設して、地域がん診療連携拠点病院としての機能を深め、また、「地域医療連携室」と「患者支援室」から成る「患者総合支援部」を新たな部局として組織し、紹介受診・入退院支援・転院調整・療養支援まで、切れ目の無い、効率良い患者支援を実施できるようにいたしました。こうした部門の成果も、この年報でご確認いただければと思います。

当院は令和6年度に創立80周年を迎えます。これからも様々な変革に取り組み、「心温かな信頼される医療」を提供し続けられるよう、確かな歩みを進めて参ります。今後とも、当院の運営にご理解・ご協力、そしてご指導を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

令和6年（2024年）9月

市立豊中病院長　**岩橋　博見**

目　次

◎病院沿革

Ⅰ　病院沿革 …… 1

◎病院の概況

Ⅰ　概要 …… 5
1．施設の概要・診療科目 …… 5
2．組織 …… 6
3．専門外来及び特殊外来 …… 7
4．各種指定等 …… 8
5．諮問機関 …… 8
6．施設基準等の届出状況 …… 9
Ⅱ　病院職員 …… 18
1．病院職員 …… 18
2．職員状況 …… 30
Ⅲ　院内管理運営 …… 34
1．組織 …… 34
2．主要会議審議事項 …… 39
3．院内委員会報告 …… 40
Ⅳ　防災体制 …… 90
Ⅴ　病院配置図 …… 92

◎診療部門の現況と研究研修事項

Ⅰ　医務局の現況と研究研修事項 …… 93
1．内科（総合内科） …… 94
2．内分泌代謝内科 …… 95
3．呼吸器内科 …… 100
4．血液内科 …… 102
5．腎臓内科 …… 106
6．脳神経内科 …… 109
7．消化器内科 …… 112
8．循環器内科 …… 123
9．精神科 …… 128
10．小児科 …… 131
11．消化器外科・呼吸器外科・外科 …… 133
12．乳腺外科 …… 157
13．整形外科 …… 159
14．脳神経外科 …… 162
15．心臓血管外科 …… 166
16．形成外科 …… 169
17．皮膚科 …… 171
18．泌尿器科 …… 174
19．産婦人科 …… 178
20．眼科 …… 182
21．耳鼻いんこう科 …… 183
22．リハビリテーション科 …… 185
23．放射線診断科・放射線治療科 …… 187
24．病理診断科 …… 190
25．救急科 …… 191
26．歯科・歯科口腔外科 …… 193
27．麻酔科 …… 195
28．各種学会認定医師名簿 …… 200
29．各種認定及び指定 …… 206
Ⅱ　中央診療局の現況と研究研修事項 …… 207
1．放射線部 …… 208
2．臨床検査部 …… 210
3．手術部 …… 212
4．リハビリテーション部 …… 214
5．集中治療部 …… 216
6．人工透析部 …… 218
7．内視鏡部 …… 220
8．臨床工学部 …… 223
9．栄養管理部 …… 224
Ⅲ　薬剤部の現況と研究研修事項 …… 226
1．薬学生の実務実習受入れ状況 …… 229
2．製剤業務 …… 230
3．入院服薬指導実施件数 …… 231
4．入院時持参薬鑑別件数・医薬品数 …… 231
5．化学療法用薬剤のミキシング状況 …… 231
6．TPN用薬剤のミキシング状況 …… 232
7．薬剤部院内ホームページへのアクセス数 …… 232
8．医薬品管理業務 …… 233
Ⅳ　看護部の現況と研究研修事項 …… 234
1．看護部委員会 …… 235
2．委員会報告 …… 236
3．在職者分析 …… 239
4．現任教育 …… 240
5．外来部門 …… 251
Ⅴ　がん診療部の現況と研究研修事項 …… 252
1．がん相談支援センター …… 252
2．緩和ケアセンター …… 255
3．がん薬物療法センター …… 257
4．がんゲノム医療センター …… 258
Ⅵ　患者総合支援部の現況と研究研修事項 261
1．地域医療連携室 …… 261
2．患者支援室 …… 264

Ⅶ　その他の部門の現況と研究研修事項 ‥ 266
1．健診センター ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 266
2．ベッドコントロールセンター ‥‥‥ 267
3．メディカルアシスタント室 ‥‥‥‥ 269
4．医療情報室 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 270
5．医療安全管理室 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 276
6．感染対策室 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 279
7．臨床研究センター ‥‥‥‥‥‥‥ 283
8．教育研修センター ‥‥‥‥‥‥‥ 285
9．事務局 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 289
Ⅷ　新型コロナウイルス感染症にかかる取組みについて ‥ 290
1．概況 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 290
2．院内の主な取組み ‥‥‥‥‥‥‥ 290
3．新型コロナウイルス感染症患者数 ‥ 290
4．新型コロナウイルス感染症対策本部会議開催回数 ‥ 290

◎予算経理状況

Ⅰ　予算経理状況 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 291
1．年度別予算・決算状況 ‥‥‥‥‥‥ 292
2．年度別収入・支出状況 ‥‥‥‥‥‥ 292
3．年度別貸借対照表 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 294
4．医業収益100円当たり要素別原価比較表 ‥‥ 295
5．主な経営分析 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 296
6．行政官庁認可事項 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 297
7．給与費構成表 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 299
8．委託業務 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 299
9．院用備品購入主要品目 ‥‥‥‥‥‥ 300
10．保存工事の概況 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 302

◎業務概況

Ⅰ　患者状況 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 303
1．科別外来患者数 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 303
2．科別入院患者数 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 304
3．地域別外来入院患者数 ‥‥‥‥‥‥ 305
4．外来、入院、科別、月別患者数 ‥‥ 306
5．保険種類別患者数 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 308
6．救急患者数 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 308
7．高齢者医療患者数 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 314
Ⅱ　病床利用状況 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 318
1．科別患者利用状況 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 318
2．室別利用状況 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 318
Ⅲ　診療収入状況 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 319
1．科別収益 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 319
2．一人一日当たり収益 ‥‥‥‥‥‥‥ 320
3．科別診療行為別収益 ‥‥‥‥‥‥‥ 322
Ⅳ　各種業務状況 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 324
1．患者食調理状況 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 324
2．糖尿病教室業務状況 ‥‥‥‥‥‥‥ 326
3．慢性腎臓病教室業務状況 ‥‥‥‥‥ 326
4．栄養サポートチーム関連 ‥‥‥‥‥ 326
5．分娩業務状況 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 327
6．手術業務状況 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 327
7．検査業務状況 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 328
8．放射線業務状況 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 333
9．リハビリテーション業務状況 ‥‥‥ 343
10．処方および調剤業務状況 ‥‥‥‥‥ 344
11．健康診断等の状況 ‥‥‥‥‥‥‥‥ 346
12．院内学級 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 347
Ⅴ　院内保育所業務 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 348
Ⅵ　その他諸行事 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 350
Ⅶ　市立豊中病院運営計画
（令和5年度～令和9年度） ‥‥‥‥‥‥ 351

病　院　沿　革

Ⅰ 病　院　沿　革

Ⅰ　病院沿革

昭和19年４月	私立病院を買収し豊中市民病院として、内科、外科、小児科の3科をもって発足
	豊中市大字南轟木48番地の1（31床）（昭和19年4月12日開設）
昭和29年７月	豊中市岡上の町2丁目1番1号に新病院竣工、市立豊中病院と改称
	（内科、外科、小児科、皮膚泌尿器科、耳鼻咽喉科、整形外科、産婦人科、眼科、理学診療科、歯科）
	（一般112、結核45、計157床）
昭和32年７月	総合病院の認可を受ける
昭和32年９月	併設伝染病棟新築竣工35床、一般病棟30床増加
	（一般142、結核45、伝染35、計222床）
昭和33年11月	基準給食の実施の承認
昭和35年５月	東病棟新築工事完了
	（一般246、結核58、伝染35、計339床）
昭和37年５月	基準寝具設備の実施の承認
昭和39年４月	地方公営企業法の適用を受ける（一部財務適用）
昭和39年10月	救急病院告示の承認
昭和41年10月	基準看護の実施の承認
昭和41年11月	南館病棟、診療棟、管理棟等の増改築工事が竣工
	（一般446、結核58、伝染35、計539床）
	（診　療　科）　第1内科、第2内科、小児科、外科、整形外科、皮膚科、ひ尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、歯科、麻酔科
	（診療補助科）中央検査科、健康管理科、母子保健科、中央手術科
昭和45年７月	脳神経外科新設（診療科）
昭和45年10月	結核病棟24床に縮小
	（一般480、結核24、伝染35、計539床）
昭和46年１月	市立豊中病院看護婦託児所開所（収容人員20人）
昭和47年４月	心臓外科を新設（診療補助科）
昭和47年12月	基準看護の類別変更（1類→特類）
昭和49年10月	基準看護の類別変更（特類→特2類）
昭和50年10月	結核病床廃止
	（一般504、伝染35、計539床）
昭和51年１月	看護婦寄宿舎新築竣工
昭和51年４月	診療報酬点数表乙表に切換
昭和53年10月	医務局を2局制に改組
昭和55年３月	CTスキャナー診療棟新築竣工
昭和63年４月	新病院基本構想案作成
	市長に提出
昭和63年12月	市議会において新病院建設予定地を「二尾池」に決定
平成元年２月	新病院基本構想案答申
平成元年７月	臨床研修医制度発足
平成元年12月	市議会において新病院建設基本構想案を承認
平成２年４月	事務局内に新病院建設準備室を設置
平成２年４月	基準看護一部特3類の承認
平成３年３月	新病院基本設計完成
平成３年11月	医事コンピュータ導入（入院部門）

平成４年12月　大阪府より新病院開設及び増床許可（特定病床95床：悪性新生物45床、リハビリテーション50床）の承認
平成５年３月　新病院実施設計完成
平成５年４月　診療報酬点数表甲表に切換
平成６年１月　新病院建設工事契約・着工
平成６年10月　新看護にかかる届出受理される
平成９年10月　豊中市柴原町４丁目14番１号に新病院竣工
平成９年11月　新病院開院（平成９年11月３日開院）
（一般599、伝染20、計619床）
（診　療　科）　内科、神経内科、精神科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、
心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、
リハビリテーション科、放射線科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科、
（病理診断科、救急診療科）
平成11年４月　「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の施行により感染症指定医療機関の指定を受け、病床数を変更
（一般病床599、感染症病床14、計613床とし、伝染病床20床は廃止）
平成11年12月　財団法人日本医療機能評価機構より認定を受ける
平成12年３月　厚生省・臨床研修病院（医科）の指定を受ける
平成12年４月　厚生省・臨床研修施設（歯科）の指定を受ける
平成13年３月　看護婦寄宿舎廃止
平成14年９月　循環器科標榜
平成14年12月　旧看護婦寄宿舎売却
平成14年12月　厚生労働省・地域がん診療連携拠点病院の指定を受ける
平成15年１月　院外処方実施
平成15年12月　病院運営健全化計画を策定
平成16年７月　会計窓口の電光表示案内開始
平成17年１月　財団法人日本医療機能評価機構より認定を受ける
平成17年６月　登録医制度開始
平成17年７月　開放型病床（５床）の運用開始
平成18年６月　病院運営健全化中期実施計画を策定
平成19年６月　がん相談支援センターを開設
平成19年７月　HCU（ハイケアユニット）の運用開始
平成19年８月　一般病棟入院基本料　７対１入院基本料の適用開始
平成19年11月　地域周産期母子医療センターの認定を受ける
平成20年２月　厚生労働省より「地域がん診療連携拠点病院」の更新指定を受ける
平成20年４月　病理診断科、救急科を標榜（院内標榜から移行）
平成20年７月　DPC（包括診療報酬請求制度）の対象病院となる
平成21年１月　市立豊中病院総合情報通信システム（TOPICS）を導入
平成21年４月　病院運営健全化後期実施計画を策定
平成21年10月　院内助産院「はぐみ」を開設
緩和ケアセンターを開設
平成22年２月　財団法人日本医療機能評価機構より再認定を受ける
平成22年３月　厚生労働省より「地域がん診療連携拠点病院」の更新指定を受ける
平成22年11月　大阪府より地域医療支援病院の承認を受ける
平成22年12月　消化器内科、消化器外科標榜
平成23年４月　地方公営企業法の全部適用へ移行
平成24年８月　市立豊中病院運営計画を策定

平成25年３月	市立豊中病院運営計画実施計画を策定
平成25年４月	放射線科を放射線診断科、放射線治療科とし、標榜
	感染対策室を設置
平成27年２月	公益財団法人日本医療機能評価機構より再認定を受ける
平成27年３月	厚生労働省より「地域がん診療連携拠点病院」の更新指定を受ける
平成27年４月	化学療法センターを設置
	メディカルアシスタント室を設置
平成28年４月	ベッドコントロールセンターを設置
平成30年１月	市立豊中病院運営計画（計画期間：平成30年度～令和４年度）を策定
平成30年２月	市立豊中病院運営計画実施計画（計画期間：平成30年度～令和４年度）を策定
平成30年３月	特定非営利活動法人卒後臨床研修評価機構の認定を受ける
平成31年３月	厚生労働省より「地域がん診療連携拠点病院」の更新指定を受ける
平成31年４月	臨床研究センターを設置
	教育研修センターを設置
令和元年７月	SCU（脳卒中集中治療室）の運用開始
令和２年２月	公益財団法人日本医療機能評価機構より再認定を受ける
令和２年３月	厚生労働省より「地域がん診療連携拠点病院」の更新指定を受ける
令和２年８月	大阪府新型コロナウイルス感染症重点医療機関の指定を受ける
令和３年４月	がんゲノム医療連携病院の指定
令和４年３月	特定非営利活動法人卒後臨床研修評価機構の再認定を受ける
令和４年７月	「大阪府小児地域医療センター」の指定を受ける
令和５年３月	厚生労働省より「地域がん診療連携拠点病院」の更新指定を受ける
令和５年３月	市立豊中病院運営計画（計画期間：令和5年度～令和9年度）を策定
令和５年４月	診療科を再編（内科・外科を再編するとともに新たに形成外科を設置し計31診療科とする）
	患者支援室を設置
	がんゲノム医療センターを設置

病　院　の　概　況

Ⅰ 概　　要
Ⅱ 病　院　職　員
Ⅲ 院内管理運営
Ⅳ 防　災　体　制
Ⅴ 病　院　配　置　図

Ⅰ　概　要

1.　施設の概要・診療科目

（1）施設の概要　位　　置　　豊中市柴原町４丁目14番１号
敷地面積　　28,364㎡
延床面積　　67,544㎡（駐車場・保育所・附属棟を含む）

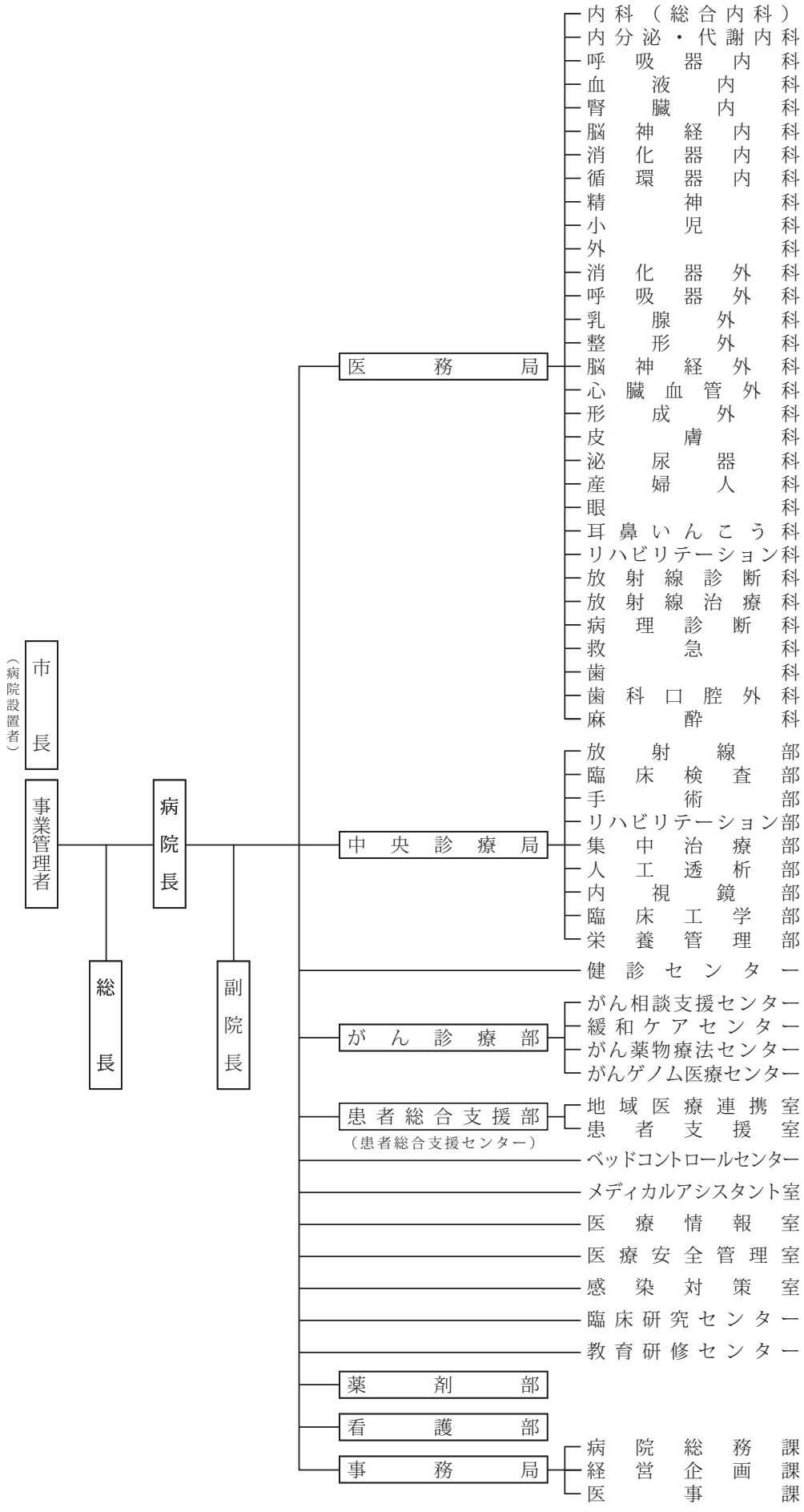
（2）診 療 科 目　内科（総合内科）、内分泌・代謝内科、呼吸器内科、血液内科、腎臓内科、脳神経内科、消化器内科、循環器内科、精神科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、救急科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科

（3）病　床　数　613床（一般599床、感染14床）

（4）病　　棟　16病棟（一般15病棟、感染１病棟）

２　　階	（12床）ＩＣＵ、ＣＣＵ、ＨＣＵ
３ 階 南	（32床）産科
３ 階 南	（16床）ＮＩＣＵ（6）、ＧＣＵ（10）
３ 階 北	（58床）リハビリテーション科、人間ドック
４ 階 南	（32床）小児科
４ 階 北	（51床）整形外科、皮膚科、麻酔科
５ 階 南	（51床）外科、消化器外科、救急科
５ 階 北	（49床）外科、消化器外科、泌尿器科
６ 階 南	（51床）内科、消化器内科、婦人科
６ 階 北	（54床）内科、循環器内科、心臓血管外科
７ 階 南	（51床）消化器内科、眼科
７ 階 北	（47床）内科、神経内科、脳神経外科、ＳＣＵ（9）
８ 階 南	（45床）集学治療
８ 階 北	（50床）内科、耳鼻いんこう科、歯科口腔外科
感　　染	（14床）

2. 組織（令和6年3月31日現在）



3. 専門外来及び特殊外来

（1） 内　　科	糖尿病外来	毎 日	呼吸器外来	毎 日
	腎臓外来	週4回	糖尿・肥満外来	週2回
	血液外来	毎 日	糖尿病透析予防外来	月1回
	腎臓選択療法	月3回	腎・腹膜透析外来	月2回
（2） 循環器内科	ペースメーカー外来	週1回	不整脈外来	月3回
	循環器外来	毎 日	心不全看護外来	週1回
（3） 精　神　科	もの忘れ外来	週3回		
（4） 小　児　科	小児神経外来	週2回	血液外来	月1回
	未熟児外来	週1回	内分泌外来	月2回
	アレルギー外来	週1回	先天性代謝外来	月3回
	心臓外来	月1回		
	小児栄養・内分泌外来	週1回		
（5） 外　　科	胃・食道外来	週4回	小児外科外来	週1回
	胃がん専門外来	週4回	ストーマ外来	週2回
	大腸がん専門外来	週2回	リンパ浮腫外来	週2回
	肝胆膵外来	週2回	肺がん専門外来	週1回
	乳腺外来	週3回	大腸外来	週2回
	呼吸器外来	週1回	乳腺検査	週1回
	遺伝性腫瘍・大腸	週1回		
（6） 整形外科	手・肘	週3回	スポーツ・肩	週1回
	関節外科	週2回	腫瘍	週1回
	脊椎	週2回		
	膝・関節	週1回		
（7） 脳神経外科	脳卒中相談外来	週1回		
（8） 皮　膚　科	フットケア外来	月6回		
（9） 泌尿器科	腫瘍外来	週1回	ストーマ外来	月3回
	結石外来	週1回	自己導尿指導外来	週2回
	排尿性機能外来	週1回		
（10） 産婦人科	助産師外来	毎 日	胎児心エコー	週1回
	授乳相談外来	週3回	産婦健康診査2週間	週3回
	胎児超音波スクリーニング	週1回	NIPT外来（出生前診断）	週1回
	産婦健康診査	月3回		
（11） 耳鼻いんこう科	頭頚部腫瘍	週1回	音声嚥下外来	週1回
（12） 脳神経内科	治験	週1回		
（13） リハビリテーション科	心臓リハビリ外来	週1回		
（14） 緩和ケアセンター	緩和ケア	毎 日		
（15） 健診センター	健康診断	週4日	豊中市公害被害者検診	週2回
	人間ドック		（大気汚染）	
	（平成25年1月より休止中）		ワクチン接種	
			事故措置面談	
			公務・労災災害	
（16） 外来治療センター	胃がん専門	週1回		
（17） 消化器センター		毎 日		

4.　各種指定等（令和6年3月31日現在）

地域医療支援病院
地域がん診療連携拠点病院
がんゲノム医療連携病院
（公財）日本医療機能評価機構認定病院
地域周産期母子医療センター
救急告示病院
臨床研修指定病院（医科）
（NPO法人）卒後臨床研修評価機構認定病院
臨床研修指定病院（歯科）
健康保険取扱医療機関
国民健康保険療養取扱機関
労災指定医療機関
結核指定医療機関
生活保護法指定医療機関
原子爆弾被爆者一般疾病指定医療機関
母子保健法指定医療機関（養育医療）
難病の患者に対する医療等に関する法律第14条第1項の規定による指定医療機関
児童福祉法第19条の9第1項の規定による指定小児慢性特定疾病医療機関
児童福祉法助産施設
母体保護法指定病院
感染症指定医療機関（第二種）
指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療・精神通院医療）
地方公務員災害補償法指定医療機関

5.　諮問機関

（1）名　　称　病院運営審議会

（2）組　　織　学職経験を有する者　足立泰美、今井憲之、勝原裕美子、北村　亘、
近藤　篤、澤村昭彦、多田耕三、田辺彰子、
的場啓一、渡邉太郎
市　　民　中野友香、笹　弘文（令和5年10月28日解職）
12人

（3）目　　的　市長の諮問に応じて、市立豊中病院の業務の運営についての重要事項について調査審議し意見を答申する。

（4）開 催 数　2回

6. 施設基準等の届出状況（令和6年3月31日現在）

項　　目	保険点数
【基本診療料】	
一般病棟入院基本料 急性期一般入院料1	基本点数 1,650（1日につき） 〈初期加算〉 14日以内 450、15日～30日以内 192
急性期充実体制加算	7日以内 460、8日～11日以内 250、 12日～14日以内 180（1日につき）
臨床研修病院入院診療加算1．基幹型	40（入院初日）
臨床研修病院入院診療加算（歯科）1．基幹型	40（入院初日）
救急医療管理加算1 救急医療管理加算2	1,050（1日につき）（7日間を限度） 420（1日につき）（7日間を限度） 乳幼児加算…400、小児加算…200
超急性期脳卒中加算	10,800（入院初日）
妊産婦緊急搬送入院加算	7,000（入院初日）
診療録管理体制加算2	30（入院初日）
医師事務作業補助体制加算1（15対1）	1,050（入院初日）
急性期看護補助体制加算 　25対1（看護補助者5割以上） 　夜間100対1急性期看護補助体制加算 　夜間看護体制加算 　看護補助体制充実加算	 240（1日につき）（14日間を限度） 105（1日につき）（14日間を限度） 60（1日につき）（14日間を限度） 5（1日につき）（14日間を限度）
看護職員夜間配置加算 　看護職員16対1 配置加算1	70（1日につき）（14日間を限度）
療養環境加算	25（1日につき）
重症者等療養環境特別加算	300（個室）、150（2人部屋）（1日につき）
無菌治療室管理加算 　無菌治療室管理加算2	 2,000（1日につき）（90日間を限度）
緩和ケア診療加算 　個別栄養食事管理加算	390（1日につき） 70
精神科リエゾンチーム加算	300（週1回）
がん診療連携拠点病院加算	500（入院初日）
栄養サポートチーム加算 　歯科医師連携加算	200（週1回） 50
医療安全対策加算1 　医療安全対策地域連携加算1	85（入院初日） 50（入院初日）
感染対策向上加算1 　指導強化加算	710（入院初日） 30（入院初日）
患者サポート体制充実加算	70（入院初日）
重症患者初期支援充実加算	300（1日につき）（3日間を限度）
報告書管理体制加算	7（退院時1回）
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	500（入院中1回）
ハイリスク妊娠管理加算	1,200（1日につき）（20日間を限度）
ハイリスク分娩管理加算	3,200（1日につき）（8日間を限度）
呼吸ケアチーム加算	150（週1回）
後発医薬品使用体制加算1	47（入院初日）

項　　目	保険点数
病棟薬剤業務実施加算1	120（週1回）
病棟薬剤業務実施加算2	100（1日につき）
データ提出加算2	
イ. 200床以上の病院	150（入院初日）
入退院支援加算1	
一般病棟入院基本料等	700（退院時1回）
入退院支援加算3	1,200（退院時1回）
地域連携診療計画加算	300（退院時1回）
入院時支援加算2	200
総合機能評価加算	50
せん妄ハイリスク患者ケア加算	100（入院中1回）
精神疾患診療体制加算	
1. 精神疾患診療体制加算1	1,000（入院初日）
2. 精神疾患診療体制加算2	330（入院初日から3日以内に1回）
地域医療体制確保加算	620（入院初日）
特定集中治療室管理料3	7日以内…9,697、8～14日以内…8,118（1日につき）
小児加算	7日以内…2,000、8～14日以内…1,500
早期離床・リハビリテーション加算	500（1日につき）（14日を限度）
ハイケアユニット入院医療管理料1	6,855（1日につき）
脳卒中ケアユニット入院医療管理料	6,013（1日につき）
新生児特定集中治療室管理料1	10,539（1日につき）
新生児治療回復室入院医療管理料	5,697（1日につき）
小児入院医療管理料2	4,224（1日につき） 〔基準適合施設：上記に100点加算〕
養育支援体制加算	300（入院初日）
時間外受入体制強化加算2	180（入院初日）
看護職員処遇改善評価料61	61（1日につき）
【特掲診療料】	
心臓ペースメーカー指導管理料	
遠隔モニタリング加算	260、480（該当期間の月数を乗じて得た所定点数）
高度難聴指導管理料	人工内耳埋込術後3月以内…500、その他…420
糖尿病合併症管理料	170
がん性疼痛緩和指導管理料	200、小児加算…50
がん患者指導管理料イ（医師、看護師）	500
がん患者指導管理料ロ（医師及び看護師）	200
がん患者指導管理料ハ（医師及び薬剤師）	200
がん患者指導管理料ニ（医師及び臨床遺伝学医師）	300
外来緩和ケア管理料	290、小児加算…150
糖尿病透析予防指導管理料	350
小児運動器疾患指導管理料	250
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	初回…500、2回目から4回目まで…150
婦人科特定疾患治療管理料	250
二次性骨折予防継続管理料1	1,000
二次性骨折予防継続管理料3	500
院内トリアージ実施料	300

項　　目	保険点数
夜間休日救急搬送医学管理料 　救急搬送看護体制加算1	（600） 400
外来腫瘍化学療法診療料1 　　イ．抗悪性腫瘍剤を投与した場合 　　ロ．抗悪性腫瘍剤の投与及び 　　　その他必要な治療管理を行った場合 　連携充実加算	 700（月に3回に限り） 400（イを算定する日以外　週に1回限り） 150（月に1回）
ニコチン依存症管理料1 　　イ. 初回 　　ロ. 2回目～4回目まで 　　（1）対面で行った場合 　　（2）情報通信機器を用いた場合 　　ハ. 5回目 ニコチン依存症管理料2	 230 184 155 180 800（一連につき）
療養・就労両立支援指導料 　相談支援加算	（初回800　2回目以降400） 50
開放型病院共同指導料（Ⅱ）	220
がん治療連携計画策定料1、2	750、300
がん治療連携管理料　1. がん診療拠点病院の場合	500
外来がん患者在宅連携指導料	500
肝炎インターフェロン治療計画管理料	700
ハイリスク妊産婦連携指導料1	1,000
ハイリスク妊産婦連携指導料2	750
薬剤管理指導料 　麻薬管理指導加算	325～380 50
連携強化診療情報提供料	150
医療機器安全管理料1（生命維持管理装置） 医療機器安全管理料2（放射線治療計画）	100（1月につき） 1,100（1連につき）
がんゲノムプロファイリング評価提供料	12,000（1患者につき1回）
在宅患者訪問看護・指導料 　　3. 緩和ケア又は褥瘡ケア専門研修受講者による場合	 1,285
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	2,800
持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	1,320、700
造血器腫瘍遺伝子検査	2,100
遺伝学的検査 　　1. 処理が容易なもの 　　2. 処理が複雑なもの 　　3. 処理が極めて複雑なもの	 3,880 5,000 8,000
骨髄微小残存病変量測定 　　1. 遺伝子再構成の同定に用いるもの 　　2. モニタリングに用いるもの	 3,500 2,100
BRCA1/2遺伝子検査 　　1. 腫瘍細胞を検体とするもの 　　2. 血液を検体とするもの	 20,200 20,200

項　　目	保険点数
がんゲノムプロファイリング検査	44,000
先天性代謝異常症検査　ニ．その他	1,141（患者1人につき1回）
HPV核酸検出 HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	350 352
検体検査管理加算Ⅰ	40
検体検査管理加算Ⅳ	500
遺伝カウンセリング加算 遺伝性腫瘍カウンセリング加算	1,000 1,000
植込型心電図検査	90
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	200、200
胎児心エコー法 　胎児心エコー法診断加算	300 1,000
ヘッドアップティルト試験	1,030
脳波検査判断料1	350 (月に1回)
神経学的検査	500
小児食物アレルギー負荷検査	1,000（年３回まで）
内服・点滴誘発試験	1,000
画像診断管理加算1	70（月に1回）
画像診断管理加算2	180（月に1回）
CT撮影及びMRI撮影 （CT） 　64列以上のマルチスライス型･その他の場合 　16列以上64列未満マルチスライス型 （MRI） 　1.5テスラ以上3テスラ未満 　その他	 1,000 900 1,330 900
冠動脈CT撮影加算	600
大腸CT撮影加算	620
心臓MRI撮影加算	400
乳房MRI撮影加算	100
小児鎮静下MRI撮影加算	100分の80に相当する点数を加算
処方料、処方箋料　抗悪性腫瘍剤処方管理加算	70
外来化学療法加算1 　抗悪性腫瘍剤以外の薬剤を注射した場合	 450、670 (15歳未満の患者)
無菌製剤処理料1 （悪性腫瘍に対して用いる薬剤が注射される一部の患者） 　イ. 閉鎖式接続機具を使用した場合 　ロ. イ以外の場合 無菌製剤処理料2（1以外のもの）	 180（1日につき） 45（1日につき） 40（1日につき）
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ) 　初期加算	205（1単位） 45（1単位）
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ) 　初期加算	245（1単位） 45（1単位）
廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ) 　初期加算	180（1単位） 45（1単位）

項　　目	保険点数
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	185（1単位)
初期加算	45（1単位）
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	175（1単位）
初期加算	45（1単位）
リハビリテーション総合計画評価料1	300
がん患者リハビリテーション料	205（1単位）
集団コミュニケーション療法料	50（1単位）
医科点数表第2章第9部	
処置の通則の5に掲げる　休日加算1	100分の160
時間外加算1	100分の80
深夜加算1	100分の160
静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	200
人工腎臓	
1. 慢性維持透析を行った場合1	
イ. 4時間未満の場合	1,885
ロ. 4時間以上5時間未満の場合	2,045
ハ. 5時間以上の場合	2,180
導入器加算1	200
皮膚悪性腫瘍切除術	
センチネルリンパ節加算	5,000
組織拡張器による再建手術(一連につき)	
1. 乳房(再建手術)の場合	18,460
後縦靭帯骨化症手術（前方導入によるもの）	78,500
椎間板内酵素注入療法	5,350
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	
1. 切除	42,200
2. 全摘	67,200
乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術	
（一連につき）（MRIによるもの）	8,210
乳がんセンチネルリンパ節加算2	3,000
乳腺悪性腫瘍手術	
乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）	27,810
及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの）	48,340
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術	
（乳房切除後）	25,000
食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膣腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	10,300
経皮的冠動脈形成術	
1. 急性心筋梗塞	36,000
2. 不安定狭心症	22,000
3. その他	19,300

項　　目	保険点数
経皮的冠動脈ステント留置術	
1. 急性心筋梗塞	34,380
2. 不安定狭心症	24,380
3. その他	21,680
経皮的中隔心筋焼灼術	24,390
ペースメーカー移植術	
1. 心筋電極の場合	16,870
2. 経静脈電極の場合	9,520
3. リードレスペースメーカーの場合	9,520
ペースメーカー交換術	4,000
植込型心電図記録計移植術	1,260
植込型心電図記録計摘出術	840
大動脈バルーンパンピング法（IABP法）	初日…8,780、2日目以降…3,680
腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）	41,090
腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術	26,460
腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術	39,720
腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術	30,310
腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術	50,610
腹腔鏡下小切開副腎摘出術	34,390
腹腔鏡下小切開腎部分切除術	42,900
腹腔鏡下小切開腎摘出術	40,240
腹腔鏡小切開尿管腫瘍摘出術	31,040
腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術	49,870
腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術	12,710
腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	59,780
腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）	41,090
内視鏡的逆流防止粘膜切除術	12,000
腹腔鏡下十二指腸局所切除術	
（内視鏡処置を併施するもの）	30,000
腹腔鏡下胃切除術	
1. 単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	45,470
3. 悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	73,590
腹腔鏡下噴門側胃切除術	
1. 単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	54,010
3. 悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	80,000
腹腔鏡下胃全摘術	
1. 単純全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	64,740
4. 悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	98,850
腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）	40,050
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	31,710

項　　目	保険点数
腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術 （胆嚢床切除を伴うもの）	70,220
胆管悪性腫瘍手術 1. 膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うもの	173,500
腹腔鏡下肝切除術 1. 部分切除　イ 単回の切除によるもの ロ 複数回の切除を要するもの 2. 外側区域切除 3. 亜区域切除 4. 1区域切除 5. 2区域切除 6. 3区域切除	 58,680 63,680 74,880 108,820 130,730 152,440 174,090
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	39,950
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術 1. 脾同時切除の場合 2. 脾温存の場合	 53,480 56,240
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	22,040
腹腔鏡下直腸切除・切断術 （内視鏡手術用支援機器を用いる場合） 1. 切除術 2. 低位前方切除術 5. 切断術	 75,460 83,930 83,930
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術（一連につき）	19,300
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術 （内視鏡手術用支援機器を用いるもの） 1. 原発病巣が7㎝以下のもの 2. その他のもの 腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術 （内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	 70,730 64,720 64,720
腹腔鏡下腎盂形成手術 （内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	51,600
膀胱水圧拡張術 ハンナ型間質性膀胱炎手術（経尿道）	6,410 9,930
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 （内視鏡手術用支援機器を用いる場合） 1. 全摘（腸管等を利用して尿路変更を行わないもの） 2. 全摘（回腸又は結腸導管を利用して尿路変更を行う） 3. 全摘（代用膀胱を利用して尿路変更を行うもの）	 86,110 117,790 120,590

項　　目	保険点数
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	
1. 全摘（腸管等を利用して尿路変更を行わないもの）	86,110
2. 全摘（回腸又は結腸導管を利用して尿路変更を行うもの）	117,790
3. 全摘（代用膀胱を利用して尿路変更を行うもの）	120,590
膀胱頸部形成術（膀胱頸部吊上術以外）	37,690
埋没陰茎手術	7,760
陰嚢水腫手術（鼠径部切開によるもの）	3,980
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	77,430
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	95,280
医科点数表第２章第10部	
手術の通則の12に掲げる　休日加算1	100分の160
手術の通則の12に掲げる　時間外加算1	100分の80
手術の通則の12に掲げる　深夜加算1	100分の160に相当する点数
医科点数表第2章第10部手術の通則の5（歯科点数表第2表第9部手術の通則4を含む）及び6に掲げる手術	所定点数
医科点数表第2章第10部	
手術の通則の16に掲げる手術	6,070
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）	適合していない場合は所定点数の100分の80に相当する点数を算定
医科点数表第2章第10部	
手術の通則の19に掲げる手術	6,040
乳房切除術	遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行った場合も算定できる
輸血管理料Ⅱ	110
輸血適正使用加算Ⅱ	60
人工肛門・人工膀胱造設術前処理加算	450
胃瘻造設時嚥下機能評価加算	2,500
レーザー機器加算	
1. レーザー機器加算1	50
2. レーザー機器加算2	100
3. レーザー機器加算3	200
麻酔管理料（Ⅰ）	
1. 硬膜外麻酔、脊椎麻酔	250
2. 閉鎖循環式全身麻酔	1,050
麻酔管理料（Ⅱ）	
1. 硬膜外麻酔、脊椎麻酔	150
2. 閉鎖循環式全身麻酔	450
放射線治療管理料	
放射線治療専任加算	330
外来放射線治療加算	100

項　　目	保険点数
体外照射	
高エネルギー放射線治療	1回目…840～1,800、2回目…420～900
一回線量増加加算	690
画像誘導放射線治療加算	
イ. 体表面の位置情報によるもの	150
ロ. 骨構造の位置情報によるもの	300
ハ. 腫瘍の位置情報によるもの	450
体外照射呼吸性移動対策加算	150
定位放射線治療	63,000
定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
イ. 動体追尾法	10,000
ロ. その他	5,000
病理診断料	
ロ. 病理診断管理加算2	
(1) 組織診断を行った場合	320
(2) 細胞診断を行った場合	160
悪性腫瘍病理組織標本加算	150
酸素の購入価格に関する届出	液化酸素…0.05円、小型ボンベ…1.28円
【歯科】	
地域歯科診療支援病院歯科初診料	288
歯科外来診療環境体制加算2	25（初診時 1 回）
歯科診療特別対応連携加算	150（月 1 回）
地域歯科診療支援病院入院加算	300（入院初日）
歯科治療時医療管理料	45
精密触覚機能検査	460
歯科口腔リハビリテーション料2	54（1口腔につき）
CAD/CAM冠	1,200（1歯につき）
広範囲顎骨支持型埋込術	
(1) 1回法によるもの	14,500
(2) 2回法によるもの	
イ. 1次手術	11,500
ロ. 2次手術	4,500
歯周組織再生誘導手術	ｲ. 一次手術…840、ﾛ. 二次手術…380
クラウンブリッジ維持管理料	100～440
口腔病理診断管理加算2	
1. 組織診断を行った場合	320
2. 細胞診断を行った場合	160
【入院食事療養費】	
入院時食事療養費（Ⅰ）	640円（一食につき）
特別食加算	76円（一食につき）
食堂加算	50円（一日につき）
【保険外併用療養費】	
特別の療養環境の提供（個室料）	2,200円～33,000円　（消費税込み）
病床数が200床以上の病院について受けた初診	医科…7,700円、歯科…5,500円（消費税込み）
180日を超える入院	通算対象入院料の15％を乗じた額（消費税込み）

Ⅱ　病院職員

1. 病院職員

病院事業管理者	直川俊彦	副院長	藤田幸恵
総長	吉川秀樹	医務局長	西尾雅実
病院長	岩橋博見	中央診療局長	西田勉
副院長	中川理	事務局長	大東幹彦
副院長	岩澤卓	薬剤部長	宇佐美順子
副院長	今村博司		

病院人事の変遷

病院事業管理者

小林　栄	平成23年 4月～平成31年 3月
本荘泰司	平成31年 4月～令和 5年 3月
直川俊彦	令和 5年 4月～

総長

清原久和	平成23年 4月～平成24年 3月
眞下　節	平成24年 4月～令和元年 8月
吉川秀樹	令和元年 9月～令和 6年 3月

院長

吉田諦視	昭和19年 4月～昭和25年 3月
小林義郎	昭和25年 4月～昭和29年 3月
松岡全二	昭和29年 4月～昭和32年 3月
西藤滋和	昭和32年 4月～昭和44年 3月
永島亮二	昭和44年 4月～昭和52年 3月
井上一正	昭和52年 4月～昭和58年 3月
中島敏夫	昭和58年 4月～昭和63年 3月
木村正治	昭和63年 4月～平成11年 3月
高見元敞	平成11年 4月～平成13年 3月
松山辰男	平成13年 4月～平成17年 3月
島野高志	平成17年 4月～平成23年 3月
片桐修一	平成23年 4月～平成25年 8月
眞下　節	平成25年 8月～平成28年 3月
堂野恵三	平成28年 4月～令和 5年 3月
岩橋博見	令和 5年 4月～

副院長

西藤滋和	昭和25年 4月～昭和32年 3月
永島亮二	昭和32年 4月～昭和44年 3月
井上一正	昭和44年 4月～昭和52年 3月
中島敏夫	昭和44年 4月～昭和58年 3月
荒井健一	昭和52年 4月～昭和55年 3月
木村正治	昭和56年 4月～昭和63年 3月
中井　昭	昭和58年 4月～平成 4年 3月
吉田秀雄	昭和63年 4月～平成 3年 3月
苅田次弘	平成 3年 4月～平成 8年 3月
高見元敞	平成 4年 4月～平成11年 3月
松山辰男	平成 9年 4月～平成13年 3月
島野高志	平成11年 4月～平成17年 3月
尾崎正義	平成14年 4月～平成17年 3月
清原久和	平成17年 4月～平成23年 3月
片桐修一	平成17年 4月～平成23年 3月
本山裕子	平成17年 4月～平成20年 3月
深谷和代	平成20年 4月～平成22年 3月
髙嶋香奈子	平成22年 4月～平成27年 3月
佐藤正之	平成23年 4月～平成24年 3月
北田昌之	平成23年 4月～平成26年 3月
堂野恵三	平成24年 4月～平成28年 3月
東　孝次	平成26年 4月～平成31年 3月
兒玉洋子	平成27年 4月～平成28年 3月
嶺尾郁夫	平成28年 4月～平成31年 3月
藤田幸恵	平成28年 4月～令和 6年 3月
巽千賀夫	平成31年 4月～令和元年12月
稲田正己	平成31年 4月～令和 4年 3月
岩橋博見	令和 2年 4月～令和 5年 3月
中川　理	令和 4年 4月～
岩澤　卓	令和 4年 4月～令和 6年 3月
今村博司	令和 5年 4月～

看護部長(総看護婦長)

外村あやの	昭和34年 4月～昭和36年 3月
北川文子	昭和38年 4月～昭和47年 3月
川上千津花	昭和48年 4月～昭和52年 3月
高森勝子	昭和52年 4月～平成10年 3月
秋枝節子	平成10年 4月～平成13年 3月
本山裕子	平成13年 4月～平成19年 3月
深谷和代	平成19年 4月～平成21年 3月
髙嶋香奈子	平成21年 4月～平成26年 3月
兒玉洋子	平成26年 4月～平成27年 3月
藤田幸恵	平成27年 4月～令和 5年 3月
越智比奈子	令和 5年 4月～

事務局長

金谷　功	昭和19年 1月～昭和19年 3月
赤池満起	昭和19年 4月～昭和20年 3月
三宅嘉右衛門	昭和20年 4月～昭和22年 3月
上島　勲	昭和22年 4月～昭和26年 3月
山田丈之助	昭和26年 4月～昭和26年12月
赤池満起	昭和27年 1月～昭和28年 3月
有光満敏	昭和28年 4月～昭和29年 3月
赤池満起	昭和29年 4月～昭和30年 3月
田中季松	昭和30年 4月～昭和32年 3月
田名瀬　明	昭和32年 4月～昭和36年 3月
中村正徹	昭和36年 4月～昭和36年12月
林　實	昭和37年 1月～昭和43年 3月
平岡富雄	昭和43年 4月～昭和44年 3月
野土繁雄	昭和44年 4月～昭和50年 3月
奥畑章郎	昭和50年 4月～昭和55年 3月
竹下正人	昭和55年 4月～昭和58年 3月
植田隆久	昭和58年 4月～平成３年 3月
三野　胖	平成 3年 4月～平成５年 3月
米谷卓治	平成 5年 4月～平成７年 3月
冨田憲一	平成 7年 4月～平成10年 3月
黒澤忠夫	平成10年 4月～平成13年 3月
畑中正昭	平成13年 4月～平成16年 3月
高垣正夫	平成16年 4月～平成18年 3月
加藤康典	平成18年 4月～平成21年 3月
田居伸明	平成21年 4月～平成24年 3月
小城克未	平成24年 4月～平成28年 3月
小杉洋樹	平成28年 4月～令和２年 3月
大東幹彦	令和 2年 4月～令和 6年 3月

医務局

診療科	職名	氏名	備考
	総長	吉川秀樹	（整形外科）
	病院長	岩橋博見	（内分泌・代謝内科）
			兼内分泌・代謝内科主任部長
			兼ベッドコントロールセンター長
	副院長	中川理	兼循環器内科主任部長
			兼内科部長
			兼救急科部長
			兼健診センター長
	副院長	岩澤卓	兼呼吸器外科部長
			兼外科部長
			兼教育研修センター長
	副院長	今村博司	兼消化器外科主任部長
			兼外科部長
			兼がん診療部長
			兼がんゲノム医療センター長
			兼臨床研究センター長
	副院長	藤田幸恵	（看護部）
	医務局長	西尾雅実	兼脳神経外科部長
	医務局次長	栗山幸治	兼整形外科主任部長
			兼形成外科部長
内科	主任部長	小杉智	血液内科主任部長
（総合内科）	部長	中川理	副院長
			兼循環器内科主任部長
			兼救急科部長
			兼健診センター長
	〃	阿部欣也	呼吸器内科部長
			兼感染対策室長
	〃	福井浩司	消化器内科部長
			兼メディカルアシスタント室長
	〃	岡内幸義	内分泌・代謝内科部長
	〃	竹治正展	腎臓内科部長
			兼人工透析部長
	〃	熊田全裕	循環器内科部長
	〃	西田勉	中央診療局長
			兼消化器内科主任部長
			兼内視鏡部長
			兼がん診療部副部長
			兼がんゲノム医療センター副センター長
	〃	田所誠司	血液内科部長
	〃	横江勝	中央診療局次長
			兼脳神経内科部長
	〃	政家寛明	血液内科部長
	医長	楠康生	腎臓内科医長
	〃	森村治	呼吸器内科医長
	〃	稲田慎也	内分泌・代謝内科医長

診療科	職名	氏名	備考
内分泌・代謝内科	主任部長	岩橋博見	病院長 兼ベッドコントロールセンター長
	部長	岡内幸義	兼内科部長
	医長	稲田慎也	兼内科医長
	医員	懸高知子	令和5年4月1日採用、令和6年3月31日退職
呼吸器内科	部長	阿部欣也	兼内科部長 兼感染対策室長
	医長	森村治	兼内科医長
	医員	中坪彩恵子	
	〃	大﨑恵	
血液内科	主任部長	小杉智	兼内科主任部長
	部長	政家寛明	兼内科部長
	〃	田所誠司	兼内科部長
	医長	小澤孝幸	
	〃	木田亨	
腎臓内科	部長	竹治正展	兼内科部長 兼人工透析部長
	医長	楠康生	兼内科医長
	医員	上野憲子	
	〃	福田俊悟	
脳神経内科	部長	横江勝	中央診療局次長 兼内科部長
	医長	杉浦由理	
	〃	来真希子	兼リハビリテーション科医長 令和6年3月31日退職
	医員	村田尚	
	〃	早野絵梨	
消化器内科	主任部長	西田勉	中央診療局長 兼内科部長 兼内視鏡部長 兼がん診療部副部長 兼がんゲノム医療センター副センター長
	部長	福井浩司	兼内科部長 兼メディカルアシスタント室長
	医長	山本政司	
	〃	中松大	
	〃	松本健吾	
	医員	杉本彩	
	〃	大杉直人	
	〃	藤井祥史	
	〃	阪本直洋	
	〃	岡部悟	
循環器内科	主任部長	中川理	副院長 兼内科部長 兼救急科部長 兼健診センター長

診療科	職名	氏名	備考
循環器内科	部長	熊田全裕	兼内科部長
	副部長	林　隆治	令和5年4月1日採用
	医長	岡﨑由典	
	〃	坂本陽子	令和5年4月1日採用、令和5年9月30日退職
	〃	福岡秀忠	令和6年2月29日退職
	〃	飯田卓馬	
	医員	福島直樹	
精神科	部長	森原剛史	兼中央診療局主幹
	医員	東　眞吾	
小児科	主任部長	茶山公祐	
	部長	吉川真紀子	
	〃	徳永康行	
	〃	髙橋邦彦	
	医員	川西邦洋	
	〃	西本静香	令和5年4月1日採用
外科	主任部長	池永雅一	消化器外科部長
	部長	今村博司	副院長
			兼消化器外科主任部長
			兼がん診療部長
			兼がんゲノム医療センター長
			兼臨床研究センター長
	〃	岩澤　卓	副院長
			兼呼吸器外科部長
			兼教育研修センター長
			令和6年3月31日退職
	〃	川瀬朋乃	消化器外科部長
			兼がん薬物療法センター長
	〃	清水潤三	消化器外科部長
	〃	赤木謙三	乳腺外科部長
	医長	柳本喜智	消化器外科医長
			令和6年3月31日退職
	〃	鈴木陽三	消化器外科医長
	〃	山下雅史	消化器外科医長
	〃	小林　晶	呼吸器外科医長
			令和6年3月31日退職
消化器外科	主任部長	今村博司	副院長
			兼外科部長
			兼がん診療部長
			兼がんゲノム医療センター長
			兼臨床研究センター長
	部長	川瀬朋乃	兼外科部長
			兼がん薬物療法センター長
	〃	清水潤三	兼外科部長
	〃	池永雅一	兼外科主任部長
	医長	柳本喜智	兼外科医長
			令和6年3月31日退職

診療科	職名	氏名	備考
消化器外科	医長	鈴木陽三	兼外科医長
	〃	山下雅史	兼外科医長
	医員	萩原清貴	令和5年4月1日採用
	〃	野間俊樹	令和5年4月1日採用
	〃	松下克則	令和5年7月1日採用
呼吸器外科	部長	岩澤卓	副院長 兼外科部長 兼教育研修センター長 令和6年3月31日退職
	医長	小林晶	兼外科医長 令和6年3月31日退職
乳腺外科	部長	赤木謙三	兼外科部長
	医員	佐藤泰史	
整形外科	主任部長	栗山幸治	医務局次長 兼形成外科部長
	部長	水野直子	
	医長	吉田礼徳	
	〃	阿部真悟	令和5年6月30日退職
	〃	今井優子	令和5年5月1日採用
	医員	釜谷崇志	
	〃	岡田倫太郎	
脳神経外科	部長	西尾雅実	医務局長
	医長	後藤哲	
	〃	森康輔	
	〃	細見晃一	令和5年10月1日採用、令和6年3月31日退職
	医員	林元久	令和5年9月30日退職
心臓血管外科	部長	藤村博信	
	医長	後藤隆純	
形成外科	部長	栗山幸治	医務局次長 兼整形外科主任部長
	医長	前田大介	令和5年4月1日採用
皮膚科	部長	横見明典	
	医員	後藤範子	
泌尿器科	主任部長	三宅修	
	部長	鄭則秀	
	医長	佐藤元孝	
	医員	松下慎	令和6年3月31日退職
	〃	久次米雄馬	令和5年4月1日採用、令和6年3月31日退職
産婦人科	主任部長	辻江智子	
	部長	吉田晋	
	医長	池田佳代	令和5年12月31日退職
	〃	高橋良子	
	〃	田中博子	
	医員	伊東優	
	〃	加藤恵	令和5年9月30日退職

診療科	職名	氏名	備考
産婦人科	医員	石田亨相	令和5年4月1日採用
	〃	加藤真由子	令和5年12月1日採用
眼科	部長	岡田正喜	兼中央診療局主幹
	医員	的場あゆみ	令和5年4月1日採用
耳鼻いんこう科	部長	三谷健二	
	医長	鎌倉綾	
リハビリテーション科	部長	山本健吾	
	医長	来真希子	兼脳神経内科医長
			令和6年3月31日退職
放射線診断科	部長	中田早紀	兼放射線治療科部長
	医長	塚部明大	
	医員	永井啓介	
	〃	阪上海央	令和5年4月1日採用
放射線治療科	部長	中田早紀	兼放射線診断科部長
	医長	足立加那	
病理診断科	部長	足立史朗	
	医員	田村裕美	
救急科	部長	中川理	副院長
			兼循環器内科主任部長
			兼内科部長
			兼健診センター長
	医長	高橋弘毅	
歯科	部長	今井智章	兼中央診療局主幹
歯科口腔外科	医長	藤田祐生	令和6年3月31日退職
	医員	桝井敦史	令和5年4月1日採用
麻酔科	主任部長	高田幸治	兼臨床工学部長
			兼集中治療部長
			兼手術部長
	部長	二宮万理恵	兼緩和ケアセンター長
	〃	香河清和	令和6年3月31日退職
	医長	桐山圭司	令和6年3月31日退職
	〃	松永寛紀	
	〃	滝本佳予	
	医員	八木拓也	令和6年3月31日退職

中央診療局

部署	職名	氏名	備考
	中央診療局長	西田勉	兼消化器内科主任部長
			兼内科部長
			兼内視鏡部長
			兼がん診療部副部長
			兼がんゲノム医療センター副センター長
	中央診療局次長	横江勝	兼脳神経内科部長
			兼内科部長
	主幹	岡田正喜	眼科部長

部　署	職　名	氏　名	備　考
	主　幹	今井智章	歯科部長
	〃	森原剛史	精神科部長
放射線部	部長(中央診療局)	生島忠久	
	副部長(中央診療局)	深美智彦	
	〃	矢尾典子	
	主　任	岸本昌正	
	〃	寺澤裕司	
	〃	市村叔照	
	〃	宮野英人	
	〃	中井美穂	
臨床検査部	部長(中央診療局)	山内一浩	
	副部長(中央診療局)	髭野昭子	
	〃	加藤京子	
	主　任	温井正博	
	〃	宮坂裕子	
	〃	金城智江	
	〃	駒　里美	
	〃	笹垣貴美	令和5年12月1日退職
	〃	福田由美	
	〃	木下典子	
	〃	鈴木紀子	
臨床工学部	部長(中央診療局)	高田幸治	麻酔科主任部長 兼集中治療部長 兼手術部長
	主　任	岩崎守弘	
リハビリテーション部	部長(中央診療局)	大川知之	
	副部長(中央診療局)	奈良平明子	
	主　任	竹村衣代	
	〃	足立ゆかり	
栄養管理部	部長(中央診療局)	井上文子	

部　署	職　名	氏　名	備　考
健診センター	センター長	中川　理	副院長 兼循環器内科主任部長 兼内科部長 兼救急科部長
薬　剤　部	薬剤部長	宇佐美順子	
	副薬剤部長	相澤聡子	
	〃	小野祐志	
	主　任	岸田容之	
	〃	金谷吉崇	
	〃	石田志穂	
	〃	赤羽美樹子	兼臨床研究センター副センター長
	〃	大江彰彦	
	〃	竹中智子	
	〃	椎葉有樹	

部　　署	職　　名	氏　　名	備　　考
看　護　部	看護部長	越　智　比奈子	
	看護部次長	中　上　紀　子	患者総合支援部長
			兼医療安全管理室長
	〃	木　本　正　美	兼地域医療連携室主幹
			令和6年3月26日退職
	〃	斉　藤　百　恵	
	副看護部長	大　畠　香代子	兼ベッドコントロールセンター主幹
			令和6年3月31日退職
	〃	二　宮　由紀恵	兼がんゲノム医療センター主幹
	〃	東　山　美　鈴	
	〃	山　中　賀　代	
	副　主　幹	大　西　智香子	
	〃	福　田　民　江	兼医療情報室診療情報管理係長
			令和6年3月31日退職
	〃	柴　田　明日香	
	看護師長	伊　藤　輝代美	
	〃	横　山　賢　子	
	〃	岡　野　祐　子	
	〃	掛　布　美　樹	
	〃	阪　根　睦　恵	
	〃	三　輪　真理子	
	〃	山　口　　望	
	〃	小　川　　綾	
	〃	松　田　裕　子	
	〃	森　田　晴　代	
	〃	秦　　真由美	
	〃	川　原　令　子	
	〃	染　谷　　裕	
	〃	二　宮　智香子	
	〃	尾　畑　　幸	
	〃	福　田　早　苗	
	〃	野　端　万　里	
	〃	徳　田　明　美	
	〃	濵　田　紀　子	
	副看護師長	阿久澤　美　和	
	〃	浦　辺　千津子	
	〃	岡　田　藍　子	
	〃	加　藤　和　成	
	〃	歌　坂　美加子	
	〃	河　村　あゆみ	
	〃	柿　沼　香　里	
	〃	岩　本　三　恵	
	〃	吉　岡　　幸	
	〃	吉　澤　恵　美	
	〃	久　保　美由紀	
	〃	桐　山　香　織	

部　署	職　名	氏　名	備　考
看　護　部	副看護師長	金　子　幸　恵	
	〃	栗　山　めぐみ	
	〃	原　口　聡　子	
	〃	原　田　美由紀	
	〃	古　田　真由美	
	〃	香　西　瑞　絵	
	〃	今　村　里　永	
	〃	山　田　章　子	
	〃	市　村　友紀子	
	〃	篠　原　清　美	
	〃	篠　田　明　子	
	〃	酒　井　世志子	
	〃	秋　間　成　美	
	〃	小　池　宜　子	
	〃	森　川　加　菜	
	〃	森　田　博　美	
	〃	水　本　陽　子	
	〃	清　水　知　子	
	〃	西　村　美名子	
	〃	川　原　瑞　枝	
	〃	川　上　秀　子	
	〃	泉　野　恭　子	
	〃	染　谷　小百合	
	〃	前　川　奈　央	
	〃	村　木　　瞳	
	〃	大　山　京　子	
	〃	大　野　真由美	令和6年3月31日退職
	〃	竹　内　友　紀	
	〃	中　村　智　子	
	〃	朝　永　美　紀	
	〃	辻　　まどか	
	〃	田　代　淳　子	
	〃	渡　部　啓　介	
	〃	東　　洋　美	
	〃	白　桃　真紀子	
	〃	福　本　郁　代	
	〃	平　野　正　美	
	〃	豊　永　秀　子	
	〃	本　村　さとみ	
	〃	野　口　裕　子	
	〃	和　田　めぐみ	
	〃	和　田　敦　子	
	〃	澤　田　かおり	
	〃	齋　藤　智　子	
	〃	蟇　目　有　佳	

部　　署	職　　名	氏　　名	備　　考
がん診療部	部　　長	今　村　博　司	副院長
			兼消化器外科主任部長
			兼外科部長
			兼がんゲノム医療センター長
			兼臨床研究センター長
	副　部　長	西　田　　勉	中央診療局長
			兼消化器内科主任部長
			兼内科部長
			兼内視鏡部長
			兼がんゲノム医療センター副センター長
がん相談支援センター	センター長	鍋　島　　智	
	副センター長	秋　本　和　之	
	副　主　幹	大　塚　千代美	
がんゲノム医療センター	センター長	今　村　博　司	副院長
			兼消化器外科主任部長
			兼外科部長
			兼がん診療部長
			兼臨床研究センター長
	副センター長	西　田　　勉	中央診療局長
			兼消化器内科主任部長
			兼内科部長
			兼内視鏡部長
			兼がん診療部副部長
	主　　幹	二　宮　由紀恵	副看護部長
がん薬物療法センター	センター長	川　瀬　朋　乃	消化器外科部長
			兼外科部長
緩和ケアセンター	センター長	二　宮　万理恵	麻酔科部長

部　　署	職　　名	氏　　名	備　　考
患者総合支援部	部　　長	中　上　紀　子	兼看護部次長
			兼医療安全管理室長
	次　　長	松　永　啓　太	兼地域医療連携室長
地域医療連携室	室　　長	松　永　啓　太	兼患者総合支援部次長
	主　　幹	木　本　正　美	看護部次長　令和6年3月26日退職
	室長補佐	長谷部　ひとみ	
患者支援室	室　　長	児　玉　雅　美	
	室長補佐	曽　根　光　子	
医療情報室	室　　長	吉　良　　章	令和5年4月1日転入
	室長補佐	佐々木　啓　充	
	副　主　幹	福　田　民　江	看護部副主幹
医療安全管理室	室　　長	中　上　紀　子	患者総合支援部長
			兼看護部次長
	室長補佐	西　川　晃　代	
感染対策室	室　　長	阿　部　欣　也	呼吸器内科部長
			兼内科部長

部　　署	職　　名	氏　　名	備　　考
ﾍﾞｯﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾙｾﾝﾀｰ	センター長	岩　橋　博　見	病院長 兼内分泌・代謝内科主任部長
	主　　幹	大　畠　香代子	副看護部長 令和6年3月31日退職
	副センター長	佐　藤　千穂子	
教育研修センター	センター長	岩　澤　　卓	副院長 兼呼吸器外科部長 兼外科部長
臨床研究センター	センター長	今　村　博　司	副院長 兼消化器外科主任部長 兼外科部長 兼がん診療部長 兼がんゲノム医療センター長
	副センター長	赤　羽　美樹子	薬剤部主任
ﾒﾃﾞｨｶﾙｱｼｽﾀﾝﾄ室	室　　長	福　井　浩　司	消化器内科部長 兼内科部長

部　　署	職　　名	氏　　名	備　　考
事　務　局	事務局長	大　東　幹　彦	
	事務局次長	秋　田　瑞　恵	兼経営企画課長
病院総務課	課　　長	大　澤　亮　太	令和5年4月1日転入
	主　　幹	梁　　昌　義	
	課長補佐	金　子　政　嗣	
	〃	重　田　泰　宏	
経営企画課	課　　長	秋　田　瑞　恵	事務局次長
	主　　幹	南　　岳　彦	令和5年4月1日転入
	課長補佐	岡　村　素　子	
	〃	大　園　　潤	
医　事　課	課　　長	豊　田　聡　司	
	課長補佐	角　山　伊知郎	

人事異動

■医務局及び中央診療局

（昇格）	令和5年4月1日	髙　橋　邦　彦	医務局小児科部長
	〃	水　野　直　子	医務局整形外科部長
	〃	阿　部　真　悟	医務局整形外科医長
	〃	吉　田　　晋	医務局産婦人科部長
	〃	飯　田　卓　馬	医務局循環器内科医長
	〃	岡　内　幸　義	医務局内分泌・代謝内科部長
	〃	小　澤　孝　幸	医務局血液内科医長
	〃	生　島　忠　久	中央診療局放射線部部長
（採用）	令和5年4月1日	林　　隆　治	医務局循環器内科副部長
	〃	坂　本　陽　子	医務局循環器内科医長
	〃	前　田　大　介	医務局形成外科医長
	令和5年5月1日	今　井　優　子	医務局整形外科医長
	令和5年10月1日	細　見　晃　一	医務局脳神経外科医長
（退職）	令和5年6月30日	阿　部　真　悟	医務局整形外科医長
	令和5年9月30日	坂　本　陽　子	医務局循環器内科医長
	令和5年12月31日	池　田　佳　代	医務局産婦人科医長
	令和6年2月29日	福　岡　秀　忠	医務局循環器内科医長
	令和6年3月31日	岩　澤　　卓	副院長
	〃	香　河　清　和	医務局麻酔科部長
	〃	細　見　晃　一	医務局脳神経外科医長
	〃	藤　田　祐　生	医務局歯科医長
	〃	桐　山　圭　司	医務局麻酔科医長
	〃	来　　真希子	医務局リハビリテーション科医長
	〃	柳　本　喜　智	医務局消化器外科医長
	〃	小　林　　晶	医務局呼吸器外科医長

■看護部

（昇格）	令和5年4月1日	越　智　比奈子	看護部長
	〃	斉　藤　百　恵	看護部次長
	〃	東　山　美　鈴	看護部副看護部長
	〃	山　中　賀　代	看護部副看護部長
	〃	尾　畑　　幸	看護部看護師長
	〃	岡　野　祐　子	看護部看護師長
	〃	二　宮　智香子	看護部看護師長
	〃	山　口　　望	看護部看護師長
（退職）	令和6年3月26日	木　本　正　美	看護部次長
	令和6年3月31日	大　畠　香代子	看護部副看護部長
	〃	福　田　民　江	看護部副主幹

■事務局・その他

（昇格）	令和5年4月1日	中　上　紀　子	患者総合支援部長	
	〃	児　玉　雅　美	患者支援室長	
	〃	鈴　木　徳　洋	感染対策室室長補佐	
	〃	秋　田　瑞　恵	事務局次長	
	〃	梁　　昌　義	病院総務課主幹	
	〃	重　田　泰　宏	病院総務課課長補佐	
（異動）	令和5年4月1日	吉　良　　章	医療情報室長 市民協働部くらし支援課より	（転入）
	〃	大　澤　亮　太	事務局病院総務課長 教育委員会社会教育課より	（転入）
	〃	南　　岳　彦	事務局経営企画課主幹 上下水道局経営部総務課より	（転入）
	〃	坂　口　真由美	事務局次長 福祉部へ	（転出）
	〃	垣　内　伯　子	事務局病院総務課主幹 上下水道局経営部お客様センター窓口課へ	（転出）
	〃	木　下　　実	事務局経営企画課主幹 選挙管理委員会事務局へ	（転出）
	〃	櫻　田　靖　之	医療情報室長 健康医療部保健相談課へ	（転出）

2．職員状況（令和6年3月31日現在）

正職員・任期付短時間勤務職員・再任用職員・臨時的任用職員

		医務局																												中央診療局								健診センター	患者総合支援部		
		内科（総合内科）	内分泌・代謝内科	呼吸器内科	血液内科	腎臓内科	脳神経内科	消化器内科	循環器内科	精神科	小児科	外科	消化器外科	呼吸器外科	乳腺外科	整形外科	脳神経外科	心臓血管外科	形成外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	リハビリテーション科	放射線診断科	放射線治療科	病理診断科	救急科	歯科・歯科口腔外科	麻酔科	放射線部	臨床検査部	リハビリテーション部	臨床工学部	精神科	眼科	歯科	栄養管理部		患者総合支援部	地域医療連携室	患者支援室
医師	医師		4	4	5	4	4	10	6	2	6		10	2	2	6	4	2	1	2	5	7	2	2	2	4	1	2	1		7												
	歯科医師																													3													
看護職員	看護師																																								1	6	1
	助産師																																										1
	准看護師																																										
	任期付短時間勤務看護師																																										
	再任用看護師																																									1	2
	再任用助産師																																										
	臨時保育士																																										
医療技術員	薬剤師																																										
	診療放射線技師																															23											
	臨床検査技師																																27										
	臨床工学技士																																		5								
	視能訓練士																																				2						
	歯科衛生士																																					1					
	理学療法士																																	14									
	作業療法士																																	6									
	言語聴覚士																																	2									
	臨床心理士																																			1							
	管理栄養士																																						6				
	任期付短時間勤務臨床検査技師																																1										
	再任用臨床検査技師																																										
	再任用診療放射線技師																																										
	再任用薬剤師																																										1
事務職員	事務職員																																								1	1	
	技術職員																																										
	医療事務専門職員																																										
	医療社会福祉士																																									2	
	診療情報管理士																																										
	任期付短時間勤務事務職員																																									1	
	任期付短時間勤務医療事務専門職員																																										
	再任用事務職員																																										
	再任用技術職員																																										
総計		0	4	4	5	4	4	10	6	2	6	0	10	2	2	6	4	2	1	2	5	7	2	2	2	4	1	2	1	3	7	23	28	22	5	1	2	1	6	0	2	11	5

がん診療部					ベットコントロールセンター	メディカルアシスタント室	教育研修センター	臨床研究センター	医療安全管理室	医療情報室	感染対策室	薬剤部	看護部																						事務局												計	前年度との増減
																		病棟																		病院総務課				経営企画課				医事課				
がん診療部	がん相談支援センター	緩和ケアセンター	がん薬物療法センター	がんゲノム医療センター									看護部	手術部	放射線部	救急・内視鏡部	外来	ICU	HCU	SCU	NICU	GCU	3階南	3階北	4階南	4階北	5階南	5階北	6階南	6階北	7階南	7階北	8階南	8階北	事務局	病院総務課	総務係	職員係	施設係	経営企画課	経営企画係	経理係	用度係	医事課	医事係	算定係		
																																															107	3
																																															3	3
					1				1	2	2		34	28	9	27	23	27	7	18	11	1		19	20	26	28	28	26	28	27	27	24	26													478	-1
													10									3	7	23		3																						47	2
																																															0	0
																	1																														1	-1
	1														1		6																														11	-3
																																															0	-1
																									2																						2	0
												27																																			27	1
										1																																					24	0
	1																																														28	0
																																										1				6	0
																																															2	0
																																															1	0
																																															14	1
																																															6	1
																																															2	0
																																															1	0
																																															6	1
																																															1	0
																																															0	-1
																																															0	-1
																																															1	1
	2					2			1	1																									2	3	2	6		3	2	2	2		1		31	0
																																				1			2								3	1
										3																																	2	1	3	9	1
	2																																														4	0
										1																																		1		2	0
																																															1	0
																																														2	2	0
																																										1					1	0
																																															0	-1
0	6	0	0	0	1	2	0	0	2	8	2	27	44	28	10	27	30	27	7	18	14	8	23	19	25	26	28	28	26	28	27	27	24	26	2	4	2	6	2	3	2	3	3	2	3	5	821	6

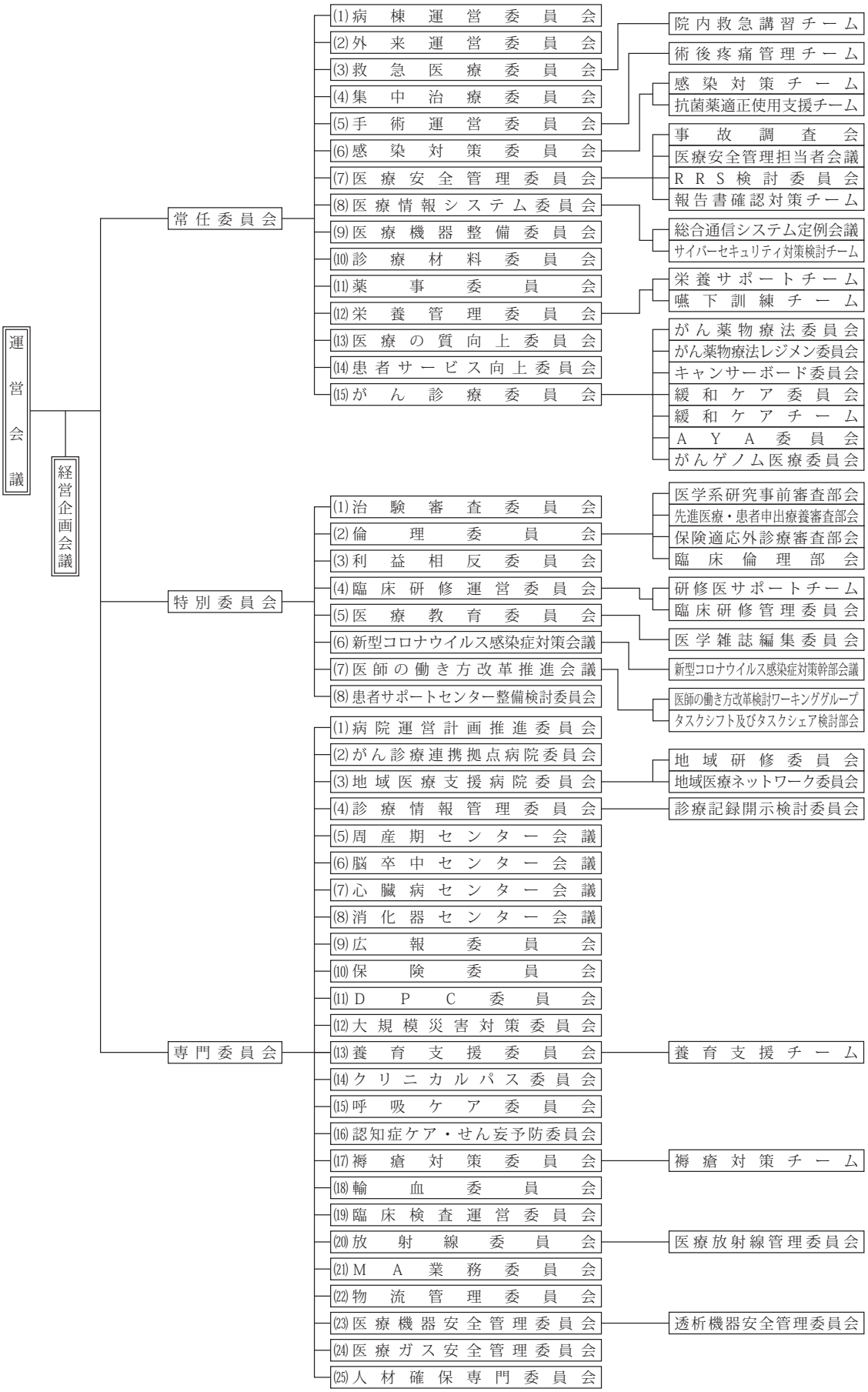
非常勤職員（一般会計年度任用職員・臨時会計年度任用職員）

		医務局																														中央診療局								健診センター	患者総合支援部		
		内科（総合内科）	内分泌・代謝内科	呼吸器内科	血液内科	腎臓内科	脳神経内科	消化器内科	循環器内科	精神科	小児科	外科	消化器外科	呼吸器外科	乳腺外科	整形外科	脳神経外科	心臓血管外科	形成外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	リハビリテーション科	放射線診断科	放射線治療科	病理診断科	救急科	歯科・歯科口腔外科	麻酔科	放射線部	臨床検査部	リハビリテーション部	臨床工学部	精神科	眼科	歯科	栄養管理部	健診センター	患者総合支援部	地域医療連携室	患者支援室
医師	医師		2	3	2	2	5	7	2	2	5	3				3	2	1	1	2	3	5		2		1		1			2												
	歯科医師																													1													
	研修医																																										
	研修歯科医																																										
	嘱託医師															1						1				1			1				1							1			
看護職員	看護師																																									21	
	助産師																																									1	
医療技術員	薬剤師																																										
	診療放射線技師																															1											
	臨床検査技師																																14										
	歯科衛生士																																					5					
	歯科技工士																																										
	理学療法士																																	1									
	言語聴覚士																																	2									
	臨床心理士																																			2							
	管理栄養士																																						6				
事務職員	事務職員																																									3	
	技術職員																																										
	医療事務専門職員																																										
	医療社会福祉士																																									4	
	診療情報管理士																																										
	相談員																																										
	医師事務作業補助者																																										
	司書																																										
技能労務員	自動車運転手																																										
	病棟補助員																																										
	病棟補助員（事務）																																										
総計		0	2	3	2	2	5	7	2	2	5	3	0	0	0	4	2	1	1	2	3	6	0	2	0	2	0	1	1	1	2	1	15	3	0	2	0	5	6	1	0	29	0

がん診療部 がん診療部	がん診療部 がん相談支援センター	がん診療部 緩和ケアセンター	がん診療部 がん薬物療法センター	がん診療部 がんゲノム医療センター	ベットコントロールセンター	教育研修センター	臨床研究センター	メディカルアシスタント室	医療安全管理室	医療情報室	感染対策室	薬剤部	看護部 看護部	看護部 手術部	看護部 放射線部	看護部 救急・内視鏡部	看護部 外来	看護部 病棟 ICU	看護部 病棟 HCU	看護部 病棟 SCU	看護部 病棟 NICU	看護部 病棟 GCU	看護部 病棟 3階南	看護部 病棟 3階北	看護部 病棟 4階南	看護部 病棟 4階北	看護部 病棟 5階南	看護部 病棟 5階北	看護部 病棟 6階南	看護部 病棟 6階北	看護部 病棟 7階南	看護部 病棟 7階北	看護部 病棟 8階南	看護部 病棟 8階北	事務局 事務局	事務局 病院総務課 病院総務課	事務局 病院総務課 総務係	事務局 病院総務課 職員係	事務局 病院総務課 施設係	事務局 経営企画課 経営企画課	事務局 経営企画課 経営企画係	事務局 経営企画課 経理係	事務局 経営企画課 用度係	事務局 医事課 医事課	事務局 医事課 医事係	事務局 医事課 算定係	計	前年度との増減
																																															56	2
																																															1	0
						26																																							26	0
																																															0	-1
1		1																																											8	1
														1	1	4	22	1							2	2	1	2	2	2	2	4	2	3													72	3
																	1						3																								5	1
												14																																			14	-1
																																															1	0
																																															14	0
																																															5	2
																																															0	0
																																															1	1
																																															2	1
																																															2	0
																																															6	0
	2						2	2	1	3		2																									3	6	2		1	2	4		2	3	38	3
																																						1								1	0
																																													4	4	0
									1																																					5	1
										5																																			4	9	0
																																												1		1	-1
								60																												1										61	4
																																				2										2	0
																																				1										1	0
																		2					6	3	3	4	5	5	5	5	6	5	5	6													60	3
																							1			1	1	1	1	1	1	1	1	1													10	1
1	2	1	0	0	0	26	2	62	2	8	0	16	0	1	1	4	23	3	0	0	0	0	10	3	5	7	7	8	8	8	9	10	8	10	0	0	7	6	3	0	1	2	4	0	3	11	405	20

Ⅲ　院内管理運営

1. 組織（令和6年3月31日現在）



(1) 運営会議運営要綱

（会議の設置）

第1条　本病院事業の充実を期し、管理運営の円滑化をはかるため、「市立豊中病院運営会議」（以下「運営会議」という。）を設置する。

（会議の機能）

第2条　運営会議は本病院の管理運営及び業務執行にかかる重要事項の機関決定を行う。

（会議の構成）

第3条　運営会議は、別表に掲げる者をもって構成する。

2　事業管理者が必要と認めたときは、関係幹部職員等の出席を求めることができる。

（会議の招集等）

第4条　運営会議は事業管理者が主宰し、これを召集する。

2　会議の議長は、事業管理者がこれにあたる。

3　会議の開催は、毎月第2、第4木曜日とする。

4　事業管理者が必要と認めたときは、臨時会議を招集することができる。

（付議手続）

第5条　会議に付議しようとする議案は、各職が会議の前日までに関係資料を添えて病院総務課長に提出するものとする。

（審議事項等の処理）

第6条　事業管理者は、審議事項等のうち次の事項について事務処理を行うものとする。

(1)　経営企画会議に付議すべき事項

(2)　業務執行部門にそれぞれ伝達すべき事項

(3)　その他必要な事項

2　前項の事務処理は、事業管理者の指示を受けて病院総務課長が行う。

（会議の庶務等）

第7条　運営会議の庶務は、病院総務課が行う。

2　その他会議に必要な事項は、事業管理者が別に定める。

付　則　　この要綱は平成23年4月14日から施行する。
付　則　　この要綱は平成25年4月11日より施行する。
付　則　　この要綱は平成27年4月23日より施行する。
付　則　　この要綱は平成29年4月27日より施行する。
付　則　　この要綱は平成30年4月2日より施行する。
付　則　　この要綱は令和2年4月1日より施行する。

(2)「市立豊中病院経営企画会議」運営要綱

（設　置）

第1条　市立豊中病院の経営改善、病院機能の向上を図るため、市立豊中病院経営企画会議（以下「会議」という。）を設置する。

（所掌事務）

第2条　会議は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

(1) 病院経営改善の企画立案、実施及び評価に関すること。

(2) 病院経営の合理化及び整備に関すること。

(3) 病院運営にかかる基本方針及び重要事項に関すること。

(4) 診療報酬に関すること。

(5) その他病院機能の向上に関すること。

（組　織）
第3条　会議は、別表に掲げる者をもって組織する。
　2　事業管理者が必要と認めるときは、別表に掲げる者以外に関係者を会議に出席させ、説明又は意見を求めることができる。
（会議の招集等）
第4条　会議は事業管理者が主宰し、これを招集する。
　2　会議の議長は、事業管理者がこれにあたる。
　3　会議の開催は毎月第4木曜日とする。
　4　事業管理者が必要と認めたときは、臨時会議を招集することができる。
（作業部会）
第5条　会議に、病院経営改善に関する専門の事項を調査及び検討をさせるため、事項ごとに作業部会を置くことができる。
　2　作業部会に関し必要な事項は、事業管理者が定める。
（庶　務）
第6条　会議の庶務は、経営企画課及び医事課において処理する。
（補　則）
第7条　この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は事業管理者が別に定める。

附　則　　この要綱は、平成21年12月2日から施行する。
　　市立豊中病院企画会議運営要綱は、廃止する。
附　則　　この要綱は、平成22年4月7日から施行する。
附　則　　この要綱は、平成23年4月20日から施行する。
附　則　　この要綱は、平成24年4月4日から施行する。
附　則　　この要綱は、平成27年4月8日から施行する。
附　則　　この要綱は、平成29年4月27日から施行する。
附　則　　この要綱は、平成30年4月2日から施行する。
附　則　　この要綱は、令和2年4月1日から施行する。
附　則　　この要綱は、令和4年4月1日から施行する。
附　則　　この要綱は、令和5年4月1日から施行する。

（3）委員会等設置要綱

（目　　的）
第1条 この要綱は事業管理者が市立豊中病院（以下「病院」という。）の業務の正常な運営と円滑な推進を図るために設置する委員会の組織・運営及び検討事項等を定めることを目的とする。
（委員会の定義）
第2条 前条の委員会は次のとおりとする。
　（1）病院の業務にかかる検討事項を調査、研究、審議する委員会（以下「常任委員会」という。）
　（2）前号の検討事項の他に特に事業管理者が指定した事項を調査、研究、審議する委員会（以下「特別委員会」という。）
　（3）病院の業務、運営について、事業管理者の統括のもとに設けることが適当と認められる委員会（以下「専門委員会」という。）
（常任委員会の設置及び検討事項等）
第3条 事業管理者は病院運営会議（以下「運営会議」という。）にはかり、次の常任委員会を設置する。ただし、法令等で別に設置者を定めている委員会については法令等の定めるところとする。
　（1）　病棟運営委員会　　病棟運営に関すること
　（2）　外来運営委員会　　外来診療に関すること

(3)　救急医療委員会　救急医療に関すること
(4)　集中治療委員会　集中治療部門の運営管理に関すること
(5)　手術運営委員会　手術の運営管理に関すること
(6)　感染対策委員会　病院の感染防止に関すること
(7)　医療安全管理委員会　医療上の安全対策の推進及び医療事故の防止に関すること
(8)　医療情報システム委員会　市立豊中病院総合情報通信システム（TOPICS）の運用に関すること
(9)　医療機器整備委員会　医療機器の購入、整備及び施設の整備等に関すること
(10)　診療材料委員会　診療材料等の選択及び情報に関すること
(11)　薬事委員会　保険診療に必要な薬品等の選択及び情報に関すること
(12)　栄養管理委員会　患者食に関すること
(13)　医療の質向上委員会　医療の質向上に関すること
(14)　患者サービス向上委員会　患者サービスの向上に関すること
(15)　がん診療委員会　がん診療の質向上に関すること

（特別委員会の設置及び検討事項等）

第4条　事業管理者は次の特別委員会を設置する。ただし、法令等で別に設置者を定めている委員会については法令等の定めるところとする。

(1)　治験審査委員会　治験審査に関すること
(2)　倫理委員会　医療行為の倫理的審査に関すること
(3)　利益相反委員会　臨床研究における当院職員の利益相反に関する事項の審査に関すること
(4)　臨床研修運営委員会　臨床研修計画に関すること
(5)　医療教育委員会　医療についての教育、研修に関すること
(6)　新型コロナウイルス感染症対策会議　新型コロナウイルス感染症対策に関すること
(7)　医師の働き方改革推進会議　医師の働き方改革に関すること
(8)　患者サポートセンター整備検討委員会　患者サポートセンター設置に関すること

（専門委員会の設置及び検討事項等）

第5条　事業管理者は次の専門委員会を設置する。ただし、法令等で別に設置者を定めている委員会については法令等の定めるところとする。

(1)　病院運営計画推進委員会　病院運営計画の推進に関すること
(2)　がん診療連携拠点病院委員会　地域がん診療連携拠点病院事業の運営に関すること
(3)　地域医療支援病院委員会　地域医療支援病院の運営にかかる内部調整に関すること
(4)　診療情報管理委員会　診療情報の管理に関すること
(5)　周産期センター会議　周産期センターの運営管理に関すること
(6)　脳卒中センター会議　脳卒中センターの運営管理に関すること
(7)　心臓病センター会議　心血管疾患診療の質の向上等に関すること
(8)　消化器センター会議　消化器センターの運営管理に関すること
(9)　広報委員会　病院年報、広報誌等の発行に関すること
(10)　保険委員会　保険診療に関すること
(11)　ＤＰＣ委員会　DPCに関すること
(12)　大規模災害対策委員会　大規模災害の対策に関すること
(13)　養育支援委員会　小児虐待の対策に関すること
(14)　クリニカルパス委員会　クリニカルパスの作成、運営に関すること
(15)　呼吸ケア委員会　呼吸ケアチームの運営管理に関すること
(16)　認知症ケア・せん妄予防委員会　認知症ケア及びせん妄予防に関すること
(17)　褥瘡対策委員会　褥瘡防止に関すること
(18)　輸血委員会　輸血に関すること
(19)　臨床検査運営委員会　臨床検査の適正管理に関すること
(20)　放射線委員会　放射線にかかる業務全般に関すること
(21)　ＭＡ業務委員会　ＭＡ業務に関すること

（22）　物流管理委員会　　物品の適正管理に関すること
（23）　医療機器安全管理委員会　　医療機器の取扱に関すること
（24）　医療ガス安全管理委員会　　医療ガスの安全管理に関すること
（25）　人材確保専門委員会　　人材確保に関すること

（委員会の構成及び任期）

第6条 委員会の委員長は病院長が指名する。各委員会の委員は、各部局の部門長がそれぞれ部局内から選出し、運営会議にはかる。副委員長は任命された委員の中から委員長が指名する。

2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、特別委員会、専門委員会の委員の任期はこの限りではない。

3 任期満了後に次の委員が選任されるまでの期間に委員会を開催するときは直近の委員を引き続き委員とみなす。

4 委員に欠員が生じたときの補充委員の任期は前任者の残任期間とする。

（委員会の運営等）

第7条 委員会の長は委員会を総理し、必要に応じて委員会を招集し会議を開催しなければならない。

2 委員会の長に事故があるときは副委員長が代行する。

3 常任委員会の長は審議した事項について運営会議に報告する。

4 特別委員会及び専門委員会の長は必要に応じて委員会の報告を運営会議で行うことができる。

5 事業管理者は特別委員会及び専門委員会の長に対し運営会議で委員会の報告を求めることができる。

6 委員会の運営に必要な事項はそれぞれの委員会で別に定めることができる。

（要綱の改廃）

第8条 この設置要綱を改廃しようとする場合は、運営会議の承認を受けなければならない。

附　則　この要綱は昭和51年12月1日から施行する。
附　則　この要綱は昭和54年6月1日から施行する。
附　則　この要綱は昭和58年5月16日から施行する。
附　則　この要綱は昭和63年9月1日から施行する。
附　則　この要綱は昭和63年12月1日から施行する。
附　則　この要綱は平成3年7月15日から施行する。
附　則　この要綱は平成10年1月1日から施行する。
附　則　この要綱は平成11年2月1日から施行する。
附　則　この要綱は平成11年11月1日から施行する。
附　則　この要綱は平成12年5月1日から施行する。
附　則　この要綱は平成14年4月11日から施行する。
附　則　この要綱は平成15年4月10日から施行する。
附　則　この要綱は平成20年4月1日から施行する。
附　則　この要綱は平成23年5月12日から施行する。
附　則　この要綱は平成25年4月11日から施行する。
附　則　この要綱は平成26年4月24日から施行する。
附　則　この要綱は平成27年4月23日から施行する。
附　則　この要綱は平成28年4月28日から施行する。
附　則　この要綱は平成29年4月27日から施行する。
附　則　この要綱は平成30年4月26日から施行する。
附　則　この要綱は平成31年4月1日から施行する。
附　則　この要綱は令和2年10月8日から施行する。
附　則　この要綱は令和4年4月1日から施行する。
附　則　この要綱は令和4年6月7日から施行する。
附　則　この要綱は令和5年4月1日から施行する。
附　則　この要綱は令和5年6月5日から施行する。
附　則　この要綱は令和6年3月1日から施行する。

2. 主要会議審議事項

（1）運営会議審議事項

■第1087回　令和5年4月13日
1. 委員会の審議・報告
2. 令和5年度　院内委員会名簿について

■第1088回　令和5年4月27日
1. 委員会の審議・報告
2. 患者支援室等のレイアウト変更
3. 組織目標市長・副市長ヒアリングの報告について

■第1089回　令和5年5月11日
1. 委員会の審議・報告
2. 運営会議日程表（予定案件入り）

■第1090回　令和5年5月25日
1. 委員会の審議・報告
2. 病院機能評価受審の延期について

■第1091回　令和5年6月8日
1. 委員会の審議・報告
2. 病院機能評価について
3. 長期修繕計画改定について

■第1092回　令和5年6月22日
1. 委員会の審議・報告
2. 当院における 手術・処置 の動画録画とその保管に関する取扱いについて
3. サンクスエンゲージメントカードの活用について

■臨時（書面）　令和5年7月14日
1. 大阪府との協定締結に向けた事前調査について

■第1093回　令和5年7月27日
1. 委員会の審議・報告
2. 受託研究費等の取扱変更について

■第1094回　令和5年8月24日
1. 委員会の審議・報告
2. 感染症法に基づく医療措置協定について
3. 令和6年度　予算編成について

■第1095回　令和5年9月14日
1. 委員会の審議・報告
2. 3北運用検討チームからの報告について
3. 大規模災害対策訓練実施要領について
4. 令和6年度　予算編成について　他

■第1096回　令和5年10月12日
1. 委員会の審議・報告
2. 令和6年度予算要求進捗状況

■第1097回　令和5年10月26日
1. 委員会の審議・報告
2. 3北運用検討チームからの報告について
3. 令和6年度　予算編成状況について

■第1098回　令和5年11月9日
1. 委員会の審議・報告
2.「病院運営審議会」への案件提出について
3. 令和6年度　予算編成状況について

■第1099回　令和5年11月16日
1. 委員会の審議・報告
2. 令和6年度　組織・機構改正について
3. 令和6年度　予算編成状況について

■第1100回　令和5年12月7日
1. 委員会の審議・報告
2. 令和6年度　予算編成状況について

■第1101回　令和5年12月28日
1. 委員会の審議・報告
2. 病院機能評価に係る取組みについて
3. 令和6年度　予算編成状況について

■第1102回　令和6年1月11日
1. 委員会の審議・報告
2. 病院機能評価取組スケジュールについて
3. 3階北病棟の検討について
4. 大規模災害における職員参集等について 他

■第1103回　令和6年1月25日
1. 委員会の審議・報告
2. 予算調整会議について
3. 令和6年度　収支改善等に向けた人員再配置計画

■第1104回　令和6年2月8日
1. 委員会の審議・報告
2. 令和6年度　予算書等について（3月議会）
3. 能登半島地震被災者への支援について（被災者情報の把握）

■第1105回　令和6年2月22日
1. 委員会の審議・報告
2. 看護師特定行為管理委員会の設置について
3. 外来治療室移転の検討状況について
4. 委員会設置要綱の改正について

■第1106回　令和6年3月14日
1. 委員会の審議・報告
2. 外来治療室及び患者総合支援部の移転に関する報告について
3. 令和6年度　院内委員会体系等について

■第1107回　令和6年3月28日
1. 委員会の審議・報告
2. 病院機能評価の講演会開催について
3. 外来治療室移転に関する報告について
4. 病院組織目標について（骨子案）

3.　院内委員会報告

常任委員会

◎は委員長　○は副委員長

■病棟運営委員会

開催回数	9回	
議事内容	第1回　令和5年4月26日	1. 病棟の運営状況について 2. 意見箱の内容について　他
	第2回　令和5年5月22日	同　上
	第3回　令和5年6月19日	1. 病棟の運営状況について 2. 3階北病棟　今後の活用検討について　他
	第4回　令和5年7月19日	1. 病棟の運営状況について 2. 入院患者の面会について　他
	第5回　令和5年9月25日	1. 病棟の運営状況について 2. 3階北病棟10月からの運用について　他
	第6回　令和5年11月2日	1. 病棟の運営状況について 2. 予定入院患者への案内について　他
	第7回　令和5年12月8日	1. 病棟の運営状況について 2. 令和6年度4月からの3階北病棟について　他
	第8回　令和6年2月19日	1. 病棟の運営状況について 2. 令和6年度4月以降の病床編成について　他
	第9回　令和6年3月25日	1. 病棟の運営状況について 2. 意見箱の内容について　他
委員会メンバー	◎岩澤　卓、○越智比奈子、小杉　智、茶山公祐、山本健吾、後藤　哲、山本政司、大畠香代子、小川　綾、佐藤千穂子、長谷部ひとみ、大江彰彦、大東幹彦、角山伊知郎、藤川知弘、橋本和美、尾﨑祐紀	
委員会の目的	患者の診療内容に応じて専門性、人員配置、構造設備などの観点から適切な病棟・病床で入院管理することを原則とする一方で、季節変動や疾病動向など、時々の医療事情に応じて柔軟で効率的な病床利用を図る。	
今後の目標	・目標の病床利用率を達成・維持する。 ・DPC入院期間III以上の患者状況を分析し、在院日数の適正化を図る。 ・空床・入院予約状況を病棟横断的に把握できる電子カルテシステムを整備し、その運用法を定める。 ・診療目的に特化した新規病床・病棟の創設と病棟再編成を検討する。	

■外来運営委員会

開催回数	12回	
議事内容	第1回　令和5年4月19日	1. 外来診療の運営状況について 2. 設置要綱、メンバー紹介、年間予定表の確認　他
	第2回　令和5年5月17日	1. 外来診療の運営状況について 2. 外来運営委員会資料案　他
	第3回　令和5年6月21日	1. 外来診療の運営状況について 2. 電話診療終了のお知らせ　他
	第4回　令和5年7月19日	1. 外来診療の運営状況について 2. 中央処置室使用状況について　他

	第5回　令和5年9月20日	1. 外来診療の運営状況について 2. 外来診療病院比較　　他
	第6回　令和5年10月18日	1. 外来診療の運営状況について 2. 外来患者が使用する和式トイレの改修について　　他
	第7回　令和5年11月15日	1. 外来診療の運営状況について
	第8回　令和5年12月20日	1. 外来診療の運営状況について 2. 初診時選定療養費について　　他
	第9回　令和6年1月17日	1. 外来診療の運営状況について 2. 再診時選定療養費について　　他
	第10回　令和6年2月21日	1. 外来診療の運営状況について 2. 逆紹介周知について　　他
	第11回　令和6年3月18日	1. 外来診療の運営状況について 2. 疑義照会事前合意プロトコール　他
	第12回　令和6年4月17日（臨時）	1. 外来診療の運営状況について 2. 今年度の振返りと次年度に向けての目標について
委員会メンバー	◎今村博司、○東山美鈴、○竹治正展、徳田明美、今井智章、福井浩司、矢尾紀子、鈴木紀子、戸嶋由江、橋田茂樹、竹中智子、齊藤健文、角山伊知郎、青合晶平、ソラスト2名	
委員会の目的	外来診療の充実と患者サービスの向上を図る	
今後の目標	外来患者の紹介と逆紹介を推進し、外来診療単価の向上に努める。	

■救急医療委員会

開催回数	8回	
議事内容	第1回　令和5年5月11日	1. 市立豊中病院運営計画、実施計画について 2. 令和5年度の救急医療委員会の現状と課題について　　他
	第2回　令和5年7月13日	1. 救急診療について【報告事項】 2. 救急外来の滞在時間の短縮について　　他
	第3回　令和5年8月（メール会議）	1. 平日朝の救急外来ウォークイン患者の受付方法
	第4回　令和5年9月8日	1. 救急診療について【報告事項】 2. 時間外選定療養費の問題点について　　他
	第5回　令和5年11月9日	1. 救急診療について【報告事項】 2. 日またぎ入院料算定の取扱について　　他
	第6回　令和6年1月11日	1. 救急診療について【報告事項】 2. 日またぎ入院料算定の運用案について　　他
	第7回　令和6年2月（メール会議）	1. 日またぎ入院料算定の運用案について　　他
	第8回　令和6年3月14日	1. 救急診療について【報告事項】 2. 時間外緊急血管造影・内視鏡処置のコントロール　　他
委員会メンバー	◎中川　理、○西尾雅実、阿部欣也、熊田全裕、茶山公祐、池永雅一、田中博子、香河清和、高橋弘毅、古賀千絢、金谷吉崇、山本二三代、加藤京子、深美智彦、東山美鈴、松田裕子、藤川知弘、青合晶平	
委員会の目的	救急診療の充実と円滑化を図る。	
今後の目標	専救急応需件数及び入院数の増加を目標とする。そのために専門医の確保や救急担当医師の教育等の改善策を施行していく。	

■集中治療委員会

開催回数	4回
議事内容	第1回　令和5年6月21日　1. 集中治療室の運営管理について 2. HCUの電子カルテ運用について　他 第2回　令和5年10月11日　同　上 第3回　令和5年12月20日　1. 集中治療室の運営管理について 2. 令和6年度診療報酬改定情報について　他 第4回　令和6年2月14日　1. 集中治療室の運営管理について 2. 早期リハビリテーションについて　他
委員会メンバー	◎熊田全裕、○香河清和、二宮由紀恵、野端万里、阿部欣也、清水潤三、藤村博信、森　康輔、高橋弘毅、大川知之、寺澤裕司、赤羽美樹子、佐藤千穂子、角山伊知郎、藤川知弘
委員会の目的	集中治療部門の適切な管理運営について審議する。
今後の目標	集中治療を必要とする患者を適切に受け入れることができるよう、状況に合わせたシステムを整備していく。

■手術運営委員会

開催回数	11回
議事内容	第1回　令和5年4月26日　1. 手術利用状況 2. インシデントレポート　他 第2回　令和5年5月24日　同　上 第3回　令和5年6月28日　同　上 第4回　令和5年7月26日　1. 手術利用状況 2. 手術コスト計算の報告　他 第5回　令和5年9月27日　1. 手術利用状況 2. インシデントレポート　他 第6回　令和5年10月25日　1. 手術利用状況 2. 手術室での費用削減：高額修理について　他 第7回　令和5年11月22日　1. 手術利用状況 2. 時間外予定手術の希望について　他 第8回　令和5年12月27日　1. 手術利用状況 2. 説明同意書の書式一斉変更について　他 第9回　令和6年1月24日　1. 手術利用状況 2. 手術同意書書式の統一　他 第10回　令和6年2月28日　1. 手術利用状況 2. 過去の手術枠削減時の状況　他 第11回　令和6年3月27日　1. 手術利用状況 2. 緊急手術件数　他
委員会メンバー	◎西尾雅実、○高田幸治、清水潤三、栗山幸治、藤村博信、横見明典、三宅　修、辻江智子、岡田正喜、三谷健二、前田大介、今井智章、大掛馨太、阪根睦恵、今村里永、角山伊知郎、尾﨑祐紀
委員会の目的	手術室の効率的運用および手術室の増設により、手術待機期間の短縮と緊急手術への柔軟な対応を行い、地域の高度・専門医療の需要に応えるとともに手術件数の増加を図る。麻酔科医、看護師、医療スタッフの十分な確保を行い、手術の質と安全の向上を図る。

今後の目標	・各科の手術室利用実績を踏まえて、柔軟に適正な手術枠の割り振りを行い、日中平均稼働率を 65%以上に保つ。 ・手術室を新たに2室増設する。 ・麻酔科医、看護師や臨床工学士の増員、薬剤師や検査技師などの新たな常駐を図る。 ・手術機器について計画的な管理と更新を行い、質の高い安全な手術を継続する。

■感染対策委員会

開催回数	12回（内1回メール開催）	
議事内容	第1回　令和5年4月28日	1. 院内感染対策【週報・サーベイランス】 微生物検査室からの報告 薬剤部からの報告 2. ICT(感染防止対策推進チーム)・AST(抗菌薬適正使用支援チーム)からの報告及び審議依頼　他
	第2回　令和5年5月26日	同　上
	第3回　令和5年6月23日	同　上
	第4回　令和5年7月28日	同　上
	第5回　メール開催	同　上
	第6回　令和5年9月22日	同　上
	第7回　令和5年10月27日	同　上
	第8回　令和5年11月24日	同　上
	第9回　令和5年12月22日	同　上
	第10回　令和6年1月26日	同　上
	第11回　令和6年3月1日	同　上
	第12回　令和6年3月22日	同　上
委員会メンバー	◎阿部欣也、○清水潤三、○越智比奈子、岩橋博見、小杉　智、徳永康行、吉田　晋、今井智章、高田幸治、山内一浩、笹垣貴美、奈良平明子、西川晃代、赤瀬　望、鈴木徳洋、宇佐美順子、小野祐志、大東幹彦、梁　昌義、立山みあり、久宿喜市	
委員会の目的	院内感染防止対策を積極的に推進するとともに、院内感染管理の徹底を図るため次の各号に掲げる事項について審議する。 (1) 院内感染の予防対策に関すること。 (2) 感染症の調査・研究に関すること。 (3) 消毒・清掃等清潔状態の保持に関すること。 (4) 感染症防止のための施設整備に関すること。 (5) 職員等への周知・啓発・指導に関すること。	
今後の目標	病院運営計画実施計画に基づき感染対策の充実を図るため院内感染予防対策推進チーム（ICT）・抗菌薬適正使用支援チーム（AST）とともに感染防止対策を進めていく。	

■医療安全管理委員会

開催回数	12回	
議事内容	第1回　令和5年4月21日	1. 各部門からのインシデント内容報告等 2. 医療安全管理室より報告　他
	第2回　令和5年5月19日	同　上
	第3回　令和5年6月16日	同　上
	第4回　令和5年7月21日	同　上
	第5回　令和5年8月18日	同　上

	第6回　令和5年9月15日	同　上
	第7回　令和5年10月20日	同　上
	第8回　令和5年11月17日	同　上
	第9回　令和5年12月15日	同　上
	第10回　令和6年1月19日	同　上
	第11回　令和6年2月16日	同　上
	第12回　令和6年3月15日	同　上
委員会メンバー	◎中川　理、○中上紀子、岩澤　卓、今村博司、西尾雅実、西田　勉、福井浩司、藤田幸恵、大東幹彦、秋田瑞恵、宇佐美順子、越智比奈子、西川晃代、花折有華	
委員会の目的	医療上の安全対策を推進し、医療事故の発生を防止するとともに、医療事故の発生時には調査、分析を行い、必要な対策を講じることにより医療安全管理体制の充実を図る。	
今後の目標	患者の疾病構造に対して柔軟に対応できるスキルを向上し、多職種間での連携関係を築き、医療の質と安全性を高め、医療安全文化の醸成を図る。	

■医療情報システム委員会

開催回数	7回	
議事内容	第1回　令和5年4月28日	1. 医療情報システム委員会の年間計画について 2. PACS更新調達スケジュールについて　他
	第2回　令和5年5月19日	1. 次期TOPICS更新計画について 2. 次期TOPICS更新の調達準備支援に係るコンサルタント導入の検討について　他
	第3回　令和5年6月23日	1. PACS更新並びにTOPICS更新について 2. 第3次医療情報化計画の計画変更案について　他
	第4回　令和5年8月25日	1. TOPICS更新について （進捗状況及び計画骨子案について） 2. PACS更新について （業者選定結果及び更新スケジュールついて）　他
	第5回　令和5年10月18日	1. TOPICS 更新の調達について 2. TOPICS更新に係る費用調査について　他
	第6回　令和5年12月22日	1. TOPICS更新に向けた仕様書作成WGの設置について 2. PACS 更新進捗報告について　他
	第7回　令和6年3月1日	1. 心電図・脳神経システム更新について 2. PACS更新報告について　他
委員会メンバー	◎西田　勉、○中田早紀、清水潤三、吉田　晋、吉川真紀子、熊田全裕、岡田正喜、高橋弘毅、今井智章、高田幸治、山中賀代、生島忠久、山内一浩、奈良平明子、井上文子、宇佐美順子、松永啓太、豊田聡司、大澤亮太、秋田瑞恵、中上紀子、吉良　章、佐々木啓充、佐々木崇臣、徳野悦子、土井　瞬、橋田茂樹	
委員会の目的	市立豊中病院内における市立豊中病院総合情報通信システム（TOPICS）の運用等 を円滑に進めることを目的する。	
今後の目標	市立豊中病院第3次医療情報化計画に基づき、次期TOPICS調達に取り組むとともに、当院のデジタル化の推進とセキュリティ対策の向上に努める。	

■医療機器整備委員会

開催回数	7回

議事内容	第1回　令和5年6月6日	1. 全身麻酔装置PerseusA500 2. 入札結果の振り返り　他
	第2回　令和5年7月11日	1. 白内障手術装置（センチュリオン・ベリタス） 2. 入札結果の振り返り　他
	第3回　令和5年9月12日	1. 減圧沸騰式洗浄器 2. 入札結果の振り返り　他
	第4回　令和5年10月24日	1. 電気メスVLFT10エネルギープラットフォーム 2. 鏡視下手術装置一式　他
	第5回　令和5年11月21日	1. 連続心拍出量モニタ（ヘモスフィア） 2. 超音波診断装置　他
	第6回　令和5年12月12日	1. 臨床用ポリグラフ装置一式 2. 入札結果の振り返り　他
	第7回　令和5年12月21日	1. セントラルモニタ（3階北病棟） 2. セントラルモニタ（4階北病棟）　他
委員会メンバー	◎岩澤　卓、○藤村博信、中松　大、栗山幸治、生島忠久、山内一浩、岩崎守弘、土井　瞬、小野祐志、山口光徳、山中賀代、入江章弘、鈴木　勉、塚　沙矩良	
委員会の目的	医療機器の購入と整備を図るため、医療機器購入における公正公平及び効率的かつ経済的な機器の選定を行う。	
今後の目標	機器購入において公正公平な選定を行い、病院運営の健全化に寄与する。	

■診療材料委員会

開催回数	8回	
議事内容	第1回　令和5年5月16日	1. 診療材料の新規購入に関すること
	第2回　令和5年6月20日	同　上
	第3回　令和5年7月18日	同　上
	第4回　令和5年9月19日	同　上
	第5回　令和5年10月17日	同　上
	第6回　令和5年11月27日	同　上
	第7回　令和5年12月19日	同　上
	第8回　令和6年1月16日	同　上
委員会メンバー	◎池永雅一、○越智比奈子、山本政司、山下雅史、吉田礼徳、山中賀代、阪根睦恵、横山賢子、山台亮太、秋田瑞恵、大園　潤、石田志穂、寺澤裕司、ドナルド祐子、嘉島晶子	
委員会の目的	診療材料の購入管理に関する適正化・合理化及び、関連業務の円滑な運営を図るため。	
今後の目標	当院で使用する診療材料の有効、安全かつ効率的運用に関して、今後も調査・研究・審議を行う。	

■薬事委員会

開催回数	9回（うち5回メール会議）
議事内容	第1回　令和5年4月4日－4月11日（メール会議） 1. オーラ注歯科用カートリッジの新規採用について 第2回　令和5年5月11日－5月18日（メール会議） 1. アイソボリン点滴静注用25mgの新規採用について 第3回　令和5年5月16日－5月23日（メール会議） 1. エヌジェンラ皮下注24mgペン、エヌジェンラ皮下注60mgペンの新規採用について

第4回　令和5年5月30日
1. 新規採用／削除希望医薬品・後発医薬品への切替えについて
2. 病院運営計画　実施計画について　　他
第5回　令和5年7月25日
1. 新規採用／削除希望医薬品・後発医薬品への切替えについて
第6回　令和5年10月31日
1. 新規採用／削除希望医薬品・後発医薬品への切替えについて
2. 必要時購入医薬品について　　他
第7回　令和5年11月28日－12月4日（メール会議）
1. エプキンリ皮下注4mg、48mgの新規採用について
第8回　令和5年12月22日－令和6年1月4日（メール会議）
1. インスリン　アスパルトＢＳ注ソロスターＮＲの新規採用について
2.【糖】ノボラピッド注フレックスタッチ(3mL)の削除について　　他
第9回　令和6年2月27日
1. 新規採用／削除希望医薬品・後発医薬品への切替えについて

委員会メンバー　◎中川　理、○宇佐美順子、阿部欣也、山本政司、茶山公祐、今村博司、田中博子、三谷健二、山口容美、橋本和美、岸田容之、相澤聡子、小野祐志

委員会の目的　保険診療に必要な医薬品の選択及び情報の収集管理等、薬事全般にわたる業務の充実を図る。

今後の目標　薬事全般に関する次の事項を調査・研究・審議することにより、業務の充実および適正化を図る。
（1）医薬品の新規採用に関すること。
（2）採用医薬品の整理統合に関すること。
（3）医薬品に関する下記の情報提供に関すること。
イ．患者向けの情報
ロ．病院職員向けの情報
ハ．ＭＲの情報活動に関すること
（4）採用医薬品の管理・運用に関すること。
（5）麻薬および向精神薬の取扱いに関すること。
（6）血液製剤の管理・運用に関すること。
（7）委員会が特に必要と認めたこと。
（8）その他、運営会議より諮問されたこと。

※令和5年度採用品目数＝45品目、削除品目数＝44品目、後発医薬品切替え数＝28品目

■栄養管理委員会

開催回数　6回

議事内容
第1回　令和5年5月23日　1. 下部組織活動報告（栄養サポートチーム・嚥下訓練チーム）　2. 令和4年度食事調査実施報告　　他
第2回　令和5年7月25日　1. 下部組織活動報告（栄養サポートチーム）　2. 新規治療用食品採用申請について　　他
第3回　令和5年9月26日　1. 下部組織活動報告（栄養サポートチーム）　2. 経腸栄養剤の在庫管理について　　他
第4回　令和5年11月28日　1. 下部組織活動報告（栄養サポートチーム・嚥下訓練チーム）

	2. 下部消化管周術期食の新設について　他
	第5回　令和6年1月23日　1. 下部組織活動報告（栄養サポートチーム）
	2. 低出生体重児用ミルク「グローエール」の採用申請について　他
	第6回　令和6年3月26日　1. 下部組織活動報告（栄養サポートチーム・嚥下訓練チーム）
	2. 次期システムに合わせた栄養スクリーニング・評価方法について　他
委員会メンバー	◎岡内幸義、○藤田幸恵、来　真希子、大杉直人、井上文子、三谷智子、二宮智香子、金谷愛子
委員会の目的	病院食に関する業務の適正化と合理化を図り、円滑な運営を図る。 委員会は次の各号に掲げる事項について審議する。 1. 病院食についての調査研究に関すること。 2. 病院食業務の改善に関すること。 3. 病院食に関する施設及び備品の整備改善に関すること。 4. 病院食内容に関すること。（食事の献立、材料の選定、調理及び栄養価） 5. 院内食事箋規約に関すること。 6. 病院食実態調査に関すること。 7. 栄養指導に関すること。 8. その他委員会が必要と認めたもの。
今後の目標	・下部組織である、栄養サポートチーム、嚥下訓練チームの各活動状況及び提案を検討する。 ・栄養治療及び食事療法に対して医師からの提言に適切に対応できるように検討する。 ・食事調査を継続実施し、その結果から食事内容の問題点の改善を行う。 ・調理献立業務委託業者と意見交換を行い、食事内容の向上を円滑に実施する。 ・栄養全般に係わる課題に年度を通し計画的に取り組み、改善を図る。

■医療の質向上委員会

開催回数	1回
議事内容	第1回　令和6年3月22日（メール会議） 1. ＱＩフィードバックデータ令和5年度および令和4年度ＱＩプロジェクト結果報告について
委員会メンバー	◎今村博司、○木本正美、西田　勉、生島忠久、山内一浩、大川知之、井上文子、小野祐志、秋田瑞恵、佐々木啓充、豊田聡司、松永啓太、福田早苗、檜垣奈緒
委員会の目的	医療の質の向上を図る。
今後の目標	ＱＩプロジェクト（日本病院会主催）からのフィードバックデータをはじめ、各種の医療指標をもとに他病院との比較や当院の経年変化等の調査・分析を通じて、医療の質の向上活動に取り組む。

■患者サービス向上委員会

開催回数	10回
議事内容	第1回　令和5年5月 9日　1. 患者さんの声について
	2. 年間予定表について　他
	第2回　令和5年6月13日　1. 患者さんの声について

		2. 第1回接遇研修会について　　他
	第3回　令和5年7月11日	1. 患者さんの声について
		2. 第1回接遇研修会報告について　　他
	第4回　令和5年9月12日	1. 患者さんの声について
		2. 患者満足度調査のアンケート用紙について　　他
	第5回　令和5年10月10日	1. 患者さんの声について
		2. 第2回接遇研修会について　　他
	第6回　令和5年11月14日	1. 患者さんの声について
		2. 市立豊中病院運営計画　取組管理シートの中間報告について　　他
	第7回　令和5年12月12日	1. 患者さんの声について
		2. 第2回接遇研修会報告について　　他
	第8回　令和6年1月16日	1. 患者さんの声について
		2. 患者相談支援室相談内容について　　他
	第9回　令和6年2月13日	1. 患者さんの声について
		2. 患者満足度調査結果報告について　　他
	第10回　令和6年3月12日	1. 患者さんの声について
		2. 患者相談支援室相談内容について　　他
委員会メンバー	◎藤田幸恵、○吉田　晋、中井美穂、長岡由紀子、竹本志央、地下明日香、椎葉有樹、染谷　裕、中上紀子、阪本知明、青合晶平、得能仁志	
委員会の目的	市立豊中病院における患者サービスの向上	
今後の目標	・患者サービスの向上にむけて、患者さんの声から要望等を把握し、改修・改善に取り組む。 ・患者満足度調査を実施し、その調査結果から課題及び問題点を把握し、改善策を検討する。 ・接遇研修会の実施にあたり、感染対策を講じながら、全職種が参加できる内容・方法を検討する。	

■がん診療委員会

開催回数	5回	
議事内容	第1回　令和5年6月13日	1. 各委員会からの報告
		2. その他
	第2回　令和5年8月8日	同　上
	第3回　令和5年10月10日	1. 各委員会からの報告
		2. その他　　他
	第4回　令和5年12月12日	1. 各委員会からの報告
		2. がん相談支援センターからの報告　　他
	第5回　令和6年2月13日	同　上
委員会メンバー	◎今村博司、○小杉　智、西田　勉、辻江智子、山本健吾、足立史朗、足立加那、冨田尚裕、川瀬朋乃、二宮万理恵、柏木雄次郎、仲宗根拓也、久田真規子、二宮由紀恵、秦　真由美、荒木邦章、小池万里子、鍋島　智、宮本美和、秋本和之	
委員会の目的	がん診療の円滑な運営並びに計画、実施、評価および改善の具体的な取組みを行い、当院のがん診療の質向上を図る。	
今後の目標	がんゲノム医療、緩和ケア、がん薬物療法、放射線治療及びがん相談支援など、がん診療	

	にかかるさまざまな分野の調整・総括を行い、横断的課題に取り組むことにより、がん医療の質の向上を図る。

■治験審査委員会

開催回数	11回
部会メンバー	◎今村博司、○西田　勉、藤田幸恵、横江　勝、相澤聡子、大東幹彦、大澤亮太、吉川　寛、大津留智恵子、霜田　求、岡村素子 事務局：有澤陽子、記田めぐみ
委員会の目的	市立豊中病院において実施する治験について行うことの適否を審査することを目的とする。

令和5年度　治験審査委員会実施状況

治験審査委員会実施日		令和5年4月17日		令和5年5月1日		令和5年6月5日		令和5年7月3日		令和5年8月7日	
治験審査委員会審議結果		審議事項	審議結果	審議事項	審議結果	審議事項	審議結果	審議事項	審議結果	審議事項	審議結果
治験依頼者	小野薬品工業株式会社	治験継続の適否	承認	治験継続の適否	承認	治験継続の適否	承認	治験継続の適否	承認	治験継続の適否	承認
治験責任医師	外科　今村博司										
対象者	術後補助化学療法実施の胃がん患者										
治験薬	ONO-4538　第Ⅲ相試験										
治験期間	平成30年10月26日 ～ 令和5年10月31日										
治験依頼者	アッヴィ合同会社	治験継続の適否	承認	治験継続の適否	承認	治験継続の適否	承認	治験継続の適否	承認	治験継続の適否	承認
治験責任医師	消化器内科　西田　勉										
対象者	中等症から重症の活動性潰瘍性大腸炎患者 （長期継続投与試験）										
治験薬	ウパダシチニブ（ABT-494） 第Ⅲ相試験										
治験期間	令和2年1月10日 ～令和9年12月31日										
治験依頼者	日本臓器製薬株式会社										
治験責任医師	栗山幸治										
対象者	手根管症候群又は 指神経断裂患者										
治験薬	HANZ01　探索的治験										
治験期間	令和2年12月22日 ～令和5年4月30日										
治験依頼者	医師主導治験のため該当なし	治験継続の適否	承認			治験継続の適否	承認	治験継続の適否	承認	治験継続の適否	承認
治験責任医師	脳神経内科　横江　勝										
対象者	パーキンソン病										
治験薬	セマグルチド										
治験期間	令和5年1月10日 ～令和6年12月27日										

令和5年9月4日		令和5年10月2日		令和5年11月6日		令和5年12月4日		令和6年2月5日		令和6年3月4日		備考
審議事項	審議結果	審議事項	審議結果	審議事項	審議結果	審議事項	審議結果	審議事項	審議結果	審議事項	審議結果	
治験継続の適否	承認	治験継続の適否	承認	治験継続の適否	承認	治験継続の適否	承認	治験継続の適否	承認			令和5年 12月18日終了 実績　3例 契約　1例 追加契約　3例
治験継続の適否	承認	治験継続の適否	承認	治験継続の適否	承認	治験継続の適否	承認	治験継続の適否	承認	治験継続の適否	承認	
												令和5年 3月17日終了 実績 11例 契約　7例 追加契約　4例
				治験継続の適否	承認	治験継続の適否	承認					

■倫理委員会

開催回数　通常審査12回、緊急審査21回

【審査件数】　※新規案件のみ掲載

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通常審査	0	1	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	5
迅速審査	1	5	6	2	3	4	1	0	4	1	2	2	31
緊急審査	5	3	4	2	4	4	8	0	3	1	2	0	36

【通常審査】　※新規案件のみ掲載

審議件名	申請者	審査日
HR陽性HER２陰性進行転移乳癌における一次内分泌療法＋CDK4/6阻害薬後の二次、三次内分泌療法の治療戦略についての検討－多施設共同第Ⅱ相試験－（KBCSG－TR2220）	乳腺外科 赤木謙三	令和5年5月11日
悪性リンパ腫（中枢神経系原発リンパ腫）に対するR-MPV療法の保険適応外使用	脳神経外科 後藤　哲	令和5年8月15日
局所進行子宮頸がんに対する同時化学放射線療法（CCRT）におけるシスプラチンの保険適応外使用	産婦人科 池田佳代	令和5年10月17日
拡大新生児マススクリーニング検査	小児科 川西邦洋	令和5年11月22日
プラチナ製剤抵抗性もしくはプラチナ製剤不耐の再発卵巣癌に対するパクリタキセル単剤毎週投与とベバシズマブ隔週投与併用療法	産婦人科 池田佳代	令和5年11月28日

【迅速審査】　※新規案件のみ掲載

審議件名	申請者	審査日
乳癌術前BRCA検査症例の検討	乳腺外科 赤木謙三	令和5年4月26日
器質的疾患に伴うせん妄・精神運動興奮状態・易怒性に対するシクレスト舌下錠の保険適応外使用	精神科 森原剛史	令和5年5月23日
ロボット支援膵体尾部切除術	消化器外科 山下雅史	令和5年5月23日
MTX大量療法時のロイコボリン救援療法のロイコボリン不足によるアイソボリン代用	血液内科 政家寛明	令和5年5月23日
経皮的ステントグラフト内挿術（percutaneous endovascular aortic repair：PEVAR）における、腸骨-大腿動脈領域のアクセス血管性状の評価に関する研究	脳神経外科 後藤隆純	令和5年5月29日
当院におけるECIRS症例の後方視的検討	泌尿器科 鄭　則秀	令和5年5月29日
進行膵癌診断時の体重減少が予後に及ぼす影響：単施設後方視研究	消化器内科 西田　勉	令和5年6月7日
胸水中のヒアルロン酸およびその他穿刺液でのヒアルロン酸検査の保険外検査	呼吸器内科 森村　治	令和5年6月8日
ニューモシスチス　イロベチ　DNA PCR検査の保険外検査	呼吸器内科 森村　治	令和5年6月8日
寄生虫抗体スクリーニング検査の保険外検査	呼吸器内科 森村　治	令和5年6月8日

審議件名	申請者	審査日
アスペルギルス抗体検査の保険外検査	呼吸器内科 森村　治	令和5年6月8日
転移性前立腺癌に対する一次治療としての新規ホルモン剤の使用経験	泌尿器科 松下　慎	令和5年6月15日
進行再発胃癌に対する 1 次治療としてのICI＋化学療法の治療成績	消化器外科 川瀬朋乃	令和5年7月10日
自己免疫性溶血性貧血（AIHA）の診断のための補助検査（赤血球結合IgG定量検査等）	血液内科 政家寛明	令和5年7月28日
尿路上皮癌患者に対する免疫チェックポイント阻害薬治療時のプロバイオティクス製剤が治療効果にあたえる影響	泌尿器科 三宅　修	令和5年8月15日
腎細胞癌患者に対する免疫チェックポイント阻害薬治療時のプロバイオティクス製剤が治療効果にあたえる影響	泌尿器科 三宅　修	令和5年8月15日
中枢性尿崩症疑い患者に対する高張食塩水の保険適応外使用について	内分泌・代謝内科 岡内幸義	令和5年8月18日
去勢抵抗性前立腺癌患者に対するタキサン系抗癌剤の投与サイクルに関する検討	泌尿器科 佐藤元孝	令和5年9月12日
進行膵癌における診断から化学療法までの期間が予後に及ぼす影響	消化器内科 西田　勉	令和5年9月12日
S-1による胃癌術後補助化学療法患者に対する成分栄養剤（エレンタール）の有用性に関する第Ⅱ相臨床試験（OGSG1108）の追加観察研究【OGSG1108Follow】	消化器外科 柳本喜智	令和5年9月28日
早期子宮体癌における腹腔鏡手術	産婦人科 辻江智子	令和5年9月29日
EGFR陽性原発性肺癌患者の予後解析	呼吸器外科 小林　晶	令和5年10月18日
進行再発胃癌における3次治療以降でのニボルマブ使用に関する検討	消化器外科 川瀬朋乃	令和5年12月4日
75歳以上の高齢者膵癌に対する膵頭十二指腸切除術の適応についての検討	消化器外科 松下克則	令和5年12月15日
本邦におけるRhD陰性妊娠の周産期転帰と管理法の実態調査	産婦人科 辻江智子	令和5年12月15日
当院における胃癌周術期の栄養療法と運動療法の短期成績	消化器外科 川瀬朋乃	令和5年12月15日
豊能医療圏におけるがんゲノム医療とAYA世代支援の均てん化に向け、現状および課題を把握するためのアンケート調査研究	消化器内科 西田　勉	令和6年1月28日
急性期の穿通枝梗塞における症状の進行とその後の回復要因の検討	脳神経内科 小松由華	令和6年2月26日
膀胱浸潤を伴うS状結腸癌、直腸S状部癌に対する治療成績の検討	消化器外科 萩原清貴	令和6年2月26日
閉塞性大腸癌に対する術前大腸ステント留置後の全大腸内視鏡検査成功に関わる因子：単施設後方視検討	消化器内科 藤井祥史	令和6年3月28日

審議件名	申請者	審査日
慢性硬膜下血腫術後再発に関連する因子の検討	脳神経外科 西尾雅実	令和6年3月28日

【緊急審査】

審議件名	申請者	審査日
抗好中球抗体の保険適応外検査	小児科 茶山公祐	令和5年4月25日
脳病変に対する抗MOG抗体測定の保険適応外使用	脳神経内科 古谷祥吾	令和5年4月25日
十二指腸癌に対するSOX療法	消化器外科 川瀬朋乃	令和5年4月25日
脳病変に対する抗MOG抗体測定の保険適応外使用	脳神経内科 古谷祥吾	令和5年4月25日
脳病変に対する抗MOG抗体測定の保険適応外使用	脳神経内科 村田　尚	令和5年4月25日
脳病変に対するJCウイルスPCR検査の保険適応外使用	脳神経内科 村田　尚	令和5年5月2日
中枢性脱髄性疾患に対する抗MOG抗体測定の保険適応外使用	小児科 西本静香	令和5年5月2日
卵巣癌・卵管癌・腹膜癌に対するカルボプラチン脱感作療法	産婦人科 池田佳代	令和5年5月24日
抗好中球抗体の保険適応外検査	小児科 茶山公祐	令和5年6月2日
脳病変に対する抗MOG抗体測定の保険適応外使用	脳神経内科 古谷祥吾	令和5年6月2日
脳病変に対する抗MOG抗体測定の保険適応外使用	脳神経内科 山田雅彬	令和5年6月22日
MAG抗体測定の保険適応外使用	脳神経内科 小松由華	令和5年6月28日
脊髄病変に対する抗MOG抗体測定の保険適応外使用	脳神経内科 田中亮弘	令和5年7月3日
脳病変に対するJCウイルスPCR検査の保険適応外使用	脳神経内科 山田雅彬	令和5年7月13日
NICUにおけるMRSA検出患者に対するMRSA遺伝子検査（POT法）	感染対策室 鈴木徳洋	令和5年8月4日
原因不明の急性免疫性自律神経節障害に対する血清抗ganglionic AchR抗体測定の保険適応外使用	脳神経内科 村田　尚／ 小松由華	令和5年8月9日
悪性腹膜中皮腫に対するシスプラチン、ペメトレキセドの保険適応外使用	消化器内科 大杉直人	令和5年8月9日
抗MOG抗体陽性の急性散在性脳脊髄炎に対する血清中抗MOG抗体測定の保険適応外使用	小児科 西本静香	令和5年8月9日
脳病変に対する抗MOG抗体測定の保険適応外使用	脳神経内科 古谷祥吾	令和5年9月5日

審議件名	申請者	審査日
脳病変に対する抗MOG抗体測定の保険適応外使用	脳神経内科 古谷祥吾	令和5年9月5日
抗MOG抗体測定の保険適応外使用	脳神経内科 早野絵梨	令和5年9月5日
ミノサイクリンを用いたリンパ嚢胞焼灼術	放射線診断科 塚部明大	令和5年9月25日
傍腫瘍性神経症候群疑いに対する傍腫瘍抗体測定の保険適応外使用	脳神経内科 早野絵梨	令和5年10月18日
膵癌術後の門脈狭窄に対するステント留置	放射線診断科 塚部明大	令和5年10月24日
脳病変に対する抗MOG抗体測定の保険適応外使用	脳神経内科 小松由華	令和5年10月25日
多発脳病変に対する血清中抗MOG抗体測定の保険適応外使用	脳神経内科 早野絵梨	令和5年10月25日
脳病変に対する抗MOG抗体測定の保険適応外使用	脳神経内科 古谷祥吾	令和5年10月25日
側頭葉病変の症例に対する抗NMDA受容体抗体測定の保険適応外使用	脳神経内科 古谷祥吾	令和5年10月25日
側頭葉病変の症例に対する抗LGI1/CASPR2抗体測定の保険適応外使用	脳神経内科 古谷祥吾	令和5年10月25日
髄膜脳炎疑いの症例に対する抗NMDA受容体抗体測定の保険適応外使用	脳神経内科 小松由華	令和5年10月25日
十二指腸癌に対するFOLFIRIの保険外使用	消化器内科 河村浩輔	令和5年12月13日
脊髄病変に対する抗MOG抗体測定の保険適応外使用	脳神経内科 田中亮弘	令和5年12月18日
傍腫瘍性神経症候群疑いに対する傍腫瘍抗体測定の保険適応外使用	脳神経内科 山田雅彬	令和5年12月27日
小腸癌による消化管閉塞に対する消化管ステント留置の保険適応外使用	消化器内科 中松　大	令和6年1月31日
脳病変に対する抗MOG抗体測定の保険適応外使用	脳神経内科 古谷祥吾	令和6年2月6日
十二指腸乳頭部癌術後の門脈狭窄に対するステント留置	放射線診断科 塚部明大	令和6年2月14日

部会メンバー

◎今村博司、○西田　勉、藤田幸恵、宇佐美順子、相澤聡子、大東幹彦、大澤亮太、吉川　寛、大津留智恵子、霜田　求

オブザーバー：横江　勝（医学系研究事前審査部会長）

事務局：岡村素子、有澤陽子、記田めぐみ

委員会の目的

市立豊中病院における医療行為及び医学研究について、ヘルシンキ宣言に示された倫理規範を尊重し、厚生労働省・文部科学省・経済産業省が示す「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を踏まえて、倫理的観点からその妥当性を審議することを目的とする。また、保険適応外診療に関して、倫理的、科学的、社会的観点から実施の可否について審議することや、倫理的問題が存在し、より良い倫理的意思決定を模索する必要があると判断される事例や臨床倫理的課題について、審議することも目的とする。

■利益相反委員会

開催回数　3回

【通常審査】　※新規案件のみ掲載

審議件名	申請者	審査日
JROAD-DPCによる非動脈硬化性心筋梗塞の実態解明と二次調査研究	循環器内科 熊田全裕	令和5年5月1日
多施設共同臨床研究ネットワークを用いた神経疾患レジストリ構築による診療実態の把握（OCR-NEURO)	脳神経内科 横江　勝	令和5年5月1日
死後脳組織を用いた神経筋難病の病態解明	脳神経内科 横江　勝	令和5年5月1日
プラチナ製剤使用後進行・再発子宮体がんに対するレンバチニブ＋ペムブロリズマブ併用療法の安全性と有効性を検討する観察研究	産婦人科 辻江智子	令和5年5月1日
抗凝固薬服用者に対する胃内視鏡的粘膜下層剥離術後後出血のリスク評価と抗血栓薬内服者に対する消化器内視鏡診療ガイドライン追補版の妥当性評価：多施設共同観察研究	消化器内科 西田　勉	令和5年5月1日
下部消化管手術における筋膜閉鎖法についての前向き観察研究：（抗菌糸と非抗菌糸の比較）のデータを用いた腹壁瘢痕ヘルニア危険因子の検討	消化器外科 池永雅一	令和5年5月1日
進行・再発非小細胞肺がん患者に対するニボルマブ＋イピリムマブ±プラチナ併用化学療法またはペンブロリズマブ±プラチナ併用化学療法の有効性と安全性を評価する多施設共同後向き観察研究	呼吸器内科 森村　治	令和5年5月1日
潰瘍性大腸炎患者への5－アミノサリチル酸製剤による寛解維持療法の最適化に向けた患者と医師間におけるコミュニケーションギャップの探索	消化器内科 大杉直人	令和5年5月1日
局所進行切除不能膵癌を対象とした多施設共同レジストリ研究	消化器内科 松本健吾	令和5年5月1日
膵体尾部悪性腫瘍切除例における経胃的EUS-FNA後に生じる穿刺経路播種の頻度の検討	消化器内科 松本健吾	令和5年5月1日
未治療びまん性大細胞型B細胞リンパ腫患者に対するポラツズマブ　ベドチン＋R-CHP療法の有効性と安全性を検討する多機関共同前向き観察研究	血液内科 小杉　智	令和5年5月1日
StageⅣ大腸癌に対する外科手術の治療成績に関する後方視的検討	消化器外科 池永雅一	令和5年5月1日
放射線療法／化学放射線療法後に高度狭窄が残存する根治切除不可能な進行食道癌に対する自己拡張型金属ステント留置の安全性に関する多機関共同観察研究	消化器内科 山本政司	令和5年5月1日
大腸内視鏡的粘膜下層剥離術後の出血に対して保存的に経過観察することの有効性と安全性を検証するための多施設共同前向き試験（検証試験）	消化器内科 山本　政司	令和5年9月4日
代謝異常関連脂肪性肝疾患(MASLD)の臨床経過に対する多施設共同前向き観察研究	消化器内科 西田　勉	令和5年9月4日

審議件名	申請者	審査日
脂肪肝患者の臨床経過に対する多施設前向き観察研	消化器内科 西田　勉	令和5年9月4日
瘢痕上または近傍の腫瘍性病変に対する浸水下内視鏡的粘膜切除術（UEMR）の治療成績	消化器内科 山本政司	令和5年9月4日
10-20mmの大腸鋸歯状病変に対するコールドスネアポリペクトミーの有用性を検証する非盲検化ランダム化比較試験（CONCISE trial）	消化器内科 山本政司	令和5年9月4日
胃上部進行癌に対する腹腔鏡下／ロボット支援噴門側胃切除術（D２郭清）の安全性・有効性を検討する前向き介入研究（第Ⅱ相臨床試験）	消化器外科 今村博司	令和5年9月4日
進行再発大腸癌の希少フラクションにおけるリアルワールドデータ作成のための前向き多機関共同研究	消化器外科 池永雅一	令和5年9月4日
炎症性腸疾患患者における不安症状・抑うつ症状とその背景因子の探索	消化器内科 大杉直人	令和5年9月4日
JCOG1907A2：cT1-4aNO-3胃癌におけるロボット支援下胃切除術と腹腔鏡下胃切除術の術後PROの比較に関する観察研究	消化器外科 柳本喜智	令和5年9月4日
子宮頸癌ⅣB期（FIGO2018）における治療別予後の検証	産婦人科 辻江智子	令和5年9月4日
高齢者婦人科がん患者に対する高齢者機能評価、フレイル評価を用いた前向き実態調査	産婦人科 辻江智子	令和5年9月4日
子宮体癌　術後再発中・高リスク群に対する術後化学療法における、PSMを用いたTEC療法とTC療法の予後比較試験	産婦人科 辻江智子	令和5年9月4日
超高齢者に対する定位放射線治療の治療成績に関する遡及的多機関共同研究	放射線治療科 足立加那	令和5年9月4日
局所進行胃癌における術後補助化学療法に対する周術期化学療法の優越性を検証することを目的としたランダム化比較第Ⅲ相試験	消化器外科 柳本喜智	令和6年1月10日
電子カルテ情報活用型多施設症例データベースを利用した糖尿病に関する臨床情報収集に関する研究 （略称：診療録直結型全国糖尿病データベース事業、Japan Diabetes comprehensive database project based on an Advanced electronic Medical record System 、J－DREAMS ）	内分泌代謝内科 岡内幸義	令和6年1月10日
漿膜下浸潤及び漿膜浸潤を伴う進行胃癌を対象とした大網切除に対する大網温存の非劣性を検証するランダム化比較第Ⅲ相試験（JCOG1711）	消化器外科 柳本喜智	令和6年1月10日
多発リンパ節転移を伴う早期胃癌（pT1N2-3）に対する術後補助化学療法の有用性を評価する多施設共同後ろ向き観察研究	消化器外科 柳本喜智	令和6年1月10日
急性膵炎、慢性膵炎、自己免疫性膵炎の全国調査2021（二次調査）	消化器内科 西田　勉	令和6年1月10日

審議件名	申請者	審査日
視神経脊髄炎患者の治療指標の開発研究	脳神経内科 横江　勝	令和6年1月10日
炎症性腸疾患患者における5－アミノサリチル酸塩不耐症の臨床的特徴と薬剤の特徴	消化器内科 大杉直人	令和6年1月10日
消化管粘膜下腫瘍診断AI開発に向けた診療データ収集・検証　－前向きコホート研究－	消化器内科 西田　勉	令和6年1月10日
未治療進行・再発非扁平上皮非小細胞肺癌に対するプラチナ製剤＋ペメトレキセド＋ペムブロリズマブの効果に関わる因子についての多施設共同後向き研究	呼吸器内科 森村　治	令和6年1月10日
虚血性心筋症の予後に関する多施設共同前向き観察研究（REVEIL-ICM　Registry）	循環器内科 中川　理	令和6年1月10日
がん対策進捗管理のための患者体験調査	消化器外科 今村博司	令和6年1月10日
急性冠症候群患者に対する社会医療システムと個別化治療戦略の継続的な最適化を目的とした多施設前向き長期的観察研究：REVEIL－ACS registry	循環器内科 中川　理	令和6年1月10日
抗PD-1抗体治療後のラムシルマブ＋ドセタキセル併用療法の抗腫瘍効果を血中抗PD-1抗体結合T細胞プロファイリングを用いて評価する多施設共同前向き観察研究	呼吸器内科 中坪彩恵子	令和6年1月10日
Cowden症候群／PTEN Hamartoma Tumor Syndrome（PHTS）前向き登録コホート研究	がん診療部 冨田尚裕	令和6年1月10日
総胆管結石を有する未処置乳頭かつ維持血液透析患者に対する十二指腸乳頭処置（EST/EPBD）の偶発症頻度の検討（多施設共同前向き観察研究）	消化器内科 松本健吾	令和6年1月10日
EN-COURAGE study：70歳以上HER2陽性の治癒切除不能な進行・再発胃がん患者を対象としたトラスツズマブ　デルクステカンの多機関共同観察研究	消化器外科 川瀬朋乃	令和6年1月10日
末梢動脈疾患の治療成績調査ならびに余剰組織等を用いた病因・病態解明に関する臨床研究	心臓血管外科 藤村博信	令和6年1月10日
胃底腺型胃癌におけるリンパ節転移の危険因子に関する多機関共同後ろ向き研究	消化器内科 山本政司	令和6年1月10日
難治性逆流性食道炎患者に対する内視鏡的胃食道逆流防止術の手技の適格化と適応に関する観察研究	消化器内科 山本政司	令和6年1月10日
急性下部消化管出血患者のクリニカルアウトカムの実態とその関連因子の解明：多施設共同後ろ向き研究	消化器内科 西田　勉	令和6年1月10日
AYA世代女性がん患者で、がん治療前に妊孕性温存療法に関して情報提供を受けた患者における卵巣機能評価に関する前向きコホート研究	血液内科 小杉　智	令和6年1月10日

委員会メンバー　◎今村博司、○西田　勉、藤田幸恵、宇佐美順子、相澤聡子、大東幹彦、大澤亮太、吉川　寛、大津留智恵子、霜田　求
事務局：岡村素子、有澤陽子、記田めぐみ

委員会の目的　研究を実施する職員の利益相反について透明性を適正に管理し、研究の公平性および信頼性を確保するため適切な措置等の検討を行う。

■臨床研修運営委員会

開催回数	8回	
議事内容	第1回　令和5年4月24日	1. 設置要綱の改訂 2. 委員メンバー、研修医代表　　他
	第2回　令和5年6月26日	1. 令和6年度の研修医募集定員に係わる調査票の結果について 2. 一般外来研修の進捗状況　　他
	第3回　令和5年7月24日	1. 令和5年度採用臨床研修医選考試験について 2. 令和6年度採用初期臨床研修医向け夏期病院見学会・説明会について　　他
	第4回　令和5年9月11日	1. 令和6年度採用初期臨床研修医向け夏期病院見学会について 2. 令和6年度採用(医科) 臨床研修医選考試験について　　他
	第5回　令和5年10月23日	1. 令和6年度採用（医科）臨床研修医マッチング結果について 2. 令和6年度採用（歯科）臨床研修医マッチング結果について　　他
	第6回　令和5年12月25日	1. 来年度採用予定研修医（大阪大学協力型コースを含む） 2. 研修進捗状況、 指導医からの評価と研修医からの逆評価　　他
	第7回　令和6年1月22日	1. 来年度ローテーション 2. 1年次オリエンテーション4/1(月)～4/5(金)　　他
	第8回　令和6年3月18日	1. 令和4年度採用臨床研修医について （修了要件既達の確認、次年度の進路　　他） 2. 令和6年度採用研修医について （国家試験の結果報告　　他）
委員会メンバー	◎岩澤　卓、○西田　勉、中川　理、森原剛史、徳永康行、辻江智子、高田幸治、池永雅一、今井智章、楠　康生、富山幸穂、河合莉央、斉藤百恵、大澤亮太、齊藤健文、酒井隆浩、直井雄輝	
委員会の目的	市立豊中病院の卒後医師臨床研修の円滑な運営を図る。	
今後の目標	・臨床研修について適切な情報収集と評価を行い、検証を重ねて優秀な医師を育てる。 ・2年間の研修修了後も病院の診療に必要な後期研修医を確保する。	

■医療教育委員会

開催回数	2回	
議事内容	第1回　令和5年7月6日	1. 令和5年度医療教育委員会行事について 2. 令和5年度図書費・文献取り寄せ費について　　他
	第2回　令和5年12月6日	1. 臨床倫理講演会について 2. 医療教育委員会発表会について　　他
委員会メンバー	◎岩澤　卓、○藤田幸恵、岡内幸義、横江　勝、金城智江、奈良平明子、市村叔照、竹中智子	
委員会の目的	院内職員に対し、医療についての知識の向上を図る。	
今後の目標	院内の研修計画の作成及び実績の把握。 医療についての知識向上のために取り組んでいく。	

■新型コロナウイルス感染症対策本部会議

開催回数	3回
議事内容	1. 入院・外来患者数について 2. 診療体制について　　他
委員会メンバー	◎直川俊彦、吉川秀樹、岩橋博見、藤田幸恵、中川　理、岩澤　卓、今村博司、西尾雅実、西田　勉、宇佐美順子、阿部欣也、清水潤三、小杉　智、竹治正展、生島忠久、山内一浩、井上文子、大川知之、岩崎守弘、辻江智子、茶山公祐、徳永康行、高田幸治、豊田聡司、中上紀子、越智比奈子、木本正美、大東幹彦、大澤亮太、松永啓太、鍋島　智、吉良　章、鈴木徳洋、赤瀬　望、秋田瑞恵、岡村素子、檜垣奈緒
委員会の目的	新型コロナウイルス感染症の感染者・患者に対して必要な医療の提供体制を確保するとともに、新たな感染者や患者の発生を防ぎ、感染拡大を防止する。5類移行に伴い、令和5年6月5日に廃止のうえ、新型コロナウイルス感染症対策会議を発足。

■新型コロナウイルス感染症対策会議

開催回数	11回　（うちメール会議9回）
議事内容	1. 入院・外来患者数について 2. 診療体制について　　他
委員会メンバー	◎直川俊彦、吉川秀樹、岩橋博見、藤田幸恵、中川　理、岩澤　卓、今村博司、西尾雅実、西田　勉、宇佐美順子、阿部欣也、清水潤三、小杉　智、竹治正展、生島忠久、山内一浩、井上文子、大川知之、岩崎守弘、辻江智子、茶山公祐、徳永康行、高田幸治、豊田聡司、中上紀子、越智比奈子、木本正美、大東幹彦、大澤亮太、松永啓太、鍋島　智、吉良　章、鈴木徳洋、赤瀬　望、秋田瑞恵、岡村素子、檜垣奈緒
委員会の目的	新型コロナウイルス感染症の感染者・患者に対して必要な医療の提供体制を確保するとともに、新たな感染者や患者の発生を防ぎ、感染拡大を防止する。通常の医療提供体制への移行期間終了に伴い、令和6年3月31日に廃止。

■医師の働き方改革推進会議

開催回数	17回		
議事内容	第1回	令和5年4月13日	1. 設置要綱の改正について 2. 令和5年度医師の働き方改革推進会議委員について　　他
	第2回	令和5年4月27日	1. 働き方改革に関する研修（案）について 2. 医師労働時間短縮計画に関する三役ヒアリングの実施について　　他
	第3回	令和5年5月25日	1. 勤怠管理システムの状況について 2. 医療機関勤務環境評価センターからの指摘事項について【評価受審】　　他
	第4回	令和5年6月8日	1. 勤怠管理システムの状況について 2. 労働研修（案）の修正について　　他
	第5回	令和5年7月13日	1. 勤怠管理システムの状況について 2. 医師の働き方改革スケジュールの進捗状況について　　他
	第6回	令和5年8月24日	1. 勤怠管理システムの状況について 2. 医師の働き方改革スケジュールの進捗状況について
	第7回	令和5年9月14日	同　上
	第8回	令和5年10月12日	1. 勤怠管理システムの状況について 2. 医師の働き方改革スケジュールの進捗状況について　　他

	第9回　令和5年10月26日	1. 医師の働き方改革スケジュールの進捗状況について 2. 長時間労働に関するアンケートの検討について　他
	第10回　令和5年11月9日	1. 勤怠管理システムの状況について 2. 医師の働き方改革スケジュールの進捗状況について　他
	第11回　令和5年12月7日	同　上
	第12回　令和6年1月11日	同　上
	第13回　令和6年1月25日	1. 医師の働き方改革スケジュールの進捗状況について 2. 医師労働時間短縮計画の更新について　他
	第14回　令和6年2月8日	1. 勤怠管理システムの状況について 2. 追加的健康確保措置の実施体制について　他
	第15回　令和6年2月22日	1. 医師の働き方改革スケジュールの進捗状況について 2. 時間外及び休日労働に関する協定書（36協定）について 他
	第16回　令和6年3月14日	1. 勤怠管理システムの状況について 2. 医師の働き方改革スケジュールの進捗状況について　他
	第17回　令和6年3月28日	1. 医療法第25条第1項に基づく立入検査について 2. 次年度各医師に適用する水準に関する照会について
委員会メンバー	◎直川俊彦、吉川秀樹、岩橋博見、中川　理、岩澤　卓、今村博司、藤田幸恵、西尾雅実、西田　勉、大東幹彦、秋田瑞恵、大澤亮太	
委員会の目的	市立豊中病院は、医師の働き方に関して、労働時間への意識をいっそう高めるとともに、労働時間の短縮に向け、当院内での取組みを着実に進めるため、「医師の働き方改革推進会議」を設置する。	
今後の目標	医師の労働時間の短縮に向け、医師労働時間短縮計画の推進及びその他医師の働き方改革に関する審議を行う。	

■患者サポートセンター整備検討委員会

開催回数	10回	
議事内容	第1回　令和5年5月11日	1. 現状の課題について 2. 今後の計画について　他
	第2回　令和5年6月1日	1. 患者支援室での持参薬鑑別について 2. 食物禁忌確認書について　他
	第3回　令和5年7月6日	1. 患者の利便性向上について 2. 入院生活案内動画について　他
	第4回　令和5年9月7日	1. 情報用紙について 2. 患者サポートセンター拡張計画について　他
	第5回　令和5年10月5日	1. アクションプランの進捗について 2. 入院前支援における医師の指示について　他
	第6回　令和5年11月2日	1. 手術を受ける患者用パンフレットについて 2. 入院前支援予約について　他
	第7回　令和5年12月7日	1. 患者基本情報の入力手順について 2. 食物禁忌の聞き取りについて　他
	第8回　令和6年1月18日	1. 入院時問診票について 2. 患者支援室拡大計画について　他
	第9回　令和6年2月1日	1. 手術を受ける患者用パンフレットについて 2. 入院前医師指示書について　他

	第10回　令和6年3月7日　　1. 患者支援室移転案について 2. 入院前医師指示書について　　他
委員会メンバー	◎中上紀子、○松永啓太、児玉雅美、相澤聡子、井上文子、西尾雅実、岡内幸義、角山伊知郎、西川晃代、東山美鈴、德田明美、大澤亮太、曽根光子
委員会の目的	外来通院時から入院・転退院、社会復帰を見通した患者対応フローを整備し、医師、看護師をはじめとした多職種体制によるサポート体制を構築することについての検討を目的とする。
今後の目標	以下に向けた取組み ・地域包括ケアシステムの進展と地域中核医療機関としての病院役割強化、紹介率、逆紹介率向上 ・仕事の進め方の見直しを通じた円滑な病床管理、タスクシフトによる業務分担化、効率性と安全性の向上、診療報酬増収 ・入院前から、退院後を見通したプランのもとで、切れめない一貫したサービス提供を受けられる、検査予約・入院の手続き・医療に関する相談などをワンストップで受けられる、満足度の向上

■病院運営計画推進委員会

開催回数	1回
議事内容	第1回　令和5年7月14日 1. 市立豊中病院運営計画「実施計画」について－令和4年度の実施状況及び取組総括－ 2. 令和4年度第3回 病院運営審議会 審議等の概要 3. 令和5年度第1回病院運営審議会の提出案件について
委員会メンバー	◎大東幹彦、○中川　理、○岩澤　卓、○今村博司、西尾雅実、西田　勉、生島忠久、山内一浩、大川知之、井上文子、松永啓太、鍋島　智、吉良　章、中上紀子、宇佐美順子、越智比奈子、大澤亮太、秋田瑞恵、豊田聡司、南　岳彦、岡村素子、檜垣奈緒、山口由美子
委員会の目的	市立豊中病院運営計画の推進を図るため、必要な事項を審議する。
今後の目標	市立豊中病院運営計画の各重点項目の目標達成に向けた各部門等の取組みを支援する。

■がん診療連携拠点病院委員会

開催回数	3回
議事内容	第1回　令和5年6月29日　　1. 組織・運営について 2. 地域がん診療連携拠点病院にかかる取組み　　他 第2回　令和5年10月4日　　1. 地域がん診療連携拠点病院にかかる取組み 2. 今後のスケジュールについて　　他 第3回　令和6年2月27日　　1. 令和5年度地域がん診療連携拠点病院 現況報告について 2. 地域がん診療連携拠点病院にかかる取組み　　他
委員会メンバー	◎今村博司、○西田　勉、岩橋博見、小杉　智、二宮万理恵、茶山公祐、三宅　修、三谷健二、池永雅一、中田早紀、足立加那、足立史朗、今井智章、高田幸治、川瀬朋乃、冨田尚裕、柏木雄次郎、生島忠久、大川知之、宇佐美順子、越智比奈子、二宮由紀恵、中上紀子、大東幹彦、大澤亮太、吉良　章、荒木邦章、松永啓太、豊田聡司、鍋島　智、秋本和之、仲谷有里
委員会の目的	地域がん診療連携拠点病院事業の円滑な運営、並びに継続的な要件維持に向けた具体的な取組みを行うにあたり、必要な事項を審議する。
今後の目標	・自院の診療機能や診療実績について把握・分析・評価を行い、がん医療の質の向上を行う。

・圏域内の医療機関との役割・機能に応じた連携協力体制の一層の強化や「豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会」活動により、豊能二次医療圏のがん医療水準の向上を図る。

■地域医療支援病院委員会

開催回数	6回
議事内容	第1回　令和5年5月26日 1. 市立豊中病院地域医療支援病院委員会及び地域研修委員会の設置要綱について 2. 令和4年度の紹介・逆紹介率等の状況について　他 第2回　令和5年7月28日 1. 令和5年度の紹介・逆紹介率等の状況について 2. 今年度の地域医療従事者への研修予定について　他 第3回　令和5年9月22日 1. 令和5年度の紹介・逆紹介率等の状況について　他 第4回　令和5年11月24日 1. 令和5年度の紹介・逆紹介率等の状況について 2. 紹介患者報告数増加に向けて 第5回　令和6年1月26日 1. 令和5年度の紹介・逆紹介率等の状況について・紹介お断り件数について 2. 当日緊急受診受入れについて 第6回　令和6年3月10日 1. 令和5年度の紹介・逆紹介率等の状況について 2. 紹介元への返書について
委員会メンバー	◎中川　理、○小杉　智、福井浩司、栗山幸治、岡内幸義、東山美鈴、徳田明美、角山伊知郎、大澤亮太、中上紀子、松永啓太、長谷部ひとみ、溝渕智也
委員会の目的	医療法第4条の規定に基づく地域医療支援病院の承認を受け、当院医療機能について必要なことを評価・検証し、継続的な要件維持に向けた具体的な取組みを行う。
今後の目標	地域医療支援病院の承認要件の維持に関わる案件を協議、調整するとともに、紹介・逆紹介等の地域連携に関わる業務の改善・向上について検討する。

■診療情報管理委員会

開催回数	6回
議事内容	第1回　令和5年5月17日 1. 診療情報管理委員会設置要綱について 2. 委員会活動計画について　他 第2回　令和5年6月21日 1. 医師の入院時診察記事に対する監査方法の見直しについて 2. 退院時要約作成率報告　他 第3回　令和5年7月19日 1. 医師の入院時診察記事に対する監査方法の見直しについて 2. 退院時要約に対する質的監査について　他 第4回　令和5年10月18日 1. 当院における医療の質の向上を目的とした動画の取扱いに係る要綱、マニュアルの改訂について 2. 検査報告書の取扱いに係る診療記録取扱いマニュアルの改訂について　他 第5回　令和5年11月15日

	1. 市立豊中病院診療情報管理要綱の一部改正について 2. 退院時要約に対する質的監査について　　他 第6回　令和6年1月17日 1. 令和5年度第1回診療記録開示検討委員会からの報告 2. 令和5年度委員会の活動報告について　　他
委員会メンバー	◎岩橋博見、○岩澤　卓、吉田　晋、高橋弘毅、村田　尚、西川晃代、山内一浩、金谷吉崇、大畠香代子、藤川知弘、吉良　章、福田民江、荒木邦章、赤埴理沙
委員会の目的	診療録及び診療情報を適正に管理し、診療情報管理業務の円滑な運営を図る。
今後の目標	精度の高い診療情報の整備ならびに情報提供依頼に即応できる管理体制の構築に努める。管理体制の構築にあたっては、診療記録の質の向上を図り、職員に対する意識づけや管理方法の改善等を継続して実施していく。

■周産期センター会議

開催回数	1回
議事内容	第1回　令和5年8月14日 1. 令和4年度の3階南病棟の統計報告、産科の実績報告について 2. 令和4年度のNICU、GCUの統計報告について　　他
委員会メンバー	◎辻江智子、○徳永康行、茶山公祐、吉川真紀子、髙橋邦彦、川西邦洋、西本静香、吉田　晋、池田佳代、高橋良子、田中博子、伊東　優、石田享相、加藤　恵、斉藤百恵、濱田紀子、掛布美樹、藤川知弘、石原綾子
委員会の目的	周産期センターの円滑な運営を行うにあたり必要な事項を審議する。
今後の目標	安定的に地域の周産期医療体制を維持するために、引き続き産婦人科医、小児科医の確保に努める。地域の患者や医療機関から選んでもらえる周産期センターとなるため、ホスピタリティの充実を図る。

■脳卒中センター会議

開催回数	3回
議事内容	第1回　令和5年6月5日　1. 救急搬送状況 2. 脳卒中入院状況　　他 第2回　令和5年10月2日　1. 救急搬送状況 2. SCU病床稼動状況　　他 第3回　令和6年2月5日　1. 救急搬送状況 2. 転院状況　　他
会議メンバー	◎西尾雅実、○杉浦由理、宮野英人、福田由美、澤地未来、中川雅文、向井裕香、山中賀代、小川　綾、松田裕子、野端万里、青合晶平、石原綾子
会議の目的	脳卒中センターの円滑な運用を目的とする。
今後の目標	脳卒中センターの正式な発足によりさらなる発展をめざす。

■心臓病センター会議

開催回数	4回
議事内容	第1回　令和5年6月1日 1. PCI、ペースメーカ植え込み件数について 2.「心臓病センター」の安定した運営について　　他 第2回　令和5年10月5日 1. 心臓リハビリテーション実施状況について

2. PCIクリニカルパス見直し、血管造影室装置更新について　　他

第3回　令和6年1月4日

1. 心不全療養指導士による看護師外来継続について
2. 心不全チーム構想について　　他

第4回　令和6年2月1日

1. 令和5年のPCI・ペースメーカ件数について
2. 院内組織として発足する当センターの目標　　他

委員会メンバー　◎中川　理、○熊田全裕、○藤村博信、髙橋邦彦、山口　望、酒井世志子、峰松大造、小泉良介、齊藤直輝、竹本志央、金谷愛子、中井康平、長谷部ひとみ、中川雅文、山台亮太

委員会の目的　心臓疾患診療の質にかかる指標の調査・分析と質の向上

今後の目標

1. 病院直轄の5センターのひとつとして更なる地域医療への貢献や収益増加を目標としていく。
2. PCIやペースメーカ件数の増加、看護師外来の拡充、職員の教育等を効果的に行えるよう新しい心臓病センターとして活動を広げていくことを目標とする。

■消化器センター会議

開催回数　6回

議事内容

第1回　令和5年5月23日

1. 設置要綱及びメンバーについて
2. 消化器センターアンケート回答案について　　他

第2回　令和5年7月4日

1. 令和5年度消化器センターにおける患者数・収入・診療単価について
2. 消化器センターアンケートについて　　他

第3回　令和5年9月5日

1. 稼動額による報告及び DPC 分析ツールを用いた消化器センターにおける傾向と対策について
2. 定義副傷病の分析結果による課題と対策について　　他

第4回　令和5年11月7日

1. 稼動額による報告及び DPC 分析ツールを用いた消化器センターにおける傾向と対策について
2. 定義副傷病の分析結果による対策の効果について　　他

第5回　令和6年2月6日

1. 消化器内科の入外単価増加について
2. 診療情報提供書到着後の断り件数、理由について　　他

第6回　令和6年3月5日

1. 令和5年度消化器センターにおける患者数・収入・診療単価について

委員会メンバー　◎今村博司、○西田　勉、福井浩司、清水潤三、池永雅一、山本政司、徳田明美、秋田瑞恵、松永啓太、佐々木崇臣、染谷　裕、森田晴代、二宮智香子、尾﨑祐紀

委員会の目的　市立豊中病院消化器センターの適正な運営を図る。
（消化器センターの利用及びその適正な運営方法について審議する。）

今後の目標

・消化器センターの周辺医療機関への広報の強化
・紹介から受診・治療までの日数の短縮
・がん患者の場合、入院までの日数、治療開始（内視鏡、化学療法）までの日数短縮
・診療単価、新患数のアップ
・逆紹介率の向上

・地域医師や患者満足度の向上
・消化器センターの医師の働き方の改善

■広報委員会

開催回数	4回（うち1回メール会議）
議事内容	第1回　令和5年6月26日　1. 病院だよりについて 2. 診療のご案内について　他 第2回　令和5年10月6日　1. 病院だよりについて 2. ホームページの改修について　他 第3回　令和5年12月6日（メール会議） 1. ホームページ案へのご意見募集 第4回　令和6年2月28日　1. 病院ホームページのリニューアルについて 2. 病院だよりについて　他
委員会メンバー	◎岩橋博見、○秋田瑞恵、○栗山幸治、楠　康生、大畠香代子、田中知之、久保悦子、得能仁志、山口由美子
委員会の目的	市民などに病院事業の広報を行っていくため、ホームページ及び広報活動に関することを広報委員会で審議する。
今後の目標	ホームページの改修

■保険委員会

開催回数	6回
議事内容	第1回　令和5年6月20日 1. 令和4年2月、3月減点理由別結果等について 2. 市立豊中病院運営計画　実施計画について　他 第2回　令和5年7月26日 1. 令和4年4月、5月減点理由別結果等について 2. 病状詳記の検討について　他 第3回　令和5年10月11日 1. 施設基準のモニタリングについて 2. 病状詳記作成基準引き上げに伴う減点率（対前年度比モニタリング）について　他 第4回　令和5年11月29日 1. 施設基準のモニタリングについて 2. 診療科部長への査定に係る再審査のフィードバックについて 第5回　令和6年1月31日 1. 査定に係る再審査のフィードバックについて 2. 令和6年度診療報酬改定について　他 第6回　令和6年3月28日 1. 施設基準のモニタリングについて 2. 令和5年4月以降5,000点以上被減点再審査請求状況　他
委員会メンバー	◎今村博司、○小杉　智、越智比奈子、藤村博信、吉川真紀子、水野直子、塚部明大、今井智章、福島景子、金谷吉崇、橋本和美、尾崎祐紀、（株）ソラスト：総括1名
委員会の目的	健康保険法を遵守し、適切な保険診療を行うとともに、保険点数に関する疑義を検討し、これらの周知を図る。
今後の目標	院内各職種の連携を密にし、診療報酬の請求漏れやレセプトの減点・返戻が生じないよう精度向上に努める。

■ＤＰＣ委員会

開催回数	4回
議事内容	第1回　令和5年6月27日　1. DPC通信の発行について 2. 適切なコーディングについて　他 第2回　令和5年9月7日　1. DPC業務フロー図 2. DPC通信の発行について　他 第3回　令和5年10月27日　1. DPCワーキングからの報告について 2. DPC通信の発行について　他 第4回　令和5年12月22日　1. DPC制度理解のための啓発活動について 2. DPCコーディングに係る病名確認について　他
委員会メンバー	◎今村博司○小杉　智、熊田全裕、横江　勝、柳本喜智、水野直子、越智比奈子、桑田直樹、齊藤健文、福田民江、佐々木崇臣、藤川知弘、橋本和美、尾崎祐紀
委員会の目的	適切な病名コーディングおよび正確なデータ提出に努める。また、制度設計の過渡期であるDPC/PDPS制度に対して、適宜各種関連データ等を用いた分析・検証を行う。
今後の目標	・「DPC導入の影響評価に係る調査」に対して遅延なく正確なデータを提出する。 ・DPC/PDPS傷病名コーディングテキストに沿ってコーディングの精度を向上させる。 ・DPCデータで分析・活用することで、適正な在院日数や、収益の確保に努める。 ・DPC提出データの精度向上におけるチェック体制の効率化を行う。

■大規模災害対策委員会

開催回数	6回
議事内容	第1回　令和5年5月12日　1. 委員紹介 2. 今年度のスケジュールについて　他 第2回　令和5年7月14日　1. 令和5年度　大規模災害対策訓練及び事前勉強会について 2. 各部門の解決すべきリストについて 第3回　令和5年9月8日　1. 訓練実施に向けて 2. 訓練時に使用する書類について　他 第4回　令和5年10月13日　1. 訓練実施に向けた最終確認 2. 訓練時に使用する書類について　他 第5回　令和6年1月12日　1. 訓練アンケートの結果報告 2. その他 第6回　令和6年3月8日　1. 令和5年度の振り返りについて　他 2. その他
委員会メンバー	◎中川　理、○竹治正展、荻原清貴、髙橋邦彦、高橋弘毅、小林正直、市村叔照、寺元加奈、小泉良介、井上文子、石田志穂、吉良　章、山中賀代、松田裕子、小川　綾、森田晴代、梁　昌義、得能仁志、阪本知明、山浦道照
委員会の目的	大規模災害や大事故など突然の有事に迅速かつ適切に対応できる体制の整備と職員の意識や能力の向上を図ることを目的とする。
今後の目標	事業継続計画（BCP）についても、災害訓練の振り返りを通して改定を行う。
訓練前の事前勉強会	令和5年10月16日・地域中核病院としての大規模災害に対する備えと訓練のあり方 参加者：医師19名、看護師61名、医療技術7名、事務・技術職員11名 令和5年10月18日・委託業者向け大規模災害対応（概要） 参加者：委託業者7名
大規模災害対策訓練	令和5年10月21日 参加者：医師21名、看護師116名、医療技術25名、事務・技術職員30名、委託業者21名

■養育支援委員会

開催回数	10回
議事内容	第1回　令和5年5月7日　1. 養育支援に係る報告 2. 養育支援に係る関連部門の連携について　他 第2回　令和5年6月6日　同　上 第3回　令和5年7月4日　1. 養育支援に係る報告 2. 養育支援体制加算に係る職員研修について　他 第4回　令和5年9月5日　1. 養育支援に係る報告 2. 養育支援に係る連携窓口について　他 第5回　令和5年10月3日　1. 養育支援に係る報告 2. その他 第6回　令和5年11月6日　同　上 第7回　令和5年12月5日　1. 養育支援に係る報告 2. 養育支援に係る連携窓口について　他 第8回　令和6年1月9日　1. 養育支援に係る報告 2. 児童虐待に係るチェック体制等について　他 第9回　令和6年2月6日　1. 養育支援に係る報告 2. 養育支援体制加算に係る職員研修について　他 第10回　令和6年3月6日　1. 養育支援に係る報告 2. 養育支援に係る連携窓口について　他
委員会メンバー	◎茶山公祐、○徳永康行、辻江智子、森原剛史、岡野祐子、掛布美樹、濵田紀子、堀田和佐、森脇弘子、中川雅文、得能仁志、濱本香織、山中仁美、平野正美、谷口栄子
委員会の目的	児童の基本的人権の尊重を基本に、不適切な養育等が疑われる児童の早期発見並びに対応策の検討を行う。
今後の目標	当院における養育支援として、不適切な養育の予防及び早期発見並びに対応策の検討を引き続き行っていく。

■クリニカルパス委員会

開催回数	5回
議事内容	第1回　令和5年5月22日 1. クリニカルパス委員会設置要綱について 2. 令和5年度の取組みについて　他 第2回　令和5年7月24日 1. クリニカルパス申請書改定案について 2. クリニカルパス修正・新規申請報告について　他 第3回　令和5年10月2日 1. クリニカルパス申請書改定案について 2. クリニカルパス統計報告について　他 第4回　令和5年12月21日 1. クリニカルパス改訂について 2. クリニカルパス学術学会の報告について　他 第5回　令和6年3月25日 1. 年間クリニカルパス修正・新規申請報告について 2. クリニカルパス改訂報告について　他

活動実績
・クリニカルパス委員でクリニカルパスの新規申請件数15件、修正申請件数105件の審査を実施し、公開した。
・消化器外科パスについて、入院予定入力時に入力した食事や患者支援室で事前に入力した食事禁忌項目等が反映するために、食事オーダ箇所を変更した。パスの修正と変更にあたり関係各所へ説明と調整を行った。

委員会メンバー
◎今村博司、○山中賀代、松下　慎、福島直樹、三輪真理子、二宮智香子、山田章子、福田　静、友岡志乃、宮野英人、井上文子、尾﨑祐紀、徳野悦子

委員会の目的
市立豊中病院におけるクリニカルパス作成及び運用の円滑な推進を図る。

今後の目標
次期システム更新時のクリニカルパス更新の方向性を検討する。委員によるクリニカルパス新規、修正申請の審査を継続する。

クリニカルパス利用率
令和5年度（2023年度）クリニカルパス使用数と利用率（進捗中止を含む）

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科（総合内科）	26	5	5	10	9	7	5	3	4	7	5	8	94
内分泌・代謝内科	14	19	20	29	24	26	17	14	18	15	18	25	239
呼吸器内科	17	17	18	24	26	22	22	13	24	19	17	26	245
血液内科	0	0	3	4	3	0	2	1	3	1	5	5	27
腎臓内科	12	18	28	20	29	20	27	11	22	20	33	28	268
脳神経内科	3	3	2	6	6	3	4	3	6	2	5	2	45
消化器内科	134	118	129	144	139	127	145	120	147	122	134	164	1,623
循環器内科	53	40	39	41	34	31	45	49	59	14	22	19	446
小児科	59	114	116	100	85	80	51	60	69	49	63	62	908
外科	45	22	12	15	21	24	28	30	23	8	17	8	253
消化器外科	22	70	62	54	51	58	46	34	68	52	53	68	638
呼吸器外科	4	2	5	5	8	7	0	0	0	1	2	2	36
乳腺外科	5	8	13	9	9	12	10	10	18	13	14	12	133
整形外科	60	62	68	79	70	65	72	76	88	54	82	70	846
脳神経外科	26	13	19	10	14	24	13	13	23	14	25	12	206
心臓血管外科	30	22	25	27	24	20	25	27	16	16	22	23	277
形成外科	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	5	11	19
皮膚科	13	15	11	12	13	9	12	18	9	12	15	10	149
泌尿器科	70	61	70	63	62	64	70	68	80	50	62	85	805
婦人科	67	51	36	56	58	41	39	42	37	31	51	42	551
産科	52	63	57	63	65	57	65	63	78	60	71	111	805
眼科	29	35	45	35	38	32	37	45	29	29	40	34	428
耳鼻いんこう科	41	40	41	50	56	38	39	43	46	44	40	45	523
歯科口腔外科	23	20	22	23	24	22	24	15	30	22	16	26	267
救急科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	4	1	7
合計	805	818	846	879	868	789	799	758	899	657	821	899	9,838
産科新生児パス	33	42	43	40	43	41	51	40	53	47	46	48	527
退院数	1,213	1,261	1,260	1,336	1,354	1,234	1,254	1,241	1,294	1,167	1,274	1,340	15,228
電子パス利用率	66.4%	64.9%	67.1%	65.8%	64.1%	63.9%	63.7%	61.1%	69.5%	56.3%	64.4%	67.1%	64.6%

※1入院に対して適用パスは 1 として計算する。
※診療科の使用数は各診療科の医師が適用した数となる。
※産科新生児は褥婦の付属物として退院患者数から除外されているため利用率から除外する。

■呼吸ケア委員会

開催回数
2回

議事内容
第1回　令和5年7月14日
1. 令和4年度の「呼吸ケアチーム加算」の実績について
2. 呼吸ケア委員会研修の開催について　他

第2回　令和6年3月13日
1. 今年度の「呼吸ケアチーム加算」の実績について
2. ラウンド（日時、内容、記録等）について　他

委員会メンバー
◎阿部欣也、○野端万理、加藤和成、川原美保、春名雅裕、岩崎守弘、坂口晴佳、長友由美子、田中里弥、小島和子

委員会の目的
人工呼吸療法が必要な患者に対し安全かつ効率的な呼吸療法を施行し、早期の人工呼吸器の離脱をめざす。

今後の目標
1. チームの院内周知(チームによるラウンドの定着、チームによる医療従事者への研修内容の充実)

2. 病棟とチームの連携による早期の人工呼吸器離脱
3. 人工呼吸器使用時の事故の減少

■認知症ケア・せん妄予防委員会

開催回数	6回	
議事内容	第1回　令和5年5月 9日	1. 委員自己紹介 2. 意思決定マニュアルの作成状況について　他
	第2回　令和5年7月11日	1. 意思決定マニュアル改訂に係る進捗状況について 2. レンボレキサント(デエビゴ®)の病棟配置について　他
	第3回　令和5年 9月12日	1. レンボレキサント(デエビゴ®)の病棟配置に係る経過について 2. 改訂版意思決定マニュアルについて　他
	第4回　令和5年11月14日	1. デエビゴ病棟配置完了の報告 2. 豊中市認知症支援部会からの情報の共有　他
	第5回　令和6年1月9日	1. 当院のせん妄ハイリスク患者ケア加算の現状について 2. 新規アルツハイマー病治療薬レカネマブについて　他
	第6回　令和6年3月12日	1. せん妄ハイリスク患者ケア加算の基準変更作業の状況について 2. レカネマブについて　他
委員会メンバー	◎森原剛史、○伊藤輝代美、東　眞吾、柴田明日香、小川　綾、松向寺真彩子、宝満牧子、柿谷美里、上野ひとみ、南　岳彦	
委員会の目的	認知症ケア・せん妄予防に関する事項について適正な運営を図る。	
今後の目標	・ますます増えている高齢者や認知症といった、せん妄ハイリスク患者の入院治療が安全に行えるようにする。すでに高い評価をいただいている、せん妄への対応力をさらに充実させる。 ・せん妄や認知症への対応業務は増加の一方であるが、限られたマンパワーでも対応出来るように業務の効率化も進めていく。 ・せん妄や認知症について職員研修をさらに工夫し、院内の対応力をさらに向上させる。 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大のため縮小や中止していた活動を本格的に再開する。	

■褥瘡対策委員会

開催回数	6回	
議事内容	第1回　令和5年5月16日	1. 令和4年度の褥瘡データ報告 2. 今年度の年間予定と活動について　他
	第2回　令和5年7月18日	1. 第5回（2021年度）日本褥瘡学会実態調査委員会報告について 2. 今年度の研修について　他
	第3回　令和5年9月10日	1. 7月、8月の褥瘡状況報告 2. 研修会の準備、役割分担について　他
	第4回　令和5年11月21日	1. 研修会の評価 2. 会議開催日の変更の検討　他
	第5回　令和6年1月16日	1. 褥瘡ハイリスク患者ケア加算の対象者について 2. 褥瘡予防のための皮膚保護パッドの採用について　他
	第6回　令和6年3月19日	1. 令和5年4月－令和6年2月までの褥瘡状況報告 2. 次年度に向けて　他

委員会メンバー	◎横見明典、○大西智香子、横江　勝、鍛冶昌子、小笠陽生、上野ひとみ、金谷愛子、伊藤輝代美、曽根光子、辻　まどか、小島和子
委員会の目的	褥瘡に関する各職種の専門性を集結し、その知識に基づいて褥瘡発生の予防や治療効果を上げることを目的とする。
今後の目標	・医療関連機器圧迫創傷を含めた院内褥瘡推定発生率を1.2%以下にする。 ・医療関連機器圧迫創傷の発生数を減少させる。

■輸血委員会

開催回数	6回
議事内容	第1回　令和5年6月6日 1. 令和4年度血液製剤の使用状況報告 2. 令和4年度輸血副作用の報告　他 第2回　令和5年8月1日 1. 輸血出庫時のインシデントについて 第3回　令和5年10月3日 1. 日赤からの情報提供（令和4年の輸血副作用・感染症症例について） 2. 外来輸血のタスクシフトについて 第4回　令和5年12月5日 1. 輸血用血液製剤の電子化された添付文書の改訂について 第5回　令和6年2月6日 1. MegaOakHRで死亡日を入力した際に未来日のオーダが中止されない（連携オーダ対象外となっている）件について 第6回　令和6年3月5日 1. 血液型とクロス血の同時採血について
委員会メンバー	◎田所誠司、○吉川真紀子、池田佳代、松本健吾、山下雅史、三輪真理子、尾畑　幸、向井裕香、國米海知子、髭野昭子
委員会の目的	市立豊中病院における輸血療法の適正化と安全、効率化を図ることを目的とする。
今後の目標	会議を定期的に開催し輸血医療の現状を把握するとともに問題点を検証する。

■臨床検査運営委員会

開催回数	2回
議事内容	第1回　令和5年6月20日　1. 臨床検査運営委員会設置要綱について 2. 臨床検査部からの報告　他 第2回　令和5年12月19日　1. 臨床検査部からの報告 2. 超音波危機管理センターからの報告
委員会メンバー	◎西田　勉、○小杉　智、松本健吾、吉川真紀子、池田佳代、田村裕美、徳田明美、山内一浩、加藤京子、髭野昭子
委員会の目的	市立豊中病院における臨床検査の適正化と効率化を図るとともに、関係部局との意見交換、調整を行うこと。
今後の目標	臨床検査における様々な課題や取組みについて、引き続き検討や意見交換を行っていく。

■放射線委員会

開催回数	3回
議事内容	第1回　令和5年6月8日 1. 委員会設置要綱・委員の紹介 2. 令和4年度 業務実績報告　　他 第2回　令和5年10月12日 1. 令和5年度 放射線部門主な予算承認案件の進捗状況について 2. 令和6年度 診療放射線技師増員について　　他 第3回　令和6年2月8日 1. 本年度更新血管撮影1室の更新工事の進捗状況について 2. 血管2室アンギオ装置のサポート終了について　　他
委員会メンバー	◎栗山幸治、○中田早紀、○生島忠久、杉浦由里、藤井祥史、岡崎由典、山下雅史、後藤隆純、鄭　則秀、塚部明大、釜谷崇志、森　康輔、横山賢子、矢尾典子、深美智彦
委員会の目的	放射線にかかる業務全般の円滑な運営を図る。
今後の目標	放射線部業務の現況および方向性について検討を行い、院内他部門との連携を図り業務運用の適正化に努める。

■ＭＡ業務委員会

開催回数	3回
議事内容	第1回　令和5年6月2日　1. 令和5年度の目標について 2. 令和5年度ＭＡの休暇対応について　　他 第2回　令和5年9月1日　1. 次年度ＭＡの配置について 2. 次年度の予算について　　他 第3回　令和6年3月1日　1. 令和6年度の配置について 2. 令和6年度のＭＡ業務拡大について　　他
委員会メンバー	◎福井浩司、○赤木謙三、小杉　智、竹治正展、横江　勝、西田　勉、中川　理、茶山公祐、山本健吾、三宅　修、徳永康行、岡田正喜、山本健吾、辻江智子、高田幸治、栗山幸治、徳田明美、佐々木啓充、藤川知弘、齊藤健文、酒井隆浩
委員会の目的	医師事務作業補助者に関する業務の円滑な運営を図ることを目的とする。
今後の目標	医師事務作業補助者の円滑な業務を図るとともに、医師の業務負担の軽減につながるよう業務を検討する。

■物流管理委員会

開催回数	2回
議事内容	第1回　令和5年9月6日　1. 診療材料・薬品定数の見直し結果について 2. 診療材料・薬品の在庫日数の推移について　　他 第2回　令和6年2月6日　同　上
委員会メンバー	◎池永雅一、○山中賀代、西尾雅実、西田　勉、小泉良介、木下典子、竹中智子、市村叔照、豊田聡司、山台亮太、秋田瑞恵、大園　潤、芦田　淳、ドナルド祐子、山口容美
委員会の目的	物品の適正管理に関すること。
今後の目標	不動在庫や有効期限切れ発生の原因を分析し、有効期限切れの防止のための対策をとる。 不良品の報告や未使用診療材料の廃棄報告を求め、原因究明や対応を検討する。 医療材料の適切な運用のため使用管理手順の統一を図るとともに、償還材料は確実に医事請求に繋げる仕組みを構築する。

■医療機器安全管理委員会

開催回数	1回
議事内容	第1回　令和6年2月13日　1. 2023年度安全管理情報について 2. 保健所立入検査について　他
委員会メンバー	◎高田幸治、○西尾雅実、岩崎守弘、徳永康行、西田　勉、清水潤三、生島忠久、駒　里美、西川晃代、掛布美樹、阪根睦恵、野端万里、山口　望、大園　潤、今井智章、林　敬蔵
委員会の目的	医療機器安全管理の指針に則り医療機器の管理および安全使用を推進すること。
今後の目標	医療機器安全管理の指針に則り医療機器の安全管理に努める。

■医療ガス安全管理委員会

開催回数	1回
議事内容	第1回　令和6年2月27日　1. 委員会メンバーについて 2. 医療ガス設備整備の実施状況について、研修について
委員会メンバー	◎高田幸治、○西尾雅実、加藤　恵、荻原清貴、南　尚吾、植田ちづる、野端万里、阪根睦恵、山口光徳、阪本知明
委員会の目的	医療ガス設備の安全管理を図り、患者及び使用する職員の安全を確保することを目的とする。
今後の目標	医療ガス設備使用時の安全確保に引き続き、努める。

■人材確保専門委員会

開催回数	1回
議事内容	第1回　令和5年11月27日　1. 令和6年度の職員採用に向け実施した取組み 2. 令和7年度の職員採用に向けた取組み　他
委員会メンバー	◎大東幹彦、東山美鈴、重田泰宏、河村あゆみ、村部沙弥、宮平乃斗、上木友紀奈、平山ひとみ、奥田忠宏
委員会の目的	働き方改革の推進や看護職員の人材不足など、人材確保にかかる様々な諸課題に総合的に対処しながら、人材の安定的な確保に資する方策を検討すること。
今後の目標	看護師・助産師の効果的な人材募集等を通じた人材の確保方策の検討。

■院内救急講習チーム

開催回数	4回
議事内容	第1回　令和5年5月10日　1. 実績報告 2. 令和5年度院内蘇生講習会の予定立案 第2回　令和5年8月24日　1. 実績報告 2. 講習会募集・調整方法の検証 第3回　令和5年12月7日　1. 実績報告 2. 蘇生処置を施行した患者情報抽出方法の検討 第4回　令和6年3月7日　1. 実績報告 2. 次年度組織運営方法の検討
委員会メンバー	◎熊田全裕、○中川　理、小林正直、加藤和成、酒井世志子、岡野淳也、高橋弘毅、滝本　拳、奈良平明子、伏本カーディン、酒井隆浩
委員会の目的	急変時の救命蘇生に対応するための一般的スキルを当院職員に普及させる。
今後の目標	蘇生講習開催サポートと院内コードブルー（コードイエロー）でのスキル向上。

■術後疼痛管理チーム

開催回数	0回
委員会メンバー	◎高田幸治、○野端万里、辻本恵理、椎葉有樹、金谷吉崇、中井康平
委員会の目的	質の高い疼痛管理による患者の術後疼痛の軽減、生活の質の向上及び合併症予防等
今後の目標	下記についての体制整備を行う。 ・術後疼痛管理プロトコルを作成及びその内容に基づき、術後疼痛管理が必要な患者の状態に応じた術後疼痛管理及びその評価。 ・術前麻酔科診療時に個別に作成した術後疼痛管理計画書を患者に提供し説明。 ・主治医及び術後疼痛管理チーム以外の医師、看護師等と連携をとって術後疼痛管理を行う。

■感染対策チーム：ICT（Infection Control Team）
■抗菌薬適正使用支援チーム：AST（Antimicrobial Stewardship Team）

開催回数	11回	
議事内容	第1回　令和5年4月19日	1. 手指衛生サーベイランス 2. 抗菌薬ラウンド報告　他
	第2回　令和5年5月17日	同　上
	第3回　令和5年6月21日	1. 薬事委員会より審議依頼 2. 手指衛生サーベイランス　他
	第4回　令和5年7月19日	1. 手指衛生サーベイランス 2. 抗菌薬ラウンド報告　他
	第5回　令和5年9月20日	1. 薬事委員会より審議依頼 2. 手指衛生サーベイランス　他
	第6回　令和5年10月18日	1. 手指衛生サーベイランス 2. 抗菌薬ラウンド報告　他
	第7回　令和5年11月15日	1. 薬事委員会より審議依頼 2. 手指衛生サーベイランス　他
	第8回　令和5年12月20日	1. 手指衛生サーベイランス 2. 抗菌薬ラウンド報告　他
	第9回　令和6年1月17日	1. 3南入室制限緩和について審議 2. 手指衛生サーベイランス　他
	第10回　令和6年2月21日	1. 手指衛生サーベイランス 2. 抗菌薬ラウンド報告　他
	第11回　令和6年3月13日	1. 血液培養陽性時の報告システム（案）について審議 2. 手指衛生サーベイランス　他
委員会メンバー	ＩＣＴ◎清水潤三、○阿部欣也、○川原令子、森村　治、徳永康行、鄭　則秀、吉田　晋、桝井敦史、藤井祥史、高橋弘毅、飯島　賢、西村康佑、笹垣貴美(12月退任)、温井正博、小野祐志、髙久保祐一、鈴木徳洋、赤瀬　望、山口容美	
	ＡＳＴ◎阿部欣也、○清水潤三、○小野祐志、森村　治、徳永康行、立山みあり、笹垣貴美(12月退任)、温井正博(12月就任)、鈴木徳洋、赤瀬　望、髙久保祐一、岸田容之、山口容美	
委員会の目的	ＩＣＴは、市立豊中病院における院内感染防止のため、現場における実践チームとして活動し、感染対策委員会を補佐する。 ＡＳＴは、市立豊中病院における抗菌薬適正使用のため、現場における実践チームとして活動し、感染対策委員会を補佐する。	

今後の目標	ＩＣＴ　院内感染サーベイランス（監視）の実施 感染管理教育の実施および評価 職業感染防止対策の推進 地域連携の活性化 ＡＳＴ　感染症治療の早期モニタリングと主治医へのフィードバック 微生物薬剤感受性の評価 抗菌薬適正使用に係る評価 抗菌薬適正使用の教育・啓発 院内で使用可能な抗菌薬の見直し 他の医療機関から抗菌薬適正使用の推進に関する相談の応需

■事故調査会

開催回数	3回
議事内容	第1回　令和5年8月29日　1. 各関係科からの事例にかかる報告 2. 対策案の検討　他 第2回　令和5年10月13日　同　上 第3回　令和6年2月6日　同　上
委員会メンバー	◎中川　理、○中上紀子、岩澤　卓、今村博司、藤田幸恵、大東幹彦、西尾雅実、越智比奈子、西川晃代、花折有華
委員会の目的	当院における診療行為に伴って予期せぬ死亡又は永続的な障がいや重篤な後遺症が残る医療事故が発生した時に、事故原因の検証及び調査、分析により原因及び医療過誤の有無など事実を究明するとともに、再発防止の検討、患者・家族への説明、警察・保健所への報告、報道機関等への公表について検討し、報告する。
今後の目標	調査、データ集約し原因分析を行ない、客観的評価をすることで安全性を確保する。

■医療安全管理担当者会議（チーフセイフティマネージャー会議：通称　チームSMAP会議）

開催回数	12回
議事内容	第1回　令和5年4月3日　1. 各部門からのインシデント報告と検討 2. その他 第2回　令和5年5月1日　同　上 第3回　令和5年6月5日　同　上 第4回　令和5年7月3日　1. 各部門からのインシデント報告と検討 2. 第1回医療安全管理研修について　他 第5回　令和5年8月7日　1. 各部門からのインシデント報告と検討 2. その他 第6回　令和5年9月4日　同　上 第7回　令和5年10月2日　同　上 第8回　令和5年11月6日　1. 各部門からのインシデント報告と検討 2. 医療安全推進週間について　他 第9回　令和5年12月4日　1. 各部門からのインシデント報告と検討 2. 医療安全地域連携相互訪問について　他 第10回　令和6年1月10日　1. 各部門からのインシデント報告と検討 2. 医療安全業務改善計画書について　他 第11回　令和6年2月5日　1. 各部門からのインシデント報告と検討 2. 第2回医療安全管理研修について　他

	第12回　令和6年3月4日　　1. 各部門からのインシデント報告と検討 2. セーフティマネジャー研修について　他
委員会メンバー	◎中上紀子、○西川晃代、福井浩司、熊田全裕、山本健吾、生島忠久、山内一浩、岩崎守弘、高橋弘毅、大川知之、東　眞吾、阪根睦恵、大江彰彦、 土井　瞬、稲見佳奈、深堀太翔、池永雅一、川瀬朋乃、濱田紀子、木下雨宣、花折有華
委員会の目的	各部門から提出されたインシデントレポートに迅速に対応すると同時に、定例会で分析し、各部門にフィードバックする。
今後の目標	組織横断的に医療の安全を確保する活動を行い、更なる安全文化の醸成を確立する。

■RRS検討委員会

開催回数	12回
議事内容	第1回　令和5年5月26日　　1. 概要と設置要綱の確認 2. 令和5年3月と4月のRRSコール状況の検証　　他 第2回　令和5年6月23日　　1. 令和5年5月のRRSコール状況の検証 2. 院内心停止の把握の検討　　他 第3回　令和5年7月28日　　1. 令和5年6月のRRSコール状況の検証 2. 呼吸観測の啓発の検討　　他 第4回　令和5年8月25日　　1. 令和5年7月のRRSコール状況の検証 2. 呼吸観測の啓発の検討　　他 第5回　令和5年9月22日　　1. 令和5年8月のRRSコール状況の検証 2. 呼吸観測の啓発の検討　　他 第6回　令和5年10月27日　　1. 令和5年9月のRRSコール状況の検証 2. 第1回RRS研修の教材検討　　他 第7回　令和5年11月24日　　1. 令和5年10月のRRSコール状況の検証 2. コードブルー症例の把握手法の検討　　他 第8回　令和5年12月22日　　1. 令和5年11月のRRSコール状況の検証 2. コードブルー症例の把握手法の検討　　他 第9回　令和6年1月26日　　1. 令和5年12月のRRSコール状況の検証 2. 第2回RRS研修の準備　　他 第10回　令和6年2月29日　　1. 令和6年1月のRRSコール状況の検証 2. 第2回RRS研修の実施報告　　他 第11回　令和6年3月22日　　1. 令和6年2月のRRSコール状況の検証 2. 院内心停止の把握手法の検討　　他 検討会　令和5年5月1日　　1. RRS認定講習の看護師への勧奨（4月会議代替）
委員会メンバー	◎熊田全裕、○中川　理、大畠香代子、加藤和成、岡野淳也、川原瑞枝、森村　治、桐山圭司、池永雅一、高橋弘毅、小林正直、中上紀子、花折有華
委員会の目的	患者の急変徴候を事前にとらえ、致死性の急変に至ることを未然に防ぎ、院内心停止を減らすことを目的とする。
今後の目標	RRSコールを的確に起動できるよう教育を継続し定着化を図る。

■報告書確認対策チーム会議

開催回数	12回
議事内容	第1回　令和5年4月21日　　1. 今年度研修会について　　他 第2回　令和5年5月16日　　1. 病理、画像検査所見既読率の報告・検証　　他 第3回　令和5年6月20日　　同　　上

	第4回　令和5年7月18日　同　上 第5回　令和5年8月18日　同　上 第6回　令和5年9月19日　同　上 第7回　令和5年10月17日　同　上 第8回　令和5年11月21日　同　上 第9回　令和5年12月19日　1. 病理、画像検査所見既読率の報告・検証 2. PACS参照（CITA)の機能強化について 第10回　令和6年1月16日　同　上 第11回　令和6年2月20日　同　上 第12回　令和6年3月19日　1. 病理、画像検査所見既読率の報告・検証　他
委員会メンバー	◎福井浩司、○中上紀子、中田早紀、加藤京子、宮坂裕子、生島忠久、土井　瞬、西川晃代
委員会の目的	安心・安全で質の高い医療の提供を推進する観点から、画像診断報告書や病理診断報告書の確認漏れの対策を講じ診断又は治療開始の遅延を防止するため。
今後の目標	画像診断報告書や病理診断報告書の管理状況について審議し、確認漏れや治療開始の遅延防止等について体制を構築する。

■総合通信システム（ＴＯＰＩＣＳ）定例会議

開催回数	4回
議事内容	第1回　令和5年7月14日 1. 今年度のTOPICS定例会について（年間計画・TOPICS更新計画） 2. システム設定変更議案について（設定変更・改修に関する手順について）　他 第2回　令和5年9月8日 1. TOPICS更新について（次期病院システム基本方針について） 2. システム設定変更議案について（2システムの改修について）　他 第3回　令和5年11月10日 1. TOPICS更新について 2. システム設定変更議案について（1システムの設定変更について）　他 第4回　令和6年1月12日 1. 次期TOPICS更新調達仕様書の作成について （次期TOPICS更新調達仕様書WG合同開催）　他
委員会メンバー	◎西田　勉、○吉良　章、吉川真紀子、吉田　晋、岡田正喜、藤田祐生、香河清和、 岡内幸義、楠　康生、塚部明大、福多広大、福元　学、宮崎　拓、仲宗根拓也、髭野昭子、 鈴木紀子、金城智江、駒　里美、温井正博、奥田陽造、滝本あかり、奈良平明子、 大掛馨太、井上文子、岸田容之、横山賢子、掛布美樹、松永啓太、奥出晃平、藤川知弘、 福田民江、荒木邦章、佐々木啓充、佐々木崇臣、徳野悦子、土井　瞬、橋田茂樹
委員会の目的	市立豊中病院総合情報通信システム（TOPICS）のセキュリティ対策及び適切な管理運営に関する事項を検討するため。
今後の目標	市立豊中病院総合情報通信システム（TOPICS）を円滑に運用できるよう議論し、運用やシステム改修・設定の変更等の検討を行う。また次期システム更新に向けて検討を行う。

■サイバーセキュリティ対策検討チーム会議

開催回数	2回
議事内容	第1回　令和5年6月27日　1. セキュリティ対策の実施状況の進捗について 2. リモート保守の再開及びウイルス対策ソフトの適用に関する検討について　他

	第2回　令和5年10月23日　1. セキュリティ対策の実施状況の進捗について 2. 今後必要となる対策について （サイバー攻撃を経験した医療機関の報告書より）　他
委員会メンバー	◎大東幹彦、○吉良　章、大澤亮太、土井　瞬、佐々木啓充、 中山一馬（市・都市経営部デジタル戦略課）、橋田茂樹
委員会の目的	ランサムウェア等のサイバー攻撃に対する情報セキュリティの強化策や緊急時の対応を検討する。
今後の目標	セキュリティ対策について、定期的に評価し見直し等の対応が検討できる仕組み作りに取り組む。

■栄養サポートチーム

開催回数	6回
議事内容	第1回　令和5年5月26日　1. 前年度･前月のNST活動報告告 2. 経腸栄養剤・TPN使用量報告　他 第2回　令和5年7月28日　1. 前月のNST活動報告 2. NST学習会について　他 第3回　令和5年9月22日　1. 前月のNST活動報告 2. 経腸栄養剤・TPN使用量報告　他 第4回　令和5年11月24日　1. 前月のNST活動報告 2. 小セミナー・NST学習会について　他 第5回　令和6年1月26日　1. 前月のNST活動報告 2. NST通信について　他 第6回　令和6年3月22日　1. 今年度の活動総括 2. 小セミナー・NST学習会について　他
委員会メンバー	◎岡内幸義、○柳本喜智、岩澤　卓、大杉直人、藤田祐生、福田健太、齋藤直輝、市場絵美子、幸田陽子、三谷智子、植田ちづる、川原令子、柿沼香里、東　洋美、井上文子、金谷愛子
委員会の目的	1. NST回診、カンファレンスを行い、栄養評価および栄養計画を立て、適切な提案を行う。 2. 入院患者のスクリーニングを行い、栄養障害の早期発見と栄養療法の早期開始を行う。 3. 院内職員に対し栄養管理に関する教育（院内講義）を継続実施し、栄養管理能力を向上させる。 4. 以上より在院日数の短縮と入院費の節減を図る。
今後の目標	1. スクリーニングの精度を上げ、NSTカンファレンス・回診を充実させる。 2. NSTマニュアルの部分改訂を行う。 3. JSPEN教育施設として病院内外の人材育成を行う。 4. 学会、研究会発表、院内学習会の主催を継続して行う。 5. NST加算件数　年間500件を目標とする。
活動実績	NST加算件数　499件、歯科医師連携加算件数　499件
【開催した講演会、勉強会など】	院内学習会　2回

開催日	題　名	講師	参加者
令和5年6月19日	研修医対象研修	岡内幸義（内分泌・代謝内科）	14名
令和5年11月17日	心不全における栄養管理	大阪大学大学院 医学系研究科循環器内科 兼データビリティフロンティア機構特任講師　坂本陽子先生	71名

NST担当者小セミナー・症例検討会　6回

開催日	題　名	講師	参加者
令和5年5月26日	CONUT変法を用いたスクリーニング	岡内幸義（内分泌・代謝内科）	22名
令和5年7月28日	肝硬変と栄養	金谷愛子（栄養管理部）	21名
令和5年9月22日	エネフリード輸液について	植田ちづる（薬剤部）	21名
令和5年11月24日	嚥下障害とは	幸田陽子（リハビリテーション部）	19名
令和6年1月26日	JSPEN予行	齋藤直輝（臨床検査部）	24名
令和6年3月22日	リンクナース発表会	看護部	25名

■嚥下訓練チーム

開催回数　3回

議事内容
第1回　令和5年5月15日　1. 今年度の活動目標
2. 前年度のチーム実績について　他
第2回　令和5年11月20日　1. 入院時嚥下機能スクリーニングについて
2. 看護師、メイトへの教育について　他
第3回　令和6年2月19日　1. 入院時嚥下機能スクリーニングについて
2. 多職種で情報共有するシステムについて　他

委員会メンバー　◎来　真希子、○山田弦太、藤田祐生、増野有希子、中井美穂、松尾柚妃乃、幸田陽子、深川大樹、加苅　彰、柿沼香里、金谷愛子

委員会の目的
1. 摂食嚥下に問題がある症例を抽出し、評価する。
2. 患者、家族、担当者に対して適切な摂食嚥下及び食形態について助言する。
3. 摂食機能訓練の実施により、早期回復・合併症予防、在院日数短縮を図る。
4. より適切な嚥下食を提供するために、嚥下食の形態について検討を行う。

今後の目標
・電子カルテ上のテンプレートを活用して嚥下スクリーニングを行い、誤嚥ハイリスク患者を抽出し、必要時の介入を継続する。
・嚥下機能の低下が疑われる患者に対して、病棟と情報共有しやすい関係を作る。
・摂食機能療法の質の向上のため、より多職種で情報を共有するシステムを作る。
・病棟看護師への摂食機能療法の教育・啓発を継続する。
・嚥下機能が低下している脳卒中急性期の患者に対して、入院初期より摂食機能療法を開始するよう主治医・看護師に働きかける。

年間活動実績

摂食機能療法件数（30分以上）	1,104件
摂食機能療法件数（30分未満）	1,169件
嚥下内視鏡検査（VE）件数	121件
嚥下造影検査（VF）件数	12件
胃瘻造設時嚥下機能評価加算件数	4件

研修会

開催日	題　名	講師	参加者
令和5年5月－6月	eラーニング研修会 口腔ケアの基礎知識	加苅　彰（看護部） 柿沼香里（看護部）	69名
令和5年6月－8月	eラーニング研修会 安全な食事介助とは	加苅　彰（看護部） 柿沼香里（看護部）	40名
令和5年9月－10月	eラーニング研修会 摂食嚥下の解剖生理と評価	加苅　彰（看護部） 柿沼香里（看護部）	37名

令和5年9月5日 令和5年9月28日	eラーニング研修会 看護補助員対象学習会「口腔ケア」	加苅　彰（看護部）	48名
令和5年10月14日	豊中市病院連絡協議会　看護部長会研修会 高齢者のフレイルとサルコペニアについて	加苅　彰（看護部）	50名
令和5年12月	地域医療連携WEBセミナーin豊中 「イラストでつかむ！」嚥下のしくみ	加苅　彰（看護部）	24名
令和6年2月	地域医療連携WEBセミナーin豊中 「気づきで防ぐ！」誤嚥性肺炎予防の実際	加苅　彰（看護部）	24名
令和6年2月15日	看護部キャリアコース研修会　看護師対象 摂食嚥下の看護介入	加苅　彰（看護部）	4名
令和6年3月	地域医療連携WEBセミナーin豊中 患者の「食べたい！」を支える嚥下機能評価の基本	加苅　彰（看護部）	24名

■がん薬物療法委員会

開催回数　5回

議事内容
第1回　令和5年6月26日
1. 新規委員紹介
2. がん薬物療法委員の今後の取組み　　他

第2回　令和5年8月28日
1. 実績報告
2. レジメンに関するシステム変更について　　他

第3回　令和5年10月23日
1. 実績報告
2. ステロイド抵抗性irAEに対する免疫抑制剤の使用　　他

第4回　令和5年12月25日
1. 実績報告
2. バイオ後続品導入初期加算の整備　　他

第5回　令和6年2月26日
1. 実績報告
2. がん薬物療法センター兼任のお願い　　他

委員会メンバー　◎川瀬朋乃、○西田　勉、政家寛明、今村博司、横見明典、佐藤元孝、伊東　優、冨田尚裕、佐藤泰史、後藤　哲、今井智章、杉本　彩、森村　治、二宮由紀恵、秦　真由美、安田純子、鈴木紀子、久田真規子、東畑　葵、井上文子、角山伊知郎、鍋島　智、秋本和之（事務局）

委員会の目的　根拠に基づいたがん薬物療法が安全かつ円滑に実施され、あわせて患者とその家族への全人的ケアとともに、がん薬物療法における医療の質の向上を図る。

今後の目標　がん診療連携拠点病院として、診療科の枠を超え、より安全で質の高いがん薬物療法を行うことができるよう院内のがん薬物療法に関する体制を整備していく。

■がん薬物療法レジメン委員会

開催回数　3回

議事内容
第1回　令和5年5月22日
1. 委員紹介
2. がん薬物療法レジメン申請から登録の流れ、委員の役割について　　他

第2回　令和5年11月27日
1. 保険適用外委員会委員長からの依頼について
2. 制吐薬適正使用ガイドライン2023年10月改訂に伴って　　他

	第3回　令和6年1月22日 1. 保険適用外診療審査部会からの依頼について（前回の続き）
レジメン審査件数	（随時メール会議にて審査）新規20件、変更2件
意見書の作成件数	（保険適応外薬の使用審査にかかる意見書）9件　中止（取り下げ）1件
委員会メンバー	◎川瀬朋乃、政家寛明、森村　治、杉本　彩、佐藤泰史、池永雅一、伊藤　優、松下　慎、竹中智子、石田志穂、久田真規子、秦　真由美、安田純子
委員会の目的	診療に必要ながん薬物療法を安全かつ科学的根拠をもって行うため。
今後の目標	当院で行なわれるがん薬物療法、あるいは診療報酬点数表に定められた化学療法加算算定対象のレジメンを検討し、適切に承認および登録する。

■キャンサーボード委員会

開催回数	6回
議事内容	第1回　令和5年7月24日　1. 消化器内科　症例検討 第2回　令和5年10月16日　1. 消化器内科　症例検討 第3回　令和5年11月6日　1. 呼吸器外科　症例検討 第4回　令和5年12月11日　1. 消化器内科　症例検討 第5回　令和6年1月25日　1. 乳腺外科　症例検討 第6回　令和6年3月25日　1. 内分泌内科　症例検討
がんゲノム医療にかかる検討	29回
臓器別分科会	造血器腫瘍分科会／34回、消化器内視鏡分科会／18回、上部消化管腫瘍分科会／27回、下部消化管腫瘍分科会／28回、消化器外科腫瘍分科会／24回、泌尿器腫瘍分科会／24回、甲状腺・乳腺腫瘍分科会／50回、肺腫瘍分科会／29回、頭部腫瘍分科会／24回
委員会メンバー	◎足立史朗、○川瀬朋乃、小杉　智、森村　治、山本政司、岩澤　卓、池永雅一、佐藤元孝、辻江智子、三谷健二、足立加那、二宮万理恵、冨田尚裕、岸本昌正、桑田直樹、二宮由紀恵、秦　真由美、安田純子、一上由華、荒木　周、西浦志保、齋藤智子、島田朋奈、山口和佳子、荒木邦章、田中美加
委員会の目的	がん患者の病態に応じたより適切ながん医療を提供する。
今後の目標	症例の登録を積極的に呼びかけて検討会の開催を増やし、患者によりよい治療を提供する。

■緩和ケア委員会

開催回数	6回
議事内容	第1回　令和5年5月26日　1. 緩和ケアチーム活動近況報告 2. 令和5年度チーム活動グループ分けについて　他 第2回　令和5年7月28日　1. 緩和ケアチーム活動近況報告 2. PEACE研修について　他 第3回　令和5年9月22日　1. 緩和ケアチーム活動近況報告 2. 心不全緩和ケアの取組み　他 第4回　令和5年11月24日　1. 緩和ケアチーム活動近況報告 2. 緩和ケアマニュアル更新　他 第5回　令和6年1月26日　1. 緩和ケアチーム活動近況報告 2. 緩和ケア勉強会について　他 第6回　令和6年3月22日　1. 緩和ケアチーム活動近況報告 2. 次年度の活動目標について　他

委員会メンバー	◎二宮万理恵、○柏木雄次郎、冨田尚裕、石田享相、野間俊樹、井上文子、椎葉有樹、西浦志保、齊藤智子、島田朋奈、酒井世志子、秦　真由美、中川雅文、宮本美和、秋本和之、宮本益見
委員会の目的	・医療従事者への「緩和ケア」啓発活動としての教育・研修の実施 ・緩和ケア医療技術の向上活動 ・臨床的活動を含めた患者を診るチームとしての活動
今後の目標	・緩和ケアの重要性を病院内外に啓発する。 ・がんと診断された時点からの早期緩和ケアを実践する。 ・在宅緩和ケアやホスピスなどの緩和ケアの後方連携体制を充実させる。
【開催した講演会、勉強会など】	〔勉強会〕 令和5年度第1回緩和ケア勉強会 日時：令和5年7月20日　17時－18時 内容：テーマ「非がんの緩和ケア～心不全の観点から～」 1. 心不全緩和ケアの基礎 2. ACPを実践するためのツールについて 3. 心不全患者さんのACP～当院の取組み～ 令和5年度第2回緩和ケア勉強会 日時：令和6年2月15日　17時－18時30分 内容：テーマ「非がんの緩和ケアと急性期病院における意思決定支援」 1. 心不全緩和ケアの基礎 2. 心不全患者へのACP実践と当院の5年間の取組みについて 〔豊能二次医療圏緩和ケア研修会〕 日時：令和5年12月17日　9時15分－17時05分 場所：市立豊中病院　講堂 内容：緩和ケアに関する基本的な知識・技術を身につけるための厚生労働省健康局長通知「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修の開催指針」に準拠

■緩和ケアチーム（ライフ・サポートケアチーム）

開催状況	チームカンファレンス　46回　（毎週月曜日午後）
議事内容	チーム介入患者の状況報告と多職種によるケアの検討
チームメンバー	◎二宮万理恵、○柏木雄次郎、冨田尚裕、熊田全祐、滝本佳予、杉本　彩、足立加那、横江　勝、坂本陽子、石田享相、松下　慎、野間俊樹、竹林宏明、小野潤子、益尾淳子、井上文子、錦織　悠、赤阪真由美、相澤聡子、椎葉有樹、小平明美、藤井佑紀、二宮由紀恵、秦　真由美、山口　望、西浦志保、一上由華、齊藤智子、島田朋奈、酒井世志子、荒木　周、大石恵里、宮本美和、小林由佳、中川雅文、溝渕智也、望月美成、美馬京子
チームの目的	がんに限らず慢性心不全などの生命に関わる疾患と診断され当院で加療中の患者に対する苦痛の緩和を行う。
今後の目標	依頼元（院内、地域問わず）との連携と検討を図ることで、患者・家族へより質の良い症状緩和をめざす。
【開催した講演会、勉強会など】	（緩和ケア委員会の同項目に同じ）

■ＡＹＡ委員会

開催回数	2回
議事内容	第1回　令和5年5月30日　1. 今年度のAYA委員会メンバーについて 2. AYAチームと，その昨年度の活動について　他 第2回　令和6年3月12日　1. 今年度のAYAチームの活動について 2. 大阪府がん診療連携協議会令和5年度第2回小児・AYA部会(2024/2/9)「大阪府のがん対策について」から抜粋して情報提供　他
学会発表	令和6年2月10日－11日　第14回がん生殖医療学会学術集会（茨城県水戸市） 石田享相、田所誠司、佐藤泰史、宮本美和、松下　慎、小林由佳、西浦志保、大石恵里、二宮由紀恵、小杉　智 ・生理的無月経状態の若年悪性リンパ腫患者に対して、生殖医療実施施設と連携して情報提供し、患者が妊孕性温存療法の意思決定をできた一例
委員会メンバー	◎小杉　智、○佐藤泰史、松下　慎、石田享相、茶山公祐、今村博司、二宮由紀恵、大石恵里、松向寺真彩子、西浦志保、小林由佳
委員会の目的	AYA世代のがん医療の付随する特有の諸問題に対応する。
今後の目標	AYA世代のがん医療の提供及びがん医療に付随する諸問題への対応状況を把握・分析及び評価する。

■がんゲノム医療委員会

開催回数	6回
議事内容	第1回　令和5年5月12日　1. 委員会メンバー、開催日程、規約の確認（資料1－1、1－2） 2. ファイルサーバーの権限について　他 第2回　令和5年7月28日　1. がん診療部の実績について 2. がん遺伝子パネル検査コンサルト用予約枠について　他 第3回　令和5年9月1日　1. がん診療部の実績について 2. がんゲノム医療セミナーについて　他 第4回　令和5年12月1日　1. がん診療部実績 2. 新規保険償還されたパネルについて　他 第5回　令和6年1月12日　1. がん遺伝子パネル検査実施状況 2. 新規保険償還されたパネルについて　他 第6回　令和6年3月8日　1. がん遺伝子パネル検査実施状況 2. 当院の実績（他院との比較）　他
委員会メンバー	◎今村博司、○冨田尚裕、川瀬朋乃、西田　勉、足立史朗、辻江智子、佐藤泰史、二宮由紀恵、小池万里子、安田純子、秦　真由美、久田真規子、山内一浩、荒木邦章、田中美加、大塚千代美、宮本美和
委員会の目的	がんゲノム医療が、安全かつ円滑に実施され合わせて質の向上を図る。
今後の目標	がんゲノム医療の提供に関し分析評価を行う。

■医学系研究事前審査部会

開催回数　5回

議事内容

開催回	開催日	研究責任者所属	件数
第1回	令和5年5月10日	心臓血管外科	1
第2回	令和5年7月10日	泌尿器科	2
第3回	令和5年8月14日	泌尿器科	1
第4回	令和6年1月5日	消化器内科	1
第5回	令和6年1月16日	精神科	1
計			6

部会メンバー　◎横江　勝、○川瀬朋乃、熊田全裕、冨田尚裕、福田　静、斉藤百恵、岡村素子、有澤陽子、記田めぐみ

部会の目的　実施計画等の審査を申請した者が提出した研究について、厚生労働省・文部科学省・経済産業省が示す「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に適合しているか審議し、その結果を市立豊中病院倫理委員会の委員長に報告する。

■先進医療・患者申出療養審査部会

開催回数　0回

議事内容　無し

部会メンバー　◎西尾雅実、○西田　勉、小杉　智、赤羽美樹子、斉藤百恵、豊田聡司、岡村素子、有澤陽子、記田めぐみ

部会の目的　申請された保険適応外または未承認の医薬品等の研究について、倫理指針、ガイドライン、ヘルシンキ宣言、法、条例及び院内規程等に準拠しているか、治療・費用・実施体制が適切であるか等を審査し市立豊中病院倫理委員会に報告することを目的とする。

■保険適応外診療審査部会

開催回数　7回

議事内容

開催回	開催日	申請者所属	件数
第1回	令和5年5月16日	精神科	1
		消化器外科	1
		血液内科	1
第2回	令和5年5月30日	呼吸器内科	4
第3回	令和5年7月21日	血液内科	1
		産婦人科	1
		内分泌・代謝内科	3
第4回	令和5年7月28日	内分泌・代謝内科	1
		脳神経外科	1
第5回	令和5年9月20日	内分泌・代謝内科	1
		消化器外科	1
		産婦人科	2
第6回	令和5年10月27日	産婦人科	1
第7回	令和6年2月16日	脳神経内科	1
計			20

部会メンバー　◎西田　勉、○茶山公祐、大畠香代子、高田幸治、小杉　智、赤羽美樹子、岸田容之、角山伊知郎、山台亮太、岡村素子、有澤陽子、記田めぐみ

部会の目的　市立豊中病院で実施を申請された保険適応外診療に関して倫理的、科学的、社会的観点から実施の可否について審議し、その結果を市立豊中病院倫理委員会の委員長に報告する。

■臨床倫理部会

開催回数　臨床倫理部会1回、臨床倫理事例検討会1回

議事内容

【臨床倫理部会】

開催回	開催日	申請者所属	件数
第1回	令和5年11月17日	血液内科	1
計			1

【臨床倫理事例検討会】

開催回	開催日	申請者所属	件数
第1回	令和6年3月26日	産婦人科	1
計			1

部会メンバー　◎田所誠司、○森原剛史、中川　理、今村博司、西尾雅実、中上紀子、松向寺真彩子、二宮由紀恵、岡村素子、有澤陽子、記田めぐみ

部会の目的　市立豊中病院臨床倫理実践指針においては、ある患者について医学的・科学的判断だけでなく、倫理的問題を同定し解決することが求められ、より良い倫理的意思決定を模索する必要があると判断されるとき、その患者の主治医または担当看護師は、所属診療科部長あるいは所属看護師長と協議し、臨床倫理事例検討会を開催するとされている。このような臨床倫理事例検討会での討議に関与したり、院内で生じる様々な臨床倫理的課題に対応することを目的とする。

■研修医サポートチーム

開催回数　3回

議事内容

第1回　令和5年6月2日　1. サポートチーム委員と設置要綱
2. 勉強会、実習、予定確認　他

第2回　令和5年9月15日　1. 次年度予算申請に関して
2. ランチョンセミナー再開について　他

第3回　令和6年1月30日　1. 令和6年度オリエンテーションについて
2. 次年度の宣伝媒体について　他

委員会メンバー　◎西田　勉、○楠　康生、飯田卓馬、高橋弘毅、村田　尚、加藤　恵、小林　晶、小澤孝幸、和田紘実、甘中亮佑、浜野彰太、事務局　齊藤健文、酒井隆浩、登日春花

委員会の目的　当院における初期研修医の教育改善をする。

今後の目標　初期研修医の教育の向上と充実した研修を行う。

■臨床研修管理委員会

開催回数　4回

議事内容

第1回　令和5年4月26日　1. 臨床研修管理委員会設置要綱の改訂
2. 令和5年度管理委員会メンバー紹介　他

第2回　令和5年9月20日　1. 令和6年度採用初期研修医の定数について
2. 令和6年度採用初期研修医の採用試験結果及びマッチング順位について　他

第3回　令和5年12月12日　1. 研修進捗状況
2. 令和5年度研修医マッチング結果　他

第4回　令和6年3月21日　1. 令和4年度採用臨床研修医12人の研修修了認定について
2. 令和5年度採用臨床研修医11人の進捗状況について　他

委員会メンバー　◎岩澤　卓、○岩橋博見、大東幹彦、斉藤百恵、山内一浩、富山幸穂

委員会の目的	市立豊中病院の卒後医師臨床研修の統括管理を行う。
今後の目標	・臨床研修について適切な情報収集と評価を行い、検証を重ねて優秀な医師を育てる。 ・2年間の研修修了後も病院の診療に必要な後期研修医を確保する。

■医学雑誌編集委員会

開催回数	0回
委員会メンバー	◎足立史朗
委員会の目的	病院医学雑誌の編集作業
今後の目標	論文投稿を募る

■新型コロナウイルス感染症対策幹部会議

開催回数	5回	
議事内容	第1回　令和5年4月7日	1. 5月8日以降のコロナ病床確保について
	第2回　令和5年7月20日	1. コロナ陽性事例に関する経過報告
	第3回　令和5年7月24日	1. コロナ陽性事例に関する経過報告
	第4回　令和5年7月31日	1. コロナ受入病床（軽症中等症病床）のフェーズ切替検討について
	第5回　令和6年3月18日（メール開催）	1. コロナ陽性事例に関する経過報告
委員会メンバー	◎直川俊彦、吉川秀樹、岩橋博見、藤田幸恵、中川　理、岩澤　卓、今村博司、西尾雅実、西田　勉、阿部欣也、豊田聡司、越智比奈子、大東幹彦、大澤亮太、鈴木徳洋、赤瀬　望、秋田瑞恵、岡村素子、檜垣奈緒	
委員会の目的	新型コロナウイルス感染症に関する対応が必要な際に、迅速に審議を行う。通常の医療提供体制への移行期間終了に伴い、令和6年3月31日に廃止。	

■医師の働き方改革検討ワーキンググループ

開催回数	1回	
議事内容	第1回　令和5年12月26日	1. 医師の働き方改革スケジュールについて 2. 医師の働き方改革に関する各プロジェクトの進捗状況について　他
委員会メンバー	◎岩澤　卓、○中川　理、西田　勉、栗山幸治、高田幸治、茶山公祐、辻江智子、岡内幸義、鈴木陽三、後藤　哲、佐藤元孝、福田俊悟、早野絵梨、斉藤百恵、齊藤健文、重田泰宏、森本康平、直井雄輝、三好奈実	
委員会の目的	市立豊中病院内において、医師の働き方改革を進めるため、医師の働き方改革推進会議設置要綱第5条に基づき、「医師の働き方改革検討ワーキンググループ」を設置する。	
今後の目標	医師の働き方改革検討ワーキンググループ設置要綱第2条に基づく所掌事務について、医師の働き方改革推進会議から要請があった場合は、迅速にこれを調査審議する。	

■タスクシフト及びタスクシェア検討部会

開催回数	1回	
議事内容	第1回　令和6年 3月13日	1. 市立豊中病院看護師特定行為管理委員会設置について 2. コメディカルの現行制度下で実施可能な業務一覧について
委員会メンバー	◎今村博司、○岩橋博見、田所誠司、山本政司、熊田全裕、山下雅史、栗山幸治、西尾雅実、辻江智子、高田幸治、生島忠久、山内一浩、大川知之、岩崎守弘、井上文子、	

	木本正美、齊藤健文、石原公代、大江彰彦、斉藤百恵、重田泰宏、藤岡春菜、清木隆之、大東幹彦、大澤亮太
委員会の目的	タスクシフト及びタスクシェアの推進による医師の労働時間短縮。
今後の目標	コメディカル部門の業務受入余力の確保。

■地域研修委員会

開催回数	3回
議事内容	第1回　令和5年5月26日　1. 市立豊中病院地域研修委員会の設置要綱について 2. 令和4年度地域医療従事者向け研修について 第2回　令和5年9月22日　1. 令和5年度地域医療従事者向け研修の実績と今後の予定について 第3回　令和6年1月26日　同　上
委員会メンバー	◎中川　理、○小杉　智、福井浩司、栗山幸治、岡内幸義、大畠香代子、大西智香子、角山伊知郎、大澤亮太、松永啓太、長谷部ひとみ、戸嶋由江、溝渕智也
委員会の目的	地域医療支援病院の承認要件である、地域医療従事者向け研修の開催や保険医療情報の提供を行うための体制や環境整備について議論する。
今後の目標	地域医療従事者向けの研修会開催や保健医療情報の提供について、医療の現状にあった話題等を取り上げ、研修会の企画や保健医療情報の収集を行う。 また、外部公的医療機関や大阪府・厚生労働省などが実施する研修会や保健医療情報を調査収集し、地域医療従事者に広報する。

■地域医療ネットワーク委員会

開催回数	16回（メール開催（第1回～第10回、第12回～第16回）を含む）
議事内容	第1回　令和5年4月3日　1.「市立豊中病院ネット」の新規参加申請について 第2回　令和5年4月18日　同　上 第3回　令和5年5月2日　同　上 第4回　令和5年5月11日　同　上 第5回　令和5年5月15日　同　上 第6回　令和5年5月17日　同　上 第7回　令和5年5月29日　同　上 第8回　令和5年6月20日　同　上 第9回　令和5年6月30日　同　上 第10回　令和5年7月7日　同　上 第11回　令和5年9月26日　1.「阪大病院ネット」運用開始について 2.「関西メディカル病院ICTネット」の参加について 第12回　令和5年10月13日　1.「市立豊中病院ネット」の新規参加申請について 第13回　令和5年10月31日　同　上 第14回　令和5年12月11日　同　上 第15回　令和6年1月18日　同　上 第16回　令和6年3月15日　同　上
委員会メンバー	◎中川　理、○松永啓太、清水潤三、西田　勉、辻江智子、吉良　章、長谷部ひとみ、西川晃代、橋田茂樹、中川雅文（事務局）
委員会の目的	地域医療連携ネットワークシステム「市立豊中病院ネット」の安全で効果的な運用を実現すること。
今後の目標	「市立豊中病院ネット」の利用推進と効果的な運用を行い、質の高い共同診療を実現する。

■診療記録開示検討委員会

開催回数	1回
議事内容	第1回　令和5年12月15日　1. 診療記録開示検討委員会設置要綱について 2. 診療記録の開示に関する要綱の改訂について　他
委員会メンバー	◎岩橋博見、○中上紀子、藤田幸恵、大東幹彦、西尾雅実、横江　勝、吉良　章、福田民江、荒木邦章、白田満子
委員会の目的	インフォームド・コンセントの理念や、個人情報保護の考え方を踏まえ診療記録の開示に関する具体的方策、実施規定を定め個々の請求に対して慎重かつ公平を図る。
今後の目標	診療記録の開示が適切に執行できるよう、業務やマニュアル等の改善につとめ、適正な開示を維持する。

■養育支援チーム

開催回数	8回
議事内容	第1回　令和5年5月7日［養育支援委員会と同時開催］　1. 養育支援に係る関連部門との連携検討 2.マニュアルの改訂
	第2回　令和5年6月6日［養育支援委員会と同時開催］　1. 養育支援体制加算に係る職員研修について 2. 養育支援に係る関連部門との連携検討
	第3回　令和5年7月4日［養育支援委員会と同時開催］　1. 養育支援体制加算に係る職員研修について 2. 養育支援に係る連携窓口の検討
	第4回　令和5年9月5日［養育支援委員会と同時開催］　同　上
	第5回　令和5年12月5日［養育支援委員会と同時開催］　同　上
	第6回　令和6年1月9日［養育支援委員会と同時開催］　1. 養育支援体制加算に係る職員研修について 2. 児童虐待に係るチェック体制・業務フローの検証・検討
	第7回　令和6年2月6日［養育支援委員会と同時開催］　1. 養育支援体制加算に係る職員研修について 2. 児童虐待に係るチェック体制・業務フローの検討
	第8回　令和6年3月6日［養育支援委員会と同時開催］　1. 養育支援に係る連携窓口の検討 2. 児童虐待に係るチェック体制等の確認
委員会メンバー	◎茶山公祐、○徳永康行、辻江智子、森原剛史、岡野祐子、掛布美樹、濵田紀子、堀田和佐、森脇弘子、濱本香織、山中仁美、平野正美、中川雅文
委員会の目的	不適切な養育等が疑われる児童に対する具体的な相談・支援等行うため。
今後の目標	引き続き、主治医及び他職種と十分な連携をとって養育支援を行う。

■褥瘡対策チーム

開催回数	48回
議事内容	第１－48回　毎週木曜日午後 1. 褥瘡保有患者の全身状態と褥瘡状態の確認 2. 褥瘡の治療促進ケア、褥瘡ハイリスク患者の予防ケア方法　他
委員会メンバー	◎横見明典、伊藤輝代美、浦辺千津子、大西智香子
委員会の目的	市立豊中病院における褥瘡の予防および治療効果を上げることを目的とする。
今後の目標	・医療関連機器圧迫創傷を含めた褥瘡推定発生率を1.2%以下に維持する。 ・褥瘡の改善率を維持、向上させる。

■医療放射線管理委員会

開催回数	1回
議事内容	第1回　令和6年2月28日 1. 診療用放射線安全利用のための研修についての現況報告 2. 令和5年度対象医療機器についての線量管理・線量記録報告について　他
委員会メンバー	◎中田早紀、○生島忠久、永井啓介、深美智彦、寺澤裕司、横山賢子、宮﨑　拓
委員会の目的	医療法施行規則に基づき、診療用放射線の安全で有効な利用を確保することを目的とする。
今後の目標	市立豊中病院における、放射線診療の正当化又は患者の医療被ばくの防護の最適化を目標とする。

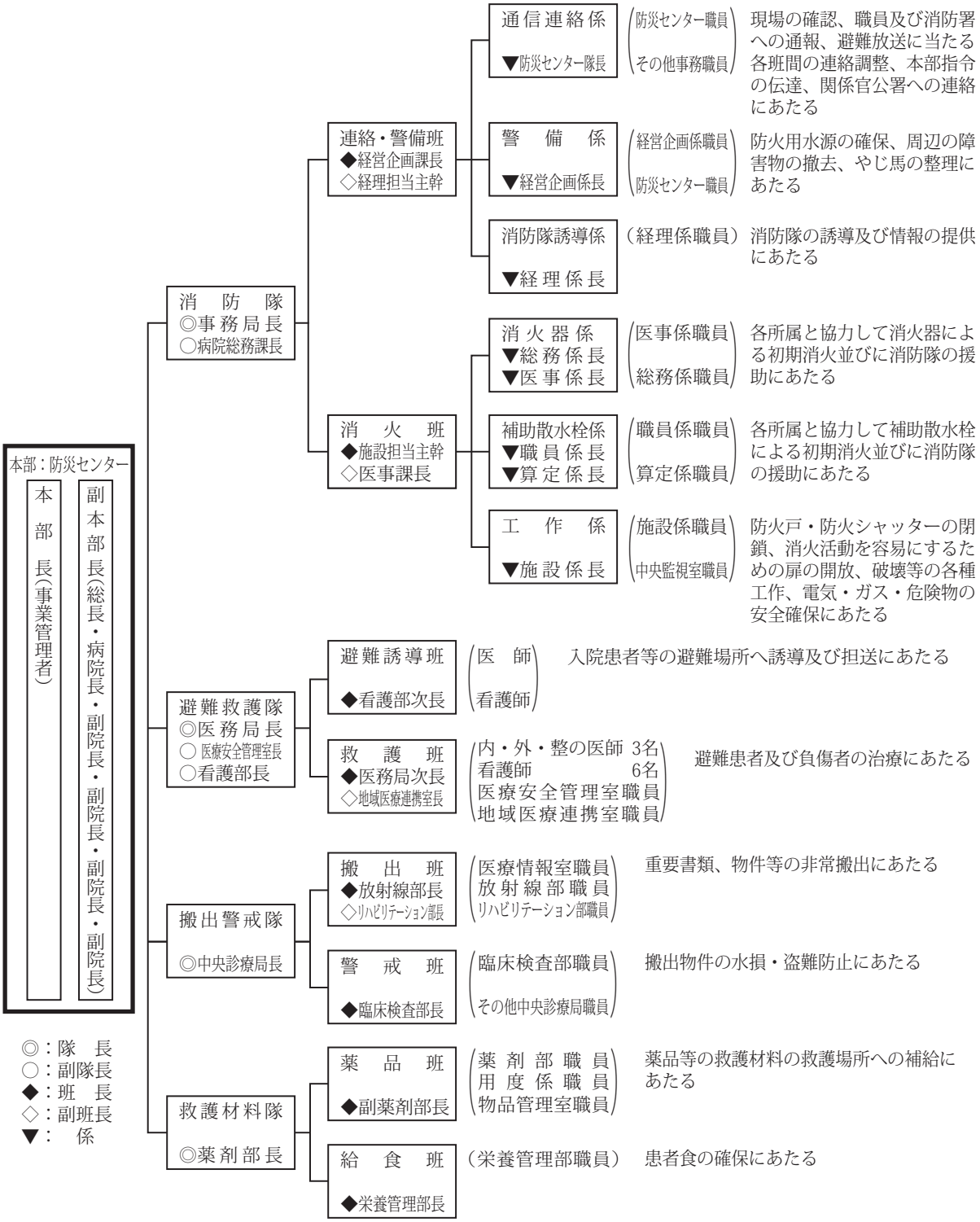
■透析機器安全管理委員会

開催回数	1回
議事内容	第1回　令和6年3月18日　1. 透析装置メンテナンス状況 2. 透析液水質について　他
委員会メンバー	◎竹治正展、○岩崎守弘、楠　康生、村木　瞳、江原　和、滝本　拳
委員会の目的	人工透析療法が必要な患者に対し安全な人工透析を施行する。
今後の目標	透析液の清浄化の確保、透析機器の保守管理を計画的に行ない、安全に人工透析が行える環境を維持する。

Ⅳ　防災体制

自衛消防隊編成表（平日昼間）

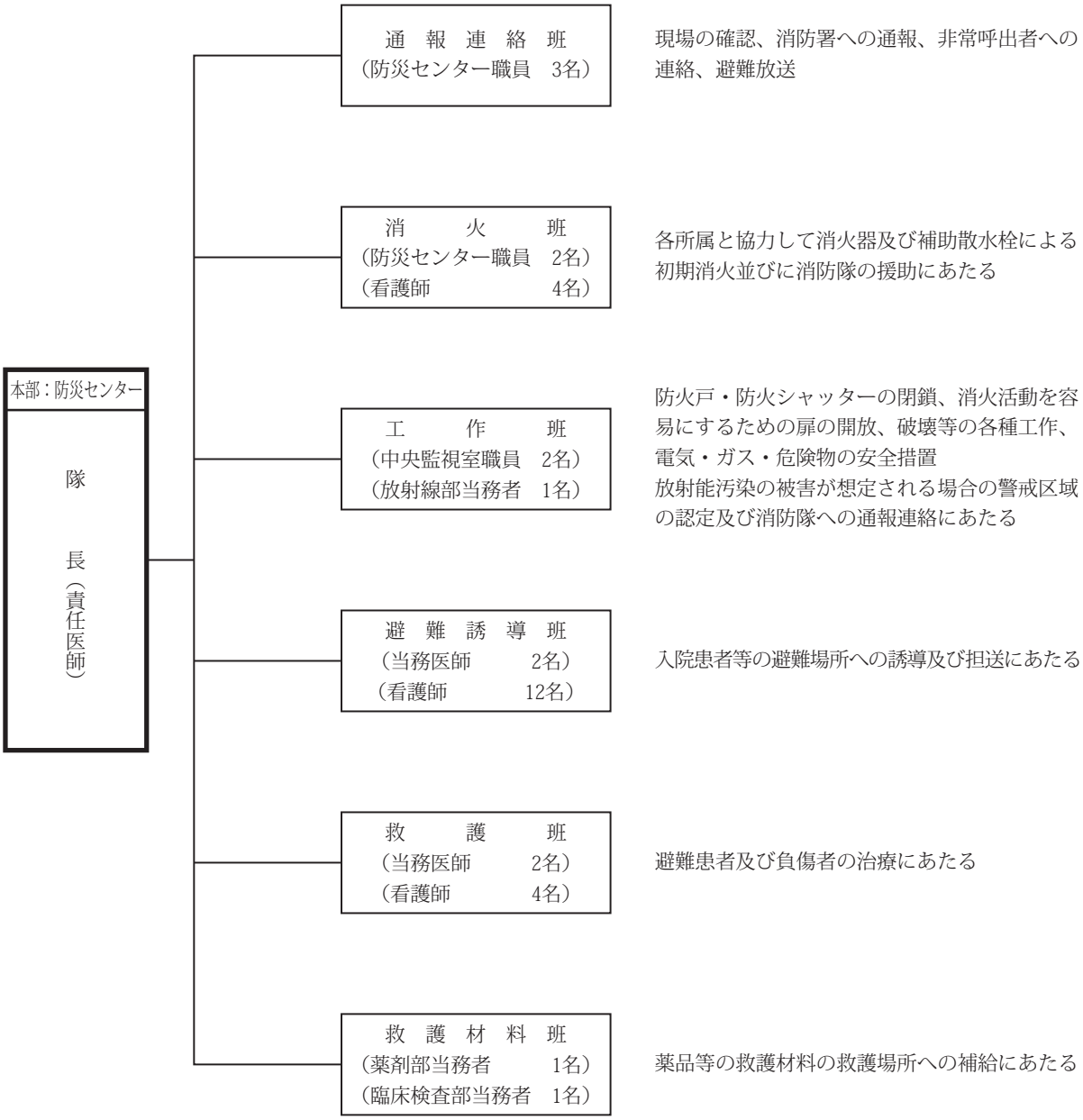
令和6年3月31日現在



（注）1.　本編成表に記載のない職員等は、有事の際は初期消火及び避難誘導活動にあたること。
2.　各病棟看護師長は、入院患者等の避難誘導（人員検索を含む）にあたっては、常に自己の管理する病棟の状況に即した誘導方法及び任務の分担を予め定めておくものとする。
3.　各班は任務に基づく活動のほか、火災等の発生場所により次の活動を行うものとする。
（a）出火階以下への連絡、消火班は出火階及び出火階以上の階の入院患者の救出救護及び避難誘導の応援にあたること。
（b）出火階以下の避難誘導班は、上層階からの避難に支障とならないよう誘導すること。
（c）その他、防災の本旨に基づく活動を行うこと。

自衛消防隊編成表（休日及び夜間）

令和6年3月31日現在

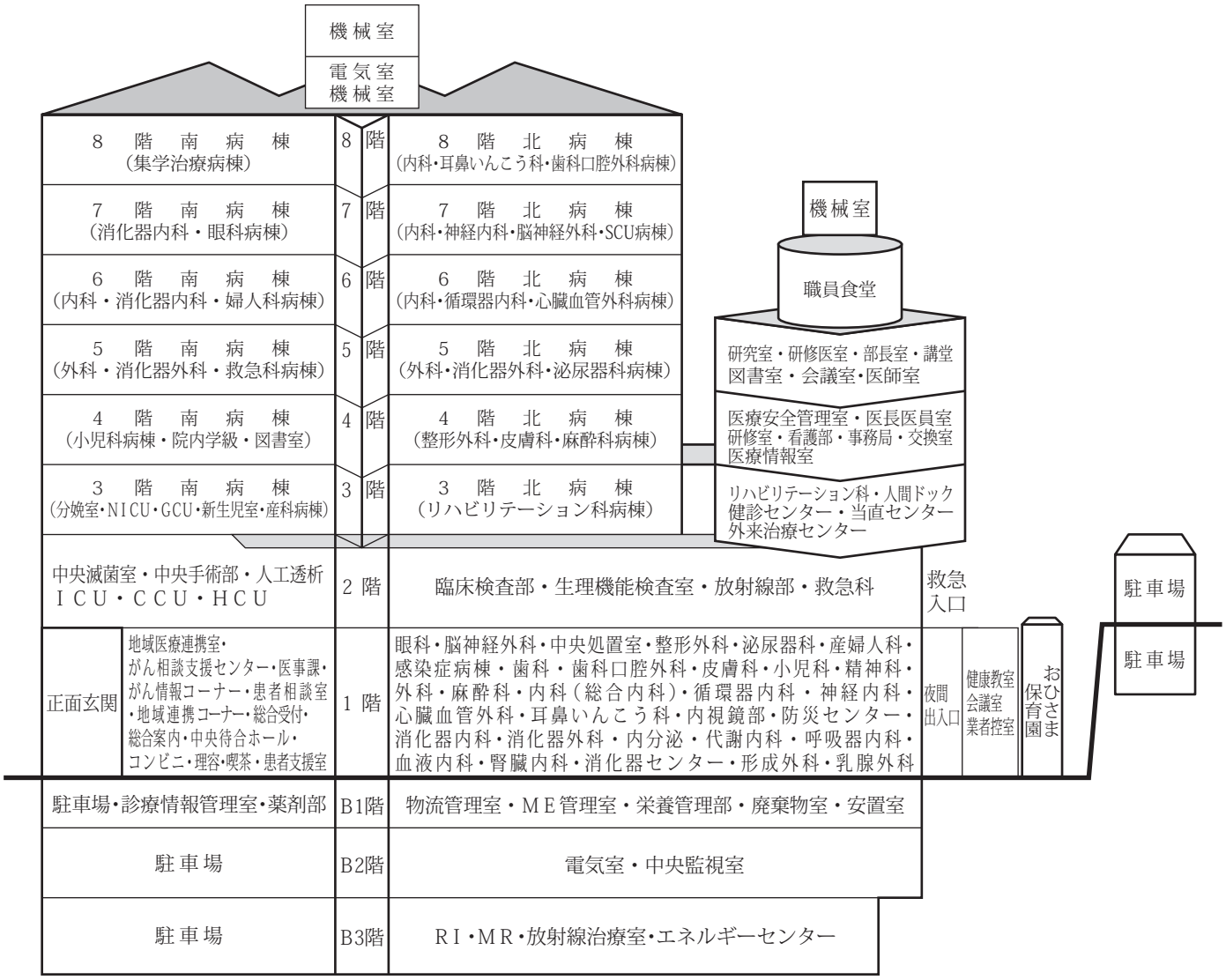


（注）1．休日・夜間における自衛消防隊の隊長は「責任医師」とし、当務表に表示する。
2．防災センター職員は、有事の際は「別紙5」の非常呼出職員に連絡すること。
3．病棟看護師長は、入院患者等の避難誘導（人員検索を含む）にあたっては、常に自己の管理する病棟の状態に即した誘導方法及び任務の分担を予め定め、休日及び夜間勤務看護師に適切に指示しておくものとする。
4．各班は任務に基づく活動のほか、火災等の発生場所により次の活動を行うものとする。
（a）出火階以下への連絡、消火班は出火階及び出火階以上の階の入院患者の救出救護及び避難誘導の応援にあたること。
（b）出火階以下の避難誘導班は、上層階からの避難に支障とならないよう誘導すること。
（c）その他、防災の本旨に基づく活動を行うこと。
※責任医師は、救急科の管理当務医師であり、内科医師及び外科医師とする。

Ⅴ　病院配置図

令和6年3月31日現在

敷地面積　28,364㎡
建物延面積　67,544㎡



診療部門の現況と研究研修事項

Ⅰ 医務局の現況と研究研修事項
Ⅱ 中央診療局の現況と研究研修事項
Ⅲ 薬剤部の現況と研究研修事項
Ⅳ 看護部の現況と研究研修事項
Ⅴ がん診療部の現況と研究研修事項
Ⅵ 患者総合支援部の現況と研究研修事項
Ⅶ その他の部門の現況と研究研修事項
Ⅷ 新型コロナウイルス感染症にかかる取組みについて

Ⅰ　医務局の現況と研究研修事項

〔医務局の現況〕

令和5年度の診療科数は、内科、外科が専門領域に分かれ、形成外科が新設された。その結果、31科で構成されている。内科（総合内科）、内分泌・代謝内科、呼吸器内科、血液内科、腎臓内科、脳神経内科、消化器内科、循環器内科、精神科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、救急科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科）

年度当初の医師・歯科医師数は、総数199名で令和4年度末に56名が退職、令和5年度初めに55名が入職された。

医務局内の人事では、4名が部長に昇格された。

当院では医師・歯科医師の自治組織として「医会」が組織されており、毎月第2月曜日に本会が開催され情報伝達や意見交換を行っている。今年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行したが、新入職者の歓迎会や懇親会、忘年会等の医局行事は開催されなかった。

新型コロナウイルス感染症が5類となり、新型コロナウイルス感染症での入院患者数は減少したものの一定の数の入院はあり、一般病棟での対応をすることとなった。新型コロナウイルス感染症で縮小していた診療体制はすこしずつ従来の状態をめざすこととなった。減少していた外来患者数、入院患者数を増加させることが課題となった。

1. 内科（総合内科）

＜現　況＞

当院の「内科系診療科」は、令和5年度より「血液内科」、「内分泌・代謝内科」、「腎臓内科」、「呼吸器内科」、「脳神経内科」、「消化器内科」、「循環器内科」の7つの専門診療科で構成されることになった。それぞれの診療科は専門性の高い診療を行っているが、高齢者の肺炎や尿路感染症など、専門性の低い疾患については、これら内科系診療各科が輪番で担当することとなるため、それらを統括する存在として「総合内科」が設置された。「総合内科」は、主任部長1名（血液内科部長が兼任）を置き、これを補佐する3名のコアメンバー（腎臓内科、内分泌・代謝内科、呼吸器内科の各医長1名ずつが兼任）を設定した上で、内科系診療科医師全員が所属するという形をとっている。

令和5年度に総合内科として診療した入院患者は810例にのぼり、その内訳は以下のとおりである。

誤嚥性肺炎	50例	腸炎	35例	不明熱	56例	アナフィラキシー	8例
肺炎	205例	敗血症	8例	脱水	23例	その他	107例
尿路感染症	110例	COVID-19	206例	熱中症	2例		

入院経路としては、救急外来からが692例と最も多く、次いで内科外来初診患者64例、他院からの転院患者52例、外科系診療科からの転科2例となっている。

外来に関しては、月曜、水曜、木曜、金曜に「内科（総合内科）」外来を設置し、血液内科、内分泌・代謝内科、呼吸器内科、腎臓内科の各部長が、地域の実地医家の先生方からの紹介に対応している。専門診療が適応と判断された場合には、前述の当院における各専門診療科へと繋いでいくこととしているが、膠原病関連疾患については当院に専門医がいないため、腎、肺、消化器の臓器障害が中心的病態でなければ、専門医のいる他院へ診療を委ねることが多くなっている。

今後も益々、地域の中核病院として、救急患者を含めた新入院患者数を増加させ、急性期医療に貢献していきたい。

＜今後の課題＞

年度内に退院した778例の退院先の内訳は、自宅退院470例、施設退院83例、転院136例、専門診療科への転科44例、死亡45例であった。自宅退院症例の平均在院日数が10.7日であるのに対し、施設退院例は18.3日、転院症例は25.1日と長くなっており、明らかに後送医療機関との連携に時間を要していることが見て取れる。今後、新規入院患者の増加を図るためには、こうした後送患者を受け入れてもらえる地域医療機関との連携を迅速かつスムーズに行うことが必要である。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

内科医会……週1回

2. 内分泌・代謝内科

＜現　況＞

今年度は常勤医が、清水医員（H29卒）、懸髙医員（H28卒）、稲田医長（H20卒）、岡内部長（H13卒）、岩橋部長（H2卒）の5名、専攻医が、斉藤医師（H31卒）の1名の構成メンバーであった。

今年度から診療科再編に伴い内分泌・代謝内科として独立して病棟・外来運営を行うこととなり、入院患者については専門疾患は内分泌・代謝内科として、内科一般疾患については総合内科として入院治療を担当した。

糖尿病（内分泌）専門外来は、月曜日から金曜日まで毎日予約診療を行い、糖尿病透析予防外来も、毎月第一水曜日の午後に実施した。当科への紹介患者は、糖尿病以外にも、甲状腺疾患、副腎疾患、下垂体疾患、電解質異常、脂質代謝異常、痛風など多岐にわたるが、豊中市を含め、広く豊能地区以外からもご紹介いただいている。ご紹介していただいた患者は、外来および入院で診断が確定し、治療方針が固まれば、逆紹介を行っている。また通常の専門外来と並行して肥満外来を週1回（水）実施し、消化器外科や肥満症治療チームと連携して適応例に対しては肥満外科手術に繋げている。

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が5類感染症に移行したことを受け、同症での入院患者が一般内科診療扱いとなり、当科が通常受け入れている専門疾患の患者数は257例と前年度と比して若干増加し、総合内科として担当した一般内科疾患の患者数は166例であった。当院の他診療科に入院し、当科が共観として診療に携わった患者数は535名に上り、糖尿病を併存する患者が、他疾患の精査加療目的で入院された場合には、当科が専門的に血糖コントロールを行い、当院で安心して治療にあたることができるように努めている。糖尿病の教育入院、血糖コントロール目的の入院は、主に1週間パスや2週間パスを稼動させ、治療の標準化を図っている。原発性アルドステロン症の機能検査目的のパス入院も、今年度は12例に対して行った。副腎腫瘍については、機能性であれば手術を考慮して副腎静脈サンプリングを行い、泌尿器科に院内紹介し、必要に応じて腫瘍摘出術を行っている。救急入院患者には、呼吸器・尿路感染症を中心とする一般内科疾患と、糖尿病ケトアシドーシス（DKA）・高浸透圧高血糖状態・低血糖症などがある。

学術活動は、英文論文が3編、日本語論文が1編、学会発表は9件であった。また、糖尿病センターとして毎年出展してきた豊中市の市民健康展は、COVID-19の5類移行を受けて4年ぶりに出展し内臓脂肪測定会や糖尿病・メタボリックシンドロームの疾患啓発ポスターの展示を行った。また当院の糖尿病患者会の「とよなか倶楽部」も、その関連行事を再開し、5月、11月の講演会では岩橋病院長、岡内部長がレクチャーを行い、また11月に4年ぶりに開催されたウォークラリーにも患者会メンバーとともに参加した。

＜今後の課題＞

これまでも内分泌・代謝内科は糖尿病診療・患者教育にあたって看護師や薬剤師、栄養士など様々な職種と連携してきたが、令和6年度からより効率的で適切な診療を行うために、「糖尿病センター」という院内組織として活動を行っていくこととなった。本センターでは内分泌・代謝内科の医師のみならず、小児科医師も新たにメンバーに加わり、小児糖尿病の医療も当センターで協力して担う体制を整えた。またこれまで同様、専門性を有する看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床心理士、理学療法士、臨床検査技師もメンバーとして運営する。これら多職種で患者指導を行うことで、糖尿病に対する患者の理解を深め、また合併症管理を目的として、循環器内科、脳神経内科、腎臓内科、皮膚科、精神科と、また妊娠糖尿病の管理を目的として産科と、さらにがんの早期発見と発症後の予後改善を目的に消化器センターと、医師同士だけでなく、多職種間での連携を図る。人生の様々なステージにおいて「糖尿病のない人と変わらない人生」の達成をめざし、「患者の人生に寄り添った診療」を提供することを目的とする。

1. 地域の医師に広くアピールすることによって入院・外来患者数を増やし、適切な集患、逆紹介の推進で病院の経営基盤を安定させる。

2. 地域と連携した糖尿病患者の継続診療と合併症予防の取組みを行う。地域に逆紹介した患者も必要に応じ

糖尿病連携手帳などを用いてかかりつけ医と連携を取りながら治療動向を把握し、定期的に合併症評価を行う。

3. これまでも北摂医療圏で糖尿病ケトアシドーシスや感染症などでシックデイ状態に至った糖尿病患者の受入れを積極的に進めており、糖尿病緊急症、シックデイ患者の受入れや糖尿病併存がん患者の治療支援を進めていく。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

内科（内分泌代謝）カンファレンス……週1回

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■とよなか倶楽部　第50回糖尿病講演会　◎
「人生百年時代を”生ききる”ための心構え」
岩橋博見　豊中市、市立豊中病院　参加者：16名　令和5年6月17日

■第47回豊中糖尿病勉強会　◎
「より進化・深化した病診連携へ～市立豊中病院糖尿病センターの新たな挑戦～」
岡内幸義　豊中市、市立豊中病院　参加者：32名　令和5年6月17日

■第48回豊中糖尿病勉強会　◎
「GLP-1RA, SGLT2阻害薬を安全に使うために」
斎藤　匠　豊中市、市立豊中病院　参加者：34名　令和5年11月11日

刊行論文

■Glucose control in the early phase of hospitalization is associated with severe prognosis in coronavirus disease 2019 (COVID-19) patients with diabetes in Japan.
Okauchi Y, Sakamoto R, Kaketaka T, Yamabayashi E, Kubori M, Inada S, Morimura O, Otani Y, Abe K, Nishida T, Iwahashi H.
Diabetol Int.　14（4）：406-412, 2023

■A case of IgG4-related hypophysitis maintained remission of diabetes insipidus for over 3 months after completion of steroid treatment.
Kubori M, Fujimoto M, Okauchi Y, Matsuno K, Yamabayashi E, Sakamoto R, Inada S, Iwahashi H.
Endocrinol Diabetes Metab Case Rep.　2023（4）：23-0007, 2023

■糖尿病性舞踏病の発症を契機に新規に診断された非高齢肥満2型糖尿病の1例.
横山太陽、岡内幸義、懸髙知子、久堀元博、塩出俊亮、伊藤直彦、岩橋博見
糖尿病　66（9）：691-696, 2023

■Gastrointestinal symptoms in 609 Japanese patients with COVID-19: a single-center retrospective study.
Kuriki S, Nishida T, Chang LS, Hosokawa K, Fujii Y, Osugi N, Nakamatsu D, Matsumoto K, Yamamoto M, Morimura O, Abe K, Okauchi Y, Iwahashi H, Inada M.
Scand J Gastroenterol.　58（10）：1139-1144, 2023

学会発表

■進行食道胃接合部癌に対してニボルマブ投与終了後に副腎皮質機能低下症を発症した1例
富山幸穂、岡内幸義、平野誠也、吉田侑佳、懸髙知子、稲田慎也、川瀬朋乃、岩橋博見
医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ2023東京
東京都　千代田区、東京国際フォーラム　令和5年4月15日

■胃前庭部に孤発した異所性インスリノーマの 1 例
平野誠也、稲田慎也、吉田侑佳、懸高知子、岡内幸義、岩橋博見
第66回日本糖尿病学会年次学術集会
鹿児島県　鹿児島市、かごしま県民交流センター　令和5年5月11日－13日
■多職種による治療支援により血糖改善、減量を維持し得た当院第一例目の肥満外科手術例についての検討
井上文子、岡内幸義、下須賀香奈子、柳本喜智、岩橋博見
第66回日本糖尿病学会年次学術集会
鹿児島県　鹿児島市、かごしま県民交流センター　令和5年5月11日－13日
■高齢糖尿病患者の治療効果に関連するセルフケア能力とその関連因子の検討
柴田明日香、岡内幸義、下須賀香奈子、橋本千穂
第66回日本糖尿病学会年次学術集会
鹿児島県　鹿児島市、かごしま県民交流センター　令和5年5月11日－13日
■術後約40年の経過で再発した原発性副甲状腺機能亢進症の1例
吉田侑佳、岡内幸義、平野誠也、懸高知子、稲田慎也、岩橋博見
第95回日本内分泌学会学術総会
愛知県　名古屋市、ハイブリッド開催（名古屋国際会議場）　令和5年6月1日－3日
■灸治療による熱傷受傷後にMSSA椎体炎を来した糖尿病症例
山野　茜、岡内幸義、吉田侑佳、平野誠也、懸高知子、稲田慎也、岩橋博見
第240回日本内科学会近畿地方会
兵庫県　神戸市、神戸国際会議場　令和5年6月24日
■DM合併COVID-19患者において新規指摘のDMは血糖値と独立した重症化リスク因子である
清水　成、岡内幸義、斉藤　匠、懸高知子、稲田慎也、岩橋博見
第60回日本糖尿病学会近畿地方会
兵庫県　神戸市、神戸国際会議場　令和5年10月14日
■PRO（patient reported outcome）から考える糖尿病治療の在り方～治療意欲（モチベーション）の重要性～
岩橋博見
第60回日本糖尿病学会近畿地方会
兵庫県　神戸市、神戸国際会議場　令和5年10月14日
■軽症～中等症対応病院において栄養障害と糖尿病はCOVID-19重症化にどう影響するか
齊藤直輝、岡内幸義、金谷愛子、井上文子、岩澤　卓
第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会
神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜ノース　令和6年2月15日－16日

研究会・集談会発表

■診断・治療においてSASI testの必要性について検討した胃前庭部孤発異所性インスリノーマの一例
平野誠也、稲田慎也、吉田侑佳、懸高知子、岡内幸義、岩橋博見
第16回大阪内分泌･代謝クリニカルカンファレンス
大阪市、グランフロント大阪　令和5年6月10日
■DM合併COVID-19患者において新規指摘のDMは血糖値と独立した重症化リスク因子である
清水　成、岡内幸義、斉藤　匠、懸高知子、稲田慎也、岩橋博見
第74回 月曜会（大阪大学内分泌・代謝研究会）　Web開催　令和5年12月2日

講習・講演

■当院におけるエンレストの使用状況～糖尿病患者における使用前後の変化とともに～
岡内幸義
豊能糖尿病・代謝を考える会
豊中市、千里朝日阪急ビル　令和5年6月23日

■胆汁排泄型選択的DPP-4阻害剤は幅広い2型糖尿病患者さんに対応可能か
岡内幸義
糖尿病治療のRoadmap2023
大阪市、ハービスプラザ　令和5年9月15日

■感染症と糖尿病：血糖コントロールの重要性
岩橋博見
第7回　糖尿病治療ネットワーク in Toyonaka
豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和5年10月21日

■糖尿病性腎臓病(DKD)の外来管理について～糖尿病専門医の立場から～
稲田慎也
第7回　糖尿病治療ネットワーク in Toyonaka
豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和5年10月21日

■市立豊中病院糖尿病センターの新たな挑戦～より進化した病診連携、市民啓発に向けて～
岡内幸義
Diamond Seminar～地域で繋がる糖尿病診療～　Web開催　令和6年3月16日

■高TG血症合併の糖尿病患者さんにペマフィブラートをどう使うか
岡内幸義
豊中市病診連携の会
豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和6年3月23日

司会・座長・その他

■司会：岩橋博見
「より進化・深化した病診連携へ　市立豊中病院糖尿病センターの新たな挑戦」
演者：市立豊中病院　岡内幸義
第47回　豊中糖尿病勉強会
豊中市、ハイブリッド開催（市立豊中病院　講堂）　令和5年6月17日

■座長：岩橋博見
「糖尿病を持つ人の視点からPRO（patient reported outcome）で読み解くGLP-1製剤の評価」
演者：公立大学法人　奈良県立医科大学　医師・患者関係学講座　教授　石井　均
第14回　北摂インスリンセミナー
豊中市、千里阪急ホテル　令和5年6月30日

■closing remarks：岡内幸義
「糖尿病×肝疾患」病診連携セミナーin北摂
豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和5年8月26日

■座長：岩橋博見
「糖尿病高齢化時代におけるリベルサスのポジショニング」
演者：市立藤井寺市民病院　病院長　内本定彦
第7回　糖尿病治療ネットワーク in Toyonaka
豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和5年10月21日

■座長：岩橋博見
「GLP-1RA、SGLT2阻害薬を安全に使うために」
演者：市立豊中病院　斉藤　匠
第48回　豊中糖尿病勉強会
豊中市、ハイブリッド開催（市立豊中病院　講堂）　令和5年11月11日

■座長：岡内幸義
「CGMを活用した糖尿病診療について」
演者：国立病院機構大阪医療センター糖尿病・内分泌内科部長　加藤　研
2023年度　豊中CDEセミナー
豊中市、市立豊中病院　講堂　令和5年11月18日

■座長：岩橋博見
「代謝栄養学は日常診療にどう生かされるか？」
演者：藤田医科大学医学部　臨床栄養学講座教授　飯塚勝美
第74回月曜会（大阪大学内分泌・代謝研究会）　Web開催　令和5年12月2日

■座長：岩橋博見
「トリグリセライド管理の重要性とSPPARMαへの期待」
演者：地方独立行政法人りんくう総合医療センター理事長　山下静也
豊中市病診連携の会
豊中市、ハイブリッド開催（千里ライフサイエンスセンター）　令和6年3月23日

3.　呼吸器内科

＜現　況＞

呼吸器内科の診療担当医は、スタッフ4名、後期研修医3名、初期研修医1～2名である。病棟が再編され5階北病棟に専門病床を持っているが、他病棟入院も含めて常に25～35名程度の入院患者があり、他科からのコンサルトにも応じている。

令和5年度は4年度に引き続きCOVID-19への対応が必要であったが、COVID-19用病床数確保に伴う一般病床の削減は徐々に減らすことができた。但しCOVID-19は継続して発生しており、今後も対応が必要である。令和5年度の入院患者数はCOVID前に比べてほぼ同程度まで回復している。気管支鏡施行数もほぼ例年どおりに回復している。入院患者を疾患別にみると、肺炎は主に総合内科が担当することになったため呼吸器内科としては減少しており、肺癌が入院の主要疾患となった。肺癌は外科・放射線科・脳神経外科と連携し集学的治療を行っており、外来化学療法も積極的に行っている。肺癌治療は新規薬剤、抗癌剤の新規適応が続いており、治療対象の患者も年々増加傾向である。肺癌・肺炎・気管支喘息・COPD等はガイドラインに準拠して治療を行っている。肺癌・自然気胸・膿胸に対しては早期より外科と相談しながら治療方針を決めており、手術対象となる症例がスムーズに外科へ転科できるよう配慮している。個々の患者のQOLも考慮して、なるべく長期入院にならないようクリニカルパスを活用している。

令和5年度の気管支鏡の症例数は149例となっている。

日本呼吸器学会・日本呼吸器内視鏡学会認定施設に認定されている。

＜今後の課題＞

日本において肺癌、COPDの死亡数は年々増加してきているが、全国的に呼吸器科医が不足している。大学医局と連携し、呼吸器科医の確保をめざしている。また大阪府は後期研修医採用数にシーリングをかけられており、後期研修医の確保が困難になってきている。

COVID-19は令和5年5月8日に5類に変更されたが、大阪府から確保病床の継続を求められていた。その後確保病床は原則なくなったが、COVID-19患者は今後も隔離が必要で有り、症例増加時の病床確保が課題である。

肺癌治療に関しては遺伝子検査が重要となり、診断時に十分量の組織採取が課題である。

当院では気管支喘息に対する生物製剤の使用例が少ないように思われる。保険適応が限られているが、今後中等症にも適応拡大されれば、使用例も増えてくるものと思われる。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

呼吸器内科・外科合同カンファレンス……週1回　　呼吸器内科カンファレンス……週1回

刊行論文

■Impact of Lymphopenia Recovery After Chemoradiotherapy on Durvalumab Consolidation Therapy in Stage III NSCLC

Tomoki Kuge, Takayuki Shiroyama, Akihiro Tamiya, Motohiro Tamiya, Masaki Kanazu, Yuhei Kinehara, Tsunehiro Tanaka, Osamu Morimura, Yoshihiko Taniguchi, Toshie Niki, Satoshi Tetsumoto, Kazuhiko Hayashi, Kazumi Nishino, Izumi Nagatomo, Atsushi Kumanogoh.

JTO Clinical and Research Reports　4（5）：100505, 2023

■Pneunmonitis During Duvalumab Consolidation Therapy Affects Survival in Stage III NSCLC

Yuhei Kinehara, Takayuki Shiroyama, Akihiro Tamiya, Motohiro Tamiya, Seigo Minami, Masaki Kanazu, Osamu Morimura, Toshie Niki, Satoshi Tetsumoto, Yoshihiko Taniguchi, Tomoki Kuge, Kazumi Nishino, Izumi Nagatomo, Atushi Kumanogoh, Isao Tachibana.

JTO Clinical and Research Reports　4（11）：100586, 2023

■Real-world outcomes of nivolumab plus ipilimumab and pembrolizumab with platinum-based chemotherapy in advanced non-small cell lung cancer: a multicenter retrospective comparative study

Kinnosuke Matsumoto, Takayuki Shiroyama, Motohiro Tamiya, Toshiyuki Minami, Yuhei Kinehara, Akihiro Tamiya, Yasuhiko Suga, Tomoki Kuge, Masahide Mori, Hidekazu Szuki, Satoshi Tobita, Kiyonobu Ueno, Yoshinobu Namba, Satoshi Tetsumoto, Toshie Niki, Osamu Morimura, Akio Osa, Kazumi Nishino, Izumi Nagatomo, Yoshito Takeda, Takashi Kijima, Atsushi Kumanogoh.

Cancer Immunology, Immunotherapy　73（4）：2024

学会発表

■MPO-ANCA、PR3-ANCA両者陽性となったEGPAの1例

和田紘実、森村　治、中坪彩恵子、大﨑　恵、佐伯志歩、甘中亮佑、阿部欣也

日本内科学会第242回近畿地方会

大阪府　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　　令和5年12月9日

■乳び胸水を契機に悪性リンパ腫の診断に至った2例

甘中亮佑、森村　治、中坪彩恵子、大﨑　恵、佐伯志歩、和田紘実、阿部欣也、政家寛明、小澤孝幸

日本内科学会第243回近畿地方会

大阪府　大阪市、梅田スカイビル　　令和6年3月16日

研究会・集談会発表

■タグリッソの適正使用に関するクリニカルクエチョン

和田紘実

EGFR陽性肺がん治療研究会　　Web開催　　令和5年8月23日

■Discussion～注射はまだいいです～

大﨑　恵

北大阪BIO導入を考える会　　Web開催　　令和5年12月6日

司会・座長・その他

■座長：阿部欣也

重症気管支喘息の最新治療

大阪刀根山医療センター　　辻野和之

One Airaway Meeting in HOKUSETSU　　Web開催　　令和5年6月7日

■座長：森村　治

EGFR遺伝子変異陽性非小細胞癌の治療戦略～Dose intensity の重要性と後治療への繋げ方～

日本医科大学大学院医学研究科呼吸器内科分野　　清野正博

EGFR陽性肺がん治療研究会　　Web開催　　令和5年8月23日

■座長：森村　治

長期生存を目指した肺癌薬物治療レジメン選択～イミフィンジが果たす役割～

一宮西病院副院長・呼吸器内科部長　　竹下正文

北摂エリア肺がん診療サミット2024　　Web開催　　令和6年3月14日

4.　血液内科

＜現　況＞

血液内科は、小杉　智主任部長、田所誠司部長、政家寛明部長、木田　亨医長、小澤孝幸医長の5名のスタッフ、高橋知也専攻医、江崎彩乃専攻医の計7名の体制で診療している。当科は豊中市内において、完全無菌室2床、準無菌室6床計8床を備える唯一の施設であり、北摂地区における血液疾患の基幹病院の1つとして多くの患者を受入れている。また日本血液学会専門医研修施設として、研修医の教育・指導にも励んでいる。

当科の令和5年度の入院患者数は延べ622名(内科輪番患者含む）で、令和3年度の484名、令和4年度の553名より大幅に増加し、コロナウイルスパンデミック以前（令和2年度より前）の水準に回復した。患者の多くは、化学療法、放射線療法を中心に長期の治療期間を必要とするが、外来化学療法への早期移行や短期入院対応などを行い、在院日数の軽減と受入患者数の確保に努めている。疾患別内訳では、例年同様悪性リンパ腫（特に非ホジキンリンパ腫）が最も多く、以下骨髄異形成症候群、多発性骨髄腫、各種白血病、骨髄増殖性腫瘍等の悪性疾患、さらに再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病、溶血性貧血、巨赤芽球性貧血等の良性疾患と多岐にわたる（表1参照)。治療成績は、急性骨髄性白血病で約80％、悪性リンパ腫で約90％の寛解率を得ている。再発難治悪性リンパ腫と多発性骨髄腫の適応症例には自家末梢血幹細胞移植を施行している（表2参照)。

血液疾患の治療については、分子標的薬・免疫調節薬などの新薬が次々と開発されており、同種造血幹細胞移植、キメラ抗原受容体導入T細胞療法（CAR-T細胞療法）など新たな治療選択肢も増えてきている。当科では患者に可能な限り最新の情報を提供し、移植やCAR-T療法を希望された場合には、大阪国際がんセンター血液内科や大阪大学血液・腫瘍内科との密接な連携をとりつつ、迅速な対応をとっている。

（表1：新規入院患者数）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
急性白血病	5	13	13	19	16
悪性リンパ腫	57	45	41	58	79
多発性骨髄腫	14	7	12	17	9
骨髄異形成症候群	12	12	9	9	15
特発性血小板減少性紫斑病	5	3	2	7	8

（表2：自家末梢血幹細胞移植症例数）

	平成29年度以前	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
悪性リンパ腫	104	1	2	2	1	4
多発性骨髄腫	39	2	2	1	1	1
急性白血病	4	0	0	0	0	0

＜今後の課題＞

可能な限り外来化学療法や外来輸血への移行をめざすことで入院日数の短縮をはかり、受入れ人数の確保に努めている。また、積極的治療不適応患者や緩和医療適応患者をホスピスや在宅医療に円滑に移行していくことで、新入院患者数の維持にも努力している。しかし、病状の急速な悪化、発熱・出血などの緊急事態のための緊急入院対応が重なり、ベッド確保が困難となる事態がしばしば生じる。今後も継続した努力により、入院ベッド確保を確実にしたい。

現在、高齢者を含めた外来化学治療の症例が年々増えてきており、緊急時の初期対応がさらに重要になる。また、新しい機序の薬剤が増えたことにより、新たな副作用・合併症が多くなっており、救急外来・外来治療センターなど他部門やコメディカルとの連携が重要である。部門間の協力や情報共有により、より安全安心な医療をめざす。また、前述のように新規薬剤により治療の選択肢が増えてきているので、最新の情報の収集に努め、適切な治療の選択と患者への情報提供に努める。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

血液内科カンファレンス……週1回

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■地域医療従事者セミナー　◎

「非ホジキンリンパ腫の治療　～2023 overview & UPDATE～」

小杉　智　　豊中市、市立豊中病院　　参加者：約20名　　令和5年11月30日

■豊中市薬剤師会2月研修会

「非ホジキンリンパ腫の治療～「これまで」と「これから」～」

小杉　智

豊中市、ハイブリッド開催（豊中市医療保険センター）　　参加者：82名　　令和6年2月13日

著書

■壊血病、Möller-Barlow病

田所誠司　　別冊日本臨牀：血液症候群（第3版）III　日本臨牀社　　令和5年11月

刊行論文

■Nocardia Subcutaneous Abscess in a Waldenström Macroglobulinemia Patient

Taiyo Yokoyama, Daichi Hayashi, Satoru Kosugi.

Intern Med.　62（8）：1247-1248, 2023

■Real-world data on induction therapy in patients with transplant-ineligible newly diagnosed multiple myeloma: retrospective analysis of 598 cases from Kansai Myeloma Forum

Yuji Shimura, Hirohiko Shibayama, Aya Nakaya, Ryosuke Yamamura, Kazunori Imada, Hitomi Kaneko, Hitoshi Hanamoto, Shin-ichi Fuchida, Hirokazu Tanaka, Satoru Kosugi, Miki Kiyota, Toshimitsu Matsui, Junya Kanda, Masato Iida, Mitsuhiro Matsuda, Nobuhiko Uoshima, Masaru Shibano, Takahiro Karasuno, Tsuneyoshi Hamada, Kensuke Ohta, Tomoki Ito, Hideo Yagi, Satoshi Yoshihara, Chihiro Shimazaki, Shosaku Nomura, Masayuki Hino, Akifumi Takaori-Kondo, Itaru Matsumura, Yuzuru Kanakura, Junya Kuroda.

Int J Hematol.　118（5）：:609-617, 2023

■Impact of cytogenetic abnormalities in symptomatic multiple myeloma; aJapanese real-world analysis from Kansai Myeloma Forum

Aya Nakaya, Hirohiko Shibayama, Nobuhiko Uoshima, Ryosuke Yamamura, Satoshi Yoshioka, Kazunori Imada, Yuji Shimura, Masaaki Hotta, Toshimitsu Matsui, Satoru Kosugi, Hitoshi Hanamoto, Hitoji Uchiyama, Satoshi Yoshihara, Shin-ichi Fuchida, Yoshiyuki Onda, Yasuhiro Tanaka, Kensuke Ohta, Mitsuhiro Matsuda, Junya Kanda, Adachi Yoko, Miki Kiyota, Eri Kawata, Ryoichi Takahashi, Kentaro Fukushima, Hirokazu Tanaka, Hideo Yagi, Teruhito Takakuwa, Naoki Hosen, Tomoki Ito, Chihiro Shimazaki, Akifumi Takaori-Kondo, Junya Kuroda, Itaru Matsumura, Masayuki Hino.

Leuk Res Rep.　20：100395, 2023

学会発表

■多発性骨髄腫に合併しボルテゾミブ投与で寛解した免疫性血小板減少性紫斑病
山野　茜、小澤孝幸、木田　亨、政家寛明、田所誠司、小杉　智
第118回近畿血液学地方会
大阪市、大阪国際交流センター　令和5年5月20日

■VRD導入と移植の有無の治療成績－関西骨髄腫フォーラム後方視的研究－
高桑輝人、吉原　哲、吉岡　聡、堀田雅章、志村勇司、諫田淳也、淵田真一、魚嶋伸彦、太田健介、小杉　智、福島健太郎、田中宏和、柴山浩彦、伊藤量基、黒田純也、髙折晃史、島崎千尋、保仙直毅、松村　到、日野雅之
第48回日本骨髄腫学会学術集会
東京都、浜松町コンベンションホール　令和5年5月26日－28日

■The effect of elotuzumab deteriorates after daratumumab: a multicenter retrospective study
Naokazu Nakamura, Nobuyoshi Arima, Teruhito Takakuwa, Satoshi Yoshioka, Kazunori Imada, Kentaro Fukushima, Masaaki Hotta, Shinichi Fuchida, Junya Kanda, Nobuhiko Uoshima, Yuji Shimura, Hirokazu Tanaka, Kensuke Ohta, Satoru Kosugi, Hideo Yagi, Satoshi Yoshihara, Ryosuke Yamamura, Yoko Adachi, Hitoshi Hanamoto, Hirohiko Shibayama, Naoki Hosen, Tomoki Ito, Chihiro Shimazaki, Akifumi Takaori, Junya Kuroda, Itaru Matsumura, Masayuki Hino.
第85回日本血液学会学術集会
東京都、東京国際フォーラム　令和5年10月13日－15日

■R-CHOP in elderly patients with DLBCL assessed by CGA: A prospective multicenter analysis
Takayuki Ozawa, Tomoaki Ueda, Jun Ishikawa, Shuji Ueda, Satoru Kosugi, Megumu Inoue, Hideki Hattori, Hiroyuki Kurakami, Kentaro Fukushima, Hirohiko Shibayama, Naoki Hosen.
第85回日本血液学会学術集会
東京都、東京国際フォーラム　令和5年10月13日－15日

■Survival and cause of death in CLL patients of our institute: a retrospective study
Tomoya Takahashi, Toru Kida, Takayuki Ozawa, Ayano Ezaki, Hiroaki Masaie, Seiji Tadokoro, Satoru Kosugi.
第85回日本血液学会学術集会　東京都、東京国際フォーラム　令和5年10月13日－15日

■Pseudo-thrombotic thrombocytopenic purpura の一例
林　利空、木田　亨、高橋 知也、江﨑彩乃、小澤孝幸、政家寛明、田所誠司、小杉　智
第119回近畿血液学地方会　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和5年11月25日

■メトトレキサート排泄遅延に対して血液透析を実施した急性リンパ性白血病
河合莉央、木田　亨、高橋知也、小澤孝幸、政家寛明、田所誠司、小杉　智、楠　康生
第243回日本内科学会近畿地方会　大阪市、梅田スカイビル　令和6年3月16日

研究会・集談会発表

■Ibrutinibにより速やかに貧血・血小板減少が改善した再発難治性Waldenstoem macroglobulinemia(WM)
小杉　智
JanssenPro Web Seminar：EvidenceとReal Worldから紐解くBTKi時代のWM/LPL治療戦略
Web開催　令和5年6月16日

■WM2例で経験したチラブルチニブの有害事象
小杉　智
第5回北摂MM・リンパ腫セミナー　豊中市、千里阪急ホテル　令和5年7月14日

■多発性骨髄腫に合併しボルテゾミブ投与で寛解した免疫性血小板減少性紫斑病
小杉　智
HEMATOROGY UPDATE SEMINAR　大阪市、ホテルグランヴィア大阪　令和5年8月31日

講習・講演

■2023年、初発DLBCLを「どうする？」～今確かな事と、迷う事～
小杉　智
DLBCLの治療を考えるweb seminar in 大阪　Web開催　令和5年5月19日
■How I treat chronic ITP ～タバリス使用経験とともに～
小杉　智
タバリスWeb講演会　Web開催　令和6年3月15日

司会・座長・その他

■司会：小杉　智
パネル・ディスカッション
「ポマリドミドベース治療の適正使用について考える」
演者：松下記念病院　清田実希、大阪国際がんセンター　多田雄真、府中病院　原田尚憲
ポマリスト・エムプリシティWEBセミナー　Web開催　令和5年4月25日
■座長：小杉　智
「DLBCL治療～The Answer～」
演者：関西医科大学　伊藤量基
北摂Clues　2023　Web開催　令和5年4月27日
■座長：小杉　智
「移植後シクロフォスファミド（PTCy）による薬剤性腎障害が疑われた真菌感染症合併急性骨髄性白血病の1例」
「精巣腫瘍に伴う多発肺腫瘤を伴った症例の検討」
演者：大阪公立大学　西本光孝、関西医科大学　福田直樹
第37回 大阪 DIC 研究会　大阪市　令和5年6月28日
■座長：小杉　智
一般演題「悪性リンパ腫①」
演者：奈良県総合医療センター　山本雅美、北野病院　野々原洋輔、
京都第二赤十字病院　山田大智、京都大学医学部附属病院　佐野　瞳、
大阪大学医学部　濱田雅隆、国立病院機構大阪医療センター　中川悠太、
日本生命病院　阿部凌子
第119回近畿血液学地方会　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和5年11月25日
■座長：小杉　智
「DLBCL治療の新たな幕開け～初発治療と再発治療～」
演者：埼玉県立がんセンター　関口康宣
北摂Clues　2024　Web開催　令和6年2月16日

受賞

■優秀演題賞
山野　茜
第118回近畿血液学地方会　大阪市、大阪国際交流センター　令和5年5月20日

5.　腎臓内科

＜現　況＞

【体制】 令和5年4月から、部長：竹治正展（継続）、医長：楠　康生（継続）、医員：福田俊悟（継続）、医員：上野憲子（継続）、専攻医3年目：堅田梨穂（当院プログラム復職・前年度は県立西宮病院に出向）、専攻医2年目：中山芙美（関西労災プログラム所属、当院に今年度出向）の6名と、非常勤医師の池田夏子（外来と人工透析室担当）で診療にあたった。なお、前年度専攻医3年目の大河原桃子は退職し大阪大学大学院医学系研究科に入学した。また、医師1名が令和5年5月中旬より年度末まで産休・育休であったため、実質1人人員減の状況でほぼ1年を乗り越えたことになる。他の長期病欠者などが無かったのが幸いであり、また他の職員が精力的に働いてくれたことで下記の様に増加した業務量を処理することができた。医師の業務量に対して補充人員確保困難（臨時職員などの制度がない）問題は常に悩ましいところである。

【業務概要】腎臓内科専門外来、およびCAPD（腹膜透析）専門外来枠は従来どおり行い、また令和3年度から開始している「腎・電解質コンサルト」の院内紹介枠も継続して行った。令和2年から継続していた新型コロナウイルス感染症流行に伴う対応（感染症病棟業務、発熱外来診療）は令和5年5月8日から5類感染症扱いとなり終了となった。令和5年度から内科系4科（血液内科、呼吸器内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科）の独立と、総合内科新設に伴い、業務量と内容には若干の変化が生じた。特に一般内科疾患の入院（「輪番入院」）はこれまで入院病床によって扱いが異なっていたのが、機械的に順番で決まるようになり、腎臓内科医師は22分の5の割合で輪番入院を担当することとなった(産休育休中は21分の4)。入院患者については従来どおりネフローゼ症候群、慢性腎炎、慢性腎不全、電解質異常、末期腎不全からの透析導入、および他院で維持透析中で入院を要する疾患の発症などに対処した。各種疾患に応じたクリニカルパスを活用し治療の均一性と安全性の改善にも努めた。また、近隣の腎臓内科を持たない病院からの転院依頼や、当院他科で加療中に腎機能悪化が見られたため紹介されるケースもしばしばあり、積極的な受入れに努めた。また、私共の大きな責務として、病院業務のみならず、豊中市民の健康向上・保健事業への協力も担っており、豊中市保健所の透析予防事業にも積極的に協力し、今後の対策の協議にも参加した。

【各種指標】令和5年度の、腎臓内科医師による外来診察患者数は6,316名/年（令和4年度比+873名, 過去最高だった平成29年度の5,655名を大きく上回った）、腎臓内科＋総合内科の腎臓内科医師受け持ちの入院患者数は510名/年（令和4年度比+143名, 過去最高だった令和元年の498名を越えた）といずれも増加、特に新型コロナウイルス感染症流行の影響は大きかったと実感した。「腎・電解質コンサルト」の件数は116件/年であり、令和3年度の132件から若干減ったが、何らかの手違いで8月に1件しかなかったことが影響したものと思われる。その他、腎生検41件/年（前年度比+5）、IgA腎症に対する扁桃摘出＋ステロイドパルス療法 5名/年（当院耳鼻いんこう科と共同で実施, 前年度比-1）、多発性のう胞腎に対するトルバプタン使用開始は今年度1人（前年度なし）。透析に関しては、「人工透析部」の項を参照されたい。

＜今後の課題＞

腎臓内科としての重要な役割である慢性腎臓病の進行抑制は国を挙げて対策が求められているところであり、一般市民及び医療機関での認識も徐々に広がっているが、そもそも腎臓病は自覚症状が現れにくいこともあってまだ十分とは言えず、当科でも啓発をさらに進めるべく努力していく。今後も、豊中市保健所とも意見交換しつつ対策を考えて実行していく予定である。地域での会合等で、健診や地域医療機関での慢性腎臓病発見・紹介を進めて頂くよう周知を行い、入院患者・病棟稼動率の上昇に努めるとともに、広い視野での豊中市の財務状況改善に資するよう関わって行きたいと考えている。

急性腎障害(AKI)は生命予後や将来の慢性腎臓病の危険因子であり、また例えば血清ナトリウム異常は死亡を含むいろいろな有害事象との相関が報告されている。院内発生のAKIおよび電解質異常に対して速やかに対処すべく令和3年度より「腎・電解質コンサルト」枠を設定し、利用数は増加しているが、さらに認識を広めていきたいと考えている。

慢性腎臓病、腎不全の患者の高齢化は年々進んでおり、他の合併症や生活上の困難を抱えている場合も増えており、そのサポート・バックアップ体制のさらなる整備が望まれる。

透析導入前後の期間においては、他の診療科やメディカルスタッフの協力が重要である。また、高齢化に伴い、介護システムの協力が必要になるケースも多くなっている。特に、診療報酬にも現れている国の方針として、腎代替療法の選択における多職種の関わり、血液透析以外の治療法の選択肢の推進が望まれている。多職種での診療体制が成長することが望まれる。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

腎臓内科カンファレンス……週1回　　腎臓病教室……年1回
透析カンファレンス……週1回

学会発表

■エルトロンボパグ投与後の重度急性腎障害に対して血漿交換が有用であった一例
堅田梨穂、楠　康生、木田　亨、上野憲子、大河原桃子、福田俊悟、池田夏子、難波倫子、竹治正展
第68回日本透析医学会学術集会
兵庫県　神戸市、神戸国際会議場　　令和5年6月16日

■COVID-19に併発した細菌性肺炎に対するタゾバクタム/ピペラシリン投与中に乏尿性急性腎障害を来した1例
立山みあり、福田俊悟、中山芙美、堅田梨穂、上野憲子、池田夏子、楠　康生、竹治正展
第241回日本内科学会近畿地方会
大阪市、大阪国際交流センター　　令和5年9月2日

■COVID-19治療中に突然の呼吸困難を呈して心肺停止に至ったAlport症候群由来の維持透析患者の1例
中山芙美、福田俊悟、堅田梨穂、上野憲子、池田夏子、楠　康生、竹治正展
第53回日本腎臓学会西部学術大会
岡山県　岡山市、岡山コンベンションセンター　　令和5年10月8日

■L-アルギニン製剤使用中に著明な代謝性アシドーシスと高Ca血症を来たし緊急透析を要した1例
稲見佳奈、堅田梨穂、楠　康生、中山芙美、上野憲子、福田俊悟、池田夏子、竹治正展
第53回日本腎臓学会西部学術大会
岡山県　岡山市、岡山コンベンションセンター　　令和5年10月8日

講習・講演

■多発性嚢胞腎のkey point
竹治正展
腎臓病Webセミナーin Toyonaka　　Web開催　　令和5年4月13日

司会・座長・その他

■座長：竹治正展
腎性貧血治療基礎講座
演者：国立循環器病研究センター　有里哲哉
高齢者診療のピットフォール　　Web開催　　令和6年2月8日

■座長：竹治正展

ARNI Renal Web Seminar

演者：神戸労災病院　佐藤　稔

腎臓内科医が考える高血圧治療　　Web開催　　令和6年2月28日

6. 脳神経内科

＜現　況＞

常勤医4名、非常勤医1名、専攻医3名の体制であった。北摂地域の神経内科・脳卒中専門医療機関として、神経系疾患全般を受入れた。入院患者の8割以上が、救急・当日入院であった。脳卒中センターでは、脳外科と連携し24時間体制で脳卒中を中心とした神経救急疾患に対応した。令和元年度春よりSCU病棟が発足し、脳卒中のみならず、神経救急疾患全般にわたり救急患者の対応を行っている。入院の約6割が脳血管障害であった。脳梗塞超急性期治療として、t-PAによる血栓溶解療（36例）、カテーテルによる脳血管内治療（37例）を行い、早期リハビリテーションに努めた。他職種と合同で脳卒中カンファを行うなどチーム医療を進めた。神経難病では、パーキンソン病、多発性硬化症などの入院があった。北摂難病協議会に参加、他の専門施設とも連携し、きめ細やかな医療を行った。近隣施設からの転院で脳炎、髄膜炎、てんかんなど神経緊急症を受入れた。脳波・筋電図などの電気生理学的検査を行った。地域連携では紹介、逆紹介を推進し、脳卒中地域連携パスを使用して脳卒中地域連携を進めた。大阪大学医学部学生の学外実習を担当した。

令和5年度　入院患者

脳血管障害	
脳梗塞	364
TIA	22
その他	10
感染症	
脳炎・髄膜炎	20
脊髄炎	4
機能性疾患	
てんかん	98
頭痛・めまい・意識消失発作	33
筋疾患	
重症筋無力症	6
その他	4

脱髄性疾患	
多発性硬化症	4
変性疾患	
パーキンソン症候群	46
運動ニューロン病	5
多系統萎縮症	1
末梢神経疾患	
ニューロパチー	10
ギランバレー症候群	6
その他	45

＜今後の課題＞

当科の特徴として、救急外来からの入院が多い。最近は複数の病院でSCUが発足するなど地域の脳卒中救急体制の変化に伴い、超急性期治療適用患者数も増加したものの、コロナ禍で減少し、新型コロナウイルス感染症流行後となっても脳卒中患者の受入れ数は伸び悩んでいる。今後も新規入院患者数を増やすため積極的に救急疾患を受入れることが必要であり、そのために引き続き人員確保や診療体制づくりに努める。北摂地域の神経内科専門施設とも連携し、脳血管障害症例以外にも神経変性疾患など神経難病をさらに診療できる北摂の中核施設として神経疾患診療の充実を図る。地域医療機関との連携強化を図り、紹介患者数の増加、紹介率・逆紹介率の向上、入院患者在院日数の短縮などを更に進めたい。さらに、大学や学会などと連携し、臨床研究の充実を図るとともに、神経疾患の新規治療薬の治験も積極的に行っていきたい。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

神経内科カンファレンス……週1回　　脳卒中カンファレンス……週1回
SCUカンファレンス …… 平日毎日

学会発表

■Basedow病による脳静脈血栓症の1例
小松由華、杉浦由理、古谷祥吾、佐野　齊、早野絵梨、村田　尚、仲谷利栄、来　真希子、長束一行、横江　勝
日本内科学会第240回近畿地方会
兵庫　神戸市、ハイブリッド開催（神戸国際会議場）　令和5年6月24日

■人工呼吸器管理から自宅退院可能となった高齢抗MuSK抗体陽性重症筋無力症の一例
小松由華、横江　勝、山田雅彬、古谷祥吾、田中亮弘、早野絵梨、村田　尚、仲谷利栄、杉浦由理、来　真希子
日本神経学会第127回近畿地方会
豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和6年3月3日

■ネフローゼ症候群に合併した左総頚動脈閉塞症による脳梗塞の一例
山田雅彬、小松由華、古谷祥吾、田中亮弘、早野絵梨、村田　尚、仲谷利栄、杉浦由理、来　真希子、横江　勝
日本神経学会第127回近畿地方会
豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和6年3月3日

■急性期の穿通枝梗塞における症状の進行とその後の回復要因の検討
小松由華、来　真希子、山田雅彬、古谷祥吾、田中亮弘、早野絵梨、村田　尚、仲谷利栄、杉浦由理、横江　勝
第49回日本脳卒中学会学術集会　神奈川　横浜市、パシフィコ横浜　ノース　令和6年3月7日－9日

研究会・集談会発表

■NMOSDの病態と自然免疫系
村田　尚
神経免疫セミナー　in　阪神　大阪市、ラグナヴェールプレミア　令和5年4月28日

■オピカポンの 有効性と有用性を考える
横江　勝
北摂エリアPD webライブセミナー　豊中市、千里阪急ホテル　令和5年6月28日

■神経内科医からみたEGPA
横江　勝
GSK EGPA Year End Seminar　大阪市、リーガロイヤルホテル大阪　令和5年12月22日

■神経内科医の立場から見たEGPA
横江　勝
GSK EGPA Advanced Management Forum 2024 Feb　福岡市、ホテル日航福岡　令和6年2月12日

■進行期パーキンソン病における運動合併症の治療戦略
横江　勝
Next Generation Neurology Seminar　大阪市、小野薬品本社　令和6年3月1日

講習・講演

■パーキンソン病診療の現況
横江　勝
AbbVie社外講師勉強会　大阪市、AbbVie大阪オフィス　令和5年7月12日

■進行期パーキンソン病におけるMAO-B阻害薬の有用性
横江　勝
エーザイMR研修会　大阪市、エーザイ大阪コミュニケーションオフィス　令和5年10月3日

■市立豊中病院のSCU救急の頭痛診療について
横江　勝
第一三共医師招聘研修　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和5年10月18日
■MAOB阻害薬を再考する
横江　勝
エフピー社内講演　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和6年3月29日

司会・座長・その他

■ディスカッション座長：横江　勝
実臨床で見えてきた新規COMT阻害剤の活用方法
PD Expert　Seminar in　関西　大阪市、ホテルニューオータニ大阪　令和5年4月20日
■座長：横江　勝
脳卒中管理の新機軸
演者：国立循環器病研究センター　福間一樹
Stroke Online News　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和5年4月28日
■ポスターセッション座長：横江　勝
ポスターセッションPj-009　PDとその類縁疾患：検査・評価
第64回日本神経学会学術大会　千葉県　千葉市、幕張メッセ　令和5年5月31日－6月3日
■ディスカッション座長：横江　勝
多職種で支える進行期パーキンソン病診療
多職種で考えるPD診療連携セミナー　豊中市、千里阪急ホテル　令和5年9月15日
■座長：横江　勝
NMOSDの病態と治療
演者：大阪大学神経内科　木下　允
OSAKA NMOSDセミナー　大阪市、ANAクラウンプラザホテル大阪　令和5年11月29日
■ディスカッション座長：横江　勝
地域でのてんかん診療における今後の連携
地域で考えるてんかんセミナー　in　北摂
大阪市、エーザイ大阪コミュニケーションオフィス　令和6年2月1日
■ディスカッション座長：横江　勝
ウェアリングオフ発症後の初期治療を考える
Next Generation Neurology Seminar　大阪市、小野薬品本社　令和6年3月1日
■座長：横江　勝
神経3
日本内科学会 第243回近畿地方会　大阪市、梅田スカイビル　令和6年3月16日
■ディスカッション座長：横江　勝
ケースディスカッション　EGPA神経障害
EGPA Medical Summit in Mar 2024
東京都　港区、赤坂インターシティーコンファレンス　令和6年3月23日

7. 消化器内科

＜現　況＞

消化器内科では、スタッフとして主任部長の西田　勉、部長の福井浩司、医長の山本政司、松本健吾、中松　大、そして医員の杉本　彩、大杉直人、藤井祥史、阪本直洋、岡部　悟を含む10名、加えて専任レジデント7名（河村浩輔、瀧山浩希、片之坂佑彦、増田 遥、東野克温、林　大智、北澤みはる）で構成され、計17名で診療にあたっている。従来、消化管、肝胆膵に分けていたが、消化器外科とともに令和4年4月から消化器センターを開設し、センターとして機能するために令和5年度より消化器内科を1本化し、初診外来も消化器センター外来とし、多くの紹介患者を受入れている。

診療の焦点：診療では、消化器内視鏡検査・治療、がん診療、炎症性腸疾患、消化器救急診療、肝疾患に重点を置いており、1泊2日の大腸ポリープ治療パスを令和3年から本格導入している。がん診療では特に、がん遺伝子パネル検査の積極的な適用に注力している。炎症性腸疾患に対しては、新薬や治療法の臨床試験を積極的に行っている。肝疾患領域では、C型慢性肝疾患に対するインターフェロンフリー療法やB型肝炎の治療を積極的に実施し、肝疾患の検査やフォローアップのためのアラートシステムを確立している。また、肝細胞癌や肝硬変の診療にも新規治療薬の導入などで対応している。

救急診療と地域医療への貢献：救急診療では、365日24時間体制で迅速な診療を提供し、救急部と内視鏡部との連携を強化している。北摂地域で特に必要とされる休日や夜間の消化器救急診療にも対応し、中核病院としての役割を果たしている。

診療実績と今後の展望：新型コロナウイルス感染症が5類扱となり、患者数の更なる増加と診療サービスの質の向上に努めている。令和5年度の消化器内科の入院患者内訳と診療実績は、別途表で示す。

入院実績（令和5年度、消化器内科（消化管・肝・胆・膵）入院2,484例の主な疾患の内訳）

主な疾患	延べ入院患者数	主な疾患	延べ入院患者数
食道癌（うちESD・化学療法）56例（17例・13例）		神経内分泌腫瘍（NET）	
胃癌（うちESD・化学療法） 152例（74例・19例）		18例(直腸11例、膵3例、その他4例：G1:16例、G2:2例)	
GIST（胃・十二指腸・小腸・直腸）7例（3・1・2・1例）		神経内分泌細胞癌（NEC）	2例
胃潰瘍・十二指腸潰瘍・直腸潰瘍　34例・22例・4例		悪性リンパ腫	8例
食道・胃静脈瘤（うち破裂）　40・9例（9・3例）		軟部肉腫	3例
胃前庭部網細血管拡張症（GAVE）	8例	肝細胞癌（うち化学療法）	84例（うち12例）
結腸毛細血管拡張症	2例	肝内胆管癌（うち化学療法）	13例（うち4例）
大腸ポリープ	437例	肝門部胆管癌（うち化学療法）	8例（うち１例）
大腸癌・直腸癌（うちESD/EMR/化学療法）		B型・C型慢性肝炎	1例・0例
145例・30例（26・61・18例）		劇症肝炎	1例
潰瘍性大腸炎・クローン病	20例・12例	急性肝炎	5例 (うち１例EBウイルス感染)
腸閉塞／癒着性イレウス		脂肪肝炎	3例
80例 (大腸癌による腸閉塞16 例含む)		急性肝機能障害	
胃腸炎		21例 (うち薬剤性肝障害６例・アルコール性5例)	
急性胃腸炎	9例	肝膿瘍	12例
虚血性大腸炎	40例	肝嚢胞（うち感染性）	13例（うち3例）
好酸球性胃腸炎	2例	肝硬変　76例（うちアルコール性肝硬変39例）	
感染性腸炎	8例	自己免疫性肝炎（疑診含む）	4例
クロストリディオイデス・ディフシル腸炎 4例		原発性胆汁性胆管炎	4例
IgA血管炎による腸炎	2例	原発性硬化性胆管炎	1例
薬剤性腸炎	1例	IgG4関連胆管炎	1例
放射線性直腸炎	1例	膵癌（うち化学療法）	224例（44例）
大腸憩室疾患（憩室炎・憩室出血）		急性膵炎（うち重症急性膵炎、胆石性）	
84例　(26例・58例)		43例（7例・8例）	

慢性膵炎	9例	十二指腸癌（うち化学療法）	11例（うち3例）
自己免疫性膵炎	1例	十二指腸腺腫	13例
膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN・IPMC）	10例（5例・5例）	総胆管結石	145例
胆道癌(うち胆嚢癌/肝外胆管癌/乳頭部癌)	43例（12例/25例/6例）	急性胆嚢炎、急性胆管炎(うち総胆管結石胆管炎)	37例・119例（68例）
（化学療法）	（4例）	胆嚢穿孔	3例
		合計	2,484例

令和5年度　検査、治療実績

治療・術式		治療・術式	
消化器内視鏡検査	8,685件	食道静脈瘤硬化･結紮術(EIS、EVL)	72件
上部消化管内視鏡検査	4,688件	総胆管結石除去術	213件
大腸内視鏡検査	3,265件	胆道金属ステント留置術	32件
内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)	619件	超音波内視鏡(EUS)	252件
ダブルバルーン小腸内視鏡検査	12件	超音波内視鏡下穿刺吸引法(EUS-FNA)	73件
カプセル小腸内視鏡検査	2件	肝動脈塞栓療法(TACE)	24件
内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	137件	ラジオ波焼灼療法(RFA)	17件
大腸ポリープ内視鏡的粘膜切除術	1,661件	超音波ガイド下肝生検	25件
うちCSPのみ	1,095件	超音波ガイド下肝腫瘍生検	28件
消化管金属ステント留置術	42件	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	4件

＜今後の課題＞

新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、患者数が回復し増加傾向にある。これにより、スタッフの時間外労働が増加している。時間外労働を削減するため、業務の見直し、ワークシェアリング、ワークシフトの導入、および当番医体制への移行を計画している。ただし、施設の制約と内視鏡室の手狭さが運用上の課題となっており、限られた人材リソースの効率的活用に影響している。今後は外来診察室の拡張や内視鏡室の院内移転を含む施設拡充を行い、外来患者数と内視鏡検査数の増加をめざす。肝疾患については、抗ウイルス療法の進歩でウイルス性肝炎関連の疾患は減少する見込みだが、未発見の潜在患者の特定、アルコール依存や生活習慣病による肝疾患の予防および診療体制の強化、肝癌診療の質の向上、そして地域医療との連携強化が求められる。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

肝胆膵合同症例検討会（消内、外、放）……週1回
消化器内科内視鏡検討会……週1回
上部消化管症例検討会（消内、外）……週1回
消化器内科胆膵カンファレンス……週1回
消化器内科（胃腸膵）カンファレンス……週1回
内視鏡病理検討会……月2回
下部消化管症例検討会（消内、外）……週1回

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■第9回豊中胃内視鏡検診勉強会　◎
逆流性食道炎の薬物治療～2021年診療ガイドラインから～
西田　勉　　豊中市、市立豊中病院　　参加者：約50名　　令和6年1月20日

■第9回豊中胃内視鏡検診勉強会　◎
粘膜下腫瘍のさばき方～近年の知見を踏まえて～
山本政司　　豊中市、市立豊中病院　　参加者：約50名　　令和6年1月20日

■令和5年度「第1回豊中市医師会学術講演会」
一般診療において知っておきたいB型肝炎の診断と治療
松本健吾　豊中市、ホテルアイボリー　参加者：30名　令和5年4月8日

■UC cooperation Seminar 2023
処方件数からみた市立豊中病院における潰瘍性大腸炎の治療選択の現状
西田　勉　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　参加者：35名　令和5年4月22日

■北摂IBD-WEB Forum
再発を繰り返すUCの治療戦略Up-to-data
西田　勉　Web開催　参加者：30名　令和5年7月13日

■第39回稀な腸疾患の内視鏡像を勉強する会
ダサチニブ関連大腸炎の2例
瀧山浩希、西田　勉
大阪市、ヒルトンプラザウエスト・オフィスタワー　参加者：40名　令和5年8月5日

■第11回大阪大学消化器内科学レジデント成果発表会
過去10年間における肝膿瘍症例の臨床的検討 -Fusobacterium肝膿瘍の臨床像の検討を中心に-
河村浩輔
吹田市、大阪大学コンベンションセンターＭＯホール　参加者：80名　令和5年10月15日

■消化器診療と安全管理セミナー
膵がんの予後改善をめざした当院の取り組み
松本健吾　豊中市、千里阪急ホテル　参加者：20名　令和5年10月26日

■Osaka Liver Lecture North Area
『当院における肝性脳症の診断・治療 ～改訂ガイドラインを踏まえた治療戦略～
松本健吾　豊中市、千里阪急ホテル　参加者：20名　令和5年11月22日

■Resident Web Seminar
市中病院で遭遇するCommon disease: 大腸憩室症 From bedside to evidence
西田　勉　Web開催　参加者：80名　令和5年11月28日

■豊中市薬剤師会研修会
逆流性食道炎と薬物治療: 2021年診療ガイドラインで何が変わった
西田　勉　Web開催　参加者：100名　令和6年1月23日

■肝癌診療の集学的治療を考える会
当院でのLEN+TACE治療経験からの考察
松本健吾　大阪市、エーザイ株式会社 大阪CO 会議室B　参加者：10名　令和6年3月13日

■北摂膵消化管神経内分泌腫瘍セミナー
十二指腸NETを合併し潰瘍再発を繰り返した多発性内分泌腫瘍症 (MEN1)の1例
阪本直洋　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　参加者：30名　令和6年3月14日

■Gastric Cancer Meeting
内視鏡生検検体から治療へ：切除不能再発進行胃癌におけるHER2バイオマーカー
西田　勉　Web開催　参加者：50名　令和6年3月15日

■第31回Osaka Gut Form
潰瘍性大腸炎患者への5 -アミノサリチル酸製剤による寛解維持療法の最適化に向けた患者と医師への意識調査 -OGF2324-
大杉直人　大阪市、ホテル阪急インターナショナル　参加者：110名　令和6年3月22日

著書

■レジデントのための消化器内視鏡ことはじめ

西田　勉

1章 内視鏡の基礎、5 緊急内視鏡に必要な知識と準備　　メジカルビュー社　　令和5年5月

■放っておくとこわい脂肪肝のお話

福井浩司　　月報　　豊中市医師会　　令和5年10月

■今日の治療指針2024

西田　勉

上部消化管内異物摘出法　　医学書院　　令和6年1月

刊行論文

■A follow-up questionnaire survey 2022 on radiation protection among 464 medical staff from 34 endoscopy-fluoroscopy departments in Japan.

Hayashi S, Takenaka M, Kogure H, Yakushijin T, Nakai Y, Ikezawa K, Yamaguchi S, Fujisawa T, Tamaru Y, Maetani I, Maruyama H, Asai S, Takagi T, Nagaike K, Hori Y, Sumiyoshi T, Tsumura H, Doyama H, Yoshio T, Hara K, Abe S, Oda I, Kato M, Nebiki H, Mikami T, Miyazaki M, Matsunaga K, Hosono M, Nishida T; REX – GI Study Group.

DEN Open　3（1）：e227, 2023

■Radiation dose and factors related to exceeding the diagnostic reference level in 496 transnasal ileus tube placement procedures from the REX-GI study.

Nagaike K, Hayashi S, Yakushijin T, Yamamoto M, Sumiyoshi T, Yamaguchi S, Tamaru Y, Yamada T, Tsumura H, Nakai Y, Doyama H, Maetani I, Takagi T, Asai S, Matsubara K, Takenaka M, Hosono M, Nishida T.

Br J Radiol　96（1146）：20230086, 2023

■Letter: Potassium-competitive acid blockers may increase the risk of gastric cancer after Helicobacter pylori eradication a retrospective multicentre-cohort analysis.

Arai J, Hayakawa Y, Niikura R, Ihara S, Aoki T, Honda T, Okamura T, Hasatani K, Yoshida N, Nishida T, Sumiyoshi T, Kiyotoki S, Ikeya T, Arai M, Fujishiro M.

Aliment Pharmacol Ther.　57（10）：1196-1198, 2023

■Antithrombotic drug use does not affect the fecal immunochemical test PPV for colorectal cancer, but warfarin may have an impact in a Japanese cohort.

Sakamoto T, Nishida T, Nakamatsu D, Watanabe A, Kitanaka T, Minoura Y, Hosokawa K, Okabe S, Sakamoto N, Fujii Y, Osugi N, Sugimoto A, Matsumoto K, Hayashi S, Nakajima S, Yamamoto M.

Asia Pac J Clin Oncol.　Online ahead of print., 2023

■Gastrointestinal symptoms in 609 Japanese patients with COVID-19: a single-center retrospective study.

Kuriki S, Nishida T, Chang LS, Hosokawa K, Fujii Y, Osugi N, Nakamatsu D, Matsumoto K, Yamamoto M, Morimura O, Abe K, Okauchi Y, Iwahashi H, Inada M.

Scand J Gastroenterol.　58（10）：1139-1144, 2023

■Occupational radiation exposure to the lens of the eyes and its protection during endoscopic retrograde cholangiopancreatography.

Ikezawa K, Hayashi S, Takenaka M, Yakushijin T, Nagaike K, Takada R, Yamai T, Matsumoto K, Yamamoto M, Omoto S, Minaga K, Ishii S, Shimizu T, Nagai K, Hosono M, Nishida T.

Sci Rep.　13（1）：7824, 2023

■Association of probiotic use with nivolumab effectiveness against various cancers: A multicenter retrospective cohort study.

Arai J, Niikura R, Hayakawa Y, Suzuki N, Honda T, Okamura T, Hasatani K, Yoshida N, Nishida T, Sumiyoshi T, Kiyotoki S, Ikeya T, Arai M, Boku N, Fujishiro M.

Cancer Med　12（16）：16876-16880, 2023

■Drug-induced Interstitial Nephritis in a Patient with Ulcerative Colitis Treated with 5-Aminosalicylic Acid: A Case Report.

Hayashi D, Nishida T, Osugi N, Kusunoki Y, Okabe S, Fujii Y, Nakamatsu D, Matsumoto K, Yamamoto M, Fukui K.

Intern Med.　Online ahead of print., 2023

■Impact of Initial Body Weight Loss on Prognosis in Advanced Pancreatic Cancer: Insights From a Single-Center Retrospective Study.

Hosokawa K, Nishida T, Hayashi D, Kitazawa M, Masuda H, Tono K, Katanosaka Y, Sakamoto N, Fujii Y, Sugimoto A, Nakamatsu D, Matsumoto K, Yamamoto M, Fukui K.

Cancer Control.　Jan-Dec:30：10732748231204719, 2023

■Glucose control in the early phase of hospitalization is associated with severe prognosis in coronavirus disease 2019 (COVID-19) patients with diabetes in Japan.

Okauchi Y, Sakamoto R, Kaketaka T, Yamabayashi E, Kubori M, Inada S, Morimura O, Otani Y, Abe K, Nishida T, Iwahashi H.

Diabetol Int.　14（4）：406-412, 2023

■Clinical outcome of patients treated with endoscopic decompression after failure of detorsion for uncomplicated sigmoid volvulus.

Nakamatsu D, Nishida T, Sugimoto A, Matsumoto K, Yamamoto M.

DEN Open　4（1）：e299, 2023

■Medical radiation exposure during gastrointestinal enteral metallic stent placement: Post hoc analysis of the REX-GI study.

Tokura J, Yoshio T, Hayashi S, Yamamoto M, Asai S, Yakushijin T, Ikezawa K, Nagaike K, Takagi T, Fujisawa T, Yamada T, Tsumura H, Maetani I, Hori Y, Ihara H, Matsunaga K, Kuwai T, Ito Y, Hasatani K, Komeda Y, Kurita A, Yamaguchi S, Maruyama H, Iwashita T, Takenaka M, Hosono M, Nishida T.

JGH Open　7（12）：869-874, 2023

■Persistent Nausea and Gastrointestinal Distention: A Case Report of Aerophagia.

Nishida T, Higaki Y, Watabe K.

Cureus　15（12）：e50070, 2023

■Utility and advantage of the unroofing technique for gastrointestinal subepithelial tumors: A multicenter retrospective cohort study.

Yamamoto M, Nishida T, Uema R, Kanesaka T, Ogawa H, Kitamura S, Iijima H, Nagai K, Tsutsui S, Komori M, Yamamoto K, Tsujii Y, Hayashi Y, Takehara T.

DEN Open.　4（1）：e332, 2023

■5-Aminosalicylic Acid-Induced Liver Injury in a Patient with Ulcerative Colitis: A Case Report.

Watanabe A, Nishida T, Osugi N, Kitanaka T, Minoura Y, Okabe S, Sakamoto N, Fujii Y, Sugimoto A, Nakamatsu D, Matsumoto K, Yamamoto M, Adachi S, Fukui K.

Case Rep Gastroenterol.　18（1）：39-48, 2023

■Impact of time from diagnosis to chemotherapy on prognosis in advanced pancreatic cancer.
Nishida T, Sugimoto A, Hosokawa K, Masuda H, Okabe S, Fujii Y, Nakamatsu D, Matsumoto K, Yamamoto M, Fukui K.
Jpn J Clin Oncol. Epub ahead of print, 2023

■Effect of continuation and discontinuation of antithrombotic agents after lower gastrointestinal bleeding
Yasutoshi Shiratori, Ryota Niikura, Tsutomu Nishida, Tetsuro Honda, Kenkei Hasatani, Shigetsugu Tsuji, Tetsuya Sumiyoshi, Tomoki Fujita, Shu Kiyotoki, Tomoyuki Yada, Katsumi Yamamoto, Tomohiro Shinozaki, Takashi Ikeya, Atsuo Yamada, Mitsuhiro Fujishiro, Katsuyuki Fukuda.
Progress of Digestive Endoscopy 103（1）：40-47, 2023

■異時性に食道病変が出現した好酸球性胃腸炎の1例
浜辺友也、中松 大、藤井祥史、大杉直人、杉本 彩、松本健吾、向井香織、山本政司、西田 勉、田村裕美
日本消化器内視鏡学会雑誌 65（9）：1421-1427, 2023

■Efficacy and associated factors of endoscopic transpapillary drainage for postoperative biliary leakage.
Murata J, Shigekawa M, Ishii S, Suda T, Ikezawa K, Hirao M, Matsumoto K, Kegasawa T, Iwahashi K, Iio S, Nakanishi F, Nakazuru S, Yoshida Y, Yamai T, Sato K, Yoshioka T, Hikita H, Tatsumi T, Takehara T.
DEN Open 4（1）：e281, 2023

■Association between perioperative management of antiplatelet agents and risk of post-endoscopic submucosal dissection bleeding in early gastric cancer: analysis of a nationwide multicenter study.
Miura Y, Tsuji Y, Yoshio T, Hatta W, Yabuuchi Y, Hoteya S, Kikuchi D, Tsuji S, Nagami Y, Hikichi T, Kobayashi M, Morita Y, Sumiyoshi T, Iguchi M, Tomida H, Inoue T, Mikami T, Hasatani K, Nishikawa J, Matsumura T, Nebiki H, Nakamatsu D, Ohnita K, Suzuki H, Ueyama H, Hayashi Y, Sugimoto M, Yamaguchi S, Michida T, Yada T, Asahina Y, Narasaka T, Kuribayashi S, Kiyotoki S, Mabe K, Masamune A, Fujishiro M.
Gastrointest Endosc. 97（5）：889-897, 2023

■Pretreatment with antibiotics is associated with reduced therapeutic response to atezolizumab plus bevacizumab in patients with hepatocellular carcinoma.
Maesaka K, Sakamori R, Yamada R, Doi A, Tahata Y, Ohkawa K, Oshita M, Miyazaki M, Yakushijin T, Nozaki Y, Matsumoto K, Tanaka S, Kaneko A, Iio S, Nawa T, Yamada Y, Morishita N, Usui T, Hiramatsu N, Doi Y, Sakakibara M, Imanaka K, Yoshida Y, Kodama T, Hikita H, Tatsumi T, Takehara T.
PLoS One 18（2）：e0281459, 2023

■Efficacy of prophylactic clip closure in reducing the risk of delayed bleeding after colorectal endoscopic submucosal dissection in patients on anticoagulant therapy: Multicenter prospective study.
Ogiyama H, Kato M, Yamaguchi S, Kanesaka T, Yamada T, Yamamoto M, Komori M, Nagaike K, Nakahara M, Tsutsui S, Tsujii Y, Saita R, Iijima H, Hayashi Y, Takehara T.
Dig Endosc Epub ahead of print, 2024

■Non-Pure Intestinal Phenotype as an Indicator of Progression in Sporadic Nonampullary Duodenal Adenomas: A Multicenter Retrospective Cohort Study.
Uema R, Hayashi Y, Komori M, Shibukawa N, Hayashi N, Horimoto M, Yamada T, Yamamoto M, Hiyama S, Kinoshita K, Ogiyama H, Yamaguchi S, Egawa S, Kanesaka T, Kato M, Yoshii S, Tsujii Y, Keiichiro H, Shinzaki S, Iijima H, Morii E, Takehara T.
Clin Transl Gastroenterol 15（1）：e00649, 2024

■Clinical factors associated with the therapeutic efficacy of atezolizumab plus bevacizumab in patients with unresectable hepatocellular carcinoma: A multicenter prospective observational study.

Kai M, Hikita H, Kazuki M, Tahata Y, Shinkai K, Doi A, Ohkawa K, Miyazaki M, Ishida H, Matsumoto K, Nozaki Y, Yakushijin T, Sakamori R, Kaneko A, Iio S, Nawa T, Kakita N, Morishita N, Hiramatsu N, Usui T, Imanaka K, Doi Y, Sakakibara M, Yoshida Y, Oze T, Kodama T, Tatsumi T, Takehara T.

PLoS One　19（1）：e0294590, 2024

■The relationship between observation interval and prognosis in pancreatic cancer concomitant with intraductal papillary mucinous neoplasia.

Yoshioka T, Shigekawa M, Ikezawa K, Hirao M, Ishii S, Suda T, Kegasawa T, Matsumoto K, Iwahashi K, Murata J, Kaneko A, Nakazuru S, Yamamoto S, Matsumae T, Kozumi K, Sato Y, Okabe J, Sato K, Hikita H, Sakamori R, Tatsumi T, Takehara T.

Pancreatology.　24（1）：73-77, 2024

■Adverse events of self-expandable metal stent placement for malignant distal biliary obstruction: a large multicenter study.

Tamura T, Yamai T, Uza N, Yamasaki T, Masuda A, Tomooka F, Maruyama H, Shigekawa M, Ogura T, Kuriyama K, Asada M, Matsumoto H, Takenaka M, Mandai K, Osaki Y, Matsumoto K, Sanuki T, Shiomi H, Yamagata Y, Doi T, Inatomi O, Nakanishi F, Emori T, Shimatani M, Asai S, Fujigaki S, Shimokawa T, Kitano M.

Gastrointest Endosc. 99（1）：61-72, 2024

■Endoscopic Removal and Conservative Treatment of a Small Bowel Perforation Caused by a Toothpick: A Case Report

Watanabe A, Nakamatsu D, Nishida T, Fujii Y, Osugi N, Matsumoto K, Yamamoto M, Fukui K.

Cureus　16（3）：e57254, 2024

学会発表

■消化器領域における透視下手技の放射線照射量・多施設前向き観察研究（REX-GI試験）

西田　勉、林　史郎 、竹中　完

第109回日本消化器病学会総会　　長崎　長崎市、出島メッセ長崎　　令和5年4月6日－8日

■ 853 OCCUPATIONAL RADIATION EXPOSURE TO THE LENS OF THE EYES DURING ENDOSCOPIC RETROGRADE CHOLANGIOPANCREATOGRAPHY (ERCP): A MULTICENTER PROSPECTIVE OBSERVATIONAL STUDY

Kenji Ikezawa, Shiro Hayashi, Mamoru Takenaka, Takayuki Yakushijin, Koji Nagaike), Ryoji Takada, Takuo Yamai, Kengo Matsumoto, Masashi Yamamoto , Shunsuke Omoto, Kosuke Minaga, Shuji Ishii, Takeshi Shimizu, Kengo Nagai, Makoto Hosono, Tsutomu Nishida.

DDW2023　　USA　Chicago、McCormick Place　　令和5年5月6日－9日

■ERCP 後膵炎高危険群における予防的膵管ステン ト留置の有用性

藤井祥史、西田　勉、渡邊明日花、北中崇雄、細川香菜、箕浦悠太郎、岡部　悟、阪本直洋、大杉 直人、杉本　彩、中松　大、松本健吾、山本政司、福井浩司

第105回日本消化器内視鏡学会総会

東京　品川区、グランドプリンスホテル新高輪　　令和5年5月25日－27日

■内視鏡切除を行い確定診断した十二指腸ブルンネル腺過誤腫の1例

稲見佳奈、中松　大、渡邊明日花、北中崇雄、箕浦悠太郎、細川香菜、岡部　悟、阪本直洋、藤井祥史、大杉直人、杉本　彩、松本健吾、山本政司、福井浩司、西田　勉

第110回日本消化器内視鏡病学会近畿支部例会　　大阪市、大阪国際会議場　　令和5年6月24日

■胃原発異所性インスリノーマの1例
北中崇雄、阪本直洋、西田　勉、渡邊明日花、細川香菜、箕浦悠太郎、岡部　悟、藤井祥史、
大杉直人、杉本　彩、中松　大、松本健吾、山本政司、福井浩司
第110回日本消化器内視鏡病学会近畿支部例会　大阪市、大阪国際会議場　令和5年6月24日
■内視鏡的に摘出し保存的加療が可能であった異物による小腸穿通の一例
渡邊明日花、中松　大、北中崇雄、箕浦悠太郎、細川香菜、岡部　悟、阪本直洋、藤井祥史、
大杉直人、杉本　彩、松本健吾、山本政司、福井浩司、西田　勉
第110回日本消化器内視鏡病学会近畿支部例会　大阪市、大阪国際会議場　令和5年6月24日
■夜間・休日の消化管出血に対する緊急内視鏡を安全に行うチーム医療体制の構築:課題と対策
山本政司、西田　勉、松本健吾、中松　大、大杉直人
第110回日本消化器内視鏡病学会近畿支部例会　大阪市、大阪国際会議場　令和5年6月24日
■膵神経内分泌腫瘍(G1/G3)と通常型膵癌が併存した1例
林　大智、山本政司、北澤みはる、片之坂佑彦、瀧山浩希、東野克温、増田　遥、河村浩輔、
岡部　悟、阪本直洋、藤井祥史、大杉直人、杉本　彩、中松　大、松本健吾、福井浩司、西田　勉
第119回日本消化器病学会近畿支部例会　大阪市、大阪国際会議場　令和5年9月30日
■GCS療法で長期治療後にペミガチニブが奏功した切除不能肝内胆管癌の1例
北澤みはる、阪本直洋、林　大智、片之坂佑彦、瀧山浩希、東野克温、増田　遥、河村浩輔、岡部　悟、
藤井祥史、大杉直人、杉本　彩、中松　大、松本健吾、山本政司、福井浩司、西田　勉
第119回日本消化器病学会近畿支部例会　大阪市、大阪国際会議場　令和5年9月30日
■開腹生検にて確定診断した硬化性腸間膜炎の1例
瀧山浩希、山本政司、北澤みはる、林　大智、片之坂佑彦、東野克温、増田　遥、河村浩輔、
岡部　悟、阪本直洋、藤井祥史、大杉直人、杉本　彩、中松　大、松本健吾、福井浩司、西田　勉
第119回日本消化器病学会近畿支部例会　大阪市、大阪国際会議場　令和5年9月30日
■腹部症状を契機に診断された膵動静脈血管奇形の1例
東野克温、松本健吾、北澤みはる、林　大智、片之坂佑彦、増田　遥、瀧山浩希、河村浩輔、岡部　悟、
阪本直洋、藤井祥史、大杉直人、杉本　彩、中松　大、山本政司、福井浩司、西田　勉
第119回日本消化器病学会近畿支部例会　大阪市、大阪国際会議場　令和5年9月30日
■Utility and Advantage of the Unroofing Technique for Gastrointestinal Subepithelial Tumors: A Multicenter Retrospective Cohort Study
Masashi Yamamoto, Tsutomu Nishida, Ryotaro Uema, Tkashi Kanesaka, Hiroyuki Ogawa,
Shinji Kitamura, Hideki Iijima, Kengo Nagai, Shusaku Tsutsui, Msato Komori, Katsumi Yamamoto,
Yoshiki Tsujii, Yoshito Hayashi, Tetsuo Takehara.
UEGW　Denmark　Denmark、Vella Center　令和5年10月14日－17日
■高齢者における表在型食道癌治癒後の他臓器癌と長期予後について
田尻絢香、辻井芳樹、西田　勉、井上拓也、前川　聡、北村信次、山口真二郎、西原彰浩、山田拓哉、
荻山秀治、村山洋子、山本俊祐、林　義人、竹原徹郎
JDDW　兵庫県　神戸市、神戸国際会議場　令和5年11月2日－6日
■消化管粘膜下腫瘍における開窓生検法の有用性の検討
山本政司、西田　勉、上間遼太郎、金坂　卓、小川弘之、北村信次、飯島英樹、長井健吾、筒井秀作、
小森真人、山本克己、林　義人、竹原徹郎
JDDW　兵庫県　神戸市、神戸国際会議場　令和5年11月2日－6日
■表在食道癌の内視鏡治療による治癒後の他臓器癌と長期予後について
田尻絢香、辻井芳樹、竹原徹郎、西田　勉、井上拓也
第111回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会　大阪市、大阪国際会議場　令和5年11月18日

■細径内視鏡を用いて食道ESDを施行した1例
増田　遥、山本政司、林　大智、北澤みはる、片之坂佑彦、瀧山浩希、東野克温、河村浩輔、
岡部　悟、阪本直洋、藤井祥史、大杉直人、杉本　彩、中松　大、松本健吾、福井浩司、西田　勉
第111回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会　大阪市、大阪国際会議場　令和5年11月18日

■原発病変の病理学的悪性度による異なる内視鏡所見を呈した乳癌胃転移の2例
北澤みはる、阪本直洋、林　大智、片之坂佑彦、瀧山浩希、東野克温、増田　遥、河村浩輔、
岡部　悟、藤井祥史、大杉直人、杉本　彩、中松　大、松本健吾、山本政司、福井浩司、西田　勉
第111回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会　大阪市、大阪国際会議場　令和5年11月18日

■大腸ステント管理に難渋した膵癌横行結腸侵潤による大腸閉塞の1例
東野克温、山本政司、北澤みはる、林　大智、片之坂佑彦、増田　遥、瀧山浩希、河村浩輔、
岡部　悟、阪本直洋、藤井祥史、大杉直人、杉本　彩、中松　大、松本健吾、福井浩司、西田　勉
第111回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会　大阪市、大阪国際会議場　令和5年11月18日

■長期経過観察を行なったダサチニブ関連大腸炎の一例
瀧山浩希、山本政司、北澤みはる、林　大智、片之坂佑彦、東野克温、増田　遥、河村浩輔、
岡部　悟、阪本直洋、藤井祥史、大杉直人、杉本　彩、中松　大、松本健吾、福井浩司、西田　勉
第111回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会　大阪市、大阪国際会議場　令和5年11月18日

■長期アミオダロン内服の経過中に急性肝障害をきたした1例
林　大智、岡部　悟、北澤みはる、瀧山浩希、東野克温、片之坂佑彦、増田　遥、河村浩輔、
阪本直洋、藤井祥史、大杉直人、杉本　彩、中松　大、松本健吾、山本政司、福井浩司、西田　勉
第120回日本消化器病学会近畿支部例会　兵庫県　神戸市、神戸国際会議場　令和6年1月27日

■腎癌術後18年目に膵転移をきたした1例
三宅麻友、三宅麻友、瀧山浩希、松本健吾、北澤みはる、林　大智、増田　遥、片之坂佑彦、
東野克温、阪本直洋、岡部　悟、藤井祥史、大杉直人、杉本　彩、中松　大、山本政司、福井浩司、
西田　勉
第120回日本消化器病学会近畿支部例会　兵庫県　神戸市、神戸国際会議場　令和6年1月27日

■潰瘍性大腸炎関連腫瘍に対し診断的治療目的にESDを施行した一例
瀧山浩希、中松　大、北澤みはる、林　大智、片之坂佑彦、東野克温、増田　遥、河村浩輔、
岡部　悟、阪本直洋、藤井祥史、大杉直人、杉本　彩、松本健吾、山本政司、福井浩司、西田　勉
第120回日本消化器病学会近畿支部例会　兵庫県　神戸市、神戸国際会議場　令和6年1月27日

■回結腸動脈仮性動脈瘤破裂による大腸憩室出血の1例
片之坂佑彦、阪本直洋、北澤みはる、林　大智、瀧山浩希、東野克温、増田　遥、河村浩輔、
岡部　悟、藤井祥史、大杉直人、杉本　彩、中松　大、松本健吾、山本政司、福井浩司、西田　勉
第120回日本消化器病学会近畿支部例会　兵庫県　神戸市、神戸国際会議場　令和6年1月27日

■経口 GLP-1 受容体作動薬セマグルチドによる腸管気腫症が疑われた1例
奥野巴琉音、阪本直洋、藤井祥史、大杉直人、杉本　彩、中松　大、松本健吾、山本政司、福井浩司、
西田　勉
第243回日本内科学会近畿地方会　大阪市、梅田スカイビル　令和6年3月16日

研究会・集談会発表

■C型肝炎根絶に向けた医療連携の重要性について
福井浩司
第1回豊中市医師会学術講演会　豊中市、ホテルアイボリー　令和5年4月8日

■肝疾患診療のピットフォール～ウイルス性肝炎、脂肪肝～
福井浩司
消化器診療と安全管理セミナー　豊中市、千里阪急ホテル　令和5年10月26日
■知らないとこわい脂肪肝のお話
福井浩司
市民向け健康講演会　豊中市、豊中市医療保健センター　令和5年10月28日
■症例提示(十二指腸Brunner腺過誤腫の一例)
藤井祥史
第487回大阪胃研究会　大阪市、Web開催　令和6年1月10日
■市立豊中病院における中等症～重症UCに対する治療戦略～ミリキズマブのポジショニングについて～
大杉直人
北摂Riynd Table Discussion on UC　豊中市、千里阪急ホテル　令和6年2月16日
■肝細胞癌の薬物療法・治療の流れについて
福井浩司
西淀川区薬薬連携セミナー2024　大阪市、あおぞら薬局　令和6年3月16日

講習・講演

■ESD Hands on Seminar
山本政司
北摂内視鏡治療研究会　吹田市、千里ライフサイエンスセンター　令和5年10月9日
■がんという病気
西田　勉
がん教育出張
豊中市、豊中市立第十四中学校　令和5年10月13日

司会・座長・その他

■座長：西田　勉
「クローン病病治療における栄養療法の役割」「IBD増悪に季節やストレスは関与するのか」
演者：滋賀医科大学医学部看護学科基礎看護学講座　馬場重樹、
兵庫医科大学消化器内科学　新崎信一郎
第229回北摂エリア腸疾患勉強　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和5年5月13日
■座長：西田　勉、今川　敦
当院における上部消化管内視鏡検査の標準化に向けた取り組みとその効果、その他
演者：日本医科大学千葉北総病院 消化器内科　飽本哲兵、その他
第10回 内視鏡検査・周術期管理の標準化に向けた研究会
東京都　品川区、TKP 品川カンファレンスセンターANNEX ホール 1　令和5年5月27日
■座長：西田　勉
「免疫チェックポイント阻害剤が生み出す消化器病治療」
「消化器癌に対する重粒子線の現状と展望」
演者：大阪市立総合医療センター　秋吉宏平、大阪重粒子センター　鈴木　修
MSD消化器セミナー　大阪市、コンラッド大阪　令和5年9月1日
■座長：西田　勉
大阪府のがんゲノム医療連携病院 当院の3 年間の報告と課題
演者：市立豊中病院　二宮由紀恵
第3回市立豊中病院がんゲノム医療セミナー　豊中市、市立豊中病院　令和5年9月29日

■座長：西田　勉
「直腸NET症例からの検討」「膵NET症例からの検討」
演者：関西労災病院　太田高志、大阪大学消化器内科　重川　稔
NEW Web Conference Osaka 2023～これからのNEN診療を考える
Web開催　令和5年10月16日

■座長：福井浩司
当院におけるウイルス性肝炎への取り組み～院内連携含む～
演者：兵庫県立淡路医療センター　高橋直太郎
Micro Eliminators in Kinki-Tokai 2023　Web開催　令和5年10月21日

■座長：福井浩司
当院におけるHCV抗体陽性者に対する院内連携の取り組み～ナッジ理論による行動変容～
演者：近江八幡市立総合医療センター　楊　孝治
Micro Eliminators in Kinki-Tokai 2023　Web開催　令和5年10月21日

■座長：西田　勉
検査結果告知漏れ対策の重要性～医療安全の立場から～
演者：関西医科大学医療安全管理センター　宮崎浩彰
消化器診療と安全管理セミナー　豊中市、千里阪急ホテル　令和5年10月26日

■座長：西田　勉
Trisomi8陽性骨髄異型症候群に合併した腸管ベーチェット病類似腸炎の1例、その他
演者：市立伊丹病院　山下勇大
北摂・阪神IBD Seminar　大阪市、ホテル阪急インターナショナル　令和5年11月11日

■座長：松本健吾
脂肪性肝疾患症例におけるイベント発生リスクの検討
演者：大阪医療センター　阿部友太朗
第36回OLF研究発表会　大阪府、ホテル阪急インターナショナル4Ｆ　令和5年11月24日

■司会：山本政司
「十二指腸過誤腫の1例」、他
演者：市立豊中病院　藤井祥史、他
第487回大阪胃研究会　大阪市、梅田スカイビルタワーウエスト　令和6年1月10日

■座長：西田　勉
除菌後胃癌の内視鏡診断:その胃癌、見逃していませんか？
演者：がん研有明病院　平澤俊明
第9回豊中胃内視鏡検診勉強会　豊中市、市立豊中病院　令和6年1月20日

■座長：福井浩司
複合免疫療法時代におけるレンバチニブのポジショニング
演者：近畿大学　上嶋一臣
肝癌診療の集学的治療を考える会　大阪府　大阪市、エーザイ株式会社　令和6年3月13日

受賞

■令和4年度大阪がん予防対策基金研究助成
松本健吾
大阪府保険医療財団　大阪市、大阪がん循環器病予防センター　令和5年4月25日

8. 循環器内科

＜現　況＞

循環器内科は専門病床31床とCCU3床を有しており、急性期から慢性期の循環器疾患全般に対応している。当科はスタッフ9名（非常勤1名）、初期研修医1－2名で構成されている。心臓血管外科とともに「心臓病センター」として院外からの心疾患救急専用ダイレクトコールに対応し、24時間体制で豊能医療圏の循環器救急診療を担っている。当院は循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設に認定されており若手医師の教育にも力を入れている。

①令和5年度の心臓カテーテル検査・治療、ペースメーカ植え込み術は以下のとおりである。
緊急PCI　71件、待機PCI　105件、緊急CAG（検査のみ）48件、待機CAG（検査のみ）　282件、ペースメーカ植込み（電池交換も含む）79件
②令和5年度は血管撮影装置の経年劣化に対して新装置への更新工事を行ったため、心カテーテル検査や治療制限を余儀なくされた。またスタッフ不足による土日祝日の緊急診療が制限されたことから例年にくらべPCI件数は70件ほど減少した。しかし令和4年度の入院患者869名に対して令和5年度は928名に増加しており、診療制限のなか例年以上の入院患者対応を行うことができた。
③心不全の原因の一つである心筋疾患の診断に重点をおき、診断ツールの拡充を行った。具体的には心臓MRI、心筋生検、および心アミロイドーシスを診断するためのピロリン酸シンチグラフィーなどを組み込むことで、より適切な診断を行うことが可能となった。
④弁膜症疾患を正確に診断するため、経食道心エコー検査を積極的に行った結果、検査症例数が増加した。心筋症と弁膜症の正確な診断が可能となり、大阪大学医学部附属病院循環器内科と緊密に連絡を取り合うことで、患者によりよい治療を提供できるようになった。
⑤高齢患者が増える中、体に優しい治療を心がけている。いわゆる『リードレスペースメーカ』を、適応患者には積極的に使用しており、令和5年度には8名の新規患者に対して植え込みを行った。
⑥超高齢心不全患者は、多くの併存疾患やFrailtyを合わせ持ち、再入院率も高い。このような患者には入院時から退院後の生活を見据えた多職種カンファレンスを行い、かかりつけ医や往診クリニックとの連携に力をいれて円滑な退院支援を行ってきた。
⑦末期心不全患者のACP/緩和ケアという課題も慢性心不全看護認定看護師を中心に緩和ケアチームと協同して積極的に取り組むことができた。

＜今後の課題＞

心臓病センター循環器内科は“全人的で心温かな心臓病治療”を行うことを信条としているが、今後の課題としては下記事項があげられる。

1. 豊能医療圏における当院の役割を明確化し、救急心疾患対応を充実させ、医療圏全体の診療レベル向上に貢献する。
2. 外来機能の適正化・整理を行い、地域医療機関からの新規紹介患者数の増加をめざす。
3. 働き方改革の一環として、持続可能な循環器診療体制を構築する。
4. 循環器内科を志す若手医師に対する教育体制を充実させ、循環器診療に携わる多職種スタッフのスキルアップを支援する。
5. 地域の医療機関や地域の多職種と連携可能なサポートシステムを構築する。
6. 心不全パンデミックに対応すべく、「地域連携型心臓リハビリテーション」を普及させる。
7. 心不全の緩和ケアおよびACPを実践し、患者に寄り添ったチーム医療を提供しつつ、地域の医療機関とも情報共有していく。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

循環器内科症例検討会……週1回
心臓病学習会……年3回
不整脈勉強会
（大阪大学循環器内科　岡　崇史先生）……年2回
心不全学習会
「心不全在宅診療の実際～病診連携を通じて地域を支える～」
（かすがいクリニック　大森洋介先生）……年1回
重症心不全勉強会
（国立循環器病研究センター　塚本泰正先生）　…年1回

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■心不全治療におけるSGLT2阻害剤
林　隆治
第375回臨床心臓病研究会　　大阪市、ジェックス研修センター　　令和5年11月18日

刊行論文

■Geriatric nutritional risk index as readmission predictor in older adults with heart failure irrespective of ejection fraction
Sato Y, Kumada M, Kawai H, Motoyama S, Sarai M, Nakagawa T, Izawa H.
Fujita Med J.　9（3）：211-217, 2023

■Efficacy of azilsartan on left ventricular diastolic dysfunction compared with candesartan: J-TASTE randomized controlled trial
Ito S, Takahama H, Asakura M, Abe Y, Ajioka M, Anzai T, Arikawa T, Hayashi T, Higashino Y, Hiramitsu S, Iwahashi N, Izumi C, Kimura K, Kinugawa K, Kioka H, Lim YJ, Matsuoka K, Matsuoka S, Motoki H, Nakamura S, Nakayama T, Nomura A, Sasaoka T, Takiuchi S, Toyoda S, Ueda T, Watanabe T, Yamada A, Yamamoto M, Sozu T, Kitakaze M.
Sci Rep.　13（1）：12517, 2023

■Medications for specific phenotypes of heart failure with preserved ejection fraction classified by a machine learning-based clustering model
Sotomi Y, Hikoso S, Nakatani D, Okada K, Dohi T, Sunaga A, Kida H, Sato T, Matsuoka Y, Kitamura T, Komukai S, Seo M, Yano M, Hayashi T, Nakagawa A, Nakagawa Y, Tamaki S, Ohtani T, Yasumura Y, Yamada T, Sakata Y.
Heart　109（16）：1231-1240, 2023

■Tke WATCH-DM risk score estimates clinical outcomes in type 2 diabetic patients with heart failure with preserved ejection fraction
Iwakura K, Onishi T, Okamura A, Koyama Y, Tanaka N, Okada M, Fujii K, Seo M, Yamada T, Yano M, Hayashi T, Yasumura Y, Nakagawa Y, Tamaki S, Nakagawa A, Sotomi Y, Hikoso S, Nakatani D, Sakata Y.
Sci. Rep.　14(1)：1746, 2024

■Infective endocarditis with a vegetation extending from an aortic annulus abscess to the right atrium
Shiba M, Hayashi T, Ichibori Y, Kitade K, Mori H, Hirayama A, Higuchi Y.
J Echocardiogr.　22(1)：65-66, 2024

■Pathophysiological insights into machine learning-based subphenotypes of acute heart failure with preserved ejection fraction

Sotomi Y, Tamaki S, Hikoso S, Nakatani D, Okada K, Dohi T, Sunaga A, Kida H, Sato T, Matsuoka Y, Sakamoto D, Kitamura T, Komukai S, Seo M, Yano M, Hayashi T, Nakagawa A, Nakagawa Y, Ohtani T, Yasumura Y, Yamada T, Sakata Y.

Heart　110（6）：441-447, 2024

学会発表

■Pressure overlaod induce phospholipase A2mediated lysophosphatidylserine production , leading to necrotic cardiomyocyte death and heart failure via G protein-coupled receptor 34

杉原隆太

第7回日本循環器学会基礎研究フォーラム

兵庫県　神戸市、神戸国際会議場　　令和5年12月9日－10日

■心不全発症を契機に発見された高齢三心房心の一例

石元瑛仁、岡崎由典、宮岡　愛、福島直樹、飯田卓馬、福岡秀忠、坂本陽子、林　隆治、熊田全裕、中川　理

第136回日本循環器学会近畿地方会　　大阪市、ナレッジキャピタル　　令和5年12月16日

■左下肢動脈閉塞症を契機にlotus root-like appearanceの冠動脈病変が判明した若年男性の一例

太田瑞貴、福岡秀忠、熊田全裕、林　隆治、坂本陽子、岡崎由典、飯田卓馬、福島直樹、中川　理

第136回日本循環器学会近畿地方会　　大阪市、ナレッジキャピタル　　令和5年12月16日

■IgG4 関連疾患による冠動脈瘤の一例

飯田卓馬、宮岡　愛、杉原隆太、福島直樹、福岡秀忠、岡崎由典、林　隆治、熊田全裕、中川　理、三隅祐輔、吉岡大輔、宮川　繁

第42回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会

大阪市、ナレッジキャピタル　　令和6年3月2日

■Deterioration of Diastolic Function in the Low HFA-PEFF Group over Time -From Insight of PURSUIT-HFpEF Registry

福島直樹、林　隆治、久保山　愛、飯田卓馬、福岡 秀忠、岡﨑由典、熊田全裕、中川　理、山田貴久、安村良男、瀬尾昌裕、矢野正道、中川彰人、中川雄介、玉置俊介、外海洋平、中谷大作、彦惣俊吾、坂田泰史

第88回日本循環器学会学術集会

兵庫県　神戸市、神戸コンベンションセンター　　令和6年3月8日－10日

■経皮的腎動脈形成術(PTRA)により高血圧、進行性腎障害が改善した心不全既往を有する両側腎臓脈狭窄の一例

冨松侑真、福島直樹、熊田全裕、林　隆治、岡崎由典、福岡秀忠、飯田卓馬、杉原隆太、宮岡　愛、中川　理

第134回日本循環器学会近畿地方会　　大阪市、梅田スカイビル　　令和6年3月16日

研究会・集談会発表

■「左下肢動脈閉塞症を契機にlotus root-like appearanceの冠動脈病変が判明した若年男性の一例

太田瑞貴、福岡秀忠、熊田全裕、林　隆治、坂本陽子、岡崎由典、飯田卓馬、福島直樹、中川　理

第29回中之島循環器・代謝フォーラム

大阪市、梅田スカイビルタワーウエスト　　令和5年10月28日

■Make a London bridge between cell death and heart failure
　杉原隆太
　第10回Sunrise研究会　Web開催　令和6年1月28日

司会・座長・その他

■座長：林　隆治
　日本人高血圧患者を標的とした新たな治療戦略
　演者：高槻赤十字病院　大中玄彦
　豊中市病診連携の会　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和5年6月15日
■座長：中川　理
　「CKD領域におけるSGLT2阻害薬のエビデンス」
　演者：大阪大学腎臓内科学　坂口悠介
　第135回日本循環器病学会近畿地方会　アフタヌーンセミナー4
　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和5年7月15日
■座長：林　隆治
　超高齢者に対するAFアブレーションの留意点
　演者：大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学　関原孝之
　北摂不整脈アカデミー　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和5年9月28日

■座長：熊田全裕
　虚血性心疾患と家族性高コレステロール血症
　演者：箕面市立病院　北尾　隆
　New Guideline, For New Stage from Kansai　大阪市、ホテルグランビア大阪　令和5年9月29日
■ディスカッサント：福岡秀忠
　二次予防高リスク患者におけるLDL-C70ｍｇ/ｄLの管理状況についてレクビオが適した患者像とは？
　新たな脂質低下療法の幕開け　in 豊能
　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和5年11月29日
■座長：中川　理
　「心臓リハビリテーションでの管理栄養士の取り組み～低栄養患者の栄養指導を調査して～」他
　演者：洛和会音羽病院　廻神朱里、他
　日本心臓リハビリテーション学会　第9回近畿支部地方会
　大阪市、ホテルマイステイズ新大阪コンファレンスセンター　令和6年2月11日
■座長：中川　理
　「北摂地域におけるMultimorbidity診療の実際とこれから」
　演者：はくとホームケアクリニック　肥後友彰
　第20回　Greenlab 2025　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和6年3月9日

受賞

■Award session優秀賞
　杉原隆太
　第7回日本循環器学会基礎研究フォーラム
　兵庫県　神戸市、神戸国際会議場　令和5年12月9日－10日
■The 10th SUNRIZE YIA
　杉原隆太
　第10回Sunrise研究会　Web開催　令和6年1月27日

■症例賞

飯田卓馬

第42回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会

大阪市、ナレッジキャピタル　令和6年3月2日

寄稿文・テレビ・ラジオ・その他

■人生万事、塞翁が馬「幸せに生きる」をどう支えるか

坂本陽子

Osaka Heart Club

公益社団法人大阪ハートクラブ　令和5年8月18日

9. 精神科

＜現　況＞

様々な背景をもつ患者が当院を受診されている。せん妄リスクが高い高齢者、認知症疾患や精神疾患を合併されている方、精神的に不安定な妊婦が当院での診療を希望されている。すべての方の必要な治療を最大限受けられるよう尽力するのが、地域医療を支える公立基幹病院の役割と考えている。

豊中市においても高齢化や認知症患者の増加がすすんでいる。当院の入院患者の平均年齢も高くなり、認知症の合併も増えている。そして入院中のせん妄出現も増えており、予定していた治療がやむえず中断という事態も生じている。病院側も多くのスタッフがせん妄への対応に追われてしまい、高度急性期病院としての業務に支障が生じてしまうこともある。このような事態を避けるため、精神科リエゾンチームは、可能な限り早期に介入をし、激しいせん妄が出現しないよう尽力している。当院の精神科リエゾンチームの介入件数は令和5年度で1,823件と、同規模病院と比較して突出して多い。精神科リエゾンチームは精神科医、心理師、専門看護師など他職種で構成し、多面的対応をしている。当院のせん妄対策は病院全体でも取り組んでいる。病棟スタッフはせん妄予防のための工夫を凝らしている。外来スタッフや入院支援部門はせん妄リスクの把握、入院前の節酒のお願いなどを行っている。

周産期の精神症状に対しては、産科医、助産師、心理師、精神科医がうまく連絡を取り合い、定期的に症例検討も行っている。地域の民間産科病院からだけでなく、近隣の市民病院からも様々な困難症例を引き受けている。妊婦に対しては薬物療法が行いにくいこともあり、治療の中心的役割をしばしば心理師が担っている。

豊中市は精神科診療所が比較的充実している地域である。そのため一般的な精神疾患の外来診療については、院外からの紹介を原則承っていない。ただし院内の身体科と精神科が協力して治療を行わないといけない患者の精神科外来治療は引き受けている。一方、認知症の鑑別診断がきちんと行える医療機関は未だ十分でない。そのため当院外来では認知症の鑑別診断のための紹介受診を承っている。専門医の診察に加え、必要に応じて心理師による認知機能検査や脳血流SEPCT等の画像診断を施行している。そして若年性認知症の場合、その診断だけでなく診断後の対応にも特殊な対応が必要になる。当院では診断後に、大阪府（大阪大学医学部附属病院）の若年性認知症の経験が豊富な精神保健福祉士とも連携した体制をとり、充実した対応を行っている。

【臨床心理部門】　令和5年10月に前任の会計年度職員が退職し、急遽臨時職員を募り、12月から公認心理師を採用した。また迅速なリエゾンチーム活動に寄与するため、週１の応援心理師を増員した。しかしながら、当院の心理職は精神科以外の全科より相談や心理アセスメント介入依頼があり、業務分担をしつつ対応している現状である。小児科特定疾患カウンセリングでは、実施数が前年の88件から138件と増加、周産期関連でもIUFDなど悲嘆ケアや産後検診からの心理カウンセリングなど専門的な心理ケアへの要望は高くなっている。

＜今後の課題＞

当院の精神科リエゾン件数は突出して多い。膨大な量のリエゾン診療が、他の診療業務にしわ寄せが生じている状態である。そして高齢化や認知症の増加は今後も予想され、せん妄は今後さらに増加していく。そのため人員の確保と業務の効率化をさらに進める必要がある。他職種による体制もさらに進化させ、業務と人員配置の見直しをしていく。長期的視点に立った看護師の育成も重要となる。リエゾンチーム外も含めた病院全体での対応力の進化をめざし、院内カンファレンスや研修をさらに充実させていく。入院前の情報収集も重要であり、入院前支援室ともしっかり連携した効率的なせん妄リスク把握と対策を行うようにしていく。地域医療を担う公立病院として、様々な背景をお持ちの方の入院治療も積極的に受け入れられる体制を今後も維持していきたい。

また緩和ケアチームでの心理支援要員が欠員となり、がん診療における当院の心理面での専門的支援体制については課題となっている。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

新人看護研修「メンタルヘルス」について、
参加者55名　松向寺真彩子、令5年5月30日…年1回
初期研修医必修講義「依存症」　……年1回
初期研修医「せん妄」…… 毎月
精神科・心理師
「金曜勉強会：最近のトピックス」…… 年数回

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■令和5年度　厚生労働省委託事業　がん総合相談に携わる者に対する研修事業
がんサポートグループ企画・運営者のための研修会
小川朝生、平井　啓、斉藤　円、松向寺真彩子他
宮城県　仙台市、ハイブリッド開催（ハーネル仙台）　参加者：90名　令和5年11月3日

■令和5年度　厚生労働省委託事業　がん総合相談に携わる者に対する研修事業
がんサポートグループ企画・運営者のためのフォローアップ研修会
小川朝生、平井　啓、斉藤　円、松向寺真彩子他
東京都　中央区、ハイブリッド開催（AP東京八重洲）　参加者：60名　令和5年11月23日

■令和5年度　厚生労働省委託事業　がん総合相談に携わる者に対する研修事業
がんサポートグループ企画・運営者のための研修会
小川朝生、平井　啓、斉藤　円、松向寺真彩子他
福岡県　福岡市、福岡県中小企業振興センター　参加者：90名　令和6年2月10日

刊行論文

■Cerebrospinal fluid amyloid beta with amyloid positron emission tomography concordance rates in a heterogeneous group of patients including late-onset psychotic disorders: a retrospective cross-sectional study
Yuto Satake,Hideki Kanemoto,Shiho Gotoh,Shoshin Akamine,Takashi Suehiro,Keiko Matsunaga,
Eku Shimosegawa,Kenji Yoshiyama,Takashi Morihara,Kohji Mori,Manabu Ikeda.
Psychogeriatrics　23（6）：1091-1093, 2023

■Ribavirin Treatment for Severe Schizophrenia with Anti-Borna Disease Virus 1 Antibodies 30 Years after Onset.
Hidenori Matsunaga,Akio Fukumori,Kohji Mori,Takashi Morihara,Shunsuke Sato,Kyoko Kitauchi,
Kanta Yanagida,Kazumi Taguchi,Tomoyuki Honda,Keizo Tomonaga.
Case reports in psychiatry　4899364-4899364, 2023

■Polygenic effects on the risk of Alzheimer's disease in the Japanese population.
Masataka Kikuchi,Akinori Miyashita,Norikazu Hara, ...Takashi Morihara, ...Kazunari Ishii.以上781名
Alzheimers Res Ther　16（1）：45, 2024

■Characteristics of very late-onset schizophrenia-like psychosis classified with the biomarkers for Alzheimer's disease: a retrospective cross-sectional study
Yuto Satake,Hideki Kanemoto,Daiki Taomoto,Takashi Suehiro,Fuyuki Koizumi,Shunsuke Sato,
Tamiki Wada,Keiko Matsunaga,Eku Shimosegawa,Shiho Gotoh,Kohji Mori,Takashi Morihara,
Kenji Yoshiyama,Manabu Ikeda.
Int Psychogeriatr　36（1）：64-77, 2024

講習・講演

■認知症診療の新たな展開
　森原剛史
　　大阪精神科診療所協会　総会　　大阪市、梅田スカイビル　　令和5年6月10日
■「総合病院で働く心理職の実際」医療領域の公認心理師業務・多職種連携・チーム医療に関する講義
　松向寺真彩子
　　大阪樟蔭女子大学学芸学部心理学科　　東大阪市、大阪樟蔭女子大学清志館　　令和5年8月8日
■認知症の最新動向：今できる治療、これから登場する治療
　森原剛史
　　大阪認知症研究会　　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　　令和5年12月17日

司会・座長・その他

■指定討論者：松向寺真彩子
　司会者：登根綾香
　　「『治療を頑張りたい・長生きしたい』50代女性患者との2年間の関わり」
　　演者：磐田市立総合病院　鈴木雅子
　　第13回パリアティヴケア研究会
　　広島県　廿日市市、ホテルみや離宮　　令和6年1月27日－28日

寄稿文・テレビ・ラジオ・その他

■すぐそこまで来ている「認知症臨床の革命」
　森原剛史
　　豊中市医師会　月報　No 704 44-45ページ
　　豊中医師会　　令和6年2月

10. 小児科

＜現　況＞

令和5年4月1日に髙橋邦彦が部長に昇任した。医員として西本静香が採用された。専攻医として加藤あゆ香、西垣皓司、大田雅貴が採用された。令和6年3月31日で上園深希（専攻医）が退職した。令和6年3月31日現在、小児科は主任部長1名、部長3名、医員2名、非常勤医1名、専攻医4名の合計11名で診療を行っている。

小児科外来は、午前に一般診を週11枠、午後に全て予約制の専門外来を週7.5枠（神経・発達を4枠、未熟児、アレルギー、血液、心臓、内分泌・栄養、先天代謝を各1枠、内分泌を隔週で1枠）行っている。平日は19時まで時間外救急外来を行い、さらに週4日（令和6年3月31日現在、火曜日、水曜日、金曜日と日曜日）は豊能広域こども急病センターの後送病院として19時から翌朝まで小児の二次救急医療を行っている。病棟は小児病棟の28床に加えてNICU病棟6床、GCU病棟10床を有する。令和4年度の新規入院患者数と疾患別内訳を下記に示す。

＜疾患別入院症例数＞

1）一般小児科入院　合計1,139例

A）感染症

気道感染症 373例（うちCOVID-19が39例）、尿路感染症19例、感染性腸炎49例など

B）境界・混合

熱性けいれん102例、川崎病36例、気管支喘息51例など

C）非感染症

神経筋疾患183例、血液・腫瘍性・免疫疾患14例、新生児疾患22例、内分泌・代謝疾患83例、先天代謝異常17例、消化器疾患41、ネフローゼ6例、食物負荷試験30例、アナフィラキシー17例など

2）NICUとGCU病棟　合計257例（院内出生234例、院外出生23例）

極低出生体重児8例、新生児高ビリルビン血症35例、先天性心疾患2例、奇形症候群（染色体異常を含む）1例、多胎28組、外科疾患1例など

＜今後の課題＞

小児医学の発達に伴い、小児科の中でも専門性（サブスペシャリティ）を持つ医師が必要になっている。幅広い診療を継続的に行うためには、このような専門性を持つ常勤の小児科医を確保することが今後の課題である。

＜研究研修事項＞

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■第28回市立豊中病院 新生児蘇生法講習会「専門」コース(Aコース)　◎
　徳永康行、吉川真紀子　　豊中市、市立豊中病院　　参加者：9名　　令和5年6月3日

■第29回市立豊中病院 新生児蘇生法講習会「専門」コース(Aコース)　◎
　徳永康行、吉川真紀子　　豊中市、市立豊中病院　　参加者：12名　　令和5年10月15日

刊行論文

■乳幼児喘息と診断されていた先天性気管狭窄症の1例
　上園深希、大田雅貴、加藤あゆ香、西垣皓司、安田紀恵、西本静香、川西邦洋、髙橋邦彦、吉川真紀子、徳永康行、茶山公祐
　市立豊中病院院内雑誌　24：3-5, 2023

■再発を繰り返したと考えられる亜急性壊死性リンパ節炎の1例
馬場達也、髙橋邦彦、上園深希、安田紀恵、川西邦洋、吉川真紀子、徳永康行、茶山公祐
市立豊中病院院内雑誌　24：7-9, 2023

■ACTH療法中に血液・髄液中グリシン濃度の上昇を認めた非ケトン性高グリシン血症の男児例
西本静香
大阪母子医療センター雑誌　39(1)：51-56, 2023

学会発表

■インフリキシマブによる炎症性腸疾患の治療中に急性散在性脳脊髄炎を発症した1例
西本静香
第65回日本小児神経学会学術集会　岡山県　岡山市、岡山コンベンションセンター　令和5年6月2日

■後天性von Willebrand病を合併した本態性血小板血症の小児例
茶山公祐、髙橋邦彦
第65回日本小児血液・がん学会学術集会　北海道　札幌市、ロイトン札幌　令和5年9月29日

■解析機器を有しない2次救急病院におけるFilmArray髄膜炎・脳炎パネルの有用性
加藤あゆ香、髙橋邦彦、西本静香
第37回近畿小児科学会　大阪市、大阪国際交流センター　令和6年3月10日

■脊髄長大病変を認めた抗MOG抗体陽性急性散在性脳脊髄炎の1例
上園深希、西本静香
第37回近畿小児科学会　大阪市、大阪国際交流センター　令和6年3月10日

研究会・集談会発表

■頚椎椎間板石灰化症の一例
加藤あゆ香
豊能広域こども急病センター救急医療研究会　箕面市、箕面市立病院　令和5年9月9日

■重症川崎病の2症例
大田雅貴、髙橋邦彦
第48回近畿川崎病研究会　大阪市、グランフロント大阪　令和6年3月2日

11. 消化器外科・呼吸器外科・外科

＜現　況＞

令和5年度は、診療科再編が行われ、これまでの外科は消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、外科（外科専攻医の所属）に細分化された。消化器外科と外科は、副院長1人、顧問1人、部長3人、医長3人、医員3人、専攻医3人で担当した。消化器外科は、上部消化管、下部消化管、肝胆膵、の疾患グループがあり、それぞれ指導医資格をもった部長と中堅、若手の専門医、さらに専攻医が加わりバランス良く構成されている。小児外科は、毎週水曜日に非常勤医師による手術と外来を行っている。

令和4年度4月に設立した「消化器センター」が2年目を迎え、紹介元の医療機関や患者にとって、消化器疾患の紹介、受診がスムーズになり、消化器領域の患者が増加した。

消化器外科と外科で、年間950件の手術を行い、全身麻酔症例は931件であった。前年度と比較し、全手術数、全身麻酔症例数とも増加した。悪性腫瘍手術に関しては、ロボット支援下手術を含めた鏡視下手術を積極的に行い、安全性、根治性に加えて低侵襲な手術を心がけている。

患者高齢化に伴い併存症を持った症例が増えたことや、医療の高度・複雑化が著しく、外科患者においても他科との連携や各領域のスタッフを含めたチーム医療が非常に重要になっている。当科医師は外科専門分野以外にも、ゲノム医療、がん薬物療法、緩和医療、感染対策、栄養療法、医療安全などの領域にも積極的に参加し患者をトータルにサポートすることを重視している。

また、チーム診療制の導入、カンファレンスの勤務時間内実施などを導入し、医師の働き方改革の推進に努めた。

【主要手術数】

主要手術	件数
食道癌切除	8
胃癌切除	86
結腸癌切除	117
直腸癌切除	60
肝癌切除	24

主要手術	件数
胆嚢摘出術	214
膵切除	45
鼠径ヘルニア手術	199
急性虫垂炎	87

＜今後の課題＞

内視鏡下手術やロボット支援手術などの低侵襲治療および合理的な周術期管理やチーム医療の推進によって、質の高い安全な医療を提供する。

消化器センターでは、診療科の垣根を超えて消化器外科・内科が共同して最善の治療にあたり、地域の患者や登録医などに対して安心で迅速な対応を行っていく。

働き方改革を見据えて、他部署へのタスクシフトや診療科内の業務の整理と役割分担、意識変革の推進を行い、長時間労働の削減に取り組む。また、全国的に外科医の希望者の伸び悩む中で、医療水準の向上と労働環境を整えて人材を確保することに努める。

全国的にも外科医を志す医師の減少により、当科も外科専攻医の減少による診療パワーの低下と現行スタッフの過剰労務が問題となり、外科専攻医獲得が喫緊の課題であったが、令和6年度4月には全国から4名の外科専攻医を新たに迎える。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

外科論文抄読会……週1回
外科症例検討会……週3回
切除標本病理検討会（外、病理）……週1回
上部消化管合同症例カンファレンス……週3回
下部消化管合同症例カンファレンス……週1回
肝胆膵症例検討会（外）……週1回

刊行論文

■Essential updates 2021/2022：Perioperative and surgical treatments for gastric and esophagogastric junction cancer

Yanagimoto Y, Kurokawa Y, Doki Y.

Ann Gastroenterol Surg　7（5）：698-708, 2023

■The effect of specimen processing time on HER2 expression in gastric cancer and esophagogastric junction cancer：a single-center retrospective observational study

Yanagimoto Y.　Imamura H, Adachi S, Odagiri K, Kawase T, Yamashita M, Takeyama H, Suzuki Y, Ikenaga M, Shimizu J, Tomita N, Dono k.

BMC Cancer　23（1）：2023

■Randomized phase Ⅲ study of gemcitabine,cisplatin plus S-1 versus gemcitabine,cisplatin for advanced biliary tract cancer(KHBO1401-MITSUBA)

Ioka T, Kanai M, Kobayashi S, Sakai D, Eguchi H, Baba H, Seo S, Taketomi A, Takayama T, Yamaue H, Takahashi M, Sho M, Kamei K, Fujimoto J, Toyoda M, Shimizu J, Goto T, Shindo Y, Yoshimura K, Hatano E, Nagano H.

J Hepatobiliary Pancreat Sci　30（1）：102-110, 2023

■A proposed new Japanese classification of synchronous peritoneal metastases from colorectal cancer：A multi-institutional,prospective,observational study conducted by the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum

Kobayashi H, Kotake K, Kawasaki M, Kanemitsu Y, Kinugasa Y, Ueno H, Maeda K.,Sto T, Itabashi M, Funahashi K, OZawa H, Koyama F, Noura S, Ishida H, Ohue M, Kiyomatsu T, Ishihara S, Koda K, Baba H, Kawada K, Hashiguchi Y, Goi T, Toiyama Y, Tomita N, Sunami E, akagi Y, Watanabe J, Hakamada K, Nakayama G, Sugihara K, Ajioka Y.

Ann Gastroenterol Surg　7（5）：765-771, 2023

■Clinical Guidelines for Diagnosis and Management of Juvenile Polyposis Syndrome in Children and Adults －Secondary Publication

Matsumoto T, Umeno J, Jimbo K, Arai M, Iwama I, Kashida H, Kudo T, Koizumi K, Sato Y, Sekine S, Tanaka S, Tanakaya K, Tamura K, Hirata K, Fukahori S, Esaki M, Ishikawa H, Iwama T, Okazaki Y, Saito Y, Matsuura N, Mutoh M, Tomita N, Akiyama T, Yamamoto T, Ishida H, Nakayama Y.

J Anus Rectum Colon　7（2）：115-125, 2023

■Recent Advances and Current Management for Desmoid Tumor Associated with Familial Adenomatous Polyposis

Kumamoto K, Ishida H, Tomita N.

J Anus Rectum Colon　7（2）：38-51, 2023

■Clinical Guidelines for Diagnosis and Management of Peutz-Jeghers syndrome in Children and Adults

Yamamoto H, Sakamoto H, Kumagai H, Abe T, Ishiguro S, Uchida K, Kawasaki Y, Saida Y, Sano Y, Takeuchi Y, Tajika M, Nakajima T, Banno K, Funasaka Y, Hori S, Yamaguchi T, Yoshida T, Ishikawa H, Iwama T, Okazaki Y, Saito Y, Matsuura N, Mutoh M, Tomita N, Akiyama T, Yamamoto T, Ishida H, Nakayama Y.

Digestion　104（5）：335-345, 2023

■Association between methicillin-resistant Staphylococcus aureus nasal carriage and infection after pancreatic surgery

Jinushi K, Shimizu J, Yamashita M, Odagiri K, Yanagimoto Y, Takeyama H, Suzuki Y, Ikenaga M, Imamura H, Dono K.

J Hepatobiliary Pancreat Sci.　31（1）：42-49, 2023

■Impact of conversion surgery after chemotherapy in patients with initially unresectable and recurrent biliary tract cancer

Nakamura I, Hatano E, Baba H, Kamei K, Wada H, Shimizu J, Kanai M, Yoshimura K, Nagano H, Ioka T.

Ann Gastroenterol Surg　7（6）：1009-1020, 2023

■Geriatric prognostic scoring system predicts survival after Hepatectomy for elderly patients with liver cancer

Sakano Y, Noda T, Kobayashi S, Akasaka H, Kato K, Sasaki K, Iwagami Y, Yamada D, Tomimaru Y, Takahashi H, Asaoka T, Shimizu J, Rakugi H, Doki Y, Eguchi H.

Ann Gastroenterol Surg　2023

■Phase Ⅱ study of S-1 plus docetaxel as first-line treatment for older patients with advanced gastric cancer(OGSG 0902)

Kawase T, Imamura H, Kawabata R, Matsuyama J, Nishikawa K, Yanagihara K, Yamamoto K, Hoki N, Kawada J, Kawakami H, Sakai D, Kurokawa Y, Shimokawa T, Satoh T.

International Journal of Clinical Oncology　29（2）：134-141, 2023

■A Novel Surgical Technique for Double Flap Reconstruction Using a Circular Stapler After Laparoscopic Proximal Gastrectomy

Yanagimoto Y, Omori T, Odagiri K, Kawase T, Takeyama H, Suzuki Y, Imamura H.

J Gastrointest Surg.　27（10）：2209-2212, 2023

■Robotic en bloc resection sparing the bladder and anus for locally advanced low rectal cancer invading the prostate-a video vignette

Takeyama H, Sato M, Ikenaga M, Suzuki Y, Imamura H.

Colorectal Dis.　25（5）：1066-1067, 2023

■Identifying Risk Factors of Complications following Total Gastrectomy for Gastric Cancer：Comparison between Splenectomy and Spleen-Preserving Surgery-A Supplementary Analysis of JCOG0110

Ito S.,Sano T, Mizusawa J, Tokunaga M, Hashimoto T, Imamura H, Teshima S, Nihei K, Yamada M, Choda Y, Imamura K, Hato S, Terashima M, Sasako M.

Dig Surg　40（3-4）：114-120, 2023

■Effect of the number of cycles of docetaxel+S-1 therapy on long-term survival in adjuvant chemotherapy for stage Ⅲ gastric cancer.A pooled analysis of the OGSG0604 and OGSG1002 trials

Kimura Y, Kawakami H, Tamura S, Fujitani K, Matsuyama J, Imamura H, Iijima S, Sakai D, Kurokawa Y, Shimokawa T, Tsujinaka T, Furukawa H, atoh T.

Gastric Cancer　26（5）：788-797, 2023

■Early endpoints of a randomized phase Ⅱ trial of preoperative chemotherapy with S-1/CDDP with or without trastuzumab follwed by surgery for HER2-positive resectable gastric or esophagogastric junction adenocarcinoma with extensive lymph node metastasis：Japan Clinical Oncology Group study JCOG1301C(Trigger Study)

Tokunaga M, Machida N, Mizusawa J, Ito S, Yabusaki H, Hirano M, Watanabe M, Imamura H, Kinoshita T, Yasuda T, Hihara J, Fukuda H, Yoshikawa T, Boku N, Terashima M.

Gastric Cancer　27（3）：580-589, 2023

■Phase Ⅱ Study of Intraperitoneal Administration of Paclitaxel Combined with S-1 and Cisplatin for Gastric Cancer with Peritoneal Metastasis
Kobayashi D, Kodera Y, Fukushima R, Morita M, Fushida S, Yamashita N, Yoshikawa K, Ueda S, Yabusaki H, Kusumoto T, Arigami T, Hidemura A, Omori T, Yamaguchi H, Hirono Y, Tsuji Y, Moon J, Tomita T, Imamura H, Nakanishi K, Shimizu D, Hirakawa A, Ishigami H, Kitayama J.
Ann Surg Oncol.　31（2）：735-743, 2023

■Multicenter phase Ⅱ study of capecitabine plus oxaliplatin in older patients with advanced gastric cancer：the Tokyo Cooperative Oncology Group(TCOG)GI-1601 study
Kawabata R, Chin K, Takahari D, Hosaka H, Muto O, Shindo Y, Nagata N, Yabusaki H, Imamura H, Endo S, Kashiwada T, Nakamura M, Hihara J, Kobayashi M, Sagawa T, Saito S, Sato A, Yamada T, Okano N, Shimada K, Matsushima M, Kataoka M, Matsumoto S, Goto M, Kotaka M, Shiraishi T, Yamai H, Nagashima F, Ishizuka N, Yamaguchi K.
Gastric Cancer　26（6）：1020-1029, 2023

■Association between the antiadhesion membrane and small bowel obstruction after open gastrectomy：A supplemental analysis of the randomized controlled JCOG1001 trial
Toriumi T, Terashima M, Mizusawa J, Uemura K, Kurokawa Y, Takiguchi S, Doki Y, Hihara J, Imamura H, Takagane A, Ito S, Yoshikawa T, Sano T, Sasako M.
Ann Gastroenterol Surg　8（1）：30-39, 2023

■Comparison of the effects of open and laparoscopic approach on body composition in gastrectomy for gastric cancer：A propensity score-matched study
Takeoka T, Yamamoto K, Kurokawa Y, Miyazaki Y, Kawabata R, Omori T, Imamura H, Fujita J, Eguchi H, Doki Y.
Ann Gastroenterol Surg　8（1）：40-50, 2023

■第2講「まさか自分が大腸がん・・・！」
池永雅一
第20回市立豊中病院がん医療市民公開講座　23：5-8, 2023

■第3講「消化器がんの薬物療法とゲノム医療」
川瀬朋乃
第20回市立豊中病院がん医療市民公開講座　23：8-12, 2023

■手術部位感染対策
清水潤三
環境感染誌　38（1）：1-6, 2023

■症例報告Ⅳ　虫垂子宮内膜症による虫垂重積症の1例
地主皓一、鈴木陽三、竹山廣志、能浦真吾、池永雅一、清水潤三、田村裕美、足立史朗、冨田尚裕
日本大腸肛門病会誌雑誌　76（1）：40-44, 2023

■連載　腫瘍免疫Up-To-Date 第5回　栄養とがん免疫
今村博司
GI Cancer Cutting Edge　4（2）：4-5, 2023

■外科系周術期栄養のアップデート　胃癌周術期の栄養サポートの重要性
今村博司、柳本喜智、小田切数基、川瀬朋乃、木村　豊、西川和宏
New Diet Therapy　38（2）：98-498, 2023

■胃癌化学療法後の術後難治性リンパ漏に対してオクトレオチドが奏効した1例
江崎さゆり、柳本喜智、小田切数基、竹山廣志、鈴木陽三、能浦真吾、清水潤三、川瀬朋乃、堂野恵三
日本外科系連合学会誌　47（6）：727-733, 2023

■膵癌化学療法中に発症した血栓性微小血管症に対して血漿交換が著効した1例
山下雅史、清水潤三、佐藤泰史、小田切数基、柳本喜智、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、今村博司、赤木謙三、岩澤　卓、冨田尚裕、堂野恵三
癌と化学療法　49（13）：1959-1961, 2023
■腹腔鏡下低位前方切除・右精嚢合併切除術で治癒切除し得た上行結腸癌術後ダグラス窩腹膜播種再発の1例
鈴木陽三、池永雅一、竹山廣志、能浦真吾、佐藤泰史、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、赤木謙三、岩澤　卓、冨田尚裕、堂野恵三
癌と化学療法　49（13）：1503-1505, 2023
■単孔式腹腔鏡下結腸切除術における体腔内吻合の意義
鈴木陽三、能浦真吾、竹山廣志、冨田尚裕
日本大腸肛門病学会雑誌　76（1）：98-98, 2023
■ロボット支援腹腔鏡下直腸手術導入時の短期成績について
竹山廣志、能浦真吾、鈴木陽三、冨田尚裕
日本大腸肛門病学会雑誌　76（1）：108-108, 2023
■膀胱浸潤を伴う進行直腸癌に対して、ロボット支援下直腸切除術および膀胱部分切除術を施行した1例
竹山廣志、能浦真吾、鈴木陽三、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、岩澤　卓、冨田尚裕、堂野恵三
日本大腸肛門病学会雑誌　76（2）：211-211, 2023
■短期間に異なる機序で2度の大腸穿孔をきたした1例
大本亮輔、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、清水潤三、冨田尚裕
日本大腸肛門病学会雑誌　76（5）：381-386, 2023
■リンパ節転移を伴った4.7mm大の直腸神経内分泌腫瘍の1例
大辻晋吾、鈴木陽三、池永雅一、清水潤三、冨田尚裕
日本大腸肛門病学会雑誌　76（7）：496-500, 2023
■開腹幽門側胃切除Roux-en-Y再建術後14年目に挙上空腸が内ヘルニアをきたした1例
地主皓一、鈴木陽三、小田切数基、柳本喜智、竹山廣志、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、堂野恵三
日本外科系連合学会誌　48（2）：117-121, 2023
■膵頭十二指腸切除における周術期感染管理
藤本直斗、清水潤三、山下雅史、小田切数基、竹山廣志、柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、今村博司、堂野恵三
日本外科感染症学会雑誌　20（2）：128-132, 2023
■「がん化学療法における代謝栄養管理の意義」胃がん化学療法患者に対する支持療法としての栄養サポートの意義
今村博司、川瀬朋乃、柳本喜智、野間俊樹、西川和宏、木村　豊
外科と代謝・栄養　57（6）：192-196, 2023
■当科における切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ＋ベバシズマブの使用経験
清水潤三、山下雅史、小田切数基、竹山廣志、柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、今村博司、堂野恵三
癌と化学療法　50（13）：1513-1515, 2023
■切除可能膵癌に対する術前GS療法の忍容性と治療成績
山下雅史、清水潤三、佐藤泰史、野間俊樹、萩原清貴、柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、今村博司、赤木謙三、岩澤　卓、冨田尚裕
癌と化学療法　50（13）：1411-1413, 2023

■進行胃癌に術前化学療法を行い腹腔鏡下胃全摘、膵体尾部切除、拡大郭清を施行した1例
福田健太、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、清水潤三、今村博司、堂野恵三
癌と化学療法　50（13）：1438-1440, 2023

■出血性原発性十二指腸癌に対してSOX療法が奏効した高齢者の1例
木下雨宣、川瀬朋乃、柳本喜智、小田切数基、山下雅史、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、清水潤三、今村博司、冨田尚裕、堂野恵三
癌と化学療法　50（13）：1777-1779, 2023

■水疱性類天疱瘡の加療中に上行結腸癌を併発し根治治療を施行した1例
飯島賢、池永雅一、竹山廣志、鈴木陽三、冨田尚裕、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、堂野恵三
癌と化学療法　50（13）：1589-1591, 2023

■傍大動脈周囲リンパ節陽性胃癌に対してSOX＋Nivolumabを行いConversion Surgeryを施行し得た1例
奥田忠宏、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、清水潤三、今村博司、堂野恵三
癌と化学療法　50（13）：1671-1673, 2023

■大腸癌部穿孔5例の検討
地主皓一、池永雅一、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、鈴木陽三、川瀬朋乃、清水潤三、今村博司、堂野恵三
癌と化学療法　50（13）：1566-1568, 2023

■上行結腸癌術後再発の緩和治療中に発症した回腸びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の1例
鈴木陽三、池永雅一、佐藤泰史、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、小林　晶、清水潤三、川瀬朋乃、赤木謙三、岩澤　卓、田村裕美、足立史朗、今村博司
癌と化学療法　51（1）：84-86, 2023

■上行結腸癌局所再発との鑑別が困難であった繊維腺腫様腫瘍の1例
鈴木陽三、池永雅一、佐藤泰史、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、小林　晶、清水潤三、川瀬朋乃、赤木謙三、岩澤　卓、田村裕美、足立史朗、今村博司
癌と化学療法　51（1）：87-89, 2023

■AYAチームとともに治療方針決定を行った切除不能StageⅣb肛門管癌30歳代女性の1例
鈴木陽三、池永雅一、佐藤泰史、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、小林　晶、能浦真吾、清水潤三、川瀬朋乃、赤木謙三、岩澤　卓、冨田尚裕、今村博司
癌と化学療法　51（1）：69-71, 2023

■胃癌抗がん剤患者に対する口腔ケア、口腔トラブルについてのアンケート調査
川瀬朋乃、今村博司、柳本喜智、小田切数基、鈴木陽三、竹山廣志、山下雅史、佐藤泰史、小林　晶、池永雅一、清水潤三、赤木謙三、岩澤　卓、冨田尚裕、堂野恵三
癌と化学療法　51（3）：308-310, 2023

■進行・再発胃癌薬物療法におけるNarrative Approachによる治療選択－PTX or nab-PTX?－
川瀬朋乃、今村博司、柳本喜智、小田切数基、鈴木陽三、竹山廣志、山下雅史、佐藤泰史、小林　晶、池永雅一、清水潤三、赤木謙三、岩澤　卓、冨田尚裕、堂野恵三
癌と化学療法　51（3）：311-313, 2023

■胃外科における周術期栄養運動療法の実際と問題点
今村博司、川瀬朋乃、柳本喜智、野間俊樹、秦　真由美、久田真規子、井上文子、金谷愛子、足立ゆかり、奈良平明子、大川知之、山本健吾
消化器外科　47（2）：153-162, 2023

学会発表

■より安全で精緻なロボット支援手術を可能とするための良好な術野を維持する新規smoke吸引方法：The robot smoke suction technique

竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、岩澤　卓、冨田尚裕、堂野恵三

第123回日本外科学会定期学術集会

東京都　港区、グランドプリンスホテル新高輪　　令和5年4月27日－29日

■当院における進行胃癌に対する腹腔鏡胃切除術の成績

小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、堂野恵三

第123回日本外科学会定期学術集会

東京都　港区、グランドプリンスホテル新高輪　　令和5年4月27日－29日

■腹壁ヘルニア嵌頓症例における用手還納の評価

地主皓一、鈴木陽三、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、池永雅一、川瀬朋乃、清水潤三、今村博司、冨田尚裕、堂野恵三

第123回日本外科学会定期学術集会

東京都　港区、グランドプリンスホテル新高輪　　令和5年4月27日－29日

■腹腔鏡初心者が施行する単孔式大腸癌手術の成績

鄭　充善、鈴木陽三、大塚正久、西田謙太郎、森　総一郎、吉川幸宏、野村雅俊、末田聖倫、古賀睦人、宮垣博道、辻江正徳、赤丸祐介、赤松大樹、水島恒和

第123回日本外科学会定期学術集会

東京都　港区、グランドプリンスホテル新高輪　　令和5年4月27日－29日

■当院の急性胆嚢炎手術における胆汁内細菌の検討

松下克則、横山茂和、内山優史、水野剛志、河井邦彦、小林照之、笹生和宏、小森孝通、岸　健太郎、福永　睦

第123回日本外科学会定期学術集会

東京都　港区、グランドプリンスホテル新高輪　　令和5年4月27日－29日

■消化器外科を取り巻く社会的問題解決策としての単孔式結腸癌手術の可能性

鈴木陽三、鄭　充善、大塚正久、池永雅一、竹山廣志、内藤　敦、今里光伸、佐藤泰史、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、赤木謙三、岩澤　卓、冨田尚裕、堂野恵三、赤松大樹、水島恒和

第123回日本外科学会定期学術集会

東京都　港区、グランドプリンスホテル新高輪　　令和5年4月27日－29日

■市民病院における全身合併症を伴った鼠径部ヘルニア症例のマネージメントの実際

鈴木陽三、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、冨田尚裕、堂野恵三

第21回日本ヘルニア学会学術集会

大阪市、大阪国際会議場(グランキューブ大阪)　　令和5年5月26日－27日

■右外鼠径ヘルニアに合併し術前画像評価を行った閉経後異所性子宮内膜症の1例

鈴木陽三、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、冨田尚裕、堂野恵三

第21回日本ヘルニア学会学術集会

大阪市、大阪国際会議場(グランキューブ大阪)　　令和5年5月26日－27日

■11年間鼠径部嚢胞として経過観察されたのちに嵌頓を来した大腿ヘルニアの1例
木下雨宣、鈴木陽三、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、堂野恵三
第21回日本ヘルニア学会学術集会
大阪市、大阪国際会議場(グランキューブ大阪)　令和5年5月26日－27日

■自然脱落を認めた横行結腸脂肪腫の1例
鈴木陽三、池永雅一、佐藤泰史、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、小林　晶、竹山廣志、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、岩澤　卓、赤木謙三、冨田尚裕、堂野恵三
第48回日本外科系連合学会学術集会
神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜ノース　令和5年6月7日－9日

■水疱性類天疱瘡の加療中に併発した上行結腸癌の1例
飯島　賢、池永雅一、竹山廣志、鈴木陽三、冨田尚裕、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、堂野恵三
第48回日本外科系連合学会学術集会
神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜ノース　令和5年6月7日－9日

■右外鼠径ヘルニアに合併した閉経後異所性子宮内膜症の1例
木下雨宣、鈴木陽三、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、冨田尚裕、堂野恵三
第48回日本外科系連合学会学術集会
神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜ノース　令和5年6月7日－9日

■肺切除検体で偶発的に発見されたDendriform pulmonary ossificationの1例
小林　晶、岩澤　卓
第66回関西胸部外科学会学術集会
大阪市、グランキューブ大阪(大阪府立国際会議場)　令和5年6月8日－9日

■がん治療におけるサルコペニアの現状と対策
今村博司、川瀬朋乃、柳本喜智、小田切数基
第47回日本頭頸部癌学会
大阪市、大阪国際会議場（グランキューブ大阪）　令和5年6月15日－16日

■異時性多発大腸癌を発症したMLH1の稀なスプライシング・バリアントを伴うリンチ症候群の1例
鈴木陽三、若月智和、佐藤泰史、小林　晶、小田切数基、柳本喜智、竹山廣志、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、岩澤　卓、赤木謙三、堂野恵三、好井理世、赤木　究、冨田尚裕
第29回日本遺伝性腫瘍学会学術集会
高知県　高知市、高知市文化プラザかるぽーと　令和5年6月16日－17日

■当院における大腸癌のマイクロサテライト不安定性、RAS、BRAF遺伝子変異検査の実施状況の検討
竹山廣志、冨田尚裕、鈴木陽三、池永雅一、小田切数基、佐藤泰史、小林　晶、山下雅史、柳本喜智、清水潤三、川瀬朋乃、赤木謙三、今村博司、岩澤　卓、堂野恵三
29回日本遺伝性腫瘍学会学術集会
高知県　高知市、高知市文化プラザかるぽーと　令和5年6月16日－17日

■当院における乳がん患者に対するHBOC保険診療の現状
宮田海香子、二宮由紀恵、西浦志保、大塚千代美、羽田亜希、赤木謙三、佐藤泰史、好井理世、今村博司、冨田尚裕
29回日本遺伝性腫瘍学会学術集会
高知県　高知市、高知市文化プラザかるぽーと　令和5年6月16日－17日

■地域基幹病院における遺伝性腫瘍診療の現状

冨田尚裕、二宮由紀恵、小池万里子、西浦志保、大塚千代美、羽田亜希、赤木謙三、佐藤泰史、鈴木陽三、竹山廣志、池永雅一、今村博司、好井理世、宮田海香子、赤木　究、石田秀行

29回日本遺伝性腫瘍学会学術集会

高知県　高知市、高知市文化プラザかるぽーと　　令和5年6月16日－17日

■十二指腸・十二指腸乳頭部ポリープを有するFAPの臨床像とAPC病的バリアントの特徴。大腸癌研究会遺伝性大腸癌委員会多施設共同研究からの報告

宮倉安幸、山口達郎、田巻佐和子、高雄暁成、高雄美里、母里淑子、近谷賢一、石田秀行、河野光泰、竹内洋司、石川秀樹、長崎寿矢、佐々木和人、松原孝明、平田敬治、谷口文崇、田中屋宏爾、冨田尚裕、味岡洋一

29回日本遺伝性腫瘍学会学術集会

高知県　高知市、高知市文化プラザかるぽーと　　令和5年6月16日－17日

■肺がんゲノム診断が治療方針決定の一助となった一例

小林　晶、岩澤　卓

第118回日本肺癌学会関西支部学術集会

京都府　京都市、京都産業会館ホール　　令和5年6月17日

■Innovation and outcome of distal pancreatectomy at our hospital

Yamashita M, Shimizu J, Odagiri K, Yanagimoto Y, Takeyama H, Suzuki Y, Ikenaga M, Imamura H, Tomita N, Dono K.

第35回日本肝胆膵外科学会学術集会

東京都　新宿区、京王プラザホテル　　令和5年6月30日－7月1日

■The investigation of liver resection for hepatocellular carcinoma in the elderly patients

Matsushita K, Yokoyama S.

第35回日本肝胆膵外科学会学術集会

東京都　新宿区、京王プラザホテル　　令和5年6月30日－7月1日

■Trial of Pyloric ring-preserving total pancreatectomy

Shimizu J, Yamashita M, Koga M, Tsujie M, Odagiri K, Yanagimoto Y, Takeyama H, Suzuki Y, Ikenaga M, Imamura H, Dono K.

第35回日本肝胆膵外科学会学術集会

東京都　新宿区、京王プラザホテル　　令和5年6月30日－7月1日

■胃癌術後早期の体重減少が術後1年のQOLに及ぼす影響について～大規模栄養介入試験の結果から～

本告正明、宮崎安弘、山本和義、大森　健、藤田淳也、川端良平、今村博司、山下公太郎、西塔拓郎、高橋　剛、黒川幸典、江口英利、土岐祐一郎

日本外科代謝栄養学会第60回学術集会

東京都　千代田区、シャーンバッハ・サボー　　令和5年7月6日－7日

■Effects of an oral elemental nutritional supplement in Gastric Cancer Patients after Gastrectomy.

Nishikawa K, Kimura Y, Kishi K, Inoue K, Matsuyama J, Akamaru Y, Tamura S, Kawada J, Kawase T, Kawabata R, Yanagimoto Y, Kanno H, Yamada T, Shimokawa T, Imamura H.

日本外科代謝栄養学会第60回学術集会

東京都　千代田区、シャーンバッハ・サボー　　令和5年7月6日－7日

■多職種連携による胃癌周術期の栄養と運動の取り組み

川瀬朋乃、今村博司、柳本喜智、小田切数基、井上文子、大川知之、奈良平明子、足立ゆかり、岡田京子、春名雅裕、遠藤紘一、山本健吾、堂野恵三

日本外科代謝栄養学会第60回学術集会

東京都　千代田区、シャーンバッハ・サボー　　令和5年7月6日－7日

■胃癌周術期における栄養サポートの重要性～胃切除後の体重減少を軽減することで生存率と患者満足度向上を目指す～

今村博司、川瀬朋乃、柳本喜智、小田切数基、清水潤三、池永雅一、鈴木陽三、山下雅史、冨田尚裕、西川和宏、木村　豊

日本外科代謝栄養学会第60回学術集会

東京都　千代田区、シャーンバッハ・サボー　　令和5年7月6日－8日

■消化器癌治療において"体重"を意識することの意味～がん関連体重減少は治療できる～

今村博司

第78回日本消化器外科学会総会

北海道　函館市、函館市民会館、函館アリーナ、花びしホテル　　令和5年7月12日－14日

■単孔式腹腔鏡下結腸癌治癒切除症例における体腔内吻合の中期成績の検討

鈴木陽三、池永雅一、竹山廣志、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、今村博司、冨田尚裕、堂野恵三

第78回日本消化器外科学会総会

北海道　函館市、函館市民会館、函館アリーナ、花びしホテル　　令和5年7月12日－14日

■術前治療後直腸癌に対するRobot手術で良好な術野を維持する新規吸引法：the robot smoke suction technique

竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、冨田尚裕、堂野恵三

第78回日本消化器外科学会総会

北海道　函館市、函館市民会館、函館アリーナ、花びしホテル　　令和5年7月12日－14日

■膵切除術におけるMRSAアクティブサーベイランスの有用性に関する検討

地主皓一、清水潤三、山下雅史、小田切数基、柳本喜智、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、今村博司、堂野恵三

第78回日本消化器外科学会総会

北海道　函館市、函館市民会館、函館アリーナ、花びしホテル　　令和5年7月12日－14日

■進行胃癌に対する腹腔鏡下胃切除術の成績

小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、堂野恵三

第78回日本消化器外科学会総会

北海道　函館市、函館市民会館、函館アリーナ、花びしホテル　　令和5年7月12日－14日

■悪液質を伴う進行再発胃癌の化学療法に対するプロシュアの有用性に関する第Ⅱ相試験

川端良平、西川和宏、今村博司、川瀬朋乃、川田純司、木村　豊、鹿島康薫、上田修吾、竹野　淳、下村一景

第78回日本消化器外科学会総会

北海道　函館市、函館市民会館、函館アリーナ、花びしホテル　　令和5年7月12日－14日

■当院における高齢者に対する肝切除の治療成績の検討

松下克則、横山茂和、内山優史、水野剛志、河井邦彦、小林照之、笹生和宏、小森孝通、岸　健太郎、福永　睦

第78回日本消化器外科学会総会

北海道　函館市、函館市民会館、函館アリーナ、花びしホテル　　令和5年7月12日－14日

■高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対してNivolumab併用の化学療法を施行し、腹腔鏡手術を施行しえた一例

飯島　賢、小田切数基、柳本喜智

第78回日本消化器外科学会総会

北海道　函館市、函館市民会館、函館アリーナ、花びしホテル　　令和5年7月12日－14日

■高度リンパ節転移陽性胃癌に術前化学療法を行い腹腔鏡下胃全摘術、膵体尾部切除、拡大郭清を施行した一例
福田健太、小田切数基、柳本喜智
第78回日本消化器外科学会総会
北海道　函館市、函館市民会館、函館アリーナ、花びしホテル　令和5年7月12日－14日

■消化管穿孔が疑われた食道癌術後気胸の一例
小林　晶、岩澤　卓
第40回日本呼吸器外科学会学術集会
新潟県　新潟県、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター　令和5年7月13日－14日

■SSIサーベイランス報告
清水潤三
第38回日本環境感染学会総会・学術集会
神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜ノース　令和5年7月20日－22日

■Perioperative outcomes & strategies for pleomorphic carcinoma in lung
Kobayashi A, Iwazawa T.
2023 World Conference on Lung Cancer
シンガポール、サンテック・シンガポール国際会議展示場　令和5年9月9日－12日

■胆嚢皮膚瘻を伴う胆石性胆嚢炎に対し、保存的治療で治癒しえた1例
山下雅史、清水潤三、小田切数基、柳本喜智、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、今村博司、冨田尚裕、堂野恵三
第59回日本胆道学会学術集会
北海道　札幌市、京王プラザホテル札幌　令和5年9月14日－15日

■胆嚢癌・十二指腸浸潤に対して膵頭十二指腸切除術、肝部分切除術（S4.5)右肝動脈切除再建を施行し長期生存が得られた1例
福田健太、清水潤三、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、鈴木陽三、川瀬朋乃、池永雅一、今村博司、冨田尚裕、堂野恵三
第59回日本胆道学会学術集会
北海道　札幌市、京王プラザホテル札幌　令和5年9月14日－15日

■胆石及び胆嚢十二指腸瘻による胆石性十二指腸閉塞に対して胆嚢切開術を施行した一例
飯島　賢、山下雅史、清水潤三、小田切数基、柳本喜智、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、今村博司、冨田尚裕、堂野恵三
第59回日本胆道学会学術集会
北海道　札幌市、京王プラザホテル札幌　令和5年9月14日－15日

■The real-world universal screening for Lynch Syndrome in a public tertiary hospital in Japan
Suzuki Y, Ikenaga M, Hagihara K, Sato Y, Noma T, Yanagimoto Y, Yamashita Y, Kobayashi A, Shimizu J, Kawase T, Iwazawa T, Tomita N, Imamura H.
日本人類遺伝学会第68回大会
東京都　千代田区、都市センターホテル、全国都市会館　令和5年10月11日－14日

■進行再発胃癌に対する1次治療としてのICI＋化学療法の治療成績
川瀬朋乃、今村博司、柳本喜智、野間俊樹、萩原清貴、佐藤泰史、山下雅史、小林　晶、鈴木陽三、清水潤三、池永雅一、赤木謙三、岩澤　卓
第61回日本癌治療学会学術集会　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　令和5年10月19日－21日

■手術療法で治癒切除し得た上行結腸 mucosa-associated lymphoid tissue リンパ腫の1例
鈴木陽三、池永雅一、萩原清貴、野間俊樹、佐藤泰史、柳本喜智、山下雅史、小林　晶、清水潤三、川瀬朋乃、赤木謙三、岩澤　卓、冨田尚裕、今村博司
第61回日本癌治療学会学術集会　　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和5年10月19日－21日

■当院における胃癌周術期リハビリテーションの取り組み
足立ゆかり、川瀬朋乃、今村博司、柳本喜智、山本健吾、野間俊樹、奈良平明子、岡田京子、春名雅裕、大川知之
第61回日本癌治療学会学術集会　　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和5年10月19日－21日

■タスクシフト/シェアが求められる時代の消化器がんチーム医療
今村博司
第61回日本癌治療学会学術集会　　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和5年10月19日－21日

■虫垂杯細胞カルチノイドの3切除例
萩原清貴、池永雅一、鈴木陽三、野間俊樹、佐藤泰史、山下雅史、柳本喜智、小林　晶、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、赤木謙三、岩澤　卓、冨田尚裕
第61回日本癌治療学会学術集会　　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和5年10月19日－21日

■胃癌術後 ONS 投与の多施設共同大規模RCTの予後解析
山本和義、黒川幸典、大森　健、宮崎安弘、藤谷和正、川端良平、今村博司、高橋　剛、西塔拓郎、牧野知紀、田中晃司、山下公太郎、百瀬洸太、江口英利、土岐祐一郎
第61回日本癌治療学会学術集会　　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和5年10月19日－21日

■がんゲノム医療連携病院のがん遺伝子パネル検査の現状とがんゲノム医療センターの役割
二宮由紀恵、小池万里子、西浦志保、斎藤智子、秦　真由美、安田純子、大塚千代美、羽田亜希、久田真規子、川瀬朋乃、冨田尚裕、今村博司
第61回日本癌治療学会学術集会　　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和5年10月19日－21日

■HBOC遺伝学的検査の乳がん患者への案内システムの構築　第2報
大塚千代美、二宮由紀恵、羽田亜希、小池万里子、西浦志保、好井理世、宮田海香子、赤木謙三、今村博司、冨田尚裕
第61回日本癌治療学会学術集会　　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和5年10月19日－21日

■EGFR 変異陽性原発性肺癌における術後再発に対する当院での治療成績
小林　晶、岩澤　卓
第64回日本肺癌学会学術集会　　千葉県　千葉市、幕張メッセ　　令和5年11月2日－4日

■術前化学療法後膵切除術における切開創管理システムPREVENATMの有用性に関する検討
山下雅史、清水潤三、小田切数基、柳本喜智、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、今村博司、冨田尚裕、堂野恵三
第31回日本消化器関連学会週間
兵庫県　神戸市、神戸コンベンションセンター　　令和5年11月2日－5日

■手術前に使用したNivolumabによる術後S-1補助加療中のirAE副腎機能低下の1例
小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、冨田尚裕、堂野恵三
第31回日本消化器関連学会週間
兵庫県　神戸市、神戸コンベンションセンター　　令和5年11月2日－5日

■胃切除後の体重減少抑制に対する経口栄養剤の服薬アドヒアランスの重要性
木村　豊、西川和宏、今村博司
第31回日本消化器関連学会週間
兵庫県　神戸市、神戸コンベンションセンター　　令和5年11月2日－5日

■多発肝膿瘍を伴った上行結腸癌の1例
萩原清貴、池永雅一、鈴木陽三、清水潤三、冨田尚裕
第78回日本大腸肛門病学会学術集会
熊本県　熊本市、熊本城ホール　　令和5年11月10日－11日

■肉眼型0-Ipを呈したmicropapillary patte r nを主体とするN3転移陽性S状結腸癌の1例
鈴木陽三、池永雅一、萩原清貴、野間俊樹、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、冨田尚裕、今村博司
第78回日本大腸肛門病学会学術集会
熊本県　熊本市、熊本城ホール　　令和5年11月10日－11日

■SSI対策におけるガイドラインとの付き合いかた
清水潤三、山下雅史、萩原清貴、野間俊樹、柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、冨田尚裕、今村博司
第85回日本臨床外科学会総会
岡山県　岡山市、岡山コンベンションセンター他　　令和5年11月16日－18日

■StageⅢ胃癌に対する術後補助化学療法におけるS-1＋docetaxelの投与サイクル数が長期生存に及ぼす影響
松山　仁、木村　豊、川上尚人、田村茂行、藤谷和正、今村博司、坂井大介、黒川幸典、下川敏雄、佐藤太郎
第85回日本臨床外科学会総会
岡山県　岡山市、岡山コンベンションセンター他　　令和5年11月16日－18日

■治癒切除後4年6か月目に頭皮を初発部位として再発した上行結腸癌の1例
鈴木陽三、池永雅一、萩原清貴、野間俊樹、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、冨田尚裕、今村博司
第85回日本臨床外科学会総会
岡山県　岡山市、岡山コンベンションセンター他　　令和5年11月16日－18日

■Sister Mary Joseph's noduleを呈した上行結腸癌の1例
萩原清貴、池永雅一、鈴木陽三、野間俊樹、佐藤泰史、柳本喜智、山下雅史、小林　晶、川瀬朋乃、清水潤三、冨田尚裕、今村博司、赤木謙三、岩澤　卓
第85回日本臨床外科学会総会
岡山県　岡山市、岡山コンベンションセンター他　　令和5年11月16日－18日

■放射線性腸炎に合併した柿の種の誤飲による小腸穿通の1例
福田健太、鈴木陽三、萩原清貴、池永雅一、野間俊樹、柳本喜智、清水潤三、川瀬朋乃、冨田尚裕、今村博司
第85回日本臨床外科学会総会
岡山県　岡山市、岡山コンベンションセンター他　　令和5年11月16日－18日

■サーベイランスのためのSSI判定事例
清水潤三
第45回日本手術医学会総会　　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和5年11月24日－25日

■NPWTの有効性
清水潤三
第45回日本手術医学会総会　　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和5年11月24日－25日

■Pfannenstiel切開が有用であった臍静脈拡張症例に対するロボット支援高位前方切除術の1例
鈴木陽三、池永雅一、萩原清貴、柳本喜智、山下雅史、小林　晶、清水潤三、冨田尚裕、今村博司
第36回日本内視鏡外科学会総会　　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和5年12月7日－9日

■腹腔鏡下回盲部切除術を施行した右卵巣嚢腫により右卵管が索状物となり発症した回腸終末部の腸閉塞の1例
萩原清貴、池永雅一、鈴木陽三、野間俊樹、柳本喜智、山下雅史、川瀬朋乃、清水潤三、冨田尚裕、今村博司
第36回日本内視鏡外科学会総会　　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和5年12月7日－9日

■当院における進行胃癌に対する腹腔鏡下およびロボット支援下幽門側胃切除術の手術成績
野間俊樹、柳本喜智、今村博司、川瀬朋乃、萩原清貴、山下雅史、鈴木陽三、小林　晶、池永雅一、清水潤三、冨田尚裕
第36回日本内視鏡外科学会総会　　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和5年12月7日－9日

■診断に難渋した食道癌術後原発性気胸の一例
飯島　賢、小林　晶、萩原清貴、柳本喜智、山下雅史、鈴木陽三、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、冨田尚裕
第36回日本内視鏡外科学会総会　　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和5年12月7日－9日

■食道胃接合部癌における腹腔鏡下経裂孔アプローチの定型化
柳本喜智、今村博司、野間俊樹、川瀬朋乃、萩原清貴、山下雅史、鈴木陽三、小林　晶、清水潤三、池永雅一、冨田尚裕
第36回日本内視鏡外科学会総会　　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和5年12月7日－9日

■化学療法後胃癌における腹腔鏡下胃切除後の安全性・有用性
奥田忠宏、柳本喜智、野間俊樹、川瀬朋乃、今村博司、萩原清貴、山下雅史、鈴木陽三、清水潤三、池永雅一、冨田尚裕
第36回日本内視鏡外科学会総会　　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和5年12月7日－9日

■腹腔鏡下回盲部切除術で治癒切除し術後5年無再発生存を得られた盲腸MALTリンパ腫の1例
古賀千絢、鈴木陽三、萩原清貴、池永雅一、野間俊樹、柳本喜智、山下雅史、小林　晶、清水潤三、川瀬朋乃、冨田尚裕、今村博司
第36回日本内視鏡外科学会総会　　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和5年12月7日－9日

■双胎妊娠29週目に胆嚢炎に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した1例
林　利空、山下雅史、清水潤三、野間俊樹、萩原清貴、柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、今村博司、冨田尚裕
第36回日本内視鏡外科学会総会　　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和5年12月7日－9日

■急性胆嚢炎に対する保存的治療の有用性
山下雅史、清水潤三、松下克則、佐藤泰史、萩原清貴、野間俊樹、柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、赤木謙三、今村博司、岩澤　卓、冨田尚裕
第36回日本外科感染症学会総会学術集会
福岡県　北九州市、北九州国際会議場　　令和5年12月15日－16日

■術前化学療法後膵切除術における切開創管理システムPREVENATMの有用性に関する検討
福田健太、山下雅史、清水潤三、松下克則、佐藤泰史、野間俊樹、萩原清貴、柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、赤木謙三、冨田尚裕、今村博司
第36回日本外科感染症学会総会学術集会
福岡県　北九州市、北九州国際会議場　　令和5年12月15日－16日

■肝胆膵外科手術におけるPCRを用いたMRSAアクティブサーベイランスの効果
清水潤三、野間俊樹、萩原清貴、松下克則、山下雅史、柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、今村博司
第36回日本外科感染症学会総会学術集会
福岡県　北九州市、北九州国際会議場　　令和5年12月15日－16日

■膵切除術の周術期管理マニュアル
清水潤三、山下雅史、松下克則、藤本直斗、秋田裕史
第36回日本外科感染症学会総会学術集会
福岡県　北九州市、北九州国際会議場　令和5年12月15日－16日

■保険診療委員会の活動について
清水潤三、渡邉　学、吉田雅博、石田秀行、矢永勝彦、森兼啓太
第36回日本外科感染症学会総会学術集会
福岡県　北九州市、北九州国際会議場　令和5年12月15日－16日

■回腸悪性リンパ腫に併発したEdwardsiella tarda菌血症の1例
鈴木陽三、池永雅一、萩原清貴、佐藤泰史、野間俊樹、柳本喜智、山下雅史、小林　晶、清水潤三、川瀬朋乃、岩澤　卓、赤木謙三、冨田尚裕、今村博司
第36回日本外科感染症学会総会学術集会
福岡県　北九州市、北九州国際会議場　令和5年12月15日－16日

■術後腹壁離開に対して減張縫合を用いた一期的縫合閉鎖術を施行した3例の検討
柳楽大樹、山下雅史、清水潤三、佐藤泰史、野間俊樹、萩原清貴、柳本喜智、鈴木陽三、小林　晶、池永雅一、川瀬朋乃、今村博司、赤木謙三、岩澤　卓、冨田尚裕
第36回日本外科感染症学会総会学術集会
福岡県　北九州市、北九州国際会議場　令和5年12月15日－16日

■当院における急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の治療成績
松下克則、清水潤三、山下雅史、野間俊樹、萩原清貴、柳本喜智、鈴木陽三、川瀬朋乃、池永雅一、冨田尚裕、今村博司
第36回日本外科感染症学会総会学術集会
福岡県　北九州市、北九州国際会議場　令和5年12月15日－16日

■当院におけるEGFR遺伝子変異陽性肺癌の治療成績
深堀太翔、小林　晶、岩澤　卓
第119回日本肺癌学会関西支部学術集会
兵庫県　神戸市、神戸商工会議所会館　令和6年2月2日

■胃癌における手術支援ロボットを用いた新たな内視鏡外科手術の教育
柳本喜智、野間俊樹、川瀬朋乃、萩原清貴、鈴木陽三、松下克則、山下雅史、佐藤泰史、小林　晶、池永雅一、赤木謙三、岩澤　卓、清水潤三、冨田尚裕、今村博司
第207回近畿外科学会　枚方市、枚方市総合文化芸術センター　令和6年2月3日

■直腸癌・胃癌の同時性重複癌に対して一期的ロボット支援手術を施行した一例
鈴木陽三、池永雅一、萩原清貴、野間俊樹、松下克則、柳本喜智、清水潤三、川瀬朋乃、冨田尚裕、今村博司
第16回日本ロボット外科学会学術集会
鳥取県　米子市、米子コンベンションセンター/米子市文化ホール　令和6年2月10日－11日

■ロボット支援下胃切除術におけるORGAN RETRACTORを用いた術野展開の工夫と短期成績
柳本喜智、野間俊樹、川瀬朋乃、萩原清貴、鈴木陽三、松下克則、山下雅史、小林　晶、佐藤泰史、池永雅一、赤木謙三、岩澤　卓、清水潤三、冨田尚裕、今村博司
第16回日本ロボット外科学会学術集会
鳥取県　米子市、米子コンベンションセンター/米子市文化ホール　令和6年2月10日－11日

■胃癌周術期における栄養サポートの重要性　～胃切除後の体重減少を軽減して生存率とQOL向上を目指す～
今村博司
第39回日本臨床栄養代謝学会学術集会
神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜ノース・アネックスホール　令和6年2月15日－16日

■Management of severe Immunotherapy-Related Adverse Event for patients with advanced or recurrent gastric cancer
川瀬朋乃、今村博司、柳本喜智、野間俊樹
第21回日本臨床腫瘍学会学術集会
愛知県　名古屋市、名古屋国際会議場　　令和6年2月22日－24日

■当院における胃癌症例に対するConversionおよびNAC後の手術の治療成績と予後因子に関する検討
野間俊樹、今村博司、柳本喜智、川瀬朋乃、萩原清貴、松下克則、山下雅史、鈴木陽三、池永雅一、清水潤三、冨田尚裕
第96回日本胃癌学会総会
京都府　京都市、京都市勧業館みやこめっせ、ロームシアター京都　　令和6年2月28日－3月1日

■多職種連携による胃癌周術期の栄養と運動の取り組み
川瀬朋乃、今村博司、柳本喜智、野間俊樹、松下克則、萩原清貴、山下雅史、鈴木陽三、池永雅一、清水潤三、冨田尚裕
第96回日本胃癌学会総会
京都府　京都市、京都市勧業館みやこめっせ、ロームシアター京都　　令和6年2月28日－3月1日

■Siewert type Ⅰ/Ⅱ食道胃接合部癌における内視鏡下経裂孔的下縦隔アプローチの定型化
柳本喜智、野間俊樹、川瀬朋乃、鈴木陽三、松下克則、山下雅史、池永雅一、清水潤三、冨田尚裕、今村博司
第96回日本胃癌学会総会
京都府　京都市、京都市勧業館みやこめっせ、ロームシアター京都　　令和6年2月28日－3月1日

■胃癌および食道胃接合部癌における組織検体の取り扱いがHER2発現に及ぼす影響に関する検討
柳本喜智、野間俊樹、川瀬朋乃、萩原清貴、鈴木陽三、松下克則、山下雅史、池永雅一、清水潤三、冨田尚裕、今村博司
第96回日本胃癌学会総会
京都府　京都市、京都市勧業館みやこめっせ、ロームシアター京都　　令和6年2月28日－3月1日

■脳転移を発症した胃癌の6例.
福田健太、川瀬朋乃、野間俊樹、柳本喜智、今村博司、萩原清貴、池永雅一、山下雅史、清水潤三、冨田尚裕
第96回日本胃癌学会総会
京都府　京都市、京都市勧業館みやこめっせ、ロームシアター京都　　令和6年2月28日－3月1日

■残胃癌に対する内視鏡アプローチの安全性
古賀千絢、柳本喜智、野間俊樹、川瀬朋乃、鈴木陽三、松下克則、山下雅史、池永雅一、清水潤三、冨田尚裕、今村博司
第96回日本胃癌学会総会
京都府　京都市、京都市勧業館みやこめっせ、ロームシアター京都　　令和6年2月28日－3月1日

■市中病院における進行胃癌に対する腹腔鏡胃切除術の治療成績
奥田忠宏、柳本喜智、野間俊樹、川瀬朋乃、鈴木陽三、松下克則、山下雅史、池永雅一、清水潤三、冨田尚裕、今村博司
第96回日本胃癌学会総会
京都府　京都市、京都市勧業館みやこめっせ、ロームシアター京都　　令和6年2月28日－3月1日

■ロボット支援下胃切除術におけるORGAN RETRACTORを用いた術野展開の工夫
加藤梨佳子、柳本喜智、野間俊樹、川瀬朋乃、鈴木陽三、松下克則、山下雅史、池永雅一、清水潤三、冨田尚裕、今村博司
第96回日本胃癌学会総会
京都府　京都市、京都市勧業館みやこめっせ、ロームシアター京都　　令和6年2月28日－3月1日

■出血制御目的に緊急結腸右半切除術を施行した上行結腸びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の1例
鈴木陽三、池永雅一、萩原清貴、野間俊樹、松下克則、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、今村博司
第60回日本腹部救急医学会総会
福岡県　北九州市、北九州国際会議場、西日本総合展示場新館、AIM　令和6年3月21日－22日

■憩室炎穿通によるS状結腸膀胱瘻に対する手術成績の検討
萩原清貴、池永雅一、鈴木陽三、野間俊樹、松下克則、山下雅史、柳本喜智、川瀬朋乃、冨田尚裕、清水潤三、今村博司
第60回日本腹部救急医学会総会
福岡県　北九州市、北九州国際会議場、西日本総合展示場新館、AIM　令和6年3月21日－22日

■脾動静脈奇形に対して緊急膵体尾部切除術を施行した一例
福田健太、清水潤三、山下雅史、野間俊樹、萩原清貴、松下克則、鈴木陽三、川瀬朋乃、池永雅一、今村博司、冨田尚裕
第60回日本腹部救急医学会総会
福岡県　北九州市、北九州国際会議場、西日本総合展示場新館、AIM　令和6年3月21日－22日

■遺残胆嚢内結石症に対して腹腔鏡下遺残胆嚢摘出術を施行しえた1例
岩崎　歩、飯島　賢、松下克則、山下雅史、清水潤三、野間俊樹、萩原清貴、柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、今村博司、冨田尚裕
第60回日本腹部救急医学会総会
福岡県　北九州市、北九州国際会議場、西日本総合展示場新館、AIM　令和6年3月21日－22日

研究会・集談会発表

■エドルミズ対象症例の発掘ポイント
柳本喜智
がん悪液質治療セミナー　In OSAKA　2023
大阪府　吹田市、大阪大学大学院医学系研究科・医学部講義棟　令和5年4月12日

■上行結腸癌術後再発no緩和治療中に発症した小腸びまん性巨大B細胞リンパ腫の一例
木下雨宣、鈴木陽三、竹山廣志、池永雅一、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、小林　晶、岩澤　卓、佐藤泰史、赤木謙三、冨田尚裕、堂野恵三
第45回日本癌局所療法研究会　東京都　千代田区、シェーンバッハ・サボー　令和5年6月2日

■手術前に使用したNivolumabによる術後S-1補助加療中のirAE副腎機能低下の1例
小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、冨田尚裕、堂野恵三
第45回日本癌局所療法研究会　東京都　千代田区、シェーンバッハ・サボー　令和5年6月2日

■大腸癌部穿孔5症例の検討
地主皓一、池永雅一、鈴木陽三、竹山廣志、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、川瀬朋乃、清水潤三、今村博司、冨田尚裕、堂野恵三
第45回日本癌局所療法研究会　東京都　千代田区、シェーンバッハ・サボー　令和5年6月2日

■上行結腸癌局所再発との鑑別が困難であった線維腫様腫瘍の1例
鈴木陽三、池永雅一、佐藤泰史、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、小林　晶、竹山廣志、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、岩澤　卓、赤木謙三、冨田尚裕、堂野恵三
第45回日本癌局所療法研究会　東京都　千代田区、シェーンバッハ・サボー　令和5年6月2日

■AYAチームと共に治療方針決定を行った切除不能StageⅣb肛門管癌30歳代女性の1例
鈴木陽三、池永雅一、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、能浦真吾、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、冨田尚裕、堂野恵三
第45回日本癌局所療法研究会　東京都　千代田区、シェーンバッハ・サボー　令和5年6月2日

■当科における切除不能肝細胞癌に対するテセントリクアバスチンの使用経験
清水潤三、山下雅史、小田切数基、竹山廣志、柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、今村博司、堂野恵三
第45回日本癌局所療法研究会　東京都　千代田区、シェーンバッハ・サボー　令和5年6月2日

■胃癌抗がん剤患者に対する口腔ケア、口腔内トラブルについてのアンケート調査
川瀬朋乃、今村博司、柳本喜智、小田切数基、鈴木陽三、竹山廣志、山下雅史、佐藤泰史、小林　晶、池永雅一、清水潤三、赤木謙三、岩澤　卓、冨田尚裕、堂野恵三
第45回日本癌局所療法研究会　東京都　千代田区、シェーンバッハ・サボー　令和5年6月2日

■進行・再発胃癌薬物療法におけるNarrative approachによる治療選択－PTX or nab-PTX?-
川瀬朋乃、今村博司、柳本喜智、小田切数基、鈴木陽三、竹山廣志、山下雅史、佐藤泰史、小林　晶、池永雅一、清水潤三、赤木謙三、岩澤　卓、冨田尚裕、堂野恵三
第45回日本癌局所療法研究会　東京都　千代田区、シェーンバッハ・サボー　令和5年6月2日

■切除可能膵癌に対する術前GS療法の忍容性と治療成績
山下雅史、清水潤三、佐藤泰史、小田切数基、柳本喜智、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、今村博司、赤木謙三、岩澤　卓、冨田尚裕、堂野恵三
第45回日本癌局所療法研究会　東京都　千代田区、シェーンバッハ・サボー　令和5年6月2日

■水疱性類天疱瘡の加療中に上行結腸癌を併発し、根治手術を施行した1例
飯島　賢、池永雅一、竹山廣志、鈴木陽三、冨田尚裕、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、堂野恵三
第45回日本癌局所療法研究会　東京都　千代田区、シェーンバッハ・サボー　令和5年6月2日

■傍大動脈周囲リンパ節陽性胃癌に対してSOX＋Nivoを行いconversion surgeryをし得た1例
奥田忠宏、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、堂野恵三
第45回日本癌局所療法研究会　東京都　千代田区、シェーンバッハ・サボー　令和5年6月2日

■膵頭十二指腸切除後に肝機能障害を来し正中弓状靱帯切離術を施行した膵頭部癌の1例
松下克則、横山茂和、内山優史、水野剛志、河井邦彦、小林照之、笹生和宏、小森孝通、岸　健太郎、福永　睦
胃第45回日本癌局所療法研究会　東京都　千代田区、シェーンバッハ・サボー　令和5年6月2日

■テーマ：食道癌治療の悩みどころ　1次治療の治療選択について
柳本喜智
食道癌　Hybrid Seminar in Osaka 2023　Web開催　令和5年6月9日

■KRAS・BRAF同時変異を伴う虫垂癌の1例
鈴木陽三、池永雅一、萩原清貴、野間俊樹、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、冨田尚裕、今村博司
第99回大腸癌研究会学術集会
兵庫県　尼崎市、尼崎市総合文化センター（あましんアルカイックホール・オクト）　令和5年7月6日

■虫垂腫瘍の切除22症例に関する検討
萩原清貴、池永雅一、鈴木陽三、野間俊樹、柳本喜智、山下雅史、川瀬朋乃、清水潤三、冨田尚裕、今村博司
第99回大腸癌研究会学術集会
兵庫県　尼崎市、尼崎市総合文化センター（あましんアルカイックホール・オクト）　令和5年7月6日

■ロボット支援手術で良好な術野を維持するsmoke吸引方法：the robot smoke suction techniqueの複数機種での経験を経て
竹山廣志、廣瀬　創、岡村　修、堺　聡美、橋爪咲奈、高　正浩、林　覚史、原　暁生、桂　宜輝、田中夏美、池永雅一、吉岡節子、戎井　力、横内秀起、矢野雅彦
第99回大腸癌研究会学術集会
兵庫県　尼崎市、尼崎市総合文化センター（あましんアルカイックホール・オクト）　令和5年7月6日

■噴門側胃切除の郭清と再建
柳本喜智
Gastrointestinal Cancer Meeting in Osaka 2023
大阪市、ANAクラウンプラザホテル大阪　令和5年7月19日

■Roux-en-Y法
柳本喜智
第3回Upper-GI Surgical joint Conference ～USJカンファ～
大阪市、ジョンソン・エンド・ジョンソン大阪支店　令和5年8月19日

■Billroth I 法
野間俊樹
第3回Upper-GI Surgical joint Conference ～USJカンファ～
大阪市、ジョンソン・エンド・ジョンソン大阪支店　令和5年8月19日

■29週目の双胎妊婦の胆嚢炎に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した1例
林　利空、山下雅史、清水潤三、野間俊樹、萩原清貴、柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、今村博司、冨田尚裕
第36回近畿内視鏡外科研究会　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和5年9月30日

■手術支援ロボットを利用した新たな内視鏡外科手術の教育
柳本喜智
第53回胃外科・術後障害研究会　東京都　千代田区、一橋大学一橋講堂　令和5年11月10日－11日

■臍ヘルニア修復術後に発生したSpiegelヘルニアの一例
奥田忠宏、鈴木陽三、萩原清貴、野間俊樹、松下克則、柳本喜智、山下雅史、池永雅一、清水潤三、今村博司
第17回関西ヘルニア研究会　大阪市、大阪スカイビル　令和5年12月16日

■内視鏡的粘膜切除術5年後に浸潤性再発を来した脈管侵襲陽性pT1a直腸S状部癌の1例
鈴木陽三、池永雅一、萩原清貴、野間俊樹、松下克則、山下雅史、柳本喜智、清水潤三、川瀬朋乃、冨田尚裕、田村裕美、足立史朗、今村博司
第100回大腸癌研究会学術集会
東京都　港区、浜松町コンベンションホール　令和6年1月25日－26日

■アナモレリンの適正使用を考える
柳本喜智
がん悪液質治療ハイブリッドセミナー～これからの悪液質治療を考える～
豊中市、千里阪急ホテル　令和6年3月14日

講習・講演

■エドルミズ対象症例の発掘ポイント
柳本喜智
がん悪液質治療セミナー　In OSAKA　2023
吹田市、大阪大学大学院医学系研究科・医学部講義棟　令和5年4月12日

■胃癌薬物治療戦略のパラダイムシフト～「チーム医療」で治療を“つなぐ”～
今村博司
Lilly GC Web Conference　新潟県北　GC Web Seminar　Web開催　令和5年4月21日

■胃癌薬物治療戦略のパラダイムシフト～「薬剤を使い切る」から「適切なタイミングで切り替える」へ～
今村博司
Lilly Gastric Cancer Seminar (2023.5.26)
福井県　福井市、福井県国際交流会館　令和5年5月26日

■がん治療における集学的支持療法の重要性～チーム医療で体重減少に挑む～
今村博司
がん悪液質　多職種連携セミナー　福岡県　久留米市、聖マリア病院　令和5年5月31日
■HER2陽性胃癌のベストプラクティス～外科医がおさえるべきポイント～
今村博司
Gastric Cancer Web Semina　～チーム医療での治療継続を考える～　Web開催　令和5年6月12日
■irAEに対するチーム連携
川瀬朋乃
第1回Communication meeting on ICI　2023　大阪市、小野薬品大阪支店　令和5年6月24日
■低侵襲手術の極意、Coversion surgeryに関して、進行・再発胃癌の薬物療法
柳本喜智
Lilly GC Web Conference　(2023)　胃癌集術的治療のClinical Practice
Web開催　令和5年6月29日
■エキスパートhが話す！胃癌治療で知ってほしい事、伝いえたい事
今村博司
第78回日本消化器外科学会総会
北海道　函館市、函館市民会館、函館アリーナ、花びしホテル　令和5年7月12日
■HER2陽性胃癌のベストプラクティス～後方ラインを見据えた治療戦略～
今村博司
Gastric Cancer Web Seminar　2023.8.19
兵庫県　神戸市、神戸三宮東急REIホテル　令和5年8月19日
■遺伝子パネル検査に耐えうる体制構築
柳本喜智
胃がん治療を考える会　(2023)　Web開催　令和5年8月31日
■Shared Decision Makingを踏まえた進行・再発胃癌薬物療法の実践
川瀬朋乃
TAIHO Web Lecture on Gastric Cancer（2023）みんなで考える胃癌がん治療の実践～よりよい治療を目指した"胃癌薬物治療における薬物選択"～　Web開催　令和5年9月7日
■がん悪液質における集学的支持療法の重要性～チーム医療で"体重減少に挑む"～
今村博司
糸魚川市がん連携セミナー
新潟県　糸魚川市、ヒスイ王国館コミュニティホール　令和5年9月7日
■進行再発胃癌の治療戦略
柳本喜智
Lilly Gastric Cancer Seminar　(2023)
豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和5年9月8日
■胃がん患者における栄養管理の実際と課題について～適切な支持療法によるQOL向上と化学療法の継続～
今村博司
第32回消化器疾患病態治療研究会　スポンサードシンポジウム
福井県　福井市、福井県県民ホールAOSSA　令和5年9月14日
■HER2陽性胃癌のベストプラクティス
今村博司
第1回がん統計Web Seminar　～臨床試験結果を如何に解釈し、臨床へ活かすか～
Web開催　令和5年9月15日

■胃癌周術期治療"治療継続のポイント"
今村博司
TAIHO Web Lecture on Gastric Cancer　胃癌周術期治療の最良を求めて
"最新EBMのポイント"と"治療継続のポイント"　Web開催　令和5年9月25日
■バイオマーカー、ゲノム情報に基づく胃癌治療選択時代
～外科臨床医が求められる病理検査を意識した工夫～
柳本喜智
Gastric Cancer Leaders' Meeting (2023)　Web開催　令和5年10月18日
■SSI対策の重要性と実践-本当に大事なのは何？-
清水潤三
大腸外科医向けWebinar　第2回低侵襲のその先へ－合併症のない究極の手術を目指して－
Web開催　令和5年10月27日
■手術支援ロボットを利用した新たな内視鏡外科手術の教育
柳本喜智
第53回胃外科・術後障害研究会　東京都　千代田区、一橋大学一橋講堂　令和5年11月10日
■HER2陽性胃癌のベストプラクティス
今村博司
Gastric Cancer Web Seminar　2023.11.13　Web開催　令和5年11月13日
■第1講　がん治療において心と体を支えることの重要性について～栄養と食事のはなしを中心に～
今村博司
第21回市立豊中病院　がん医療市民公開講座
豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和5年11月18日
■食道癌治療のキホン
柳本喜智
GI Cancer Seminar　大阪市、コンラッド大阪　令和5年11月22日
■手術部位感染：治療と予防の最前線
清水潤三
第45回日本手術医学会総会　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　令和5年11月24日
■胃癌薬物療法のポイント総復習～治療の最大化に向けて～
柳本喜智
静岡消化器癌講演会　静岡県　浜松市、オークラアクトシティホテル浜松　令和5年12月12日
■腹腔鏡下胃切除のいろは
柳本喜智
第59回専門医を目指す消化器外科セミナー　大阪市、ブリーゼプラザ　令和5年12月15日
■令和のSSIケアバンドル対策～今と未来～
清水潤三
第36回日本外科感染症学会総会学術集会
福岡県　北九州市、北九州国際会議場　令和5年12月15日
■大腸癌のお話～早期発見と適切な治療～「まさか私が・・・！」
池永雅一
令和6年（2024年）市民向け健康講演会
豊中市、豊中市医療保健センター　令和6年1月13日
■ビデオクリニック【胃】
野間俊樹
第4回Upper-GI Surgical Joint Conference～USJカンファ～
大阪市、オービック御堂筋ビル　令和6年1月27日

■ビデオクリニック【食道】
柳本喜智
第4回Upper-GI Surgical Joint Conference～USJカンファ～
大阪市、オービック御堂筋ビル　令和6年1月27日

■がん治療における包括的な取り組み
今村博司
E-カンファ Lecture 匠の勘どころ　エキスパートが考えるがん治療の成功を支える取り組み～消化器編～
Web開催　令和6年1月31日

■胃癌薬物療法のシークエンスと治療切り替えポイント
柳本喜智
第207回近畿外科学会
枚方市、枚方市総合文化芸術センター　令和6年2月3日

■胃癌1次治療におけるオプジーボの治療意義～臨床試験と臨床経験の観点より～
柳本喜智
オプジーボ胃癌WEBライブセミナー　2024.2.19　Web開催　令和6年2月19日

■アナモレリンの適正使用を考える
柳本喜智
がん悪液質治療ハイブリッドセミナー～これからの悪液質治療を考える～
豊中市、千里阪急ホテル　令和6年3月14日

■胃癌化学療法新時代と臨床医が求められる手術検体の適切な取り扱い
柳本喜智
GASTRIC CANCER MEETING ～HER2陽性を見極める～　Web開催　令和6年3月15日

■胃がん一次治療におけるNivolumabの位置づけ
今村博司
県北消化器癌免疫療法セミナー
長崎県　佐世保市、セントラルホテル佐世保　令和6年3月21日

■がん悪液質における集学的支持療法の重要性～チーム医療で“体重減少”に挑む～
今村博司
令和5年度 第2回西三河がんフォーラム　愛知県　安城市、安城更生病院　令和6年3月27日

司会・座長・その他

■司会：今村博司
明日から実践！胃癌薬物療法のベストシークエンス　～生存期間延長を目指したエキスパートの極意～
Lilly GC Web Conference　（2023.4.10）　Web開催　令和5年4月10日

■司会：今村博司
これからの胃癌薬物療法 Best Practice～明日から活かせる！臨床における工夫～
Gastric Cancer Web Seminar　（2023.4.13）　Web開催　令和5年4月13日

■司会：池永雅一
デジタルポスター　虫垂-全般-1
第123回日本外科学会定期学術集会
東京都　港区、グランドプリンスホテル新高輪　令和5年4月27日－29日

■司会：鈴木陽三
ポスター8
第21回日本ヘルニア学会学術集会
大阪市、大阪国際会議場(グランキューブ大阪)　令和5年5月26日－27日

■司会：今村博司
第34回近畿GIST研究会－GIST診療の現在～未来－
大阪市　ホテル阪急インターナショナル　令和5年6月3日

■司会：川瀬朋乃
令和5年度第3回 豊中市薬剤師会6月研究会
豊中市　豊中市医療保険センター　令和5年6月13日

■司会：池永雅一
第6回北摂大腸癌講演会　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和5年6月15日

■司会：今村博司
院内研修セミナー　『個人情報保護・ゲノム医療』
豊中市、市立豊中病院　令和5年6月19日

■司会：池永雅一
口演Ⅰ-9　直腸癌治療の最前線
第99回大腸癌研究会学術集会
兵庫県　尼崎市、尼崎市総合文化センター（あましんアルカイックホール・オクト）　令和5年7月6日

■座長：池永雅一
主題関連演題　【総論】こだわりの体腔内吻合
第78回日本消化器外科学会総会
北海道　函館市、函館市民会館、函館アリーナ、花びしホテル　令和5年7月12日－14日

■司会：池永雅一
Session2　大腸癌治療を考える
豊中市、千里ライフサイエンスセンタービル　令和5年7月20日

■司会：今村博司
Cachexia Seminar in Osaka　Web開催　令和5年8月29日

■司会：今村博司
一般講演　胃がん治療を考える会　(2023)
豊中市、千里ライフサイエンスセンタービル　令和5年8月31日

■司会：今村博司
ディスカッション『治療の最大化を考える～治療継続とICのポイント～』
Lilly Gastric Cancer Seminar　(2023)
豊中市、千里ライフサイエンスセンタービル　令和5年9月8日

■司会：今村博司
Session2　特別講演
第3回市立豊中病院がんゲノム医療セミナー　豊中市、市立豊中病院　令和5年9月29日

■司会：今村博司
学術セミナー　胃癌治療のこれから～変わるもの・変わらないもの～
第61回日本癌治療学会学術集会　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　令和5年10月19日－21日

■座長：池永雅一
一般演題（口演）　その他の小腸・大腸腫瘍)
第78回日本大腸肛門病学会学術集会　熊本県　熊本市、熊本城ホール　令和5年11月10日－11日

■司会：池永雅一
ビデオワークショップ5-2　結腸がんに対する体腔内吻合の適応と問題点②
第85回日本臨床外科学会総会
岡山県　岡山市、岡山コンベンションセンター他　令和5年11月16日－18日

■司会：清水潤三
ワークショップ13　外科医が身につけるべき感染症診療の知識と技能
第85回日本臨床外科学会総会
岡山県　岡山市、岡山コンベンションセンター他　　令和5年11月16日－18日

■司会：清水潤三
シンポジウム　「更なるチーム医療の深化に必要な＋α（技術と情熱）とは？」
第45回日本手術医学会総会　　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和5年11月24日－25日

■座長：清水潤三
シンポジウム７　創傷管理の最前線
第36回日本外科感染症学会総会学術集会
福岡県　北九州市、北九州国際会議場　　令和5年12月15日－16日

■座長：清水潤三
合同シンポジウム(日本穿刺ドレナージ研究会）耐えがたい術後感染性合併症を乗り越えるためのIVR
第36回日本外科感染症学会総会学術集会
福岡県　北九州市、北九州国際会議場　　令和5年12月15日－16日

■司会：鈴木陽三
一般演題2　第17回関西ヘルニア研究会
大阪市、大阪スカイビル　　令和5年12月16日

■司会：今村博司
アナモレリンが必要な患者さんに、少しでも早く届けるために
がん悪液質治療ハイブリッドセミナー～これからの悪液質治療を考える～
豊中市、千里阪急ホテル　　令和6年3月14日

■司会：池永雅一
一般演題8　大腸：捻転1　第60回日本腹部救急医学会総会
福岡県　北九州市、北九州国際会議場、西日本総合展示場新館、AIM　　令和6年3月21日－22日

12. 乳腺外科

＜現　況＞

令和5年度は、「外科」より「乳腺外科」を標榜した。部長１人、医長１人、で乳腺外科診療を担当した。部長は乳癌専門医、指導医を有する。

年間約120件の手術を行い、抗癌剤治療は約1,000件であった。前年度と比較し、若干増加した。悪性腫瘍手術に関しては、安全性、根治性に加えて低侵襲な手術を心がけている。

患者高齢化に伴い併存症を持った症例が増えたことや、医療の高度・複雑化が著しく、外科患者においても他科との連携や各領域のスタッフを含めたチーム医療が非常に重要になっている。当科医師は外科専門分野以外にも、ゲノム医療、がん薬物療法、緩和医療、感染対策、栄養療法、医療安全などの領域にも積極的に参加し患者をトータルにサポートすることを重視している。

また、チーム診療制の導入、カンファレンスの勤務時間内実施などを導入し、医師の働き方改革の推進に努めた。

【主要手術数】乳癌切除 124

＜今後の課題＞

働き方改革を見据えて、他部署へのタスクシフトや診療科内の業務の整理と役割分担、意識変革の推進を行い、長時間労働の削減に取り組む。また、全国的に外科医の希望者の伸び悩む中で、医療水準の向上と労働環境を整えて人材を確保することに努める。

全国的にも外科医を志す医師の減少により、当科も外科専攻医の減少による診療パワーの低下と現行スタッフの過剰労務が問題となり、夜間、休日の救急体制に一部制限をかけざるを得ない状態になっている。外科専攻医獲得が喫緊の課題である。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

外科論文抄読会……週1回
外科症例検討会……週3回
乳腺疾患合同症例カンファレンス……週1回
切除標本病理検討会（外、病理）……週1回

学会発表

■乳癌既発症者に対するHBOC検査の現状
赤木謙三
第35回日本内分泌外科学会総会
長野県　松本市、ホテルブエナビスタ　令和5年6月15日－17日

■局所進行転移性乳癌に対して化学療法と局所へのモーズペーストを併用し、局所制御が得られた1例
佐藤泰史、赤木謙三
第31回日本乳癌学会学術総会
神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜ノース　令和5年6月29日－7月1日

■乳癌術前BRCA検査症例の検討
赤木謙三、佐藤泰史
神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜ノース　令和5年6月29日－7月1日

講習・講演

■第2講　乳がんの治療と乳房再建について　「手術可能の乳がんの治療（周術期治療）」
佐藤泰史
第21回市立豊中病院　がん医療市民公開講座
豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和5年11月18日

司会・座長・その他

■座長：赤木謙三
遺伝性乳癌（その他）3
第31回日本乳癌学会学術総会
神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜ノース　令和5年6月29日－7月1日

13. 整形外科

＜現　況＞

当科では手・上肢の外科、肩関節外科、股関節・膝関節外科、脊椎外科の専門医が在籍し、骨軟部腫瘍を除く整形外科領域をカバーできる体制を取っている。手・上肢の外科では外傷や末梢神経障害の手術を多く行っている。肩関節外科では関節鏡視下手術と人工関節手術を積極的に行っている。股関節・膝関節外科では人工関節手術を数多く行っており、股関節ではナビゲーションシステムを用いて正確で安全な手術が可能となっている。脊椎外科では頚椎から胸椎、用類まで幅広い疾患に対する手術治療を行っている。また脊椎の固定術でもナビゲーションシステムを導入し、正確で安全な手術が可能となっている。

＜手術件数：分野別＞

上肢外傷手術	345	上肢・肩関節外科手術	244
下肢外傷手術	158	腫瘍手術	28
下肢人工関節手術	158	その他手術	7
脊椎外科手術	189		
		合　計	1,129

＜今後の課題＞

鏡視下手術、低侵襲手術を積極的に行っていくことで入院期間の短縮と早期の社会復帰を促進していくように努めている。

回復期病棟の閉鎖に伴い、地域病院と連携し、回復期病院への転院を早期に進めるように努める。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

整形外科抄読会……週1回　　部長回診……週1回
整形外科症例検討会……週1回

著書

■整形外科Surgical Technique books10　人工肩関節置換術　HHR・TSA・RSA
　水野直子、Gilles Walch
　RSA術後脱臼の対処法　　メディカ出版　　令和5年

刊行論文

■iPS細胞から作製した軟骨様髄核組織による椎間板再生
　釜谷崇志、萩澤宏樹、妻木範行、海渡貴司
　整形・災害外科　66（10）：1241-1245, 2023
■鏡視下 Bankart 修復術後の関節窩横径減少は DAFFでも生じるか？
　水野直子
　肩関節　47（1）：69-73, 2023
■RSA の外方化の様式による外転・内転角度への影響
　水野直子
　肩関節　47（1）：204-207, 2023
■橈側腱膜縫縮及び再建により治療した非外傷性母指伸筋腱脱臼の1例
　阿部真悟、栗山幸治
　日本手外科学会雑誌　39（4）：548-551, 2023

■Association of Hyperlipidemia With Perioperative Complications in Posterior Cervical Spine Fusion: A Comparative Retrospective Study.
Okada R,Son SM,Fresquez Z,Formanek B,Mertz K,Buser Z,Wang JC.
Clinical Spine Surgery　36（10）：E457-E463, 2023

■The Effect of Hyperlipidemia as a Risk Factor on Postoperative Complications in Patients Undergoing Anterior Cervical Discectomy and Fusion.
Son SM,Okada R,Fresquez Z,Formanek B,Mertz K,Wang JC,Buser Z.
Clinical Spine Surgery　36（10）：E530-E535, 2023

■Risk factors for insufficient ultrasound-guided supraclavicular brachial plexus block
Abe S,Kondo H,Tomiyama Y,Shimada T,Bun M,Kuriyama K.
Journal of Experimental Orthopaedics　10（1）：2023

学会発表

■当院における術者施行の超音波ガイド下鎖骨上腕神経叢ブロックの効果
阿部慎悟、栗山幸治
第66回日本手外科学会　東京　令和5年4月

■骨棘形成を伴う上腕三頭筋腱裂離骨折に対してsuture bridge法に準じて治療した1例
西村康佑、伏本カーディン、小船圭一、須之内紀一、安田彩夏、今井優子、吉田礼徳、山本健吾、栗山幸治
第49回日本骨折治療学会学術集会　静岡　令和5年6月

■手根中央関節亜脱臼を伴った近位手根列前額面骨折の2例
栗山幸治、阿部慎悟、今井優子
第15回日本手関節外科ワークショップ　新潟　令和5年9月

■Can eccentric glenosphere help to prevent scapular notching after reverse total shoulder arthroplasty in a three-dimensional computational model?
Mizuno N,Sunouchi K.
第15回 International Congress on Shoulder　and Elbow Surgery(ICSES)　Rome　令和5年9月

■The effect of RSA lateralization on abduction and adduction
Sunouchi K,Mizuno N.
第15回 International Congress on Shoulder　and Elbow Surgery(ICSES)　Rome　令和5年9月

■RSAにおけるscapular impingementに対する肩甲骨頸部形態の影響
水野直子
第50回日本肩関節学会　東京　令和5年10月

■骨棘形成を伴う上腕三頭筋腱裂離骨折に対してsuture bridge法に準じて治療した1例
西村康佑、伏本カーディン、小船圭一、須之内紀一、安田彩夏、今井優子、吉田礼徳、山本健吾、栗山幸治
第61回大阪骨折研究会　大阪　令和5年11月

講習・講演

■肩関節外科医22年目のつぶやき
水野直子
春季整形外科生涯研修コース　大阪　令和5年5月

■フランスのワインと食文化から学ぶロコモ・フレイル対策 パート1; Petits plaisirsフランス人の長寿の秘訣
水野直子
第20回日仏整形外科学会　横浜　令和5年7月

■女性肩外科医23年目のつぶやき
水野直子
初期臨床研修医のための整形外傷・救急に強くなるセミナー　名古屋　令和5年8月
■座談会2 日本肩関節学会のダイバーシティ＆インクルージョン
水野直子
第50回日本肩関節学会　東京　令和5年10月
■グレノイドのディスカッション BIO-RSA
水野直子
Stryker's Tornier Symposium 2023　東京　令和5年12月

司会・座長・その他

■座長：水野直子
肩不安定症 1
日本スポーツ整形外科学会2023　広島　令和5年6月
■座長：水野直子
Symposium : Prothèse totale inversée de l'épaule au Japon
“リバース型人工肩関節 ―本邦導入から 9 年、今後の展望―”
第20回日仏整形外科学会　横浜　令和5年7月
■座長：水野直子
一般口演16　RSA2
第50回日本肩関節学会　東京　令和5年10月

14.　脳神経外科

＜現　況＞

地域の基幹病院脳神経外科として、急性期脳血管障害、良性脳腫瘍、悪性脳腫瘍、頭部外傷、感染など、対象疾患は多岐にわたり、幅広く診療を行っている。

また、脳卒中センターを脳神経内科とともに担っており、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など多くの急性期脳卒中患者を受入れている。迅速な診断、治療が可能な体制を整え、主幹動脈閉塞に対しては24時間体制で経皮的血栓除去を行っている。また、低侵襲治療として、動脈瘤コイル塞栓術、ステント留置術などの脳血管内治療を積極的に活用している。

直達手術に関しては手術用ナビゲータ、術中電気生理モニタリング（SEP,MEP）を導入しており、安全確実な手術をめざしている。令和元年6月にはSCU病床（9床）開設し脳卒中患者の受入れ体制を整備した。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、診療体制の再構築を行っている。

＜手術件数＞

脳腫瘍摘出術	27例
動脈瘤クリッピング／コイル塞栓術	19例
頸動脈血栓内膜剥離術/頚動脈ステント留置	11例
脳血管内治療	62例
その他、慢性硬膜下血腫の穿頭ドレナージ、脳膿瘍摘出術など	
年間	計245例

＜今後の課題＞

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したが、救急搬送数は増加していない。救急応需体制を再構築して市民の期待に応える必要がある。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

脳神経外科カンファレンス……週1回
脳神経外科手術カンファレンス……週1回
脳神経外科術後カンファレンス……週1回
抄読会……週1回
脳神経外科死亡・合併症カンファレンス……月1回
脳卒中カンファレンス……週1回
脳神経内科脳神経外科新入院カンファレンス……週5回

刊行論文

■Characteristics of Changes in Intrathecal Baclofen Dosage over Time due to Causative Disease
Kimoto Y, Oshino S, Tani N, Hosomi K, Khoo HM, Fujita Y, Miura S, Iwata T, Emura T, Matsuhashi T, Onoda Y, Ishiuchi T, Yanagisawa T, Hirata M, Kishima H.
Neurol Med Chir (Tokyo)　63（12）：535-541, 2023

学会発表

■内視鏡下血腫除去術の手技を用いた脳膿瘍手術
森　康輔、北村慧介、宇野貴宏、林　元久、後藤　哲、西尾雅実
第32回脳神経外科手術と機器学会
富山県　富山市、富山国際会議場　　令和5年4月21日－22日

■神経根引き抜き損傷後疼痛に対する後根進入部ラジオ波破壊術の長期成績
細見晃一、押野　悟、木本優希、三浦慎平、江村拓人、森　信彦、岩田貴光、松橋崇寛、小野田祐司、石内崇勝、藤永貴大、Khoo Hui Ming、柳澤琢史、谷　直樹、齋藤洋一、貴島晴彦
日本脳神経外科学会 第82回学術総会
神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　令和5年10月25日－27日

■頭蓋骨粉砕陥没骨折に対する整復における工夫
西川侑甫、川端修平、平井信登、寺田栄作、梶川隆一郎、都築　貴
日本脳神経外科学会　第82回学術総会
神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　令和5年10月25日－27日

■コイル塞栓術と内視鏡下血腫除去術を施行した血腫形成型くも膜下出血についての検討
森　康輔、西野鏡雄、金地真生、宇野貴宏、林　元久、後藤　哲、藤田敏晃、西尾雅実
第82回日本脳神経外科学会学術総会
神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　令和5年10月25日－27日

■コイル塞栓術と内視鏡下血腫除去術を施行した血腫形成型くも膜下出血についての検討
森　康輔、西野鏡雄、金地真生、宇野貴宏、林　元久、後藤　哲、藤田敏晃、西尾雅実
第30回日本神経内視鏡学会　愛知県　名古屋市、ウインクあいち　令和5年11月16日－17日

■外傷により生じた後交通動脈損傷後の解離性動脈瘤破裂に対してコイル塞栓術を施行した1例
西川侑甫、川端修平、平井信登、寺田栄作、梶川隆一郎、都築　貴
第39回日本脳神経血管内治療学会学術集会
京都府　京都市、国立京都国際会館　令和5年11月23日－25日

■血管内治療と内視鏡下血腫除去術を施行した血腫形成型くも膜下出血についての検討
森　康輔、西野鏡雄、金地真生、宇野貴宏、林　元久、後藤　哲、藤田敏晃、西尾雅実
第39回日本脳神経血管内治療学会学術集会
京都府　京都市、国立京都国際会館　令和5年11月23日－25日

■当院における神経障害性疼痛に対する反復経頭蓋磁気刺激治療の現状
森　信彦、細見晃一、西　麻哉、林　燦碩、董　冬、Khoo Hui Ming、谷　直樹、押野　悟、齋藤洋一、貴島晴彦
第53回日本臨床神経生理学会学術大会
福岡県　福岡県、福岡国際会議場　令和5年11月30日－12月2日

■視床痛における機能結合変化：異種間神経画像研究
董　冬、細見晃一、清水豪士、岡田研一、角野喜則、森　信彦、堀　祐樹、八幡憲明、平林敏行、貴島晴彦、齋藤洋一
第53回日本臨床神経生理学会学術大会
福岡県　福岡県、福岡国際会議場　令和5年11月30日－12月2日

■脊髄障害性疼痛に対する脊髄刺激療法のリード留置位置の検討
細見晃一、森　信彦、山本暁大、石内崇勝、松橋崇寛、江村拓人、谷　直樹、押野　悟、齋藤洋一、貴島晴彦
第45回日本疼痛学会　福島県　福島市、コラッセふくしま　令和5年12月8日－9日

■慢性疼痛患者における疼痛関連評価を用いた特性分類
森　信彦、細見晃一、山本暁大、董　冬、谷　直樹、押野　悟、齋藤洋一、貴島晴彦
第45回日本疼痛学会　福島県　福島市、コラッセふくしま　令和5年12月8日－9日

■慢性疼痛患者における「しびれ」の評価
山本暁大、細見晃一、森　信彦、Khoo Hui Ming、二宮貢士、谷　直樹、押野　悟、佐々木学、柴田政彦、貴島晴彦
第45回日本疼痛学会　福島県　福島市、コラッセふくしま　令和5年12月8日－9日

■後根侵入部破壊術の適応と有効性
細見晃一、押野 悟、木本優希、三浦慎平、末松拓也、山本暁大、森　信彦、柳澤琢史、谷　直樹、西尾雅実、佐々木学、齋藤洋一、貴島晴彦
第63回日本定位・機能神経外科学会　北海道　札幌市、ニューオータニイン札幌　令和6年2月2日－3日

■PitNETによる下垂体卒中を疑い内視鏡下経鼻下垂体手術を施行し病理結果からPrimary xanthomatous hypphysitisと診断した一例
金地真生、森　康輔、西川侑甫、宇野貴宏、細見晃一、後藤　哲、西尾雅実
第34回日本間脳下垂体腫瘍学会　愛知県　愛知県、ウインクあいち　令和6年2月16日ー17日

■LPシャント術の手術手技と併発症対策
細見晃一、Khoo Hui Ming、後藤　哲、森　康輔、西川侑甫、金地真生、谷　直樹、押野　悟、西尾雅実、貴島晴彦
第25回日本正常圧水頭症学会　大阪市、なんばスカイオコンベンションホール　令和6年2月17日－18日

■当院における特発性正常圧水頭症に対する治療成績
西川侑甫、後藤　哲、金地真生、森　康輔、細見晃一、西尾雅実
第25回日本正常圧水頭症学会　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和6年2月17日－18日

■血管内治療と内視鏡手術にを施行した血腫形成型くも膜下出血についての検討
森　康輔、西野鏡雄、金地真生、宇野貴宏、林　元久、後藤　哲、藤田敏晃、西尾雅実
Stroke2024　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　令和6年3月7日－9日

研究会・集談会発表

■ATBIの1例
森　康輔
Solitaire de Night～SolitaireとREACTを用いた血栓回収療法～
大阪市　Web開催　令和5年7月24日

講習・講演

■脳卒中後の痛み：診断から治療まで
細見晃一
第5回 阪神脳神経カンファレンス　Web開催　令和5年10月3日

■脳卒中後の痛み up to date
細見晃一
第175回地域連携学術講演会 ～脳卒中・疼痛診療 Web Seminar～　Web開催　令和5年11月16日

■脳神経外科における痛みの治療
細見晃一
第20回埼玉脳神経外科ソサイエティ　埼玉県　川越市、ウェスタ川越　令和6年1月20日

■現在の脳卒中急性期診療
西尾雅実
脳卒中痙縮セミナーin北摂　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和6年3月28日

司会・座長・その他

■座長：細見晃一

シンポジウム2　知の発信　疼痛の最新技術

発表演題：4演題

第63回日本定位・機能神経外科学会

北海道　札幌市、ニューオータニイン札幌　　令和6年2月2日－3日

■座長：細見晃一

カネカメディックス共催セミナー　持続脊髄ドレナージテストによるiNPH の診断

演者：浜松医療センター　中山禎司

第25回日本正常圧水頭症学会

大阪市、なんばスカイオコンベンションホール　　令和6年2月17日－18日

15.　心臓血管外科

＜現　況＞

末梢血管領域を専門とする藤村博信を中心にスタッフ3名と循環器内科医、血管外科専門の応援医師の助けを借りながら、腹部大動脈以下の末梢血管症例に特化し診療を行っている。

心臓センター来院症例のうち、カンファレンスにて開心手術が必要と診断された症例は、病病連携により大阪大学医学部附属病院にお願いしている。

COVID-19による診療制限はなくなり手術症例数はCOVID-19前より増加しトータル304例と大幅に増加した。

腹部大動脈瘤に対する治療（人工血管置換術、ステントグラフト留置術）、閉塞性動脈硬化症に対する治療（バイパス術、経皮経管血管形成術(PTA)）や下肢静脈瘤に対する治療（ストリッピング術、高位結紮術、硬化療法、血管内焼灼術、血管内塞栓術（スーパーグルー治療）、維持透析導入に際する動静脈瘻作成術を主に行っている。従来よりさらなる手術の低侵襲化を得るために、ステントグラフト治療における鼠径部アプローチは、ほぼ全例でclosure deviseを用いた穿刺のみのアプローチとしている。また引き続き足趾潰瘍を生じているASO症例に対しては、可能な限り切断を回避するために膝下動脈以下への自家静脈を用いた血行再建治療を積極的に行っている。

＜手術件数＞

腹部大動脈瘤	37例	透析シャント作成術	10例
閉塞性動脈硬化症	84例	急性動脈閉塞	9例
下肢静脈瘤	160例		

＜今後の課題＞

専門スタッフ3名と念願のスタッフの増員が得られた。血管系疾患に一定頻度で生じる緊急症例にある程度対応できる体制が整ったが、まだ、十分な対応ができているとは言えない。実際に、動脈瘤の破裂や急性動脈閉塞症例に対して、早急な手術治療を要するために他院に転院を依頼するケースもあった。十分な救急対応を可能にするには、麻酔科人員や手術室などの増加が必要である。

人口の高齢化により、手術対象年齢も高齢化の一途をたどっている。高齢者に対する侵襲的治療後は、大きな合併症を生じなくても、全身状態の悪化やFrailityの増悪、術後せん妄や筋力低下などクリニカルパスどおりには推移しないことが多く、パラメディカルを含むさらに多くのマンパワーを要する。この部分も課題である。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

心臓血管外科術前カンファレンス……週1回

著書

■大きく変化した下肢静脈瘤の手術

藤村博信

豊中市医師会雑誌　　きたがわプリント　　令和5年12月

刊行論文

■Use of selective visceral angiography in surgical strategy planning for celiac artery aneurysm in the celiacomesenteric trunk.

Takasumi Goto, Hironobu Fujimura, Takashi Sintani, Takashi Shibuya, Shigeru Miyagawa.

Journal of Cardiothoracic Surgery　19：11, 2024

■Cardiac tamponade complicating esophagectomy and retrosternal gastric tube reconstruction in a patient with an abnormal ascending aorta position: a case report.

AoyamaS, MiyazakiY, MotooriM, HirotaM, ItamiT, MatsumotoS, HiranoM, AomatsuM, GotoT, Kitahara M, OzatoY, NishizawaY, KomatsuH, InoueA, KagawaY, TomokuniA, IwaseK, NishiH, FujitaniK.

Surg Case Rep　10（1）：48, 2024

学会発表

■経皮的EVARにおける腸骨ー大腿動脈領域のアクセストラブルの検証

後藤隆純、藤村博信、澁谷　卓、新谷　隆、宮川　繁

第123回日本外科学会定期学術集会

東京都　港区、グランドプリンスホテル新高輪　　令和5年4月27日－29日

■腹腔ー上腸間膜動脈共通幹に合併した腹腔動脈瘤に対する術式決定に選択的腹部分枝造影検査が有用であった1例

後藤隆純、藤村博信、澁谷卓、新谷　隆、宮川　繁

第51回日本血管外科学会学術総会

東京都　新宿区、京王プラザホテル　　令和5年5月31日－6月2日

■重度跛行病変に対する膝下膝窩動脈以遠へのバイパスの是非

山倉拓也、三宅啓介、中村　隆、土井田　務、山角太良、藤村博信、渋谷　卓、島村和男、宮川　繁

第51回日本血管外科学会学術総会

東京都　新宿区、京王プラザホテル　　令和5年5月31日－6月2日

■食道癌術後既往のある傍腎動脈腹部大動脈仮性瘤に対し腹部3分岐再建によるChimney EVARを施行した1例

後藤隆純、藤村博信、澁谷　卓、新谷　隆、宮川　繁

第64回日本脈管学会学術総会

神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜ノース　　令和5年10月26日－28日

■旁腎動脈腹部大動脈瘤に対するChimney EVARの早期・中期治療成績

後藤隆純、藤村博信、澁谷　卓、新谷　隆、宮川　繁

第54回日本心臓血管外科学会学術集会

静岡県　浜松市、アクトシティ浜松　　令和6年2月22日－24日

司会・座長・その他

■座長：藤村博信、古山　正

一般口演10　末梢動脈・2

演者：日本医科大学武蔵小杉病院　前田基博、他

第51回日本血管外科学会学術総会東京都　新宿区、京王プラザホテル　　令和5年5月31日－6月2日

■座長：藤村博信

一般演題ポスター9　VTE3他

演者：吉祥院病院　田中伸岳、他

第43回日本静脈学会総会　　愛媛県　松山市、愛媛県県民文化会館　　令和5年7月6日－7日

■パネリスト：藤村博信、他
CLTI治療の最前線
演者：大阪警察病院　飯田　修
第2回北大阪血管外科meeting
大阪市、ホテルグランヴィア大阪　　令和5年7月11日

■座長：藤村博信、平野雅生
一般演題ポスター13　静脈瘤・血管アクセス
演者：横浜南共済病院　金井春果、他
第64回日本脈管学会学術総会
神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜ノース　　令和5年10月26日－27日

■コメンテーター：藤村博信、他
難治性足病変に対する形成外科的アプローチ
演者：大阪公立大学　元村尚嗣
第3回北大阪血管外科meeting
大阪市、中之島フェスティバルタワー　　令和6年2月6日

16. 形成外科

＜現　況＞

令和5年4月に形成外科が開設され、前田大介医長、東本究仁専攻医の2名が着任した（形成外科部長は栗山幸治整形外科主任部長が兼任)。形成外科では、主に体表面に生じた組織の異常や変形、欠損に対して治療を行っている。 外来は整形外科ブースで行い、入院は4階北病棟で3床から開始している。

4月の開設当初より手術は、局所麻酔では半日枠を週1回で行い、全身麻酔では整形外科の枠を一部使用し行っていた。手術症例増加に伴い、10月より局所麻酔手術は半日枠の週2回に増枠された。乳癌術後の乳房再建では、ティッシュエキスパンダー挿入、インプラントによる人工物を用いた再建や自家組織による再建（有茎皮弁、遊離皮弁を含めて）を行っている。また、他科が必要とする再建手術や処置に対して、周術期やその後のフォローアップも連携している。

以前より当院ではリンパ浮腫外来で、がん切除に伴うリンパ節郭清後のリンパ浮腫に対して保存的加療や指導を行い、手術を希望された患者は他院での治療を余儀なくされたが、当科の介入によって手術加療（リンパ管静脈吻合術など）を導入し、当院でも治療が可能となった。また、救急診療での創傷や顔面骨骨折に対して、専門的治療が必要な場合は当科へのコンサルトを受け、そのような症例も院内での対応が可能となった。ケロイド・肥厚性瘢痕の治療では放射線科との連携で、瘢痕手術後に早期の放射線治療を行っている。

＜今後の課題＞

当科への顔面骨骨折の紹介が比較的多いが、受傷後2週間以内には手術加療が必要となるため、さらなる全身麻酔手術枠の確保が重要となる。また、令和6年度より医師の働き方改革による勤務体系が本格的に始まったが、現在2名体制のため当直業務翌日の人員不足で診療に制限が出ることがあり、今後、形成外科医の増員が必要と考える。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

術前・術後カンファレンス……週1回

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■がん医療市民公開講座　◎

乳がん切除後の乳房再建

前田大介　　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　　参加者：約100名　　令和5年11月18日

刊行論文

■外傷を契機に頭部巨大皮下血腫を生じたEhlers-Danlos症候群の1例

中村文哉、中川達裕、前田大介、中山理華子、柳下詩織

日本形成外科学会会誌　44（3）：115-122, 2024

学会発表

■ミャンマー連邦共和国での口唇・口蓋裂手術ミッションの経験

前田大介、西本　聡、鹿野雄介、山内菜都美、岸　直子、前田　求

第41回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会

兵庫県　淡路市、淡路夢舞台国際会議場　　令和5年11月9日－10日

寄稿文・テレビ・ラジオ・その他

■メディカル・トピックス「異常瘢痕（ケロイド・肥厚性瘢痕）に対する治療の現状」

前田大介

豊中市医師会　月報

豊中市医師会　令和6年2月号

17. 皮膚科

＜現　況＞

令和5年度はスタッフ2名、専攻医2名の計4名体制で主に皮膚悪性腫瘍含めた皮膚外科および難治性皮膚疾患を含む皮膚科疾患全般にわたり診療をしている。難治症例は大学を含めたカンファレンスにて随時検討している。

悪性黒色腫に対しては手術療法含めて、検査として色素、蛍光色素、RIを使用したセンチネルリンパ節の同定及び生検を、治療では免疫チェックポイント阻害薬、分子標的薬、化学療法、必要に応じて放射線治療を組み合わせて対応している。また、乳房外パジェット病/血管肉腫/メルケル細胞癌等の稀少癌に対しても手術、化学療法、放射線療法等よる集学的治療に積極的に取り組んでいる。

上記に関しては、豊能2次医療圏における地域がん診療連携拠点病院としての一翼を担っている。

難治皮膚疾患としては、尋常性乾癬/乾癬性関節炎に対しては各種生物学的製剤の導入症例も多く、病状に応じて各種治療選択をしている。

また、アトピー性皮膚炎の生物的製剤/JAK阻害薬、慢性蕁麻疹の生物学的製剤も数多く導入している。

緊急を要する疾患としては、重症皮膚軟部組織感染症の緊急手術を行っている。

［外来部門］

令和5年度も例年どおり高い紹介率、逆紹介率を維持している。引き続き近隣診療所及び近隣総合病院との良好な病診連携、病病連携に努めていく。

［入院部門］

手術症例、皮膚科領域の急性期疾患等多彩な症例に対応している。皮膚悪性腫瘍の治療件数及び皮膚悪性腫瘍の手術件数は大阪府下の施設のなかでも上位にランクされる。

令和5年度手術数　全体370件（手術場のみ）　うち悪性腫瘍103件、全麻手術52件

＜今後の課題＞

引き続き、地域の中核病院の皮膚科として悪性腫瘍、手術、急性期疾患、難治疾患の分野での貢献に努めていく。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

皮膚科臨床カンファレンス……週1回　　皮膚科手術カンファレンス……週1回
皮膚科病理カンファレンス……週1回

学会発表

■第7回NDBオープンデータ分析にて分かった大阪エリアにおける皮膚悪性手術の実際
　後藤範子、小島有紗、竹林宏朗、横見明典
　第497回　大阪地方会
　大阪市、Web開催　　令和5年5月20日

■当科で経験した下肢ガス壊疽32例の検討
　黒神　祐、坂本理佳、後藤範子、横見明典
　第122回日本皮膚科学会総会
　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和5年6月1日－4日

■白人の尋常性乾癬に患者にみられた多発性基底細胞癌の1例
黒神　祐、坂本理佳、後藤範子、横見明典
第38回日本皮膚外科学会総会・学術大会
福岡県　久留米市、久留米シティプラザ　令和5年7月22日－23日

■当科における頭部血管肉腫に対する強度変調放射線治療の検討
小島有紗、竹林宏朗、後藤範子、横見明典
第116回　近畿集談会　大阪市、オーバルホール　令和5年7月30日

■免疫チェックポイント阻害剤、重粒子療法、遺伝子パネルによる受け皿試験等の治療をしたメラノーマの1例
横見明典、小島有紗、竹林宏朗、後藤範子
第39回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会
愛知県　名古屋市、名古屋国際会議場　令和5年8月4日－5日

■乾癬治療に対する長期生物学的製剤投与がうつ病に与える影響に付いての検討
横見明典、小島有紗、竹林宏朗、後藤範子
第38回日本乾癬学会学術大会　東京都、グランドニッコー東京　台場　令和5年8月25日－26日

■外陰部の先天性色素性母斑より発症した悪性黒色腫の1例
小島有紗、竹林宏朗、後藤範子、横見明典
第74回日本皮膚科学会中部支部学術大会
京都府　京都市、国立京都国際会館　令和5年10月28日－29日

■患側史上最高の平均気温を記録した9月に当院搬送されたガス壊疽5例の検討
横見明典、小島有紗、竹林宏朗、後藤範子
第500回　大阪地方会　大阪市、ヒルトン大阪　令和5年12月3日

■アリルイソプロピルアセチル尿素により固定薬疹の2例
後藤範子、小島有紗、竹林宏朗、横見明典
第500回　大阪地方会　大阪市、ヒルトン大阪　令和5年12月3日

■掌蹠膿疱症性骨関節炎に対して関節超音波検査によりフォローが有用であった掌蹠膿疱症の1例
竹林宏朗、小島有紗、後藤範子、横見明典
第53回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会
千葉県　浦和市、グランドニッコー東京ベイ　舞浜　令和5年12月8日－10日

■当科で下肢ガス壊疽に対して下肢大切断術を施行した9例の検討
黒神　祐、坂本理佳、後藤範子、横見明典
第4回日本フットケア・足病医学年次学術集会
沖縄県　宜野湾市、沖縄コンベンションセンター　令和5年12月22日－23日

■ジアフェニルスルホン投与中にメトヘモグロビン血症を生じた水疱性類天疱瘡の1例
竹林宏朗、小島有紗、後藤範子、横見明典
第501回大阪地方会　大阪市、朝日生命ホール　令和6年2月3日

講習・講演

■アトピー性皮膚炎
横見明典
ＤＤＦ２０２３　大阪市、ホテルグランビア大阪　令和5年10月7日

司会・座長・その他

■座長：後藤範子

Ｊｕｖｅｎｉｌｅ　Ｔｅｍｐｏｒａｌ　Ａｒｔｒｒｉｔｉｓについて

演者：市立吹田市民病院　太田朝子

第9回北摂皮膚科Ｗｅｂセミナー　豊中氏、Web開催　令和5年12月13日

受賞

■ポスター賞

黒神　祐

第122回日本皮膚科学会総会

横浜市、パシフィコ横浜　令和5年6月1日－4日

18.　泌尿器科

＜現　況＞

【スタッフ】　　常勤医　5名、専攻医3名

【外来部門】

年間の外来初診患者は 817人で、延べ外来患者数は 14,603 人、1日平均外来(週実働4日）患者数は75人であった。

【入院部門】

年間の新入院患者数は1,091人で、平均在院日数6.9日、手術件数は548件、体外衝撃波結石破砕術（ESWL）が32件、前立腺癌の疑いで前立腺生検を行った症例は263件であった。4名の泌尿器腹腔鏡技術認定医とロボット手術認定指導医（プロクター）が中心となり、下記のとおり手術を行ったが、適応の拡大に伴い、年々ロボット支援手術が増加している。進行した各種尿路性器癌に対して、ホルモン療法、化学療法、免疫療法を、可能な限り外来通院にて実施している。尿路結石治療にも注力しており、ホルミウムレーザーを用いたf-TUL（経尿道的腎尿管砕石術）やPNL（経皮的腎砕石術)、またこれらを同時に行う難易度の高いTAP手術も行っている。高齢者の結石性腎盂腎炎症例や他臓器癌による急性腎後性腎不全症例の受入れ要請も多く、それらの症例には緊急的に尿管ステント留置や腎瘻造設を行っている。また小児の包茎や停留精巣、精巣捻転の手術も施行している。

手術実績　令和5年4月～令和6年3月：総手術件数 : 550件

ロボット支援手術(腎、尿管、膀胱、前立腺)	137	開腹手術(腎、後腹膜、尿管、その他)	5
腹腔鏡下手術(副腎、腎、尿管、膀胱、尿膜管)	34	陰嚢内容・陰茎手術(精巣、陰茎)	28
経尿道的手術(尿管、膀胱、前立腺、尿道)	239	その他の手術(腎、尿道)	3
尿路結石内視鏡手術(腎、尿管、膀胱)	104		

（術式の詳細は病院ホームページの泌尿器科部門を参照）

＜今後の課題＞

働き方改革の実施により、時間外労働の制限を受ける中で、増え続ける手術症例にどのように対応していくべきか頭を悩ませている。次年度人員1名減という厳しい環境の中で若手の教育と地域医療への貢献を両立させるにはますますの病診連携、病病連携が必要であると考えている。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

泌尿器科症例検討会……週1回　　泌尿器科病理検討会……月2回
泌尿器科病棟カンファレンス……週1回　　泌尿器科薬物療法勉強会……週1回

著書

■尿路結石症診療ガイドライン　2023年版
　鄭　則秀　他
　尿路結石症診療ガイドライン　2023年版　　医学図書出版　　令和5年

刊行論文

■Maintaining Serum Hemoglobin Levels Within the Physiological Range Prevented Bladder Tamponade Recurrence Due to Radiation-Induced Hemorrhagic Cystitis:A Case Report.

上田倫央、佐藤元孝、松川敦紀、隠岐雄太、水野稜也、秋山　舞、鄭　則秀、三宅　修

Res Rep Uro　2023年8月

■Lower Dose of 5 mL of 1% Lidocaine is More Suitable than the Conventional 10 mL for Caudal Block in Transrectal Prostate Biopsy: A Retrospective Cohort Study

上田倫央、佐藤元孝、森　駿介、松川敦紀、隠岐雄太、久次米雄馬、水野稜也、堀谷　弘、山本哲也、深江彰太、吉永光弘、松下　慎、秋山　舞、上戸　賢、本田絢子、中山治郎、鄭　則秀、三宅　修

Adv Urol.　2024年2月

学会発表

■高脂肪食による腸内細菌叢のディスバイオーシスが前立腺癌の増殖に与える影響の解明

松下　慎

第110回日本泌尿器科学会総会

兵庫県　神戸市、神戸コンベンションセンター　　令和5年4月20日－23日

■腸内細菌叢と前立腺癌の関係性の解明

松下　慎

第110回日本泌尿器科学会総会

兵庫県　神戸市、神戸コンベンションセンター　　令和5年4月20日－23日

■Shallow anterior chamber depth during steep trendelenburg position in robot-assisted laparoscopic prostatectomy

佐藤元孝、森　駿介、久次米雄馬、秋山　舞、松下　慎、鄭　則秀、三宅　修

第110回日本泌尿器科学会総会

兵庫県　神戸市、神戸コンベンションセンター　　令和5年4月20日－23日

■The impact of docetaxel and cabazitacel side effects on the duration of chemotherapy treatment for castrationresistant prostate cancer

久次米雄馬、前川高熙、梅田　駿、松下　慎、佐藤元孝，鄭　則秀、三宅　修

第110回日本泌尿器科学会総会

兵庫県　神戸市、神戸コンベンションセンター　　令和5年4月20日－23日

■ 腎癌術後播種・転移病変に対してペンブロリズマブ + レンバチニブが著効した 1 例

前川高熙、佐藤元孝、森　駿介、久次米雄馬、梅田　駿、秋山　舞、松下　慎、鄭　則秀、三宅　修

第 253 回日本泌尿器科学会関西地方会

滋賀県　大津市、ピアザ淡海　　令和5年6月10日

■日本人の高悪性度前立腺癌に関連する腸内細菌叢の解明

松下　慎

日本アンドロロジー学会第42回学術大会

愛知県　名古屋市、ウインクあいち　　令和5年6月23日－24日

■エンホルツマブベドチンによりCA19-9が著明に低下した転移性膀胱癌の 1 例

久次米雄馬、前川高熙、梅田　駿、松下　慎、佐藤元孝，鄭　則秀、三宅　修

第88回日本泌尿器科学会東部総会　　北海道　札幌市、ロイトン札幌　　令和5年10月7日

■当院における吸引式アクセスシースを用いたECIRSの初期経験

梅田　駿、鄭　則秀、前川高熙、久次米雄馬、松下　慎、佐藤元孝、三宅　修

第37回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会

鳥取県　米子市、米子コンベンションセンター　　令和5年11月10日

講習・講演

■ウイズコロナ時代のアンチエイジングーいち泌尿器科が考えるアンチエイジングー：理解と実践PART-1
三宅　修
第17回北摂泌尿器科連合医会　豊中市、千里朝日阪急ビル　令和5年5月20日

■私が考えるロボット手術のこつ
佐藤元孝
Urology　Seminar　MSD株式会社　豊中市、千里阪急ホテル　令和5年6月1日

■CTによる前立腺癌の骨健康評価
佐藤元孝
OPCSG研究会　武田薬品株式会社　大阪市、ANAクラウンプラザホテル大阪　令和5年7月13日

■当院におけるドセタキセルとカバジタキセルの副作用に関する臨床的検討
久次米雄馬
TAXANE　Conference on Prostate Cancer～前立腺がん化学療法の可能性を考察する～
大阪市、グランフロント大阪タワーC　ナレッジキャピタルカンファレンスルーム「C05」　令和5年9月16日

■去勢抵抗性前立腺癌に対するタキサン系抗がん剤の有効な使い方を考える
佐藤元孝
Prostate Cancer Treatment Strategy Conference　サノフィ株式会社
大阪市、大阪国際交流センター　令和5年11月1日

■Astellas Urology Seminar　「前立腺癌患者における骨健康の評価法について考える」
佐藤元孝
アステラス株式会社　大阪市、ANAクラウンプラザホテル大阪　令和5年12月9日

■Lt　RARNをして感じる手術のコツと疑問点
松下　慎
腎細胞癌を考える会　エーザイ株式会社
豊中市、千里阪急ホテル東館2階　葵の間　令和6年3月8日

■現在の前立腺癌患者において骨健康マネジメントは必要か
佐藤元孝
前立腺癌診療UP TO DATE　アステラス株式会社
大阪市、シェラトン都ホテル大阪　令和6年3月14日

司会・座長・その他

■座長：三宅　修
前立腺癌に対する；薬物療法、サイバーナイフ療法、重粒子線療法
演者：市立池田病院　中田　渡、大阪大学大学院医学系研究科　平田岳郎、
大阪重粒子線センター　鈴木　修
北摂前立腺癌診療セミナー　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和5年10月26日

■コメンテーター：佐藤元孝
「シークエンスと切り替えタイミングに関するCQを考える」
Prostate Cancer Treatment Strategy Conference
大阪市、大阪国際交流センター　令和5年11月1日

■座長：三宅　修
尿路上皮癌バリアントと予後・治療効果との関係
演者：大阪大学大学院医学系研究科　中竹直弥、市立池田病院　森　駿介、
大阪ろうさい病院　名手孝紀、大阪警察病院　松川敦紀、
大阪国際がんセンター　岡本崇佑
第38回大阪泌尿器腫瘍フォーラム　大阪市、富士ビル　令和5年12月21日

寄稿文・テレビ・ラジオ・その他

■メディカル・トピックス　最近の尿路結石事情

鄭　則秀

月報

一般社団法人　豊中市医師会　令和5年4月

■Cook Rezonance メタリック尿管ステントの使用経験

～メタリック尿管ステント留置中に経験した動脈瘻の 1 例～

鄭　則秀

雑誌　令和6年3月1日

19.　産婦人科

＜現　況＞

≪人事≫

人事は令和5年3月31日 専攻医の石井裕友および大槻摩弥が退職した。令和5年4月1日から専攻医として山口稜人及び中西　叶を採用した。

令和5年3月31日竹井智彦医員が退職し、令和5年4月1日より石田享相医員を採用した。

令和5年9月30日に加藤　恵医員が退職し、令和5年12月31日に池田佳代医長が退職した。

令和5年12月 1 日より加藤真由子医員を採用した。

令和5年4月1日現在常勤医8人専攻医4人非常勤2人の体制である。

令和6年4月1日から常勤医1名、専攻医2名を採用する予定である。

≪産科について≫

令和5年度の総分娩数は627名（単胎553名、双胎74名）であった。内訳は、生児は608名で、その他、中期中絶は9名、22週以降子宮内胎児死亡は3名であった。帝王切開分娩241名（CS率41.8％）であった。またOGCSの母体搬送は115 件であった。前年度は、総分娩数は679名（単胎571名、双胎108名）、母体搬送は117件であり、分娩数は52名減少し、母体搬送数は2件減少した。

地域連携による妊婦健診「二人主治医制」は順調に運用されている。また助産師を中心に行っている院内助産「はぐみ」は18件であった。感染症指定病院としてのCOVID-19感染妊婦の受入れは、新型コロナウィルス感染症の5類移行により、通常感染症対応となった。 双胎妊娠症例の分娩様式はすべて帝王切開としていたが、令和4年度より一部症例で経腟分娩を開始し、令和5年度は3件の経腟分娩を行った。

令和5年3月より非侵襲的出生前検査NIPT外来を開始し、令和5年度の外来受診者数は69件であった。

≪婦人科について≫

令和5年度の婦人科の総手術数は351件で、前年度より7件増加した。手術症例のうち、悪性腫瘍では前年度に比べ卵巣・卵管癌・LPMが15件から26件で11件増加し、子宮癌（子宮頸癌・体癌・子宮肉腫）は38件から28件と10件減少した。

良性腫瘍では、子宮筋腫・子宮腺筋症は92件から89件に減少し、良性付属器腫瘍は118件から106件に減少した。子宮鏡を使ったレゼクトスコープの手術は37件から45件に増加し、腹腔鏡手術は133件から139件に増加した。早期子宮体癌に対する腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術を開始した。

＜手術件数＞

帝王切開術　（241件）　適応重複あり

うち緊急帝王切開術　130件

前回帝王切開術	93
胎児心拍異常	42
骨盤位	16
分娩停止	25
双胎（組）	31
品胎（組）	0
子宮内感染	7
P-PROM	5
子宮内胎児発育遅延	2
前置胎盤（全～辺縁）	12
低置胎盤	2
妊娠高血圧症候群	27
筋腫合併妊娠	2
筋腫核出後妊娠	5
常位胎盤早期剥離	3
HELLP症候群	2
その他	3

人工妊娠中絶術	5
中期中絶	9
流産手術	31

母体搬送	115
院内助産	18

総分娩数　627人

C/S率　41.8%

婦人科手術（351件）

主な疾患	
子宮頸癌	3
子宮体癌・子宮肉腫	25
卵巣癌・卵管癌・LPM	26
良性付属器腫瘍	106
子宮筋腫・子宮腺筋症	89
子宮頚部上皮内腫瘍（CIN）	57
異型子宮内膜増殖症	3
頸管・内膜ポリープ	37
異所性妊娠	11
骨盤臓器脱	2
卵巣出血	0

主な術式	
腹腔鏡手術	139
付属器手術	88
子宮全摘術	32
異所性妊娠	11
子宮体癌手術	2
開腹手術	99
付属器手術	31
子宮全摘術	68
筋腫核出術	9
腟式子宮全摘術	1
腟閉鎖	2
子宮鏡手術	45
円錐切除術	56
悪性手術	38
卵巣癌手術	18
子宮頸癌手術	2
子宮体癌手術	18

＜今後の課題＞

分娩の75％は時間外で、母児の人命にかかわる超緊急手術が時間外に度々あり、周産期センターは24時間体制の医療が求められる。令和6年度からはじまる医師の働き方改革のため、今後現状の周産期体制の維持が極めて困難になると予想される。周産期センターを維持するために、産科と婦人科の診療バランスを適正化し、様々な勤務条件をもつ優秀な人材を確保する必要がある。そのためにも婦人科手術の症例数拡大と適応拡大を行える環境を構築することが重要である。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

精神科合同カンファレンス……月1回
周産期カンファレンス……週1回
癌カンファレンス……週1回
術前カンファレンス……週1回

刊行論文

■妊娠第3半期に発症した特発性腹腔内出血（Spontaneous Hemoperitoneum in Pregnancy ; SHiP）の3症例
高田玲佳、吉田　晋、中西　叶、山口稜人、小松麗華、石井裕友、大槻摩弥、加藤真由子、石田亨相、伊東　優、田中博子、高橋良子、池田佳代、髙橋佳世子、脇本昭憲、辻江智子
市立豊中病院医学雑誌　24：11-14, 2024

■再発子宮体癌に対して レンバチニブ＋ペンブロリズマブ併用療法開始後14日で 心原性ショックをきたした一例
小松麗華、石田亨相、加藤　恵、中西　叶、山口稜人、高田玲佳、石井裕友、大槻摩弥、加藤真由子、伊東　優、田中博子、高橋良子、池田佳代、髙橋佳世子、吉田　晋、脇本昭憲、辻江智子
市立豊中病院医学雑誌　24：15-18, 2024

学会発表

■妊娠後期に発症した特発性腹腔内出血（SHiP）の3症例
高田玲佳、池田佳代、石井裕友、大槻摩弥、竹井智彦、加藤　恵、伊東　優、田中博子、吉田　晋、高橋佳世子、脇本昭憲、辻江智子
第75回日本産科婦人科学会学術講演会
東京都　千代田区、東京国際フォーラム　　令和5年5月12日－14日

■再発子宮体癌に対して Lenvatinib/Pembrolizmab併用療法開始後14日で 心原性ショックをきたした一例
小松麗華、加藤　恵、高田玲佳、石井裕友、大槻摩弥、伊東　優、田中博子、池田佳代、吉田　晋、高橋佳世子、辻江智子
第75回日本産科婦人科学会学術講演会
東京都　千代田区、東京国際フォーラム　　令和5年5月12日－14日

■妊娠14週に子宮脱を発症した初産婦にペッサリー（サポートリング）を用いて整復を行った1例
小松麗華、辻江智子、中西　叶、山口稜人、高田玲佳、加藤　恵、石田享相、伊東　優、田中博子、高橋良子、池田佳代、高橋佳世子、吉田　晋
第59回日本周産期・新生児学術集会
愛知県　名古屋市、名古屋国際会議場　　令和5年7月9日－11日

■子宮頸部円錐切除後の瘢痕のため分娩時に子宮頸管裂傷を発症した中期中絶の1例
高田玲佳、加藤　恵、小松麗華、中西　叶、山口稜人、石田享相、伊東　優、田中博子、高橋良子、池田佳代、高橋佳世子、吉田　晋、辻江智子
第59回日本周産期・新生児学術集会
愛知県　名古屋市、名古屋国際会議場　　令和5年7月9日－11日

■悪性卵巣腫瘍との鑑別が困難であり腹腔鏡下手術により診断しえた高齢者の卵巣富細胞性線維腫の一例
伊東　優、中西　叶、山口稜人、小松麗華、高田玲佳、加藤　恵、石田享相、田中博子、高橋良子、池田佳代、吉田　晋、脇本昭憲、辻江智子
第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会
滋賀県　大津市、びわ湖大津プリンスホテル　　令和5年9月14日－16日

■卵巣成熟奇形腫に対する腹腔鏡手術において内容物回収に胆石鋭匙が有用であった一例
田中博子、小松麗華、高田玲佳、石井裕友、大槻摩弥、加藤　恵、伊東　優、池田佳代、吉田　晋、脇本昭憲、辻江智子
第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会
滋賀県　大津市、びわ湖大津プリンスホテル　　令和5年9月14日－16日

■腹痛と血尿を主訴とし子宮頸癌が疑われた陰唇癒着症の一例
伊東　優、加藤　恵 、石田享相、高橋良子、池田佳代、辻江智子
第38回日本女性医学学会　　徳島県　徳島市、あわぎんホール　　令和5年12月2日－3日

■閉経後出血を契機に発見された高エストロゲン血症を伴う肝腫瘍の一例
石田享相、加藤　恵、伊東　優、高橋良子、池田佳代、辻江智子
第38回日本女性医学学会　　徳島県　徳島市、あわぎんホール　　令和5年12月2日－3日

研究会・集談会発表

■妊娠29週で胆石性胆嚢炎を発症し腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した双胎の一例
小松麗華、吉田　晋、高田玲佳、石井裕友、大槻摩弥、加藤　恵、伊東　優、田中博子、高橋良子、池田佳代、高橋佳世子、辻江智子、脇本昭憲
第52回　大阪大学産婦人科オープンクリニカルカンファレンス
大阪市、ハートンホテル北梅田　　令和5年11月11日

■深部子宮内膜症合併例における腹腔鏡下子宮全摘術

伊東　優

第13回 箕面市・豊中市腹腔鏡下手術懇話会

豊中市、千里ライフサイエンスセンター　　令和6年3月7日

講習・講演

■婦人科がんの薬物療法

辻江智子

令和5年度　第3回豊中市薬剤師会6月研修会

Web開催　　令和5年6月16日

20. 眼科

＜現　況＞

現在の眼科医師は、岡田正喜部長・的場あゆみ医師の2名である。令和5年は、コロナ禍が収束したので白内障手術件数を増やすことができた。令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）に中央手術室で施行した眼科総手術件数は428眼である。そのうち白内障手術が428眼と中心である。

令和5年度は白内障手術装置を更新することができた。最新のセンチュリオンシステムを導入し手術中の安全性が飛躍的に高まった。

病院の性質上、当院では80歳以上の高齢者・脳梗塞等の全身合併症を有する方々・緑内障等の眼合併症を有する方々・既に進行して混濁が成熟した方々が手術の対象となる。そのため全例が進行した手術難度の高い白内障症例であったが手術合併症は無かった。

視能訓練士は、宮本技師・鶴留技師の常勤2名である。視能訓練士の仕事内容は視力検査に始まり眼圧検査・眼底写真検査・蛍光眼底検査・断層撮影検査・視野検査・眼軸長検査・斜視検査など多岐にわたる。常勤2名体制となり、それらの多彩な検査がスムーズに行えるようになった。それに伴い外来診療の待ち時間は著明に短縮された。

また、当院にはNICUが併設されているので、未熟児の眼科管理も眼科医の重要な仕事の一つである。毎週1回NICU回診を行い、重症例には全身麻酔下に眼底レーザー治療を行なっている。

令和5年度中央手術件数

白内障手術	428眼
合　計	428眼

＜今後の課題＞

近隣開業医の先生方と連携しながら積極的に紹介・逆紹介を行う。また大阪大学と協力して地域の中核病院としての役割を果たすべく努力していく。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

眼科カンファレンス……週1回

司会・座長・その他

■座長：岡田正喜
「加齢黄斑変性の病態と治療アップデート」
演者：大津日赤病院　大音壮太郎
豊中市眼科医会学術研究会　豊中市、千里阪急ホテル　令和5年5月13日

■座長：岡田正喜
「フックス角膜ジストロフィ患者に対する診療の最新トピックス」
演者：大阪大学眼科　大家義則
豊中市眼科医会学術研究会　豊中市、千里阪急ホテル　令和6年1月13日

■座長：岡田正喜
「糖尿病網膜症診療ガイドラインを踏まえて」
演者：大阪大学眼科　西田健太郎
豊中市内科・眼科糖尿病連携フォーラム
豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和6年3月2日

21. 耳鼻いんこう科

＜現　況＞

令和5年度は、三谷健二部長、鎌倉　綾医長、山田弦太専攻医、藤澤　望専攻医の4人体制で診療を開始した。金曜日は手術日のため、大阪大学医学部附属病院耳鼻咽喉科から外来応援医師の派遣を受けている。紹介を受けた患者で病状が安定し保存的治療の適応となった場合は、積極的に再度紹介元に逆紹介している。頭頸部癌の治療は大阪大学医学部附属病院と緊密な連携を取りながら協力して行っている。難治性の幼児の滲出性中耳炎に対しては、日帰り全身麻酔手術を行い患児家族の負担の軽減に努めている。嚥下障害に対しては嚥下チームのメンバーとなり、嚥下検査の上、外科治療を行っている。地域医療機関との連携では、登録医の識名　崇医師が開放病棟を利用した鼻副鼻腔手術を行っている。

令和5年度手術件数

全体　480件（内、全麻396件）

■疾患部位別手術件数

耳	76件	喉頭気管	25件
鼻	101件	頚部	95件
口腔咽頭	183件		

■主な手術

鼓膜換気tube留置術	80件	（142耳）
鼓膜閉鎖術	6件	
先天性耳瘻孔摘出術	7件	
鼻中隔矯正術	47件	
内視鏡的副鼻腔手術	68件	（102側）
鼻副鼻腔腫瘍摘出術	6件	
口蓋扁桃摘出術	137件	
口腔腫瘍摘出術	1件	
ラリンゴマイクロサージェリー	9件	
気管切開術	6件	
喉頭気管分離術	2件	
耳下腺腫瘍摘出術	18件	
顎下腺腫瘍摘出術	3件	
甲状腺腫瘍摘出術	10件	
深頚部膿瘍切開術	1件	
正中頚嚢胞摘出術	6件	
副甲状腺腫瘍摘出術	1件	
頸部リンパ節生検	42件	
顎下腺摘出術（唾石症）	1件	
側頚のう胞摘出術	3件	
頚部郭清術	3件	

＜今後の課題＞

予約患者が多く、新規紹介患者の外来診察時の待ち時間も長くなっている傾向がある。逆紹介を推進し待ち時間の短縮に努める。紹介状をもたない方には病診連携の理念を説明し近隣の耳鼻科を受診していただき、当科が急性期疾患の治療に専念できるようにする。またタスクシフトを進め、外来診療の効率化を図っていく。

5月に新型コロナウイルス感染症が、5類感染症となり、手術件数、新入院患者数ともに回復傾向にある。

それでもコロナ禍以前の状態にはまだ回復していない。近隣の医師との連携を強化し診療実績の回復に努めたい。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

耳鼻いんこう科症例カンファレンス……週1回　　放射線治療症例カンファレンス……週1回

学会発表

■動眼神経麻痺を来たした 蝶形骨洞のう胞の1例
　山田弦太、鎌倉　綾、藤澤　望、三谷健二
　第364回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会大阪地方部会　　大阪市、御堂会館　　令和5年6月10日

■頸部に発症したSolitary fibrous tumorの1例
　藤澤　望、鎌倉　綾、三谷健二、山田弦太
　第365回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会大阪地方部会　　大阪市、御堂会館　　令和5年10月7日

■バック療法が奏功した深頚部膿瘍の1例
　山田弦太、鎌倉　綾、藤澤　望、前田大介、東本究仁、三谷健二
　第366回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会大阪地方部会
　大阪市、大阪大学中之島センター　　令和6年2月3日

講習・講演

■コロナ禍での耳鼻咽喉科診療について　渦中・現在
　三谷健二
　令和5年度豊中市耳鼻咽喉科医会総会・学術講演会
　豊中市、ホテルアイボリー　　令和6年2月3日

司会・座長・その他

■座長：三谷健二
　慢性副鼻腔炎の病態と治療／めまい診療の第一歩
　演者：JCHO大阪病院　前田陽平、大阪大学　真貝佳代子
　第56回大阪めまい研究会　　大阪市、新阪急ホテル　　令和5年4月22日

22. リハビリテーション科

＜現　況＞

当院では外科系、内科系ともに積極的に手術や急性期治療を行っており、その患者の機能回復のためのリハビリテーションが当科の業務である。したがって、対象の多くが入院患者で常時約100名の機能訓練を行っている。令和5年度の入院患者新規リハビリテーション処方数3,535件である。そのなかで整形外科疾患は575件で、内訳は慢性疾患が358件、四肢外傷が201件、脊椎外傷が16件であった。また脳血管障害が376件、脳外科的疾患が262件、神経内科的疾患が104件、廃用症候群などの内科疾患が1,901件であった。令和3年3月より質の高いがん医療の提供のためにがんリハビリテーションを開始し、令和5年度は183件のがん疾患にリハビリテーションを行った。

3階北リハビリテーション病棟は50床あり、可能な限り在宅復帰をめざして、家屋の改造、器具の準備、各種福祉サービスの手配など退院後に円滑に在宅生活に移行できるように多角的視点から環境準備を行ってきた。新型コロナウイルス感染症に対応するため令和2年3月から3階北リハビリテーション病棟が閉鎖となり、これまでリハビリテーション病棟に転棟となっていた患者に対しては、看護師、療法士、ソーシャルワーカーが早期に介入し、早期退院、転院をすすめて対応を行った。新型コロナウイルス感染症入院患者に対するリハビリテーションについても廃用予防を中心に令和2年4月より取り組んでおり、令和5年度は89件の新型コロナウイルス感染症入院患者にリハビリテーションを行った。

近年、外科手術や内科疾患治療中に生じた廃用症候群の新規処方が増加しており、そのような患者にとって早期退院・QOL向上の為にはリハビリテーションは欠かせないものなので、当院が取り組んでいる在院日数短縮における当科の役割は重要である。

令和5年度入院患者新規処方数

	処方数
整形外科慢性疾患	358
整形外科四肢外傷	201
整形外科脊椎外傷	16
脳血管障害	376
神経内科的疾患	104
脳外科的疾患	262
廃用等内科疾患	1,901
小児	86
がん疾患	183
心臓疾患	48
合計	3,535

＜今後の課題＞

近年ますます廃用症候群の症例が増加してきており、そのような症例に対しては可及的早期にリハビリテーションを開始し、廃用の進行を止めるとともに早期の退院をめざす必要がある。

また当院は地域がん診療連携拠点病院であり、高齢化社会が進む中でがん患者数も年々増加傾向にあり、質の高いがん医療の提供のためにリハビリテーションの充実に取り組んでいく必要がある。

新型コロナウイルス感染症入院患者に対するリハビリテーションについても取り組んでいるが、リハビリテーションの適応、感染対策を含めた実施方法などをup dateしていく必要がある。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

がんリハカンファレンス……週1回　　手の外科カンファレンス……月1回
嚥下リハカンファレンス……週1回

学会発表

■Minima stemの短期成績
　山本健吾、吉田礼徳、栗山幸治
　第96回日本整形外科学会学術総会
　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和5年5月11日－14日

司会・座長・その他

■座長：山本健吾
　「CT検査が有用と考えられた足根骨骨折-整形外科領域におけるCT検査の適応-」
　演者：しみず整形外科　清水広太
　第35回待兼山整形外科病診カンファレンス　　豊中市、市立豊中病院　　令和6年1月20日

23. 放射線診断科・放射線治療科

＜現　況＞

放射線診断科は中田早紀部長、塚部明大医長、永井啓介医員、阪上海央医員、平吹度夫嘱託医師と併せて専門医5名（常勤4名、嘱託1名）、および専攻医1名（西垣大毅）の計6名で画像診断、IVRを中心に診療を行った。

画像診断はCT2台（64列マルチスライス）、MRI2台（1.5テスラ、9月から1.5T→3T）がフル稼働し、複数の当日緊急検査にも対応。COVID-19感染症の影響もほとんどなくなり、前年度より全体件数の増加がみられたが、MRIが9月に1.5Tから3Tへと機器更新を行った影響で、MRIの年間総件数は減少した。読影業務は当院専門医で対応できない部分は応援医師に協力をお願いした。IVRは例年どおり多岐にわたる症例、手技に対応した。血管系（緊急止血術、HCCに対する肝動脈塞栓術、BRTO/PTOなど）、非血管系（PTGBD/PTBD，胆管ステント留置、生検、ドレナージなど）、その他（PICC/CVなど）。総件数増加がみられた。

放射線治療科は足立加那医長が常勤医として診療にあたった。午前中は大学からの応援も得て、二人体制で外来診療を行った。外照射の他、SRT（定位放射線治療）や緩和照射なども積極的に行っている。

読影件数	
CT	31,919
MRI	5,689
核医学	615
消化管造影	6

IVR件数	
総検査数	769
件数（人）	435

放射線治療		
総治療数	367	
定位放射線照射	17	（脳5、体幹部12）

＜今後の課題＞

放射線診断科：年々増加している画像診断の件数（当日緊急も増加）、1件あたりの撮像範囲の拡大傾向、およびthin sliceでの多断面像評価や機器進歩に伴う検査内容の複雑化等の影響で負担増加傾向が続いており、画像管理加算2の維持のためには、それに比例して専門医の確保が必要と考える。また、救急科の患者数増加などの影響もあり、IVRの件数も増加傾向見られる。いずれの検査も流れの効率アップと安全性の確保に向け、医師、看護師、技師、受付の各部門での引き続き業務の見直し、タスクシフト・タスクシェアを進めていく必要があると考える。

画像診断報告書の管理体制も既読率向上に努め、見落としをゼロにするシステム確立が望まれるが、人的システムだけでなく、ソフト面でのサポートも今後の課題である。

放射線治療科：積極的に行っている定位放射線治療や緩和照射を引き続き継続し、症例数増加に努める。現在、当院での患者増加がみられている前立腺癌など、当院でIMRT（強度変調放射線治療）ができないため、他院へほとんど紹介となっているが、将来的にはその治療拡大をめざしたいと考えている。ただし、現状の診療報酬の条件（専門医2名常勤）や放射線治療機器では難しく、将来の診療報酬改定の時に条件緩和された場合に対応できるよう、今後の治療機器更新時にあわせて、その体制を整えていきたいと考える。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

肝胆膵カンファレンス……週1回

耳鼻いんこう科放射線科カンファレンス……週1回（症例のあるとき）

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■緩和ケア研修会(PEACE)　◎

療養場所の選択と地域連携（肺がん）

二宮万里恵、佐々原友子、和田民樹、柏木雄次郎、滝本佳予、足立加那、石田享相、松下　慎

豊中市、市立豊中病院　　参加者：約24名　　令和5年12月17日

著書

■骨軟部病変から予測する原発巣

塚部明大

画像診断 Vol.43 No.13 p1278-93　秀潤社　　令和5年11月

学会発表

■両側卵巣、卵管、子宮頸部に異なる病変が見られ術前診断に難渋した1例

塚部明大、豊田聡史、阪上海央、永井啓介、中田早紀、辻江智子、足立史朗

第36回日本腹部放射線学会

宮城県　仙台市、仙台国際センター　　令和5年6月9日－10日

■乳房インプラント破損後シリコン遺残が片側性に見られた事により軟部腫瘍を疑われた1例

塚部明大、西垣大毅、阪上海央、永井啓介、赤木謙三、中田早紀

第59回日本医学放射線学会秋季臨床大会

徳島県　徳島市、ハイブリッド開催（あわぎんホール：徳島県郷土文化会館）　　令和5年9月15日－17日

研究会・集談会発表

■症例検討 S6-3 出題

西垣大毅

第43回神経放射線ワークショップ

鹿児島県　鹿児島市、城山ホテル鹿児島　　令和5年7月20日－22日

■症例検討S1- 1　回答

塚部明大

第43回神経放射線ワークショップ

鹿児島県　鹿児島市、城山ホテル鹿児島　　令和5年7月20日－22日

講習・講演

■レクチャー 前回症例の振り返り

塚部明大

第350回 関西NR勉強会　　Web開催　　令和5年10月18日

■シンポジウム10：脳血管障害：脳内出血のUpdate

塚部明大

第43回日本画像医学会

東京都　千代田区、ステーションコンファレンス東京　　令和6年2月23日－24日

司会・座長・その他

■座長：塚部明大

sessionⅡ 中枢神経・頭頚部・胸部

演者：大阪総合医療センター　Maciej Pas、京都大学医学部附属病院　石川　翔、
大阪医科薬科大学病院　山口亜沙美、奈良医科大学附属病院　中西祥子、
尼崎総合医療センター　栗山香織、神戸大学医学部附属病院　戎　直哉、
京都府立医科大学附属病院　弓場健太郎、淡路医療センター　小野有美

第334回関西地方会（第406回レントゲンアーベント）

大阪市、ホテルエルセラーン大阪　　令和5年6月24日

24.　病理診断科

＜現　況＞

　常勤2名と非常勤1名で運営しており、マンパワー的にはかなり厳しい状況にある。事故防止の観点からも増員が喫緊の課題である。

＜今後の課題＞

　常勤病理の増員が必要である。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

乳腺外科・病理カンファレンス……週1回
消化器内視鏡・病理カンファレンス…… 隔週
泌尿器科・病理カンファレンス…… 隔週
外科・病理カンファレンス……週1回

学会発表

■芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍の 5 例
　田村裕美、土井玲子、足立史朗
　第113回日本病理学会総会
　愛知県　名古屋市、名古屋国際会議場　　令和6年3月28日－30日

25. 救急科

＜現　況＞

救急科では令和5年4月より小林正直特任顧問が赴任され、平日日中は救急専門医が2名で診療する体制が整えられた。上級医が研修医（1年次・2年次）を指導しながら診療を行う体制が整備されたことにより、救急車の応需件数は更に増加した。小林顧問は蘇生講習の専門家であり、蘇生講習チームの一員として積極的に活動して頂く事によってBLSやICLSといった院内蘇生講習のレベルアップにつながったものと思われる。

また、令和5年5月から病態不明患者、専門診療科不明患者、経過観察目的等の短期入院加療を目的とした救急科病床5床の運用を開始した。これにより救急車の応需が行いやすくなり、救急車受入れ件数の増加、救急外来からの入院数増加につながったものと思われる。病床開設当初から年度末まで212人の入院患者診療を行った。

統計上令和5年度は、救急外来患者数は年間20,239人（前年度19,454人）、救急車受入れ数が7,850件（前年度6,685人）、救急からの入院数が4,994人（前年度4,171人）といずれも前年度に比べて増加し、コロナ禍以前と比べても救急車応需件数は過去最高となった。

＜今後の課題＞

地域の高齢化に伴い、当院への救急診療需要は増加の一途をたどっている、現在の専門医2名では十分とはいえず、今後地域のニーズに応えるには以下の課題に対し継続した取組みを行っていく必要がある。

1）救急専門医、非常勤応援医師の確保
2）一般救急応需率、応需件数の増加
3）救急外来からの入院件数の維持
4）働き方改革への対応
5）若手医師や医学生、コメディカルの指導体制の充実
6）消防局救急救命士の病院常駐（救急ワークステーション構想）
7）夜間休日の診療体制整備
8）蘇生講習の質の向上

講習・講演

■「救急蘇生にまつわるお話」～蘇生ガイドライン・救急蘇生法の指針を中心に～
小林正直
令和5年度市立豊中病院登録医総会　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和5年4月22日

■第52回ACLS大阪（大阪府医師会）二次救命処置講習会（ICLSコース）
小林正直
市立豊中病院　豊中市、市立豊中病院　令和5年9月10日

■救急蘇生法up to date～蘇生ガイドライン・救急蘇生法の指針を中心に～
小林正直
令和5年度豊中消防プレホスピタルセミナー　豊中市、豊中消防本署　令和5年10月24日

■第53回ACLS大阪（大阪府医師会）二次救命処置講習会（ICLSコース）
小林正直
市立豊中病院　豊中市、市立豊中病院　令和5年11月12日

■第54回ACLS大阪（大阪府医師会）二次救命処置講習会（ICLSコース）
小林正直
市立豊中病院　豊中市、市立豊中病院　令和6年1月21日

■RRS(Rapid Response System)院内迅速対応システム
小林正直
京都府臨床工学技士会生涯学習セミナー　Web開催　令和6年2月15日

■RRS(Rapid Response System)～院内心停止の予防～
小林正直
市立豊中病院令和5年度第2回RRS研修　豊中市、市立豊中病院　令和6年2月22日

26. 歯科・歯科口腔外科

＜現　況＞

スタッフは、今井智章（部長）、藤田祐生（医長）、桝井敦史（医員）、笹部倫世（専攻医）の体制で診療した。金曜日外来は大阪大学歯学部附属病院口腔外科からの応援医師・西元彩乃が担当した。歯科衛生士は、常勤の増野有希子、嘱託職員として大藤宏美、那須野千代子、佐藤　優、臨時職員として高岡智子、小林愛子が勤務した。

初診患者数は歯科702人（前年度700人）、口腔外科2,537人（前年度2,372人）の合計3,239人（前年度3,072人）であり、口腔外科患者数が顕著に増加していた。手術室での手術件数は229件（前年度228件）、新入院患者数は286人（前年度263人）であり、新型コロナウイルス感染症の影響により減少していた各指標は、全般的に回復基調、あるいは上回った。

＜入院手術実績＞

口腔悪性腫瘍切除術（頸部郭清術を含む）	21件
良性腫瘍摘出/切除術	29件
顎顔面骨折（上顎、下顎、頬骨）観血的整復固定術	6件
顎骨骨髄炎等消炎手術	25件
唾液腺関連手術（唾石摘出、顎下腺摘出）	3件
顎関節手術（関節結節形成、顎関節強直症）	2件
骨隆起形成術	12件
口腔上顎洞瘻孔閉鎖	4件
嚢胞摘出術	78件
埋状歯抜歯術	108件
その他	

＜今後の課題＞

当科の入院患者のほとんどは手術患者であり、新規入院患者の増加には手術枠の拡大を要するとともに、入院治療適応の初診患者の増加が必要である。豊中市歯科医師会を中心とした地域歯科医院のみならず、医科からの紹介の増加につながる地域医療機関との緊密な連携を引き続き努めていく。

初診患者をより多く受入れるためには,「働き方改革」のなかで、より一層の外来診療の効率化が求められる。当院は地域医療支援病院であることより、病態がおおむね安定（あるいは改善傾向）し、かつ、口腔外科手術や処置を要しない（あるいは希望しない）患者については、再診回数を減らし、さらには地域医療機関への逆紹介、病診連携を進める。

現在、地域医療機関からの予約申込みから予約日までの期間は、初診日当日外来処置（埋伏智歯抜歯など）の場合（外来小手術枠）は、約1か月であるのに対して、それ以外では1～2週間程度である。小手術依頼に迅速に対応するために、外来では数回に分けて行う智歯抜歯処置を、短期入院下、静脈内鎮静法にて一度に対処することにより、早期治療を望む患者のニーズに応えることができるとともに、紹介患者の増加につながると考えられる。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

歯科口腔外科症例検討会……週1回

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■豊中市歯科医師会学術講演会
　薬剤関連顎骨壊死：最近の動向と自験例を振り返る
　　今井智章
　　豊中市、豊中市医療保健センター　　令和5年9月27日

学会発表

■生検後に退縮した上顎顎堤の結節性筋膜炎の1例
　藤田祐生、一山紗知、多月佳澄、笹部倫世、今井智章
　　第77回日本口腔科学会総会・学術集会
　　岡山県　岡山市、岡山コンベンションセンター　　令和5年5月11日－13日

■パノラマX線画像における下顎智歯－下歯槽管頬舌的位置関係の自動判定深層学習モデルの構築の試み
　桂　尚、武部克希、窪田星子、西元彩乃、今井智章、鵜澤成一
　　第77回日本口腔科学会総会・学術集会
　　岡山県　岡山市、岡山コンベンションセンター　　令和5年5月11日－13日

■下顎良性腫瘍に対しTruMatch Reconstructionシステムを用いて下顎再建を行なった4例
　森田祥弘、竹下彰範、今井智章、松永和秀、鵜澤成一
　　第47回日本頭頸部癌学会　　大阪市、大阪国際会議場　　令和5年6月

■口腔癌同種同所移植マウスモデルを用いた腫瘍微小環境における炎症性サイトカインの検討
　西元彩乃、森田祥弘、西村遵也、北平有紀子、高山　峻、今井智章、鵜澤成一
　　第47回日本頭頸部癌学会　　大阪市、大阪国際会議場　　令和5年6月

■パノラマX線画像における下顎智歯－下歯槽管頬舌的位置の予測：自動判定深層学習モデルの構築と評価
　西元彩乃、桂　尚、武部克希、窪田星子、今井智章、鵜澤成一
　　第54回日本口腔外科学会近畿支部学術集会　　Web開催　　令和5年7月1日

■深層学習によるパノラマX線画像の下顎智歯－下歯槽管位置関係の複合判定モデル
　武部克希、西元彩乃、桂　尚、窪田星子、今井智章、鵜澤成一
　　第68回日本口腔外科学会総会・学術大会　　大阪市、大阪国際会議場　　令和5年11月10日－12日

■COVID-19感染症に続発した無疱疹性三叉神経帯状疱疹の1例
　桝井 敦史、今井智章、藤田祐生
　　第35回日本口腔科学会近畿地方部会　　Web開催　　令和5年12月9日

■生検後に悪性と診断された後に退縮した上顎顎堤の結節性筋膜炎の1例
　藤田祐生、桝井敦史、今井智章
　　第42回日本口腔腫瘍学会学術集会
　　北海道　札幌市、札幌コンベンションセンター　　令和6年1月25日－26日

司会・座長・その他

■座長：今井智章
　　第35回日本口腔科学会近畿地方部会　　Web開催　　令和5年12月9日

27. 麻酔科

＜現　況＞

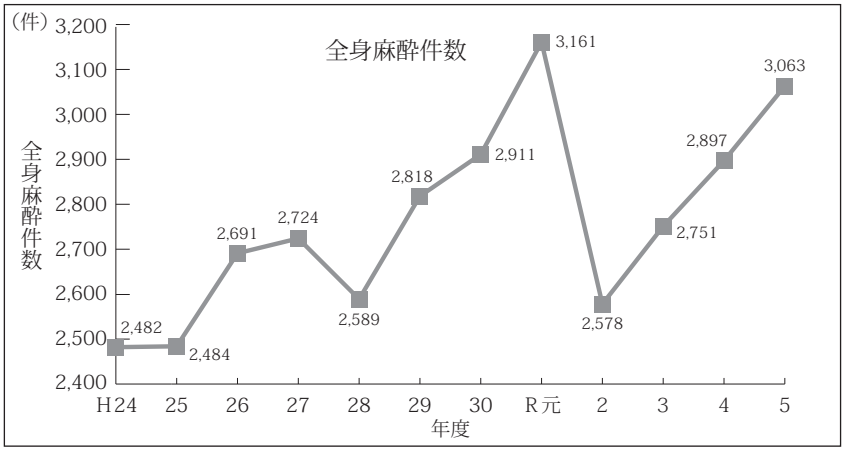
令和5年4月は人事異動がなく前年度と同様に常勤医8名と後期研修医1名の9名態勢での業務遂行となった。応援医師の確保も継続することにより、日常業務内容には大きな変化を生じることなく以下の業務を行った。

1. 手術室での全身麻酔を中心とした術中麻酔管理
2. 集中治療室での呼吸循環を中心とした全身管理
3. 術前診察外来

COVID-19感染症の流行により当院でも中等症・重症患者の受入れのため病棟閉鎖が継続されたが、第5類への移行により臨床業務への影響は少なくなった。引き続き重症患者の集中治療室受入れは行った。

手術に関しては年間5,569例と前年度から559例(11.2%)の増加となった。全手術件数中約55%の3,079例が麻酔科管理であり、その内3,063例が全身麻酔である。全身麻酔件数は前年度から166件(5.7%)の増加となった。過去12年間の全身麻酔症例数の変遷をグラフに示す。

麻酔科医の増減を如実に反映したグラフとなっているが、COVID-19感染症の影響は少なくなり、ほぼCOVID-19前の状況に戻っている。また最近の傾向として硬膜外麻酔の減少と各種神経ブロック併用の増加が顕著である。硬膜外麻酔併用は今年度175例で前年度より15例微増したが、各種神経ブロック併用(表参照)は1,262例と前年度の1,246例から16例増加した。全身麻酔症例中、外科が約40%を占めており各科の症例数は表に示すとおりである。



各種ブロック	令和5年度	令和4年度
腕神経叢ブロック	133	118
前鋸筋ー肋間筋膜面ブロック	16	59
腹横筋膜面ブロック	414	397
腹直筋鞘ブロック	144	217
傍臍神経ブロック	40	32
腸骨鼠径神経ブロック	65	67
腸骨筋膜下ブロック	158	141
PENGブロック	104	61
閉鎖神経ブロック	15	24
陰茎神経ブロック	2	1
大腿神経ブロック	3	44
内転筋管ブロック	84	37
坐骨神経ブロック	21	21
膝窩神経叢ブロック	63	27
合計	1,262	1,246

手術件数	令和5年度		令和4年度	
	麻酔科管理	全身麻酔	麻酔科管理	全身麻酔
外科	1,067	1,067	1,126	1,126
整形外科	631	631	558	558
脳神経外科	106	106	91	91
心臓血管外科	50	50	69	69
皮膚科	52	52	53	53
泌尿器科	296	295	296	294
産婦人科	278	264	271	259
眼科	0	0	0	0
耳鼻いんこう科	391	391	302	300
歯科	131	131	138	138
麻酔科	1	0	2	0
形成外科	67	67	0	0
内科	9	9	9	9
小児科	0	0	0	0
合計	3,079	3,063	2,915	2,897
月平均	257	255	243	241

集中治療室においてはICU・HCUの運営を継続しているが、今年度はCOVID-19感染症重症例を8例受入れた。ICU(8床)年間入室者数が922例と前年度945例より23例の減少、HCU(4床)年間入室者数が546例と前年度417例より129例の増加であった。ICUへのCOVID-19重症患者受入れが前年度より8例減少しためと考えられる。麻酔科管理症例はICU・HCUを合わせて702例で前年の735例より33例減少したが、手術後入室患者の割合は約83%で前年と同等であった。外科・心臓血管外科・脳神経外科患者と高齢・重度の合併症を有する術後患者が対象となる。また内科を中心として重症肺炎・膵炎・各種ショック患者も対象となる。各科の麻酔科管理症例数(ICU・HCU)は表に示すとおりである。

また術前診察は毎日午前中に診察している。

麻酔科管理 ICU・HCU入室症例数	令和5年度	令和4年度
外科	415	417
整形外科	52	58
脳神経外科	80	59
心臓血管外科	47	68
皮膚科	6	5
泌尿器科	25	22
産婦人科	19	38
耳鼻いんこう科	5	3
歯科	3	3
消化器内科	0	0
内科	42	59
神経内科	3	3
眼科	0	0
小児科	5	0
合計	702	735
月平均	58.5	61.3

＜今後の課題＞

全国的な麻酔科医不足の影響による常勤医の定員2減と後期研修医定員1減の状態改善が望まれる。常勤医と後期研修医の積極的な採用とホームページなどによる麻酔科医の公募を継続していく予定である。

新型コロナウイルス感染症の流行に対応して集中治療室で新型コロナウイルス感染症重症患者受入れを進めていく。

業務内容の見直しと効率化を図り、より安全で質の高い麻酔を提供できるようにしていきたい。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

麻酔科抄読会……週1回
麻酔科術前症例検討会……週5回
麻酔科術後症例検討会……週5回
集中治療症例検討会…… 週10回
集中治療死亡症例検討会……年2回

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■第 1 回 緩和ケア勉強会　◎
非がんの緩和ケア～心不全の観点から～
二宮万理恵　豊中市、市立豊中病院　参加者：約70名　令和5年7月20日

■臨床倫理講演会　◎
アドバンスケアプランニング、どうするべき？
二宮万理恵　豊中市、市立豊中病院　参加者：約50名　令和5年11月30日

■ピースプロジェクト緩和ケア研修会　◎
e-learningの復習
滝本佳予　豊中市、市立豊中病院　参加者：約30名　令和5年12月17日

■第2回 緩和ケア勉強会　◎
非がんの緩和ケアと急性期病院における意思決定支援
二宮万理恵　豊中市、市立豊中病院　参加者：約60名　令和6年2月15日

学会発表

■術後の呼吸抑制によって偶発的な硬膜下カテーテル留置を検知し得た2症例
滝本佳予、奥野勇輔
日本区域麻酔学会　第10回学術集会　大阪市、大阪国際会議場　令和5年4月14日－15日

■人工股関節置換術における鼠径上アプローチの腸骨筋膜下ブロックと股関節包周囲神経群ブロックの術後鎮痛効果についての後ろ向き研究
奥野勇輔、滝本佳予、仲井祐貴、桐山圭司、二宮万理恵、高田幸治
日本麻酔科学会第70回学術集会　兵庫県　神戸市、神戸ポートピアホテル　令和5年6月1日－3日

■灸治療後に methicillin-susceptible Staphylococcus aureus（MSSA）菌血症を伴う多発膿瘍を来した1例
奥野巴琉音、桐山圭司、小川達也、八木拓也、奥野勇輔、松永寛紀、滝本佳予、二宮万理恵、香河清和、高田幸治
日本集中治療医学会第7回関西支部学術集会
兵庫県　神戸市、神戸国際会議場　令和5年7月29日

■周術期に高血糖性意識障害を認めた服薬アドヒアランス不良糖尿病患者の一例
有島史紘、香河清和、小川達也、八木拓也、奥野勇輔、桐山圭司、滝本佳与、二宮万理恵、高田幸治
日本集中治療医学会第8回関西支部学術集会
兵庫県　神戸市、神戸国際会議場　令和5年7月29日

■全身麻酔下でのホルミウムレーザー前立腺核出術(HoLEP) において、生理食塩水の体内吸収により高クロル性アシドーシスを来し術後人工呼吸管理を行った一症例
深堀太翔、滝本佳予、奥野勇輔、桐山圭司、香河清和、高田幸治
日本麻酔科学会　第68回関西支部学術集会　大阪市、大阪国際会議場　令和5年9月2日

■開頭術中に原因不明の無脈性心室頻拍へ移行した1例
浜野彰太、八木拓也、奥野勇輔、滝本佳予、二宮万理恵、高田幸治
日本麻酔科学会　第68回関西支部学術集会　大阪市、大阪国際会議場　令和5年9月2日

■不適切な症状に対して長期高用量オピオイド投与中患者の全身麻酔中にオピオイド退薬症状を疑い術後に集中治療室での鎮静人工呼吸管理下での観察を要した一例
古賀千絢、二宮万理恵、小川達也、八木拓也、奥野勇輔、松永寛紀、桐山圭司、滝本佳予、香河清和、高田幸治
日本麻酔科学会　第68回関西支部学術集会　大阪市、大阪国際会議場　令和5年9月2日

■クロルヘキシジングルコン酸の消毒が原因と考えられたアナフィラキシーショックの1例
戎井　遼、奥野勇輔、小川達也、八木拓也、二宮万理恵、高田幸治
日本麻酔科学会　第68回関西支部学術集会
大阪市、大阪国際会議場　令和5年9月2日

■エイミーPCAの進化　そして術後疼痛管理はエイミーViewerで楽になる
高田幸治
第45回日本手術医学会総会
神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　令和5年11月25日

■血管内治療後に造影剤脳症による 一過性の不全片麻痺が生じた一例
小川達也、八木拓也、奥野勇輔、桐山圭司、二宮万理恵、香河清和、高田幸治
日本集中治療医学会第51回学術集会
北海道　札幌市、ロイトン札幌　令和6年3月14日－16日

講習・講演

■ハンズオンワークショップ実技10　アドバンストコース　頭頚部　インストラクター
滝本佳予
日本区域麻酔学会　第10回学術集会
大阪市、大阪国際会議場　令和5年4月14日－15日

■超音波ガイド下ブロック　ハンズオンセミナー　頸椎椎間関節・後枝内側枝ブロック　講義
滝本佳予
日本ペインクリニック学会　第4回関西支部学術集会
大阪市、大阪国際交流センター（大阪カンファレンスセンター）　令和5年10月14日

■超音波ガイド下ブロック　ハンズオンセミナー　頸椎椎間関節・後枝内側枝ブロック　インストラクター
滝本佳予
日本ペインクリニック学会　第4回関西支部学術集会
大阪市、大阪国際交流センター（大阪カンファレンスセンター）　令和5年10月14日

■腹部手術、乳房手術の周術期疼痛管理　ハンズオンセミナーインストラクター
滝本佳予
周術期疼痛管理のための超音波ガイド下末梢神経ブロックセミナー
大阪市、コニカミノルタ関西支社　令和5年11月25日

■ACP実践のための次の一歩
二宮万理恵
市立ひらかた病院　緩和ケア勉強会　枚方市、市立ひらかた病院　令和6年2月9日

司会・座長・その他

■座長：滝本佳予

「緩和ケアにおけるリハビリテーションについて」

演者：市立池田病院　浅野雅也、濱田亜紀

第26回五月山緩和ケア研究会　池田市、市立池田病院　令和5年5月25日

■座長：滝本佳予

「緩和照射が役にたつとき」

演者：市立池田病院　立川琴羽

第26回五月山緩和ケア研究会　池田市、市立池田病院　令和5年5月25日

28.　各種学会認定医師名簿

ＩＣＤ制度協議会	ICD：阿部欣也、藤田祐生、森村　治、桐山圭司、高橋弘毅、清水潤三
ＪＲＲＴＡ	腎代替療法専門指導士：竹治正展
ダヴィンチサージカルシステム認定資格(術者)	三宅　修、佐藤元孝、柳本喜智、鈴木陽三、鄭　則秀、池永雅一、清水潤三
ダヴィンチサージカルシステム認定資格(助手)	今村博司、川瀬朋乃、山下雅史
近畿外科学会	専門医：山下雅史
厚生労働省	死体解剖資格：田村裕美
	精神保健指定医：東　眞吾、森原剛史
	麻酔科標榜許可：香河清和、小川達也
	臨床研修指導医：田村裕美、松本健吾、岩橋博見、滝本佳予
	臨床研修指導医育成講習会：稲田慎也
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構	修練指導医：後藤隆純
	心臓血管外科専門医：後藤隆純
社会医学系専門医協会	指導医：竹治正展
	社会医学系専門医：竹治正展
大阪大学歯学部附属病院	歯科医師臨床研修指導歯科医：今井智章
日本ＩＶＲ学会	専門医：塚部明大
日本アレルギー学会	専門医：阿部欣也
日本オンコプラスティックサージャリー学会	乳房再建エキスパンダー／インプラント責任医師：前田大介
	乳房再建エキスパンダー／インプラント実施医師：東本究仁
日本がん・生殖医療学会	暫定がん・生殖医療ナビゲーター：石田享相
日本がん治療認定医機構	がん治療認定医：小杉　智、辻江智子、今村博司、三宅　修、西田　勉、足立加那、川瀬朋乃、佐藤元孝、森村　治、高橋良子、松本健吾、鄭　則秀、伊東　優、冨田尚裕、池永雅一、萩原清貴
	がん治療認定医（歯科口腔外科）：今井智章、藤田祐生、桝井敦史
	暫定教育医：今村博司、川瀬朋乃
日本ステントグラフト実施基準管理委員会	胸部ステントグラグト指導医　AFX ステントグラフトシステム：後藤隆純
	胸部ステントグラグト指導医　ENDURANT ステンドグラフトシステム：後藤隆純
	胸部ステントグラグト指導医　Gore Excluder Endoprosthesis：後藤隆純
	胸部ステントグラグト実施医　ENDURANT ステンドグラフトシステム：後藤隆純
	胸部ステントグラグト実施医　Gore Excluder Endoprosthesis：後藤隆純
	胸部ステントグラグト実施医　GORE TAG Thoracic Endprosthsis：後藤隆純
	胸部ステントグラグト実施医　VALIANT Captivia：後藤隆純
	腹部大動脈瘤ステントグラフト指導医：藤村博信
	胸部ステントグラグト実施医　AFX ステントグラフトシステム：後藤隆純
日本ストーマ・リハビリテーション学会	ストーマ認定士：鈴木陽三
日本ペインクリニック学会	専門医：滝本佳予
日本めまい平衡医学会	めまい相談医：三谷健二
日本リウマチ学会	専門医：山本健吾
日本リハビリテーション医学会	専門医：来　真希子
	認定臨床医：来　真希子
日本ロボット外科学会	Robo-Doc　国内B級：鈴木陽三
日本遺伝性腫瘍学会	遺伝性腫瘍指導医：冨田尚裕
	遺伝性腫瘍専門医：冨田尚裕、鈴木陽三

日本遺伝性腫瘍学会	家族性腫瘍カウンセラー：冨田尚裕
日本医学放射線学会	研修指導医：永井啓介
	指導医：中田早紀、足立加那、塚部明大、平吹度夫
	放射線治療専門医：足立加那
	放射線診断専門医：中田早紀、塚部明大、永井啓介、平吹度夫
日本医師会	認定産業医：小杉　智、阿部欣也、福井浩司、岡内幸義、竹治正展、田村裕美、桐山圭司、岩橋博見、鈴木陽三、来　真希子、早野絵梨、森原剛史、肥後智子、冨田尚裕、柏木雄次郎、松山辰男、土井玲子、杉原隆太
日本宇宙航空環境医学会	認定医：三谷健二
日本化学療法学会	抗菌化学療法認定医：阿部欣也、高橋弘毅
日本外科学会	指導医：岩澤　卓、今村博司、清水潤三、鈴木陽三、池永雅一、冨田尚裕
	専門医：赤木謙三、藤村博信、岩澤　卓、今村博司、川瀬朋乃、松永寛紀、清水潤三、鈴木陽三、山下雅史、後藤隆純、小林　晶、冨田尚裕、池永雅一、萩原清貴
日本外科感染症学会	教育医：清水潤三
	認定医：清水潤三
日本緩和医療学会	専門医：滝本佳予
	認定医：二宮万理恵
日本肝臓学会	指導医：福井浩司
	専門医：福井浩司、杉本　彩、中松　大、松本健吾
日本肝胆膵外科学会	高度技能指導医：清水潤三
日本眼科学会	専門医：岡田正喜
日本救急医学会	ＩＣＤ：高橋弘毅
	ICLS・BLSコースインストラクター：桝井敦史
	指導医：高橋弘毅
	専門医：桐山圭司、高橋弘毅
日本胸部外科学会	修練指導者：藤村博信
	心臓血管外科専門医：藤村博信
	認定医：岩澤　卓
日本区域麻酔学会	指導医：滝本佳予
日本形成外科学会	専門医：前田大介
	指導医：前田大介
	再建・マイクロサージャリー分野指導医：前田大介
	レーザー分野指導医：前田大介
日本血液学会	指導医：小杉　智
	専門医：小杉　智、茶山公祐、木田　亨
	認定医：小澤孝幸
日本血管外科学会	血管内治療医：後藤隆純
	心臓血管外科専門医：藤村博信
	認定指導者：藤村博信
日本血栓止血学会	認定医：小杉　智、田所誠司
日本呼吸器外科学会	専門医：岩澤　卓
日本呼吸器学会	指導医：阿部欣也、森村　治
	専門医：阿部欣也、森村　治
	認定専門医：中坪彩恵子

日本呼吸器内視鏡学会	気管支鏡専門医：阿部欣也、岩澤　卓、森村　治
	指導医：阿部欣也
日本口腔科学会	指導医：今井智章、藤田祐生、桝井敦史
	認定医：今井智章、藤田祐生
日本口腔外科学会	指導医：今井智章、藤田祐生
	専門医：今井智章、藤田祐生、桝井敦史
日本抗加齢医学会	専門医：三宅　修
日本高血圧学会	指導医：中川　理
	専門医：中川　理
日本産科婦人科遺伝診療学会	認定医（周産期）：辻江智子
日本産婦人科学会	指導医：辻江智子、吉田　晋、高橋良子、伊東　優、田中博子、脇本昭憲
	専門医：辻江智子、吉田　晋、高橋良子、伊東　優、田中博子、脇本昭憲
日本産婦人科内視鏡学会	技術認定医：脇本昭憲
	認定医：辻江智子
日本耳鼻咽喉科学会	専門医：三谷健二、鎌倉　綾
	専門研修指導医：三谷健二、鎌倉　綾
	補聴器相談医：三谷健二
日本手外科学会	指導医：栗山幸治
	専門医：栗山幸治
日本周産期・新生児医学会	暫定指導医：徳永康行
	新生児専門医：徳永康行
	新生児蘇生法インストラクター：吉川真紀子、徳永康行
	代表指導医：辻江智子
日本集中治療医学会	専門医：高橋弘毅
日本循環器学会	専門医：中川　理、熊田全裕、岡﨑由典、林　隆治、肥後智子、杉原隆太
日本女性医学会	女性ヘルスケア指導医：辻江智子
	女性ヘルスケア専門医：辻江智子
日本小児科学会	指導医：吉川真紀子、徳永康行、茶山公祐
	小児科専門医：吉川真紀子、徳永康行、茶山公祐、川西邦洋、安田紀恵
	認定医：髙橋邦彦
	認定専門医：西本静香
日本小児循環器学会	専門医：髙橋邦彦
日本消化管学会	胃腸科指導医：西田　勉、冨田尚裕、池永雅一
	胃腸科専門医：西田　勉、中松　大、冨田尚裕、池永雅一
日本消化器外科学会	指導医：清水潤三、鈴木陽三、松下克則、冨田尚裕、池永雅一、萩原清貴
	消化器がん外科治療認定医：柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、冨田尚裕、萩原清貴
	専門医：清水潤三、鈴木陽三、山下雅史、冨田尚裕、池永雅一、萩原清貴
	認定医：赤木謙三、今村博司
日本消化器内視鏡学会	指導医：山本政司、西田　勉、池永雅一、冨田尚裕
	専門医：山本政司、西田　勉、杉本　彩、中松　大、松本健吾、池永雅一、冨田尚裕
日本消化器病学会	指導医：福井浩司、今村博司、西田　勉、中松　大、池永雅一、冨田尚裕
	専門医：福井浩司、山本政司、今村博司、西田　勉、杉本　彩、中松　大、大杉直人、松本健吾、池永雅一、冨田尚裕、萩原清貴
日本職業・災害医学会	指導医：柏木雄次郎

日本食道学会	食道科認定医：柳本喜智
日本心血管インターベンション治療学会	専門医：熊田全裕
	認定医：飯田卓馬、福島直樹、杉原隆太
日本心臓リハビリテーション学会	心臓リハビリテーション指導士：中川　理、熊田全裕
日本心臓血管外科学会	心臓血管外科専門医：藤村博信
	認定指導者：藤村博信
日本神経学会	指導医：横江　勝、来　真希子、仲谷利栄
	専門医：横江　勝、来　真希子、村田　尚、早野絵梨、仲谷利栄
日本神経内視鏡学会	技術認定医：西尾雅実、森　康輔
日本神経免疫学会	神経免疫診療認定医：村田　尚
日本人工関節学会	認定医：吉田礼徳
日本人類遺伝学会/日本遺伝カウンセリング学会	臨床遺伝指導医：冨田尚裕
	臨床遺伝専門医：冨田尚裕
日本腎臓学会	指導医：竹治正展、楠　康生
	専門医：竹治正展、楠　康生
日本整形外科学会	脊椎脊髄病医：釜谷崇志
	専門医：吉田礼徳、水野直子、山本健吾、栗山幸治、釜谷崇志 岡田倫太郎、吉川秀樹
	認定スポーツ医：栗山幸治
	認定リウマチ医：栗山幸治
	認定運動器リハビリテーション医：栗山幸治
日本精神神経学会	指導医：森原剛史、柏木雄次郎
	精神科専門医制度指導医：東　眞吾
	専門医：東　眞吾、森原剛史、柏木雄次郎
日本静脈学会	下肢静脈瘤血管内治療　指導医：後藤隆純
	下肢静脈瘤血管内治療　実施医：藤村博信、後藤隆純
	指導医：藤村博信
日本静脈経腸栄養学会	認定医：岩澤　卓
日本脊髄外科学会	認定医：森　康輔
日本脊椎脊髄病学会	指導医：岡田倫太郎
	脊椎脊髄外科専門医：森　康輔
日本創傷外科学会	専門医：前田大介
日本造血・免疫細胞療法学会	認定医：小澤孝幸
日本胎児心臓病学会	胎児心エコー認証医：髙橋邦彦
日本大腸肛門病学会	指導医：池永雅一、冨田尚裕、鈴木陽三
	専門医：鈴木陽三、池永雅一、冨田尚裕
日本中性子捕捉療法学会	認定医：藤田祐生
日本超音波医学会	指導医：土井玲子
	超音波専門医：土井玲子
日本定位・機脳神経外科学会	技術認定医：細見晃一
日本糖尿病学会	研修指導医：松山辰男
	指導医：岡内幸義、岩橋博見
	専門医：岡内幸義、岩橋博見、稲田慎也、松山辰男
日本透析医学会	指導医：竹治正展、楠　康生
	専門医：竹治正展、楠　康生

日本内科学会	指導医：中川　理、小杉　智、福井浩司、岡内幸義、竹治正展、西田　勉 岩橋博見、横江　勝、稲田慎也
	総合内科専門医：小杉　智、阿部欣也、福井浩司、岡内幸義、山本政司 竹治正展、熊田全裕、西田　勉、楠　康生、杉浦由理 森村　治、中松　大、木田　亨、松本健吾、岩橋博見 横江　勝、稲田慎也、来　真希子、小澤孝幸、村田　尚 早野絵梨、林　隆治、仲谷利栄、杉原隆太
	認定医：楠　康生
	認定内科医：中川　理、小杉　智、阿部欣也、福井浩司、岡内幸義、山本政司、 竹治正展、西田　勉、飯田卓馬、杉本　彩、福島直樹、杉浦由理、 岡﨑由典、森村　治、中松　大、大杉直人、木田　亨、松本健吾、 岩橋博見、横江　勝、中坪彩恵子、高橋弘毅、稲田慎也、 藤井祥史、来　真希子、村田　尚、早野絵梨、肥後智子、 松山辰男、土井玲子、仲谷利栄、宮岡　愛
日本内視鏡外科学会	ダヴィンチ手術プロクター(直腸)：鈴木陽三、池永雅一
	技術認定医：辻江智子
	技術認定医（胃）：柳本喜智
	技術認定医（消化器・一般外科）：清水潤三
	技術認定医（大腸）：鈴木陽三、池永雅一
	技術認定医（泌尿器腹腔鏡）：三宅　修、佐藤元孝、鄭　則秀
日本内分泌学会	指導医：岡内幸義、岩橋博見
	専門医：岡内幸義、岩橋博見、稲田慎也、安田紀恵
日本乳癌学会	指導医：赤木謙三
	専門医：赤木謙三
	認定医：赤木謙三
日本認知症学会	指導医：森原剛史、仲谷利栄
	専門医：森原剛史、仲谷利栄
日本熱傷学会	専門医：高橋弘毅
日本脳神経外科学会	指導医：西尾雅実、後藤　哲、森　康輔、細見晃一
	専門医：西尾雅実、後藤　哲、森　康輔、細見晃一
日本脳神経血管内治療学会	指導医：西尾雅実
	専門医：西尾雅実、杉浦由理、後藤　哲、森　康輔
日本脳卒中の外科学会	技術指導医：西尾雅実
	技術認定医：森　康輔
日本脳卒中学会	指導医：西尾雅実、杉浦由理、後藤　哲、森　康輔、来　真希子、細見晃一
	専門医：西尾雅実、杉浦由理、後藤　哲、森　康輔、来　真希子、細見晃一
日本泌尿器科学会	指導医：三宅　修、佐藤元孝、鄭　則秀、松下　慎
	専門医：三宅　修、佐藤元孝、鄭　則秀、松下　慎
日本泌尿器内視鏡学会	ダビンチ手術プロクター（前立腺・膀胱・腎）：三宅　修、佐藤元孝
	腹腔鏡技術認定医：三宅　修、佐藤元孝、鄭　則秀、松下　慎
日本皮膚科学会	専門医：横見明典
日本肥満学会	指導医：岡内幸義
	専門医：岡内幸義
日本病理学会	指導医：足立史朗、土井玲子
	専門医：足立史朗、田村裕美、土井玲子

日本病理学会	専門研修指導医：田村裕美
	分子病理専門医：田村裕美
日本腹部救急医学会	腹部救急教育医：池永雅一
	腹部救急認定医：池永雅一、鈴木陽三
日本腹膜透析医学会	認定医：楠　康生
日本放射線腫瘍学会	放射線治療専門医：足立加那
日本麻酔科学会	指導医：高田幸治、二宮万理恵、香河清和、桐山圭司
	専門医：高田幸治、二宮万理恵、香河清和、桐山圭司、八木拓也、奥野勇輔
	認定医：香河清和、奥野勇輔
	標榜医：川瀬朋乃、松永寛紀
日本脈管学会	専門医：藤村博信、飯田卓馬
日本輸血・細胞治療学会	細胞治療認定管理師：田所誠司、小澤孝幸
	認定医：田所誠司
日本臨床栄養代謝学会	認定医：岡内幸義
日本臨床化学会	認定臨床化学者：松山辰男
日本臨床細胞学会	専門医：田村裕美
	専門研修指導医：田村裕美
日本臨床腫瘍学会	がん薬物療法指導医：西田　勉、川瀬朋乃
	がん薬物療法専門医：西田　勉、川瀬朋乃、杉本　彩
日本臨床神経生理学会 術中脳脊髄モニタリング	認定医：細見晃一
日本老年医学会	指導医：肥後智子
	専門医：肥後智子
母体保護法指定医	辻江智子、吉田　晋、高橋良子、田中博子、脇本昭憲、髙橋佳世子

29.　各種認定及び指定

各種学会認定（専門）医制等による研修施設

日本外科学会専門医制度修練施設証
日本整形外科学会専門医研修施設認定証
日本眼科学会専門医制度研修施設認定証
日本麻酔科学会認定病院
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本病理学会研修認定施設B認定証
日本皮膚科学会認定専門医研修施設証
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設指定証
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設認定証
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本精神神経学会精神科専門医制度認定研修施設認定証
小児科専門医研修支援施設認定証
内科領域専門研修プログラム認定証
日本消化器内視鏡学会認定指導施設証
日本消化器外科学会専門医修練施設証
日本肝臓学会認定施設
日本血液学会認定血液研修施設認定証
日本神経学会専門医制度教育施設認定証
日本糖尿病学会認定教育施設証
日本口腔外科学会認定研修施設認定証
三学会構成心臓血管外科専門医関連施設認定書
母体保護法指定医研修機関認定証
日本栄養療法推進協議会ＮＳＴ稼動施設認定証
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関認定証
日本乳癌学会認定医専門医制度認定施設認定証
日本腎臓学会研修施設認定証
日本手外科学会認定研修施設認定証
日本がん治療認定医機構認定研修施設認定証
日本呼吸器学会認定施設認定証
日本透析医学会専門医制度認定施設認定証
日本肥満学会認定肥満症専門病院認定証
日本臨床腫瘍学会認定研修施設認定証
日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼動施設認定証
日本呼吸器内視鏡学会認定証
日本高血圧学会専門医認定施設
日本肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設B認定証
日本ペインクリニック学会指定研修施設認定証
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術実施施設認定証
日本リハビリテーション医学会研修施設認定証
日本脈管学会研修関連施設認定証
日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科専門医プログラム基幹研修施設
日本臨床栄養代謝学会　栄養ｻﾎﾟｰﾄﾁｰﾑ専門療法士認定規定認定教育施設
日本内分泌学会認定教育施設認定証
浅大腿動脈ステントグラフト実施施設診査終了証
マンモグラフィ検診施設画像認定証
女性ヘルスケア専門医制度による認定研修施設
日本女性医学会専門医制度認定研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
日本胆道学会認定指導医制度　指導施設認定書
日本大腸肛門病学会認定施設
日本血液学会専門研修認定施設
生殖医療専門医制度研修連携施設
遺伝性腫瘍研修施設認定
がん診療連携病院連携研修病院認定
日本外科感染症学会　外科周術期感染管理教育施設
エキスパンダー実施施設
日本消化管学会　胃腸科指導施設証
日本口腔科学会認定医制度認定証
NIPTを実施する医療機関（連携施設）認定証
日本認知症学会　教育施設認定証
日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修事業研修施設認定証
特定非営利活動法人日本緩和医療学会認定研修施設　認定証
フォトサーベイ（婦人科系病変）認定証
栄養改善法第9条の2第3項の基づく指定通知書
日本胃癌学会認定施設A認定書
大阪府指令医看　第2208号　地域医療支援病院　承認
日本医療薬学会認定薬剤師制度　研修施設認定
日本消化器病学会専門医制度審議委員会　認定施設
卒後臨床研修評価機構認定病院

Ⅱ　中央診療局の現況と研究研修事項

〔中央診療局の現況〕

中央診療局長は西田　勉医師、中央診療局次長は横江　勝医師が務めている。中央診療局は、放射線部、臨床検査部、手術部、リハビリテーション部、集中治療部、人工透析部、内視鏡部、臨床工学部、栄養管理部の9部門から構成されている。各部門は医療専門職として活動し、質の高い医療技術を提供している。各部門とも、地域医療圏のそれぞれの専門職種における中心的・指導的役割を担っている。また、近年、組織横断的なチーム医療の重要性が強調されており、中央診療局の各部門も院内外の幅広い職種と連携し、チーム医療を推し進めている。中央診療局各部局は、院内の数多くの委員会のメンバーとして活動しているとともに、委員会の下部組織である医療チームの一員として、早期離床リハビリテーションチーム、感染対策チーム、医療安全管理者担当者会議、栄養サポートチーム、嚥下訓練チーム、医学雑誌編集委員会、総合通信システム定例会議、透析器機安全管理委員会などに参画している。

以下に、各9部門の「現況」、「課題」および「研究研修事項」等について記載する。

1. 放射線部

＜現　況＞

令和5年度は、診療放射線技師24名(正職員23名、臨時職員1名)で業務を行った。放射線部では一般・歯科・乳房撮影、救急室・病棟でのポータブル撮影、手術室撮影、CT、MRI、血管造影検査、TV透視検査、骨塩定量検査、RI、放射線治療の業務を行っている。

市民の期待に応えられるよう、業務改善し効率の良い検査体制を整えることに加え、放射線医療機器の更新も行っている。令和5年度はMRI装置更新と循環器用血管撮影装置の更新を行った。MRI装置については3テスラを導入、循環器用血管撮影装置については地域の急性期医療を担う病院としてニーズに沿えるよう汎用タイプの装置を導入した。

医療放射線の安全管理体制の確立については、線量管理システムによって記録された対象放射線医療機器の線量データを元にガイドラインとなるDRLs(診断参考レベル)との比較を行い、院内に設置された医療放射線管理委員会において、適切なプロトコル設定により安全で有効な放射線診療が行われていることが令和5年度も確認されている。

課題であった診療放射線技師免許のアップデートに関しては全員修了することができた。

【一般・歯科・乳房撮影】

一般撮影は57,545件、歯科撮影は3,618件、乳房撮影は1,273件で若干変動はあるがほぼ平年並み。

【救急室・病棟でのポータブル撮影】

ポータブル撮影は9,309件で少し減少。

【手術室撮影】

手術室撮影件数は3,058件でほぼ平年並み。

【CT】

CT検査は31,940件で少し増加。

【MRI】

MRI検査は5,687件で平年に比べ減少したが装置更新工事が影響したと考えられる。

【血管造影検査】

血管撮影検査は1,685件で年々増加。

【TV透視検査】

TV透視検査は1,034件でほぼ平年並み。

【骨塩定量検査】

骨塩定量検査は504件でほぼ平年並み。

【RI】

RI検査は663件で減少。骨シンチが減少、それ以外はほぼ平年並み。

【放射線治療】

放射線治療は4,815件でほぼ平年並み。

＜今後の課題＞

1. 移動型X線撮影装置更新作業

地域の中核病院として設備の充実を図る事は重要で、大規模な災害や停電時にも撮影が可能な装置の導入に取り組むこと。

2. 頭部・腹部用血管撮影装置更新作業

急性期医療の中心となる病院として適切な装置更新に向け、情報収集を行い計画的に進めること。

3. 職員のレベル向上の継続

高性能な装置が増える中、十分な習熟、知識の習得を行い診療に価値のある画像提供ができるように部門全体で継続して取り組むこと。

＜研究研修事項＞

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■第54回市立豊中病院二次救命処置講習会（Immediate Cardiac Life Support） ◎

インストラクター（ブースリーダー）

河合政和　豊中市、市立豊中病院　約30名　令和6年1月21日

■第60回箕面市立病院二次救命処置講習会（Immediate Cardiac Life Support）

インストラクター

河合政和　箕面市、箕面市立病院　約30名　令和5年4月30日

■清恵会第二医療専門学院 診療画像検査技術学Ⅳ

清恵会第二医療専門学院専門課程・放射線技術科 非常勤講師

河合政和

堺市、社会医療法人 清恵会　清恵会第二医療専門学院　約30名 令和5年12月2日－令和6年1月27日

研究会・集談会発表

■スマスピって実際どうなん　SmartSpeed使用経験

宮野英人

第5回　関西Gyro Meeting　大阪市　旭区民センター　令和6年1月13日

2.　臨床検査部

＜現　況＞

臨床検査部の構成は、第一統括部門（検体検査：生化学・免疫・一般・血液・輸血・外注・受付・外来採血・システム）と、第二統括部門（生理機能・微生物・病理）で構成されており、従事している職員は臨床検査技師41名（常勤26名、非常勤15名）、管理医師1名（非常勤）の合計42名であった。令和2年度の検体検査装置の一括更新後、外来及び入院の検体検査は、概ね60分以内の報告ができる体制を維持し、外来採血も8時30分開始後、平均待ち時間は10分以内を維持していたが、非常勤職員の人員確保に難渋し、常時3～5名の人員不足で業務を行っていたため、検査結果の遅延や採血待ち時間の延長が見られた。

各検査件数は、概ね新型コロナウイルス感染症の流行前のレベルに回復した。新型コロナウイルス感染症の類型変更後も、継続的に検体採取やPCR検査、コロナ抗原検査を行った。

今年度は、チーム医療としてICTやNST、糖尿病教室、乳腺検討会などへ参加し、臨床検査技師として院内に情報を提供し、また知識の向上に励んでいる一方、令和5年度はISO15189 認定取得のため審査を受審した。

また臨床検査部に設置されている超音機器機管理センターでは、超音波検査機器の効率の良い運用や適切な更新計画を策定して一元管理を継続し、今年度も予算申請を一括で行った。

＜今後の課題＞

1. 人員確保
   不足している非常勤職員の採用
2. 病棟検査技師の業務
   令和6年度より、病棟での検査業務を行う臨床検査技師の育成
3. 内視鏡技師の育成
   令和6年度より、内視鏡室での臨床検査技師の業務開始
   内視鏡技師の育成
4. ISO15189の2022年度版拡大審査の受審
   ISO15189　2012年度版の取得後、2022年度版への拡大審査を受審

＜研究研修事項＞

学会発表

■CNS-DSC連携を用いた心電図モニタリングシステム波形によるホルター解析の有用性について
　山内一浩、齊藤直輝、橋詰久美子、福島景子、加藤京子
　第72回日本医学検査学会 in GUNMA
　群馬県　高崎市、Gメッセ群馬・高崎芸術劇場　　令和5年5月20日－21日

■迅速検査における圧挫細胞診が診断の一助となった黄色腫性下垂体炎の1例
　大仲知子、奥田陽造、佐脇千紗、宮坂裕子、寺元加奈、田村裕美
　第64回日本臨床細胞学会総会(春期大会)
　愛知県　名古屋市、名古屋国際会議場　　令和5年6月10日－11日

■軽症～中等症対応病院において栄養障害と糖尿病はCOVID-19重症化にどう影響するか
　齊藤直輝、岡内幸義、金谷愛子、井上文子、岩澤　卓
　第39回日本臨床栄養代謝学会学術集会
　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和6年2月15日－16日

研究会・集談会発表

■当院の現状と 今後の活用方法について

山内一浩

第3回採血業務指標化システム導入ユーザー会　Web開催　令和5年6月9日

■モニター心電図波形をもちいた長時間心電図解析の運用検討

山内一浩

日本光電　生理検査部門システムフォーラム～データ保存先　システム活用への展望～

Web開催　令和6年2月13日－3月29日

講習・講演

■健康寿命を延ばすには

松山辰男

朝日カルチャーセンター連携シンポジウム

「100歳まで元気で暮らすための糖尿病と変形性関節症対策」

大阪市、ハイブリッド開催（朝日カルチャーセンター中之島教室）　令和5年4月13日

■グルカゴン発見100周年－まだまだ多い謎

松山辰男

北関東甲信越グルカゴンカンファレンス～グルカゴン発見100周年記念～

東京都　中央区、ハイブリッド開催（ベルサール東京日本橋）　令和5年6月17日

■心電図に関するシリーズ講習会　4回目 上室頻拍編

齊藤直輝

大阪府臨床検査技師会

大阪市、大阪公立大学医学部附属病院　令和5年9月21日

■継承する心電図判読のコツ　リズム異常編

齊藤直輝

日臨技近畿支部医学検査学会（第62回）

和歌山県　和歌山市、ホテルアバローム紀の国　令和5年10月21日

■IP、K、Mgが低下　それってRefeeding症候群かも

下脇千恵子

大阪府臨床検査技師会／2023年度NST褥瘡部会講演会

大阪市、大阪医療技術学園専門学校　令和5年11月25日

■検査スキルを磨いて信頼を得る

齊藤直輝

第7回大臨技医学検査学会　大阪市、オービックホール　令和6年2月11日

司会・座長・その他

■座長：山内一浩

胎児心エコー・重点スクリーニングの有効性　他5演題

演者：戸田中央産院　圓田則子　他

第30回日本胎児心臓病学会学術集会　東京等　千代田区、一橋講堂　令和6年2月17日－18日

3.　手術部

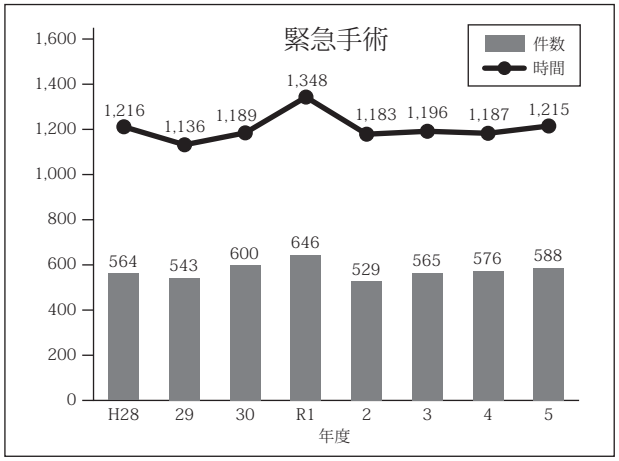
＜現　況＞

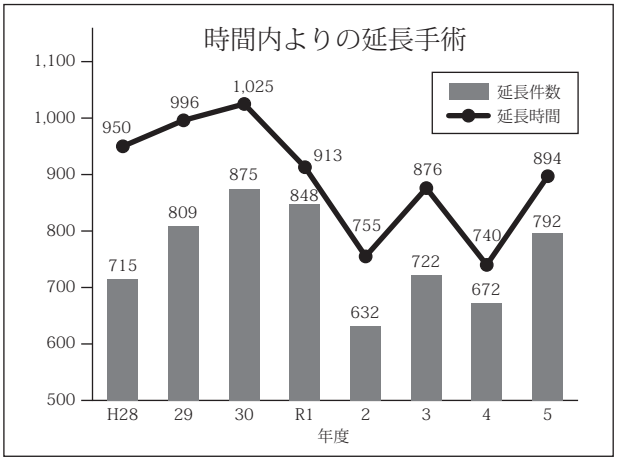
COVID-19感染症の流行により当院でも中等症・重症患者の受入れた。しかし、COVID-19感染症の影響は前年度ほど甚大ではなく、令和5年度の手術室稼働率は66.2％と前年度63.1%より2.9％増加、全手術件数は5,569件と前年度よりは559件(11%)増加した。また、麻酔科管理症例は3,079件であり、その内3,063件が全身麻酔(175件に硬膜外麻酔を併用)であり前年度から166件(5.7%)増加した。緊急手術と時間内からの延長手術の件数と時間の経年変化を示す。緊急手術は件数・時間共にほぼ同程度である。時間内からの延長手術は令和4年度は減少したが、令和5年度は再び増加し令和3年度と同等となった。各診療科の症例数を示す。また以下に全手術件数・手術室利用率と全身麻酔件数の経年変化を示す。全身麻酔件数は平成28年度は麻酔科医減少の影響により減少した。しかし平成29年度から再び増加し、令和元年度には過去最高の症例数となった。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により著減したが、令和3年度から増加し令和5年度には令和元年度程度まで回復した。一方、全手術件数は令和元年度まで一貫して減少しており、これは各科管理局所麻酔・脊椎麻酔手術の減少のためと考えられる。さらに令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により著減したが、令和3年度から増加し令和5年度は過去10年間で最高となった。また、手術室利用率は平成25年度から着実に増加しており令和元年度には過去最高の69.1%となった。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により著減し、令和5年度は平成30年度程度で回復している。

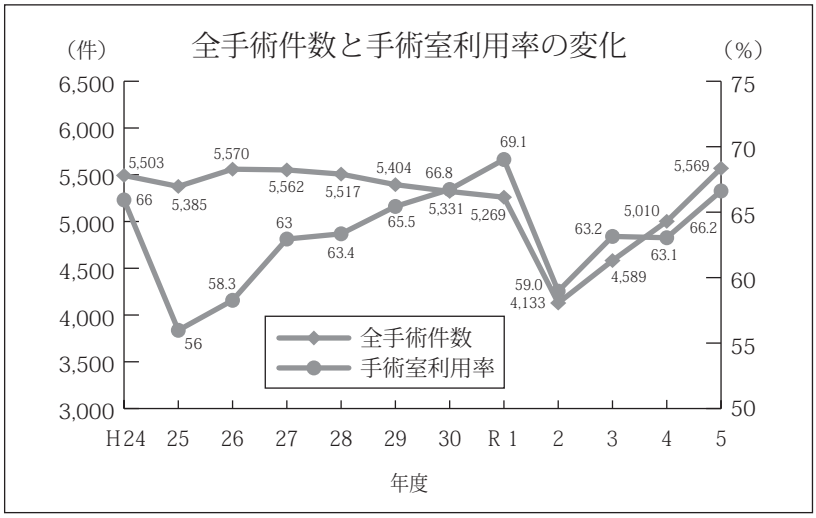
各診療科の症例数を示す。

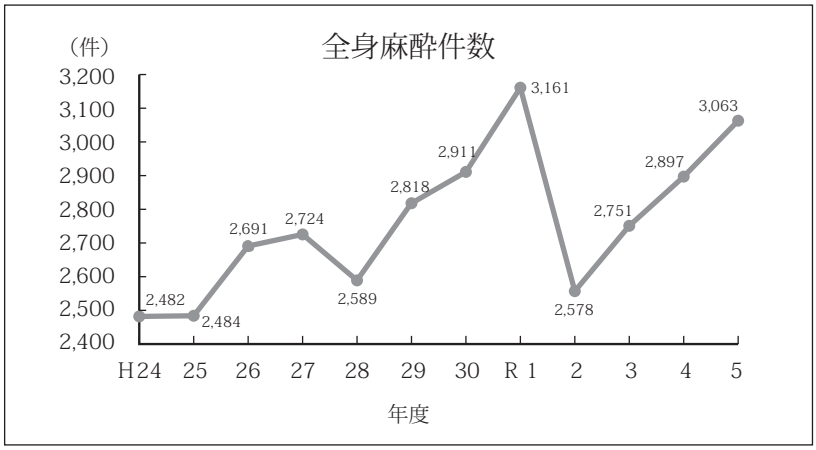
	令和5年度		令和4年度	
	手術件数	全身麻酔	手術件数	全身麻酔
外科	1,104	1,067	1,208	1,126
整形外科	1,150	631	989	558
脳神経外科	189	106	179	91
心臓血管外科	214	50	225	69
皮膚科	370	52	321	53
泌尿器科	552	295	528	294
産婦人科	603	264	605	259
眼科	428	0	307	0
耳鼻いんこう科	482	391	407	300
歯科	229	131	228	138
形成外科	230	67	0	0
その他	18	9	13	9
合計	5,569	3,063	5,010	2,897
月平均	464	255	418	241

また以下に全手術件数・手術室利用率と全身麻酔件数の経年変化を示す。









＜今後の課題＞

手術室稼働率は令和元年度に最高となったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で大きく低下し令和5年度は増加したが新型コロナウイルス感染症流行前には至っていない。より一層の向上をめざすためには、各手術の時間短縮と症例入れ替え間の時間短縮が必要である。

また、麻酔科医の増員だけでなく、手術室看護師の増員が急務かつ必須である。

さらなる業務内容の見直しと効率化を図り、より安全で質の高い手術を提供できるようにしていきたい。

4.　リハビリテーション部

＜現　況＞

急性期病院のリハビリテーションの目的はできるだけ不動の時間を少なくし、離床を行ない早期に退院をめざす事である。令和5年度も、そうすべく介入したところ、前年度を上回る紹介があり処方件数も大幅に増加した。しかしながら、現状の職員数では、満足のできるリハビリテーションができていないのが現状である。診療報酬は、前年度比較では、職員が育児休暇から復帰したことや臨時職員が確保できたことで理学療法士が5％増、作業療法士が49％増、言語聴覚士が2％増、全体で13％増となった。学会発表は5演題を発表した。

診療報酬別実施延べ人数　　（　　）内は前年度値

区分	職種	脳血管疾患	廃用症候群	運動器疾患	呼吸器疾患	心大血管	がんリハ
入院	理学療法士	8,001(9,106)	14,190(11,625)	5,809(5,104)	4(0)	162(1)	1,625(1,575)
	作業療法士	5,887(4,855)	3,359(1,536)	2,039(232)	0(0)	0(0)	85(0)
	言語聴覚士	2,591(3,533)	3,950(3,359)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
外来	理学療法士	0(0)	0(0)	3,426(1,980)	33(75)	523(597)	0(0)
	作業療法士	0(0)	0(0)	4,938(1,684)	0(0)	0(0)	0(0)
	言語聴覚士	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)

単位(人)

療法士別診療報酬

職種	点数／単位数	令和3年度	令和4年度	令和5年度
理学療法士	点数(点)	9,203,303	10,784,899	11,305,519
	単位数(単位)	37,389	43,731	45,566
作業療法士	点数(点)	3,577,894	2,931,859	4,356,770
	単位数(単位)	14,311	11,950	17,681
言語聴覚士	点数(点)	2,443,310	2,251,413	2,306,916
	単位数(単位)	9,246	8,904	9,203
指導料		208,800	233,100	399,000
全体		15,433,307	16,201,271	18,368,205

単位(点)

＜今後の課題＞

今年度のリハビリテーション依頼は、各診療科より前年度を上回る紹介があり、処方件数も大幅に増加した。しかしながら、現状の職員数では、満足のできるリハビリテーションが実施できていない。また、休日のリハビリテーション実施も課題であり増員が必須の状況である。増員するだけでは無く、当院としてどのようなリハビリテーションが必要とされているのか、どのようなリハビリテーションを提供していくのか検討が必要である。

＜研究研修事項＞

学会発表

■右下腿コンパートメント症候群・右腓骨神経麻痺を呈し地域医療機関へ引き継いだ症例を経験して

森田扇太郎

第60回日本リハビリテーション医学会学術集会

福岡県　福岡市、福岡国際会議場　　令和5年6月29日－7月2日

■無動無言症状を呈し経口摂取困難であったが氷片を使用した直接訓練を継続し、経口摂取可能となった一症例

深川大樹

第61回日本リハビリテーション医学会学術集会

福岡県　福岡市、福岡国際会議場　　令和5年6月29日－7月3日

■当院における胃癌周術期ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの取り組み

足立ゆかり

第61回日本癌治療学会学術集会　　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和5年10月19日－21日

■CIVID-19のリハビリテーション治療　各流行期の特徴と今後の展望

大川知之

第7日本リハビリテーション医学会秋季学術大会

宮崎県　宮崎市、シーガイアコンベンションセンター　　令和5年11月3日－5日

■当院のがんリハビリテーション治療の取り組み

春名雅裕、岡田京子

第8日本リハビリテーション医学会秋季学術大会

宮崎県　宮崎市、シーガイアコンベンションセンター　　令和5年11月3日－6日

講習・講演

■「無理なく安全に行うための移乗・移動介助法」

大川知之

（公益社団法人）大阪府臨床検査技師会　多職種公開講座　第14回北地区地域オープンセミナー

吹田市、JEC日本研修センター江坂　　令和5年11月18日

5.　集中治療部

＜現　況＞

COVID-19感染症の流行により当院でも中等症・重症患者の受入れが実施され、重症患者の集中治療室受入れを継続した。

集中治療室においてICU・HCUの運営を継続しているが、COVID-19感染症の影響は令和4年度ほど大きくはなかった。COVID-19感染症重症例を8例受入れたが前年度の16例から減少した、ICU(8床)年間入室者数は循環器科症例を含め922例と前年度945例より23例の減少、1日平均患者数が4.9人、病床利用率62.4％と前年度59.6％より2.8%増加、ICU加算率は97.4％であった。平均滞在日数は2.1日と前年度より0.2日増加した。入室患者数減少にも関わらず病床利用率増加の要因は平均滞在日数の増加と考えられる。ICUの令和5年度各疾患別の管理症例と各データの年度変化を下記に示す。

HCU(4床)年間入室者数は546例と前年度417例より129例の増加、1日平均患者数が2.2人(0.6人増加)、病床利用率60.8％(19%増加)、HCU加算率は95.5％、看護必要度は81.9%と全ての項目で増加している。ICUへのCOVID-19重症患者受入れの影響が減少したためと思われる。

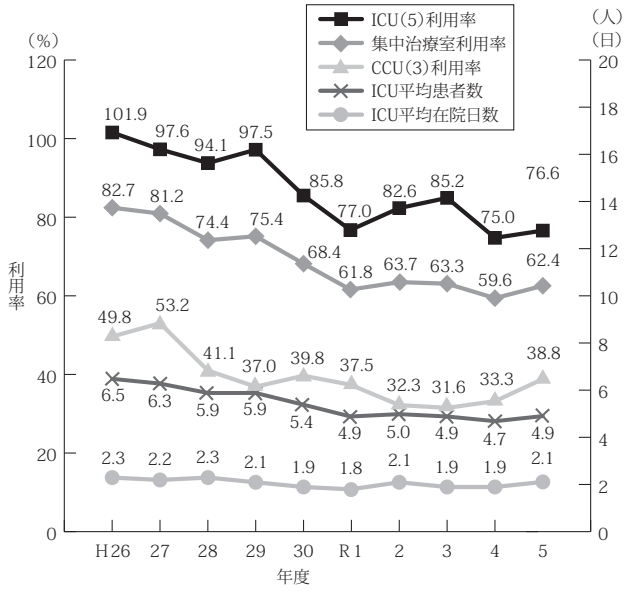
HCUの令和元年度各疾患別の管理症例と各データの年度変化を下記に示す。

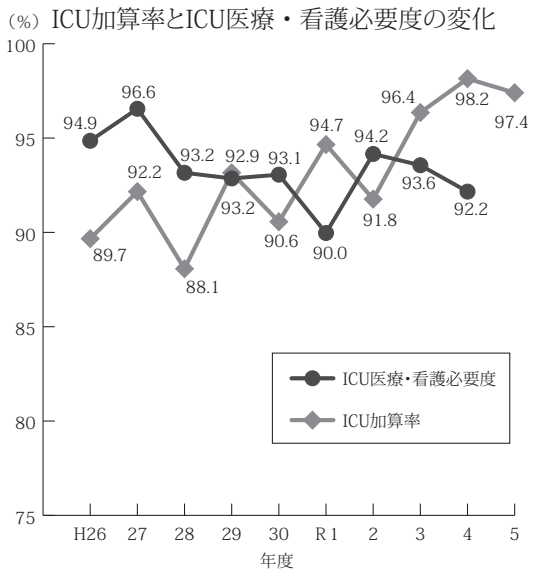
麻酔科管理症例はICU・HCUを合わせて702例で前年の735例より33例減少したが、手術後入室患者の割合は約83%で前年と同等であった。外科・心臓血管外科・脳神経外科患者と高齢・重度の合併症を有する術後患者が対象となる。また内科を中心として重症肺炎・膵炎・各種ショック患者も対象となる。各科の麻酔科管理症例数(ICU・HCU)は表に示すとおりである。

ICU

集中管理症例			
術後管理	522	敗血症性ショック	16
術後管理（緊急）	69	出血性ショック	8
脳内出血、ＳＡＨ、硬膜下血腫	17	代謝障害（肝不全、重症ＤＭ）	10
脳梗塞	1	痙攣重積	1
急性呼吸不全（肺炎含む）	23	救急蘇生後	6
慢性呼吸不全急性憎悪	6	急性膵炎	3
誤嚥性肺炎	2	その他	55
意識障害	1		
合計			740

循環器症例	
心筋炎	2
狭心症	24
心筋梗塞	36
心不全	85
重篤な不整脈	10
たこつぼ	3
心嚢液貯留	0
大動脈瘤/解離	2
肺塞栓　血栓	5
その他	6
合計	173

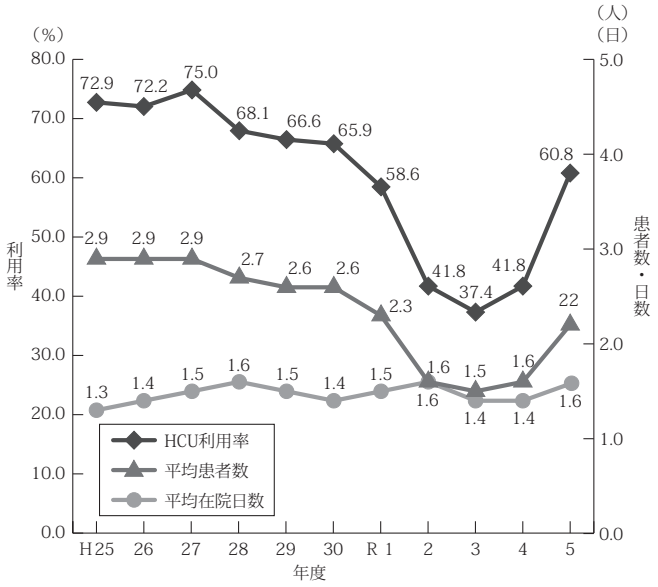


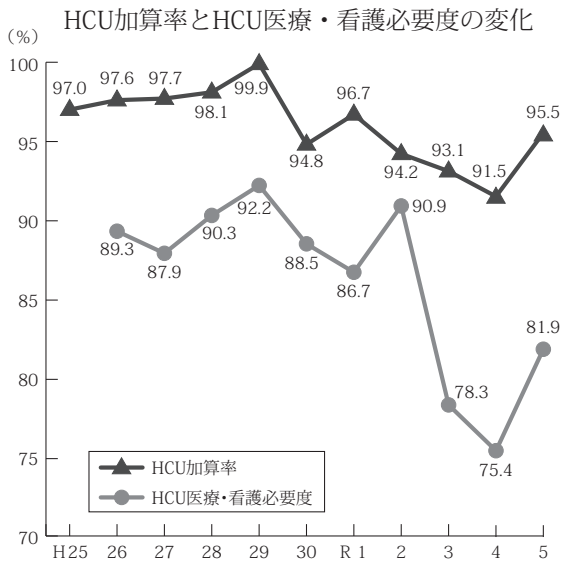


HCU

全科症例			
術後管理	28	慢性呼吸不全急性憎悪	4
術後管理（緊急）	19	急性薬物中毒	1
脳出血、硬膜下血腫、脳挫傷	57	腎不全	8
脳梗塞	3	敗血症	12
消化管出血	15	代謝障害（肝不全、重症ＤＭ）	22
急性膵炎	9	アナフィラキシー	4
胆嚢炎・胆管炎	11	救急蘇生後	1
急性呼吸不全（肺炎含む）	20	その他	191
合計			405

循環器症例	
狭心症	18
心筋梗塞	9
心不全	76
重篤な不整脈	16
心嚢液貯留	1
大動脈解離	1
その他	20
合計	141





＜今後の課題＞

ICUは慢性的に満床の状態が続いており、病状の安定した患者の病棟への迅速な帰室が必要である。病棟運営を含めた病院全体での取組みが必要となる。また看護師の継続的な充足が病床維持には必須である。新型コロナウイルス感染症の流行に対応して集中治療室で新型コロナウイルス感染症重症患者受入れは滞りなく行えている。

さらなる業務内容の見直しと効率化を図り、より安全で質の高い集中治療を提供できるようにしていきたい。

各科症例数（ICU・HCU）

麻酔科管理 ICU・HCU 入室症例数	令和5年度	令和4年度
外科	415	417
整形外科	52	58
脳神経外科	80	59
心臓血管外科	47	68
皮膚科	6	5
泌尿器科	25	22
産婦人科	19	38
耳鼻いんこう科	5	3
歯科	3	3
消化器内科	0	0
内科	42	59
神経内科	3	3
眼科	0	0
小児科	5	0
合計	702	735
月平均	58.5	61.3

6.　人工透析部

＜現　況＞

今年度も従来どおり日本透析医学会専門医制度認定施設であり（常勤医師のうち2名が日本透析医学会認定専門医資格と指導医の資格を有している）、次年度認定更新見込みである。また、人工透析部長の竹治が腎代替療法専門指導士の資格を取得し、今年度より透析導入期加算2の算定ができるようになった。（当院では腎移植を行っていないため、透析導入期加算3は不可能）

人工透析室の公称病床は7床であるが、令和2年度大阪府からの新型コロナウイルス感染症透析患者受入補助事業にて1床分のベッドと透析コンソールを追加しているので、前年から引き続き実質計8床で運用中である。血液透析を始め各種血液浄化療法を週6日稼働・実施している。人工透析部専任スタッフは配備されていないため、医師は腎臓内科医師が併任し、臨床工学部所属の臨床工学技士4名が交互に透析業務に携わり、看護師はICU所属の看護師が透析患者数に応じて派遣され対応している。人工透析室では、血液透析以外にも血液濾過、血漿交換、血液吸着、白血球除去療法(LCAP)、腹水濃縮再静注法(CART)なども施行している。血液透析に関しては、地域の医療機関との役割分担及び限られた病床の有効活用のため、外来通院維持透析は行っておらず、主に急性腎不全の血液浄化、慢性腎不全の維持透析導入期、そして他院で維持透析中に生じた疾患の検査・治療入院中の透析を行っている。病態に応じて各専門科と連携して治療を行い、また重篤な状態の患者における血液浄化療法は麻酔科の御協力のもとICUにて施行している。

当院で新規に維持透析を導入した患者は、患者の希望に沿って近隣の維持透析施設へ紹介している。また、他院で維持透析中に当科に紹介された患者は、検査・治療が終わり次第、紹介元に逆紹介することを原則としているが、昨今、入院継続・リハビリの必要度に応じて自宅退院ができず他の入院透析施設へ転院となるケースも多い。腹膜透析は腎臓内科病棟で導入し、腹膜透析外来(内科外来診察室)で定期フォローしている。

令和5年度、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は5月8日で5類感染症に引き下げられたため、府や保健所からの要請によるCOVID-19透析患者の受入れは終了したが、個別に医療機関からの入院要請には引き続き対応している。

令和5年度の当人工透析部における血液浄化施行件数はのべ1,308回/年（内訳：血液透析1,223回、血漿交換/血漿吸着60回、他25回）で、前年度に比べ+23回増加した。また、患者入室なしで行うCARTは別途25回実施した。上記の1,308回というのは、毎日1クールの運用で平均して平日の月水金コース6人、火木土コース2人平均で行う回数であり、土曜・祝日・大型連休・年末年始のメディカルスタッフ配置数から考えるとこれ以上伸びる余地は小さくなってきている。血液透析の新規導入は53人/年で、前年度から +13人増加した。また、腹膜透析の新規開始は4名あった（前年度は0）。なお、令和5年度COVID-19の透析患者数は5人(COVID-19血液透析回数は19回)で、前年度から大幅に減少した（5類に引き下げ後の数も含む）。

＜今後の課題＞

ここ数十年全国での透析患者数は増加の一途をたどっていたが、日本透析医学会の全国調査による令和4年12月末の時点で347,474人と初めて減少に転じた（COVID-19関連死の増加による一時的な減少という説もある）。また導入年齢の高齢化が進んでいる。全国的な慢性腎臓病対策の効果で、透析導入時期が引き延ばせているのであろうという解釈もされているが、動脈硬化性腎硬化症の増加というように高齢化によって生じている腎障害の割合も増えているものと思われる。

この病院のある豊中市は全国に比べ高齢者の割合が低く、今後、全国から遅れて高齢化が進んでくると思われる。65歳以上の高齢者の比率は、全国では令和4年9月の時点で29.1%（総務省統計局ホームページより）に対し、豊中市は令和5年4月時点で25.9%（豊中市ホームページ年齢別人口より計算）と低い。今後も周辺地域での透析の需要は増加していくと推測される中で当院の役割は依然大きいと思われる。また、また当院は総合病院ゆえ他の様々な併存症・合併症を抱えた血液透析患者を治療を行う責務もあり、引き続き自己研鑽も重ねつつ質の高い透析医療を提供できるよう努めるべきと考えている。

また、医師以外のメディカルスタッフにおいても専門性を高めていくことが診療の質を上げて患者の満足度向上につながるものと思われる。
（※ 学術活動、業績、などについては、看護部、臨床工学部、腎臓内科などの項目を参照）

7. 内視鏡部

＜現　況＞

内視鏡部は、消化器および呼吸器系の内視鏡検査を専門とし、高度な医療技術を提供している。消化器内視鏡分野では、16名の消化器内科医と8名の消化器外科医のスタッフ（うち4名が指導医）が、日本消化器内視鏡学会の認定施設として、先端的治療に従事している。呼吸器内視鏡では、指導医1名と専門医3名が専門的な検査を実施している。

本部門の特徴は、次のとおりである。

・急性期対応：消化管出血や重症胆道感染症への緊急内視鏡
・がん診療の先進性：内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）による早期癌の治療や進行癌へのステント留置
・多様な内視鏡技術：ERCP、超音波内視鏡検査、カプセル内視鏡、ダブルバルーン内視鏡などの高度技術を駆使した診療

令和5年度は前年度に比べて内視鏡検査数が微増し、回復傾向にある。詳細は以下の表を参照。

令和5年度（2023年度）内視鏡部症例数（総検査件数8,687例）

検査件数	
上部消化管内視鏡総数	4,688
（うち経鼻内視鏡）	578
（うちミニチュアEUS併用）	33
下部消化管内視鏡検査総数	3,265
（うちミニチュアEUS併用）	14
ダブルバルーン小腸内視鏡検査	12
カプセル小腸内視鏡検査	2
胆膵内視鏡（ERCP）総数	619
（うちDB-ERCP）	38
超音波内視鏡(EUS)	252
（うちEUS-FNA）	73
気管支鏡	149
治療	
食道ESD	18
胃ESD	137
大腸ESD	43
食道ステント留置術	9
胃・十二指腸ステント留置術	15
上部ポリペクトミー/内視鏡的粘膜切除術(EMR)	29
上部消化管出血止血術	109
異物除去	14
チューブ留置術（イレウスチューブ・EDチューブ）	36
内視鏡的胃瘻造設術	5
食道狭窄拡張術	14
胃・十二指腸狭窄拡張術	2
食道静脈瘤硬化療法、結紮術（EIS/EVL）	45/27
大腸ポリープ内視鏡的粘膜切除術(CSP含む)	1,661
（うちCSPのみ）	1,095
大腸ステント留置術	18

結腸狭窄拡張術	2
S状結腸捻転整復術	28
乳頭括約筋切開術(EST)	176
胆道金属ステント留置術	32
ENBD/ERBT	47/311
結石除去術	213
膵管ステント留置術	51
EUSガイド下嚢胞ドレナージ術	2
合計	3,044

保有内視鏡機器

上部消化管内視鏡			
GIF-H290	4本	GIF-H290T	1本
GIF-Q260	1本	GIF-Q260J	1本
GIF-XZ1200	1本	GIF-2T Q260M	1本
GIF-H290Z	1本	GIF－2T240	1本
GIF-HQ290	1本	EG-840N	2本
GIF-H260Z	2本	EG-L580NW7	2本
GIF-1200N	3本	EG-L600ZW7	1本
GIF-XP290N	2本		
下部消化管内視鏡			
CF-H290I	4本	CF-H260AZI	1本
CF-H260AI	2本	PCF-Q260JI	1本
CF-Q260AI	1本	EC-760ZP-V/M	2本
PCF-H290ZI	5本	EC-L600ZP7	2本
CF-HQ290ZI	1本	EC-L600XP7/L	1本
十二指腸内視鏡			
ED-580T	2本	JF－260V	2本
TJF-Q290V	1本	JF-240	1本
TJF-260V	1本		
小腸内視鏡			
EN-580T	1本	EI-580BT	1本
超音波内視鏡			
EG-740UT	1本	UM-3R	2本
GF-UE260	1本	UM-G20-29R	2本
GF-UCT260	1本	UM-S20-17S	1本
気管支鏡			
BF-P290	2本	BF-XP290	1本
BF-Q290	1本	BF-240	1本
内視鏡処理装置・光源装置			
CV-1500	2台	VP-7000	2台
CV-290	5台	LL-7000	2台
CLV-290	1台	BL-7000	2台
CLV-290SL	2台		
内視鏡用超音波観測装置			
SU-1	1台	EU-ME2 Premier	2台

内視鏡高周波装置			
VIO3	1台	ESG-100	3台
VIO300D	1台	ICC200	1台
内視鏡洗浄器			
ESR-200	4台		
炭酸ガス送気装置、送水ポンプ			
UCR	5台	JW-2	2台
OFP-2	5台	JW-3	1台
GW-100	2台	PB-30	1台
透視システム			
ハイビジョン透視録画装置VC1000システム	1式	透視装置EXAVISTA日立	2台
内視鏡情報管理システム			
富士フイルムメディカル　NeXUS	1式		
動画録画機			
TEAC UR-4MD	1台		

＜今後の課題＞

消化器センターの開設に伴い、新型コロナウイルス感染症の流行以前の検査件数に近づいている。ただし、特殊内視鏡検査の増加や高齢者の増加により、検査件数の増加が頭打ちになりつつある。今後の課題として、安全性を保ちつつ検査数を増やすためには、内視鏡室の拡張や環境整備が必須である。

また、内視鏡室の透視システムの更新が令和6年度に予定されている。この高額な医療機器の更新に際しては、耐用年数や補償期間を考慮した計画的な進行が求められる。

8. 臨床工学部

＜現　況＞

臨床工学部は、臨床工学技士5名、SPDスタッフ2名で業務を行っている。業務内容は大きく分けて臨床業務と機器管理業務を行っている。各種認定については、今年度に1名が透析技術認定士を取得し、ME臨床専門認定士1名、呼吸療法認定士2名、透析技術認定士2名、心血管インターベンション技師1名となっている。

臨床業務として、心臓カテーテル業務、ペースメーカ関連業務、補助循環装置操作業務、人工透析を含む血液浄化業務、末梢血幹細胞採取業務、ラジオ波焼灼術業務、手術室業務を行っている。

心臓カテーテル業務、ペースメーカ関連業務、補助循環装置操作業務は循環器内科、心臓血管外科と連携し業務を施行している。ペースメーカ関連業務に関しては循環器内科医師と共に行っている。また、緊急時や手術、各種処置、MRI対応機種植込み患者のMRI撮影時に設定変更を施行している。

人工透析を含む血液浄化業務は、月曜日から土曜日まで毎日実施している。人工透析室での維持血液透析、血液透析濾過、各種血液浄化療法、腹水濾過濃縮再静注法の施行を腎臓内科をはじめ関係部署と連携し施行している。ICUでの人工透析をはじめとする各種血液浄化を麻酔科と連携し施行している。緊急時にも安全・安楽・速やかな業務遂行を目標に各科と連携し業務を施行している。

機器管理業務は臨床工学技士とSPDスタッフが協力し、中央管理機器の貸出返却業務および清掃、臨床工学部管理機器である人工呼吸器、輸液ポンプ、シリンジポンプを始めとする約20機種900台の点検・保守管理を施行している。臨床工学部管理以外の医療機器故障時の一次対応等も行っている。また、院内の修理伝票の一元管理のため修理伝票の集配業務も行っている。

手術室業務は麻酔器をはじめとする機器の始業前点検の実施、機器使用時のサポート、各種点検業務を行い安全に手術を行えるよう業務を行っている。令和5年度は平均802.5件/月の医療機器準備、始業前点検を実施し、平均139件/月の手術に対する技術支援を実施した。機器トラブルは平均7件/月で発生した。重篤な事例として3件発生したがいずれも代替器の使用等で手術を完遂する事ができた。

以上の業務についてはOn Call体制をとり夜間、休日も24時間対応し各科診療補助、機器の安全管理、使用に努めている。今年度呼出件数は136件であり、前年度呼出件数は223件であり、前年度に比べ87件減少した。これは、血管撮影室の更新工事のために心臓カテーテル検査が停止していたためであると考えらる。

業務拡大に向けた厚生労働省講習の受講が全員修了した。今後タスクシェア・シフトに向けた業務拡大の準備をすすめていく。

＜今後の課題＞

タスクシェア・シフトに向けた動きや血管撮影室1のアンギオ装置の更新もありOn call呼出件数増加が予測される。業務に対して現在の人員では院内からの業務要望に応じる事が不可能になってきている。現在の人員で可能な限り協力し他部署と連携して業務効率化をめざす。また、増員された時点で順次業務拡大を実施し安全性を高め、関連部署と連携し効率的な運営を実施していく。

医師、看護師の業務改善に向け臨床工学部として業務効率化に寄与する医療機器、システム提案を実施し、実際に使用する部署と協議を行いより安全性、効率性の高い機器使用を実施していくことが必要であると考える。このために様々な情報を積極的に入手し、関連部署に情報発信を行い情報共有を行っていく。

9. 栄養管理部

＜現　況＞

栄養管理部では入院患者の食事については、年22回実施の様々な行事食に加え、委託業者エームサービス(株)の協力を得て通常のメニューとは異なる四季折々の材料を使用した「シェフのおすすめメニュー」及び家庭でも比較的つくりやすい野菜たっぷりの「マチカネデリカ」をレシピ付きカードと共にそれぞれ月に1回提供し、好評を得ている。また各チーム医療に参画しており、栄養サポートチーム、嚥下訓練チーム、褥瘡対策委員会、緩和ケア委員会、糖尿病センター、心臓病センター、心臓リハビリテーションにおいてカンファレンス・ラウンドに積極的に参加している。講演会や勉強会講師、学会発表も積極的に取り組んでいる。

患者食給食業務については、病院移設当初から調乳業務を、その後食器洗浄業務、平成22年度からは調理業務全般と徐々に委託業務を拡大してきた。令和3年度は、これまで病院で購入していた給食材料についても委託化への準備を進め、令和4年度からはほぼ全ての給食業務を委託へ移行した。今後は疾患や患者の状態に合わせたおいしく安全な食事提供は委託業者が担い、病院管理栄養士はこれまで以上に患者の栄養管理に重点を置けるよう体制強化を図っていく。患者さんの“治る力”を支えるために、病院栄養士、委託業者が問題を共有し、それぞれの専門性を発揮しより良い栄養管理をめざす。

《会議》

豊中市病院連絡協議会栄養士部会

※新型コロナウイルス感染症の5類移行で一部研修会再開。令和5年度は集合型2回、Web情報交換会2回、アンケート1回実施。

大阪府公立病院栄養士代表者会　（定例研究会5回／年、役員会6回／年）

《学外実習生受入れ状況》

・武庫川女子大学
・大阪樟蔭女子大学
・大手前大学
・大阪青山大学

＜今後の課題＞

令和4年度に続き、令和6年度診療報酬改定においても管理栄養士業務に関して多くの項目で拡大・拡充を図る改定がなされた。業務ニーズが高まるとともにより高度な専門性が求められており、それに叶う管理栄養士の育成と、入院患者の栄養管理業務拡充に向けた人員体制の整備が課題である。現状では限られたマンパワーの中、栄養介入が必要な患者により多く関われるよう各チーム医療に積極的に参画し、栄養面から病状の改善を促し在院日数の適正化に貢献していく。

また、給食業務全面委託後も患者満足度が維持できるよう、現受託事業者と共同し患者食の内容及びサービスの適正化を図っていく。給食業務については、労働人口が減少していく中でこれまで以上に人員確保が難しくなる可能性が高く、現在のクックサーブ方式での給食提供がどこまで継続できるかは不透明な状況である。今後も安定して患者給食が提供できる方法を模索していく必要がある。

＜研究研修事項＞

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■第9回Toyonaka AYAトーク　◎

「毎日のごはんはどう選ぶ？どう食べる？」

井上文子　　豊中市、市立豊中病院　　参加者：2名　　令和5年10月17日

■市立豊中病院　がん医療市民公開講座　◎
がん治療において心と体を支えることの重要性について　～栄養と食事のはなしを中心に～
今村博司、井上文子
豊中市、千里ライフサイエンスセンター　参加者：106名　令和5年11月18日

■第61回日本癌治療学会学術集会イブニングセミナー
タスクシフト／シェアが求められる時代の消化器がんチーム医療
「がん治療期における管理栄養士のかかわり」
井上文子
神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　参加者：82名　令和5年10月20日

学会発表

■多職種による治療支援により血糖改善，減量を維持し得た当院第一例目の肥満外科手術例についての検討
井上文子、岡内幸義、下須賀香奈子、柳本喜智、岩橋博見
第66回日本糖尿病学会年次学術集会
鹿児島県　鹿児島市、かごしま県民交流センター他　令和5年5月11日－13日

研究会・集談会発表

■実習生の受け入れ状況について
井上文子
大阪府公立病院栄養士代表者会令和5年度第5回定例研究会（事例研究発表会）
大阪市、大阪府栄養士会事務局　令和6年3月12日

講習・講演

■がん患者さんの心と体を支える栄養と食事のはなし
井上文子
箕面モデル　箕面市、Web開催　令和5年6月22日

寄稿文・テレビ・ラジオ・その他

■がん診療における薬剤師、栄養士の関わり
今村博司、久田真規子、井上文子
FOCUS　Next　アステラス製薬　令和6年1月17日

Ⅲ　薬剤部の現況と研究研修事項

＜現　況＞

令和5年度も、薬剤師の欠員状態が続いたが、病棟薬剤業務（薬剤管理指導料、病棟薬剤業務実施加算等の算定）を途切れることなく継続し、質の確保に取り組んだ。薬剤管理指導件数は新型コロナウイルス感染症拡大前の件数を上回り、さらに、産科病棟における薬剤管理指導料の算定を開始するなど業務の拡充に努めた。

外来化学療法においては、引き続き連携充実加算の算定を行い、地域の保険薬局との合同研修会や服薬情報提供書等による情報共有に努め、患者の外来治療期間においても、安心・安全な薬物治療に貢献した。

新たな取組みである入院前の患者総合支援においては、薬剤師による入院前からの介入により早期からの持参薬鑑別などを行い、患者サービスの向上や充実した薬物療法が提供可能となった。

そして、令和2年度から継続している医薬品の出荷停止や供給困難の状況に改善の兆しがみられない中、供給状況に合わせて柔軟に対応し、治療が滞ることのないよう、採用医薬品の変更や在庫確保に努めた。また、定期的に院内各部署の定数配置薬の確認を行い、病棟・診療科再編に合わせて、使用頻度の低い医薬品の見直しを行った。

＜今後の課題＞

令和6年度診療報酬改定においても後発医薬品の使用促進が掲げられているため、後発医薬品への積極的な切替えや、入院および外来におけるバイオ後続品の使用促進等、対応可能な項目においては早期に算定を開始する。これにより、年々増大している医薬品購入費用及び医療費の抑制への効果を期待したい。

がん薬物療法においては、薬剤師会とも協議を継続し、退院時の薬剤管理サマリを積極的に活用して保険薬局との連携を密にすることで、患者が入院から外来治療に移行しても安心・安全な薬物療法を受けることができる体制を強化する。今後、外来化学療法の件数増加が見込まれるため、抗がん剤の混注や患者指導の拡充に努めていく。

入院前の患者総合支援においては、対象患者の拡大に向けて病棟担当薬剤師もより積極的に関わることで、入院後の薬物療法に貢献する。

令和6年度より医師の働き方改革が施行される中、他職種と連携しチーム医療を推進することで、集中治療や周術期等における医師からのタスクシフトおよびタスクシェアの実現に寄与できると考える。

前年度と同様に、長期的な医薬品の供給困難に対して、治療が滞ることのないよう、引き続き医薬品の確保に努める。

＜研究研修事項＞

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■令和5年度第9回　豊中市薬剤師会10月研修会　◎
　抗悪性腫瘍剤による皮膚障害対策
　　久田真規子　　Web開催　　参加者：約80名　　令和5年10月24日

■令和5年度第9回　豊中市薬剤師会10月研修会　◎
　退院時服薬指導について
　　東畑　葵　　Web開催　　参加者：約80名　　令和5年10月24日

著書

■抗菌薬の基本―ペニシリン系・セフェム系抗菌薬―

小野祐志

INFECTION CONTROL　メディカ出版　令和5年10月

■抗菌薬の基本―ペニシリン系・セフェム系抗菌薬以外―

小野祐志

INFECTION CONTROL　メディカ出版　令和5年10月

学会発表

■診療科別の抗菌薬ラウンド介入患者と抗菌薬提案受け入れ割合をもとにした抗菌薬適正使用支援チームの活動評価と今後の課題

髙久保佑一、小野祐志、徳永康行、笹垣貴美、清水潤三

第38回日本環境感染学会総会・学術集会

神奈川県　横浜市、ハイブリッド開催（パシフィコ横浜ノース）　令和5年7月20日－22日

■当院がん化学療法におけるレジメン管理　～制吐支持療法標準化への取り組み～

久田真規子、竹中智子、石田志穂、宇佐美順子、秦　真由美、川瀬朋乃

第33回日本医療薬学会年会

宮城県　仙台市、ハイブリッド開催（仙台国際センター）　令和5年11月3日－5日

■カルバペネム系薬の使用診療科と感染症別介入率からみた抗菌薬適正使用支援チームに求められる役割の検討

小野祐志、髙久保佑一、宇佐美順子

第33回日本医療薬学会年会

宮城県　仙台市、ハイブリッド開催（仙台国際センター）　令和5年11月3日－5日

■保険薬局からの返書を用いた退院時の情報提供文書の有用性の評価

上野ひとみ、相澤聡子、椎葉有樹、大江彰彦、小野祐志、宇佐美順子

第33回日本医療薬学会年会

宮城県　仙台市、ハイブリッド開催（仙台国際センター）　令和5年11月3日－5日

研究会・集談会発表

■新しい抗癌剤の吐き気対策をどのように実践するか ～新規作用機序薬剤（MEC・HECレジメン）豊中病院の場合～

久田真規子

アステラス製薬　レクチャーミーティング

豊中市、千里ライフサイエンスセンター　602号室　令和6年1月18日

講習・講演

■豊中病院における保険調剤薬局へのアプローチ ～連携充実加算を活かして～

久田真規子

病院薬剤師　スキルアップ　ウェブセミナー　がん診療における薬薬連携を考える

Web開催　令和5年9月13日

■アロカリスのレジメン導入への道 ～MECレジメンをどうするか？～

久田真規子

本音で語る　CINV Webinar　in　HOKUSETSU ～アロカリス発売1周年記念講演会～

Web開催　令和5年9月23日

■緩和ケアについて
　椎葉有樹
　　とよなか健康大学　特別講座　　豊中市、とよなか健康大学千里校　　令和5年11月24日
■がんの緩和ケアについて
　椎葉有樹
　　とよなか健康大学　特別講座　　豊中市、とよなか健康大学高川校　　令和5年12月26日
■服薬指導のコツ
　久田真規子
　　令和5年度第13回豊中市薬剤師会2月Web研修会
　　Web開催　　令和6年2月13日

司会・座長・その他

■座長：宇佐美順子
　　令和5年度第9回　豊中市薬剤師会10月研修会　　Web開催　　令和5年10月24日
■座長：椎葉有樹
　　「外来における感染症診療と経口抗菌薬の適正使用のポイント」
　　演者：大阪大学医学系研究科変革的感染制御システム開発学寄付講座　山本俊吾
　　大阪府病院薬剤師会第8回専門薬剤師育成委員会講習会　　大阪市、御堂会館　　令和5年11月18日
■座長：宇佐美順子
　　令和5年度第13回　豊中市薬剤師会2月研修会　　Web開催　　令和6年2月13日
■座長：宇佐美順子
　　「当院における整形外科診療について、上肢の疾患・外傷を中心に」
　　演者：済生会千里病院　坂口公一
　　大阪府病院薬剤師会　第9支部（豊能支部）研修会（Web研修会）　Web開催　　令和6年3月14日
■座長：宇佐美順子
　　「腎機能・動脈硬化の視点から見た腰部脊柱管狭窄症の手術成績と鎮痛剤の適正使用」
　　演者：市立吹田市民病院　坂浦博伸
　　大阪府病院薬剤師会　第9支部（豊能支部）研修会（Web研修会）　Web開催　　令和6年3月14日
■座長：椎葉有樹
　　一般口頭発表(抗菌薬・抗ウイルス薬・抗真菌薬②/ワクチン・生理活性物質)
　　日本薬学会第144年会　　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和6年3月29日

1．薬学生の実務実習受入れ状況

(1) 実務実習（6年制の薬学生）

大学名	受入れ期間	受入れ人数
京都薬科大学	令和5年5月22日～令和5年8月6日	1
神戸学院大学	令和5年8月21日～令和5年11月5日	1
神戸薬科大学	令和5年5月22日～令和5年8月6日	1
摂南大学	令和5年11月20日～令和6年2月11日	1
兵庫医科大学	令和5年8月21日～令和5年11月5日	1
	令和5年11月20日～令和6年2月11日	1
	合　計	6

(2) 早期体験実習（6年制の薬学生）

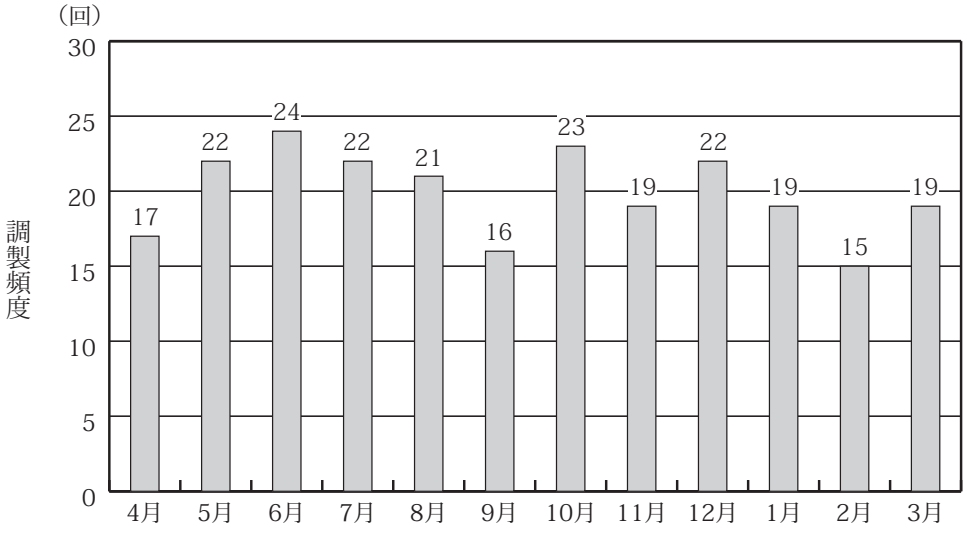
大学名	受入れ期間	受入れ人数
神戸薬科大学	令和5年5月31日	6
摂南大学	令和5年10月3日	4
	合　計	10

2. 製剤業務

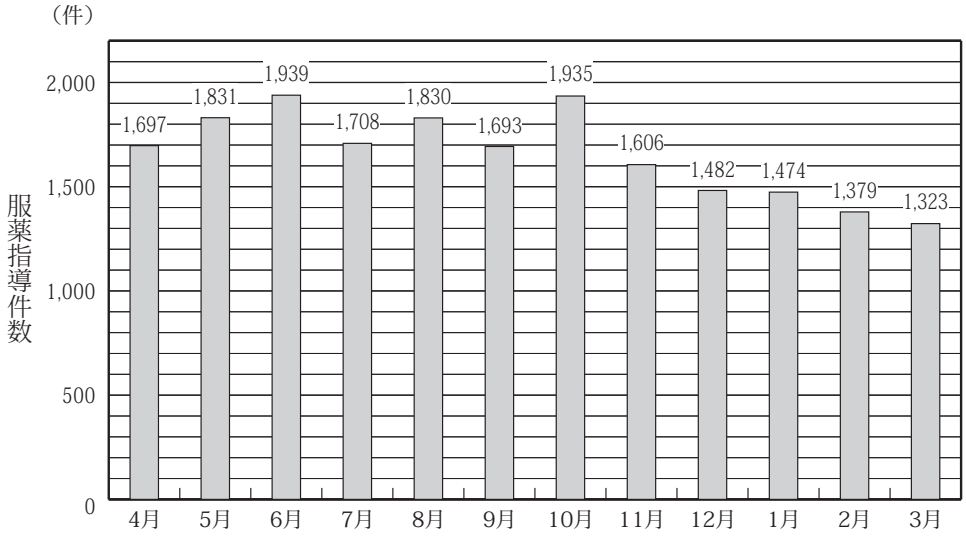
(1) 主な院内一般製剤調製量

製　剤　名	数　量	製　剤　名	数　量
4倍インジゴカルミン液(100mL/本)	430本	大腸内視鏡用セット<モビプレップ>	1,400組
柿のへた煎（1本/1日分）	150本	注腸用セット	0組
キシロカイン点眼（5mL/本）	162本	滅菌）0.05％ハイアミン入りグリセリン（500mL/本）	139本
2％酢酸（500mL/本）	26本	点鼻用0.05%プリビナ液（30mL/本）	90本
紫水1％(30mL/本)	32本	プロナーゼ＋重曹1g	4,080組
小児用吸入液(100mL/本)	174本	10％ホルマリン液（500mL/本）	0本
20％水酸化カリウム液（100mL/本）	1本	2%滅菌パテントブルー液(2mL/アンプル・本)	217本
1％水酸化ナトリウム液（100mL/本）	1本	滅菌点墨	126本
大腸内視鏡用セット<ムーベン内用液>	696組	1％滅菌メチレンブルー液(2mL/アンプル・本)	0本
大腸内視鏡用セット<ニフレック配合内用液>	990組	1％ルゴール液（100mL/本）	48本
大腸内視鏡用セット<マグコロール散>	5組	心臓CT検査用<セロケン>	240組

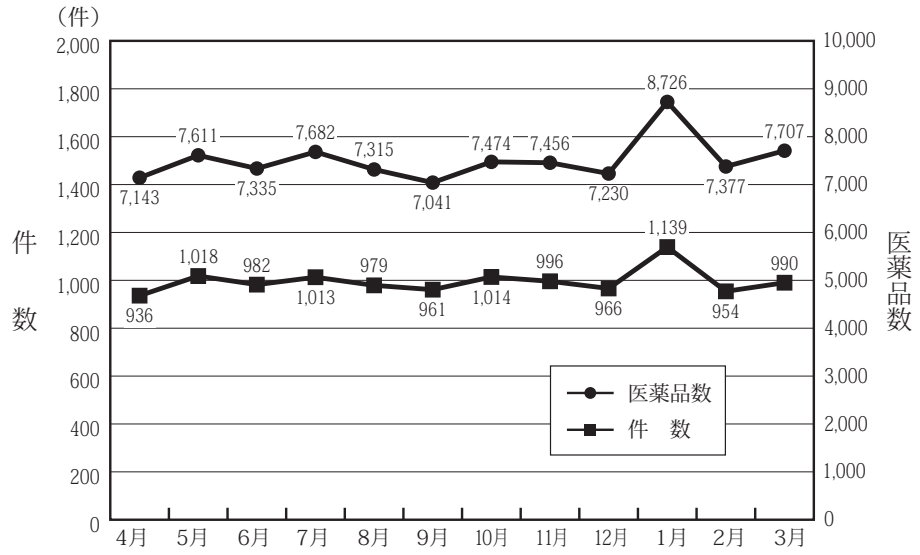
(2) 主な院内一般製剤調製頻度



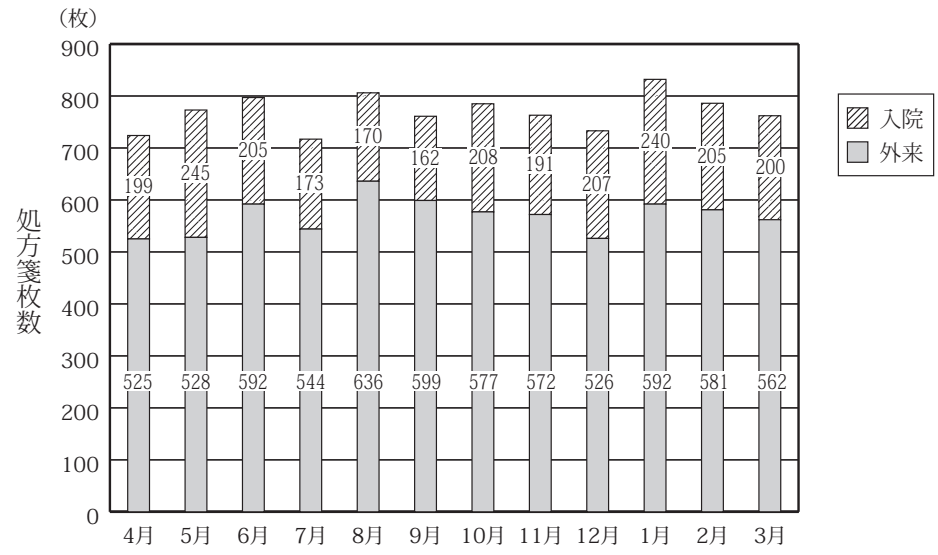
3. 入院服薬指導実施件数



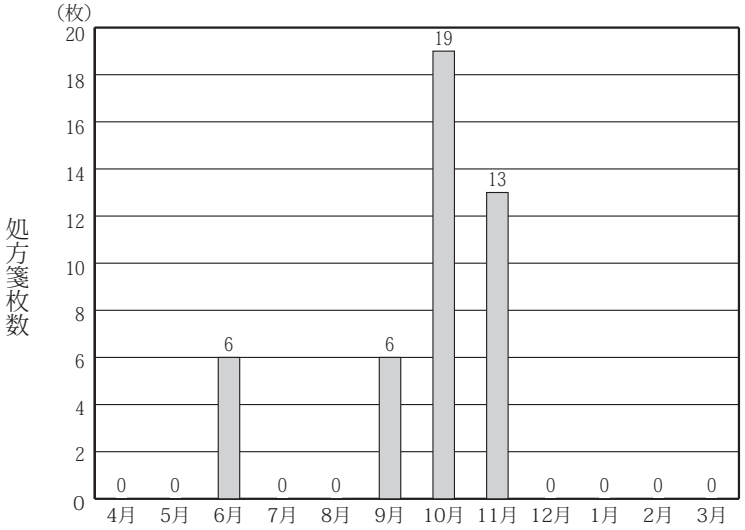
4. 入院時持参薬鑑別件数・医薬品数



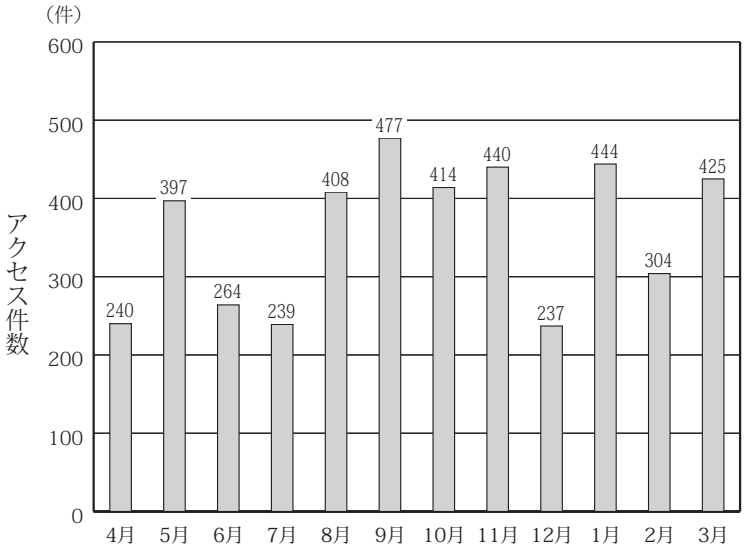
5. 化学療法用薬剤のミキシング状況



6.　TPN用薬剤のミキシング状況



7.　薬剤部院内ホームページへのアクセス数



8. 医薬品管理業務

(1) 院内在庫医薬品数 （令和6年3月31日現在）

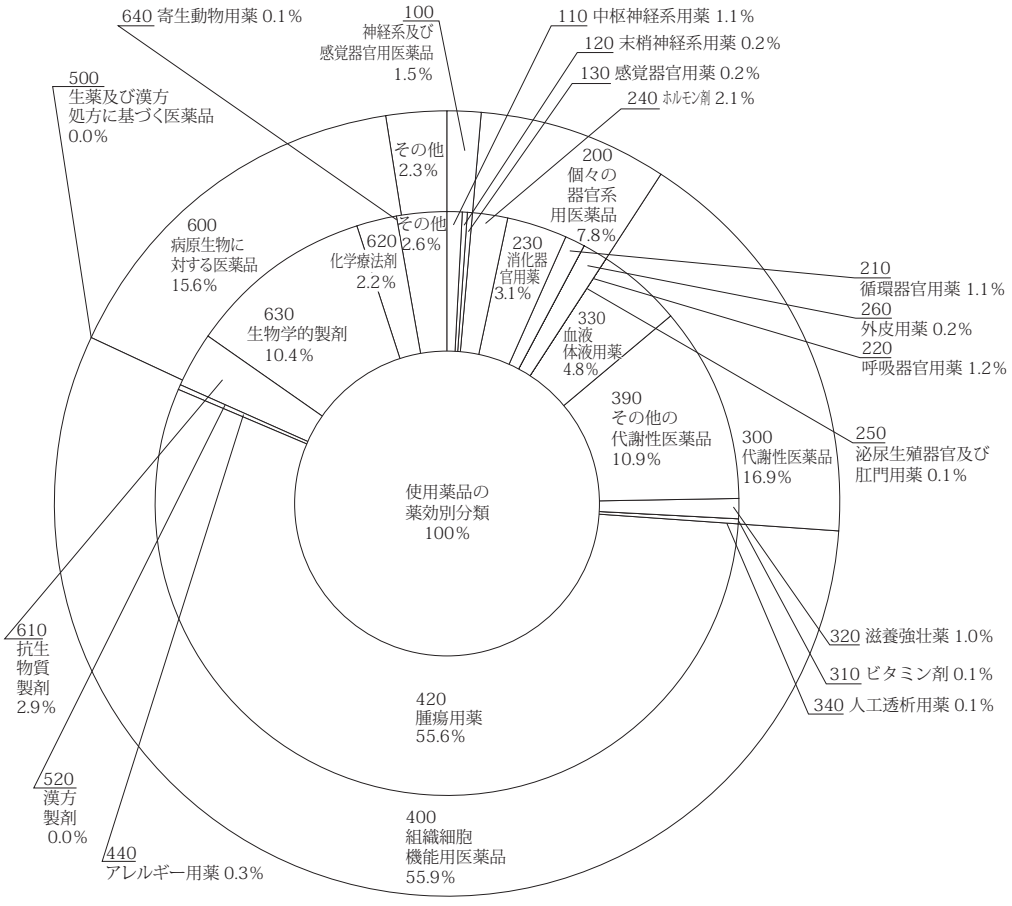
	品目数	構成比（%）
内服薬	680	44.0
外用薬	231	15.0
注射薬	625	40.5
その他	8	0.5
合　計	1,544	100.0

(2) 特定生物由来製品一覧 （令和6年3月31日現在）

アブラキサン点滴静注用(100mg/V)	テタガムＰ筋注シリンジ(250単位/1mL/筒)
アルブミナー5％静注(12.5g/250mL/V)	献血ノンスロン注射用(1500単位/V)：溶解液付
25％赤十字アルブミン静注(12.5g/50mL/V)・献血	ハプトグロビン静注(2000単位/100mL/V)・献血
献血ヴェノグロブリンＩＨ10％静注(2.5g/25mL/V)	フィブリノゲンＨＴ静注用(1g/V)・献血：溶解液付
献血ヴェノグロブリンＩＨ10％静注(5g/50mL/V)	フィブロガミンＰ静注用(240単位/V)：溶解液付
グロブリン筋注(450mg/3mL/V)・献血	献血ベニロン-Ｉ静注用(0.5g/V)：溶解液付
グロブリン筋注(1500mg/10mL/V)・献血	献血ベニロン-Ｉ静注用(5g/V)：溶解液付
献血グロベニン-Ｉ静注用(5g/V)：溶解液付	ヘブスブリン筋注用(200単位/V)：溶解液付
ケイセントラ静注用(500単位/V)：溶解液付	ヘブスブリン筋注用(1000単位/V)：溶解液付
ケイセントラ静注用(1000単位/V)：溶解液付	ボルヒール組織接着用(1mL/組)
抗Ｄ人免疫グロブリン筋注用(1000倍/V)：溶解液付	ボルヒール組織接着用(3mL/組)
コンファクトＦ静注用 (血液凝固第Ⅷ因子500単位/V)献血:溶解液付	ボルヒール組織接着用(5mL/組)
タコシール組織接着用シート(9.5×4.8cm/枚)	

(3) 使用薬品の薬効別分類

（令和5年度）



Ⅳ　看護部の現況と研究研修事項

【看護部の人員について】

令和5年度は、常勤看護職員537名、非常勤看護職員47名の合計584名でスタートした。採用者数は4月に55名（うち新卒者54名）、さらに年度途中に7名、合計62名であった。退職者数は年度途中に19名、3月末に43名、合計62名であった。全体の退職率は11.45％（前年比＋1.05の増加）、新卒1年未満の退職率は5.45％（前年比－8.55の減少）であった。退職理由の最も多いものは、転居もしくは配偶者の転勤29.0％、次いで適正・能力不安14.5％であった。能力・適正不安を理由とした退職は、新卒と2年目で占められていた。コロナ禍の影響を鑑み、次年度以降も研修やOJTについて検討を続けていく。

【看護部の活動について】

新型コロナウイルス感染症が5類に移行した今年度は、感染症拡大以降に縮小を余儀なくされた診療機能の正常化と経営の健全化に向けて病院全体で取り組むこととし、看護部は以下の目標を掲げた。

令和5年度　看護部目標

1　新たな診療科編成での病床を効率的かつ安全に運用する。
　地域との連携を強め、急性期病院として円滑に患者を受入れる。
2　がん、救急、専門医療の充実に必要な看護の知識・技術の向上につとめる。
3　看護の質向上と看護業務の効率化をふまえたタスク・シフト／シェアを推進する。

1について

4月は病棟診療科を再編成した体制で新たなスタートとなった。新型コロナウイルス感染症の入院対応は、引き続き3階北病棟とした。令和2年以降、感染症病棟として使用されていた4階北病棟は、整形外科、皮膚科、形成外科の病棟として再開し、同時に5階南、6階南、7階南病棟は消化器センター病棟として編成された。また総合内科と救急診療科の病床も新設された。これにより、多くの病棟で看護職員の配置を変更し、それぞれが学習を積みながら新しい診療科での患者看護に臨んだ。また救急患者をより円滑に受入れられるようそれぞれの病棟、外来部門で取り組んだ。結果として年間の病床稼動率は77.6％（前年度71.7％）にとどまったが、年度中は徐々に上昇し、1月以降は80％台であった。年間の平均在院日数は9.9日（前年度10.2日）と短縮し、効率的に病床を運用できた。

2について

看護職の能力評価ツールとして看護部クリニカルラダーを活用していたが、看護職としての専門能力をより客観的に評価し育成することを目的に、日本看護協会の「看護実践習熟段階」に基づいた評価システムを作成した。

今年度は豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会にがん看護部会が発足した。当院のがん看護専門看護師らが参加する部会では、地域でのがん看護の質向上をめざし、知識や技術の引き上げを図る取組みを開始した。また、今年度は専門看護師1名が遺伝カウンセラー養成課程に進学した。

3について

看護補助者に関しては、日勤帯の補助者は慢性的な人員不足が続いており患者の身体ケアなどはタスクシェアできていない状況である。令和4年より導入した夜間看護補助者については、遅出、夜勤帯の看護師の業務負担を軽減できており、配置数と時間帯の拡大を検討したい。

特定行為研修修了者が4名となり、今年度は1名が研修を受講した。特定行為の実践に向けてワーキングを重ね、救急外来での特定行為実施までの整備を行なった。次年度は「看護師特定行為管理委員会」を発足させ、提供する診療やケアの質を保障しながら、看護職員を含むすべての職員が働きやすくなるための特定行為実施のあり方を検討していく予定である。

1. 看護部委員会

委員会名	目　　的
看護の質向上委員会	看護の質向上をめざし、効果的かつ効率的に業務を遂行するために評価・改善し、患者の立場に立った、誠実で質の高い看護を提供する。
教育委員会	高い看護実践能力を獲得するための効果的な教育プログラムを企画・運営し、優れた専門職業人を育成する。
記録委員会	看護実践、評価に役立てるため看護記録の充実を図り、記録全般の検討、調整、指導を行う。
看護安全管理委員会	発生したインシデントについてインシデント内容を調査、分析し、必要な対策を講じることで看護部におけるインシデントの発生を防止する。
キャリア開発委員会	専門看護師・認定看護師が、専門的役割を発揮し、組織の中で活動することを支援する。
看護補助業務委員会	病棟補助員の教育を企画し、知識・技術の向上を図り、看護補助業務ができる人材の育成をはかることや看護師と効果的な協働ができる。
看護研究推進委員会	看護の質向上をめざし、院内の看護研究の充実、推進を図る。

2. 委員会報告

教育委員会

年間計画に基づき卒後必須研修、役割研修、院内講義46研修を実施し、参加人数は2,004人であった。卒後必須研修では、卒1コースから卒2コース、卒3コースと学びを継続する仕組みで構成した。また、各研修では、研修担当者が研修目的に沿ったファシリテーションを実施し支援することで、受講生の多くは研修目的を達成することができた。管理者研修として、師長・副師長を対象とした「現状分析・問題解決思考」の研修を実施した。研修後アンケートでは「現状を細分化することで課題を導き出すプロセスを学ぶことができた」など看護管理に必要な問題解決のプロセスについて学ぶことで、各部署での目標や課題設定などの実践に活かすことができる研修となった。

院内講義「演題発表会・専門認定活動報告」では、がん性疼痛認定看護師、がん化学療法看護認定看護師、摂食・嚥下障害看護認定看護師が活動報告を行った。事例を用いながら認定看護師の支援内容や活動内容など、わかりやすく講義された。受講者アンケートからは、「認定看護師の活動内容を知ることができた」「難しい症例など相談してみたいと思った」などの意見があり、認定看護師の活動を広く知ってもらう機会となった。教育委員主催研修では、前年度、好評だったため今年度も同じテーマの「要約力」をテーマに実施した。「申し送り」事例を提示し、どのように要約するのかを講義とグループワークで検討した。今後も受講生のレディネスやニードに着目し、研修での学びを看護ケアに繋げる研修内容の検討に取り組んでいく。

業務担当副師長会

今年度、患者支援室が開設されたことから、患者支援室の役割を理解し業務効率を高めるため入退院支援チームをつくった。外来を含めた入退院支援の現状から問題点の洗い出しを行った結果、マニュアルの見直し、入退院支援についての教育支援、退院支援加算の算定率を上げることが課題とわかり次年度の取り組みとした。タスク・シフト／シェアチームは、看護補助員と協働して働く環境を整えるために看護補助業務委員会の作成したマニュアルを活用し、定期的な能力評価と多様な働き方をする看護補助員の業務内容の調整と見直しを行うリンクナースの活動支援を役割に加えることにした。また、タスク・シフト／シェアの一環として中心静脈カテーテル管理を看護師が施行するためのマニュアル作成と教育体制を整えた。重症度、医療看護必要度について、新人看護職員への研修の実施と全看護職員に対して動画による学習、テストを実施した。

キャリア支援担当副師長会

キャリア支援担当副師長は、新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴うスタッフの配置転換や病棟編成など業務内容の変更により、中堅スタッフの育成が十分に行えていないのではないかという思いがあり、「キャリア支援担当副師長の困り事」を問題解決フレームワーク「PDP」(Problem-Discovery Process)を用いて解決策の検討を行った。検討の結果、「病棟編成に関わる困りごと(教育面のサポート、知識・経験不足)」に対しては、“各部署のマニュアルを共有し活用する”“キャリアシート(経歴シート・いまみらいシート）を活用し個々の看護実践能力を発揮させる仕組みをつくる”。「リーダー層の育成 」に対しては、“キャリアシートやラダーを活用しリーダーシップを発揮できる環境を整え、積極的に動機づけを行う”。「配置転換者支援（精神面)」に対しては、“サポートナース制度が十分機能しておらず配置転換者の実力が発揮できない現状について、サポートナースと配置転換者の双方への支援を行う”。「キャリア支援担当副師長としてのあり方」に対しては、“スタッフのキャリアや個々の目標を把握するため、キャリアシートを活用し中長期目標などを把握し面談を行う”ことの重要性があがった。これらの課題を次年度の活動に繋げていく。

院内研修では、卒3「事例研究」、卒2「重症化リスクアセスメント」「臨床推論」、役割研修「匠」「実習指導者」を担当した。成人学習と経験学習サイクルをもとに研修を実施した。各研修の受講生の満足度はおおむね高かった。

新人教育担当副師長会

卒後1年目、2年目に対し、年間教育計画にそって研修を実施した。集合研修と部署内教育の連動を重視し取り組んだ。今年度は、ローテーション研修に外来を追加し、継続看護の視点が持てるように支援した。また、新人看護職員の定着を図るため年3回、各部署で面談を行い、職場への適応状況を把握し精神的支援を実施した。

キャリア開発委員会

8回の会議と、2回の専門認定看護師連絡協議会を開催した。キャリア研修は、eラーニング作成のサポートを行い、35のコンテンツを全て年間計画通りに配信し、1コンテンツにつき20－170名の受講者の確保に貢献した。また専門認定看護師の活動報告書の形式を変更し、活動の目標や内容を可視化した。さらに専門認定看護師連絡協議会は、専門認定看護師が自己の役割や活動における課題を明確にし、活動することを目的に、企画・運営した。PDCAサイクル表を用いて活動の振り返りを行い、他者と意見交換することで、問題解決思考の重要性の気づきを得る機会となった。

看護研究推進委員会

会議は4回開催した。看護研究を身近なものとし、研究に触れる機会を持てることを目的に活動を行った。①院内ホームページをリニューアルし、日々の看護実践を研究にするプロセスを紹介し、初めて看護研究に取り組む人にもわかりやすいよう具体的な研究の進め方を示した。②初学者や経験者が学習を深められるよう、看護研究に関する3冊の推薦図書を選定し、院内図書に追加した。③ニュースレターは2号発行し、推薦図書の紹介、既存の学習ツールとしてナーシングスキルの動画講義を紹介し、活用を促進した。

記録委員会

看護記録の充実を図ることを目的に、監査委員と協働し監査実施率の上昇をめざした。各部署の監査委員からの監査実施率の低迷に対しては、監査の必要性の周知の難しさやカンファレンス・監査する時間確保の難しさがあがった。監査に対する学習会などを実施し監査率が向上した部署もあれば、効果が低い部署もあった。そこで、監査実施に関する意見を収集し、それをもとに監査の学習会資料を記録委員会で作成した。次年度は、作成した資料を使用し監査学習会を実施し、看護記録の質向上に努める。

卒1研修「看護記録」では、「看護記録の目的を理解し、正しく記録することができる」、「看護過程がみえる記録とは何かを理解できる」を目的に実施した。看護計画の立案から実践記録までの理解をすすめ、研修後は監査委員による看護記録の実践と評価を実施した。監査委員には、卒1研修後の看護記録・看護計画立案のOJTを依頼した。研修後のOJTを監査委員に依頼する事で、監査委員としての役割達成に繋げることができたと考える。

看護の質向上委員会

看護の質向上をめざし、効果的かつ効率的に業務を遂行することを目的に、業務改善・挨拶推進運動について活動した。業務改善として、令和7年度の病院機能評価受審に向け、検査手順および看護手順の改定をおこなった。各部署でも病床再編に伴う業務内容の変更に対応するため、部署内の業務マニュアルの見直しなどをおこなった。挨拶推進運動では、引き続き標語の提示と呼称で定着につなげた。また、接遇マニュアルにおける靴下のルールを見直し、身だしなみの基準を時代に合わせるよう取り組んだ。

前年度から引き続き公益社団法人日本医療評価機構が提供する「患者満足度・職員やりがい度活用支援プログラム」を活用し、看護職員やりがい度調査を実施した。前年度と比べ総合評価は上昇し、全体としての傾向に変化はみられなかった。「雰囲気や人間関係」のみ満足度が低下しており、新型コロナウイルス感染症拡大による人間関係の変化や病床再編によるメンバー構成の変化からの影響が考えられた。ベンチマークにおいて「学習や成長」「上司への信頼」が高く、当院の強みであることがわかった。しかし「勤務条件」は前年度と同様低い結果になり、業務の効率化を図ることが課題であることがわかった。

看護補助業務委員会

看護補助者による業務実施の推進を目的に、看護補助業務マニュアルの改定、技術チェックリスト及び運用マニュアルの見直しを行った。また、看護補助者業務指示書を導入し看護補助者との協働やタスク・シフト／シェアの推進に努めた。看護補助者業務指示書の周辺業務には各勤務帯のタイムテーブルを作成、週間予定も組み込み活用できるようにした。直接業務は看護ケア項目の立案と実施入力で指示・記録とし、看護ケア項目の統一を図った。

今年度の研修計画では、急変時対応の講義と演習を追加し実施した。患者急変時の看護補助者としての役割と対応について学ぶことができた。

看護安全管理委員会

令和4年度に引き続き、令和5年度も患者に安全・安楽な療養環境を提供するための看護ケアの質向上を目的に、安全対策カンファレンスの実施に取り組んだ。令和5年6月から各病棟で開始し、実施された延べ444件/月の記録を監査したところ、カンファレンスは実施できているが、内容は身体抑制解除の有無のみを検討していることが多かった。そのため、安全対策カンファレンスの目的は、身体抑制解除の有無の検討ではなく、患者に安全安楽な療養環境を提供するための具体的な看護ケアについて検討することであると、師長会・業務担当副師長会で再度周知し、現状と課題について話し合ってもらった。話し合いの結果、各病棟でカンファレンスの進行や意見の活発化、具体的な看護ケアの実践に課題があることがわかった。安全対策カンファレンスによる看護ケアの検討をさらに促し安全対策カンファレンス実施件数は、延べ633件/月と増加した。引き続き安全対策カンファレンスの実施により、身体抑制に対して抵抗感の高い職場風土作りに取り組み、看護ケアの実践により安全・安楽な療養環境を提供していく。

3. 在職者分析

1）平均年齢および平均在院年数

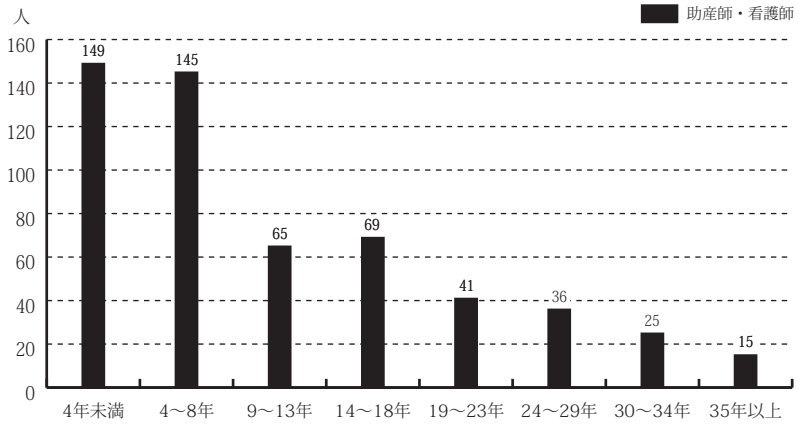
(1) 令和5年度

年齢別 / 職種別	採用			退職			在職者		
	人数	平均年齢	経験年数	人数	平均年齢	経験年数	人数	平均年齢	経験年数
	人	歳	年	人	歳	年	人	歳	年
看護師									
助産師	62	23.6	0.6	62	30.3	8.0	545	36.4	11.8

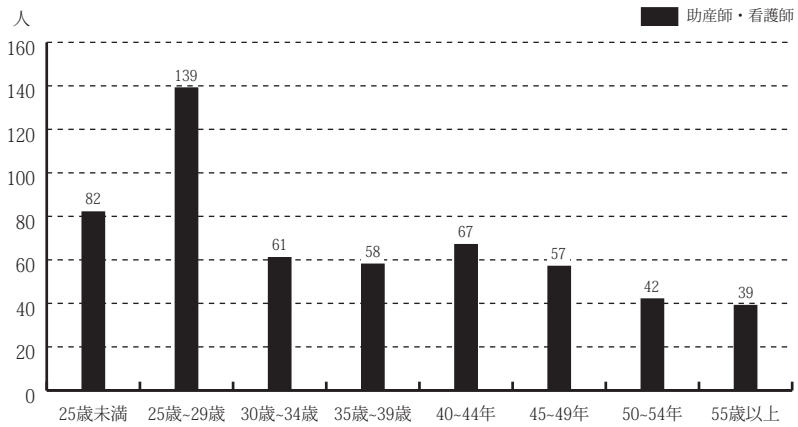
(2) 過去5年間の比較

年度別 / 項目別 / 職種別	令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
	総数	平均年齢	在職年数	総数	平均年齢	在職年数	総数	平均年齢	在職年数	総数	平均年齢	在職年数	総数	平均年齢	在職年数
	人	歳	年	人	歳	年	人	歳	年	人	歳	年	人	歳	年
看護師															
助産師	503	35.4	10.2	512	35.6	10.3	527	36.3	12.9	524	36.6	13.1	545	36.4	11.8

(3) 勤続年数



(4) 年齢別構成



4. 現任教育

1) 院内における教育

(1) 院内教育計画

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
卒後必須研修	卒1年目	1～7 オリエンテーション 基礎看護技術演習 基礎看護技術演習	10 社会人基礎力 30 メンタルヘルス	心電図（自由参加） 20 救急蘇生 29 コミュニケーションスキル①	12 看護記録① 26 医療安全	9 コミュニケーションスキル② 17 24 必要度（どちらかに参加）	21 考えて行動する基礎看護 ローテーション研修
	卒2年目		31 重症化リスクのアセスメント	事例から考える看護0（事例を各自で読む）	5 達人への道①		13 事例から考える看護① 14 （どちらかに参加）
	卒3年目			6・8 事例から考える看護④（どちらかに参加）			
役割研修	リーダーシップ				4 リーダーシップA 27 リーダーシップB		
	継続看護						27 継続看護②
	指導者研修 プリセプター						
	指導者研修 匠					2 匠フォローアップ	
	指導者研修 実習指導						
管理				21 管理者研修①			20 管理者研修②
院内講義				28 看護の動向			5 継続看護①

キャリア研修	感染管理				感染対策の必要性を考える（e：7～8月公開）		病院で気をつける微生物を学ぶ
	高齢者看護						
	母性新生児集中			新生児の反応からケアを考えてみよう（e：6～7月公開）			
	糖尿病看護			インスリン療法の基礎知識（e：6～7月公開）			指導に活かせる食事療法の基礎知識
	手術看護		手術出棟と全身麻酔の観察、術後疼痛管理（e：5～6月公開）		食道がんの手術を学ぼう（e：7～8月公開）		
	集中ケア				ショックと侵襲について（e：7～8月公開）		
	摂食嚥下		口腔ケアの基礎知識（e：5～6月公開）		安全な食事介助について（e：7～8月公開）		
	家族看護			誰でもできる！家族との援助関係の構築（e：6～7月公開）		退院支援における家族看護（e：8～9月公開）	
	皮膚排泄ケア		ストーマケアの基礎知識（e：5～6月公開）		11 ストーマケアの基本技術 17：00～18：00	ケアに活かせる創傷の基礎知識（e：8～9月公開）	
	脳卒中リハ						脳梗塞患者の看護をマスターしよう
	慢性心不全						
	がん看護 治療に伴う看護		がん薬物療法の基礎（e：5～6月公開＋ナーシングスキル）			がん薬物療法における急性毒性①アレルギー（e：8～9月公開）	
	がん看護 治療に伴う看護			放射線療法の基礎（e：6～7月公開）			
	がん看護 緩和ケア						痛みの特徴・鎮痛薬の基礎と看護

管理研修	看護協会	ファースト　5／16～6／29		ファースト　7／19～8／30	
			セカンド　6／1～8／9		セカンド

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
4	半年の振り返り	1	褥瘡評価	5	フィジカルアセスメント	10	専門職としての看護師の役割	7	救急蘇生フォローアップ	6	看護記録②
12 18	倫理の基礎（どちらかに参加）									21	1年の振り返り
25 26	事例から考える看護② （どちらかに参加）			21	達人への道②（シャドー研修実施後の研修）			28 29	事例から考える看護③ （どちらかに参加）		
		21 22 29	「事例から考える看護」 発表会	6 13 14	「事例から考える看護」発表会			8	臨床推論	13	メンバーシップ
						11	リーダーシップAフォローアップ				
						25	リーダーシップBフォローアップ				
11	プリセプターフォローアップ					18	プリセプター				
						31	匠				
		8	実習指導の基本					10	実習指導の実際		
				20	管理者研修③			21	管理者研修④		
30	病院の経営					31	演題発表会＋専門認定活動報告			19	教育委員発表会

（e：9〜10月公開）		16	臨床推論につながる 感染症の基礎知識 17：00〜18：00								
		高齢者のせん妄看護　応用編（e：11〜12月公開）				認知症高齢者の尊厳を守る看護（e：1〜2月公開）					
		新生児の呼吸と体温管理の基礎（e：11〜12月公開）									
（e：9〜10月公開）						18	その人らしさを尊重する 糖尿病看護 17：00〜18：00				
周術期の看護（ICUにて開催）						術式別観察ポイント（e：1〜2月公開）					
		急性期輸液の基礎知識									
摂食嚥下の解剖生理と評価（e：10〜11月公開）								15	摂食嚥下の看護介入について 17:00〜18:00		
家族の意思決定支援（e：10〜11月公開				8	家族とのコミュニケーション 17：00〜18：00						
創傷ケア〜正しく使おう！創傷被覆材〜(e：10〜11月公開)											
（e：9〜10月公開）				院内脳卒中を見逃さない（e：12〜1月公開）							
		知って得する！心不全の基礎知識（e：11〜12月公開）									
がん薬物療法における急性毒性②血管外漏出（e：10〜11月公開）				がん薬物療法の副作用（e：12〜1月公開）							
治療におけるむくみのケア（e：10〜11月公開）				放射線療法に伴う有害事象のケア（e：12〜1月公開）							
（e：9〜10月公開＋ナーシングスキル）		もう戸惑わない！がん患者とのコミュニケーション（e：11〜12月公開）				30	患者の療養を支える看護 17：00〜18：00				

				ファースト　12／5〜1／30							
8／29〜11／8				セカンド　11／28〜2／7							

(2) 対象別教育内容と参加状況

卒後コース

対　象	研　修　名	参加人数
新規採用者	総合オリエンテーション	880
卒後1年目	社会人基礎力	51
	メンタルヘルス	51
	救急蘇生	54
	コミュニケーションスキル①	53
	看護記録①	54
	医療安全	46
	コミュニケーションスキル②	54
	看護必要度	54
	考えて行動する基礎看護	52
	半年の振り返り	48
	倫理の基礎	52
	褥瘡評価	54
	フィジカルアセスメント	54
	専門職としての看護師の役割	52
	救急蘇生フォローアップ	51
	看護記録②	51
	1年の振り返り	49
卒後2年目	重症化リスクのアセスメント	40
	達人への道①	39
	事例から考える看護①	33
	事例から考える看護②	35
	達人への道②	32
	事例から考える看護③	29
卒後3年目	事例から考える看護④	23
	臨床推論	19
	メンバーシップ	19
リーダーシップ	リーダーシップA②	29
	リーダーシップB③	22
	リーダーシップA④フォローアップ	29
	リーダーシップB⑤フォローアップ	20
継続看護	院内講義：継続看護①	69
	継続看護②	16
プリセプター	プリセプターフォローアップ	36
匠	匠フォローアップ	19
	匠ナース	17
実習指導	実習指導の基本	18
	実習指導の実際	15
合　計		2,319

キャリアコース

分　野	テーマ	参加人数
皮膚排泄ケア	ストーマケアの基本技術	4
感染管理	臨床推論につながる感染症の基礎知識	6
家族看護	やってみよう！家族とのコミュニケーション	11
がん看護	患者の療養を支える看護	21
摂食嚥下	摂食嚥下の看護介入について	4
合　計		46

eラーニング研修

公　開	テーマ	受講者
5－6月	手術出棟と全身麻酔の観察	134
	術後疼痛管理	141
	口腔ケアの基礎知識	69
	ストーマケアの基礎知識	171
	治療の基礎 : がん薬物療法の基礎	101
6－7月	インスリン療法の基礎知識	145
	新生児の反応からケアを考えてみよう	46
	誰でもできる！家族との援助関係の構築	92
	治療の基礎 : 放射線療法の基礎	71
7－8月	食道がん手術を学ぼう	105
	安全な食事介助について	40
	ショックと侵襲について	70
	感染対策の必要性を考える	81
8－9月	退院支援における家族看護	40
	ケアに活かせる創傷の基礎知識	77
	治療の副作用：がん薬物療法における急性毒性①（アレルギー）	31
9－10月	指導に活かせる食事療法の基礎知識	45
	脳梗塞患者の看護をマスターしよう	118
	痛みの特徴・鎮痛薬の基礎と看護	47
	病院で気をつける微生物を学ぶ	54
10－11月	家族の意思決定支援～意向のずれを考える～	35
	創傷ケア～正しく使おう！創傷被覆材～	115
	摂食嚥下の解剖生理と評価	37
	治療の副作用：がん薬物療法における急性毒性②（血管外漏出）	33
	治療後のケア：治療によるむくみのケア	68
11－12月	高齢者のせん妄看護　応用編	156
	急性期輸液の基礎知識	58
	もう戸惑わない！がん患者とのコミュニケーション	89
	新生児の呼吸と体温管理の基礎	70
	知って得する！心不全の基礎知識	27
12－1月	院内脳卒中を見逃さない	110
	治療後のケア　：　がん薬物療法の副作用	19
	治療後のケア　：　放射線療法に伴う有害事象のケア	19
1－2月	認知症高齢者の尊厳を守る看護	49
	術式別観察ポイント	72
合　計		2,635

(3) 院内講義

年月日	講義内容	講　　師	参加人数
令和5年7月31日	看護の動向	看護部長 越智比奈子	80
令和5年9月5日	継続看護	長谷部ひとみ	69
令和5年10月30日	病院の経営	事務局長 大東幹彦	72
令和6年1月31日	専門認定活動報告	秦　真由美、安田純子、山口和佳子、島田朋奈、荒木　周、柿沼香里、加苅　彰	59
令和6年1月31日	教育委員発表会		41
合　計			321

(4) 事例から考える看護発表会　　4回開催　　参加人数：246人

2) 院外における研修・学会など参加状況

主　　催	内　　容	受講人数
大阪府看護協会	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	8
	看護補助員の活用推進のための看護管理者研修	10
	短期研修	34
	看護管理者研修	7
豊中市	短期研修	20
	管理者研修	22
全日本病院協会	看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修	4
全国自治体病院協議会	看護補助体制指導者要綱研修	3
S-QUE研究会	看護補助者の更なる活用に係る評価のための研修	4
市立豊中病院	JMECC-市立豊中病院（RRS)	4
関西ストマケア研究会	第44回　関西ストマケア講習会	1
東京がんのリハビリテーション研修運営委員会	がんリハビリテーション研修	2
エルゼピアジャパン	中小規模病院における看護職の働き方の発展	4
関西臨床倫理研究会	関西臨床倫理研究会　ベーシックコース	5
合　　計		128

主　　催	学会名	開催地	受講人数
大阪府看護協会	第10回大阪府看護学会（現地＋WEB）	大阪府	25
日本創傷・オストミー失禁管理学会	第33回日本創傷・オストミー失禁管理学会学術集会	仙台市	1
日本糖尿病学会	第66回日本糖尿病学会	鹿児島	2
日本看護学会	第54回日本看護学会	大阪府	2
合　　計			30

3） 院外における教育活動

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■感染管理認定看護師教育課程　入試委員会
　鈴木徳洋　大阪市、オンライン会議　令和5年4月18日
■大阪府看護協会　施設代表者会
　社会福祉施設訪問事業報告
　鈴木徳洋　吹田市、国立循環器病研究センター　令和5年4月27日
■感染管理認定看護師教育課程
　ケースレポート発表会、実習指導者会議
　鈴木徳洋　大阪市、大阪府看護協会　ナーシングアート大阪　令和5年4月28日
■大阪府看護協会　認定看護管理者教育課程
　ファーストレベル演習講師
　木本正美　大阪市、大阪府看護協会　マルイトOBPビル8階　令和5年5月31日、6月14日、28日
■大阪府看護協会　教育委員　研修担当
　曽根光子　大阪市、大阪府看護協会　ナーシングアート大阪
　令和5年6月6日、10月3日、11月15日、令和6年1月17日、2月10日
■大阪府看護協会　認定看護管理者教育課程
　サードレベル応募小論文評価打ち合わせ会
　藤田幸恵　大阪市、大阪府看護協会　マルイトOBPビル8階　令和5年6月27日
■第38回日本がん看護学会学術集会　査読委員
　二宮由紀恵　オンライン査読　令和5年8月25日－9月8日
■大阪府看護協会　大阪府地域医療計画に係る情報交換会
　藤田幸恵　大阪市、大阪府看護協会　マルイトOBPビル　令和5年9月8日
■大阪府看護協会　推薦委員会委員
　藤田幸恵　東京都　渋谷区、看護協会　令和5年9月19日
■市立豊中病院　地域医療連携WEBセミナー　◎
　インスリン療法の基礎知識
　下須賀香奈子　豊中市、Web開催（市立豊中病院）　令和5年9月29日
■市立豊中病院　地域医療連携WEBセミナー　◎
　指導に活かせる食事療法の基礎知識
　下須賀香奈子　豊中市、Web開催（市立豊中病院）　令和5年10月20日
■箕面市立病院感染制御部　感染リンクナース交流会
　鈴木徳洋、志水春乃、西田亜希恵　箕面市、箕面市立病院　令和5年11月15日
■第11回　大阪府看護学会　学会委員
　濵田紀子　大阪市、ハイブリッド開催（大阪府看護協会　ナーシングアート大阪）
　令和5年12月2日－令和6年1月12日
■公立大学法人大阪大阪公立大学大学院
　家族看護学の知識を問う問題の作成
　山口　望　大阪市　令和5年12月4日
■市立豊中病院　地域医療連携WEBセミナー　◎
　「イラストでつかむ！」嚥下のしくみ
　加苅　彰　豊中市、Web開催（市立豊中病院）　令和5年12月15日
■感染管理認定看護師教育課程　実習指導者会議
　鈴木徳洋　大阪市、大阪府看護協会　ナーシングアート大阪　令和5年12月25日

■2023年度特定行為研修修了者のためのフォローアップ講習会
臨床判断力を上げるための臨床推論の演習
鈴木徳洋　　兵庫県　神戸市、神戸研修センター　　参加者：50名　　令和6年2月10日
■市立豊中病院　地域医療連携WEBセミナー　◎
「気づきで防ぐ！」誤嚥性肺炎予防の実際
加苅　彰　　豊中市、Web開催（市立豊中病院）　　令和6年2月16日
■特定行為研修フォローアップ研修　特定行為研修の魅力について語ろう！～専門性が発揮できる環境を目指し～
病院で活躍するクリティカルケア認定看護師
加藤和成　　大阪市、Web開催（ナーシングアート大阪）　　参加者：120名　　令和6年3月9日
■市立豊中病院　地域医療連携WEBセミナー　◎
患者の「食べたい！」を支える嚥下機能評価の基本
加苅　彰　　豊中市、Web開催（市立豊中病院）　　令和6年3月15日
■日本がん看護学会　日本がん看護学会誌　査読委員
二宮由紀恵　　オンライン査読　　令和5年4月1日－令和7年3月31日
■武庫川女子大学看護学部　実習指導者運営委員会委員
斉藤百恵　　市立豊中病院　　令和5年4月1日－令和6年3月31日
■公益社団法人大阪府看護協会　感染管理地域ネットワーク　支部リーダー
鈴木徳洋
大阪市、大阪府看護協会　マルイトOBPビル　　令和5年4月1日－令和6年3月31日の月1回程度の定例会
■公益社団法人大阪府看護協会　教育委員会委員
曽根光子
大阪市、大阪府看護協会　マルイトOBPビル　　令和5年4月1日－令和6年3月31日の月1回程度の定例会
■公益社団法人大阪府看護協会　学会委員会委員
濵田紀子
大阪市、大阪府看護協会　マルイトOBPビル　　令和5年4月1日－令和6年3月31日の月1回程度の定例会
■公益社団法人大阪府看護協会　感染対策委員会委員
鈴木徳洋
大阪市、大阪府看護協会　マルイトOBPビル　　令和5年4月1日－令和6年3月31日の奇数月の定例会

4）院外活動

学会発表

■高齢糖尿病患者の治療効果に関連するセルフケア能力とその関連因子の検討
柴田明日香、岡内幸義、下須賀香奈子、橋本千穂
第66回日本糖尿病学会年次学術集会
鹿児島　鹿児島市、ハイブリッド開催（城山ホテル鹿児島、かごしま県民交流センター、宝山ホール）
令和5年5月11日－13日
■コロナ禍における分娩取り扱い施設が行う育児支援の拡大－産後ケア事業の拡大に焦点を当てて－
濵田紀子、斉藤百恵
第54回日本看護学会学術集会
大阪市、大阪国際会議場　　令和5年9月29日－30日
■難病を抱える若年患者の自宅退院への支援～信頼関係の構築から目標達成を目指す～
佐々木あいな
第11回大阪府看護学会
大阪市、ハイブリッド開催（ナーシングアート大阪）　　令和5年12月2日

■呼吸不全を繰り返し危機状態にあった患者への看護
岡村美月
第11回大阪府看護学会
大阪市、ハイブリッド開催（ナーシングアート大阪）　令和5年12月2日
■授乳方法に関する情報が不足している経産婦への意思決定支援
児玉志穂
第11回大阪府看護学会
大阪市、ハイブリッド開催（ナーシングアート大阪）　令和5年12月2日

講習・講演

■家族看護
山口　望
大阪病院附属看護専門学校
大阪市、大阪附属看護専門学校　令和5年4月19日、5月10日、24日、6月7日、7月12日
■看護学科専門教育科目「感染看護論」：臨床における感染管理の実際Ⅰ
赤瀬　望
千里金蘭大学　吹田市、千里金蘭大学　令和5年4月19日
■胃癌治療の周辺知識の向上
秦　真由美
Lilly GC Web Conference
新潟県　新発田市、Web開催(新発田駅前複合施設イクネスしばた)　令和5年4月21日
■看護学科専門教育科目「感染看護論」：臨床における感染管理の実際Ⅱ
鈴木徳洋
千里金蘭大学　吹田市、千里金蘭大学　令和5年4月26日
■成人看護学概論：がん診療連携拠点病院で治療を受ける患者の理解と看護
二宮由紀恵
摂南大学看護学部　枚方市、摂南大学枚方キャンパス　令和5年5月19日
■千里金蘭大学オープンキャンパス　卒業生講演
宇津出愛、木村彩也香
千里金蘭大学　吹田市、千里金蘭大学　令和5年6月18日、8月13日
■教えて先輩！～1年生の過ごし方、乗り越え方～
相川美優
宝塚大学看護学部　シャトル研修
大阪市、ハイブリッド開催（宝塚大学　大阪梅田キャンパス）　令和5年9月17日
■感染に係る薬剤投与の管理の実際
鈴木徳洋
日本看護協会　特定行為研修　兵庫県　神戸市、神戸研修センター　令和5年9月21日
■医療関連感染サーベイランス
鈴木徳洋
感染管理認定看護師教育課程
徳島県　徳島市、Web開催（徳島大学大学院医歯薬学研究部看護リカレント教育センター）　令和5年9月26日
■ストーマケア、創傷管理、失禁などの基礎知識
大西智香子
関西ストーマケア講習会・関西STOMA研究会　大阪市、森ノ宮医療大学　令和5年10月1日

■タスク・シフト／シェアが求められる時代の消化器がんチーム医療
秦　真由美
第61回日本癌治療学会学術集会イブニングセミナー
神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　令和5年10月20日

■OSAKA　CINV　Seminer
秦　真由美
大鵬薬品工業株式会社　大阪市、AP大阪駅前B2F　APホール　令和5年11月21日

■感染防止技術
鈴木徳洋
感染管理認定看護師教育課程　大阪市、大阪府看護協会ナーシングアート大阪　令和5年11月27日

■医療関連感染サーベイランス
鈴木徳洋
感染管理認定看護師教育課程　大阪市、大阪府看護協会ナーシングアート大阪　令和5年11月27日

■認知症患者の対応について
柴田明日香
甲聖会記念病院　吹田市、甲聖会記念病院　談話室　令和5年11月29日

■化学療法室におけるチーム医療について
秦　真由美
アステラス製薬株式会社・レクチャーミーティング
豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和6年1月18日

■感染に係る薬剤投与関連：感染に係る薬剤投与管理の実際
鈴木徳洋
日本看護協会　神戸研修センター　特定行為研修
兵庫県　神戸市、神戸研修センター　令和6年2月1日

■がんとの共生を支える専門看護師の実践
二宮由紀恵
大阪公立大　がんプロ／次世代のがんプロフェッショナル養成プラン
大阪市、阿倍野ハルカス会議室　令和6年3月2日

司会・座長・その他

■司会：下須賀香奈子
医師兼患者の立場から見たリアルタイムCGMの活用方法
演者：大阪医療センター　加藤　研
豊中CDEセミナー2023　豊中市、市立豊中病院　令和5年11月18日

■座長：二宮由紀恵
一般演題　口演　第3群「チーム医療1」
第38回日本がん看護学会学術集会
兵庫県　神戸市、ハイブリッド開催（神戸国際展示場）　令和6年2月24日

受賞

■看護業務の効率化先進事例アワード2023　優秀賞
木本正美
日本看護協会　東京都、Web開催（日本看護協会）　令和5年12月22日

寄稿文・テレビ・ラジオ・その他

■大阪府看護協会「看護の日・看護週間」事業
掛布美樹
大阪府看護協会　大阪医科薬科大学看護学部　令和5年5月13日

■とよなかオレンジフェア
柴田明日香
虹ねっと連絡会　認知症支援部会　豊中市立文化芸術センター　令和5年9月28日

■取材：診療科・医局の特徴、力を入れて取り組まれていること
秦　真由美
FOUCUS　Next　アステラス製株式会社　令和5年12月22日

■取材：千里金蘭大学大学案内
木村彩也香、篠田響子
卒業生特集BEFORE&AFTER　千里金蘭大学大学案内、公式ホームページ、SNS　令和6年1月16日

■市内産科医療機関・母子保健連絡会
掛布美樹、濵田紀子
豊中市こども未来部　中部保健センター　令和6年2月29日

■大阪府地域医療計画に係る情報交換会
藤田幸恵
大阪府看護協会　大阪府看護協会　マルイトOBPビル8階　令和6年3月8日

■インタビュー：外来看護について
徳田明美、柴田明日香
甲南女子大学看護学リハビリテーション学部看護学科　甲南女子大学　令和6年3月11日

■教材改定：「臨床アドバンスコース」高齢者によくある症状；不眠
柴田明日香
臨床看護のeラーニング『CandYLink』
株式会社メディカ出版　臨床教育ソリューション部門　令和6年3月30日

■教材改定：「臨床アドバンスコース」高齢者によくある症状；誤嚥性肺炎
柿沼香里
臨床看護のeラーニング『CandYLink』
株式会社メディカ出版　臨床教育ソリューション部門　令和6年3月30日

5)　実習生の受入れ状況

施　設	実習項目	総人数
梅花女子大学　看護学部	母性看護学実習	81
	総合実習	8
	成人看護学実習Ⅱ（慢性期）	8
	小児看護学実習	17
園田学園女子大学　人間健康学部	ファースト基礎実習	20
	経験値統合実習（小児看護学）	2
	育成看護学実習・小児	5
大阪青山大学　看護学部	小児看護学実習	5
	成人看護学実習Ⅱ（急性期）	9
千里金蘭大学　看護学部	小児看護学実習	16
	基礎看護学実習Ⅰ	50
	基礎看護学実習Ⅱ	45
	総合看護学実習	24
	成人看護学実習（クリティカルケア）	49
四條畷学園大学　看護学部	成人看護学実習Ⅰ（慢性期）	17
	母性看護学実習	13
北斗会看護専門学校	母性看護学実習	20
	小児看護学実習	20
	基礎看護学実習	10
大阪府病院協会看護専門学校	母性看護学実習	5
武庫川女子大学看護学部	母性看護分野	4
大阪大学大学院 医学系研究科保健学専攻	助産学実習	1
大阪府立公立大学大学院 看護学研究科	周産期助産学実習	1
千里金蘭大学	助産学実習	1
大阪公立大学大学院看護学研究科	家族看護学実習 1	1
大阪公立大学大学院看護学研究科	家族看護学実習2	1
大阪公立大学大学院看護学研究科	老年看護学実習	1
合　計		434

6)　一日看護体験

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止していた一日看護体験を4年ぶりに再開し、以下の日程で受入れた。

○令和5年7月6日　9：30－15：30　　看護協会主催

初芝富田林高等学校　学生2名

8階北病棟での看護体験（血圧測定、清拭、洗髪、寝衣交換、シーツ交換、車椅子移動・搬送、ベッド移送、その他部署で体験できる簡単な援助）

○令和5年8月10日　9：30－15：30　大阪府主催

渋谷高等学校　学生7名（当日欠席3名）

5階南病棟、6階北病棟、6階南病棟、7階北病棟、7階南病棟での看護体験

（血圧測定、清拭、洗髪、寝衣交換、シーツ交換、車椅子移動・搬送、ベッド移送、その他部署で体験できる簡単な援助）

参加者の中には幼少期の頃から看護師をめざしていた人もおり、「今回の体験を通じて、大変な職業ではあるが、ありがとうと言われ素敵な仕事だと言ってもらえることができました。また、病気だけでなく生活も見てケアをしていることがわかった。」との感想があった。また、受入れを担当した者も初心に振り返る機会となっていた。

5. 外来部門

令和5年度より新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更となり、外来患者数は徐々に増加傾向となった。それに伴い外来における患者支援のうち、在宅療養指導件数は前年度に比較して増加した。なかでも、自費診療の合計件数は、令和4年度より著しく増加した。

指導算定対象では、在院日数の短縮により早期から在宅での療養に移行することから、在宅成分栄養経管栄養（前年度比：133.0%）、気管カニューレ挿入患者（前年度比119.4%）、留置カテーテル挿入患者（前年度比102.7%）、への介入が増加した。

指導料非算定対象は、手術・化学療法・検査の増加に関連し、外来支援では全身麻酔術前支援（前年度比186.0%）、腰麻・局麻術前支援（前年度比108.9%）、外来手術（前年度比131.9%）、弾性ストッキング指導（前年度比123.1%）が増加した。

外来診療以外の外来項目のうち増加した項目は、術後リンパ浮腫予防指導17件（前年度比：283.3%）、がん患者指導管理料481件（前年度比：104.7%）、心不全看護外来208件（前年度比：107.7%）、リンパ浮腫外来349件（前年度比：111.5%）であった。その他の項目では、フットケア外来27 件（前年度比：69.2 %）、ストーマ外来人工肛門造設患者266 件、人工膀胱造設患者94件（前年度比：人工肛門造設患者80.3 %、人工膀胱造設患者96.9%）であり看護師が専門性を発揮できている。

1．在宅療養指導件数（指導料算定対象）

項　　目	件数	前年度比
在宅自己注射	131	99.2%
糖尿病透析予防指導	0	0.0%
在宅成分栄養経管栄養	88	133.0%
人工肛門造設患者	266	80.3%
人工膀胱造設患者	94	96.9%
気管カニューレ挿入患者	43	119.4%
留置カテーテル挿入患者	38	102.7%
セルフカテーテル指導	137	—
在宅療養指導	131	114.9%
合　　計	928	111.5%

2．その他の加算

項　　目	件数	前年度比
フットケア	27	69.2%
術後リンパ浮腫予防指導	17	283.3%
がん患者指導管理料	481	104.7%
臍ヘルニア圧迫指導管理料	37	51.3%
合　　計	562	97.5%

3．自費診療

項　　目	件数	前年度比
授乳相談	96	103.2%
リンパ浮腫外来	349	111.5%
エジンバラ産後うつ検診	1,079	105.8%
合　　計	1,524	151.6%

4．在宅療養指導件数（指導料非算定対象）

項　　目	件数	前年度比
全身麻酔術前支援	562	186.0%
腰麻・局麻術前支援	1,325	108.9%
外来手術	624	131.9%
治療・検査・処置の説明	4,005	89.6%
患者・家族への精神的援助	280	66.8%
算定外の在宅療養指導	19	14.7%
弾性ストッキング指導	245	123.1%
リンパ浮腫への援助	2	16.6%
リンパ浮腫教室	44	107.3%
心不全看護外来	208	107.7%
合　　計	7,314	108.2%

Ⅴ　がん診療部の現況と研究研修事項

1. がん相談支援センター

＜現　況＞

「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」に基づき、院内外のがん患者及びその家族、地域住民及び医療機関等から、面談や電話等による相談支援業務を専従のMSW2名及び看護師1名の3名体制で実施した。相談内容に応じて、医師・看護師・臨床心理士などのがん専門スタッフと連携のうえ支援を行った。

令和5年度は、がん情報の発信の充実強化や外来通院時からの療養支援、がん患者・家族のホスピス・緩和ケアに関わる相談に対するサポート、がん情報コーナーでの資料の閲覧・配布、「とよなかがんサロン」やAYA世代のがん患者やその家族向けの交流会「Toyonaka AYAトーク」、「ハローワーク池田出張相談会」などを開催した。また、「とよなかがんサロン」を始めて100回目の節目を迎えることから、記念講演を開催した。

＜令和5年度の業務実績＞

〔相談支援業務〕

・新規相談件数（再開ケースも含む）：782件（自施設698件、他施設等84件）
※前年度の803件より21件減
※月平均65件

・延べ相談件数：合計1,113件（面談963件、電話140件、その他10件）
※前年度の1,215件より102件減
※月平均93件

・対象者内訳：患者本人（48％）患者家族（44％）の順で、全体の92％を占める。

・対象患者の状況：
【居住地】豊中市在住（74％）豊能医療圏在住（11％）が主で、次いで他府県、不明の順である。
【受診状況】当院受診中（92％）他院受診中（6％）受診医療機関なし・不明など（2％）
【がんの部位】大腸がん、胃がん、乳がん、肺がん、血液・リンパその他の罹患順での相談が多かった。

〔がん相談支援センターフィードバックアンケート調査〕

・アンケート配布枚数：200枚

・アンケート回収率：46％（回収枚数91枚〔郵送63枚、回収箱13枚、電子申込システム15枚〕）

・回答者の属性：（年齢）　50代（25％）、60代（22％）、80代以上（22％）、70代（21％）、40代（7％）、30代以下（3％）
（相談者）　家族（53％）、患者（43％）、その他（4％）

・相談についての満足度：とても満足（47％）、満足（50％）、どちらともいえない（3％）

【相談内容】　（単位：件、％）

相談内容	件数	構成比率
がんの治療	261	7.7
がんの検査	26	0.8
症状・副作用・後遺症	168	5.0
セカンドオピニオン（一般）	47	1.4
セカンドオピニオン（受入）	2	0.1
セカンドオピニオン（他へ紹介）	8	0.2
治療実績	9	0.3
受診方法・入院	34	1.0
転院	29	0.9
医療機関の紹介	7	0.2
在宅医療	718	21.2
ホスピス・緩和ケア	715	21.1
療養環境（食事・服薬など）	72	2.1
家族の介護・看護・養育	56	1.7
仕事・就労・学業	131	3.9
医療費・生活費・社会保障制度	695	20.6
臨床試験・先進医療	7	0.2
補完代替療法	1	0.0
不安・精神的苦痛	166	4.9
告知	14	0.4
医療者との関係・コミュニケーション	62	1.8
患者‐家族間の関係・コミュニケーション	72	2.1
友人・知人・職場の人間関係・コミュニケーション	9	0.3
患者会・家族会（ピア情報）	11	0.3
退院支援	3	0.1
生きがい・価値観	24	0.7
がん予防・検診	8	0.2
その他	26	0.8

※相談内容別に複数カウントしています。

〔対応内容〕　（単位：件）

対応内容	件数
傾聴・語りの促進・支持的な対応	476
助言・提案・心理的サポート	1,050
情報提供	1,094
自施設受診の説明	7
他施設受診の説明	6
当院他部門への連携（医師）	59
当院他部門への連携（病棟）	3
当院他部門への連携（外来）	8
当院他部門への連携（他職種）	5
当院他部門への連携（緩和ケアチーム）	3
他施設との連携	546
ピアサポート機能の紹介	6
苦情・要望への対応	2
その他	3

※対応内容別に複数カウントしています。

〔とよなかがんサロン〕

【開催回数12回】　・延べ参加者数：165名

開催日	内　容	延べ参加者数
令和5年4月24日	談話会	13名
令和5年5月22日	談話会	15名
令和5年6月26日	談話会	19名
令和5年7月24日	談話会	14名
令和5年8月28日	談話会	11名
令和5年9月25日	談話会	13名
令和5年10月23日	談話会	17名
令和5年11月27日	談話会	12名
令和5年12月25日	談話会	15名
令和6年1月22日	談話会	12名
令和6年2月26日	談話会	13名
令和6年3月25日	談話会	11名

※とよなかがんサロン100回記念講演会（参加者数：75名）

日　時：令和5年12月16日　14時15分～　（豊中市立伝統芸能館）

内　容：とよなかがんサロン100回の歩み

記念講演　「いのちの落語～笑いは最高の抗がん剤～」　演者：いのちの落語家　樋口 強

〔Toyonaka ＡＹＡトーク〕

【開催回数12回】　・延べ参加者数：28名

開催日	内　　容	延べ参加者数
令和5年4月27日	①ミニ講座「医師と座談会～教えて先生！～」 ②情報交換＆トークタイム	3名
令和5年5月26日	①ミニ講座「もしバナカードをやってみよう！」 ②情報交換＆トークタイム	3名
令和5年6月23日	①ミニ講座「いまのわたしの気持ち～表現療法を用いて～」 ②情報交換＆トークタイム	3名
令和5年7月28日	①ミニ講座「のぞいてみよう、検査結果」 ②情報交換＆トークタイム	2名
令和5年8月22日	①ミニ講座「リンパの仕組みを知って流れをよくしよう！」 ②情報交換＆トークタイム	2名
令和5年9月15日	①ミニ講座「おうちでできる簡単リハビリ」 ②情報交換＆トークタイム	4名
令和5年10月17日	①ミニ講座「毎日のごはんはどう選ぶ？どう食べる？」 ②情報交換＆トークタイム	2名
令和5年11月24日	①ＡＣＰゲーム体験会「自分らしく生きるを考えてみよう」 ②情報交換＆トークタイム	3名
令和5年12月22日	①ミニ講座「口の中のお手入れ方法」 ②情報交換＆トークタイム	2名
令和6年1月19日	・情報交換＆トークタイム	2名
令和6年2月22日	・情報交換＆トークタイム	1名
令和6年3月19日	・情報交換＆トークタイム	1名

〔ハローワーク池田出張相談会〕

・両立支援コーディネーターの研修を修了した相談員とハローワーク池田の職員による相談会を開催
（毎月第3水曜日）　参加人数　10名

＜今後の課題＞

1. 認定がん相談支援センターの相談員の基準を維持するための計画的な相談員の配置と人材育成が行える体制の整備
2. 相談者のプライバシーに対して十分に配慮ができる相談スペースの確保
3. がん相談支援センターで行われている相談支援業務の院内・院外への周知と広報

2. 緩和ケアセンター

＜現　況＞

緩和ケアセンターは緩和ケアチームと緩和ケア外来を管轄する部門である。当院には緩和ケア診療科・緩和ケア病棟がないため、専ら緩和ケアセンターが診療活動を担当している。緩和ケアチームは緩和ケア委員会のもとに運営されており、チーム活動のうち診療以外の会議と勉強会・研修会・連携カンファレンスの詳細については院内委員会報告（緩和ケア委員会）の項に記載した。

1. 緩和ケアチーム構成

身体担当医　兼任12名（麻酔科、消化器外科、放射線治療科、循環器内科、産婦人科、泌尿器科、消化器内科、皮膚科、脳神経内科）

精神担当医　専従1名（精神科）

看護師　専従1名（緩和ケア認定看護師）
兼任9名（がん看護専門看護師1名、家族支援専門看護師1名、緩和ケア認定看護師1名、がん放射線療法看護認定看護師1名、慢性心不全看護認定看護師1名、がん性疼痛看護認定看護師2名、乳がん看護認定看護師1名、訪問看護師1名）

薬剤師　専任1名　兼任3名（緩和薬物療法認定薬剤師）

MSW　兼任4名

公認心理士　兼任1名

リハビリテーション専門職　作業療法士　兼任1名

管理栄養士　兼任2名

放射線技師　兼任1名

2. 診療実績

1）緩和ケアチーム

年間依頼件数　272件（うち非がん6件、心不全9件）

依頼時期　診断期14件、治療初期13件、抗がん治療期133件、初期治療終了期1件、治療終了後（BSC期）99件、心不全治療中8件、その他4件

依頼内容　疼痛緩和129件　疼痛以外の身体症状緩和72件　療養環境調整1件
心理面支援47件　家族ケア3件　睡眠障害7件　ACP導入4件
鎮静（倫理的問題）9件

転　　帰　自宅退院107件（うち在宅ケア29件）　死亡退院60件
緩和ケア病棟転院26件　　一般病棟転6件　　施設入所7件
介入終了37件　その他（継続）29件

2）緩和ケア外来

外来患者数　延べ201件（うち新規患者数55件）
外来開設日数　週5回　担当医師：柏木雄次郎、二宮万理恵

依頼時期　診断期1件、治療初期2件、抗がん治療期45件、初期治療終了期0件
治療終了後（BSC期）6件、その他（相談など）1件

依頼内容　疼痛緩和29件　疼痛以外の身体症状緩和2件　心理面支援21件
睡眠障害2件　その他1件

3. 業務内容

1）がんと診断された時からの緩和ケアの推進

平成26年から開始したがんスクリーニングは年々件数が増加傾向であり、今年度は2,348件であった。また、緩和ケアチーム所属の認定看護師が診断時の医師からの説明に同席・面談を行い、早期からの緩和ケア導入につなげている（がん患者指導管理料イ：300件、がん患者指導管理料ロ：309件）。

2）医療者および患者への緩和ケアの教育、広報、啓発

緩和ケア研修会（PEACE研修）は講師、受講者ともに院外からの参加者を受入れ、修了者数は21名であった。がんサポートグループの開催、かんわルー新聞の発行を継続した。緩和ケア勉強会を2回開催し院外からの受講者を募った対面集合型と、当日受講できなかった院内スタッフ向けにeラーニングを実施した。地域連携カンファレンスを対面型で院外の医療者を招いて実施した。

院内緩和ケアマニュアルを改訂し院内ポータルシステムで簡便に情報が得られるようにした。

3）がん診療連携拠点病院の指定維持

国指定のがん診療連携拠点病院として、慢性心不全などの非がんを含めた緩和ケア提供体制の充実を図った。緩和ケアチーム回診と緩和ケア外来を開院日は原則毎日行い、多職種による症例カンファレンスを週1回実施した。

4）緩和ケアに関する研究発表、先進的な取組み

・大阪府がん診療連携協議会・緩和ケア部会のWGで作成された『大阪府がん緩和地域連携パス』を豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会・緩和ケア部会でリフォームした連携パス（通称リレーシート）の運用を継続している。作成から5年が経ち記載項目の見直しと改訂を豊能医療圏の同部会で継続審議している。

・循環器内科と共同して、慢性心不全患者の緩和ケアの普及に取り組んだ。アドバンスケアプランニングの診療科内のフローを構築し実践した。

＜今後の課題＞

1. 国指定がん診療連携拠点病院の指定再更新に向け、緩和ケア領域の基準の達成
2. 緩和ケア領域を担うスタッフの確保（特に身体医師）
3. 入院から退院・地域へと、切れ目のない緩和ケア地域連携の推進
4. がん以外の疾患（心不全等）に対する緩和ケア
5. アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の啓発
6. 診断時からの緩和ケアの推進

3. がん薬物療法センター

＜現　況＞

がんに対する治療薬は、従来からの化学療法製剤やホルモン剤に加え、分子標的薬剤、免疫療法製剤など多岐にわたっており、副作用に注意が必要となっている。様々な新規薬剤の開発により、治療期間、生存期間が延長し、それに伴い、療養期間も延長している。外来治療センターでは、治療実施当日に、薬剤師、看護師が問診を行い、副作用対策を医師に提案するなど、チーム医療で治療の安全性を高め、患者に安心して治療を受けていただけるよう配慮している。また、薬物療法の支持療法を診療科横断的に多職種でサポートするため、外来治療センターで治療中の全患者、および薬剤師外来相談患者に対して薬剤師による薬剤指導を実施している。

また、高額な抗がん剤の廃棄事例の原因を確認し、予防対策を講じたり、保険減点事例を検討し、対象薬剤の使用方法をルール化するなど、抗がん剤治療の経済的損失の対策を講じている。

外来治療センター
治療実績（令和5年度）

	延べ患者数
大腸がん	1,180
肝・胆・膵・がん	1,302
血液腫瘍	1,408
乳がん	750
胃がん	798
肺がん	519
婦人科がん	158
泌尿器科がん	356
食道がん	88
頭頚部がん	87
皮膚がん	9
脳腫瘍	9
十二指腸がん	12
原発不明	0
その他(非がん)	149
総人数	6,825

薬剤師による指導件数（令和5年度）
・点滴抗がん剤を含む治療患者対象：4,496件
・経口抗がん剤のみの治療患者対象：379件
薬剤師による総指導件数：4,875件

＜今後の課題＞

外来治療センターの治療実施件数の増加に伴い、点滴抗がん剤治療実施前の待ち時間増加や、正規のリクライニングチェア以外で治療を実施する状況があった。その対応策として、令和6年度5月より外来治療センターが病棟のエリアに移動し、今後、逐次、病床数を増加する予定である。移動に伴い管理業務を行うには動線が長く、患者観察が難しい環境となったが、今までと同様の投与管理の質の担保を維持することが課題である。

4.　がんゲノム医療センター

＜現　況＞

がんゲノム医療センターは、センター長今村博司、副センター長西田　勉のもと、がんゲノム診療部、臨床遺伝診療部を含む組織である。がんゲノム診療部は、部長西田　勉、臨床遺伝診療部は、部長冨田尚裕で運営している。センターのメンバーは表1を参照。

当センターは、質の高いがんゲノム医療と遺伝カウンセリングを提供する目的で、令和5年4月に設立された。がんゲノム診療部では、チーム医療によるがん遺伝子パネル検査を提案・実施している。臨床遺伝診療部では、遺伝専門医と認定遺伝カウンセラーががんゲノム診療部と連携して、診療と遺伝カウンセリングを行っている。センターは週1回のミーティングを通じて、がん遺伝子パネル検査に関する週間の照会と出検状況の確認を行い、院内外を含む勉強会や研究会の企画・実施により、がんゲノム医療の普及に努めている。令和7年度には、エキスパートパネルを自施設で開催し、出検数のさらなる増加をめざす。

表1　がんゲノム医療センターメンバー

	がんゲノム医療センター		
センター長	今村博司（医師）*※		
副センター長	西田　勉（医師）[1] *※		
	がんゲノム部門	遺伝性腫瘍部門	
部門長	西田　勉（医師）[1] *※	冨田尚裕（医師）[2][3] *+※	
所属メンバー	安田純子（看護師）[4] *#※	宮田海香子（遺伝カウンセラー）	
	二宮由紀恵（看護師）[5] *#※	大塚千代美（臨床検査技師）*#	羽田亜希（MA）
	鍋島　智（事務）*※	秋本和之（事務）*	
協力メンバー	川瀬朋乃（医師）[1] ※	足立史朗（医師）[8] ※	小池万里子（看護師）[5] #※
	秦　真由美（看護師）[4] #※	辻江智子（医師）[9] ※	佐藤泰史（医師）※
	西浦志保（看護師）[6] #	斎藤智子（看護師）[6] #	山内一浩（臨床検査技師）※
	久田真規子（薬剤師）[7] #※	田中美加（診療情報士）※	宮本美和（MSW）※
	荒木邦章（診療情報士）※	好井理世（遺伝カウンセラー）	

1）がん薬物療法専門医・指導医
2）臨床遺伝専門医・指導医
3）遺伝性腫瘍専門医・指導医
4）化学療法看護認定看護師
5）がん看護専門看護師
6）緩和ケア認定看護師
7）がん薬物療法認定薬剤師
8）病理学会専門医・指導医
9）日本産婦人科遺伝診療学会認定者（周産期）

*：がんゲノム医療センター所属（兼務）
+：非常勤職員
#：がんゲノムコーディネーター研修修了者
※：がんゲノム医療委員会委員

表2　令和5年度がん遺伝子パネル検査実施状況

	4月－6月	7月－9月	10月－12月	1月－3月	合計
新規依頼件数	15	6	13	8	42
検査説明外来実施件数	14	6	12	6	38
出検件数	13	7	12	6	38
エキスパートパネル件数	16	7	8	5	36
結果説明外来実施件数	17	7	10	2	36
中止・保留件数	4	3	3	0	10

表3　令和5年度診療科別相談件数／出検件数

	4月－6月		7月－9月		10月－12月		1月－3月		合計	
	相談件数	出検件数	相談件数	出検件数	相談件数	出検件数	相談件数	出検件数	相談件数	出検件数
乳腺外科		1					1	1	1	2
消化器外科	1	3			4	5	2	2	7	10
消化器内科	5	3	1	1	4	4	3	1	13	9
呼吸器内科	3	1	4	3	1				8	4
呼吸器外科	1		1	2			1	1	3	3
皮膚科					1				1	
泌尿器科	5	5		1	3	3	1	1	9	10
合計	15	13	6	7	13	12	8	6	42	38
非連携からの紹介			1	1					1	1

表4　がん遺伝子パネルの種類と出検件数

FoundationOne^{R} CDxがんゲノムプロファイル	26件	Qualifiedでの結果受領1件、リキッドでの再提出2件
FoundationOne^{R} Liquid CDxがんゲノムプロファイル	9件	Qualifiedでの結果受領1件、リキッドでの再提出1件
Onco Guide^{TM} NCCオンコパネルシステム	0件	
GeaMineTOP^{R}がんゲノムプロファイル	1件	
Gurdant360CDx^{R}がんプロファイルシステム	2件	

＜今後の課題＞

令和5年度のがん遺伝子パネル検査出検数は38件であった。令和4年度は45件と増加傾向であったが、今年度は減少した。この減少の原因を探るため、他施設のベッド数および出検数との比較分析を行い、特に出検数が少ない診療科に対しては、原因の確認と解決策を行う予定である。また、非連携病院からの医師の年間入れ替わりの多さも、がん遺伝子パネル検査の周知にかかる時間が長くなる一因と考えられる。年度初めには、eラーニングの開催や外部講師を招いた院内外の研究会・勉強会の計画を通じて、認知度の向上を図っていく。さらに、非連携病院からの紹介患者数を増やすことが出検数増加の鍵だが、現状では年間1～2件の増加に留まっている。今後は、自施設内でのエキスパートパネルの開催を通じて、非連携施設からの紹介数増加をめざす。しかし、スタッフが兼任で絶対的なマンパワー不足は大きな課題であり、人員の拡充が急務である。

＜研究研修事項＞

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■第3回市立豊中病院がんゲノム医療セミナー　◎

「大阪府の一がんゲノム医療連携病院　当院の3年間の報告と課題」

二宮由紀恵　　豊中市、市立豊中病院　　参加者：約70名　　令和5年9月29日

■第3回市立豊中病院がんゲノム医療セミナー　◎

「どうする　がんゲノム医療　次の一手！」

吉野孝之（国立がん研究センター東病院　副院長・医薬品開発推進部門長）

豊中市、市立豊中病院　　参加者：約70名　　令和5年9月29日

学会発表

■がんゲノム医療連携病院のがん遺伝子パネル検査の現状とがんゲノム医療センターの役割

二宮由紀恵、小池万里子、西浦志保、齋藤智子、秦　真由美、安田純子、大塚千代美、羽田亜希、久田真規子、川瀬朋乃、冨田尚裕、今村博司

第61回日本癌治療学会学術集会

千葉県　横浜市　ハイブリッド開催（パシフィコ横浜　会議センター）　令和5年10月19日－21日

■HBOC遺伝学的検査の乳がん患者への案内システムの構築　第2報

大塚千代美、二宮由紀恵、羽田亜希、小池万里子、西浦志保、好井理世、宮田海香子、赤木謙三、今村博司、冨田尚裕

第61回日本癌治療学会学術集会

千葉県　横浜市　ハイブリッド開催（パシフィコ横浜　会議センター）　令和5年10月19日－21日

Ⅵ　患者総合支援部の現況と研究研修事項

1. 地域医療連携室

＜現　況＞

地域医療連携室は、地域の医療機関と機能・役割に応じた病診・病病連携を推進する窓口として、地域の医療機関からの診療・検査の予約受付や転院受入れとともに、医師・看護師等と連携して急性期治療後の在宅復帰・転院時の退院調整などの支援を行っている。

今年度は、組織再編により新設された患者総合支援部内の組織として、患者支援室とともに、入院時から退院時を見据えた患者支援の実施に向け、業務の整理を開始した。また、医療機関訪問の再開や「市立豊中病院登録医総会」の対面開催などを通じ、地域の医療機関との連携維持・強化に努めた。一方で、「診療のご案内」や「チーム医療」など地域医療機関向けの広報誌の発行などを通じ、情報発信を行った。

1.「市立豊中病院登録医制度」の運用状況

（1）市立豊中病院登録医契約状況（令和6年3月31日現在）

〔医科〕登録医数　　586人

〔歯科〕登録医数　　211人

（2）開放型病床利用状況（5床設置）

利用延患者数　　396人

利用率　　21.6％

（単位：人）

	整形外科	泌尿器科	耳鼻いんこう科	合計
延患者数	26	210	160	396

（3）市立豊中病院登録医総会

開催日：令和5年4月22日（土）

場　所：千里ライフサイエンスセンター　サイエンスホール

案　件：当院運営状況の報告、診療科の再編等に関する情報提供、救急科特任顧問による講演

（テーマ「救急蘇生にまつわるお話～蘇生ガイドライン・救急蘇生法の指針を中心に～」）

参加者：登録医　18人（対面による参加）

2. 地域医療機関向け広報誌の発行

「診療のご案内」（診療科別パンフレット）　　8月発行

「チーム医療」　　6月、1月発行

3. 診療の予約業務等

地域医療機関からの診療依頼に対して適切な診療科への予約取得を行うとともに、診療経過・検査結果・入院経過などの報告の支援や、当日緊急受診要請・転院要請に対して、迅速かつ適切な受診調整、受入れ確認を行った。また、医療機関相互の診療情報提供依頼について迅速な対応に努めた。

紹介・逆紹介患者数及び紹介・逆紹介率　（単位：人）

診療科	紹介患者数	逆紹介患者数
内科（総合内科）	397	292
内分泌・代謝内科	472	840
呼吸器内科	880	882
血液内科	374	759
腎臓内科	450	571
脳神経内科	947	1,013
消化器内科	2,477	1,990
循環器内科	1,593	1,819
精神科	78	148
小児科	1,792	803
外科	267	258
消化器外科	401	1,956
呼吸器外科	39	156
乳腺外科	322	457
整形外科	2,126	1,780
脳神経外科	576	438
心臓血管外科	453	464
形成外科	335	29
皮膚科	1,706	2,109
泌尿器科	1,106	1,605
婦人科	726	487
産科	788	162
眼科	452	287
耳鼻いんこう科	1,828	1,598
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	0	4
放射線診断科	485	0
放射線治療科	77	134
救急科	1,143	937
歯科・歯科口腔外科	1,963	2,118
麻酔科	0	1
合計	24,253	24,097

紹介率　82.6％

逆紹介率　87.5％

4. 退院支援業務（医療福祉相談）業務

高齢世帯・高齢独居のケースも増加傾向にあり、認知症を合併しているなど支援の多様化が求められている状況下であるが、退院・転院等の調整・支援業務を行う中で、患者・家族の疾病に伴う心理・社会的な相談援助業務や、退院困難な患者に地域の関係機関と情報を共有している。

また、患者・家族が安心して在宅で過ごすことができるように、院内医師・看護師その他関係職種と在宅療養困難と考える要因など必要な情報の共有を図っている。

（1）退院支援業務

転帰先別退院支援件数

転帰先	件　数
在　宅	492件
病　院	1,106件
施　設	205件
死　亡	122件
計	1,925件

（内訳）

病院	一般病床	352件
	療養型病床	98件
	回復期リハビリ病床	561件
	精神病床	11件
	緩和病床	83件
	その他	1件

施設	介護老人保健施設	54件
	有料老人ホーム	98件
	その他	53件

（2）医療福祉相談業務

延べ相談援助件数（入院・外来別）

入院・外来別	件数
入院ケース	13,190件
外来ケース	649件
合　　計	13,839件

延べ相談援助件数（相談内容別）

相談内容別	件数
退院に関する相談	12,013件
介護・福祉制度に関する相談	87件
医療費・生活費に関する相談	41件
受診・療養に関する相談	264件
その他の相談	204件

※重複あり

＜今後の課題＞

紹介患者は回復傾向にあるものの、各診療科部長と連携し、医療機関訪問を行うなど、改めて地域医療機関と顔の見える関係づくりを行うとともに、予約取得に関し、紹介元となる地域医療機関における負担軽減と効率化が図られる仕組みの検討等を通じて、紹介患者の増加をめざす必要がある。退院支援については、患者支援室を初め院内における連携体制を強化し、患者支援を早期から開始するとともに、カンファレンスを積極的に実施することでさらに円滑に進めていく。

2.　患者支援室

＜現　況＞

（目的）

患者支援室は、患者総合支援部として地域医療連携室とともに組織再編され4月に新設された。看護師、薬剤師、管理栄養士が配属され、外来の一部であった療養サポートセンターの業務を引き継ぎ、入院前支援や療養支援を通して患者の不安の緩和や治療と生活の両立を多職種でサポートしている。

多職種での支援をスムーズにできるよう5月に支援室内を改修し、相談ブースを3室から4室に拡大した。この改修工事により、患者は席を移動することなく、医療者が交互に入れ替わりながら支援を行っている。支援の対象は、療養サポートセンターと同様に全身麻酔の手術とCAG,PCIを受ける予定入院患者であるが、看護師だけの関わりから、薬剤師や管理栄養士が加わり、より質の高い支援を行えるようになった。

令和5年度は仕事の見直しを進めるためのモデルケースとして、整形外科手術を受ける全予定入院患者に対して、持参薬の入院前鑑別、褥瘡ハイリスク文書作成等に取り組んだ。また、入院時の患者情報用紙を改定し、患者情報の入力方法を標準化した。多職種との対話を重ね、患者フローの最適化と業務の効率化を進めている

＜今後の課題＞

・各部署や部門と調整し、患者フローを最適化する。
・入院前支援の対象を全予定入院患者に拡大する。

入院前支援件数　　＊2022年度以前は療養サポートセンターのデータ

診療科		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
循環器内科	予約	2	3	1	2	2	3	0
	当日予約	126	153	93	118	115	95	95
外科	予約	806	853	813	701	742	803	773
	当日予約	32	35	26	25	15	12	18
整形外科	予約	245	285	352	309	330	355	404
	当日予約	68	69	64	39	33	40	100
脳神経外科	予約	38	35	28	28	40	24	34
	当日予約	1	1	2	0	1	1	4
心臓血管外科	予約	4	6	15	23	9	56	35
	当日予約	3	2	5	3	8	6	5
心臓血管外科（カテーテル）	予約	5	2	2	3	1	0	2
	当日予約	40	32	36	23	51	73	49
形成外科	予約							28
	当日予約							5
皮膚科	予約	33	30	47	37	44	46	51
	当日予約	2	0	3	1	1	0	1
泌尿器科	予約	184	172	220	226	262	277	263
	当日予約	3	7	2	2	3	2	3
婦人科	予約	208	212	227	183	196	207	208
	当日予約	8	4	6	5	2	4	2
産科	予約	3	3	4	2	3	3	0
	当日予約	0	1	0	0	0	0	0
耳鼻いんこう科	予約	181	195	240	147	162	198	207
	当日予約	2	3	2	0	1	0	0
計	予約	1,709	1,796	1,949	1,661	1,791	1,972	2,005
	当日予約	285	307	239	216	230	233	282
総計		1,994	2,103	2,188	1,877	2,021	2,205	2,287

療養相談件数（専門・認定看護師）

相談内容	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
高齢者	20	6	9	18	8	0	0
がん看護	25	16	28	22	15	13	0
化学療法	1	0	0	0	0	0	0
放射線治療	1	0	0	0	0	0	0
皮膚・排泄	12	14	7	19	24	28	33
脳卒中	17	0	0	0	0	0	0
嚥下	1	0	0	0	0	0	0
集中ケア	0	0	0	0	1	0	0
心不全	1	0	0	0	0	0	0
計	78	36	44	59	48	41	33

Ⅶ　その他の部門の現況と研究研修事項

1. 健診センター

＜現　況＞

健診センター長:中川副院長及び嘱託医（産業医）肥後の体制である。

健康診断業務　（下記１・2・8）と産業衛生活動業務（メンタルヘルスを含む健康管理や職業感染予防 下記3～7）が業務の主体である。

1. 一般健診（身体検査、海外渡航用健診、就職時健診、施設入所用検査など）
2. 豊中市公害検診
3. 結核患者に接触した病院職員検診
4. 病院職員の針刺し事故関連検診
5. 病院職員のワクチン接種（B型肝炎、インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘、ムンプス）
6. 面談:　(健康診断事後措置面談、メンタルヘルス面談、ストレスチェック面談、長時間労働面談)
7. 研修会「健康管理・メンタルヘルス」「予防接種」
8. 介護保険書類：受付事務

令和5年度は「長時間労働医師に対する面接指導」が強化されたため、面接指導の体制を大幅に変更した。これは令和6年度から法改正される医師の働き方改革に伴うものであり、法改正にむけて徐々に体制を構築した。産業保健関連の事業はほぼ例年どおり行った。健康診断業務は　海外渡航関連の書類の増加が特徴的であった。

＜健診・検診：業務件数＞

法定系一般健診：615件（英文書式255件)、公害検診：100件、結核検診:13件/1症例　針刺し事故関連検診：32症例

＜ワクチン件数＞

B型肝炎：98件、インフルエンザ：1,103件、MRワクチン：81件、ムンプス：17件、水痘:4件、同時接種（水痘とムンプス）：0件

＜面談数＞

健康診断に基づく事後措置面談：16件、メンタルヘルス面談：44件、ストレスチェック面談12件、長時間労働面談：上半期101件(対象者106人)、下半期12件(対象者12人)。　医師に対する長時間労働面談（単月毎）計282件

＜介護保険関連業務＞

介護保険意見書：1,326件（内取り下げ53件)、障害者自立支援書類：18件（内　取り下げ1件）

＜今後の課題＞

市民受診者には健康診断を通じて公的書類の作成や医療情報の提供を行う。精査が必要な所見があった場合、院内紹介も行う。病院職員には公務災害の減少とメンタルヘルス対策を最重点項目として労働安全管理の観点で産業衛生活動を行う。働き方改革関連の整備が今後の課題である。

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■イントロ研修　◎

「健康管理・メンタルヘルス」

肥後智子　　豊中市、市立豊中病院　　参加者11名　　令和5年4月4日

■研修医研修　◎

「予防接種」

肥後智子　　Web研修　　参加者11名　　令和5年10月

2. ベッドコントロールセンター

＜現　況＞

（目的）

ベッドコントロールセンターは緊急入院の要請に対して、病院全体における病床の状況を把握し、医療看護の専門性と患者視点や病床稼働状況を考慮しながら、迅速かつ柔軟に入院患者のベッド確保を行う。

新型コロナウイルス感染症対策による病棟編成の変更や、配置転換をはじめ生じる病棟の問題を、病棟師長、救急外来、地域医療連携室などの他部門と連携を図り把握しながら緊急入院の調整を行う。

（センターの構成）

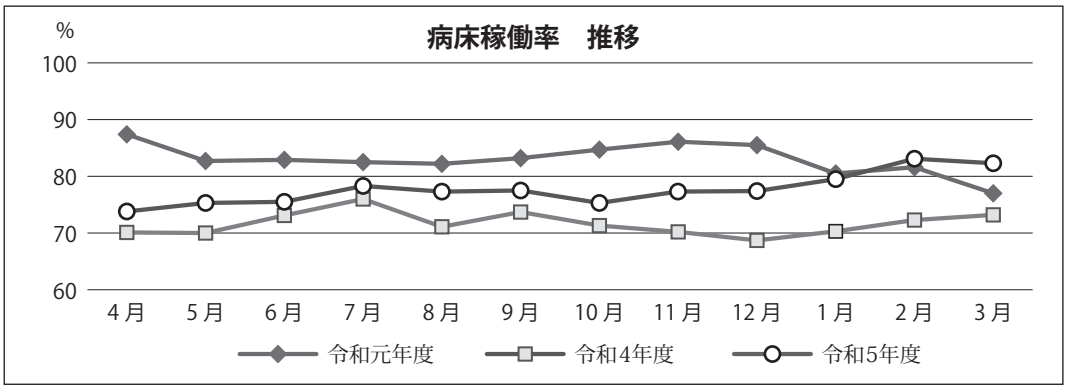
センター長1名、副センター長1名及びセンター員2名で構成している。

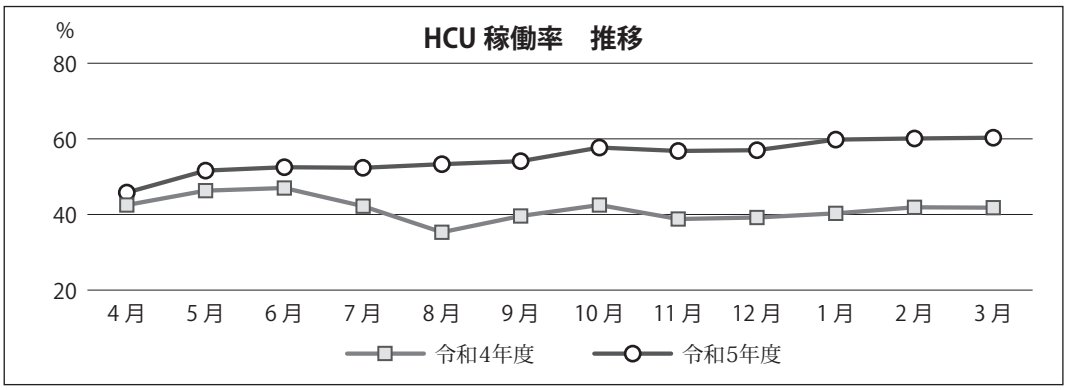
（業務内容）

令和5年2月より病棟の再編成が行われ、5月より新型コロナウイルス感染症が5類へ変更となった。

今年度の数値目標として、病棟病床稼動率を83％以上、HCU稼動率を60％以上とした。以下の取組みにより令和6年2月末の時点で、病床稼働率83.1％、HCU稼働率60.1％と目標を達成できた。

消化器センターの設置により、5階南病棟・6階南病棟・7階南病棟の3病棟で消化器内科・消化器外科の患者が流動的に入院できることとなり有効に病床の活用ができている。空床ベッドの把握は病棟ラウンドおよび入退床の決定時点での電話連絡にて行い、専門病床の優先入院及び3階北病棟の有効利用により、各病棟の空床確保を行った。また連続した入院を余儀なくされた場合は、外来・救急・病棟間の時間調整を行うことでスムーズな入院の受入れに繋げた。当日の転医受入れや翌日以降に当該病棟が受入れできない予定入院の調整も行った。HCU入院については救急外来医師と協力し、対象患者のHCU入室を各診療科医に提案した。また、HCUでのMegaOak使用はリスクが生じるとの判断から実施せず、代替案として緊急入院が多い消化器内科と循環器内科の医師がHCU病棟に出向かずともオーダーできるように、内視鏡室と救急外来に、アクシス端末を各1台ずつ配置し、HCU外でも指示だしができる環境を整備した。





＜今後の課題＞

1. 患者の退院予定を早期に把握し、入院患者の部屋指定をすることで空床状況の把握が確実となるため、医師・医事課・病棟師長との連携と、運用上の問題点の抽出および改善が必要となる。
2. HCUの稼働率は上昇しているが、今後も意識的にHCU利用を促していく必要がある。今後診療報酬改定の加算用件に合わせた患者の入室を検討していく。

3. メディカルアシスタント室

＜現　況＞

メディカルアシスタント（MA）室は、医師の事務軽減のためにもうけられた職種であるメディカルアシスタント（医師事務補助者）が所属している。

MA室には、常勤2名と事務職員2名、MA63名の計67名が所属している。MAは、13病棟に割り振られている診療科へ14名、外来の各診療科へ47名、MA室へ2名配置されており、令和3年10月には目標の施設配置基準15対1を達成した。

MA業務委員会で議論を行い、従来から配置希望のあった診療科への配置を終え、希望のある診療科には複数配置を進めながら、診療科以外の配置依頼のある部署への配置も行ってきた。ゲノム医療など新しく設立された部門や外来部門などに積極的に人員を配置している。

医師事務補助者業務としては、診断書などの文書作成補助、電子カルテ等への入力支援、医療の質の向上に資する事務作業（診療に関するデータ整理、院内がん登録等の統計・調査、医師の教育や臨床研修のカンファレンスのための準備作業等）や行政上の業務（救急医療情報システムへの入力、感染症サーベイランス事業に係る入力等）を行っている。近年では、医師の働き方改革のタスクシフト・タスクシェアとしてMAに業務の移管を行い、医師の業務軽減に努めている。

医師への業務補助として、日々進歩する医療の最先端を行く医師の業務軽減のために業務改善を行い、マニュアル化を進めている。しかし、コロナ禍により新型コロナウイルス陽性者や濃厚接触者が多発したため、スキルアップ研修を行うことができなかった。

MA室では、個々の診療科の仕事以外にも、外来未来院患者の対応や他院への検体送付などの業務も行っている。健診センターの業務についても毎日午前中にMAを派遣しており、ルミネスバッチの回収配布や内科・外科当直表の作成補助、応援医師の実積実施報告書の作成なども行い、事務的な業務も行っている。また、地域医療室と連携して紹介状の返書率の向上にも取り組んでいる。

＜今後の課題＞

1. 1名・2名配置の診療科ではMAが休暇時に支障をきたしているため、外来MAのグループ化を行い、MAの休暇時にも配置人員の維持をできるような体制を構築していく。さらに病棟MAについても、同じ診療科の外来MAが休暇対応できるようにしていく。すべての診察室へのMA配置を希望されている診療科もあり、グループ化により余裕のある曜日や時間帯は応援に回れるような体制を検討していく。
2. 各診療科からのヒアリングの結果、退院時サマリーの補助や同意書の説明などの業務の依頼があり、実現に向けて取り組んでいく。まずは一部の診療科から特定の疾患に関して退院時サマリーの下書きを開始していく。
3. 医師からの業務移管に耐えられる個々のスキルアップをはかるために、各診療科で医師による研修会を開催して診療科ごとの知識を強化する。医師事務補助者の業務能力に差があることから平準化をめざしていく。薬剤部よりスキルアップの研修を予定している。
4. さらなる返書率の向上のために地域医療室と議論して改善策を検討していく。紹介状の返書率向上だけでなく、診療結果や退院後の最終報告がきちんと行われるようにしていくための方策についても協議していく。
5. 医事課や医療情報室とも協議して業務の整理、効率化なども行っていく。

4.　医療情報室

＜現　況＞

医療情報室は、室長1名、室長補佐1名、診療情報管理係長兼副主幹1名、情報システム係長1名、情報システム係3名、診療情報管理係1名、会計年度任用職員等8名の職員で構成している。

情報システム関連では、次期病院情報システムの更新に向け、基本方針を策定するとともに、更新費用の算出を行い予算額の確定を行った。また、更新時期の検討により、新システムの稼働予定を令和8年1月としたことから、第3次医療情報化計画の計画期間を1年順延する改定を行った。さらに、次期病院情報システムの更新に先行して、サーバ機器の保守期限が終了となる医療用画像情報システム（PACS）の更新を行った。このほか、医療機関のサイバーセキュリティ対策について、国・府等からの求めに応じ必要な対策を講じた。

診療情報管理関連では、診療記録の質的監査について、監査方法及び監査表の見直しを行った。また、市立豊中病院における診療記録の開示に関する要綱の改訂を行うとともに、当院の診療記録の開示に係る業務について見直しを行った。さらに、退院時要約（退院時サマリー）の質的監査開始に向けて「退院サマリー作成に関するガイダンス（日本医療情報学会・日本診療情報管理学会）」に基づく、質的監査項目及び監査表の作成を行った。

＜主な実績＞

（1）各種会議の開催

常任委員会である「医療情報システム委員会」及び下部組織である「総合通信システム（TOPICS）定例会議」・「サイバーセキュリティ対策検討チーム」を開催した。また、専門委員会である「診療情報管理委員会」及び下部組織である「診療記録開示検討委員会」を開催した。

開催回数

医療情報システム委員会	7回
総合通信システム（TOPICS）定例会議	4回
サイバーセキュリティ対策検討チーム会議	2回
診療情報管理委員会	6回
診療記録開示検討委員会	1回

（2）第3次医療情報化計画の改定

他施設にてランサムウェアによるサイバー攻撃の被害を受けたことで、急遽セキュリティ対策に取り組んだことや、令和4年度中に決定した診療科再編への対応を優先して実施したことにより、当初の計画に遅延が生じたことから、計画の基本目標は変更せず、施策を1年順延することとした4年間の計画として再編し、計画の改定を行った。

（3）次期病院情報システム更新に向けた取組み

次期病院情報システムで実現すべき方向性について、当院の現状・課題の分析、同規模病院の導入事例や社会情勢などから「次期病院システムの基本方針」を策定した。基本方針に基づき、更新範囲や追加機能案などを選定し更新に係る費用を算出して予算化を行った。また、次期病院情報システムに要求する事項をまとめるため、仕様書作成ワーキンググループを立ち上げ、各社の機能一覧やデモなどを通じて調査を行い、仕様書作成のための準備を始めた。

（4）PACS更新について

次期病院情報システムの更新に先行して、サーバ機器等の保守サポートが終了するPACSの更新を行った。選定にあたっては、PACS選定ワーキンググループを立ち上げ、必要な機能・システム・機器等について検討

し、公募型プロポーザル方式により業者を決定した。また、新システム稼働後の運用・手順の見直し等についても、引き続きワーキンググループで実施し、令和6年（2024年）2月に新システムでの運用を開始した。

(5) 診療記録の質的監査の検討

これまでも質的監査については、患者ごとの1回の入院期間の医師の診療記録についてサンプリングにより監査対象となる医師・入院診療記録を選定し医師・看護師・コメディカル・診療情報管理士により監査を行っていたが、当該年度中にすべての医師が監査対象となるよう見直しを行った。また、退院時サマリーに関する質的監査について、診療記録等のマニュアルを整備するなど、実施に向けた準備を進めた。

(6)「市立豊中病院における診療記録の開示に関する要綱」の改定

令和5年4月の個人情報保護法の改正に伴い、豊中市個人情報保護条例が廃止となり、「市立豊中病院における診療記録の開示に関する要綱」の根拠法がなくなったことから、継続して診療情報の開示手続きが行えるよう要綱の改訂を行った。

(7) 上記以外の各係の取組み

●情報システム係

①サイバーセキュリティ対策

リモートメンテナンスの経路をファイアウォール経由での接続に変更することや、ウイルス対策ソフトのバージョンアップ、ログイン失敗によるアカウントロックの設定見直し等を実施した。

●診療情報管理係

②がん登録

「2022年診断症例」について、全国がん登録及び院内がん登録の提出を行った。

③豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会の活動

がん登録・情報部会において、三島医療圏と豊能医療圏のがん登録データを比較・分析し、報告を行った。また、大阪府がん診療連携協議会のがん登録部会において、豊能医療圏がん登録グループの活動についてグループリーダーとして報告を行った。

④臨床指標の作成

日本病院会が主催するＱＩプロジェクト2023に継続参加し、臨床指標データの作成・提出を行った。

＜業務実績＞

- 退院時要約（退院時サマリー）点検件数…… 15,899件
- 診療記録量的点検（手術記録）件数…… 5,616件
- 診療記録質的点検件数…… 120件
- 診療記録の開示件数…… 167件
- 「2022年診断症例」全国/院内がん登録提出件数…… 1,938件
- スキャン取り込み件数…… 58,127件

＜今後の課題＞

(1) 市立豊中病院第3次医療情報化計画に基づく実施計画について

市立豊中病院第3次医療情報化計画の幹となるシステム更新に向け、調達仕様書の調整や構築事業者の選定・運用調整や業務フローの見直しなど、令和8年1月に新システムがスムーズに稼動できるよう取り組んでいく。

(2) 診療情報等の活用の推進について

診療情報や蓄積されるデータの活用を推進するため、その基礎となる診療情報の質向上に向け、記載方法の見直しや点検（量的・質的点検）を通じた改善に取り組んでいく。また、情報技術を用いた診療実績の見

える化、臨床指標や臨床研究等の支援に取り組んでいく。

(3) ＩTの積極的な活用について

コロナ禍において、業務フローの変化に迅速な対応が求められてきたが、5類への移行後においても引き続き対応が求められている。また、大規模災害やサイバー攻撃が発生した場合においても、情報システムが継続して利用できる環境が求められている。病院機能を支えるため 、電子カルテシステムをはじめとする病院情報システムの運用管理及びICTの積極的な活用に加え、セキュリティ対策の強化に取り組んでいく。

今後、新たな課題である働き方改革や感染予防の観点、ICT業務継続の観点も踏まえ、引き続き、システムの適切な管理運営及び診療情報管理業務の充実に取り組んでいく。

研究会・集談会発表

■豊能二次医療圏　がん登録部会の活動について

荒木邦章

大阪府がん診療連携協議会 令和5年度 第 1 回 がん登録・情報提供部会

大阪国際がんセンター 大講堂　　令和5年6月6日

司会・座長・その他

■座長：佐々木啓充

医療情報人材に求められる・求める人物像

演者：大阪大学　武田理宏、他

日本医療情報学会関西支部2023年度第1回講演会（関西医療情報処理懇談会・関西医療情報技師会共同開催）　大阪大学中之島センター　令和5年10月21日

■司会：佐々木啓充

医療情報人材の育成　～医療情報技師の関わり～

演者：北海道科学大学　谷川琢海、他

関西医療情報技師会　第46回勉強会　医学研究所北野病院　令和6年2月12日

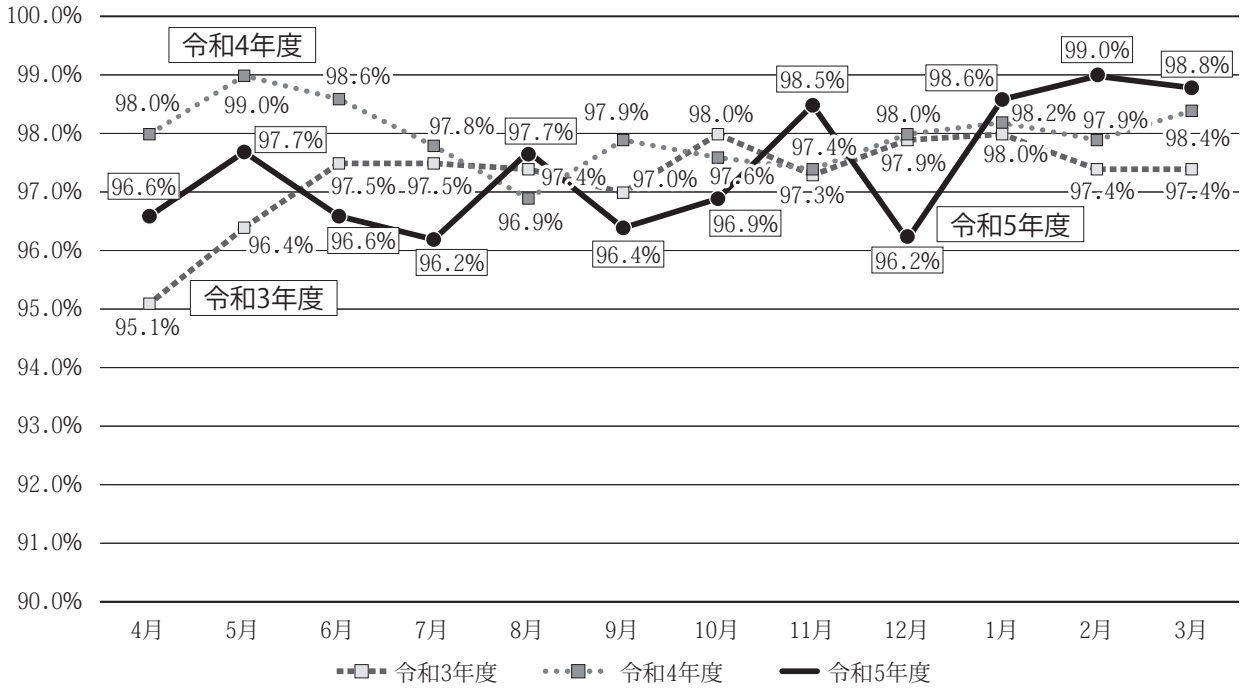
〇令和5年度　院内がん登録実績　部位別登録件数（2022年診断症例）

部位別登録件数　（単位：件）

部位	件数
口腔・咽頭	45
食道	48
胃	200
大腸	279
肝臓	81
胆嚢・胆管	33
膵臓	76
喉頭	7
肺	136
骨・軟部	10
皮膚	74
乳房	199
子宮頸部	65

部位	件数
子宮体部	39
卵巣	17
前立腺	203
膀胱	82
腎・その他の尿路系	65
脳・中枢神経系	36
甲状腺	22
悪性リンパ腫	81
多発性骨髄腫	22
白血病	27
他の造血器腫瘍	49
その他	42
総計	1,938

令和5年度　退院時要約作成率推移



令和5年度　疾病（大分類）・診療科別　退院患者数　（単位：人）

ICD-10コード	分類	内科（総合内科）	内分泌・代謝内科	呼吸器内科	血液内科	腎臓内科	脳神経内科	消化器内科	循環器内科	小児科	外科	消化器外科	呼吸器外科	乳腺外科	整形外科	脳神経外科	心臓血管外科	形成外科	皮膚科	泌尿器科	婦人科	産科	眼科	耳鼻いんこう科	リハビリテーション科	救急科	歯科口腔外科	総計
A00-B99	感染症及び寄生虫症	57	0	17	5	3	15	35	2	145	2	9	0	0	0	1	0	0	32	3	3	1	0	18	0	9	0	357
C00-D48	新生物<腫瘍>	8	5	341	411	0	4	885	3	12	9	527	34	158	36	43	0	21	142	782	414	0	0	58	0	2	50	3,945
D50-D89	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	6	0	1	48	0	0	30	14	17	0	7	1	7	0	0	0	0	6	3	2	2	0	0	0	4	0	148
E00-E90	内分泌、栄養及び代謝疾患	25	238	0	2	26	6	5	14	86	2	10	0	0	0	0	0	1	1	2	0	1	0	2	0	8	0	429
F00-F99	精神及び行動の障害	2	0	0	0	0	0	1	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	11
G00-G99	神経系の疾患	3	2	1	0	1	191	0	0	104	0	0	0	0	14	77	0	0	0	0	0	1	0	37	0	3	0	434
H00-H59	眼及び付属器の疾患	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	16	0	0	0	0	34
H60-H95	耳及び乳様突起の疾患	0	0	0	0	0	2	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	119	0	0	0	127
I00-I99	循環器系の疾患	3	1	4	2	7	346	57	809	3	0	1	0	0	0	227	278	3	6	3	3	2	0	0	0	3	0	1,758
J00-J99	呼吸器系の疾患	281	5	250	22	12	12	13	18	368	0	12	29	4	0	0	0	0	0	5	1	0	0	276	0	34	10	1,352
K00-K93	消化器系の疾患	5	1	0	7	0	0	1,331	3	33	174	474	1	6	0	0	0	1	0	9	9	1	0	7	0	5	198	2,265
L00-L99	皮膚及び皮下組織の疾患	5	0	0	1	1	0	0	0	31	0	1	1	2	0	0	2	22	90	4	0	0	0	5	0	1	4	170
M00-M99	筋骨格系及び結合組織の疾患	14	0	6	0	12	7	3	0	45	0	1	0	0	393	1	0	3	19	1	0	0	0	3	0	11	6	525
N00-N99	腎尿路生殖器系の疾患	100	2	2	4	275	1	10	5	29	8	7	0	1	0	0	2	1	1	278	174	10	0	13	0	9	0	932
O00-O99	妊娠、分娩及び産じょく<褥>	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	754	0	0	0	0	0	776
P00-P96	周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0	0	171	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	173
Q00-Q99	先天奇形、変形及び染色体異常	0	0	0	0	2	0	0	0	31	6	0	0	0	0	3	0	9	0	4	3	0	0	17	0	0	2	77
R00-R99	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	16	2	6	0	4	6	24	21	141	0	15	2	0	1	1	0	0	6	10	0	4	0	6	0	27	0	292
S00-T98	損傷、中毒及びその他の外因の影響	17	0	5	6	1	1	16	16	61	0	10	4	3	435	150	3	27	6	3	3	1	0	18	0	52	14	852
V01-Y98	傷病及び死亡の外因	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Z00-Z99	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0	0	0	0	0	0	0	17	1	0	9	0	0	2	0	1	0	0	1	1	3	412	0	0	0	0	447
U00-U99	特殊目的用コード（COVID-19）	199	2	12	17	4	0	4	1	26	1	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	6	0	279
総数		741	260	645	525	348	593	2,415	923	1,317	202	1,086	73	182	881	503	286	102	309	1,108	632	784	428	580	0	176	284	15,383

令和5年度　疾病（中分類）・診療科別上位3疾患　退院患者数　（単位：人）

診療科	ICD-10コード	分類	退院患者数	診療科	ICD-10分類	分類	退院患者数
全科	C15-C26	消化器の悪性新生物＜腫瘍＞	1,294	整形外科	M15-M19	関節症	175
	K55-K64	腸のその他の疾患	751		S50-S59	肘及び前腕の損傷	132
	K80-K87	胆のう＜嚢＞、胆管及び膵の障害	604		S40-S49	肩及び上腕の損傷	94
内科（総合内科）	U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類（COVID-19）	199	脳神経外科	I60-I69	脳血管疾患	222
	J09-J18	インフルエンザ及び肺炎	142		S00-S09	頭部損傷	144
	J60-J70	外的因子による肺疾患	112		G90-G99	神経系のその他の障害	65
内分泌・代謝内科	E10-E14	糖尿病	192	心臓血管外科	I70-I79	動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	180
	E20-E35	その他の内分泌腺障害	30		I80-I89	静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの	98
	E70-E90	代謝障害	7		T80-T88	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	3
呼吸器内科	C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞	322	形成外科	S00-S09	頭部損傷	18
	J80-J84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患	58		L80-L99	皮膚及び皮下組織のその他の障害	15
	J40-J47	慢性下気道疾患	52		H00-H06	眼瞼、涙器及び眼窩の障害	14
血液内科	C81-C96	原発と記載された又は推定されたリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞	372	皮膚科	C43-C44	皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞	73
	D37-D48	性状不詳又は不明の新生物＜腫瘍＞	37		L00-L08	皮膚及び皮下組織の感染症	51
	U00-U49	原因不明の新たな疾患の暫定分類	17		D10-D36	良性新生物＜腫瘍＞	25
腎臓内科	N17-N19	腎不全	185	泌尿器科	C60-C63	男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞	372
	N00-N08	糸球体疾患	75		C64-C68	腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞	364
	E70-E90	代謝障害	24		N20-N23	尿路結石症	98
脳神経内科	I60-I69	脳血管疾患	341	婦人科	C51-C58	女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞	186
	G40-G47	挿間性及び発作性障害	93		N80-N98	女性生殖器の非炎症性障害	159
	G60-G64	多発(性)ニューロパチ＜シ＞－及びその他の末梢神経系の障害	21		D10-D36	良性新生物＜腫瘍＞	105
消化器内科	C15-C26	消化器の悪性新生物＜腫瘍＞	808	産科	O80-O84	分娩	365
	K55-K64	腸のその他の疾患	662		O30-O48	胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題	140
	K80-K87	胆のう＜嚢＞、胆管及び膵の障害	371		O60-O75	分娩の合併症	116
循環器内科	I30-I52	その他の型の心疾患	436	眼科	Z80-Z99	家族歴、既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者	412
	I20-I25	虚血性心疾患	334		H25-H28	水晶体の障害	16
	I26-I28	肺性心疾患及び肺循環疾患	17	耳鼻いんこう科	J30-J39	上気道のその他の疾患	190
小児科	J09-J18	インフルエンザ及び肺炎	167		J00-J06	急性上気道感染症	82
	R50-R69	全身症状及び徴候	112		H65-H75	中耳及び乳様突起の疾患	56
	P05-P08	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	87	リハビリテーション科			
外科	K40-K46	ヘルニア	164	救急科	J60-J70	外的因子による肺疾患	26
	K35-K38	虫垂の疾患	7		S30-S39	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷	24
	N40-N51	男性生殖器の疾患	6		R50-R69	全身症状及び徴候	19
消化器外科	C15-C26	消化器の悪性新生物＜腫瘍＞	477	歯科口腔外科	K00-K14	口腔、唾液腺及び顎の疾患	198
	K80-K87	胆のう＜嚢＞、胆管及び膵の障害	228		C00-C14	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞	21
	K35-K38	虫垂の疾患	118		D37-D48	性状不詳又は不明の新生物＜腫瘍＞	19
呼吸器外科	C30-C39	呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞	27	総数（全科を除く）			10,760
	J90-J94	胸膜のその他の疾患	13				
	J85-J86	下気道の化膿性及び　え＜壊＞死性病態	7				
乳腺外科	C50-C50	乳房の悪性新生物＜腫瘍＞	143				
	C76-C80	部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞	14				
	D70-D77	血液及び造血器のその他の疾患	6				

令和5年度　診療科別・死亡退院患者数　　（単位：人）

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月	
	死亡	剖検	死亡	剖検	死亡	剖検	死亡	剖検	死亡	剖検	死亡	剖検	死亡	剖検
内科（総合内科）	2	0	2	0	1	0	4	0	4	0	7	0	4	0
内分泌・代謝内科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器内科	6	0	4	0	3	0	6	1	2	0	5	0	1	0
血液内科	1	0	3	0	2	0	0	0	2	0	2	0	3	0
腎臓内科	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
脳神経内科	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	2	0	0	0
消化器内科	5	0	4	0	5	0	3	0	9	0	10	0	3	0
循環器内科	3	0	3	0	1	0	2	0	2	1	0	0	1	0
小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器外科	2	0	2	0	2	0	1	0	4	0	1	0	4	1
呼吸器外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
乳腺外科	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
整形外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳神経外科	4	1	0	0	2	0	3	0	0	0	3	0	2	0
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
形成外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	1	0	2	0	1	0	1	0	0	0	1	0	3	0
産科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
婦人科	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻いんこう科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急科	0	0	2	0	1	0	0	0	2	0	4	0	2	0
歯科口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	27	1	25	0	19	0	24	1	26	1	39	0	23	1

	11月		12月		1月		2月		3月		合計	
	死亡	剖検	死亡	剖検	死亡	剖検	死亡	剖検	死亡	剖検	死亡	剖検
内科（総合内科）	6	0	3	0	6	0	7	0	7	0	53	0
内分泌・代謝内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
呼吸器内科	6	0	4	0	9	0	3	0	3	0	52	1
血液内科	4	1	5	0	2	0	3	0	3	0	30	1
腎臓内科	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	9	0
脳神経内科	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	9	0
消化器内科	2	0	5	0	6	0	4	1	4	1	60	2
循環器内科	3	0	3	0	2	0	1	0	1	0	22	1
小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器外科	2	0	1	0	1	0	6	0	6	0	32	1
呼吸器外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
乳腺外科	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0
整形外科	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0
脳神経外科	2	0	2	0	2	0	0	0	0	0	20	1
心臓血管外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
形成外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
泌尿器科	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	10	0
産科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
婦人科	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0
耳鼻いんこう科	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急科	4	0	2	0	6	0	4	0	4	0	31	0
歯科口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	33	1	28	0	41	0	29	1	29	1	343	7

5.　医療安全管理室

＜現　況＞

1）医事紛争への組織的対応

（1）事故調査及び分析と訴訟等対応

（2）提供した医療に対する相談支援及び苦情対応と院内メディエーションの実施

2）安全文化の醸成と事故防止活動

（1）事例等学習会によるリスク予知の訓練

①インシデントレポートの収集・分析及びフィードバックによる安全意識の喚起

・医療安全管理担当者会議においてインシデントレポートの分析、再発防止対策等を検討、提案し、医療安全管理委員会で承認、運営会議において組織内周知を図る。あわせて現場における事故学習会支援を強化

・医師の報告事例増加への働きかけ（研修医年間30事例提出の推奨、重症合併症の報告を促す、その他困ったことを発信してもらうなどの結果、職種別提出率が平成29年より徐々に増加がみられ、令和3年607件から令和5年は929 件と高い提出率を維持した）

・看護師の新採用者にも周囲に目を向けることと、リスク感性を育てる目的で30事例の目標を立て取り組んだ。

（各部署よりの年間インシデント報告件数）

所属	医務局	中央診療局	薬剤部	看護部	事務局他	合計
件	929	98	40	2,796	68	3,931件／1年間（前年比＋65）
比率	24%	2%	1%	71%	2%	100%

②0レベル分析の活用

・根本原因解析（RCA分析）、KYT基礎４ラウンド法等によるインシデント分析、事故学習会への参加による指導・助言及びゼロ災レポートの活用を継続教育、学習効果を検証し現場にフィードバックした。

③危険予知活動の実践による安全意識の定着

・新採用職員を対象とした危険予知トレーニングの実施

・病棟における転倒・転落、誤薬予防対策の強化と事故防止の啓発

・患者入院時の危険度チェック方法をケア介入につながるようにさらに改善

・薬剤部との連携による薬剤オーダ・麻薬に関わる事故等の事故防止対策の検討・実施

・不必要な抑制廃止に向けた研究と働きかけの継続、抑制適用患者に必要性を検討する安全カンファレンスの導入（抑制率令和3年6.8%→令和4年7.4%→令和5年6.3％）

④各部署に安全意識構築のための業務改善計画書を導入

今までの業務改善計画書を改定し、自分の所で起りやすいインシデントについて着目してもらい、問題点を明確にした上で対策に着手してもらった。年度末に振り返りの評価を入れてもらい、医療安全管理室で内容を検討・評価、その結果をフィードバック

（2）医療安全管理体制の整備

①医療安全管理組織及びインシデント管理体制の整理と強化

・インシデント発生時の現場責任者の教育（特に新人管理者）を行い、的確な対応のスピード化を図った。

・院内マニュアル等の作成等に際し、医療安全的視点より内容の審査を多職種で実施、安全性を高めることを継続した。

・事故発生時の現場の指揮とサポート、ADR（裁判外紛争処理）及び訴訟事例への対応

・報告書確認対策チーム活動により、画像診断の見逃し防止にのために既読チェックを推奨し、既読率を上げる取組みを行った。

② 患者急変時の対応強化による安全で効果的なチーム医療（RRS活動）の実施

・急変時対応記録の分析による現場指導、特に患者の変化に対し的確にとらえ対応できていたかを指導

・バイタル確認時に、患者の急変徴候を一番示すとされている呼吸の観察を必ず行うことと、記録に残すことを教育

・患者の変化に対しRRSの起動が行えているかの検証と、できていない事例に指導

③ 地域連携の強化によるリスク情報共有とリスク管理の強化

・大阪府看護協会府北西支部医療安全交流会での地域間情報共有（対面 or Web 4回／年）

・医療安全地域連携加算にかかる連携施設との相互評価の実施、連携病院をさらに増やし、客観的評価を多く受けられるようにした。（連携病院を4病院から5病院に増加）

・近隣施設との情報交換、情報共有をはかるためのネットワークをさらに拡大し活用しやすいように構築

④ 院内事故調査制度

・死亡報告制度の確立（院内発生の全死亡患者の状況調査、報告書提出率100％の維持）

・事故調査会3回／年、多職種での事例検討会2回／年、実施

⑤ 患者サポート体制の強化

・患者相談支援室にMSWを配置し、他部門との連携を強化

・患者相談支援室によせられた患者家族の情報は、各現場や患者サービス向上委員会に情報提供し活用

・高齢者、認知症、精神疾患などの患者で家族の支援が得られない患者には、治療方針の決定などの際に、多職種カンファレンスを開催し、意思決定を支援することを継続

・重症患者治療決定時の患者家族へのサポート体制として、重症患者サポートチームを立ち上げ、治療方針説明時に医療メディエーターとして介入するシステムを構築し、患者や家族が発言しやすくするとともに、納得した治療決定ができるよう働きかけた。

(3) 啓発・研修による安全行動の定着

①医療安全管理室ニュースの発行

・院内ポータルへの掲示及びメール配信、各部署・医師全員にはニュースを配布

②医療安全推進週間

・5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）活動の実践及び院内ラウンドを小規模に実施、結果をフィードバックし、その後改善を確認

③医療安全に関する研修の実施

・医療安全管理研修

第1回　講義形式　「大切なものは、目に見えない」 講師：吉川秀樹総長（ｅラーニング研修による補講実施）

第2回　映像＋寸劇　「あなたならどうする」 SMAP＋有志が参加（ｅラーニング研修による補講実施）

・新採用者研修

看護部：オリエンテーション、卒後研修、担当：中上紀子

研修医：イントロ　担当：中上紀子

・その他

セーフティマネジャー研修　「人はなぜ失敗をするのか？ヒューマンエラーの原因と対策」 講師：吉川秀樹総長

看護師昇格者研修　「市立豊中病院における医療安全管理」 担当：中上紀子

④外部より得た医療安全情報を院内に周知

院内ホームページ内、専用の所に掲示、職員には情報更新時その都度周知

＜今後の課題＞

高度治療や患者の高齢化など対象のニーズの多様性や、問題のさらなる複雑化に伴い、サポート体制の強化を続けてきたが、現場の初期段階での問題解決能力がまだまだ対応しきれておらず、内容を複雑化してしまう傾向があり、職員の医療安全管理能力に関する教育強化の必要性がある。また、不必要な抑制に関して最小化に向けた働きかけを行ってきたが、社会情勢上さらなる組織的な取組みが必要とされてきており、多職種連携の体制構築が必要。

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■第1回　医療安全管理研修　◎
「大切なものは、目に見えない」
吉川秀樹総長
豊中市、市立豊中病院　　参加者当日152人　eラーニング研修695人　　令和5年7月21日

■第2回　医療安全管理研修　◎
「あなたならどうする？」
医療安全担当者会議メンバー＋有志参加
豊中市、市立豊中病院　　参加者当日251人　eラーニング研修476人　　令和6年2月16日

■セーフテマネジャー研修　◎
「人はなぜ失敗をするのか？ヒューマンエラーの原因と対策」
吉川秀樹総長　　豊中市、市立豊中病院　　参加者119名　　令和6年3月8日

学会発表

■「身長・体重誤入力確認体制の構築」
中上紀子
第15回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会
持続可能な医療提供体制の構築－レジリエンスの重要性－
大阪市、大阪国際交流センター　　令和5年5月13日

■「医師のインシデントレポート提出率を高め医療安全文化の醸成をめざした取り組み」
中上紀子
第25回日本医療マネジメント学会　学術総会『病院医療の展望』
～「パンデミック・災害とBCP」から「求められる医療」へ～
神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　　令和5年6月23日

6. 感染対策室

＜現　況＞

当院の全ての患者および職員を院内感染から守り、安全で質の高い医療を提供するための感染防止対策活動を行う。

専従職員：看護師2名（感染管理認定看護師）

兼任職員：医師3名（呼吸器内科部長、小児科部長、外科部長）、薬剤師2名（AST専従・抗菌化学療法認定薬剤師・感染制御専門薬剤師）、臨床検査技師1名　　計6 名

地域連携

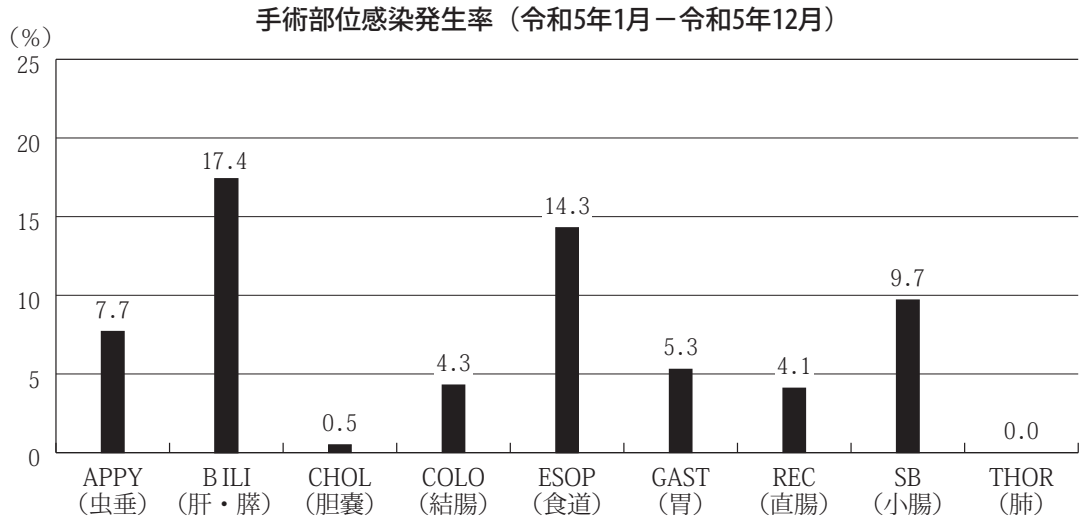
感染対策向上加算1

感染対策向上加算2・3の6施設と連携　合同カンファレンス　4回、新興感染症対応訓練　1回

関西メディカル病院、平成記念病院、豊中平成病院、北斗会さわ病院、豊中若葉会病院、千里中央病院

サーベイランスの実施

1. 手術部位感染（SSI）サーベイランス　平均4.2％

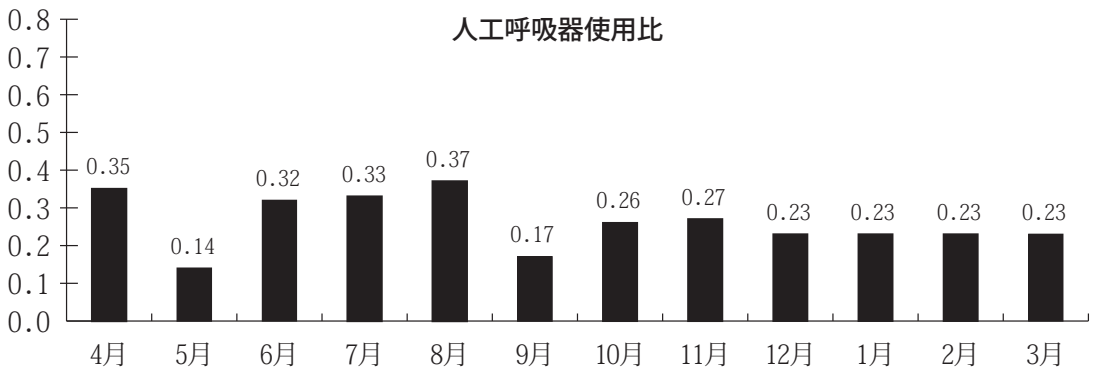


2. 人工呼吸器関連事象（VAE）サーベイランス令和5年4月～令和6年3月

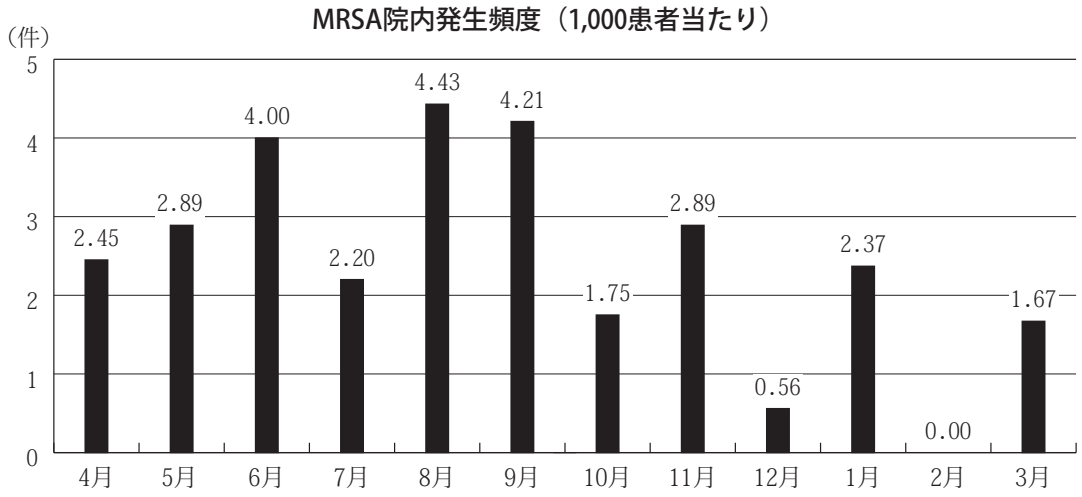
人工呼吸器使用日数　499　ICU入室延べ患者日数　1,881

人工呼吸器使用比　0.26

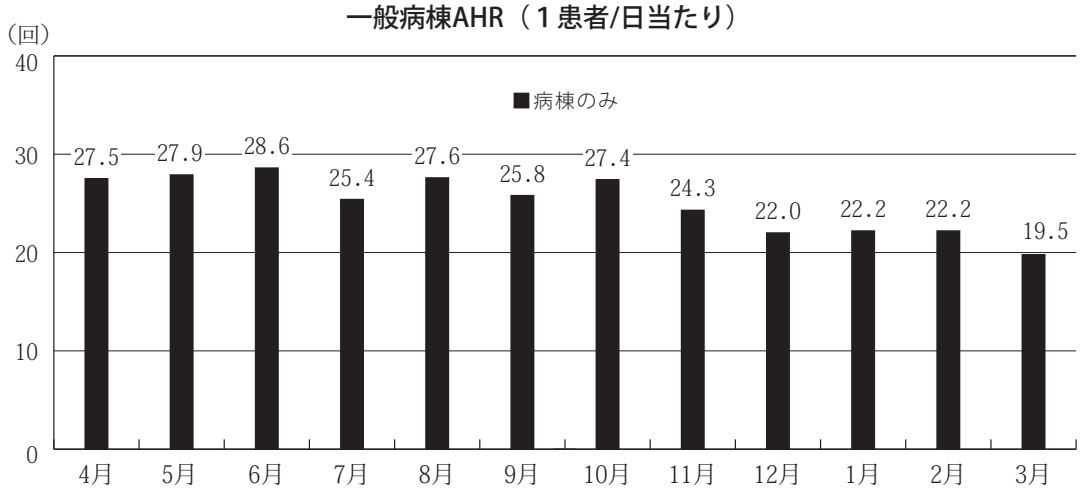
VAE発生頻度　　0件



3. 微生物サーベイランス
・MRSA院内発生頻度（1,000患者当たり）2.45件



4. 手指衛生サーベイランス
手指消毒使用回数　25.0回（1患者1日当たり）



5. ICT・ASTラウンド
ICTによる環境ラウンド　39回実施
ASTによる抗菌薬適正使用支援ラウンド　のべ231件実施

6. 感染管理指導
研修医イントロコース：ICT研修（臨床検査技師・薬剤師・看護師）
看護師新採用者オリエンテーション

第1回　感染対策・抗菌薬適正使用講習会　令和5年6月30日
・「Clostridioides difficile検査」 臨床検査部：笹垣貴美
・「C.difficile感染症の感染対策について」 感染対策室：鈴木徳洋
・「Clostridioides difficile感染症の治療について」 薬剤部：高久保佑一

第2回　感染対策・抗菌薬適正使用講習会　令和6年2月13日
・「AMRの感染対策と抗菌薬適正使用」　大阪健康安全基盤研究所：朝野和典

7. 職業感染管理
針刺し・切創・体液曝露　　32件
稼働ベッド数に基づいた発生率　5.2件(100稼働病床当たり)

＜今後の課題＞
・全職員の手指衛生実施率の向上
・医療関連感染サーベイランスのフィードバックの実施と改善
・2種感染症指定医療機関としての設備上の問題点の解消
・感染症診療における細菌検査の迅速な診断体制の整備
・豊中市内の医療機関および高齢者福祉施設の感染対策に関する地域ネットワークの構築
・感染制御に関する専門職人材（医師、看護師）の確保

著書

■多職種と上手に連携するにはどんなことに注意しているか？
鈴木徳洋
INFECTION CONTOROL　株式会社メディカ出版　令和5年10月

■行動経済学を利用した取り組み
鈴木徳洋
INFECTION CONTOROL　株式会社メディカ出版　令和6年3月

学会発表

■清掃の質向上を目指した評価による現状と今後の課題について
鈴木徳洋、赤瀬　望
第11回　日本感染管理ネットワーク学会学術集会
東京都　文京区、東京医科歯科大学　令和5年5月19日－20日

■（シンポジウム）ナッジを活用した手指衛生アドヒアランス向上の取り組み
鈴木徳洋、赤瀬　望
第38回　日本環境感染学会総会・学術集会
神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜ノース　令和5年7月20日－21日

講習・講演

■臨床における感染管理の実際Ⅰ
赤瀬　望
千里金蘭大学　吹田市、千里金蘭大学　令和5年4月19日

■臨床における感染管理の実際Ⅱ
鈴木徳洋
千里金蘭大学　吹田市、千里金蘭大学　令和5年4月26日

■感染防止技術　「薬剤耐性菌対策」
「科学的根拠に基づいた医療関連感染の予防と管理に必要な情報収集と分析」
鈴木徳洋
徳島大学看護リカレントセンター　認定看護師教育課程
徳島県　徳島市、徳島大学　令和5年7月10日－11日

■知っておきたい病原微生物
　鈴木徳洋
　　大阪府看護協会　リンクナースフォローアップ研修
　　吹田市、済生会千里病院　　令和5年8月29日
■感染に係る薬剤投与関連：感染に係る薬剤投与の管理の実際
　鈴木徳洋
　　日本看護協会神戸研修センター　特定行為研修
　　兵庫県　神戸市、日本看護協会神戸研修センター　　令和5年9月21日
■COVID-19との付き合い方
　赤瀬　望
　　豊中市介護保険事業連絡会
　　豊中市、地域共生センター　　令和5年9月25日
■医療関連感染サーベイランス　「侵襲的器具・処置に関連するサーベイランス（肺炎）」
　鈴木徳洋
　　徳島大学看護リカレントセンター　認定看護師教育課程　　Web開催　　令和5年9月26日
■感染症を看護ケアでどうとらえるか？
　鈴木徳洋
　　豊中市病院連絡協議会　看護部長会　　豊中市、市立豊中病院　　令和5年10月14日
■回復期リハビリテーション病院における感染対策について
　鈴木徳洋
　　関西リハビリテーション病院　　豊中市、関西リハビリテーション病院　　令和6年2月29日

7. 臨床研究センター

＜現　況＞

臨床研究センターは、令和元年度より新しく発足した部門で、主な業務内容は以下のとおりである。

•質の高い臨床研究、治験の実施に向けた支援業務
•当院で実施する臨床研究、治験の窓口・管理業務
•倫理委員会、治験審査委員会および利益相反委員会等の事務局業務
•臨床倫理的課題に関する検討の場の調整及び継続的な取組みへの支援業務

月1回の定例ミーティングで当センターの運営について話し合い、種々の課題に取り組んでいる。
今年度は特に、予算運営の見直しと、倫理委員会下部組織の設置要綱及び手順書の改訂、がん診療部と共催での個人情報取り扱いとゲノム医療に関する院内向け講習会を行なった。

スタッフ

センター長：　（副院長、消化器外科主任部長兼務）　今村博司
副センター長：　（薬剤部主任兼務）　赤羽美樹子
医師メンバー：　（中央診療局長、消化器内科主任部長）　西田　勉
　　（中央診療局次長、脳神経内科部長）　横江　勝
事務職員：3名

令和5年度内に継続中の臨床研究および治験件数等

臨床研究：207件（うち新規57件）
治験：3件（うち新規0 件）
市販後調査：107 件（契約中）

令和5年度に実施した倫理委員会、治験審査委員会、利益相反委員会

倫理委員会：通常審査12回、緊急審査21回　開催
治験審査委員会：11回開催
利益相反委員会：3回開催

令和5年度に実施した臨床倫理部会および臨床倫理事例検討会

臨床倫理部会1回、臨床倫理事例検討会1回　開催

＜今後の課題＞

1. 医師の治験・研究業務におけるタスクシフトを推進する。
2. 自己研鑽とされた研究の成果に対する評価・表彰・報奨制度を構築する。
3. 各種の指針・法令の変更に適正に対応して、院内研究業務を支援する。
4. 治験等受託研究費の中央費に関して、有効な活用方法を検討する。
5. 臨床研究、保険適応外診療の倫理審査手続きなど簡略化し、医師の業務削減と当センターの業務の効率化を促進していく。

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■院内セミナー『個人情報保護・ゲノム医療』 ◎

「がんゲノム医療をめぐるELSI（倫理的法的社会的課題）の話題から」

東京大学医科学研究所公共政策研究分野教授　武藤香織

豊中市、市立豊中病院　　51名（他、eラーニング受講者131名）　　令和5年6月19日

8. 教育研修センター

＜現　況＞

令和5年度、教育研修センターには1年次研修医が医科14人・歯科0人、2年次研修医が12人所属している。教育研修センターの役割は、より多くの研修医が医師としての社会的役割を認識しつつ、プライマリケアの基本的な能力を身につけることができるような研修環境・指導体制を整え、2年間（歯科は1年間）の研修プログラムにおける到達目標を達成し、修了に導くことである。

主な業務は、臨床研修の運営・管理に関し週1回のミーティングを通じて、①研修プログラムの作成、②募集と採用、③研修修了の承認、④研修医の指導・評価・フィードバック、⑤健康管理・労務管理・環境整備、⑥指導医・指導者の委嘱・評価・フィードバックなどを行っている。その協議・決定を臨床研修運営委員会が行い、プログラムの承認、研修医の採用、修了認定に関わる最終意志決定を臨床研修管理委員会が行う。研修医の指導は、指導医講習を修了した指導医やその他の上級医、看護師、薬剤師、中央診療局・医療安全管理室・地域医療連携室・医療情報室など各部門の指導者が行う。また、比較的若手の上級医・専攻医で構成される研修医サポートチームが、救急診療などに関する勉強会や実習の企画・実施を通じてプライマリケアの視点から指導にあたっている。

令和6年3月には、12人の2年次研修医全員の研修修了が臨床研修管理委員会で承認された。

＜今後の課題＞

教育研修センターの最重要目標は、当院で必要とする研修医を採用、育成し地域医療に貢献することである。そのためには、大阪府が定める基準を満たすことによって研修医の募集定員を確保することと、質の高い研修プログラムを提供することが重要である。また、可能な限り多くの研修医に当院で専門研修を受けてもらえるように、魅力ある専攻医の研修環境を整えていく必要がある。

これらの取組みを継続し、病院の基盤となる優秀な人材を育成する事により、中長期的に安定した病院の運営に貢献できると考えている。

研修医数の増加、マッチング試験受験者数の増加、外部の連携施設の増加、研修プログラムの多様化などに対応するため、指導医・指導者の更なる育成と、増加する業務に対応するための人員が必要である。

＜研究研修事項＞

学会発表

■進行食道胃接合部癌に対してニボルマブ投与終了後に副腎皮質機能低下症を発症した一例
富山幸穂、岡内幸義
第120回日本内科学会総会・講演会　東京都　千代田区、東京国際フォーラム　令和5年4月15日

■多発性骨髄腫に合併しボルテゾミブ投与で寛解した免疫性血小板減少性紫斑病
山野　茜、小澤孝幸
第118回近畿血液学地方会　大阪市、大阪国際交流センター　令和5年5月27日

■傍大動脈周囲リンパ節陽性胃癌に対してSOX+Nivoを行い、conversion surgeryをし得た1例
奥田忠宏、小田切数基
第45回日本癌局所療法研究会　東京都　千代田区、シェーンバッハ・サボー　令和5年6月2日

■高齢気管浸潤頚部食道癌に対してNivolumab+Ipilliummab療法で通過障害が改善した1例
奥田忠宏、小田切数基
第45回日本癌局所療法研究会　東京都　千代田区、シェーンバッハ・サボー　令和5年6月2日

■内視鏡切除を行い確定診断した十二指腸ブルンネル腺過誤腫の1例
稲見佳奈、中松　大
第110回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会　大阪市、大阪国際交流センター　令和5年6月24日

■灸治療による熱傷受傷後にMSSA椎体炎を来した糖尿病症例
山野　茜、岡内幸義
第240回日本内科学会近畿地方会　兵庫県　神戸市、神戸国際会議場　令和5年6月24日

■骨棘形成を伴う上腕三頭筋腱裂離骨折に対してsuture bridge法に準じて治療した1例
西村康佑、伏本カーディン、阿部真悟、吉田礼徳、栗山幸治
第49回日本骨折治療学会
静岡県　伊豆の国市、コンベンションアーツセンター　令和5年6月28日

■足関節内果疲労骨折遷延癒合に対して対外衝撃波治療を施行した1例
伏本カーディン、西村康佑、吉田礼徳、栗山幸治
第49回日本骨折治療学会
静岡県　伊豆の国市、コンベンションアーツセンター　令和5年6月29日

■周術期に高血糖性意識障害を認めた服薬アドヒアランス不良糖尿病患者の一例
有島史紘、香河清和
日本集中治療医学会第7回関西支部学術集会
兵庫県　神戸市、神戸国際会議場　令和5年7月29日

■灸治療後に methicillin-susceptible Staphylococcus aureus（MSSA）菌血症を伴う多発膿瘍を来した1例
奥野巴琉音、桐山圭司
日本集中治療学会　兵庫県　神戸市、神戸国際会議場　令和5年7月29日

■不適切な症状に対して長期高用量オピオイド投与中患者の全身麻酔中にオピオイド退薬症状を疑い、術後に集中治療室での鎮静人工呼吸管理下での観察を要した一例
古賀千絢、二宮万里恵
日本麻酔科学会2023年度支部学術集会　大阪市、大阪国際会議場　令和5年9月2日

■COVID-19に併発した細菌性肺炎に対するタゾバクタム/ピペラシリン投与中に乏尿性急性腎障害をきたした1例
立山みあり、福田俊悟、中山芙美、堅田梨穂、上野憲子、楠　康生、竹治正展
第241回日本内科学会近畿地方会　兵庫県　兵庫県、神戸国際会議場　令和5年9月2日

■開頭術中に原因不明の無脈性心室頻拍へ移行した1例
浜野彰太、八木拓也、奥野勇輔、滝本佳予、二宮万理恵、高田幸治
日本麻酔科学会2023年度支部学術集会　大阪市、大阪国際会議場　令和5年9月2日

■全身麻酔下でのホルミウムレーザー前立腺核出術（HoLEP）において、生理食塩水の体内吸収による高クロル性アシドーシスを来した術後人工呼吸管理を行った症例
深堀太翔、滝本佳予、奥野勇輔、桐山圭司、香河清和、高田幸治
日本麻酔科学会2023年度支部学術集会　大阪市、大阪国際会議場　令和5年9月2日

■クロルグルコン酸の消毒が原因と考えられたアナフィラキシーショックの1例
戎井　遼、奥野勇輔、小川達也、八木拓也、二宮万理恵、高田幸治
日本麻酔科学会2023年度支部学術集会　大阪市、大阪国際会議場　令和5年9月3日

■29週の二卵性双生児妊婦における腹腔鏡下胆嚢摘出術をなしえた一例
林　利空、山下雅史、清水潤三
近畿内視鏡外科研究会　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和5年9月30日

■L-アルギニン製剤使用中に著明な代謝性アシドーシスと高Ca血症をきたし緊急透析を要した1例
稲見佳奈、堅田梨穂
日本腎臓内科学会西部学術大会
岡山県　岡山市、岡山コンベンションセンター　令和5年10月7日－8日

■骨棘形成を伴う上腕三頭筋腱裂離骨折に対してsuture bridge法に準じて治療した1例
西村康佑、伏本カーディン、阿部真悟、吉田礼徳、栗山幸治
第61回大阪骨折研究会　大阪市、ブリーゼプラザ　令和5年11月4日
■Pseudo-thrombotic thrombocytopenic purpuraの一例
林　利空、木田　亨
日本血液内科学会近畿地方会　豊中市、千里ライフサイエンスセンター　令和5年11月25日
■双胎妊娠29週目に胆嚢炎に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した一例
林　利空、山下雅史、清水潤三
日本内視鏡外科学会総会　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　令和5年12月7日
■化学療法後胃癌における腹腔鏡下胃切除術の安全性・有用性
奥田忠宏、柳本喜智
第36回日本内視鏡外科学会　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　令和5年12月7日－9日
■腹腔鏡下回盲部切除術で治癒切除し術後5年無再発生存を得られた盲腸MALTリンパ腫の1例
古賀千絢、鈴木陽三
第36回日本内視鏡外科学会　神奈川県　横浜市、パシフィコ横浜　令和5年12月7日－9日
■左下肢動脈閉塞症を契機にLotus　root-like appearanceの冠動脈病変が判明した若年男性の一例
太田瑞貴、福岡秀忠
第136回日本循環器学会近畿地方会　大阪市、ナレッジキャピタル　令和5年12月16日
■高齢で発見された三心房心の一例
石元瑛仁、岡﨑由典
第136回日本循環器学会近畿地方会　大阪市、ナレッジキャピタル　令和5年12月16日
■臍ヘルニア修復術後に発生したSpigelヘルニアの一例
奥田忠宏、鈴木陽三
第17回関西ヘルニア研究会　大阪市、大阪スカイビル　令和5年12月16日
■術後の腹壁理解に対して減張縫合を用いた一期的縫合閉鎖術を施行した4例の検討
柳楽大樹、山下雅史
第36回日本外科感染症学会　福岡県　北九州市、北九州国際会議場　令和5年12月16日
■腎癌術後18年目に膵転移をきたした1例
三宅麻友、滝山浩希、松本健吾
日本消化器病学会近畿支部第120回　兵庫県　神戸市、神戸国際会議場　令和6年1月27日
■残胃癌に対する内視鏡アプローチの安全性
古賀千絢、柳本喜智
第96回日本胃癌学会総会　京都府　京都市、みやこメッセ　令和6年2月28日－3月1日
■ロボット支援下胃切除術におけるORGANRETRACTORを用いた術野展開の工夫
加藤梨佳子、柳本喜智、野間俊樹、川瀬朋乃、鈴木陽三、松下克則、山下雅史
第96回日本胃癌学会総会
京都府　京都市、みやこめっせ、ロームシアター京都　令和6年2月28日－3月1日
■市中病院における進行胃癌に対する腹腔鏡下胃切除術の治療成績
奥田忠宏、柳本喜智
第96回日本胃癌学会総会　京都府　京都市、ロームシアター京都　令和6年2月28日－3月1日
■当院におけるEGFR遺伝子変異陽性肺癌の治療成績
深堀太翔、小林　晶
第119回日本肺癌学会関西支部学術集会　兵庫県　神戸市、神戸商工会議所会館　令和6年3月2日

■経口GLP-1受容体作動薬セマグルチドによる腸管気腫症
奥野巴琉音、阪本直洋
内科学会近畿地方会　大阪市、梅田スカイビル　令和6年3月16日

■メトトレキサート排泄遅延に対して血液透析を実施した急性リンパ性白血病
河合莉央、木田　亨、楠　康生、高橋知也、小澤孝幸、政家寛明、田所誠司、小杉　智
第243回近畿地方会　大阪市、梅田スカイビル　令和6年3月16日

■経皮的腎動脈形成術（PTRA）にて進行性腎障害と高血圧の改善を認めた両側腎動脈狭窄を合併した急性心不全の一例
冨松侑真、福島直樹
第243回内科学会近畿地方会　大阪市、梅田スカイビル　令和6年3月16日

■遺残胆嚢内結石症に対して腹腔鏡下遺残胆嚢摘出術を施行しえた1例
岩崎　歩、飯島　賢、松下克則、山下雅史、清水潤三
第60回日本腹部救急医学会総会　福岡県　北九州市、北九州国際会議場　令和6年3月21日－22日

9. 事務局

医事課

＜現　況＞

今年度は、通常業務のほか新型コロナウイルス感染症流行後および3北病棟返還後の病床機能再編に係る調整業務、情報提供業務に注力した。

＜今後の課題＞

医事課のコア業務である入院診療報酬請求業務については、年末年始、GW、土日祝出勤があり人材確保の観点からも特に労働環境の改善が課題。統計業務については、業務改善のためBIツールの導入を進めており、病床稼動率など重要指標のモニタリングツールを作成し、日次、週次、月次報告を行った。

＜研究研修事項＞

学会発表

■多種システムを活用した手術手技料・関連加算における診療報酬請求精度向上及び効率化の検討

尾﨑祐紀

第61回　全国自治体病院学会 in 北海道

北海道　札幌市、札幌コンベンションセンター　　令和5年8月31日－9月1日

■施設基準管理士として施設基準の意義を知ってもらうために

尾﨑祐紀

日本施設基準管理士協会　第1回近畿地域部会inKOBE

兵庫県　神戸市、神戸市産業振興センター　　令和5年12月15日

Ⅷ　新型コロナウイルス感染症にかかる取組みについて

1. 概況

新型コロナウイルス感染症は令和5年（2023年）5月に2類感染症から5類感染症に移行した。しかしながら、大阪府から府内の医療機関に対して病床確保要請が行われるなど、引き続きの対策を行った。

経営面では、令和5年度の新規入院患者数は15,503人(前年度比約1,481人増)、病床利用率77.6％(前年度比約5.9ポイント増)となり、医業収益は約15億円の増収。国・府補助金額の減少により医業外収益は約19億円減収。結果、純損失は約6億5,000万円となった。

2. 院内の主な取組み

令和5年2月20日　病床の縮小（35床→19床）（3階北病棟：17床、ICU：2床）
3月1日　面会制限の緩和（フェーズ1）（対面面会開始・オンライン面会休止）
5月8日　病床の縮小（19床→18床）（3階北病棟：17床、ICU：1床）

3. 新型コロナウイルス感染症患者数

（1）入院受入患者数

令和5年		合計（4月1日～5月7日）
4月	5月	
9	3	12

（2）発熱外来患者数

令和5年		合計（4月1日～5月7日）
4月	5月	
63	16	79

4. 新型コロナウイルス感染症対策本部会議開催回数

年	月	開催回数
令和5年	4月	2回
	5月（5月8日開催）	1回
合計		3回

※5月9日以降は新型コロナウイルス感染症対策会議として、令和6年3月31日までに11回開催（うち9回メール会議）。

予 算 経 理 状 況

Ⅰ 予 算 経 理 状 況

Ⅰ　予算経理状況

令和5年度は、感染症対応医療体制から平時の医療体制への転換期に対応しながら、令和4年度に策定した「市立豊中病院運営計画(計画期間：令和5年度(2023年度)～令和9年度(2027年度))」に基づき、当院の果たすべき役割を達成するため、4つの取組方針に掲げた各重点目標に取り組んだ。

「急性期医療を中心とした医療機能の充実」では、新たに救急専門医1名及び救急用病床5床を確保して救急医療体制の強化を図り、救急車搬送患者は前年度6,843人を大きく超える8,253人を受け入れた。また、医師など医療スタッフを確保し、小児・周産期にかかる地域の中核病院としてその責務を果たした。

「地域医療の推進」では、地域医療機関との顔の見える関係づくりを再開させ連携強化を図るとともに、地域の医療従事者に対するセミナーを年6回実施した。

「医療の安全と患者サービスの向上」では、患者の利便性とサービスの向上のため、多職種・多部門の連携により入院前から退院後を見据えた切れ目のない支援を提供する患者支援体制充実の仕組みづくりに取り組んだ。

「安定した経営基盤の確立」では、診療科別、病棟別に新規入院患者数、病床稼働率等の指標を設定し、日次、週次でのモニタリングを実施するなど、各部門において経営向上に向けた取組みを行った。

また、働き方改革の推進では、令和6年4月から開始される医師の時間外労働上限規制適用を見据え、医師の健康を確保し、働きがいのある職場づくりに向けて長時間労働の改善に取り組むとともに、大阪府から特定労務管理対象機関指定申請に係る指定通知を受領した。

(経営成績について　金額はいずれも税抜)

収益面では、新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、入院収益は、前年度と比較して患者数が増加したことにより1,323,956千円(11.5%)増加した。また、外来収益は、前年度と比較して患者数は減少したが、診療単価が上昇したことにより176,894千円(3.1%)増加した。その結果、その他医業収益を含む医業収益は1,531,224千円(8.6%)増加した。

一方、新型コロナウイルス感染症受入体制に係る国・府補助金額の減少により、医業外収益は1,925,478千円(46.7%)減少し、収益的収入の総額は21,639,951千円となった。

費用面では、給与費は制度改正による会計年度任用職員への勤勉手当支給により、賞与引当金繰入額が増加した。材料費は、患者数の増加や物価高騰に加え、高額薬品の新規採用等もあり、薬品費、診療材料費ともに増加した。経費は、医療機器修繕費や手術業務等応援に係る報償費が増加した。その結果、医業費用は518,587千円(2.5%)増加した。

一方、高金利で借り入れた企業債の未償還残高の減少に伴う支払利息の減少により、医業外費用は32,775千円(2.8%)減少し、収益的支出の総額は22,298,714千円となった。

この結果、病院事業収支は658,763千円の純損失で、累積欠損金は448,385千円となった。

(建設改良事業について　金額はいずれも税込)

施設改良事業として、搬送設備整備工事や空調自動制御設備整備工事等を計145,505千円で実施した。また、院用備品(医療機器等)として、超電導磁気共鳴画像診断装置一式やＸ線透視装置等を計1,082,035千円で購入した。

1. 年度別予算・決算状況

(1) 収益的収支

単位：千円

区分	収入				支出			
	予算額	令和2年度との比率	決算額	令和2年度との比率	予算額	令和2年度との比率	決算額	令和2年度との比率
2	21,769,408	100.0	20,493,001	100.0	21,543,675	100.0	19,650,542	100.0
3	21,799,153	100.1	21,700,652	105.9	21,700,835	100.7	20,546,609	104.6
4	22,220,955	102.1	22,074,952	107.7	22,779,409	105.7	21,815,408	111.0
5	23,140,965	106.3	21,682,050	105.8	23,404,478	108.6	22,229,825	113.1
6	23,640,200	108.6	—	—	23,548,035	109.3	—	—

（金額は消費税込み。予算額は補正込み。令和5年度決算額は見込額）

(2) 資本的収支

単位：千円

区分	収入				支出			
	予算額	令和2年度との比率	決算額	令和2年度との比率	予算額	令和2年度との比率	決算額	令和2年度との比率
2	1,902,246	100.0	1,806,783	100.0	2,749,625	100.0	2,595,921	100.0
3	1,639,633	86.2	1,564,490	86.6	2,528,467	92.0	2,345,186	90.3
4	1,759,028	92.5	1,211,930	67.1	2,577,771	93.7	1,979,930	76.3
5	2,354,707	123.8	2,138,263	118.3	3,516,473	127.9	3,152,100	121.4
6	1,839,585	96.7	—	—	3,026,669	110.1	—	—

（金額は消費税込み。予算額は補正及び繰越額込み。令和5年度決算額は見込額）

2. 年度別収入・支出状況

(1) 収益的収入及び支出

収　入

単位：千円

科目	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	決算額	構成比率	決算額	構成比率	決算額（見込み）	構成比率
病院事業収益	21,660,865	100.0%	22,034,205	100.0%	21,639,951	100.0%
医業収益	16,415,537	75.8	17,907,758	81.3	19,438,983	89.8
入院収益	10,626,907	49.1	11,488,529	52.2	12,812,485	59.2
外来収益	5,091,514	23.5	5,705,449	25.9	5,882,344	27.2
その他医業収益	697,116	3.2	713,780	3.2	744,154	3.4
医業外収益	5,245,328	24.2	4,126,447	18.7	2,200,968	10.2
受取利息	20	0.0	30	0.0	839	0.0
他会計負担金	519,097	2.4	534,633	2.4	594,157	2.8
他会計補助金	385,505	1.8	413,138	1.9	396,756	1.8
補助金	3,626,554	16.7	2,489,486	11.3	518,262	2.4
長期前受金戻入	499,715	2.3	491,065	2.2	482,630	2.2
その他医業外収益	214,437	1.0	198,095	0.9	208,324	1.0
特別利益	—	—	—	—	—	—
その他特別利益	—	—	—	—	—	—

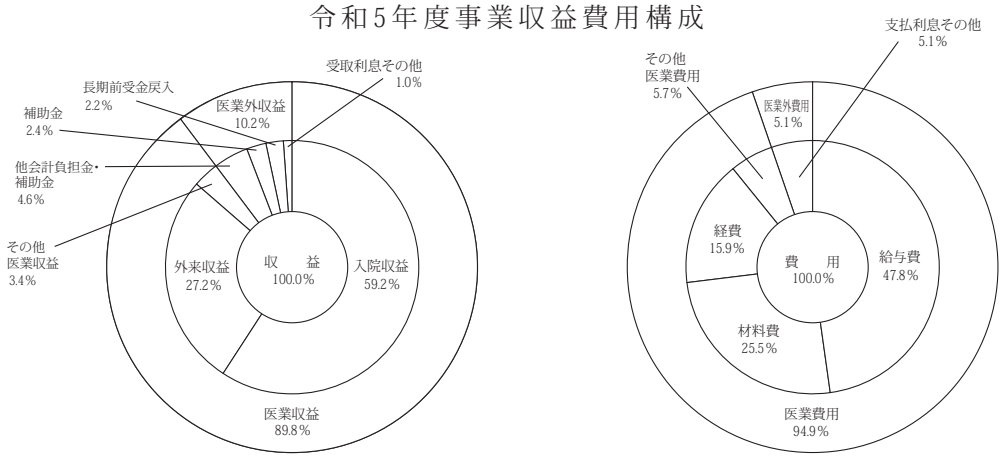
（金額については消費税抜き）

支　出　　単位：千円

科　目	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	決　算　額	構成比率	決　算　額	構成比率	決算額（見込み）	構成比率
病院事業費用	20,578,021	100.0％	21,812,901	100.0％	22,298,714	100.0％
医業費用	19,570,833	95.1	20,652,060	94.7	21,170,648	94.9
給与費	10,319,314	50.1	10,511,191	48.2	10,667,065	47.8
材料費	4,824,839	23.4	5,276,165	24.2	5,680,614	25.5
経費	3,099,197	15.1	3,473,307	15.9	3,554,417	15.9
減価償却費	1,267,372	6.2	1,291,653	5.9	1,188,619	5.3
資産減耗費	23,439	0.1	53,162	0.3	17,058	0.1
研究研修費	36,672	0.2	46,582	0.2	62,875	0.3
医業外費用	1,007,188	4.9	1,160,841	5.3	1,128,066	5.1
支払利息及び企業債取扱諸費	156,393	0.8	128,550	0.6	98,399	0.5
長期前払消費税勘定償却	—	—	—	—	—	—
看護師等確保費	9,391	0.0	9,363	0.0	6,829	0.0
雑損失	841,404	4.1	1,022,928	4.7	1,022,838	4.6
特別損失	—	—	—	—	—	—
その他特別損失	—	—	—	—	—	—

（金額については消費税抜き）

令和5年度事業収益費用構成



(2) 資本的収入及び支出

収　入　　単位：千円

科　目	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	決　算　額	構成比率	決　算　額	構成比率	決算額（見込み）	構成比率
資本的収入	1,564,490	100.0%	1,211,930	100.0%	2,138,263	100.0%
企業債	575,300	36.8	264,000	21.8	1,090,300	51.0
他会計負担金	949,803	60.7	945,098	78.0	1,015,297	47.5
国補助金	—	—	—	—	—	—
府補助金	20,492	1.3	—	—	—	—
寄附金	6,344	0.4	2,832	0.2	26,315	1.2
基金取崩金	12,551	0.8	—	—	—	—
基金収入	0	0.0	0	0.0	0	0.0
受託研究費	—	—	—	—	6,351	0.3

（金額は消費税込み）

支　出　　単位：千円

科　目	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	決　算　額	構成比率	決　算　額	構成比率	決算額（見込み）	構成比率
資本的支出	2,345,186	100.0%	1,979,930	100.0%	3,152,100	100.0%
建設改良費	783,189	33.4	420,634	21.3	1,227,539	38.9
企業債償還金	1,555,268	66.3	1,556,879	78.6	1,600,088	50.8
投資	6,729	0.3	2,417	0.1	324,473	10.3

（金額は消費税込み）

3. 年度別貸借対照表

単位：千円

科目＼年度	令和3	令和4	令和5	構成比率 令和3	構成比率 令和4	構成比率 令和5
				%	%	%
1. 固定資産	17,759,174	16,801,633	17,041,158	62.9	59.9	60.7
(1) 有形固定資産	17,706,124	16,754,388	16,680,263	62.7	59.7	59.4
イ 土地	2,443,725	2,443,725	2,443,725	8.6	8.7	8.7
ロ 建物	12,671,195	12,028,743	11,447,405	44.9	42.9	40.8
ハ 構築物	372,524	354,041	335,558	1.3	1.3	1.2
ニ 器械備品	2,165,151	1,885,112	2,418,395	7.7	6.7	8.6
ホ 車両	20,129	13,757	9,664	0.1	0.0	0.0
ヘ リース資産	25,798	21,401	20,608	0.1	0.1	0.1
ト 建設仮勘定	3,450	4,554	2,500	0.0	0.0	0.0
チ その他有形固定資産	4,152	3,055	2,408	0.0	0.0	0.0
(2) 無形固定資産	41,096	32,874	21,959	0.2	0.1	0.1
イ リース資産	－	－	－	－	－	－
ロ ソフトウェア	41,096	32,874	21,959	0.2	0.1	0.1
ハ その他無形固定資産	－	－	－	－	－	－
(3) 投資その他の資産	11,954	14,371	338,936	0.0	0.1	1.2
イ 基金	11,954	14,371	47,159	0.0	0.1	0.2
ロ 投資有価証券	－	－	291,777	－	－	1.0
2. 流動資産	10,469,314	11,251,809	11,015,616	37.1	40.1	39.3
(1) 現金・預金	6,465,306	7,315,826	7,556,694	22.9	26.1	26.9
(2) 未収金	3,736,428	3,626,771	3,180,307	13.3	12.9	11.4
(3) 貯蔵品	236,112	278,361	249,877	0.8	1.0	0.9
(4) 前払費用	29,443	29,518	27,465	0.1	0.1	0.1
(5) 前払金	2,025	1,333	1,065	0.0	0.0	0.0
(6) 仮払金	－	－	208	－	－	0.0
資産合計	28,228,488	28,053,442	28,056,774	100.0	100.0	100.0
3. 固定負債	8,989,508	7,800,742	7,483,956	31.9	27.8	26.7
(1) 企業債	6,824,914	5,488,826	4,873,439	24.2	19.6	17.4
(2) リース債務	－	－	－	－	－	－
(3) 引当金	2,164,594	2,311,916	2,610,517	7.7	8.2	9.3
4. 流動負債	3,638,652	3,974,202	4,388,328	12.9	14.2	15.6
(1) 企業債	1,556,879	1,600,088	1,705,687	5.5	5.7	6.1
(2) リース債務	－	－	－	－	－	－
(3) 未払金	1,332,661	1,650,524	1,833,825	4.7	5.9	6.5
(4) 引当金	643,576	630,157	742,256	2.3	2.3	2.6
(5) 預り金	105,536	93,433	106,560	0.4	0.3	0.4
5. 繰延収益	3,145,750	3,535,307	4,006,895	11.1	12.6	14.3
負債合計	15,773,910	15,310,251	15,879,179	55.9	54.6	56.6
6. 資本金	11,093,374	11,093,374	11,093,374	39.3	39.5	39.5
(1) 自己資本金	11,093,374	11,093,374	11,093,374	39.3	39.5	39.5
7. 剰余金	1,361,204	1,649,817	1,084,221	4.8	5.9	3.9
(1) 資本剰余金	1,372,130	1,439,439	1,532,606	4.8	5.2	5.5
イ 受贈財産評価額	407,304	407,304	407,304	1.4	1.5	1.5
ロ 寄附金	36,789	39,622	65,936	0.1	0.1	0.2
ハ 国庫補助金	17,756	17,756	17,756	0.1	0.1	0.1
ニ 府補助金	2,443	2,443	2,443	0.0	0.0	0.0
ホ 他会計負担金	907,838	972,314	1,039,166	3.2	3.5	3.7
ヘ その他資本剰余金	0	0	1	0.0	0.0	0.0
(2) 利益剰余金	△ 10,926	210,378	△ 448,385	0.0	0.7	△1.6
資本合計	12,454,578	12,743,191	12,177,595	44.1	45.4	43.4
負債･資本合計	28,228,488	28,053,442	28,056,774	100.0	100.0	100.0

（金額については消費税抜き。令和5年度は見込額）

4. 医業収益100円当たり要素別原価比較表

単位：円

科目 ＼ 年度		令和３	令和４	令和５
給与費	基本給	21.6	19.8	18.6
	法定福利費	8.4	7.8	7.3
	その他	32.9	31.1	29.0
	計	62.9	58.7	54.9
材料費	薬品費	19.2	20.3	20.3
	医療材料費	9.6	9.1	8.9
	給食材料費※	0.6	0.1	0.0
	計	29.4	29.5	29.2
	減価償却費	7.7	7.2	6.1
	資産減耗費	0.1	0.3	0.1
	研究研修費	0.2	0.3	0.3
	支払利息	1.0	0.7	0.5
	長期前払消費税勘定償却	—	—	—
	看護師等確保費	0.1	0.0	0.0
	雑損失	5.1	5.7	5.3
	特別損失	—	—	—
その他費用	厚生福利費	0.1	0.1	0.1
	報償費	1.7	1.7	1.7
	職員被服費	0.0	0.0	0.0
	消耗品費	0.6	0.6	0.5
	消耗備品費	0.1	0.1	0.1
	光熱水費	1.8	2.3	1.9
	燃料費	0.0	0.0	0.0
	印刷製本費	0.1	0.1	0.1
	修繕費	0.7	0.5	0.8
	保険料	0.3	0.2	0.2
	賃借料	1.3	1.2	1.1
	通信運搬費	0.1	0.1	0.1
	委託料	11.7	12.1	11.3
	貸倒引当金繰入額	0.0	0.0	0.0
	その他	0.4	0.4	0.4
	計	18.9	19.4	18.3
合計		125.4	121.8	114.7

（金額については消費税抜き。令和５年度は見込額）

（基本給＝給料＋地域手当＋扶養手当）

（医療材料費＝診療材料費＋医療消耗備品費）

※　給食材料費については、令和4年度から食材発注業務を委託化しており、直接購入分のみから算出。

5. 主な経営分析

科目				指数		
				令和3年度	令和4年度	令和5年度
(1) 固定資産構成比率	=	固定資産 / 総資産	×100	62.9%	59.9%	60.7%
(2) 自己資本構成比率	=	自己資本 / 総資本	×100	55.3%	58.0%	57.7%
(3) 流動比率	=	流動資産 / 流動負債	×100	287.7%	283.1%	251.0%
(4) 酸性試験比率	=	当座資産 / 流動負債	×100	280.4%	275.3%	244.7%
(5) 減価償却率	=	当年度減価償却費 / 期末償却資産＋当年度減価償却費	×100	7.6%	8.3%	7.7%
(6) 総収益対総費用比率	=	総収益 / 総費用	×100	105.3%	101.0%	97.0%
(7) 患者一人当たり診療収入　入院	=	入院収益 / 年延入院患者数		71,780円	73,948円	75,963円
外来	=	外来収益 / 年延外来患者数		19,489円	20,752円	21,582円
(8) 患者一人当たり薬品費	=	薬品費 / 年延入院・外来患者数		7,687円	8,437円	8,959円
(9) 入院患者一人当たり給食材料費	=	患者用給食材料費 / 年延入院患者数		706円	70円	50円
(10) 医業収益に対する医療材料費の割合	=	医療材料費 / 医業収益	×100	28.8%	29.4%	29.2%
(11) 医業収益に対する職員給与費の割合	=	職員給与費 / 医業収益	×100	62.9%	58.7%	54.9%
(12) 患者100人当たり検査件数	=	年間検査件数 / 年延入院・外来患者数	×100	759.6件	789.3件	801.5件
(13) 患者100人当たりX線件数	=	年間X線件数 / 年延入院・外来患者数	×100	30.5件	30.3件	29.6件

自己資本＝資本金＋剰余金（欠損金）＋評価差額等＋繰延収益
総資本＝負債資本合計
当座資産＝現金・預金＋（未収金－貸倒引当金）
医療材料費=薬品費＋診療材料費＋医療消耗備品費
償却資産＝有形固定資産＋無形固定資産－土地－建設仮勘定

（金額については消費税抜き。令和5年度は見込額）

6. 行政官庁認可事項

申請年月日	申　請　先	件　　名	認可年月日
5.4.27	近畿厚生局長	周術期栄養管理実施加算の施設基準に係る届出	—
5.4.27	近畿厚生局長	向精神薬多剤投与に係る報告書	—
5.4.27	近畿厚生局長	急性期看護補助体制加算　看護補助体制充実加算の施設基準に係る辞退届	—
5.4.27	近畿厚生局長	入退院支援加算　注8総合機能評価加算の施設基準に係る辞退届	—
5.4.27	近畿厚生局長	ニコチン依存症管理料の施設基準に係る辞退届	—
5.4.27	近畿厚生局長	医療点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1の施設基準に係る辞退届	—
5.4.27	近畿厚生局長	医療点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1の施設基準に係る辞退届	—
5.4.27	近畿厚生局長	医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1の施設基準に係る辞退届	—
5.4.27	近畿厚生局長	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1の施設基準に係る辞退届	—
5.4.27	近畿厚生局長	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1の施設基準に係る辞退届	—
5.4.27	近畿厚生局長	医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1の施設基準に係る辞退届	—
5.5.31	近畿厚生局長	導入期加算2の施設基準に係る届出	—
5.5.31	近畿厚生局長	腎代替療法指導管理料の施設基準に係る届出	—
5.5.31	近畿厚生局長	がん治療連携計画策定料の施設基準に係る届出	—
5.5.31	近畿厚生局長	新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取り扱いに伴う報告〔R5-Ⅰ〕	—
5.7.27	近畿厚生局長	入院基本料等に関する実施状況報告書	—
5.7.27	近畿厚生局長	入院基本料等に関する実施状況報告書	—
5.7.27	近畿厚生局長	特別の療養環境の提供（入院医療に係るもの）に係る届出状況報告書	—
5.7.27	近畿厚生局長	初診等の保険外併用療養費届出状況報告書	—
5.7.27	近畿厚生局長	地域医療体制確保加算に係る報告書	—
5.7.27	近畿厚生局長	地域医療体制確保加算に係る報告書	—
5.7.27	近畿厚生局長	疾患別リハビリテーションに係る症例報告書	—
5.7.27	近畿厚生局長	看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する体制	—
5.7.27	近畿厚生局長	医師の負担の軽減及び処遇の改善に資する体制	—
5.7.27	近畿厚生局長	褥瘡ハイリスク患者ケア加算に係る報告書	—
5.7.27	近畿厚生局長	糖尿病透析予防指導管理料に係る報告書	—
5.7.27	近畿厚生局長	がんゲノムプロファイリング検査に係る報告書	—
5.7.27	近畿厚生局長	看護職員処遇改善評価料　賃金改善計画書	—
5.7.27	近畿厚生局長	看護職員処遇改善評価料　実績報告書	—
5.7.27	近畿厚生局長	診療録管理体制加算に係る報告書	—
5.7.27	近畿厚生局長	選定療養及び歯科衛生実地指導等の実施状況報告書（歯科）	—
5.7.27	近畿厚生局長	急性期看護補助体制加算　看護補助体制充実加算の施設基準に係る届出	—
5.7.27	近畿厚生局長	看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する体制	—
5.7.27	近畿厚生局長	術後疼痛管理チーム加算の施設基準に係る届出	—
5.7.27	近畿厚生局長	向精神薬多剤投与に係る報告書	—
5.8.30	近畿厚生局長	CT撮影及びMRI撮影の施設基準に係る届出（MRI撮影　機器の追加と取下）	—

申請年月日	申　請　先	件　　名	認可年月日
5.8.30	近畿厚生局長	CT撮影及びMRI撮影の施設基準に係る届出（MRI撮影　機器の取下）	—
5.9.27	近畿厚生局長	脳卒中ケアユニット入院医療管理料の施設基準に係る届出（患者の重症度、医療・看護必要度に係る評価方法の変更）	—
5.9.27	近畿厚生局長	がん治療連携計画策定料の施設基準に係る届出	—
5.9.27	近畿厚生局長	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術の施設基準に係る届出	—
5.10.17	大阪府	地域医療指数(体制評価指数)等の確認に係る届出	—
5.10.24	大阪府	地域医療指数(体制評価指数)等の確認に係る届出(Ⅱ)	—
5.10.26	近畿厚生局長	下肢創傷処置管理料の施設基準に係る届出	—
5.10.26	近畿厚生局長	初診料及び外来診療料の注2、注3に掲げる報告書	—
5.10.26	近畿厚生局長	向精神薬多剤投与に係る報告書	—
5.10.26	近畿厚生局長	硬膜外自家血注入の施設基準に係る届出	—
5.11.16	近畿厚生局長	特例により届出を行わなかった対象機関等における報告について	—
5.11.27	近畿厚生局長	新生児治療回復室入院医療管理料1の施設基準に係る辞退届	—
5.11.27	近畿厚生局長	妥結率等に係る報告書	—
5.11.27	近畿厚生局長	脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術の施設基準に係る届出	—
6.1.4	近畿厚生局長	小児入院医療管理料4の施設基準に係る届出	—
6.1.4	近畿厚生局長	看護職員処遇改善評価料62の施設基準に係る届出	—
6.1.29	近畿厚生局長	小児入院医療管理料4　注7　養育支援体制加算の施設基準に係る届出	—
6.1.29	近畿厚生局長	酸素の購入価格に関する届出書	—
6.1.29	近畿厚生局長	向精神薬多剤投与に係る報告書	—
6.1.29	近畿厚生局長	がん治療連携計画策定料の施設基準に係る届出	—
6.1.29	近畿厚生局長	前立腺針生検法の施設基準に係る届出	—
6.3.28	近畿厚生局長	一般病棟入院基本料１（7対1）の施設基準に係る届出	—
6.3.28	近畿厚生局長	麻酔管理料（Ⅰ）の施設基準に係る届出	—
6.3.28	近畿厚生局長	精密触覚機能検査の施設基準に係る届出	—

7. 給与費構成表

単位：千円

科目		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
		決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比
給料		3,071,670	29.8%	3,082,484	29.3%	3,132,552	29.3%
手当等	地域手当	412,455		412,262		419,433	
	扶養手当	59,548		60,505		61,566	
	通勤手当	87,244		89,445		91,386	
	住居手当	98,821		95,761		92,368	
	管理職手当	64,212		59,988		64,634	
	時間外勤務手当	734,898		768,619		771,177	
	特殊勤務手当	359,549		405,532		313,554	
	期末勤勉手当	948,294		983,442		1,069,685	
	夜間勤務手当	79,434		82,688		81,362	
	児童手当	40,785		38,645		36,625	
	初任給調整手当	347,770		340,213		338,464	
手当等計		3,233,010	31.3%	3,337,100	31.7%	3,340,254	31.3%
賞与引当金繰入額		540,791	5.2%	530,737	5.1%	623,947	5.9%
報酬		1,338,924	13.0%	1,470,635	14.0%	1,453,989	13.6%
法定福利費		1,376,861	13.3%	1,391,084	13.2%	1,413,299	13.2%
法定福利費引当金繰入額		102,785	1.0%	99,420	0.9%	118,309	1.1%
退職給付費		663,204	6.4%	607,863	5.8%	593,022	5.6%
給与費合計		10,327,245	100.0%	10,519,323	100.0%	10,675,372	100.0%

（金額については消費税込み。令和5年度は見込額）

8. 委託業務

1．保守点検業務
　　医療機器　　149件
　　医療用ガス設備
　　防災監視システム
　　エレベーター
　　搬送設備
　　総合情報通信システム
　　電話交換機　　他7件
2．院内等清掃業務
3．検体検査業務
4．設備総合管理業務
5．警備・防災業務
6．物流管理業務
7．医事業務
8．保育所運営業務
9．廃棄物処理業務
10．患者食調理業務
11．電話交換業務
12．その他　　80件

9.　院用備品購入主要品目

所　　属	品　　名	メーカー	型　　式
医療情報室	画像保存通信システム（PACS)機器一式	富士フイルム	SYNAPSE VM:170TB他
医療情報室	電子カルテ端末一式	HP	15.6型ノートPC（7H130PA#ABJ）
医療情報室	PDA端末　TC52xHC(プロテクター付き)	ZEBRA	TC52xHC
眼科	白内障手術装置CENTURION	日本アルコン	K-CNVS
看護部	ベッドパンウォッシャー	ニチオン	S-570
看護部	減圧沸騰式洗浄器RQ-50S	三浦工業	RQ-50S
血液内科	クリーンベッドA型	日本医化器械製作所	BED-A
呼吸器内科	EVIS LUCERA ELITE気管支ビデオスコープ	オリンパス	BF-P290
集中治療部	多機能リハビリ機器 Sara Combilizer	アルジョジャパン	APA1000-JP
手術部	筋弛緩モニタリング装置ＡＦ－２０１Ｐ	日本光電	AF-201P、VA-201R
手術部	超音波プローブ高水準消毒装置 trophon2	ナノソニックス	trophon2
手術部	治療用電気手術器Valleylab FT10	コヴィディエンジャパン	VLFT10GEN
手術部	電気手術装置ZERUK-W	泉工医科工業	ZERUK-W
循環器内科	臨床用ポリグラフ	日本光電	RMC-5000
循環器内科	血行動態モニタ ヘモスフィア	エドワーズライフサイエンス	HEMPC2
消化器外科	鏡視下手術装置一式	日本ストライカー	1688AIM4Kカメラコンソール他
超音波センター	超音波画像診断装置（生理機能検査室）	フィリップス	EPIQ CV x Ultrasound system
超音波センター	超音波画像診断装置（5階北病棟）	富士フイルム	ARIETTA 750SE
超音波センター	超音波画像診断装置（６階北病棟）	フィリップス	CX50 Circular Edition
超音波センター	超音波画像診断装置（手術室心外用）	GEヘルスケア	Venue Fit R4
超音波センター	超音波画像診断装置（救急科）	GEヘルスケア	Vscan Air SL
超音波センター	超音波画像診断装置（歯科口腔外科）	フィリップス	Lumify（7インチ）
内視鏡部	消化器内視鏡システム	オリンパス	CV-1500、GIF-1200N　他
内視鏡部	十二指腸用スコープED-580T	富士フイルム	ED-580T
脳神経外科	ルナ脳ベラ固定器一式	ユフ精器・東機貿	1203.001他
泌尿器科	光学視管70°φ4mm一式	オリンパス	WA2T470A他
泌尿器科	光学視管	オリンパス	ＷＡ　２Ｔ　４１２Ａ、WA2T430A
病院総務課施設係	無停電電源装置	三菱電機	FW-S10-5.0K
病理診断科	滑走式ミクロトーム	大和光機工業	リトラームREM-710・SB
放射線診断科	ベッドサイドモニタPVM-4761	日本光電	PVM-4761
放射線部	X線透視装置Azurion7 B20	フィリップス	Azurion7 B20
放射線部	造影剤注入装置	根本杏林堂	スマートショット
放射線部	ドライレーザーイメージャ　DRYPIX EDGE	富士フイルム	DRYPIX EDGE 3T 6BH
放射線部	超電導磁気共鳴画像診断装置一式	フィリップス	Ingenia Elition　3.0T X Evolution Upgrade 1.5Tパッケージ

所　　属	品　　名	メーカー	型　　式
麻　酔　科	全身麻酔装置　Perseus A500	ドレーゲルジャパン	MK06000
薬　剤　部	バイオハザード対策用キャビネット	ユヤマ	YS-B-A170ⅡB2
薬　剤　部	散薬調剤ロボットMini DimeRo	ユヤマ	YS-SBRm－1
臨床検査部	尿定性・尿沈査装置一式	栄研化学・シスメックス	US-3500・US-1200・UF-5000
臨床検査部	フォルムネットシステム	フクダコーリン	COL-FN2-F、COL-FN2-PC
臨床検査部	リムセイブMT-7500	富士フイルム和光	472－94091
臨床検査部	卓上遠心機	久保田商事	S700T
臨床工学部	セントラルモニタ2式	フクダ電子	DS-1812RE

※購入金額は100万円（税込）以上のものについて掲載

10.　保存工事の概況

（税込、単位：円）

工　　事　　名	工　事　費	着工年月日	竣工年月日
市立豊中病院空調設備改修工事（NICU,GCU)	30,933,100	令和5年9月8日	令和6年1月26日
市立豊中病院空調自動制御設備整備工事（4期工事）	31,350,000	令和5年6月29日	令和6年2月28日
市立豊中病院地下1階厨房消火設備整備工事	9,462,200	令和5年8月10日	令和6年2月29日
市立豊中病院職員駐車場泡消火ポンプ等改修工事	24,651,000	令和5年8月28日	令和6年2月29日
市立豊中病院搬送設備整備工事	41,771,400	令和5年6月29日	令和6年3月15日
市立豊中病院ボイラー軟水化装置整備工事その2	7,337,000	令和5年11月2日	令和6年3月15日
市立豊中病院エレベーター設備改修工事	599,940,000	令和5年12月28日	令和7年12月10日

業　務　概　況

Ⅰ 患　者　状　況
Ⅱ 病　床　利　用　状　況
Ⅲ 診　療　収　入　状　況
Ⅳ 各　種　業　務　状　況
Ⅴ 院　内　保　育　所　業　務
Ⅵ そ　の　他　諸　行　事
Ⅶ 市立豊中病院運営計画（令和５年度～令和９年度）

Ⅰ　患者状況

1. 科別外来患者数

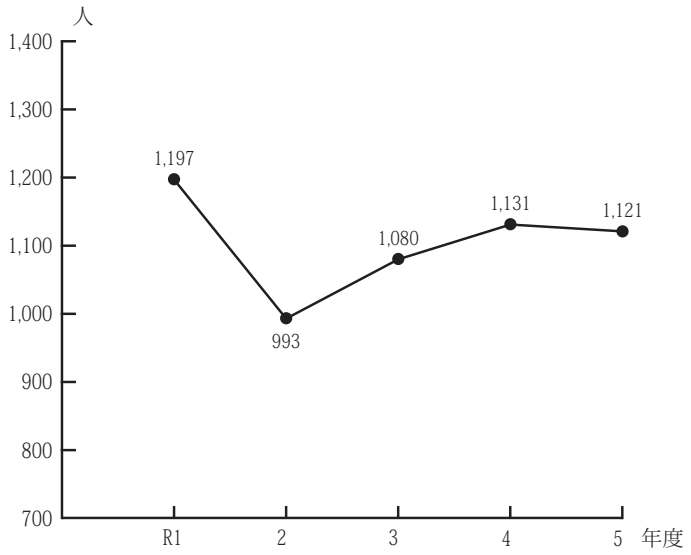
（単位：人、％）

区分 / 科別	初診患者		再診患者		延患者数			
		一日平均		一日平均		一日平均	構成比	通院日数
内科（総合内科）	910	3.7	2,986	12.3	3,896	16.0	1.4	4.3
内分泌・代謝内科	294	1.2	11,948	49.2	12,242	50.4	4.5	41.6
呼吸器内科	512	2.1	7,858	32.3	8,370	34.4	3.1	16.3
血液内科	173	0.7	12,428	51.1	12,601	51.9	4.6	72.8
腎臓内科	227	0.9	7,091	29.2	7,318	30.1	2.7	32.2
脳神経内科	664	2.7	6,741	27.7	7,405	30.5	2.7	11.2
消化器内科	1,983	8.2	37,620	154.8	39,603	163.0	14.5	20.0
循環器内科	919	3.8	15,394	63.3	16,313	67.1	6.0	17.8
精神科	51	0.2	799	3.3	850	3.5	0.3	16.7
小児科	2,112	8.7	7,120	29.3	9,232	38.0	3.4	4.4
外科	277	1.1	5,484	22.6	5,761	23.7	2.1	20.8
消化器外科	214	0.9	14,280	58.8	14,494	59.6	5.3	67.7
呼吸器外科	11	0.0	1,792	7.4	1,803	7.4	0.7	163.9
乳腺外科	307	1.3	7,566	31.1	7,873	32.4	2.9	25.6
整形外科	1,633	6.7	14,752	60.7	16,385	67.4	6.0	10.0
脳神経外科	350	1.4	4,196	17.3	4,546	18.7	1.7	13.0
心臓血管外科	347	1.4	4,918	20.2	5,265	21.7	1.9	15.2
形成外科	294	1.2	1,635	6.7	1,929	7.9	0.7	6.6
皮膚科	1,312	5.4	10,531	43.3	11,843	48.7	4.3	9.0
泌尿器科	817	3.4	13,786	56.7	14,603	60.1	5.4	17.9
産婦人科	1,242	5.1	20,060	82.6	21,302	87.7	7.8	17.2
眼科	322	1.3	4,478	18.4	4,800	19.8	1.8	14.9
耳鼻いんこう科	1,614	6.6	8,159	33.6	9,773	40.2	3.6	6.1
リハビリテーション科	0	0.0	5,093	21.0	5,093	21.0	1.9	－
放射線診断科	359	1.5	164	0.7	523	2.2	0.2	1.5
放射線治療科	42	0.2	4,112	16.9	4,154	17.1	1.5	98.9
救急科	8,186	22.4	5,453	14.9	13,639	37.3	5.0	1.7
歯科・歯科口腔外科	3,239	13.3	7,487	30.8	10,726	44.1	3.9	3.3
麻酔科	1	0.0	210	0.9	211	0.9	0.1	211.0
合計	28,412	116.9	244,141	1,004.7	272,553	1,121.6	100.0	9.6

●診療実日数＝ 243日

●通院日数＝ 延患者数 ／ 初診患者数

年度別一日平均患者数（外来）



2. 科別入院患者数

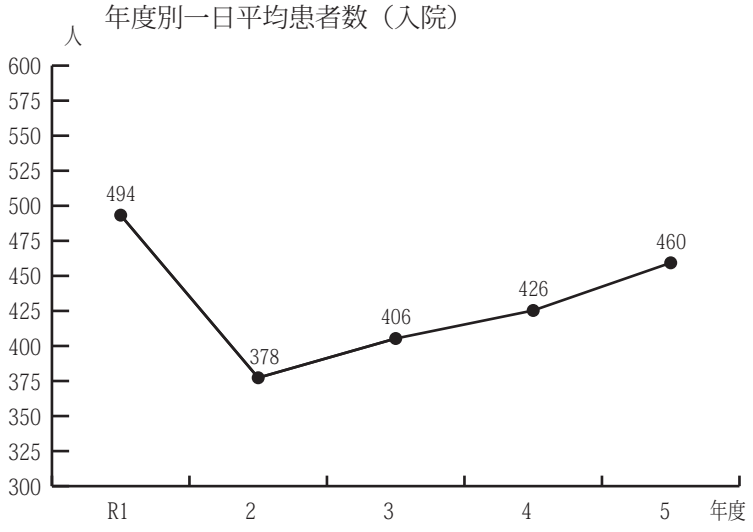
（単位：人、％）

区分／科別	入院患者数	退院患者数	うち、死亡数	延患者数	一日平均	構成比	平均在院日数
内科（総合内科）	812	740	53	11,410	31.2	6.8	13.8
内分泌・代謝内科	254	260	1	3,631	9.9	2.2	13.1
呼吸器内科	635	647	52	8,174	22.3	4.8	11.7
血液内科	512	525	30	10,428	28.5	6.2	19.1
腎臓内科	342	348	9	4,670	12.8	2.8	12.5
脳神経内科	593	593	9	10,012	27.4	5.9	15.9
消化器内科	2,443	2,415	60	25,880	70.7	15.3	9.7
循環器内科	928	923	22	9,507	26.0	5.6	9.3
小児科	1,396	1,317	1	9,204	25.1	5.5	5.8
外科	232	201	0	847	2.3	0.5	3.0
消化器外科	1,042	1,086	32	16,585	45.3	9.8	14.6
呼吸器外科	67	73	1	1,016	2.8	0.6	13.5
乳腺外科	172	182	3	2,059	5.6	1.2	10.6
整形外科	874	881	2	12,551	34.3	7.4	13.3
脳神経外科	505	503	20	7,173	19.6	4.3	13.2
心臓血管外科	284	286	0	1,663	4.5	1.0	4.8
形成外科	101	102	0	1,165	3.2	0.7	10.5
皮膚科	302	309	1	4,037	11.0	2.4	12.2
泌尿器科	1,091	1,108	10	8,776	24.0	5.2	7.0
産婦人科	1,413	1,416	3	10,955	29.9	6.5	6.7
眼科	428	428	0	930	2.5	0.6	1.2
耳鼻いんこう科	577	580	3	3,573	9.8	2.1	5.2
リハビリテーション科	0	0	0	0	0.0	0.0	－
救急科	214	177	31	2,325	6.4	1.4	11.0
歯科・歯科口腔外科	286	286	0	2,097	5.7	1.2	6.3
麻酔科	0	0	0	0	0.0	0.0	－
感染症	0	0	0	0	0.0	0.0	－
合計	15,503	15,386	343	168,668	460.8	100.0	9.9

●診療実日数＝366日

●平均在院日数＝$\dfrac{\text{延患者数}-\text{退院患者数}}{(\text{入院患者数}+\text{退院患者数})\div 2}$

年度別一日平均患者数（入院）

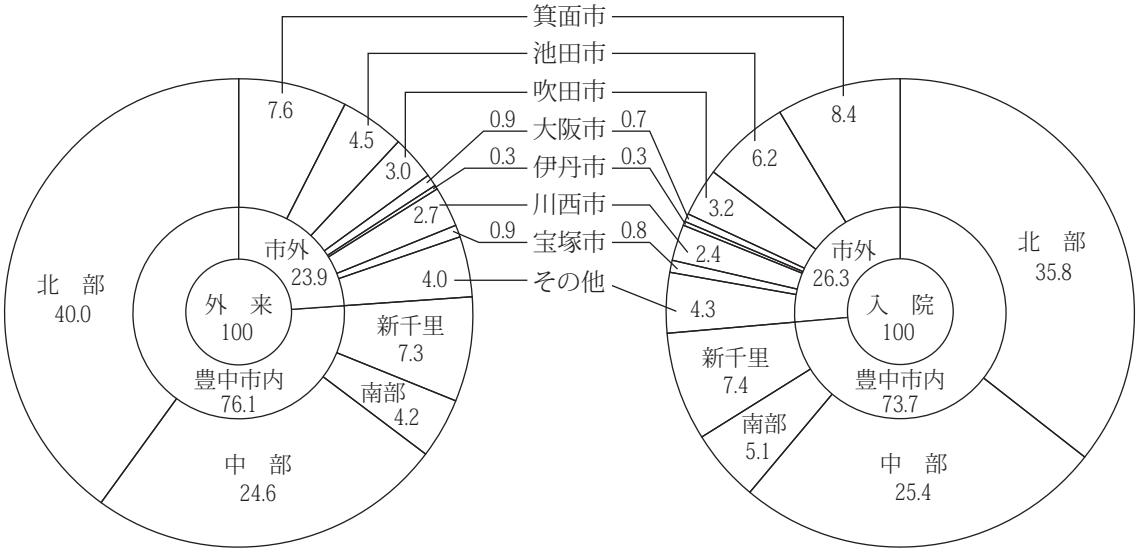


3. 地域別外来入院患者数

（単位：人、％）

地域＼区分		外来患者数					入院患者数				
			一日平均	構成比	前年度 患者数	前年度 構成比		一日平均	構成比	前年度 患者数	前年度 構成比
豊中市	北部	109,101	449.0	40.0	109,563	39.9	60,372	165.0	35.8	55,705	35.9
	中部	67,117	276.2	24.6	67,595	24.6	42,845	117.1	25.4	38,024	24.5
	南部	11,384	46.8	4.2	12,217	4.4	8,663	23.7	5.1	7,747	5.0
	新千里	19,821	81.6	7.3	20,061	7.3	12,447	34.0	7.4	9,949	6.4
	小計	207,423	853.6	76.1	209,436	76.2	124,327	339.7	73.7	111,425	71.7
市外	箕面市	21,007	86.4	7.6	20,683	7.5	14,103	38.5	8.4	13,251	8.5
	池田市	12,325	50.7	4.5	12,122	4.4	10,402	28.4	6.2	10,085	6.5
	吹田市	8,063	33.2	3.0	7,636	2.8	5,319	14.5	3.2	4,435	2.9
	大阪市	2,402	9.9	0.9	2,570	0.9	1,159	3.2	0.7	1,429	0.9
	伊丹市	913	3.8	0.3	914	0.3	543	1.5	0.3	472	0.3
	川西市	7,227	29.7	2.7	7,931	2.9	4,111	11.2	2.4	4,857	3.1
	宝塚市	2,360	9.7	0.9	2,502	0.9	1,390	3.8	0.8	1,316	0.8
	その他	10,833	44.6	4.0	11,142	4.1	7,314	20.0	4.3	8,089	5.2
	小計	65,130	268.0	23.9	65,500	23.8	44,341	121.2	26.3	43,934	28.3
合計		272,553	1121.6	100.0	274,936	100.0	168,668	460.8	100.0	155,359	100.0

（単位：％）



4. 外来、入院、科別、月別患者数

科別		月別患者数 4	5	6	7	8	9	10
外来	内科（総合内科）	811	607	475	284	306	239	207
	内分泌・代謝内科	743	904	1,066	1,048	1,101	1,044	1,060
	呼吸器内科	602	616	748	712	730	713	745
	血液内科	923	920	1,019	1,033	1,133	1,071	1,126
	腎臓内科	481	556	583	578	670	618	627
	脳神経内科	607	629	667	656	625	599	632
	消化器内科	3,149	3,229	3,663	3,206	3,165	3,234	3,504
	循環器内科	1,334	1,366	1,452	1,243	1,395	1,238	1,427
	精神科	66	70	81	65	74	64	80
	小児科	688	756	853	805	832	787	766
	外科	843	761	729	490	465	436	317
	消化器外科	955	967	1,173	1,170	1,135	1,277	1,338
	呼吸器外科	107	124	145	165	178	169	132
	乳腺外科	577	587	585	656	639	657	767
	整形外科	1,317	1,388	1,538	1,302	1,336	1,312	1,506
	脳神経外科	404	338	376	354	323	315	422
	心臓血管外科	430	510	468	425	502	403	461
	形成外科	40	64	79	108	148	151	171
	皮膚科	978	1,021	1,047	962	892	996	1,079
	泌尿器科	1,296	1,324	1,211	1,139	1,273	1,111	1,162
	産婦人科	1,690	1,746	1,948	1,782	1,824	1,718	1,791
	眼科	459	395	406	416	403	415	428
	耳鼻いんこう科	819	794	820	746	864	830	859
	リハビリテーション科	316	403	448	415	438	385	405
	放射線診断科	54	40	49	30	38	37	53
	放射線治療科	334	299	350	324	378	411	280
	救急科	875	1,023	1,046	1,282	1,334	1,134	1,064
	歯科・歯科口腔外科	846	884	922	862	965	820	914
	麻酔科	16	10	12	15	11	14	12
	合計	21,760	22,331	23,959	22,273	23,177	22,198	23,335
	一日平均	1,088.0	1,116.6	1,089.0	1,113.7	1,053.5	1,109.9	1,111.2
	診療実日数	20	20	22	20	22	20	21
	健康診断	42	48	42	55	51	37	31
	人間ドック	0	0	0	0	0	0	0
	その他	68	98	90	73	91	101	104
	計	110	146	132	128	142	138	135

科別		月別患者数 4	5	6	7	8	9	10
入院	内科（総合内科）	565	752	652	812	1,135	1,155	811
	内分泌・代謝内科	471	389	337	317	255	331	215
	呼吸器内科	634	631	704	807	719	714	775
	血液内科	1,003	931	907	852	817	682	806
	腎臓内科	383	407	429	351	344	335	417
	脳神経内科	715	857	809	909	927	801	841
	消化器内科	2,053	2,079	2,016	2,410	2,257	2,103	2,213
	循環器内科	881	731	664	625	749	728	819
	小児科	750	999	1,000	992	763	700	556
	外科	70	72	80	93	58	66	83
	消化器外科	1,214	1,424	1,205	1,281	1,285	1,495	1,478
	呼吸器外科	57	65	73	91	196	124	68
	乳腺外科	123	136	170	173	187	140	126
	整形外科	998	1,010	990	1,148	1,120	962	1,093
	脳神経外科	756	730	604	512	464	593	481
	心臓血管外科	162	132	140	149	136	116	123
	形成外科	0	84	84	72	89	143	169
	皮膚科	236	351	311	319	314	302	346
	泌尿器科	616	696	755	726	698	743	771
	産婦人科	923	821	838	968	966	824	942
	眼科	58	82	93	80	83	73	85
	耳鼻いんこう科	333	292	334	372	339	252	267
	リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0
	救急科	0	35	76	163	174	228	186
	歯科・歯科口腔外科	157	156	177	192	168	199	191
	麻酔科	－	－	－	－	－	－	－
	感染症	0	0	0	0	0	0	0
	合計	13,158	13,862	13,448	14,414	14,243	13,809	13,862
	一日平均	438.6	447.2	448.3	465.0	459.5	460.3	447.2
	暦日数	30	31	30	31	31	30	31

（注）平成25年4月1日より内科は「内科」及び「消化器内科」へ分離
（注）平成25年4月1日より循環器科は「循環器内科」へ名称変更
（注）平成25年4月1日より放射線科は「放射線診断科」及び「放射線治療科」へ分離
（注）平成25年4月1日より外来、令和5年4月1日より入院について救急科として集計
（注）令和5年4月1日より内科は「総合内科」「内分泌・代謝内科」「呼吸器内科」「血液内科」「腎臓内科」へ分離
（注）令和5年4月1日より外科は「外科」「消化器外科」「呼吸器外科」「乳腺外科」に分離
（注）令和5年4月1日より形成外科を新設
（注）令和5年4月1日より神経内科は「脳神経内科」へ名称変更

（単位：人）

11	12	1	2	3	合計		前年度	
					延患者数	一日平均	延患者数	一日平均
184	188	203	194	198	3,896	16.0	46,368	190.8
1,030	1,078	1,029	1,083	1,056	12,242	50.4	－	－
725	747	671	656	705	8,370	34.4	－	－
1,126	1,064	1,064	1,031	1,091	12,601	51.9	－	－
664	630	649	675	587	7,318	30.1	－	－
620	617	569	586	598	7,405	30.5	7,562	31.1
3,403	3,429	3,101	3,203	3,317	39,603	163.0	39,269	161.6
1,430	1,372	1,333	1,424	1,299	16,313	67.1	15,767	64.9
81	71	62	63	73	850	3.5	656	2.7
709	743	735	747	811	9,232	38.0	10,189	41.9
344	323	361	335	357	5,761	23.7	31,549	129.8
1,326	1,297	1,279	1,219	1,358	14,494	59.6	－	－
157	163	152	162	149	1,803	7.4	－	－
691	709	693	593	719	7,873	32.4	－	－
1,336	1,382	1,333	1,220	1,415	16,385	67.4	16,697	68.7
399	428	405	374	408	4,546	18.7	4,508	18.6
474	396	373	442	381	5,265	21.7	5,430	22.3
196	256	222	246	248	1,929	7.9	－	－
997	899	957	959	1,056	11,843	48.7	11,635	47.9
1,297	1,233	1,163	1,169	1,225	14,603	60.1	15,954	65.7
1,761	1,794	1,651	1,811	1,786	21,302	87.7	21,302	87.7
360	387	343	364	424	4,800	19.8	5,003	20.6
800	793	785	840	823	9,773	40.2	9,538	39.3
414	455	451	478	485	5,093	21.0	4,494	18.5
45	57	27	51	42	523	2.2	524	2.2
324	322	283	407	442	4,154	17.1	4,094	16.8
1,067	1,314	1,377	1,053	1,070	13,639	37.3	13,268	36.4
866	966	851	919	911	10,726	44.1	10,719	44.1
18	20	24	29	30	211	0.9	410	1.7
22,844	23,133	22,146	22,333	23,064	272,553	1,121.6	274,936	1,113.4
1,142.2	1,156.7	1,165.6	1,175.4	1,153.2	1,121.6	－	1,131.4	－
20	20	19	19	20	243	－	243	－
28	20	75	75	71	575	2.4	528	2.2
0	0	0	0	0	0	0.0	0	0.0
69	99	98	75	115	1,081	4.4	1,281	5.3
97	119	173	150	186	1,656	6.8	1,809	7.4

11	12	1	2	3	合計		前年度	
					延患者数	一日平均	延患者数	一日平均
710	908	1,616	1,108	1,186	11,410	31.2	35,956	98.5
234	222	220	270	370	3,631	9.9	－	－
704	680	638	470	698	8,174	22.3	－	－
832	974	893	850	881	10,428	28.5	－	－
367	415	387	355	480	4,670	12.8	－	－
811	728	811	820	983	10,012	27.4	10,965	30.0
1,973	2,232	2,145	2,363	2,036	25,880	70.7	24,251	66.4
919	1,027	847	740	777	9,507	26.0	9,566	26.2
689	692	565	740	758	9,204	25.1	8,633	23.7
47	69	49	101	59	847	2.3	18,026	49.4
1,486	1,562	1,395	1,244	1,516	16,585	45.3	－	－
70	42	49	88	93	1,016	2.8	－	－
169	203	244	169	219	2,059	5.6	－	－
1,078	1,059	899	1,206	988	12,551	34.3	11,363	31.1
648	598	772	530	485	7,173	19.6	7,214	19.8
152	108	108	151	186	1,663	4.5	1,844	5.1
109	75	108	121	111	1,165	3.2	－	－
422	258	401	322	455	4,037	11.0	3,001	8.2
657	687	854	781	792	8,776	24.0	6,890	18.9
937	867	918	1,026	925	10,955	29.9	12,151	33.3
95	66	65	81	69	930	2.5	667	1.8
277	300	262	299	246	3,573	9.8	3,283	9.0
0	0	0	0	0	0	0.0	0	0.0
261	324	256	302	320	2,325	6.4	0	0.0
169	151	132	177	228	2,097	5.7	1,549	4.2
－	－	－	－	－	0	0.0	0	0.0
0	0	0	0	0	0	0.0	0	0.0
13,816	14,247	14,634	14,314	14,861	168,668	460.8	155,359	425.6
460.5	459.6	472.1	493.6	479.4	460.8	－	425.6	－
30	31	31	29	31	366	－	365	－

5.　保険種類別患者数

（単位：人、％）

区分＼種別		社会保険 本人	社会保険 家族	豊中市国保 本人	豊中市国保 家族	その他の国保 本人	その他の国保 家族	後期高齢者医療制度	生保	労災地公災	自賠責	公害	自費	合計
外来	患者数	56,943	36,972	27,565	16,835	8,645	5,273	95,420	8,620	1,257	446	28	14,549	272,553
	一日平均患者数	234.3	152.1	113.4	69.3	35.6	21.7	392.7	35.5	5.2	1.8	0.1	59.9	1,121.6
	構成比	20.8	13.6	10.1	6.2	3.2	1.9	35.0	3.2	0.5	0.2	0.0	5.3	100.0

（単位：人、％）

区分＼種別		社会保険 本人	社会保険 家族	豊中市国保 本人	豊中市国保 家族	その他の国保 本人	その他の国保 家族	後期高齢者医療制度	生保	労災地公災	自賠責	公害	感染症	自費	合計
入院	患者数	25,601	18,110	15,490	7,433	4,916	2,675	82,728	7,275	305	147	0	37	3,951	168,668
	一日平均患者数	69.9	49.5	42.3	20.3	13.4	7.3	226.0	19.9	0.8	0.4	0.0	0.1	10.8	460.8
	構成比	15.2	10.7	9.2	4.4	2.9	1.6	49.0	4.3	0.2	0.1	0.0	0.0	2.3	100.0

6.　救急患者数

(1) 科別救急患者数

（単位：人、％）

区分＼科別	時間外患者数	うち入院患者数	時間内患者数	うち入院患者数	合計	うち入院患者数	構成比（％） 患者数	構成比（％） 時間外入院患者数	1日平均 患者数	1日平均 うち入院患者数	全外来患者数	比率
内科（総合内科）	475	475	238	238	713	713	3.5	15.2	1.9	1.9	3,896	18.3
内分泌・代謝内科	30	30	23	23	53	53	0.3	1.0	0.1	0.1	12,242	0.4
呼吸器内科	105	105	113	113	218	218	1.1	3.4	0.6	0.6	8,370	2.6
血液内科	48	48	42	42	90	90	0.4	1.5	0.2	0.2	12,601	0.7
腎臓内科	29	29	38	38	67	67	0.3	0.9	0.2	0.2	7,318	0.9
脳神経内科	291	277	195	183	486	460	2.4	8.9	1.3	1.3	7,405	6.6
消化器内科	397	397	257	254	654	651	3.2	12.7	1.8	1.8	39,603	1.7
循環器内科	229	204	273	249	502	453	2.5	6.5	1.4	1.2	16,313	3.1
精神科	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	850	0.0
小児科	1,600	514	585	224	2,185	738	10.7	16.3	6.0	2.0	9,232	23.7
外科	56	56	7	7	63	63	0.3	1.8	0.2	0.2	5,761	1.1
消化器外科	159	159	108	108	267	267	1.3	5.1	0.7	0.7	14,494	1.8
呼吸器外科	8	8	6	6	14	14	0.1	0.3	0.0	0.0	1,803	0.8
乳腺外科	13	13	2	2	15	15	0.1	0.4	0.0	0.0	7,873	0.2
整形外科	27	27	17	17	44	44	0.2	0.9	0.1	0.1	16,385	0.3
脳神経外科	214	209	135	130	349	339	1.7	6.7	1.0	0.9	4,546	7.7
心臓血管外科	7	7	8	8	15	15	0.1	0.2	0.0	0.0	5,265	0.3
形成外科	2	2	4	2	6	4	0.0	0.1	0.0	0.0	1,929	0.3
皮膚科	50	50	26	26	76	76	0.4	1.6	0.2	0.2	11,843	0.6
泌尿器科	85	85	35	34	120	119	0.6	2.7	0.3	0.3	14,603	0.8
産婦人科	507	342	89	67	596	409	2.9	10.9	1.6	1.1	21,302	2.8
眼科	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	4,800	0.0
耳鼻いんこう科	35	35	7	7	42	42	0.2	1.1	0.1	0.1	9,773	0.4
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	5,093	0.0
放射線診断科	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	523	0.0
放射線治療科	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	4,154	0.0
救急科	9,157	51	4,695	162	13,852	213	67.3	1.6	37.8	0.6	13,639	101.6
歯科・歯科口腔外科	10	5	75	0	85	5	0.4	0.2	0.2	0.0	10,726	0.8
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	211	0.0
合計	13,534	3,128	6,978	1,940	20,512	5,068	100.0	100.0	56.0	13.8	272,553	7.5

(2) 月別救急患者数

（単位：人）

区分＼月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合　計
時　間　外	518	627	614	800	727	697	606	584	791	875	601	601	8,041
深　　夜	159	162	184	222	218	183	196	204	224	215	194	204	2,365
時間外入院	253	266	232	286	285	256	234	221	289	287	261	258	3,128
時　間　内	343	403	441	445	518	411	404	410	454	430	388	391	5,038
時間内入院	144	134	162	150	159	154	145	155	185	185	166	201	1,940
合　　計	1,417	1,592	1,633	1,903	1,907	1,701	1,585	1,574	1,943	1,992	1,610	1,655	20,512

（3）科別時間内救急入院患者数・時間外救急入院患者数

（単位：人、%）

科別＼区別	時間内救急入院患者数	時間外救急入院患者数	救急入院患者数計	入院実患者数	比率
内科（総合内科）	238	475	713	812	87.8
内分泌・代謝内科	23	30	53	254	20.9
呼吸器内科	113	105	218	635	34.3
血液内科	42	48	90	512	17.6
腎臓内科	38	29	67	342	19.6
脳神経内科	183	277	460	593	77.6
消化器内科	254	397	651	2,443	26.6
循環器内科	249	204	453	928	48.8
小児科	224	514	738	1,396	52.9
外科	7	56	63	232	27.2
消化器外科	108	159	267	1,042	25.6
呼吸器外科	6	8	14	67	20.9
乳腺外科	2	13	15	172	8.7
整形外科	17	27	44	874	5.0
脳神経外科	130	209	339	505	67.1
心臓血管外科	8	7	15	284	5.3
形成外科	2	2	4	101	4.0
皮膚科	26	50	76	302	25.2
泌尿器科	34	85	119	1,091	10.9
産婦人科	67	342	409	1,413	28.9
眼科	0	0	0	428	0.0
耳鼻いんこう科	7	35	42	577	7.3
リハビリテーション科	0	0	0	0	-
放射線診断科	0	0	0	0	-
放射線治療科	0	0	0	0	-
救急科	162	0	162	214	75.7
歯科・歯科口腔外科	0	5	5	286	1.7
麻酔科	0	51	51		-
合　計	1,940	3,128	5,068	15,503	32.4

(4) 科別　平日、土曜日、日祝日 救急患者数

科別 ＼ 曜日別	時間別	平日	うち入院患者数	土曜日	うち入院患者数	日祝日	うち入院患者数	合　計	うち入院患者数
内科（総合内科）	時間外	175	－	75	－	145	－	395	－
	深夜	44	－	20	－	16	－	80	－
	小計	219	219	95	95	161	161	475	475
内分泌・代謝内科	時間外	11	－	3	－	12	－	26	－
	深夜	3	－	0	－	1	－	4	－
	小計	14	14	3	3	13	13	30	30
呼吸器内科	時間外	47	－	10	－	32	－	89	－
	深夜	11	－	2	－	3	－	16	－
	小計	58	58	12	12	35	35	105	105
血液内科	時間外	20	－	13	－	10	－	43	－
	深夜	2	－	0	－	3	－	5	－
	小計	22	22	13	13	13	13	48	48
腎臓内科	時間外	12	－	6	－	7	－	25	－
	深夜	3	－	0	－	1	－	4	－
	小計	15	15	6	6	8	8	29	29
脳神経内科	時間外	110	－	63	－	81	－	254	－
	深夜	26	－	7	－	4	－	37	－
	小計	136	125	70	69	85	83	291	277
消化器内科	時間外	137	－	66	－	112	－	315	－
	深夜	49	－	10	－	23	－	82	－
	小計	186	186	76	76	135	135	397	397
循環器内科	時間外	92	－	44	－	42	－	178	－
	深夜	41	－	3	－	7	－	51	－
	小計	133	110	47	46	49	48	229	204
精神科	時間外	0	－	0	－	0	－	0	－
	深夜	0	－	0	－	0	－	0	－
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0
小児科	時間外	804	－	98	－	249	－	1,151	－
	深夜	376	－	34	－	39	－	449	－
	小計	1,180	248	132	77	288	189	1,600	514
外科	時間外	9	－	3	－	19	－	31	－
	深夜	20	－	0	－	5	－	25	－
	小計	29	29	3	3	24	24	56	56
消化器外科	時間外	56	－	26	－	43	－	125	－
	深夜	23	－	8	－	3	－	34	－
	小計	79	79	34	34	46	46	159	159
呼吸器外科	時間外	0	－	2	－	3	－	5	－
	深夜	2	－	0	－	1	－	3	－
	小計	2	2	2	2	4	4	8	8
乳腺外科	時間外	6	－	1	－	3	－	10	－
	深夜	3	－	0	－	0	－	3	－
	小計	9	9	1	1	3	3	13	13
整形外科	時間外	12	－	7	－	6	－	25	－
	深夜	1	－	0	－	1	－	2	－
	小計	13	13	7	7	7	7	27	27

科別 ＼ 曜日別 時間別		平日		土曜日		日祝日		合　計	
			うち入院患者数		うち入院患者数		うち入院患者数		うち入院患者数
脳神経外科	時間外	102	－	38	－	49	－	189	－
	深　夜	13	－	5	－	7	－	25	－
	小計	115	112	43	42	56	55	214	209
心臓血管外科	時間外	2	－	1	－	1	－	4	－
	深　夜	1	－	1	－	1	－	3	－
	小計	3	3	2	2	2	2	7	7
形成外科	時間外	1	－	1	－	0	－	2	－
	深　夜	0	－	0	－	0	－	0	－
	小計	1	1	1	1	0	0	2	2
皮膚科	時間外	14	－	10	－	20	－	44	－
	深　夜	4	－	0	－	2	－	6	－
	小計	18	18	10	10	22	22	50	50
泌尿器科	時間外	25	－	18	－	29	－	72	－
	深　夜	11	－	2	－	0	－	13	－
	小計	36	36	20	20	29	29	85	85
産婦人科	時間外	155	－	70	－	75	－	300	－
	深　夜	137	－	35	－	35	－	207	－
	小計	292	175	105	82	110	85	507	342
眼科	時間外	0	－	0	－	0	－	0	－
	深　夜	0	－	0	－	0	－	0	－
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻いんこう科	時間外	17	－	3	－	5	－	25	－
	深　夜	7	－	2	－	1	－	10	－
	小計	24	24	5	5	6	6	35	35
リハビリテーション科	時間外	0	－	0	－	0	－	0	－
	深　夜	0	－	0	－	0	－	0	－
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線診断科	時間外	0	－	0	－	0	－	0	－
	深　夜	0	－	0	－	0	－	0	－
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線治療科	時間外	0	－	0	－	0	－	0	－
	深　夜	0	－	0	－	0	－	0	－
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0
救急科	時間外	5,820	－	211	－	357	－	6,388	－
	深　夜	2,664	－	45	－	60	－	2,769	－
	小計	8,484	34	256	9	417	8	9,157	51
歯科・歯科口腔外科	時間外	7	－	0	－	1	－	8	－
	深　夜	1	－	1	－	0	－	2	－
	小計	8	3	1	1	1	1	10	5
麻酔科	時間外	0	－	0	－	0	－	0	－
	深　夜	0	－	0	－	0	－	0	－
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	時間外	7,634	－	769	－	1,301	－	9,704	－
	深　夜	3,442	－	175	－	213	－	3,830	－
	小計	11,076	1,535	944	616	1,514	977	13,534	3,128
診療実日数			243		50		73		
一日平均		45.6	6.3	18.9	12.3	21.0	13.6	37.1	8.6

(5) 科別過去５年間の救急患者数の推移

（単位：人）

科別＼年度	R1	R2	R3	R4	R5
内科（総合内科）	610	452	449	840	475
内分泌・代謝内科	－	－	－	－	30
呼吸器内科	－	－	－	－	105
血液内科	－	－	－	－	48
腎臓内科	－	－	－	－	29
脳神経内科	440	259	324	293	291
消化器内科	528	271	375	403	397
循環器内科	312	228	242	257	229
精神科	0	0	0	0	0
小児科	1,670	673	1,132	1,700	1,600
外科	261	227	218	211	56
消化器外科	－	－	－	－	159
呼吸器外科	－	－	－	－	8
乳腺外科	－	－	－	－	13
整形外科	34	25	35	23	27
脳神経外科	250	165	164	188	214
心臓血管外科	9	2	3	3	7
形成外科	－	－	－	－	2
皮膚科	42	12	20	35	50
泌尿器科	73	54	68	68	85
産婦人科	651	503	531	469	507
眼科	0	0	0	0	0
耳鼻いんこう科	32	18	17	27	35
リハビリテーション科	0	0	0	0	0
放射線診断科	0	0	0	0	0
放射線治療科	0	0	0	0	0
救急科	10,881	4,256	6,236	8,610	9,157
歯科・歯科口腔外科	13	10	5	8	10
合計	15,806	7,155	9,819	13,135	13,534

※患者数は時間外のみ。

7. 高齢者医療患者数

(1) 月別外来患者数

月別 / 科別	4		5		6		7		8		9		10	
	患者数	高齢者医療患者数	患者数	高齢者医療患者数	患者数	高齢者医療患者数	患者数	高齢者医療患者数	患者数	高齢者医療患者数	患者数	高齢者医療患者数	患者数	高齢者医療患者数
内科（総合内科）	811	419	607	325	475	232	284	117	306	132	239	106	207	84
内分泌・代謝内科	743	298	904	366	1,066	435	1,048	433	1,101	461	1,044	423	1,060	450
呼吸器内科	602	396	616	386	748	482	712	457	730	447	713	462	745	485
血液内科	923	612	920	632	1,019	680	1,033	655	1,133	755	1,071	718	1,126	720
腎臓内科	481	256	556	290	583	305	578	313	670	348	618	346	627	341
脳神経内科	607	327	629	318	667	343	656	367	625	305	599	305	632	320
消化器内科	3,149	1,702	3,229	1,789	3,663	2,144	3,206	1,738	3,165	1,678	3,234	1,772	3,504	1,940
循環器内科	1,334	938	1,366	908	1,452	997	1,243	847	1,395	960	1,238	872	1,427	970
精神科	66	38	70	49	81	56	65	45	74	56	64	37	80	47
小児科	688	－	756	－	853	－	805	－	832	－	787	－	766	－
外科	843	509	761	462	729	423	490	283	465	250	436	216	317	162
消化器外科	955	634	967	645	1,173	747	1,170	765	1,135	743	1,277	823	1,338	891
呼吸器外科	107	74	124	79	145	104	165	114	178	130	169	127	132	100
乳腺外科	577	300	587	283	585	307	656	327	639	296	657	321	767	361
整形外科	1,317	670	1,388	707	1,538	803	1,302	622	1,336	655	1,312	691	1,506	765
脳神経外科	404	218	338	185	376	198	354	214	323	179	315	186	422	242
心臓血管外科	430	337	510	384	468	348	425	325	502	372	403	314	461	347
形成外科	40	22	64	24	79	27	108	37	148	43	151	37	171	48
皮膚科	978	445	1,021	499	1,047	543	962	456	892	370	996	454	1,079	483
泌尿器科	1,296	943	1,324	951	1,211	871	1,139	833	1,273	930	1,111	807	1,162	861
産婦人科	1,690	178	1,746	186	1,948	191	1,782	178	1,824	155	1,718	172	1,791	223
眼科	459	342	395	279	406	296	416	286	403	275	415	297	428	313
耳鼻いんこう科	819	315	794	297	820	332	746	269	864	294	830	321	859	322
リハビリテーション科	316	91	403	143	448	178	415	187	438	196	385	183	405	167
放射線診断科	54	40	40	26	49	35	30	22	38	28	37	23	53	38
放射線治療科	334	122	299	144	350	147	324	179	378	221	411	172	280	47
救急科	875	355	1,023	401	1,046	418	1,282	482	1,334	536	1,134	441	1,064	411
歯科・歯科口腔外科	846	353	884	394	922	374	862	393	965	411	820	371	914	402
麻酔科	16	2	10	5	12	3	15	5	11	2	14	4	12	2
合計	21,760	10,936	22,331	11,157	23,959	12,019	22,273	10,949	23,177	11,228	22,198	11,001	23,335	11,542

※高齢者医療：後期高齢者医療制度対象患者を含む70歳以上の患者

（単位：人、%）

11		12		1		2		3		合　計		
患者数	高齢者医療患者数	患者数	高齢者医療患者数	患者数	高齢者医療患者数	患者数	高齢者医療患者数	患者数	高齢者医療患者数	患者数	高齢者医療患者数	全患者に占める割合
184	77	188	81	203	82	194	81	198	72	3,896	1,808	46.4
1,030	446	1,078	436	1,029	420	1,083	435	1,056	470	12,242	5,073	41.4
725	466	747	475	671	417	656	390	705	457	8,370	5,320	63.6
1,126	754	1,064	699	1,064	665	1,031	661	1,091	706	12,601	8,257	65.5
664	385	630	338	649	376	675	378	587	335	7,318	4,011	54.8
620	284	617	317	569	265	586	291	598	296	7,405	3,738	50.5
3,403	1,905	3,429	1,916	3,101	1,661	3,203	1,740	3,317	1,799	39,603	21,784	55.0
1,430	1,006	1,372	888	1,333	923	1,424	963	1,299	883	16,313	11,155	68.4
81	50	71	45	62	35	63	39	73	43	850	540	63.5
709	－	743	－	735	－	747	－	811	－	9,232	－	－
344	173	323	145	361	190	335	193	357	178	5,761	3,184	55.3
1,326	895	1,297	869	1,279	878	1,219	825	1,358	905	14,494	9,620	66.4
157	111	163	128	152	108	162	120	149	114	1,803	1,309	72.6
691	335	709	338	693	335	593	276	719	345	7,873	3,824	48.6
1,336	663	1,382	706	1,333	671	1,220	603	1,415	748	16,385	8,304	50.7
399	225	428	218	405	214	374	183	408	223	4,546	2,485	54.7
474	366	396	299	373	265	442	311	381	298	5,265	3,966	75.3
196	45	256	66	222	53	246	62	248	78	1,929	542	28.1
997	460	899	419	957	447	959	460	1,056	490	11,843	5,526	46.7
1,297	947	1,233	853	1,163	841	1,169	841	1,225	865	14,603	10,543	72.2
1,761	194	1,794	217	1,651	161	1,811	197	1,786	173	21,302	2,225	10.5
360	282	387	269	343	238	364	250	424	286	4,800	3,413	71.1
800	318	793	315	785	286	840	333	823	301	9,773	3,703	37.9
414	159	455	184	451	224	478	246	485	264	5,093	2,222	43.6
45	26	57	40	27	17	51	30	42	20	523	345	66.0
324	71	322	162	283	150	407	230	442	196	4,154	1,841	44.3
1,067	425	1,314	542	1,377	485	1,053	440	1,070	433	13,639	5,369	39.4
866	390	966	417	851	382	919	399	911	389	10,726	4,675	43.6
18	6	20	3	24	8	29	11	30	9	211	60	28.4
22,844	11,464	23,133	11,385	22,146	10,797	22,333	10,988	23,064	11,376	272,553	134,842	49.5

(2) 月別入院患者数

月別 / 科別	4		5		6		7		8		9		10	
	患者数	高齢者医療患者数	患者数	高齢者医療患者数	患者数	高齢者医療患者数	患者数	高齢者医療患者数	患者数	高齢者医療患者数	患者数	高齢者医療患者数	患者数	高齢者医療患者数
内科（総合内科）	565	493	752	646	652	603	812	678	1,135	911	1,155	1,041	811	750
内分泌・代謝内科	471	317	389	203	337	178	317	107	255	157	331	205	215	139
呼吸器内科	634	506	631	487	704	504	807	566	719	428	714	469	775	588
血液内科	1,003	629	931	631	907	613	852	613	817	598	682	480	806	542
腎臓内科	383	293	407	277	429	322	351	279	344	242	335	254	417	352
脳神経内科	715	533	857	687	809	659	909	700	927	662	801	627	841	572
消化器内科	2,053	1,505	2,079	1,511	2,016	1,458	2,410	1,719	2,257	1,626	2,103	1,508	2,213	1,672
循環器内科	881	743	731	629	664	570	625	534	749	628	728	578	819	656
小児科	750	0	999	0	1,000	0	992	0	763	0	700	0	556	0
外科	70	39	72	52	80	44	93	58	58	35	66	47	83	48
消化器外科	1,214	848	1,424	959	1,205	811	1,281	862	1,285	811	1,495	939	1,478	1,064
呼吸器外科	57	14	65	30	73	65	91	58	196	146	124	85	68	55
乳腺外科	123	48	136	94	170	131	173	98	187	81	140	54	126	71
整形外科	998	664	1,010	555	990	703	1,148	737	1,120	735	962	653	1,093	651
脳神経外科	756	627	730	493	604	448	512	363	464	321	593	468	481	360
心臓血管外科	162	144	132	126	140	94	149	92	136	116	116	99	123	113
形成外科	0	0	84	30	84	18	72	2	89	30	143	73	169	101
皮膚科	236	142	351	227	311	174	319	178	314	197	302	199	346	213
泌尿器科	616	482	696	532	755	545	726	527	698	503	743	663	771	559
産婦人科	923	84	821	68	838	31	968	87	966	79	824	60	942	92
眼科	58	54	82	76	93	80	80	69	83	71	73	67	85	81
耳鼻いんこう科	333	97	292	59	334	103	372	74	339	56	252	73	267	62
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急科	0	0	35	34	76	66	163	146	174	154	228	211	186	183
歯科・歯科口腔外科	157	73	156	90	177	109	192	116	168	107	199	149	191	129
麻酔科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
感染症	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
合計	13,158	8,335	13,862	8,496	13,448	8,329	14,414	8,663	14,243	8,694	13,809	9,002	13,862	9,053

※高齢者医療：後期高齢者医療制度対象患者を含む70歳以上の患者

（単位：人、％）

11		12		1		2		3		合　計		
患者数	高齢者医療患者数	患者数	高齢者医療患者数	患者数	高齢者医療患者数	患者数	高齢者医療患者数	患者数	高齢者医療患者数	患者数	高齢者医療患者数	全患者に占める割合
710	637	908	823	1,616	1,450	1,108	957	1,186	1,088	11,410	10,077	88.3
234	90	222	120	220	67	270	83	370	165	3,631	1,831	50.4
704	518	680	492	638	439	470	307	698	535	8,174	5,839	71.4
832	566	974	632	893	661	850	624	881	673	10,428	7,262	69.6
367	263	415	286	387	236	355	224	480	358	4,670	3,386	72.5
811	654	728	536	811	569	820	618	983	832	10,012	7,649	76.4
1,973	1,420	2,232	1,568	2,145	1,512	2,363	1,805	2,036	1,598	25,880	18,902	73.0
919	800	1,027	811	847	693	740	676	777	659	9,507	7,977	83.9
689	0	692	0	565	0	740	0	758	0	9,204	0	－
47	16	69	57	49	30	101	65	59	33	847	524	61.9
1,486	1,064	1,562	1,046	1,395	1,064	1,244	879	1,516	1,023	16,585	11,370	68.6
70	37	42	18	49	38	88	86	93	64	1,016	696	68.5
169	93	203	125	244	137	169	123	219	83	2,059	1,138	55.3
1,078	737	1,059	847	899	636	1,206	845	988	633	12,551	8,396	66.9
648	491	598	349	772	498	530	278	485	315	7,173	5,011	69.9
152	137	108	99	108	89	151	131	186	157	1,663	1,397	84.0
109	50	75	26	108	32	121	33	111	14	1,165	409	35.1
422	264	258	157	401	217	322	262	455	302	4,037	2,532	62.7
657	496	687	505	854	661	781	570	792	596	8,776	6,639	75.7
937	73	867	53	918	118	1,026	73	925	79	10,955	897	8.2
95	86	66	62	65	59	81	71	69	55	930	831	89.4
277	65	300	40	262	66	299	87	246	50	3,573	832	23.3
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
261	258	324	294	256	239	302	291	320	275	2,325	2,151	0.0
169	100	151	58	132	44	177	79	228	121	2,097	1,175	0.0
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
13,816	8,915	14,247	9,004	14,634	9,555	14,314	9,167	14,861	9,708	168,668	106,921	63.4

Ⅱ　病床利用状況

1. 科別患者利用状況

（単位：人、％）

科別＼区分	病床数	稼動病床数	延入院患者数	入院患者数	退院患者数	1日平均	病床利用率	平均在院日数	病床回転数
内科（総合内科）	12	4,392	11,410	812	740	31.2	259.8	13.8	64.7
内分泌・代謝内科	16	5,856	3,631	254	260	9.9	62.0	13.1	16.1
呼吸器内科	26	9,516	8,174	635	647	22.3	85.9	11.7	24.7
血液内科	32	11,712	10,428	512	525	28.5	89.0	19.1	16.2
腎臓内科	16	5,856	4,670	342	348	12.8	79.7	12.5	21.6
脳神経内科	36	13,176	10,012	593	593	27.4	76.0	15.9	16.5
消化器内科	72	26,352	25,880	2,443	2,415	70.7	98.2	9.7	33.7
循環器内科	31	11,346	9,507	928	923	26.0	83.8	9.3	29.9
小児科	44	16,104	9,204	1,396	1,317	25.1	57.2	5.8	30.8
外科	4	1,464	847	232	201	2.3	57.9	3.0	54.1
消化器外科	44	16,104	16,585	1,042	1,086	45.3	103.0	14.6	24.2
呼吸器外科	5	1,830	1,016	67	73	2.8	55.5	13.5	14.0
乳腺外科	6	2,196	2,059	172	182	5.6	93.8	10.6	29.5
整形外科	39	14,274	12,551	874	881	34.3	87.9	13.3	22.5
脳神経外科	26	9,516	7,173	505	503	19.6	75.4	13.2	19.4
心臓血管外科	6	2,196	1,663	284	286	4.5	75.7	4.8	47.5
形成外科	3	1,098	1,165	101	102	3.2	106.1	10.5	33.8
皮膚科	10	3,660	4,037	302	309	11.0	110.3	12.2	30.6
泌尿器科	25	9,150	8,776	1,091	1,108	24.0	95.9	7.0	44.0
産婦人科	46	16,836	10,955	1,413	1,416	29.9	65.1	6.7	30.8
眼科	6	2,196	930	428	428	2.5	42.3	1.2	71.3
耳鼻いんこう科	14	5,124	3,573	577	580	9.8	69.7	5.2	41.3
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0.0	－	0.0	－
救急科	5	1,830	2,325	214	177	6.4	127.0	－	39.1
歯科口腔外科	5	1,830	2,097	286	286	5.7	114.6	6.3	57.2
麻酔科	0	0	0	0	0	0.0	－	0.0	－
（再掲）ＩＣＵ	5	1,830	(1207)	(156)	(37)	(3.3)	66.0	(12.1)	(19.3)
（再掲）ＨＣＵ	4	1,464	(893)	(412)	(72)	(2.4)	61.0	(3.4)	(60.5)
小計	594	217,404	168,668	15,503	15,386	460.8	77.6	9.9	26.0
人間ドック	5	1,830	－	－	－	－	－	－	－
感染症	14	5,124	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	613	224,358	168,668	15,503	15,386	460.8	75.2	9.9	25.2

●ICU・HCU患者数は、再掲。

●病床利用率 ＝ $\frac{\text{延入院患者数}}{\text{稼動病床数}}$ （％）

●病床回転数 ＝ $\frac{\text{（入院患者数＋退院患者数）÷2}}{\text{病床数}}$

2. 室別利用状況

（単位：人、％）

室別＼区分	個室					その他の病室											合計
	特A	特B	個室	準個室	計	総A	総B	総C	GCU	ICU	CCU	NICU	SCU	HCU	重症室等	計	(594)
	(1)	(7)	(106)	(48)	(162)	(8)	(352)	(3)	(10)	(5)	(3)	(6)	(9)	(4)	(32)	(432)	
患者数	137	1,359	31,950	10,594	44,040	878	106,202	87	1,434	1,183	642	1,740	2,390	897	9,175	124,628	168,668
一日平均	0.4	3.7	87.3	29.0	120.3	2.4	290.2	0.2	3.9	3.2	1.8	4.8	6.5	2.5	25.1	340.5	460.8
利用率	37.4	53.0	82.4	60.3	74.3	30.0	82.4	7.9	39.2	64.6	58.5	79.2	72.6	61.3	78.3	78.8	77.6

※ 人間ドック（5床）、感染症（14床）を除く。

※ 令和5年1月より準個室運用開始

Ⅲ　診療収入状況

1. 科別収益

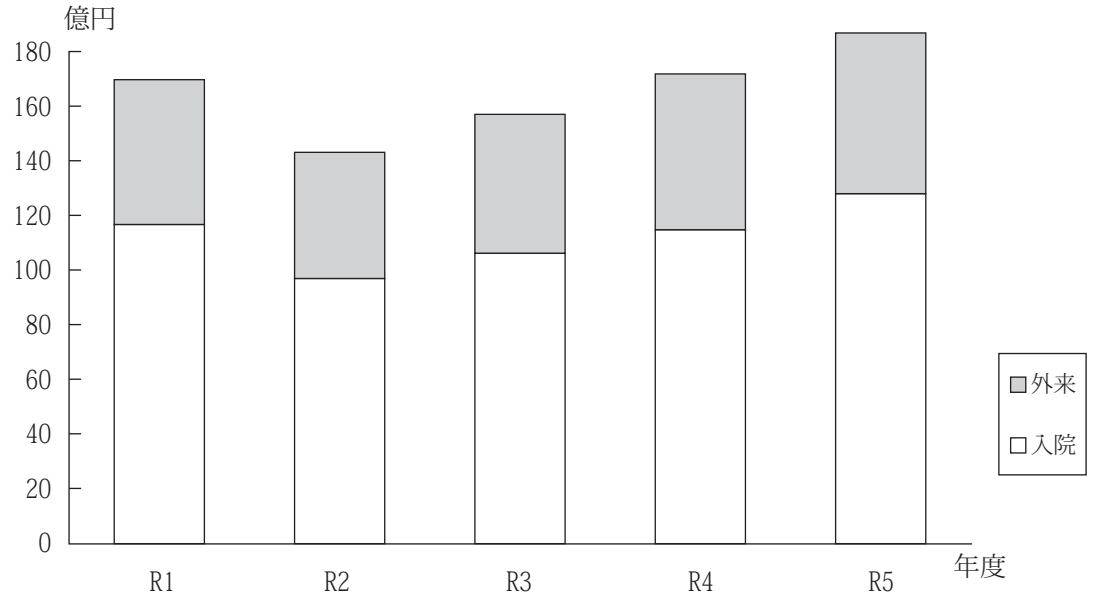
（単位：円、％）

区分 / 科別	外来収益	構成比	入院収益	構成比	合計	構成比
内科	1,422,298,098	24.2	2,837,022,531	22.0	4,259,320,629	22.8
脳神経内科	158,098,196	2.7	655,877,548	5.1	813,975,744	4.4
消化器内科	1,040,990,193	17.7	1,521,495,193	11.9	2,562,485,386	13.7
循環器内科	163,293,053	2.8	753,081,189	5.9	916,374,242	4.9
精神科	5,247,336	0.1	－	－	5,247,336	0.0
小児科	214,649,760	3.6	793,507,026	6.2	1,008,156,786	5.4
外科	1,189,297,828	20.2	1,649,444,332	12.9	2,838,742,160	15.2
整形外科	143,566,862	2.4	1,099,122,461	8.6	1,242,689,323	6.6
脳神経外科	48,347,286	0.8	636,635,396	5.0	684,982,682	3.7
心臓血管外科	33,570,844	0.6	244,811,476	1.9	278,382,320	1.5
形成外科	14,016,119	0.2	73,527,823	0.6	87,543,942	0.5
皮膚科	136,604,356	2.3	223,024,730	1.7	359,629,086	1.9
泌尿器科	427,179,867	7.3	694,453,869	5.4	1,121,633,736	6.0
産婦人科	218,218,480	3.7	1,001,417,489	7.8	1,219,635,969	6.5
眼科	29,822,563	0.5	97,425,322	0.8	127,247,885	0.7
耳鼻いんこう科	85,977,561	1.5	285,605,636	2.2	371,583,197	2.0
リハビリテーション科	25,214,849	0.4	0	0.0	25,214,849	0.1
放射線診断科・治療科	129,685,159	2.2	－	－	129,685,159	0.7
救急科	269,591,171	4.6	111,210,161	0.9	380,801,332	2.0
歯科・歯科口腔外科	129,153,900	2.2	136,770,763	1.1	265,924,663	1.4
麻酔科	217,184	0.0	－	－	217,184	0.0
合計	5,885,040,665	100.0	12,814,432,945	100.0	18,699,473,610	100.0

・内科は総合内科、内分泌・代謝内科、呼吸器内科、血液内科、腎臓内科を含む

・外科は外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科を含む

年度別収益グラフ



2.　一人一日当たり収益

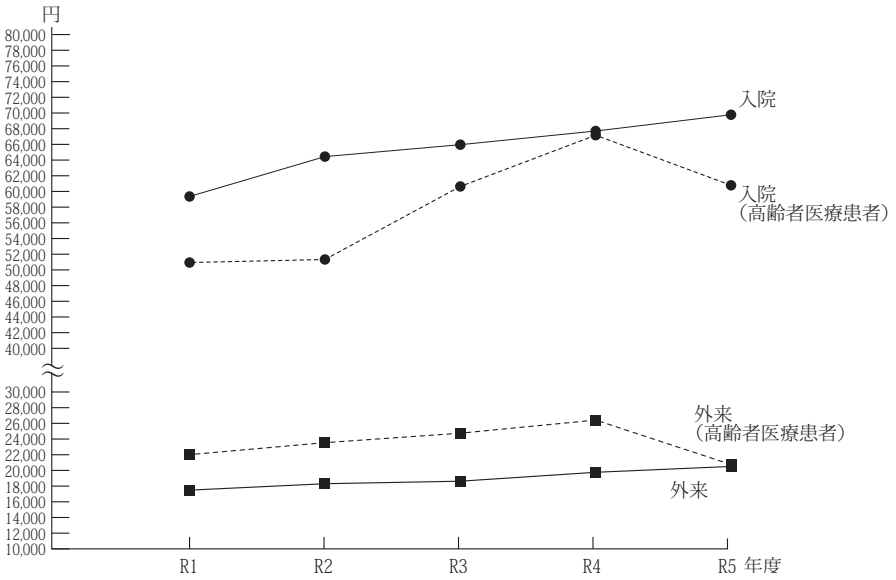
(1) 科別一人一日当たり収益

（単位：円）

区分 / 科別	外来	外来 高齢者医療患者（再掲）	入院	入院 高齢者医療患者（再掲）
内科	32,014	34,094	74,049	61,240
脳神経内科	21,350	20,602	65,509	59,281
消化器内科	26,286	22,989	58,790	54,765
循環器内科	10,010	9,302	79,213	69,079
精神科	6,173	6,889	－	－
小児科	23,251	－	86,213	－
外科	39,735	35,159	80,433	74,065
整形外科	8,762	8,140	87,573	80,606
脳神経外科	10,635	10,420	88,754	76,603
心臓血管外科	6,376	5,907	147,211	137,338
形成外科	7,266	7,333	63,114	53,996
皮膚科	11,535	8,689	55,245	50,012
泌尿器科	29,253	30,016	79,131	74,292
産婦人科	10,244	14,301	91,412	86,816
眼科	6,213	5,763	104,758	100,071
耳鼻いんこう科	8,797	8,038	79,934	67,497
リハビリテーション科	4,951	5,042	－	－
放射線診断科・治療科	27,728	26,204	－	－
救急科	19,766	20,602	47,832	41,770
歯科・歯科口腔外科	12,041	11,110	65,222	60,731
麻酔科	1,029	439	－	－
感染症	－	－	－	－
合計	21,592	21,862	75,974	66,106

・内科は総合内科、内分泌・代謝内科、呼吸器内科、血液内科、腎臓内科を含む
・外科は外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科を含む

(2) 過去５年間の一人一日当たりの収益



(3) 科別 一人一日当たり収益（５年間の推移）

外　来　　（単位：円）

科別＼年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
内科	31,256	29,745	31,287	32,741	32,014
脳神経内科	10,586	13,702	14,555	14,266	21,350
消化器内科	21,532	19,167	20,735	22,813	26,286
循環器内科	9,910	10,062	10,074	10,315	10,010
精神科	6,144	6,823	6,767	6,793	6,173
小児科	30,679	34,311	21,629	20,794	23,251
外科	26,398	29,362	32,571	37,015	39,735
整形外科	8,086	8,555	8,591	8,652	8,762
脳神経外科	14,630	14,000	12,187	12,755	10,635
心臓血管外科	5,598	5,596	6,159	6,566	6,376
形成外科	－	－	－	－	7,266
皮膚科	8,630	10,903	12,083	12,575	11,535
泌尿器科	19,544	21,180	22,131	23,935	29,253
産婦人科	9,022	9,155	10,280	9,682	10,244
眼科	6,582	6,646	6,655	6,546	6,213
耳鼻いんこう科	9,334	9,769	9,465	9,300	8,797
リハビリテーション科	5,799	5,214	5,207	5,528	4,951
放射線診断科・治療科	24,984	26,568	26,815	27,446	27,728
救急科	16,677	19,986	20,891	20,551	19,766
歯科・歯科口腔外科	9,352	11,371	10,064	11,307	12,041
麻酔科	2,450	1,982	1,457	1,887	1,029
合計	18,229	19,137	19,497	20,762	21,592
指数	119.4	113.1	117.9	122.3	118.4

入　院　　（単位：円）

科別＼年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
内科	52,562	59,889	66,296	68,508	74,049
脳神経内科	45,994	56,742	60,973	60,655	65,509
消化器内科	50,524	55,171	53,461	57,027	58,790
循環器内科	75,134	73,893	76,737	79,126	79,213
小児科	74,789	84,019	81,806	81,575	86,213
外科	86,534	90,531	86,769	89,152	80,433
整形外科	61,337	74,561	74,752	79,747	87,573
脳神経外科	71,339	74,133	79,411	76,120	88,754
心臓血管外科	121,091	137,107	116,775	138,158	147,211
形成外科	－	－	－	－	63,114
皮膚科	47,730	62,582	53,178	57,253	55,245
泌尿器科	69,642	70,393	75,990	82,854	79,131
産婦人科	76,459	84,973	84,056	86,682	91,412
眼科	87,546	93,429	94,914	101,883	104,758
耳鼻いんこう科	65,788	68,045	68,027	72,184	79,934
リハビリテーション科	77,869	－	－	－	－
救急科					47,850
歯科・歯科口腔外科	58,749	68,025	63,178	63,178	65,247
麻酔科	－	－	－	－	－
感染症	－	－	－	－	－
合計	64,541	70,119	71,786	73,964	75,974
指数	112.8	120.8	122.5	120.6	117.7

・内科は総合内科、内分泌・代謝内科、呼吸器内科、血液内科、腎臓内科を含む

・外科は外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科を含む

3. 科別診療行為別収益

(1) 外来収益

	区別 / 科別	初診料		再診料		指導料		在宅料		投薬料		注射料	
外来	内科	5,543,694	0.4	21,318,981	1.5	27,591,238	1.9	98,445,194	6.9	138,697,824	9.8	721,501,367	50.6
	脳神経内科	1,726,350	1.1	3,714,194	2.4	4,368,476	2.8	1,318,866	0.8	618,763	0.4	99,139,472	62.6
	消化器内科	5,490,847	0.5	20,636,775	2.0	23,968,275	2.3	1,693,245	0.2	53,328,217	5.1	491,665,356	47.3
	循環器内科	2,528,159	1.6	8,449,766	5.2	3,355,947	2.1	4,337,991	2.7	187,030	0.1	131,582	0.1
	精神科	125,760	2.4	458,401	8.7	50,217	1.0	2,602	0.1	1,067	0.0	0	0.0
	小児科	10,145,462	4.7	5,861,396	2.7	12,332,223	5.8	34,539,318	16.1	917,746	0.4	103,504,244	48.1
	外科	2,189,895	0.2	14,649,957	1.2	70,969,641	6.0	8,020,564	0.7	24,699	0.0	769,821,173	64.7
	整形外科	4,362,802	3.0	9,706,307	6.8	921,187	0.6	1,716,754	1.2	626,728	0.4	8,696,826	6.1
	脳神経外科	962,462	2.0	2,294,666	4.8	795,757	1.7	772,312	1.6	54,669	0.1	1,795,374	3.7
	心臓血管外科	960,487	2.9	2,502,582	7.5	70,448	0.2	26,308	0.1	11,478	0.0	10,855	0.0
	形成外科	835,984	6.0	1,078,517	7.7	77,503	0.6	9,767	0.1	241,745	1.7	70,876	0.5
	皮膚科	3,770,596	2.8	6,942,364	5.1	2,346,379	1.7	1,652,112	1.2	1,710,184	1.3	51,179,753	37.5
	泌尿器科	2,257,337	0.5	7,233,139	1.7	13,391,636	3.1	4,518,519	1.1	72,042	0.0	264,191,790	61.8
	産婦人科	1,881,569	0.9	7,773,170	3.6	7,494,647	3.4	225,127	0.1	38,097	0.0	29,386,388	13.5
	眼科	794,781	2.7	2,667,920	9.0	64,258	0.2	0	0.0	12,684	0.0	3,886	0.0
	耳鼻いんこう科	4,470,114	5.2	5,230,784	6.1	557,148	0.7	888,065	1.0	63,651	0.1	1,407,168	1.6
	リハビリテーション科	0	0.0	3,337,517	13.2	351,459	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	放射線診断科・治療科	1,171,895	0.9	3,017,321	2.3	3,595,277	2.8	3,019	0.0	604	0.0	1,288	0.0
	救急科	41,835,002	15.5	9,832,236	3.7	27,710,674	10.3	385,419	0.1	7,891,219	2.9	5,034,818	1.9
	歯科・歯科口腔外科	9,947,985	7.7	5,749,698	4.5	12,430,479	9.6	0	0.0	132,105	0.1	17,507,068	13.6
	麻酔科	221	0.1	17,237	7.9	31,507	14.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	小計	101,001,402	1.7	142,472,928	2.4	212,474,376	3.6	158,555,182	2.7	204,630,552	3.5	2,565,049,284	43.6

(2) 入院収益

	区別 / 科別	基本料		投薬料		注射料		処置料		手術料		検査料	
入院	内科	2,340,452,157	82.4	28,159,935	1.0	173,469,822	6.1	38,662,928	1.4	78,683,771	2.8	40,599,191	1.4
	脳神経内科	576,059,595	87.8	4,260,655	0.7	10,474,320	1.6	684,827	0.1	23,985,281	3.7	3,397,851	0.5
	消化器内科	1,097,068,581	72.1	11,395,325	0.8	55,150,560	3.6	987,801	0.1	262,246,896	17.2	37,999,569	2.5
	循環器内科	481,487,450	63.9	8,050,632	1.1	3,543,168	0.5	2,128,495	0.3	209,317,926	27.8	17,962,017	2.4
	小児科	700,033,605	88.1	2,792,448	0.4	28,626,708	3.6	5,173,767	0.7	6,838,918	0.9	8,088,623	1.0
	外科	880,654,901	53.2	5,865,185	0.4	30,672,749	1.9	3,771,094	0.2	657,426,950	39.9	17,434,886	1.1
	整形外科	468,173,556	42.6	1,053,257	0.1	1,278,916	0.1	877,620	0.1	585,398,379	53.2	2,363,018	0.2
	脳神経外科	361,586,703	56.8	676,551	0.1	37,245,270	5.9	885,780	0.1	204,865,266	32.2	3,177,491	0.5
	心臓血管外科	72,520,519	29.6	301,524	0.1	904,685	0.4	497,436	0.2	162,611,914	66.5	3,152,345	1.3
	形成外科	38,543,483	52.4	224,097	0.3	66,600	0.1	4,607,670	6.3	26,779,046	36.4	469,142	0.6
	皮膚科	161,696,601	72.4	1,778,646	0.8	7,601,066	3.4	603,891	0.3	36,659,747	16.4	3,529,958	1.6
	泌尿器科	364,723,848	52.6	3,687,744	0.5	17,485,731	2.5	150,618	0.0	269,435,461	38.8	13,212,197	1.9
	産婦人科	477,611,418	47.7	2,041,134	0.2	1,419,371	0.1	1,333,205	0.1	211,936,845	21.2	15,798,751	1.6
	眼科	35,291,494	36.2	37,203	0.0	0	0.0	454	0.0	58,754,739	60.4	121,432	0.1
	耳鼻いんこう科	160,378,772	56.1	487,395	0.2	18,004	0.0	64,209	0.0	108,303,074	37.9	4,920,647	1.7
	リハビリテーション科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	救急科	84,758,557	76.2	146,034	0.1	1,800,136	1.6	129,991	0.1	2,285,132	2.1	12,135,313	10.9
	歯科・歯科口腔外科	70,666,201	51.7	1,441,241	1.1	7,410,230	5.4	1,886,518	1.4	41,087,974	30.0	5,350,741	3.9
	麻酔科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	合計	8,371,707,441	65.3	72,399,006	0.6	377,167,336	2.9	62,446,304	0.5	2,946,617,319	23.0	189,713,172	1.5

・内科は総合内科、内分泌・代謝内科、呼吸器内科、血液内科、腎臓内科を含む

・外科は外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科を含む

（単位：円、％）

処置料		手術料		検査料		画像診断料		その他		合計	
669,443	0.1	67,519,970	4.8	258,630,923	18.2	60,263,130	4.2	22,116,334	1.6	1,422,298,098	100.0
8,251	0.0	16,858	0.0	22,548,583	14.3	19,932,614	12.6	4,705,769	3.0	158,098,196	100.0
728,994	0.1	56,574,743	5.4	279,337,033	26.8	94,738,105	9.1	12,828,603	1.2	1,040,990,193	100.0
90,217	0.1	325,876	0.2	90,794,850	55.4	43,579,303	26.7	9,512,332	5.8	163,293,053	100.0
0	0.0	0	0.0	1,039,335	19.8	1,089,986	20.8	2,479,968	47.2	5,247,336	100.0
326,524	0.2	112,846	0.1	39,058,907	18.2	3,834,572	1.8	4,016,522	1.9	214,649,760	100.0
528,818	0.0	22,242,083	1.9	150,898,261	12.7	131,791,309	11.1	18,161,428	1.5	1,189,297,828	100.0
2,149,745	1.5	23,320,508	16.2	26,936,418	18.8	56,965,320	39.7	8,164,267	5.7	143,566,862	100.0
2,704	0.0	404,967	0.8	3,999,149	8.3	35,546,083	73.4	1,719,143	3.6	48,347,286	100.0
42,006	0.1	1,988,537	5.9	14,049,890	41.9	11,921,889	35.5	1,986,364	5.9	33,570,844	100.0
123,610	0.9	3,816,309	27.2	5,773,546	41.1	1,395,035	10.0	593,227	4.2	14,016,119	100.0
3,121,666	2.3	7,533,828	5.5	45,816,870	33.5	3,044,724	2.2	9,485,880	6.9	136,604,356	100.0
4,502,225	1.1	15,244,381	3.6	64,850,938	15.2	42,270,857	9.9	8,647,003	2.0	427,179,867	100.0
2,888,681	1.3	1,300,533	0.6	88,722,012	40.6	15,010,318	6.9	63,497,938	29.1	218,218,480	100.0
17,745	0.1	2,153,123	7.2	21,040,902	70.6	162,275	0.5	2,904,989	9.7	29,822,563	100.0
778,758	0.9	3,220,706	3.8	49,390,861	57.4	13,619,843	15.8	6,350,463	7.4	85,977,561	100.0
0	0.0	0	0.0	96,069	0.4	2,151	0.0	21,427,653	85.0	25,214,849	100.0
0	0.0	168,204	0.1	30,718	0.0	15,861,995	12.2	105,834,838	81.7	129,685,159	100.0
3,202,235	1.2	9,363,145	3.5	80,383,371	29.7	77,352,917	28.7	6,600,135	2.5	269,591,171	100.0
5,260,827	4.1	24,670,017	19.1	13,694,526	10.6	31,278,299	24.1	8,482,896	6.6	129,153,900	100.0
0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	168,219	77.5	217,184	100.0
24,442,449	0.4	239,976,634	4.1	1,257,093,162	21.4	659,660,725	11.2	319,683,971	5.4	5,885,040,665	100.0

（単位：円、％）

画像診断料		食事療養費		その他		合計	
7,146,636	0.3	67,735,379	2.4	62,112,712	2.2	2,837,022,531	100.0
4,193,482	0.6	18,234,324	2.8	14,587,213	2.2	655,877,548	100.0
3,894,338	0.3	29,496,000	1.9	23,256,123	1.5	1,521,495,193	100.0
826,453	0.1	15,330,525	2.0	14,434,523	1.9	753,081,189	100.0
1,463,329	0.2	12,244,618	1.5	28,245,010	3.6	793,507,026	100.0
4,760,412	0.3	24,831,233	1.5	24,026,922	1.5	1,649,444,332	100.0
1,743,065	0.2	21,690,340	2.0	16,544,310	1.5	1,099,122,461	100.0
7,438,757	1.2	11,563,726	1.8	9,195,852	1.4	636,635,396	100.0
819,773	0.3	1,993,691	0.8	2,009,589	0.8	244,811,476	100.0
120,359	0.2	1,795,856	2.4	921,570	1.3	73,527,823	100.0
353,355	0.2	6,875,437	3.1	3,926,029	1.8	223,024,730	100.0
824,624	0.1	12,641,866	1.8	12,291,780	1.8	694,453,869	100.0
184,751	0.0	15,148,024	1.5	275,943,990	27.6	1,001,417,489	100.0
0	0.0	971,260	1.0	2,248,740	2.3	97,425,322	100.0
189,592	0.1	4,769,198	1.7	6,474,745	2.3	285,605,636	100.0
0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	100.0
4,762,358	4.3	2,907,257	2.6	2,285,383	2.1	111,210,161	100.0
2,329,687	1.7	2,925,703	2.1	3,672,468	2.7	136,770,763	100.0
－	－	－	－	－	－	－	－
41,050,971	0.3	251,154,437	2.0	502,176,959	3.9	12,814,432,945	100.0

Ⅳ　各種業務状況

1. 患者食調理状況

(1) 月別患者食数

単位：食

区分／月別	常食	軟食	流動食	加算外特別食	加算特別食	普通調乳	治療調乳	合計	1日平均	検食
令和5年　4月	9,496	5,991	1,271	638	10,654	1,269	0	29,319	977	180
5月	9,863	6,619	1,226	999	11,030	1,559	0	31,296	1,010	186
6月	10,418	6,147	1,391	976	9,820	1,412	0	30,164	1,005	180
7月	11,488	7,247	1,135	693	10,639	1,506	0	32,708	1,055	186
8月	11,043	7,128	1,208	1,059	10,312	1,159	0	31,909	1,029	186
9月	9,467	7,064	1,383	989	10,571	1,230	0	30,704	1,023	180
10月	9,748	6,773	970	646	11,847	1,141	0	31,125	1,004	186
11月	9,282	7,015	841	926	11,593	1,139	0	30,796	1,027	180
12月	10,057	6,711	1,091	1,048	11,328	1,271	0	31,506	1,016	186
令和6年　1月	9,922	8,194	1,352	1,114	11,394	1,183	0	33,159	1,070	186
2月	9,818	7,064	1,478	980	11,153	1,550	0	32,043	1,105	174
3月	9,512	8,190	1,573	865	12,155	1,298	0	33,593	1,084	186
合　計	120,114	84,143	14,919	10,933	132,496	15,717	0	378,322		2,196
月平均	10,010	7,012	1,243	911	11,041	1,310	0	31,527		183
一日平均	328	230	41	30	362	43	0	1,034		6
一回平均	109	77	14	10	121	14	0	345		2
食種別比率(%)	31.7	22.2	3.9	2.9	35.1	4.2	0.0	100		

(2) 年度別調理数及び食材料費

単位：食

区分＼年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一般食	常食	142,720	104,074	110,931	108,844	120,114
	軟食	88,816	67,403	69,232	74,760	84,143
	流動食	15,961	15,612	13,316	17,782	14,919
特別食	加算外	7,672	7,485	8,936	9,687	10,933
	加算	143,641	112,852	118,799	125,305	132,496
調乳	普通調乳	17,793	13,009	17,247	16,945	15,717
	治療調乳	0	10	0	0	0
合計		416,603	320,445	338,461	353,323	378,322
検食		2,196	2,190	2,190	2,190	2,196
一日平均		1,138	878	927	968	1,034
一回平均		379	293	309	323	345
加算特別食の比率(%)		34.5	35.2	35.1	35.5	35.1
食数の指数(%)		100.0	76.9	81.2	84.8	90.8
一人一日平均材料費(円)		999	1,075	980	1,014	1,018

(3) 月別加算特別食調理数

単位：食

区分／月別	肝臓食	糖尿食	腎臓食	心高食	潰瘍食	膵臓食	妊娠高血圧食	貧血食	腸炎食	治療乳	その他	合計
4月	728	3,233	1,157	2,674	742	894	215	0	29	0	982	10,654
5月	995	3,480	1,122	2,346	967	851	327	0	90	0	852	11,030
6月	630	3,063	1,008	2,182	879	744	154	0	78	0	1,082	9,820
7月	888	2,929	1,114	2,516	971	1,010	155	0	129	0	927	10,639
8月	904	3,173	955	2,495	750	885	207	0	179	0	764	10,312
9月	714	3,398	1,178	2,262	838	1,210	217	0	50	0	704	10,571
10月	689	3,776	872	3,129	1,171	1,176	266	35	74	0	659	11,847
11月	685	3,654	853	2,868	1,117	1,227	257	25	81	0	826	11,593
12月	689	3,519	1,002	2,841	1,305	933	34	0	50	0	955	11,328
1月	606	3,518	905	2,920	1,050	1,123	101	59	63	0	1,049	11,394
2月	799	2,974	1,165	2,709	1,034	1,001	212	0	45	0	1,214	11,153
3月	609	3,604	1,411	2,890	1,202	1,087	140	106	4	0	1,102	12,155
合計	8,936	40,321	12,742	31,832	12,026	12,141	2,285	225	872	0	11,116	132,496
比率(%)	6.7	30.4	9.6	24.0	9.1	9.2	1.7	0.2	0.7	0.0	8.4	100

(4) 個別栄養指導件数

単位：件

疾病名／区分	糖尿病	腎臓病	肝臓病	膵臓病	心臓病	高血圧症	脂質異常症	高尿酸血症	胃十二指腸潰瘍	炎症性腸疾患	糖尿病腎症	肥満	胃術後	嚥下障害	がん	その他	合計
外来	291	104	22	1	28	8	27	1	5	5	27	33	83	2	28	69	734
入院	573	237	69	6	297	62	57	0	6	4	56	0	87	7	166	34	1,661
合計	864	341	91	7	325	70	84	1	11	9	83	33	170	9	194	103	2,395

(5) 集団栄養指導状況　※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の影響で糖尿病、腎臓病以外開催なし

区分／月	糖尿病		妊産婦		心臓病		腎臓病	
	延べ受講人数	開講日数(回)	延べ受講人数	開講日数(回)	延べ受講人数	開講日数(回)	延べ受講人数	開講日数(回)
4月	10	4						
5月	13	3						
6月	18	5						
7月	13	4						
8月	7	3						
9月	20	5						
10月	8	4					3	1
11月	11	3						
12月	10	4						
1月	8	3						
2月	7	3						
3月	21	5						
合計	146	46	0	0	0	0	3	1

2.　糖尿病教室業務状況（医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・理学療法士・栄養士・臨床心理士による指導）

月	延受講人数（名）	開講日数（回）
4月	52	20
5月	64	22
6月	78	21
7月	68	20
8月	42	21
9月	83	19
10月	51	21
11月	56	20
12月	46	19
1月	47	16
2月	54	17
3月	75	20
合　　計	716	236

3.　慢性腎臓病教室業務状況　※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の影響で内容を集約し1回のみ開催

月	延べ受講人数（名）	開講日数（回）
6月		
10月	3	1
2月		
合　　計	3	1

4.　栄養サポートチーム関連

月	栄養サポートチーム加算件数	歯科医師連携加算件数
4月	34	34
5月	48	48
6月	44	44
7月	38	38
8月	54	54
9月	39	39
10月	35	35
11月	49	49
12月	45	45
1月	44	44
2月	41	41
3月	28	28
合　　計	499	499

5. 分娩業務状況

（単位：件、%）

	時間内	時間外	深　夜	休　日	合　計	月平均
初　　産	140	74	45	38	297	24.8
経　　産	179	69	51	31	330	27.5
合　　計	319	143	96	69	627	52.3
一 日 平 均	1.3	0.5	0.3	0.9	1.7	−
前 年 度 件 数	353	166	99	61	679	−
前年度一日平均	1.5	0.6	0.3	0.8	1.9	−
対 前 年 度 比	90.4	86.1	97.0	113.1	92.3	−

6. 手術業務状況

(1) 手術件数

（単位：件）

区分／科別	時間内	時間外	深　夜	合　計	うち全身麻酔件数	月平均	外来手術（再掲）
内科（総合内科）	0	0	0	0	0	0.0	0
内分泌・代謝内科	0	0	0	0	0	0.0	0
呼吸器内科	0	0	0	0	0	0.0	0
血液内科	0	0	0	0	0	0.0	0
腎臓内科	0	0	0	0	0	0.0	0
脳神経内科	0	0	0	0	0	0.0	0
消化器内科	8	0	0	8	8	0.7	0
循環器内科	0	0	0	0	0	0.0	0
精神科	0	0	0	0	0	0.0	0
小児科	0	0	0	0	0	0.0	0
外科	0	0	0	0	0	0.0	0
消化器外科	854	56	6	916	900	76.3	2
呼吸器外科	36	0	0	36	35	3.0	0
乳腺外科	151	1	0	152	134	12.7	16
整形外科	1,124	25	1	1,150	632	95.8	274
脳神経外科	158	23	8	189	107	15.8	0
心臓血管外科	212	1	1	214	50	17.8	47
形成外科	227	3	0	230	63	19.2	129
皮膚科	348	21	1	370	52	30.8	179
泌尿器科	548	3	1	552	297	46.0	2
産婦人科	542	29	32	603	265	50.3	0
眼科	428	0	0	428	0	35.7	0
耳鼻いんこう科	480	2	0	482	393	40.2	62
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0.0	0
放射線診断科	9	0	0	9	0	0.8	7
放射線治療科	0	0	0	0	0	0.0	0
救急科	0	0	0	0	0	0.0	0
歯科・歯科口腔外科	229	0	0	229	131	19.1	0
麻酔科	1	0	0	1	0	0.1	0
合　計	5,355	164	50	5,569	3,067	464.1	718
月平均	446.3	13.7	4.2	464.1	255.6	−	59.8

7. 検査業務状況

部門別検査件数

検 査 部 門	令和5年度
一般検査	70,430
血液検査	430,815
生化学検査	2,449,634
免疫血清	329,814
微生物検査	65,359
病理検査	25,719
輸血検査	28,992
製剤管理	17,362
生理検査	46,750
外部委託	71,658
採血業務	77,108
検体採取業務	780
合 計	3,614,421

(2) 外部委託検査

検 査 分 野	令和5年度
ウイルス検査	5,578
感染症検査	1,899
腫瘍関連検査	19,142
生化学検査	9,923
内分泌検査	9,956
アレルギー検査	1,774
自己免疫検査	974
免疫血清検査	18,045
細胞性免疫検査	1,743
薬物検査	105
血液検査	438
一般検査	172
微生物検査	147
病理検査	165
その他	1,597
合　　計	71,658

項目別検査件数

(1) 一般検査

検 査 項 目	令和5年度
尿定性	45,607
尿沈渣	23,281
機械値	(10,769)
目視値	(12,512)
便潜血	809
髄液一般	387
穿刺液一般	346
合　　計	70,430

(3) 血液検査

検 査 項 目	令和5年度
血算	137,191
網赤血球数	8,731
血液像	127,940
機械値	(92,002)
目視値	(35,938)
赤沈	5,047
血液比重	0
血算その他	487
血液像その他	464
骨髄像	364
POX染色	364
Fe染色	218
Es染色	8
NAPスコア	0
偽性血小板	36
便中好酸球	3
BALF	22
マラリア	0
PT	49,348
APTT	40,181
Fib	18,148
D-Dダイマー	36,184
AT-Ⅲ	2,605
SFMC	496
PIC	355
FDP	2,586
血小板凝集能	31
クロスミキシングテスト	6
合　　計	430,815

(4) 生化学検査

検 査 項 目	令和5年度	検 査 項 目	令和5年度
AST	135,318	K	132,636
ALT	135,250	Ca	88,213
LDH	128,273	IP	27,985
ALP	110,122	Mg	11,049
r-GTP	107,670	Glu	86,840
CK	99,204	Fe	8,802
CK-MB	5,018	UIBC	7,398
Ch-E	17,993	LDL-C	7,304
TP	118,752	NH3	3,244
Alb	126,257	血糖	16,500
T-Bil	128,601	ヘモグロビンA1 c	24,132
D-Bil	41,216	グリコアルブミン	5,331
Amy	66,978	血液ガス	17,172
P-AMY	9,367	血清浸透圧	1,369
BUN	134,967	ドレーン　生化学	9,614
Crea	135,528	尿　生化学	39,302
UA	88,769	髄液　生化学	299
T-Cho	48,479	穿刺液　生化学	2,325
TG	37,454	24H C-Cre	3
HDL-C	27,217	ICG	69
Na	132,659	糖負荷	559
Cl	124,095	その他（i-STAT）	18
		合　　計	2,449,634

(5) 免疫血清

検 査 項 目	令和5年度	検 査 項 目	令和5年度
AFP	7,262	IgG,IgA,IgM	18,737
CEA	19,878	C3	1,231
CA19-9	15,221	C4	1,200
CA125	3,589	β2MG	1,061
CA15-3	2,994	U-β2MG	1,303
PSA	3,648	プレALB	1,949
F-PSA	93	コルチゾール	2,707
HE4	656	TSH	11,798
PIVKA-2	4,472	Free-T4	11,750
シフラ21-1	1,855	Free-T3	2,662
SCC	1,299	BNP	2,034
sIL-2R	4,329	NT-proBNP	11,239
HBs-Ag	11,874	HCG	289
HBsAb	2,613	フェリチン	6,296
HBc-Ab	1,542	プロカルシトニン	4,450
HCV-Ab	10,361	トロポニンT	2,490
HIV-agab	8,202	KL-6	2,697
RPR定性	8,510	血中薬物濃度	902
TPHA定性	8,515	COVID-19 Ag	7,597
CRP	126,485		
		合　　計	329,814

(6) 微生物検査

検 査 項 目	令和5年度	検 査 項 目	令和5年度
一般細菌塗抹	10,061	大腸菌血清型別	12
一般細菌培養	21,168	VT検出	12
嫌気培養加算	10,859	C.difficile抗原定性	373
一般細菌薬剤感受性	4,559	エンドトキシン	188
酵母様真菌薬剤感受性	38	β-d-グルカン	1,408
薬剤耐性菌検出	2,432	髄液直接抗原	42
抗酸菌塗抹	2,024	クリプトコックス抗原定性(髄液)	52
抗酸菌分離培養	2,018	尿中レジオネラ抗原定性	864
抗酸菌同定	37	尿中肺炎球菌抗原定性	869
抗酸菌薬剤感受性	37	インフルエンザウイルス抗原定性	506
結核菌群核酸検出	1,812	RSウイルス抗原定性	610
MAC核酸検出	306	呼吸器アデノウイルス抗原定性	455
クラミジア・トラコマティス核酸検出	382	A群β溶連菌抗原定性	306
淋菌核酸検出	102	マイコプラズマ抗原定性（免疫クロマト法）	49
SARS-Cov-2核酸検出	887	MRSAアクティブサーベイランス	1,961
ロタウイルス抗原定性	47	公害検査	17
アデノウイルス抗原定性	48	院内検査（無菌試験等）	87
		合　　計	64,641

(7) 病理検査

検 査 項 目	令和5年度	検 査 項 目	令和5年度
組織検査	8,756	特殊染色	159
凍結切片	270	HER2/neu	230
診断のみ	187	細胞診	6,145
蛍光抗体法	0	病理解剖	7
酵素抗体法	879	病理診断	8,756
		合　　計	25,719

(8) 生理検査

検 査 項 目	令和5年度	検 査 項 目	令和5年度
心電図(安静時)	13,819	脳波	635
マスター負荷心電図	91	終夜脳波	0
ホルター心電図	420	筋電図(誘発電位含む)	653
トレッドミル負荷心電図	145	新生児聴性脳幹反応	688
心肺運動負荷試験(CPX)	5	簡易型睡眠ポリグラフィー	18
携帯型発作時心電図	29	終夜パルスオキシメータ	9
RR間隔解析	25	出血時間	1,339
肺機能検査	4,012	尿素呼気試験	132
呼気NO測定	275	PWV/ABI(血圧脈波検査)	1,740
心エコー	5,269	下肢静脈機能検査(SVDﾓﾆﾀｰ)	280
腹部エコー	6,388	SPP(皮膚灌流圧)測定	44
頚動脈エコー	1,260	RFA	97
上・下肢血管・他超音波	2,429	術中モニタリング	20
乳腺・甲状腺・その他体表ｴｺｰ	2,471	聴力検査	1,823
体表穿刺	122	健診センター業務	1,989
胎児スクリーニング	523		
		合　　計	46,750

(9) 輸血検査

検 査 項 目	令和5年度
ABO式血液型	9,118
Rh式血液型	9,118
直接クームス	282
間接クームス	225
抗体スクリーニング	7,096
交差適合試験	3,036
抗体同定	52
Du試験	33
その他	32
合　　計	28,992

(10) 製剤管理

検 査 項 目	令和5年度
自己血預	127
入庫製剤	4,277
登録製剤	4,284
出庫製剤	4,306
使用製剤	4,156
戻入製剤	118
返品製剤	3
廃棄製剤	91
合　　計	17,362

(産科Rh（－）未使用分、使用製剤に自己血は含まない)

（11）血液製剤使用状況（令和5年度）

製剤名 / 科名	赤血球(RCC) 総単位数	濃厚血小板(PC) 総単位数	新鮮凍結血漿(FFP) 総単位数	自己血 総単位数	その他	合計（単位数）
内科（総合内科）	90	70	6	0	0	166
内分泌・代謝内科	26	0	0	0	0	0
呼吸器内科	86	10	0	0	0	0
血液内科	2,228	10,990	174	0	0	0
腎臓内科	78	0	68	0	0	0
脳神経内科	50	0	124	0	0	174
消化器内科	1,040	145	346	0	0	1,531
循環器内科	212	75	12	0	0	299
小児科	40	290	2	0	0	332
外科	12	0	0	0	0	12
消化器外科	496	620	78	0	0	0
呼吸器外科	7	0	0	0	0	0
乳腺外科	8	0	0	0	0	0
整形外科	90	75	4	200	0	369
脳神経外科	28	70	4	0	0	102
心臓血管外科	84	60	12	0	0	156
形成外科	8	0	0	0	0	0
泌尿器科	182	260	4	0	0	446
産科	114	30	66	26	0	236
婦人科	136	20	14	12	0	182
救急科	294	120	0	0	0	414
その他	122	0	10	0	0	132
総計(本数)	5,431	12,835	924	238	0	4,551

8. 放射線業務状況

(1) CT検査件数

科別＼項目		合計		頭頚部			胸部			腹部			脊椎			四肢			その他		
				単純	造影	合計	単純	造影	合計	単純	造影	合計	単純	造影	合計	単純	造影	合計	単純	造影	合計
内科（総合内科）	外来	442	476	5	-	16	260	-	264	156	17	192	-	-	-	4	-	4	-	-	-
	入院	34		10	1		4	-		16	3		-	-		-	-		-	-	
内分泌・代謝内科	外来	265	500	14	2	50	10	-	27	207	31	419	-	-	-	1	-	3	-	-	1
	入院	235		34	-		17	-		120	61		-	-		1	1		1	-	
呼吸器内科	外来	1,655	1,914	140	4	197	1,036	13	1,117	337	121	595	3	-	3	1	-	2	-	-	-
	入院	259		46	7		63	5		80	57		-	-		1	-		-	-	
血液内科	外来	738	1,103	66	-	118	49	1	96	585	37	886	-	-	1	-	-	2	-	-	-
	入院	365		52	-		45	1		234	30		1	-		2	-		-	-	
腎臓内科	外来	240	425	32	-	63	20	-	40	181	4	315	-	-	2	3	-	5	-	-	-
	入院	185		31	-		16	4		117	13		2	-		2	-		-	-	
脳神経内科	外来	755	1,687	504	101	1,232	8	-	24	122	15	421	4	-	8	1	-	2	-	-	-
	入院	932		549	78		14	2		191	93		4	-		1	-		-	-	
消化器内科	外来	5,296	7,000	191	-	281	85	7	130	3,016	1,990	6,581	3	-	4	4	-	4	-	-	-
	入院	1,704		89	1		34	4		1,040	535		1	-		-	-		-	-	
循環器内科	外来	627	847	41	-	65	71	1	110	207	51	392	-	-	-	1	-	2	-	255	278
	入院	220		24	-		34	4		100	34		-	-		1	-		2	21	
精神科	外来	19	20	11	-	12	1	-	1	5	2	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	1		1	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
小児科	外来	129	190	74	6	103	5	1	14	14	26	68	-	-	2	2	1	3	-	-	-
	入院	61		18	5		5	3		12	16		1	1		-	-		-	-	
外科	外来	1,658	1,836	50	-	56	49	-	53	710	847	1,725	-	-	-	2	-	2	-	-	-
	入院	178		6	-		2	2		113	55		-	-		-	-		-	-	
消化器外科	外来	4,213	4,771	28	-	61	24	-	34	1,809	2,351	4,674	1	-	1	-	-	-	-	-	1
	入院	558		32	1		10	-		338	176		-	-		-	-		1	-	
呼吸器外科	外来	355	378	4	-	7	47	9	59	130	165	312	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	23		3	-		2	1		11	6		-	-		-	-		-	-	
乳腺外科	外来	272	290	10	4	18	27	1	29	103	127	242	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	入院	18		4	-		1	-		9	3		-	-		1	-		-	-	
整形外科	外来	1,486	2,025	106	1	120	28	-	39	131	30	206	333	6	523	849	2	1,137	-	-	-
	入院	539		13	-		10	1		32	13		183	1		286	-		-	-	
脳神経外科	外来	1,447	2,686	1,174	172	2,426	5	-	17	69	5	211	21	-	28	1	-	4	-	-	-
	入院	1,239		1,017	63		9	3		118	19		7	-		2	1		-	-	
心臓血管外科	外来	744	924	5	-	8	8	1	12	591	137	901	1	-	1	-	-	-	-	1	2
	入院	180		3	-		2	1		96	77		-	-		-	-		-	1	
形成外科	外来	84	121	42	2	66	10	-	10	17	3	29	1	-	1	8	1	15	-	-	-
	入院	37		22	-		-	-		6	3		-	-		6	-		-	-	
皮膚科	外来	252	289	53	-	59	4	1	7	164	4	193	3	-	3	22	1	27	-	-	-
	入院	37		6	-		2	-		21	4		-	-		4	-		-	-	
泌尿器科	外来	1,833	2,015	50	-	71	34	1	39	1,300	446	1,901	-	-	-	2	-	4	-	-	-
	入院	182		21	-		3	1		128	27		-	-		2	-		-	-	
産科	外来	9	29	2	-	3	1	-	1	5	1	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	20		1	-		-	-		9	10		-	-		-	-		-	-	
婦人科	外来	547	610	4	-	12	2	-	4	212	329	594	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	63		7	1		2	-		30	23		-	-		-	-		-	-	
眼科	外来	10	10	10	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
耳鼻いんこう科	外来	870	887	576	129	719	27	-	29	105	31	136	1	-	1	1	-	1	-	-	1
	入院	17		10	4		1	1		-	-		-	-		-	-		1	-	
リハビリテーション科	外来	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	入院	2		-	-		-	-		1	-		-	-		1	-		-	-	
放射線診断科	外来	417	430	8	1	10	1	-	1	354	53	419	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	13		1	-		-	-		12	-		-	-		-	-		-	-	
放射線治療科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
病理診断科	外来	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
救急科	外来	4,865	4,923	1,672	6	1,692	305	9	317	2,391	354	2,783	37	-	40	90	1	91	-	-	-
	入院	58		14	-		3	-		28	10		3	-		-	-		-	-	
歯科	外来	2	2	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
歯科口腔外科	外来	1,099	1,180	961	137	1,173	-	-	1	-	1	5	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	入院	81		57	18		1	-		2	2		1	-		-	-		-	-	
麻酔科	外来	19	23	11	-	13	-	-	1	8	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	4		2	-		1	-		1	-		-	-		-	-		-	-	
健診センター	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
合計	外来	30,349	37,594	5,846	565	8,663	2,117	45	2,476	12,930	7,178	24,243	408	6	619	992	6	1,310	-	256	283
	入院	7,245		2,073	179		281	33		2,865	1,270		203	2		310	2		5	22	

(2) CT検査人数

科別＼項目		合計		頭頚部			胸部			腹部			脊椎			四肢			その他		
				単純	造影	合計	単純	造影	合計	単純	造影	合計	単純	造影	合計	単純	造影	合計	単純	造影	合計
内科（総合内科）	外来	438	470	5	-	15	260	-	264	152	17	187	-	-	-	4	-	4	-	-	-
	入院	32		9	1		4	-		15	3		-	-		-	-		-	-	
内分泌・代謝内科	外来	236	422	12	2	48	10	-	27	180	31	344	-	-	-	1	-	2	-	-	1
	入院	186		34	-		17	-		72	61		-	-		-	1		1	-	
呼吸器内科	外来	1,595	1,815	138	4	192	1,027	13	1,105	288	121	513	3	-	3	1	-	2	-	-	-
	入院	220		43	7		60	5		47	57		-	-		1	-		-	-	
血液内科	外来	720	1,071	66	-	118	49	1	96	567	37	854	-	-	1	-	-	2	-	-	-
	入院	351		52	-		45	1		220	30		1	-		2	-		-	-	
腎臓内科	外来	238	410	32	-	63	20	-	38	179	4	302	-	-	2	3	-	5	-	-	-
	入院	172		31	-		14	4		106	13		2	-		2	-		-	-	
脳神経内科	外来	642	1,425	405	101	1,055	8	-	24	108	15	336	4	-	8	1	-	2	-	-	-
	入院	783		471	78		14	2		120	93		4	-		1	-		-	-	
消化器内科	外来	3,664	4,919	191	-	280	81	7	123	1,388	1,990	4,508	3	-	4	4	-	4	-	-	-
	入院	1,255		88	1		31	4		595	535		1	-		-	-		-	-	
循環器内科	外来	600	802	41	-	65	70	1	107	181	51	350	-	-	-	1	-	2	-	255	278
	入院	202		24	-		32	4		84	34		-	-		1	-		2	21	
精神科	外来	19	20	11	-	12	1	-	1	5	2	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	1		1	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
小児科	外来	129	188	74	6	103	5	1	14	14	26	67	-	-	1	2	1	3	-	-	-
	入院	59		18	5		5	3		11	16		-	1		-	-		-	-	
外科	外来	1,326	1,456	50	-	56	49	-	53	378	847	1,345	-	-	-	2	-	2	-	-	-
	入院	130		6	-		2	2		65	55		-	-		-	-		-	-	
消化器外科	外来	3,025	3,467	28	-	61	24	-	34	621	2,351	3,370	1	-	1	-	-	-	-	-	1
	入院	442		32	1		10	-		222	176		-	-		-	-		1	-	
呼吸器外科	外来	326	346	4	-	7	41	9	53	107	165	286	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	20		3	-		2	1		8	6		-	-		-	-		-	-	
乳腺外科	外来	232	250	7	4	15	27	1	29	66	127	205	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	入院	18		4	-		1	-		9	3		-	-		1	-		-	-	
整形外科	外来	1,469	1,999	106	1	120	28	-	39	122	30	189	327	6	516	847	2	1,135	-	-	-
	入院	530		13	-		10	1		24	13		182	1		286	-		-	-	
脳神経外科	外来	1,281	2,450	1,009	172	2,200	5	-	17	68	5	202	21	-	28	1	-	3	-	-	-
	入院	1,169		956	63		9	3		110	19		7	-		1	1		-	-	
心臓血管外科	外来	619	726	5	-	8	7	1	11	467	137	704	1	-	1	-	-	-	-	1	2
	入院	107		3	-		2	1		23	77		-	-		-	-		-	1	
形成外科	外来	78	113	40	2	64	10	-	10	14	3	24	1	-	1	7	1	14	-	-	-
	入院	35		22	-		-	-		4	3		-	-		6	-		-	-	
皮膚科	外来	250	286	53	-	59	4	1	7	162	4	190	3	-	3	22	1	27	-	-	-
	入院	36		6	-		2	-		20	4		-	-		4	-		-	-	
泌尿器科	外来	1,528	1,694	50	-	71	34	1	39	995	446	1,580	-	-	-	2	-	4	-	-	-
	入院	166		21	-		3	1		112	27		-	-		2	-		-	-	
産科	外来	8	21	2	-	3	1	-	1	4	1	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	13		1	-		-	-		2	10		-	-		-	-		-	-	
婦人科	外来	445	493	4	-	11	2	-	4	110	329	478	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	48		6	1		2	-		16	23		-	-		-	-		-	-	
眼科	外来	10	10	10	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
耳鼻いんこう科	外来	763	779	487	129	629	27	-	29	87	31	118	1	-	1	1	-	1	-	-	1
	入院	16		9	4		1	1		-	-		-	-		-	-		1	-	
リハビリテーション科	外来	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	入院	2		-	-		-	-		1	-		-	-		1	-		-	-	
放射線診断科	外来	381	394	8	1	10	1	-	1	318	53	383	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	13		1	-		-	-		12	-		-	-		-	-		-	-	
放射線治療科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
病理診断科	外来	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
救急科	外来	4,729	4,783	1,669	6	1,689	303	9	315	2,260	354	2,648	37	-	40	90	1	91	-	-	-
	入院	54		14	-		3	-		24	10		3	-		-	-		-	-	
歯科	外来	2	2	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
歯科口腔外科	外来	1,026	1,103	888	137	1,096	-	-	1	-	1	5	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	入院	77		53	18		1	-		2	2		1	-		-	-		-	-	
麻酔科	外来	19	23	11	-	13	-	-	1	8	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	4		2	-		1	-		1	-		-	-		-	-		-	-	
健診センター	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
合計	外来	25,799	31,940	5,408	565	8,075	2,094	45	2,443	8,850	7,178	19,223	402	6	611	989	6	1,305	-	256	283
		6,141		1,923	179		271	33		1,925	1,270		201	2		308	2		5	22	

(3) MRI検査件数

科別＼項目		合計		頭頚部			胸部			腹部			脊椎			四肢			その他		
				単純	造影	合計	単純	造影	合計	単純	造影	合計	単純	造影	合計	単純	造影	合計	単純	造影	合計
内科（総合内科）	外来	20	20	5	1	6	-	-	-	10	-	10	3	1	4	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
内分泌・代謝内科	外来	14	26	11	-	18	-	-	-	1	1	6	-	-	1	1	-	1	-	-	-
	入院	12		5	2		-	-		3	1		1	-		-	-		-	-	
呼吸器内科	外来	12	44	5	3	36	-	-	1	-	-	1	3	-	5	1	-	1	-	-	-
	入院	32		16	12		1	-		1	-		2	-		-	-		-	-	
血液内科	外来	13	50	8	1	26	-	-	-	1	-	4	-	-	16	2	1	4	-	-	-
	入院	37		15	2		-	-		3	-		16	-		1	-		-	-	
腎臓内科	外来	9	18	3	-	7	-	-	-	6	-	10	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	入院	9		4	-		-	-		3	1		1	-		-	-		-	-	
脳神経内科	外来	811	1,307	770	3	1,177	-	-	-	-	-	2	37	-	125	1	-	3	-	-	-
	入院	496		367	37		-	-		1	1		68	20		2	-		-	-	
消化器内科	外来	2,646	2,940	-	-	7	1	1	2	1,352	1,292	2,925	-	-	6	-	-	-	-	-	-
	入院	294		6	1		-	-		144	137		6	-		-	-		-	-	
循環器内科	外来	46	62	2	-	3	22	22	59	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	16		1	-		8	7		-	-		-	-		-	-		-	-	
精神科	外来	7	7	7	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
小児科	外来	38	152	36	-	125	-	-	-	-	-	1	2	-	18	-	-	8	-	-	-
	入院	114		83	6		-	-		1	-		14	2		7	1		-	-	
外科	外来	95	103	1	-	1	4	3	7	46	40	94	1	-	1	-	-	-	-	-	-
	入院	8		-	-		-	-		4	4		-	-		-	-		-	-	
消化器外科	外来	153	179	3	1	10	-	-	-	80	68	166	1	-	3	-	-	-	-	-	-
	入院	26		3	3		-	-		10	8		2	-		-	-		-	-	
呼吸器外科	外来	4	4	1	1	2	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
乳腺外科	外来	132	141	1	1	6	59	59	120	2	1	3	8	1	12	-	-	-	-	-	-
	入院	9		2	2		1	1		-	-		2	1		-	-		-	-	
整形外科	外来	312	353	-	-	2	1	-	1	3	-	3	108	-	137	199	1	210	-	-	-
	入院	41		2	-		-	-		-	-		29	-		10	-		-	-	
脳神経外科	外来	1,444	1,803	1,249	171	1,765	-	-	1	1	-	3	20	3	34	-	-	-	-	-	-
	入院	359		256	89		1	-		1	1		7	4		-	-		-	-	
心臓血管外科	外来	3	3	1	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
形成外科	外来	2	3	1	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	入院	1		-	-		-	-		-	-		-	-		1	-		-	-	
皮膚科	外来	49	53	8	-	8	-	-	-	21	1	23	-	-	2	19	-	20	-	-	-
	入院	4		-	-		-	-		1	-		2	-		1	-		-	-	
泌尿器科	外来	112	124	-	-	-	-	-	-	100	9	118	3	-	6	-	-	-	-	-	-
	入院	12		-	-		-	-		9	-		3	-		-	-		-	-	
産科	外来	9	18	-	-	-	-	-	-	9	-	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	9		-	-		-	-		8	1		-	-		-	-		-	-	
婦人科	外来	249	293	1	-	1	-	-	-	141	105	290	1	1	2	-	-	-	-	-	-
	入院	44		-	-		-	-		25	19		-	-		-	-		-	-	
眼科	外来	2	2	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
耳鼻いんこう科	外来	56	57	45	11	57	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	1		1	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
リハビリテーション科	外来	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	入院	1		-	-		-	-		-	-		1	-		-	-		-	-	
放射線診断科	外来	73	73	21	-	21	-	-	-	25	15	40	8	-	8	4	-	4	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
放射線治療科	外来	1	3	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-	-
	入院	2		-	-		-	-		-	-		1	1		-	-		-	-	
病理診断科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
救急科	外来	2	10	1	-	3	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	1	-	-	-
	入院	8		2	-		-	-		-	-		5	-		1	-		-	-	
歯科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
歯科口腔外科	外来	23	37	13	10	37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	14		9	5		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
麻酔科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
健診センター	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
合計	外来	6,337	7,886	2,194	204	3,329	89	86	194	1,800	1,532	3,719	196	6	390	228	2	254	-	-	-
	入院	1,549		772	159		11	8		214	173		160	28		23	1		-	-	

(4) MRI検査人数

科別＼項目		合計		頭頚部			胸部			腹部			脊椎			四肢			その他		
				単純	造影	合計	単純	造影	合計	単純	造影	合計	単純	造影	合計	単純	造影	合計	単純	造影	合計
内科（総合内科）	外来	18	18	4	1	5	-	-	-	10	-	10	2	1	3	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
内分泌・代謝内科	外来	13	22	11	-	16	-	-	-	-	1	4	-	-	1	1	-	1	-	-	-
	入院	9		3	2		-	-		2	1		1	-		-	-		-	-	
呼吸器内科	外来	9	29	2	3	21	-	-	1	-	-	1	3	-	5	1	-	1	-	-	-
	入院	20		4	12		1	-		1	-		2	-		-	-		-	-	
血液内科	外来	11	46	7	1	23	-	-	-	1	-	4	-	-	16	1	1	3	-	-	-
	入院	35		13	2		-	-		3	-		16	-		1	-		-	-	
腎臓内科	外来	9	17	3	-	7	-	-	-	6	-	9	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	入院	8		4	-		-	-		2	1		1	-		-	-		-	-	
脳神経内科	外来	808	1,246	767	3	1,137	-	-	-	-	-	1	37	-	105	1	-	3	-	-	-
	入院	438		330	37		-	-		-	1		48	20		2	-		-	-	
消化器内科	外来	1,353	1,509	-	-	6	-	1	1	60	1,292	1,496	-	-	6	-	-	-	-	-	-
	入院	156		5	1		-	-		7	137		6	-		-	-		-	-	
循環器内科	外来	24	33	2	-	3	-	22	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	9		1	-		1	7		-	-		-	-		-	-		-	-	
精神科	外来	7	7	7	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
小児科	外来	38	143	36	-	119	-	-	-	-	-	1	2	-	16	-	-	7	-	-	-
	入院	105		77	6		-	-		1	-		12	2		6	1		-	-	
外科	外来	52	56	1	-	1	1	3	4	6	40	50	1	-	1	-	-	-	-	-	-
	入院	4		-	-		-	-		-	4		-	-		-	-		-	-	
消化器外科	外来	84	99	2	1	6	-	-	-	12	68	90	1	-	3	-	-	-	-	-	-
	入院	15		-	3		-	-		2	8		2	-		-	-		-	-	
呼吸器外科	外来	2	2	-	1	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
乳腺外科	外来	70	75	-	1	3	-	59	60	1	1	2	7	1	10	-	-	-	-	-	-
	入院	5		-	2		-	1		-	-		1	1		-	-		-	-	
整形外科	外来	311	352	-	-	2	1	-	1	3	-	3	108	-	137	198	1	209	-	-	-
	入院	41		2	-		-	-		-	-		29	-		10	-		-	-	
脳神経外科	外来	1,270	1,535	1,078	171	1,505	-	-	1	1	-	2	17	3	27	-	-	-	-	-	-
	入院	265		167	89		1	-		-	1		3	4		-	-		-	-	
心臓血管外科	外来	3	3	1	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
形成外科	外来	2	3	1	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	入院	1		-	-		-	-		-	-		-	-		1	-		-	-	
皮膚科	外来	48	52	8	-	8	-	-	-	20	1	22	-	-	2	19	-	20	-	-	-
	入院	4		-	-		-	-		1	-		2	-		1	-		-	-	
泌尿器科	外来	103	115	-	-	-	-	-	-	91	9	109	3	-	6	-	-	-	-	-	-
	入院	12		-	-		-	-		9	-		3	-		-	-		-	-	
産科	外来	9	17	-	-	-	-	-	-	9	-	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	8		-	-		-	-		7	1		-	-		-	-		-	-	
婦人科	外来	143	168	1	-	1	-	-	-	36	105	166	-	1	1	-	-	-	-	-	-
	入院	25		-	-		-	-		6	19		-	-		-	-		-	-	
眼科	外来	1	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
耳鼻いんこう科	外来	45	46	34	11	46	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	1		1	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
リハビリテーション科	外来	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	入院	1		-	-		-	-		-	-		1	-		-	-		-	-	
放射線診断科	外来	58	58	21	-	21	-	-	-	10	15	25	8	-	8	4	-	4	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
放射線治療科	外来	1	2	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	入院	1		-	-		-	-		-	-		-	1		-	-		-	-	
病理診断科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
救急科	外来	2	10	1	-	3	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	1	-	-	-
	入院	8		2	-		-	-		-	-		5	-		1	-		-	-	
歯科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
歯科口腔外科	外来	13	22	3	10	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	9		4	5		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
麻酔科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
健診センター	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-		-	-	
合計	外来	4,507	5,687	1,990	204	2,966	3	86	100	268	1,532	2,014	190	6	356	226	2	251	-	-	-
	入院	1,180		613	159		3	8		41	173		132	28		22	1		-	-	

（5）一般撮影　人数

依頼科		合計		頭頸部	胸部	腹部	脊椎	骨盤部	胸郭	上肢	下肢	その他
内科（総合内科）	外来	1,323	1,406	-	1,315	2	4	-	2	-	-	-
	入院	83		-	74	5	1	1	-	1	1	-
内分泌・代謝内科	外来	246	334	-	233	1	-	1	1	2	8	-
	入院	88		-	67	1	-	1	-	7	12	-
呼吸器内科	外来	5,313	7,245	1	5,221	12	8	5	12	29	25	-
	入院	1,932		-	1,906	13	1	3	3	2	4	-
血液内科	外来	587	1,220	4	550	9	10	3	1	6	4	-
	入院	633		-	559	13	19	5	6	17	14	-
腎臓内科	外来	424	1,000	-	381	40	1	-	-	2	-	-
	入院	576		-	550	13	1	2	4	1	5	-
脳神経内科	外来	420	588	-	397	-	6	4	1	4	8	-
	入院	168		1	126	1	5	5	6	6	18	-
消化器内科	外来	1,585	3,128	7	1,110	343	8	17	29	26	45	-
	入院	1,543		2	488	1,023	6	9	8	2	5	-
循環器内科	外来	2,571	3,977	-	2,535	5	-	3	2	4	22	-
	入院	1,406		-	1,379	5	1	3	-	2	16	-
精神科	外来	12	12	-	7	1	-	-	2	-	2	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-
小児科	外来	1,362	1,467	13	989	235	33	5	-	70	17	-
	入院	105		2	54	28	2	2	2	14	1	-
外科	外来	750	1,250	1	628	54	1	2	14	24	26	-
	入院	500		-	244	256	-	-	-	-	-	-
消化器外科	外来	1,807	4,231	4	969	782	4	5	4	19	20	-
	入院	2,424		-	1,117	1,297	-	-	2	5	3	-
呼吸器外科	外来	466	815	-	460	6	-	-	-	-	-	-
	入院	349		-	343	6	-	-	-	-	-	-
乳腺外科	外来	1,039	1,086	-	1,036	2	1	-	-	-	-	-
	入院	47		-	39	8	-	-	-	-	-	-
整形外科	外来	16,022	18,612	9	1,050	24	2,531	3,288	2,128	4,000	2,992	-
	入院	2,590		-	98	4	404	1,207	297	103	477	-
脳神経外科	外来	520	651	15	435	35	20	2	5	6	2	-
	入院	131		2	88	23	13	-	1	-	4	-
心臓血管外科	外来	396	526	-	296	88	6	-	-	4	2	-
	入院	130		-	73	52	2	1	-	-	2	-
形成外科	外来	135	162	-	104	1	3	-	-	11	16	-
	入院	27		-	20	1	-	-	1	2	3	-
皮膚科	外来	441	493	1	310	5	4	7	4	15	95	-
	入院	52		-	19	1	-	-	-	1	31	-
泌尿器科	外来	2,351	2,774	6	924	1,362	2	4	13	20	20	-
	入院	423		-	127	283	-	-	5	4	4	-
産科	外来	16	38	-	10	2	-	3	-	1	-	-
	入院	22		-	14	5	1	2	-	-	-	-
婦人科	外来	348	426	-	305	35	5	3	-	-	-	-
	入院	78		-	35	41	1	-	1	-	-	-
眼科	外来	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-
耳鼻いんこう科	外来	683	712	2	633	13	2	3	3	9	18	-
	入院	29		-	29	-	-	-	-	-	-	-
リハビリテーション科	外来	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-
放射線診断科	外来	4	19	-	4	-	-	-	-	-	-	-
	入院	15		-	14	1	-	-	-	-	-	-
放射線治療科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-
病理診断科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-
救急科	外来	4,565	4,763	27	2,719	284	137	137	242	455	564	-
	入院	198		-	128	9	33	11	8	3	6	-
歯科	外来	2	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	1		1	-	-	-	-	-	-	-	-
歯科口腔外科	外来	512	594	345	164	3	-	-	-	-	-	-
	入院	82		54	27	1	-	-	-	-	-	-
麻酔科	外来	11	11	-	9	-	-	-	2	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-
健診科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	外来	43,913	57,545	437	22,796	3,344	2,786	3,492	2,465	4,707	3,886	-
	入院	13,632		62	7,618	3,090	490	1,252	344	170	606	-

（6）歯科撮影　人数

依頼科		合計		パノラマ	デンタル	歯科断層
内科（総合内科）	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
内分泌・代謝内科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
呼吸器内科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
血液内科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
腎臓内科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
脳神経内科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
消化器内科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
循環器内科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
精神科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
小児科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
外科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
消化器外科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
呼吸器外科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
乳腺外科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
整形外科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
脳神経外科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
心臓血管外科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
形成外科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
皮膚科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
泌尿器科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
産科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
婦人科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
眼科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
耳鼻いんこう科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
リハビリテーション科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
放射線診断科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
放射線治療科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
病理診断科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
救急科	外来	1	1	1	-	-
	入院	-		-	-	-
歯科	外来	4	9	3	1	-
	入院	5		4	1	-
歯科口腔外科	外来	3,093	3,608	2,372	720	1
	入院	515		449	66	-
麻酔科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
健診科	外来	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-
合計	外来	3,098	3,618	2,376	721	1
	入院	520		453	67	-

（7）病棟、OPE室撮影　人数

依頼科		合計		胸部	腹部	整形領域	その他	OP胸腹部	OP脊椎	OP上肢	OP下肢	OPその他
内科（総合内科）	外来	1	126	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	125		123	2	-	-	-	-	-	-	-
内分泌・代謝内科	外来	3	161	3	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	158		154	4	-	-	-	-	-	-	-
呼吸器内科	外来	7	942	6	1	-	-	-	-	-	-	-
	入院	935		927	8	-	-	-	-	-	-	-
血液内科	外来	8	307	8	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	299		293	6	-	-	-	-	-	-	-
腎臓内科	外来	4	395	4	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	391		387	4	-	-	-	-	-	-	-
脳神経内科	外来	11	449	10	1	-	-	-	-	-	-	-
	入院	438		417	21	-	-	-	-	-	-	-
消化器内科	外来	19	1,047	17	2	-	-	-	-	-	-	-
	入院	1,028		685	342	-	-	1	-	-	-	-
循環器内科	外来	322	1,428	321	1	-	-	-	-	-	-	-
	入院	1,106		1,082	23	-	-	1	-	-	-	-
精神科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-
小児科	外来	17	697	13	4	-	-	-	-	-	-	-
	入院	680		597	83	-	-	-	-	-	-	-
外科	外来	2	600	2	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	598		154	156	-	-	287	-	-	-	1
消化器外科	外来	29	2,282	13	2	-	-	12	-	-	-	2
	入院	2,253		673	639	-	-	937	-	1	-	3
呼吸器外科	外来	-	125	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	125		89	2	-	-	34	-	-	-	-
乳腺外科	外来	4	53	-	-	-	-	-	-	-	-	4
	入院	49		38	8	-	-	3	-	-	-	-
整形外科	外来	21	888	7	-	-	-	-	-	14	-	-
	入院	867		86	4	3	-	54	114	147	459	-
脳神経外科	外来	10	548	10	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	538		489	10	-	-	31	-	-	-	8
心臓血管外科	外来	28	350	28	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	322		203	110	1	-	8	-	-	-	-
形成外科	外来	-	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	18		14	3	-	-	1	-	-	-	-
皮膚科	外来	2	43	1	1	-	-	-	-	-	-	-
	入院	41		36	1	-	-	3	-	1	-	-
泌尿器科	外来	10	835	8	2	-	-	-	-	-	-	-
	入院	825		234	197	-	-	394	-	-	-	-
産科	外来	1	262	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	261		8	1	-	-	252	-	-	-	-
婦人科	外来	-	317	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	317		30	29	-	-	258	-	-	-	-
眼科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-
耳鼻いんこう科	外来	4	19	4	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	15		12	2	-	-	1	-	-	-	-
リハビリテーション科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-
放射線診断科	外来	6	8	-	-	-	-	-	-	-	-	6
	入院	2		-	1	-	-	-	-	-	-	1
放射線治療科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-
病理診断科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-
救急科	外来	236	309	230	6	-	-	-	-	-	-	-
	入院	73		71	2	-	-	-	-	-	-	-
歯科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-
歯科口腔外科	外来	-	51	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	51		37	1	-	-	12	-	-	-	1
麻酔科	外来	1	107	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	106		91	8	-	-	6	-	1	-	-
健診センター	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	外来	746	12,367	688	20	-	-	12	-	14	-	12
	入院	11,621		6,930	1,667	4	-	2,283	114	150	459	14

（8）乳房撮影　人数

依頼科		合計		乳房	ドック	乳管	精検	フックワイヤー	標本
内科（総合内科）	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
内分泌・代謝内科	外来	1	1	1	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
呼吸器内科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
血液内科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
腎臓内科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
脳神経内科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
消化器内科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
循環器内科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
精神科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
小児科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
外科	外来	602	602	600	-	-	2	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
消化器外科	外来	3	3	3	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
呼吸器外科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
乳腺外科	外来	648	667	636	-	-	12	-	-
	入院	19		10	-	-	-	1	8
整形外科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
脳神経外科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
心臓血管外科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
形成外科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
皮膚科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
泌尿器科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
産科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
婦人科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
眼科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
耳鼻いんこう科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
リハビリテーション科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
放射線診断科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
放射線治療科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
病理診断科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
救急科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
歯科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
歯科口腔外科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
麻酔科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
健診センター	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
合計	外来	1,254	1,273	1,240	-	-	14	-	-
	入院	19		10	-	-	-	1	8

(9) ＴＶ検査　人数

依頼科		合計		上部消化管	小腸	注腸	イレウスチューブ	チューブ造影	DIP	DJカテ	RP	CG	腎瘻	ミエロ	アルトロ	ブロック	嚥下造影	HSG	インワギ	IVR	その他造影	その他処置
内科（総合内科）	外来	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	2		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
内分泌・代謝内科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
呼吸器内科	外来	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	3		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
血液内科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
腎臓内科	外来	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
脳神経内科	外来	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	13		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
消化器内科	外来	12	160	2	-	-	4	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
	入院	148		6	-	-	2	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	114
循環器内科	外来	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	入院	2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
精神科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小児科	外来	10	53	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	1
	入院	43		41	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
外科	外来	-	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	38		11	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	16
消化器外科	外来	4	164	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	入院	160		65	-	-	1	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	69
呼吸器外科	外来	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
乳腺外科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
整形外科	外来	43	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	22	-	-	-	-	-	20
	入院	11		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-	-	-	-	5
脳神経外科	外来	5	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
	入院	12		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
心臓血管外科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
形成外科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
皮膚科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
泌尿器科	外来	304	499	-	-	-	-	-	1	235	52	10	4	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	入院	195		-	-	-	-	-	-	59	2	113	17	-	-	-	-	-	-	-	-	4
産科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
婦人科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
眼科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
耳鼻いんこう科	外来	9	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-
	入院	3		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
リハビリテーション科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
放射線診断科	外来	3	5	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	2		-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
放射線治療科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
病理診断科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
救急科	外来	2	3	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	入院	1		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
歯科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
歯科口腔外科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
麻酔科	外来	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	4		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2
健診センター	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	外来	393	1,034	3	-	5	4	4	1	235	52	10	4	-	1	22	9	-	7	-	-	36
	入院	641		123	-	-	4	62	-	59	2	113	17	4	-	4	3	-	1	3	-	246

（10）血管造影検査　人数

依頼科		合計		造影			IVR（血管系）		IVR（非血管系）		PTA		心臓				CT室			その他
				頭頚部	胸腹部	四肢	胸腹部	その他	胸腹部	その他	PTA	フォガティー	造影	PCI	ペースメーカー	その他	RFA	ドレナージ	生検	
内科（総合内科）	外来	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	2		-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
内分泌・代謝内科	外来	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	3		1	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
呼吸器内科	外来	1	15	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	14		-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	1
血液内科	外来	4	24	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	20		-	-	-	2	10	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	2
腎臓内科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
脳神経内科	外来	25	72	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	47		47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
消化器内科	外来	15	283	-	1	-	3	-	10	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	入院	268		-	72	-	71	17	98	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	4
循環器内科	外来	83	595	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	56	10	4	-	-	-	-
	入院	512		-	1	-	1	6	-	-	3	1	214	166	94	26	-	-	-	-
精神科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小児科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外科	外来	5	49	-	-	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	44		-	26	-	2	1	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
消化器外科	外来	39	229	-	2	-	19	11	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	190		-	77	-	12	4	94	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
呼吸器外科	外来	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	2		-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
乳腺外科	外来	1	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	1		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
整形外科	外来	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	1		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
脳神経外科	外来	25	120	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	95		93	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
心臓血管外科	外来	5	144	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	1	-	-	-	-	-
	入院	139		-	-	11	8	-	1	-	54	6	57	-	2	-	-	-	-	-
形成外科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
皮膚科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
泌尿器科	外来	1	14	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	13		-	-	-	4	2	1	1	-	-	-	-	-	-	3	-	-	2
産科	外来	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	3		-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
婦人科	外来	5	17	-	-	-	2	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	12		-	1	-	2	3	4	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
眼科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
耳鼻いんこう科	外来	1	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
リハビリテーション科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
放射線診断科	外来	17	104	-	-	-	5	8	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	87		-	16	-	22	8	34	2	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-
放射線治療科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
病理診断科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
救急科	外来	2	4	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	2		-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
歯科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
歯科口腔外科	外来	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	1		-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
麻酔科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
健診センター	外来	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	外来	229	1,685	50	3	1	33	25	29	-	-	2	13	57	11	4	1	-	-	-
	入院	1,456		141	194	11	132	56	251	4	57	7	272	166	96	26	34	-	-	9

（11）骨塩定量　検査人数

依頼科		合計		腰椎のみ	腰椎＋大腿骨	腰椎＋大腿骨＋全身	腰椎＋大腿骨＋橈骨	小児	術前
内科（総合内科）	外来	6	6	1	4	-	1	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
内分泌・代謝内科	外来	17	17	-	16	-	1	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
呼吸器内科	外来	18	18	1	17	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
血液内科	外来	9	9	-	9	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
腎臓内科	外来	23	23	-	23	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
脳神経内科	外来	10	11	-	10	-	-	-	-
	入院	1		-	1	-	-	-	-
消化器内科	外来	23	23	1	22	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
循環器内科	外来	-	1	-	-	-	-	-	-
	入院	1		-	1	-	-	-	-
精神科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
小児科	外来	4	4	1	3	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
外科	外来	30	30	-	30	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
消化器外科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
呼吸器外科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
乳腺外科	外来	127	128	1	126	-	-	-	-
	入院	1		-	1	-	-	-	-
整形外科	外来	177	214	6	145	-	7	-	19
	入院	37		4	33	-	-	-	-
脳神経外科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
心臓血管外科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
形成外科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
皮膚科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
泌尿器科	外来	1	1	-	1	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
産科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
婦人科	外来	17	17	-	17	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
眼科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
耳鼻いんこう科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
リハビリテーション科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
放射線診断科	外来	2	2	-	2	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
放射線治療科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
病理診断科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
救急科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
歯科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
歯科口腔外科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
麻酔科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
健診センター	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
合計	外来	464	504	11	425	-	9	-	19
	入院	40		4	36	-	-	-	-

（12）放射線治療　人数

人数		件数	
31	80	31	80
49		49	
-	-	-	-
-		-	
102	328	102	333
226		231	
116	275	121	280
159		159	
-	-	-	-
-		-	
-	-	-	-
-		-	
94	281	94	282
187		188	
-	-	-	-
-		-	
-	-	-	-
-		-	
-	-	-	-
-		-	
48	62	66	80
14		14	
284	393	284	393
109		109	
4	8	4	8
4		4	
1,005	1,060	1,508	1,588
55		80	
-	20	-	20
20		20	
-	191	-	191
191		191	
-	-	-	-
-		-	
4	20	4	21
16		17	
-	18	-	18
18		18	
76	157	76	167
81		91	
-	-	-	-
-		-	
35	45	35	45
10		10	
10	10	10	10
-		-	
306	306	306	306
-		-	
-	-	-	-
-		-	
-	-	-	-
-		-	
1,544	1,549	2,407	2,412
5		5	
-	-	-	-
-		-	
12	12	12	12
-		-	
-	-	-	-
-		-	
-	-	-	-
-		-	
-	-	-	-
-		-	
-	-	-	-
-		-	
3,671	4,815	5,060	6,246
1,144		1,186	

（13）RI検査　人数

依頼科		合計		骨シンチ	ガリウム	心筋	脳血流	内用療法	その他
内科（総合内科）	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
内分泌・代謝内科	外来	18	20	-	2	-	-	-	16
	入院	2		-	1	-	-	-	1
呼吸器内科	外来	2	2	1	-	-	-	-	1
	入院	-		-	-	-	-	-	-
血液内科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
腎臓内科	外来	3	4	-	3	-	-	-	-
	入院	1		-	1	-	-	-	-
脳神経内科	外来	78	86	-	-	6	11	-	61
	入院	8		-	-	1	4	-	3
消化器内科	外来	3	4	1	-	-	-	2	-
	入院	1		-	-	-	-	1	-
循環器内科	外来	256	266	-	-	255	-	-	1
	入院	10		-	-	9	-	-	1
精神科	外来	13	13	-	-	3	8	-	2
	入院	-		-	-	-	-	-	-
小児科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
外科	外来	1	1	1	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
消化器外科	外来	3	3	2	-	-	-	1	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
呼吸器外科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
乳腺外科	外来	18	18	18	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
整形外科	外来	1	1	1	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
脳神経外科	外来	10	18	-	-	-	9	-	1
	入院	8		-	-	-	8	-	-
心臓血管外科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
形成外科	外来	3	3	-	-	-	-	-	3
	入院	-		-	-	-	-	-	-
皮膚科	外来	1	7	1	-	-	-	-	-
	入院	6		-	-	-	-	-	6
泌尿器科	外来	139	139	93	-	-	-	32	14
	入院	-		-	-	-	-	-	-
産科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
婦人科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
眼科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
耳鼻いんこう科	外来	2	2	-	-	-	-	-	2
	入院	-		-	-	-	-	-	-
リハビリテーション科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
放射線診断科	外来	54	54	14	-	1	26	-	13
	入院	-		-	-	-	-	-	-
放射線治療科	外来	1	1	1	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
病理診断科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
救急科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
歯科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
歯科口腔外科	外来	18	21	18	-	-	-	-	-
	入院	3		3	-	-	-	-	-
麻酔科	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
健診センター	外来	-	-	-	-	-	-	-	-
	入院	-		-	-	-	-	-	-
合計	外来	624	663	151	5	265	54	35	114
	入院	39		3	2	10	12	1	11

9. リハビリテーション業務状況

(1) 理学療法

	患者数(人)	単位数					
		心大血管リハ	脳血管リハ	廃用	運動器リハ	呼吸器リハ	がんリハ
入　　院	30,062	360	13,088	16,495	8,762	7	1,849
外　　来	2,318	1,554	0	0	3,426	33	0
計	32,380	1,914	13,088	16,495	12,188	40	1,849
一日平均	133.3	7.9	53.9	67.9	50.2	0.2	7.6

(2) 作業療法

	患者数(人)	単位数					
		心大血管リハ	脳血管リハ	廃用	運動器リハ	呼吸器リハ	がんリハ
入　　院	9,610	0	7,763	1,926	2,947	0	107
外　　来	2,637	0	0	0	4,938	0	0
計	12,247	0	7,763	1,926	7,885	0	107
一日平均	50.4	0.0	31.9	7.9	32.4	0.0	0.4

(3) 言語聴覚療法

	患者数(人)	単位数					
		心大血管リハ	脳血管リハ	廃用	運動器リハ	呼吸器リハ	がんリハ
入　　院	6,815	0	3,378	5,720	0	0	105
外　　来	0	0	0	0	0	0	0
計	6,815	0	3,378	5,720	0	0	105
一日平均	28.0	0.0	13.9	23.5	0.0	0.0	0.4

10.　処方および調剤業務状況

(1) 診療科別処方箋枚数

診療科名	外来		入院		院外		合計	
	処方枚数	構成比(%)	処方枚数	構成比(%)	処方枚数	構成比(%)	処方枚数	構成比(%)
内科（総合内科）	25	0.2	590	0.7	87	0.1	702	0.4
内分泌・代謝内科	2,709	23.0	3,618	4.3	7,549	8.7	13,876	7.6
呼吸器内科	280	2.4	5,734	6.8	4,176	4.8	10,190	5.6
血液内科	600	5.1	6,758	8.0	5,605	6.5	12,963	7.1
腎臓内科	95	0.8	4,298	5.1	4,183	4.8	8,576	4.7
脳神経内科	51	0.4	6,536	7.8	3,336	3.8	9,923	5.4
消化器内科	774	6.6	10,418	12.4	9,357	10.9	20,549	11.3
循環器内科	179	1.5	5,928	7.0	8,018	9.2	14,125	7.7
精神科	5	0.0	2,902	3.4	529	0.6	3,436	1.9
小児科	1,264	10.7	3,460	4.1	2,770	3.2	7,494	4.1
外科	186	1.6	2,073	2.5	262	0.3	2,521	1.4
消化器外科	152	1.3	6,280	7.5	5,542	6.4	11,974	6.5
呼吸器外科	1	0.0	495	0.6	361	0.4	857	0.5
乳腺外科	2	0.0	800	1.0	3,301	3.8	4,103	2.2
整形外科	602	5.1	5,365	6.4	5,149	5.9	11,116	6.1
脳神経外科	38	0.3	2,704	3.2	757	0.9	3,499	1.9
心臓血管外科	14	0.1	784	0.9	1,071	1.2	1,869	1.0
形成外科	81	0.7	573	0.7	624	0.7	1,278	0.7
皮膚科	213	1.8	2,288	2.7	6,568	7.6	9,069	5.0
泌尿器科	327	2.8	2,936	3.5	3,958	4.6	7,221	3.9
産科	45	0.4	3,311	3.9	1,569	1.8	4,925	2.7
婦人科	22	0.2	1,745	2.1	2,803	3.2	4,570	2.5
眼科	3	0.0	576	0.7	2,431	2.8	3,010	1.6
耳鼻いんこう科	316	2.7	1,787	2.1	2,767	3.2	4,870	2.7
リハビリテーション科	0	0.0	4	0.0	7	0.0	11	0.0
放射線診断科	7	0.1	0	0.0	1	0.0	8	0.0
放射線治療科	1	0.0	0	0.0	379	0.4	380	0.2
病理診断科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
救急科	3,765	32.0	1,134	1.3	23	0.0	4,922	2.7
歯科	0	0.0	9	0.0	5	0.0	14	0.0
歯科口腔外科	14	0.1	1,081	1.3	3,652	4.2	4,747	2.6
麻酔科	9	0.1	19	0.0	14	0.0	42	0.0
健診センター	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	11,780	100.0	84,206	100.0	86,854	100.0	182,840	100.0
1日平均	48.5		230.1		357.4		636.0	

(2) 診療科別処方件数

診療科名	外来		入院		院外		合計	
	処方件数	構成比(%)	処方件数	構成比(%)	処方件数	構成比(%)	処方件数	構成比(%)
内科（総合内科）	47	0.2	1,031	0.7	161	0.1	1,239	0.3
内分泌・代謝内科	5,210	25.0	6,675	4.7	24,844	11.3	36,729	9.6
呼吸器内科	381	1.8	9,942	7.1	12,105	5.5	22,428	5.9
血液内科	2,798	13.4	13,063	9.3	17,717	8.0	33,578	8.8
腎臓内科	149	0.7	8,313	5.9	14,160	6.4	22,622	5.9
脳神経内科	87	0.4	10,089	7.2	8,685	3.9	18,861	4.9
消化器内科	1,079	5.2	17,676	12.6	24,024	11.0	42,779	11.3
循環器内科	251	1.2	10,488	7.5	21,165	9.6	31,904	8.3
精神科	10	0.0	3,431	2.4	1,215	0.5	4,656	1.2
小児科	2,074	9.9	6,690	4.8	7,316	3.3	16,080	4.2
外科	306	1.5	2,947	2.1	446	0.2	3,699	1.0
消化器外科	241	1.2	9,133	6.5	16,607	7.5	25,981	6.8
呼吸器外科	2	0.0	874	0.6	631	0.3	1,507	0.4
乳腺外科	5	0.0	1,241	0.9	7,583	3.4	8,829	2.3
整形外科	939	4.5	7,572	5.4	10,234	4.6	18,745	4.9
脳神経外科	53	0.3	4,347	3.1	1,486	0.7	5,886	1.5
心臓血管外科	14	0.1	1,189	0.8	1,915	0.9	3,118	0.8
形成外科	123	0.6	827	0.6	948	0.4	1,898	0.5
皮膚科	347	1.7	4,084	2.9	18,474	8.4	22,905	6.0
泌尿器科	464	2.2	4,407	3.1	6,903	3.1	11,774	3.1
産科	60	0.3	5,062	3.6	2,039	0.9	7,161	1.9
婦人科	38	0.2	2,635	1.9	4,462	2.0	7,135	1.9
眼科	5	0.0	2,460	1.7	4,547	2.1	7,012	1.8
耳鼻いんこう科	496	2.4	2,601	1.8	5,351	2.4	8,448	2.2
リハビリテーション科	0	0.0	5	0.0	7	0.0	12	0.0
放射線診断科	14	0.1	0	0.0	1	0.0	15	0.0
放射線治療科	1	0.0	0	0.0	480	0.2	481	0.1
病理診断科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
救急科	5,636	26.9	1,940	1.4	62	0.0	7,638	2.0
歯科	0	0.0	11	0.0	11	0.0	22	0.0
歯科口腔外科	19	0.1	1,901	1.4	7,338	3.3	9,258	2.4
麻酔科	13	0.1	19	0.0	64	0.0	96	0.0
健診センター	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	20,862	100.0	140,653	100.0	220,981	100.0	382,496	100.0
1日平均	85.9		384.3		909.4		1,379.6	

(3) 診療科別注射処方箋枚数

診療科名	外来		入院		合計	
	処方枚数	構成比(%)	処方枚数	構成比(%)	処方枚数	構成比(%)
内科(総合内科)	27	0.2	3,019	2.0	3,046	1.8
内分泌・代謝内科	75	0.4	4,498	3.0	4,573	2.7
呼吸器内科	898	5.2	8,433	5.5	9,331	5.5
血液内科	3,159	18.3	13,111	8.6	16,270	9.6
腎臓内科	1,052	6.1	6,629	4.4	7,681	4.5
脳神経内科	141	0.8	10,079	6.6	10,220	6.0
消化器内科	2,080	12.1	31,312	20.5	33,392	19.8
循環器内科	17	0.1	6,339	4.2	6,356	3.7
精神科	0	0.0	163	0.1	163	0.1
小児科	319	1.9	6,503	4.3	6,822	4.0
外科	41	0.2	4,409	2.9	4,450	2.6
消化器外科	3,370	19.6	17,302	11.3	20,672	12.3
呼吸器外科	147	0.9	782	0.5	929	0.5
乳腺外科	1,645	9.5	1,187	0.8	2,832	1.7
整形外科	345	2.0	5,339	3.5	5,684	3.4
脳神経外科	25	0.1	5,708	3.7	5,733	3.4
心臓血管外科	12	0.1	1,416	0.9	1,428	0.8
形成外科	12	0.1	995	0.7	1,007	0.6
皮膚科	393	2.3	3,748	2.5	4,141	2.4
泌尿器科	1,827	10.6	6,650	4.4	8,477	5.0
産科	70	0.4	5,518	3.6	5,588	3.3
婦人科	295	1.7	2,973	2.0	3,268	1.9
眼科	2	0.0	433	0.3	435	0.3
耳鼻いんこう科	684	4.0	2,615	1.7	3,299	1.9
リハビリテーション科	0	0.0	13	0.0	13	0.0
放射線診断科	0	0.0	2	0.0	2	0.0
放射線治療科	1	0.0	0	0.0	1	0.0
病理診断科	0	0.0	2	0.0	2	0.0
救急科	1	0.0	1,721	1.1	1,722	1.0
歯科	0	0.0	3	0.0	3	0.0
歯科口腔外科	593	3.4	1,432	0.9	2,025	1.2
麻酔科	0	0.0	1	0.0	1	0.0
健診センター	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	17,231	100.0	152,335	100.0	169,566	100.0
1日平均	70.9		416.2		487.1	

(4) 診療科別注射処方件数

診療科名	外来		入院		合計	
	処方件数	構成比(%)	処方件数	構成比(%)	処方件数	構成比(%)
内科(総合内科)	34	0.1	6,181	1.7	6,215	1.6
内分泌・代謝内科	79	0.2	9,559	2.7	9,638	2.4
呼吸器内科	1,708	4.3	20,899	5.8	22,607	5.7
血液内科	4,781	12.0	33,340	9.3	38,121	9.6
腎臓内科	1,072	2.7	13,690	3.8	14,762	3.7
脳神経内科	167	0.4	20,875	5.8	21,042	5.3
消化器内科	7,004	17.7	78,080	21.8	85,084	21.3
循環器内科	19	0.0	12,794	3.6	12,813	3.2
精神科	0	0.0	264	0.1	264	0.1
小児科	425	1.1	15,357	4.3	15,782	4.0
外科	109	0.3	11,041	3.1	11,150	2.8
消化器外科	13,777	34.7	41,761	11.7	55,538	14.0
呼吸器外科	326	0.8	1,780	0.5	2,106	0.5
乳腺外科	4,069	10.2	2,746	0.8	6,815	1.7
整形外科	345	0.9	10,901	3.0	11,246	2.8
脳神経外科	39	0.1	15,235	4.3	15,274	3.8
心臓血管外科	15	0.0	2,902	0.8	2,917	0.7
形成外科	12	0.0	1,989	0.6	2,001	0.5
皮膚科	404	1.0	9,450	2.6	9,854	2.5
泌尿器科	2,674	6.7	16,383	4.6	19,057	4.8
産科	82	0.2	12,949	3.6	13,031	3.3
婦人科	741	1.9	7,585	2.1	8,326	2.1
眼科	2	0.0	433	0.1	435	0.1
耳鼻いんこう科	798	2.0	4,684	1.3	5,482	1.4
リハビリテーション科	0	0.0	32	0.0	32	0.0
放射線診断科	0	0.0	2	0.0	2	0.0
放射線治療科	1	0.0	0	0.0	1	0.0
病理診断科	0	0.0	11	0.0	11	0.0
救急科	1	0.0	4,044	1.1	4,045	1.0
歯科	0	0.0	5	0.0	5	0.0
歯科口腔外科	1,092	2.7	3,168	0.9	4,260	1.1
麻酔科	0	0.0	1	0.0	1	0.0
健診センター	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	39,776	100.0	358,141	100.0	397,917	100.0
1日平均	163.7		978.5		1,142.2	

(5) 診療科別入院服薬指導実施件数

診療科名	合　計	月平均
内科（総合内科）	482	40
内分泌・代謝内科	386	32
呼吸器内科	986	82
血液内科	1,153	96
腎臓内科	431	36
脳神経内科	620	52
消化器内科	3,003	250
循環器内科	1,237	103
精神科	0	0
小児科	1,364	114
外科	230	19
消化器外科	1,728	144
呼吸器外科	109	9
乳腺外科	285	24
整形外科	1,580	132
脳神経外科	388	32
心臓血管外科	338	28
形成外科	137	11
皮膚科	455	38
泌尿器科	1,425	119
産科	1,078	90
婦人科	811	68
眼科	423	35
耳鼻いんこう科	756	63
リハビリテーション科	0	0
放射線診断科	0	0
放射線治療科	0	0
病理診断科	0	0
救急科	121	10
歯科・歯科口腔外科	371	31
麻酔科	0	0
合　計	19,897	1,658

11. 健康診断等の状況

区分	健康診断	新生児整形診断	予防接種	公害検査	乳児検診	母親教室	授乳相談	人間ドック	合計
件　数	575	285	0	100	570	60	66	0	1,656

（注）平成25年1月より人間ドック休止

12. 院内学級

1. 名　　称　豊中市立桜井谷小学校　市立豊中病院院内学級（さくらんぼ学級）
2. 設置年月日　平成9年4月1日
3. 設 置 場 所　4階南病棟（小児科病棟）内

(1) 月別在籍児童数について

区分 / 月別	児童数（人）
4	0
5	0
6	0
7	0
8	1
9	1
10	1
11	3
12	2
1	0
2	0
3	0
計	8

(2) 月別延べ出席人数について

区分 / 月別	延出席人数（人）	授業日数（日）	1日平均出席児童数
4	20	15	1.3
5	45	20	2.3
6	28	22	1.3
7	36	20	1.8
8	67	17	3.9
9	38	19	2.0
10	57	19	3.0
11	65	20	3.3
12	58	17	3.4
1	40	17	2.4
2	28	19	1.5
3	22	14	1.6
計	504	219	2.3

※豊中市立桜井谷小学校に転籍せず通級のみの児童を含む。
※（　）は内数。長期休業中の補習日の人数・日数を表す。

1. 名　　称　豊中市立第十三中学校　市立豊中病院院内学級（ひまわり学級）
2. 設置年月日　平成14年4月1日
3. 設 置 場 所　4階南病棟（小児科病棟）内

(1) 月別在籍生徒数について

区分 / 月別	生徒数（人）
4	0
5	0
6	0
7	0
8	0
9	0
10	0
11	0
12	0
1	0
2	1
3	1
計	2

(2) 月別延べ出席人数について

区分 / 月別	延べ出席人数（人）	授業日数（日）	1日平均出席生徒数
4	45	15	3.0
5	42	20	2.1
6	44	22	2.0
7	35	20	1.8
8	23	17	1.4
9	18	19	0.9
10	17	19	0.9
11	6	20	0.3
12	5	17	0.3
1	5	17	0.3
2	15	19	0.8
3	13	14	0.9
計	268	219	1.2

※（　）は、内数。長期休業中の補習日の人数・日数を表す。

Ⅴ　院内保育所業務

1．名　　称　市立豊中病院　院内保育所（おひさま保育園）

2．開設年月日　昭和46年1月20日

3．建設場所　病院敷地内（管理棟北側）

4．建　　物　建物延面積　188.11㎡
構　　造　鉄筋コンクリート造　1階建
（保育室・乳児室・遊戯室・浴室・沐浴室・調理室・便所）

5．設　　備　市立保育所に準じた設備

6．収容人員　乳幼児　46人

7．職　　員　保育者　11人、栄養士兼調理員　3人（全て委託）

8．保育時間　午前7時30分から午後7時30分まで
月・水・金は翌朝7時30分まで延長保育
但し、日・祝・年末年始は休所

9．保　育　料　保　育　料　　月額　34,000円（給食費含）
臨時保育料　　日額　2,200円（給食費含）
延長保育料　　延長1時間毎　200円（給食料300円）

10．そ　の　他　（主な行事）懇談会・たなばた・おたのしみ会・クリスマス会・節分・おわかれ会・
各月誕生会・各月発育測定

在所者数　　単位：人

区分＼月別	入所乳幼児数						※総数
	乳児			幼児			
	6か月未満	6か月～1歳	計	1歳～2歳	2歳以上	計	
4	1	1	2	13	12	25	27
5	0	0	0	10	12	22	22
6	0	0	0	9	7	16	16
7	0	1	1	8	11	19	20
8	0	1	1	6	18	24	25
9	0	1	1	7	14	21	22
10	0	1	1	6	17	23	24
11	1	1	2	4	16	20	22
12	0	2	2	5	22	27	29
1	0	2	2	4	21	25	27
2	0	2	2	5	17	22	24
3	0	2	2	4	20	24	26

※総数は一時保育・途中入退所を含む月毎の在籍人数

保 育 状 況

区分／月別	保育日数	出席延日数	延べ保育時間数
4	23日	229日	1,772時間
5	24日	149日	1,212時間
6	26日	193日	1,636時間
7	24日	225日	1,575時間
8	26日	250日	1,988時間
9	24日	227日	1,780時間
10	26日	248日	2,038時間
11	24日	231日	1,813時間
12	24日	264日	2,273時間
1	23日	245日	1,902時間
2	23日	224日	1,920時間
3	24日	246日	2,138時間
計	291日	2,731日	22,047時間

保育所運営収支状況

収　入

区分／科目	予算現額	比率	決算額	比率
	千円	%	千円	%
保育料	12,960	28.6	5,856	19.2
病院事業会計負担額	32,358	71.4	24,668	80.8
収入合計	45,318	100.0	30,524	100.0

支　出

区分／科目	予算現額	比率	決算額	比率
	千円	%	千円	%
経費	43,600	96.2	28,806	94.4
減価償却費	1,718	3.8	1,718	5.6
費用合計	45,318	100.0	30,524	100.0

Ⅵ　その他諸行事

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため開催なし。

Ⅶ　市立豊中病院運営計画（令和5年度～令和9年度）

市立豊中病院運営計画に基づく令和5年度の取組みは、次のとおりである。

1. 急性期医療を中心とした医療機能の充実

●内科（総合内科）・形成外科の新設の他、内科及び外科における診療科の再編、がんゲノム医療センターの新設により、専門医療の充実及び従来の診療科間の更なる連携を進めるための組織整備を行った。

●救急医療体制強化に向け、新たに救急専門医１名を確保した。また、救急搬送される入院患者の受入体制強化のため、救急病床5床の運用を開始した。

●がん遺伝子パネル検査について新たに保険適用となった内容を加え、より患者の状況に適した検査を選択することを可能にした。また、患者向けがんサロンやAYAトークの開催によりがん患者への支援の充実を行った。

2. 地域医療連携の推進

●「地域医療連携室」と「患者支援室」から成る「患者総合支援部」を設置し、紹介受診や入退院支援など、より密接な地域連携に向けた取組みを進めた。

●診療科医師による医療機関への訪問や、地域医療従事者に向けた医療セミナーの実施により、医療機関等との連携を深めた。

●医療機関間の各種会議をwebや対面方式で実施し、情報共有を行った。

●退院後の患者支援の充実のため、退院支援相談職員などによる医療機関訪問を実施した。

3. 医療の安全と患者サービスの向上

●「地域医療連携室」と「患者支援室」から成る「患者総合支援部」を設置し、紹介受診や入退院支援など、より密接な地域連携に向けた取組みを進めた。【再掲】

●患者満足度調査や接遇研修の実施により、課題の把握及び改善を行った。

●感染対策や医療安全について、各種サーベイランスの実施や結果の分析及びフィードバックによる院内教育等を継続して行った。

4. 安定した経営基盤の確立

●市立豊中病院運営計画（令和5年度～令和9年度）に基づく当院の運営方針について、病院幹部による直接説明や動画により院内に周知した。これらにより職員が当院の経営状況や課題について共有し、改善にむけた取組みが実践できるよう経営意識の醸成を行った。

●診療科別・病棟別の新入院患者数や病床稼働率等を、日次・週次で情報提供し、目標数値達成に向けた取組みを進めた。また、ベンチマークシステムを用いて同規模病院との比較を行い、各部門に改善を促したことで、病床稼働率や新入院患者数の向上に繋げた。

●医師の働き方改革推進に向けて、医師労働時間短縮計画に基づき長時間労働の改善に取り組んだ。

数値目標

指　標	令和4年度 （2022年度） 実績値	令和5年度 （2023年度） 実績値	令和9年度 （2027年度） 目標値
救急患者応需率	45.1%	56.7%	80.0%
救急車搬送受入数	6,685人	7,926人	7,000人
外来がん薬物療法件数（延べ患者数）	6,882件	6,825人	7,000件
がん登録数（初回治療件数）	1,540件	1,665件	1,700件
外保連手術技術難易度D及びEの手術件数	4,188件	4,411件	4,400件
SCU/CCU経カテーテル手術件数	393件	334件	510件
手術室稼動率（日中平均）	70.6%	73.8%	77.0%
紹介率	74.1%	82.6%	80.0%
逆紹介率	77.6%	87.5%	95.0%
地域での講習会等開催数	15回	32回	10回
MRSA院内感染発生頻度（患者1,000人当たり）	2.64	2.44	3未満
患者満足度『安全・安心』（入院）　（「満足」「やや満足」の割合）	96.4%	96.7%	100.0%
患者満足度『安全・安心』（外来）　（「満足」「やや満足」の割合）	92.9%	92.0%	100.0%
患者満足度（入院）　（「満足」「やや満足」の割合）	96.9%	97.2%	100.0%
患者満足度（外来）　（「満足」「やや満足」の割合）	92.0%	95.5%	100.0%
時間外勤務時間年間 960 時間を超える医師（B水準対象者）の割合	23.8%	25.4%	3.0%
認定看護師・専門看護師等の数	33人	31人	41人
新規入院患者数	14,022人	15,503人	16,927人
1日あたり入院患者数	426人	461人	511人
1日あたり外来患者数	1,131人	1,122人	1,200人
入院診療単価	73,964円	75,974円	84,000円
外来診療単価	20,762円	21,592円	23,000円
病床利用率	71.7%	77.6%	86.0%
平均在院日数	10.2日	9.9日	10.0日
医業収益に対する材料費割合	29.5%	29.2%	27.2%
経常収支比率	101.0%	97.1%	100.1%
修正医業収支比率	84.4%	89.6%	95.3%

病院年報　第53号

令和6年（2024年）9月発行

編集・発行　市立豊中病院

〒560-8565 大阪府豊中市柴原町4-14-1

TEL（06）6843-0101（代）

https://www.city.toyonaka.osaka.jp/hp/